

# 大道西遺跡

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

東日本高速道路株式会社  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 大道西遺跡

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

東日本高速道路株式会社  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



推定東山道駅路全景（Ⅲ・Ⅳ区から東を望む。中央の県道から奥は大道東遺跡）



ほぼ完全に復元できた馬形埴輪

## 序

大道西遺跡は太田市北東部にあり、平成14年と平成16年に、北関東自動車道路の建設に伴い発掘調査を行った遺跡です。縄文時代から中近世にかけて数多くの遺構・遺物が調査され、大きな成果を得ることができました。

本遺跡と、それに隣接するいくつかの遺跡では、幅13mにも及ぶ大規模な道路が直線的に1kmも伸びていることが確認され、古代東山道駅路と推定されて注目を集めています。本遺跡はその発見の端緒となった遺跡で、本遺跡における調査の後、延長部分が続々と見つかり、駅路のルート解明に大きく貢献することができました。また、本遺跡では古墳そのものは見つかりませんが、大量の埴輪片が駅路側溝などから出土しました。近傍にあった古墳から運び込まれ、廃棄されたものと思われますが、ほぼ完全な形に復元できた馬形埴輪や多くの円筒埴輪など、注目されるものです。さらに、本遺跡内からは中世の掘立柱建物の柱穴が非常に多く見つかり、複数の屋敷があったことも分かっています。以上のような成果は、本地域の歴史を研究する上で貴重なものであり、今後の研究資料として役立つものと確信しております。

最後になりましたが、東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行に至るまで多大なご指導・ご協力を賜りました。本書の刊行に際し、心から感謝申し上げますと共に、本書が歴史研究の資料として広く活用されることを願い、序といたします。

平成22年10月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 須田 栄 一

## 例 言

- 1 本書は、北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴い発掘調査された大道西遺跡埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 所在地 太田市東今泉町720番地他
- 3 事業主体 東日本高速道路株式会社関東支社（旧日本道路公団）
- 4 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査期間・面積 平成14年4月1日～平成14年11月30日 9,711㎡  
平成16年10月1日～平成17年1月31日 1,951㎡
- 6 発掘調査体制は次の通りである。

平成14年度 発掘調査担当 高井佳弘（専門員）・高島英之（専門員）  
委託 地上測量：株式会社測設  
空中写真撮影・測量：株式会社シン技術コンサル  
井戸掘削：原澤ボーリング株式会社

平成16年度 発掘調査担当 杉山秀宏（専門員）・斎藤利子（専門員）・田村博（調査研究員）  
遺跡掘削請負工事：須賀建設株式会社  
委託 地上測量：アコン測量設計株式会社  
空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル
- 7 整理事業の期間と体制は次の通りである。

整理期間 平成22年4月1日～平成22年9月30日  
整理担当 高井佳弘（主任調査研究員） 齊田智彦（主任調査研究員）  
遺物写真撮影 佐藤元彦 保存処理 関 邦一
- 8 本書作成の担当者は次のとおりである。

編集 高井佳弘 齊田智彦  
執筆 神谷佳明（遺物観察表：土師器・須恵器・埴輪） 大西雅弘（遺物観察表：中世陶磁） 岩崎泰一（遺物観察表：石器石製品） 橋本 淳（遺物観察表：縄文土器） 大木紳一郎（遺物観察表：弥生土器） 徳江秀夫（第4章第3節） 笹澤泰史（第3章第9節） 飯森康広（第4章第2節） 高井佳弘（前記以外）
- 9 出土石器・石製品の石材同定については、飯島静男氏（群馬県地質研究会会員）をお願いした。
- 10 出土人骨・馬歯の鑑定は、宮崎重雄氏（足利工業大学非常勤講師、古生物学会会員）に委託し、鑑定結果は第4章第4節に掲載した。
- 11 発掘調査および報告書作成に際しては、下記の方々・機関にご協力・ご指導をいただきました。記して感謝いたします。（敬称略・順不同）

群馬県教育委員会、太田市教育委員会、木下 良（古代交通研究会名誉会長）、武部健一（道路文化研究所長）、木本雅康（長崎外国語大学）、山路直充（市川市立考古博物館）、坂爪久純（伊勢崎市教育委員会）、小宮俊久（太田市教育委員会）、大澤伸啓（足利市教育委員会）
- 12 発掘調査諸資料および出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

# 凡 例

- 1 本文中に使用した方位は、総て国家座標（2002.4改正前の日本測地系）の第IX系を使用している。なお、座標北と真北との偏差は、本遺跡中央付近の $X=36350$ 、 $Y=-40150$ で $16^{\circ}00.765'$ である。
- 2 遺構断面図に記した数値は標高を表し、単位はmを用いた。
- 3 遺構・遺物実測図の縮尺率は原則として以下のとおりとしたが、最適と思われる縮尺に適宜変更した場合があるので、各図面のスケールを参照していただきたい。

遺構 竪穴住居・井戸 1:60 竈 1:30 土坑 1:40 墓 1:20 掘立柱建物 1:80  
溝・窪地・驛路関連の遺構—平面図 1:100 断面図 1:50

遺物 土師器・須恵器・中世陶磁器・石器（打製石斧・凹石など）・石製品（板碑・砥石など） 1:3  
土師器・須恵器・中世陶磁器の大型品、石製品（石臼・石鉢など） 1:4か1:6  
埴輪 1:4（一部1:5、馬形埴輪完形品は1:8）  
銅銭・石叢 1:1

なお、埴輪を除いて1:3以外の縮尺の遺物は、遺物番号のあとに縮尺を入れてある。

- 4 本書の図版に使用したスクリーントーンは、次のことを示している。



- 5 遺構の主軸方位・走向は、竈を持つ住居の場合、竈のある辺に直角の方向を主軸とし、それ以外の遺構は、長軸方向で北から東西 $90^{\circ}$ 以内を主軸とした。表記は北を基準とし、東に傾いた場合 $N-\circ^{\circ}-E$ とした。住居の床面積の計測にはプランメーターを用い、3回計測してその平均値を採用した。
- 6 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土地理院 地形図 1:25,000「桐生」「上野境」「足利北部」「足利南部」 1:50,000「桐生及足利」「深谷」  
国土地理院 地勢図 1:200,000「宇都宮」  
太田市 1:2,500地形図

# 目 次

口絵

序

例言

凡例

目次

挿図・表・写真目次

第1章 調査の経緯・経過・方法	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	3
1 調査の方法	3
2 調査の経過	4
第2章 遺跡の位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3節 基本土層	14
第3章 調査の成果	15
第1節 成果の概要	15
第2節 竪穴住居	17
第3節 土坑	54
第4節 墓	64
第5節 井戸	65
第6節 溝・窪地	68
第7節 推定東山道駅路	105
第8節 掘立柱建物・ピット	134
第9節 埴輪	183
第10節 縄文・弥生時代の遺物	214
第11節 遺構外出土の遺物	217
第12節 旧石器時代の調査	222
第4章 総括	225
第1節 推定東山道駅路について	225
第2節 大道西遺跡の掘立柱建物と屋敷群	227
第3節 出土埴輪について	232
第4節 出土人骨・馬歯について	233
遺物観察表	235

写真図版

抄録

付図 1	大道西遺跡Ⅰ-Ⅱ～Ⅴ区全体図 (1/200)
2	大道西遺跡Ⅱ区Ⅰ面全体図 (1/200)
3	大道西遺跡Ⅰ-Ⅴ区・Ⅱ区Ⅱ面全体図 (1/200)
4	大道西遺跡Ⅲ・Ⅳ区全体図 (1/200)

# 插图目次

第1图	道路的位置	1	第64图	4号溝中央部、東端部平・断面図	73
第2图	大道西道路調査区周辺図	2	第65图	4号溝出土遺物(1)	74
第3图	調査区設定図	3	第66图	4号溝出土遺物(2)	75
第4图	大道西道路周辺地形分類図	6	第67图	4号溝出土遺物(3)	76
第5图	大道西道路周辺の道路	8	第68图	5号溝西平・断面図、出土遺物	77
第6图	基本土層	14	第69图	6・14号溝平・断面図	79
第7图	大道西道路1-1区全体図	16	第70图	6号溝出土遺物	80
第8图	1号住居平・断面図	17	第71图	7~9号溝平・断面図	81
第9图	1号住居貯蔵穴、竈平・断面図	18	第72图	16・17号溝平・断面図、16号溝出土遺物	83
第10图	1号住居出土遺物	19	第73图	18~20号溝平・断面図	84
第11图	2号住居平・断面図	19	第74图	21・22号溝平・断面図、22号溝出土遺物(1)	86
第12图	2号住居掘方、1・2号竈平・断面図	20	第75图	22号溝出土遺物(2)	87
第13图	2号住居出土遺物	21	第76图	23号溝平・断面図	88
第14图	3号住居平・断面図、出土遺物、4号住居平・断面図	22	第77图	24号溝平・断面図	89
第15图	4号住居掘方、竈平・断面図	23	第78图	27号溝平・断面図、出土遺物	90
第16图	4号住居出土遺物(1)	24	第79图	18・32・33・35・36号溝断面図	91
第17图	4号住居出土遺物(2)	25	第80图	18・32・33・35・36号溝断面図、33号溝出土遺物	92
第18图	4号住居出土遺物(3)	26	第81图	34・40号溝西平部断面図(1)	94
第19图	4号住居出土遺物(4)	27	第82图	34・40号溝西平部断面図(2)、断面図、34号溝出土遺物	95
第20图	4号住居出土遺物(5)	28	第83图	39号溝平・断面図	96
第21图	5・7号住居平・断面図	29	第84图	40・41号溝断面図	97
第22图	5号住居貯蔵穴、竈平・断面図	30	第85图	42号溝平・断面図、43号溝出土遺物	98
第23图	5号住居出土遺物(1)	31	第86图	38・43号溝平・断面図	99
第24图	5号住居出土遺物(2)、7号住居出土遺物	32	第87图	44・45号溝平・断面図、44号溝出土遺物	100
第25图	8・9号住居平・断面図	33	第88图	46・47号溝平・断面図	101
第26图	8号住居出土遺物	34	第89图	51~53号溝平・断面図、52号溝出土遺物	102
第27图	10号住居平・断面図	35	第90图	1号窪地平・断面図	103
第28图	11号住居平・断面図、出土遺物(1)	36	第91图	2号窪地平・断面図	104
第29图	11号住居出土遺物(2)	37	第92图	推定東山道駅路全体図	107
第30图	12号住居、竈平・断面図	38	第93图	推定東山道駅路北側溝(13号溝)平・断面図、出土遺物(1)	109
第31图	12号住居出土遺物	39	第94图	推定東山道駅路北側溝(13号溝)出土遺物(2)	110
第32图	13号住居、竈平・断面図、出土遺物(1)	40	第95图	推定東山道駅路北側溝(5号溝)平・断面図	111
第33图	13号住居出土遺物(2)	41	第96图	推定東山道駅路平面図①	112
第34图	14A号住居平・断面図	42	第97图	推定東山道駅路平面図②	113
第35图	14A・B号住居掘方平・断面図	43	第98图	推定東山道駅路平面図③	114
第36图	14A・B号住居竈平・断面図、出土遺物(1)	44	第99图	推定東山道駅路平面図④	115
第37图	14号住居出土遺物(2)、15号住居、竈平・断面図	45	第100图	推定東山道駅路平面図⑤	116
第38图	15号住居出土遺物	46	第101图	推定東山道駅路平面図⑥	117
第39图	16号住居平・断面図	46	第102图	推定東山道駅路平面図⑦	118
第40图	16号住居掘方、竈平・断面図、出土遺物(1)	47	第103图	推定東山道駅路平面図⑧	119
第41图	16号住居出土遺物(2)	48	第104图	推定東山道駅路平面図⑨	120
第42图	16号住居出土遺物(3)	49	第105图	推定東山道駅路側溝断面図(1)	121
第43图	17号住居、竈平・断面図、出土遺物(1)	50	第106图	推定東山道駅路側溝断面図(2)	122
第44图	17号住居出土遺物(2)	51	第107图	推定東山道駅路側溝断面図(3)	123
第45图	18号住居平・断面図	52	第108图	推定東山道駅路横断面図(1)	124
第46图	18号住居断面図、出土遺物	53	第109图	推定東山道駅路横断面図(2)	125
第47图	1~4・8・9号土坑平・断面図	56	第110图	25号溝出土遺物、26号溝出土遺物(1)	126
第48图	9号土坑出土遺物、6・7・10・11号土坑平・断面図	57	第111图	26号溝出土遺物(2)	127
第49图	12~15号土坑平・断面図、14・15号土坑出土遺物	58	第112图	26号溝出土遺物(3)	128
第50图	16~22号土坑平・断面図	59	第113图	28・29号溝出土遺物	129
第51图	23~27・44号土坑平・断面図、23号土坑出土遺物	60	第114图	37号溝出土遺物	130
第52图	29~32・34・45号土坑平・断面図	61	第115图	38号溝出土遺物(1)	131
第53图	33・35・38~41・43号土坑平・断面図	62	第116图	38号溝出土遺物(2)、3号窪地出土遺物	132
第54图	36・37・42・46・48・49号土坑平・断面図	63	第117图	1号道路平・断面図	133
第55图	1号墓平・断面図、出土遺物	64	第118图	竈立柱建物分布図	135
第56图	1号井戸平・断面図、出土遺物(1)	65	第119图	1号竈立柱建物平・断面図	136
第57图	1号井戸出土遺物(2)	66	第120图	竈立柱建物A群平面図	137
第58图	1号井戸出土遺物(3)	67	第121图	竈立柱建物A群断面図(1)	138
第59图	1号溝平・断面図、出土遺物	68	第122图	竈立柱建物A群断面図(2)	139
第60图	2号溝平・断面図	69	第123图	竈立柱建物B群平面図	141
第61图	2号溝出土遺物	70	第124图	竈立柱建物B群断面図(1)	142
第62图	3号溝平・断面図、出土遺物	71	第125图	竈立柱建物B群断面図(2)	143
第63图	4号溝西平部平・断面図	72			



第126回	竪立柱建物C群西平面図	144
第127回	竪立柱建物C群東平面図	145
第128回	竪立柱建物C群断面図(1)	146
第129回	竪立柱建物C群断面図(2)	147
第130回	1449号ビット出土遺物	148
第131回	竪立柱建物D群平面図	149
第132回	竪立柱建物D群断面図(1)	150
第133回	竪立柱建物D群断面図(2)	151
第134回	竪立柱建物E群平面図	153
第135回	竪立柱建物E群断面図(1)	154
第136回	竪立柱建物E群断面図(2)	155
第137回	竪立柱建物F群平面図	157
第138回	竪立柱建物F群断面図	158
第139回	71号竪立柱建物平・断面図	159
第140回	71号竪立柱建物P2717出土遺物	159
第141回	竪立柱建物G群平面図	160
第142回	竪立柱建物G群断面図	161
第143回	竪立柱建物H群平面図	162
第144回	竪立柱建物H群断面図	163
第145回	69号竪立柱建物P3127出土遺物	164
第146回	竪立柱建物I群平・断面図	165
第147回	竪立柱建物J群平・断面図	166
第148回	77号竪立柱建物平・断面図	167
第149回	その他のビット出土遺物	167
第150回	円筒埴輪の各部位の名称	184
第151回	円筒埴輪の部位様式図(突部の形状)	185
第152回	円筒埴輪(1)	186
第153回	円筒埴輪(2)	187
第154回	円筒埴輪(3)	188
第155回	円筒埴輪(4)	189
第156回	円筒埴輪(5)	190
第157回	円筒埴輪(6)	191
第158回	円筒埴輪(7)	192
第159回	円筒埴輪(8)	193

第160回	円筒埴輪(9)	194
第161回	円筒埴輪(10)、朝顔形円筒埴輪(1)	195
第162回	朝顔形円筒埴輪(2)	196
第163回	家形埴輪(1)	198
第164回	家形埴輪(2)	199
第165回	盾形埴輪	199
第166回	鞍形埴輪	200
第167回	人物埴輪	201
第168回	馬形埴輪(1)	202
第169回	馬形埴輪(2)	203
第170回	馬形埴輪(3)	204
第171回	馬形埴輪(4)	206
第172回	馬形埴輪(5)	207
第173回	馬形埴輪(6)	208
第174回	馬形埴輪(7)	209
第175回	馬形埴輪(8)	210
第176回	馬形埴輪(9)	211
第177回	馬形埴輪(10)	212
第178回	器種不明の形象埴輪・形象埴輪の器台部	213
第179回	縄文・弥生時代の遺物(1)	214
第180回	縄文・弥生時代の遺物(2)	215
第181回	縄文・弥生時代の遺物(3)	216
第182回	遺構外出土の遺物(1)	217
第183回	遺構外出土の遺物(2)	218
第184回	遺構外出土の遺物(3)	219
第185回	遺構外出土の遺物(4)	220
第186回	遺構外出土の遺物(5)	221
第187回	旧石器時代調査トレンチ配置図(Ⅰ-2～5区)	222
第188回	旧石器時代調査トレンチ配置図(Ⅰ-1区)	223
第189回	旧石器時代調査トレンチ配置図(Ⅱ区)	223
第190回	旧石器時代調査トレンチ配置図(Ⅲ区・Ⅳ区)	224
第191回	太田市周辺の推定東山道駅路の位置	226
第192回	1号墓出土人骨	233
第193回	12号土坑出土馬歯	234

## 表目次

第1表	大道西遺跡周辺遺跡一覧表(1)	9
第2表	大道西遺跡周辺遺跡一覧表(2)	10
第3表	土坑一覧表	55
第4表	1号竪立柱建物計測表	136
第5表	竪立柱建物A群計測表(1)	139
第6表	竪立柱建物A群計測表(2)	140
第7表	竪立柱建物B群計測表	143
第8表	竪立柱建物C群計測表(1)	147
第9表	竪立柱建物C群計測表(2)	148
第10表	竪立柱建物D群計測表(1)	151
第11表	竪立柱建物D群計測表(2)	152
第12表	竪立柱建物E群計測表(1)	155
第13表	竪立柱建物E群計測表(2)	156
第14表	竪立柱建物F群計測表	158
第15表	71号竪立柱建物計測表	159
第16表	竪立柱建物G群計測表	161
第17表	竪立柱建物H群計測表	164
第18表	竪立柱建物I群計測表	165
第19表	竪立柱建物J群計測表	167
第20表	77号竪立柱建物計測表	167
第21表	ビット一覧表(1)	168
第22表	ビット一覧表(2)	169
第23表	ビット一覧表(3)	170
第24表	ビット一覧表(4)	171
第25表	ビット一覧表(5)	172
第26表	ビット一覧表(6)	173
第27表	ビット一覧表(7)	174
第28表	ビット一覧表(8)	175
第29表	ビット一覧表(9)	176

第30表	ビット一覧表(10)	177
第31表	ビット一覧表(11)	178
第32表	ビット一覧表(12)	179
第33表	ビット一覧表(13)	180
第34表	ビット一覧表(14)	181
第35表	ビット一覧表(15)	182
第36表	視野外埴輪出土遺構一覧	183
第37表	出土縄文土器分類表	214
第38表	大道西遺跡項目別建物数	227
第39表	大道西遺跡竪立柱建物総括表	228
第40表	大道西遺跡プロジェクト遺物出土状況	230
第41表	土坑1面計測表	234
第42表	遺物観察表(1)	235
第43表	遺物観察表(2)	236
第44表	遺物観察表(3)	237
第45表	遺物観察表(4)	238
第46表	遺物観察表(5)	239
第47表	遺物観察表(6)	240
第48表	遺物観察表(7)	241
第49表	遺物観察表(8)	242
第50表	遺物観察表(9)	243
第51表	遺物観察表(10)	244
第52表	遺物観察表(11)	245
第53表	遺物観察表(12)	246
第54表	遺物観察表(13)	247
第55表	遺物観察表(14)	248
第56表	遺物観察表(15、埴輪1)	249
第57表	遺物観察表(16、埴輪2)	250
第58表	遺物観察表(17、埴輪3)	251

第59表	遺物観察表 (18, 填輪 4)	252
第60表	遺物観察表 (19, 填輪 5)	253
第61表	遺物観察表 (20, 填輪 6)	254
第62表	遺物観察表 (21, 填輪 7)	255
第63表	遺物観察表 (22, 填輪 8)	256
第64表	遺物観察表 (23, 填輪 9)	257
第65表	遺物観察表 (24, 填輪10)	258

第66表	遺物観察表 (25, 縄文土器・弥生土器 1)	259
第67表	遺物観察表 (26, 弥生土器 2)	260
第68表	遺物観察表 (27, 弥生土器 3・縄文時代石器 1)	261
第69表	遺物観察表 (28, 縄文時代石器 2・遺構外出土遺物 1)	262
第70表	遺物観察表 (29, 遺構外出土遺物 2)	263
第71表	遺物観察表 (30, 遺構外出土遺物 3)	264

## 写真目次

P.L. 1	調査区全景 (西から)	14B号住居竪堀方全景 (南西から)	
	調査区全景 (東から)	14A・B号住居堀方全景 (南西から)	
P.L. 2	I-1区全景 (西から)	15号住居竪堀全景 (南から)	
	I-2区全景 (上が北)	15号住居全景 (南から)	
P.L. 3	I-3・4区全景 (上が北)	15号住居竪堀方全景 (南から)	
	II区1面全景 (上が北)	16号住居遺物出土状況 (南から)	
P.L. 4	II区2面全景 (上が北)	16号住居南壁付近石出土状況 (南から)	
	III-1区全景 (左が北)	16号住居南壁付近石出土状況 (南から)	
P.L. 5	III-2区・IV区全景 (上が北)	16号住居全景 (南から)	
P.L. 6	1号住居全景 (南東から)	P.L. 17	16号住居竪堀方全景 (南から)
P.L. 6	1号住居遺物 (5・6) 出土状況 (北から)		16号住居竪堀方全景 (南から)
	1号住居遺物 (3・4) 出土状況 (東から)		16号住居堀方全景 (南から)
	1号住居竪堀全景 (南東から)		17号住居遺物出土状況 (南から)
	1号住居堀方全景 (南東から)		17号住居全景 (南から)
	2号住居全景 (北西から)	P.L. 18	17号住居竪堀方全景 (南から)
P.L. 7	2号住居1号竪堀全景 (北西から)		17号住居竪堀方全景 (南から)
	2号住居堀方全景 (北西から)		18号住居全景 (南西から)
	2号住居1号竪堀方全景 (北西から)		1号土坑断面 (南東から)
	2号住居2号竪堀方全景 (北から)		2号土坑全景 (西から)
	3号住居遺物出土状況 (北から)	P.L. 19	3号土坑全景 (北から)
	3号住居全景 (北から)		4号土坑全景 (西から)
	4号住居遺物出土状況 (南東から)		6号土坑全景 (西から)
	4号住居竪堀遺物出土状況 (南東から)		7号土坑全景 (南から)
P.L. 8	4号住居全景 (南東から)		8 (左)・9号土坑 (右) 全景 (北から)
	4号住居竪堀全景 (南東から)		8 (奥)・9号土坑 (手前) 全景 (西から)
	4号住居堀方全景 (南東から)		10 (右)・11号土坑 (左) 全景 (北西から)
	4号住居竪堀方全景 (南東から)		12号土坑全景 (北から)
	5号住居1号竪堀全景 (南西から)	P.L. 20	12号土坑馬歯・骨出土状況 (北から)
P.L. 9	5・7号住居全景 (南東から)		12・13号土坑全景 (北から)
	5号住居2号竪堀全景 (南東から)		14号土坑全景 (西から)
	5・7号住居堀方全景 (南東から)		15号土坑全景 (南から)
	5号住居1号竪堀方全景 (南西から)		16号土坑全景 (南から)
	5号住居2号竪堀方全景 (南東から)		17号土坑全景 (南から)
P.L. 10	8・9号住居全景 (西から)		18号土坑全景 (南から)
	8・9号住居遺物出土状況 (西から)		19号土坑全景 (南から)
	8号住居遺物出土状況 (西から)	P.L. 21	20号土坑全景 (南から)
	8号住居遺物出土状況 (西から)		21号土坑全景 (南西から)
	8・9号住居堀方全景 (西から)		23号土坑全景 (南東から)
P.L. 11	10号住居全景 (南から)		24号土坑断面 (南から)
	10号住居堀方全景 (北から)		26・29・30・36・37号土坑、52号溝全景 (西から)
	11号住居全景 (東から)		27・31・32・42・45・46号土坑全景 (東から)
	11号住居遺物出土状況 (東から)		31・32・45号土坑全景 (北から)
	11号住居遺物出土状況 (東から)		48・49号土坑全景 (北から)
P.L. 12	12号住居全景 (北西から)	P.L. 22	1号墓人骨・古銭出土状況 (西から)
	12号住居遺物出土状況 (北西から)		1号墓人骨・古銭出土状況 (東から)
	12号住居竪堀全景 (北西から)		1号墓人骨・古銭出土状況 (西から)
	12号住居堀方全景 (北西から)		1号墓草全景 (西から)
	12号住居竪堀方全景 (北西から)		1号井戸上部断面 (南から)
P.L. 13	13号住居全景 (北西から)		1号井戸全景 (西から)
	13号住居竪堀全景 (北西から)		1号溝全景 (南西から)
	13号住居堀方全景 (北西から)		1号溝全景 (東から)
	13号住居竪堀方全景 (北西から)	P.L. 23	2号溝全景 (西から)
	14A号住居竪堀全景 (南西から)		2号溝全景 (西から)
P.L. 14	14A号住居全景 (南西から)		3号溝全景 (南から)
	14B号住居全景 (南西から)		3号溝全景 (北から)
P.L. 15	14B号住居竪堀全景 (南西から)		3号溝断面A-A' (北から)

	3 (50)号溝全景 (北から)	40号溝全景 (西から)
	4号溝1-2区東端部 (東から)	34・40号溝全景 (南から)
P.L. 24	4号溝中央区 (東から)	41号溝全景 (北から)
	4号溝中央区 (西から)	41号溝全景 (南から)
	4号溝西部 (南から)	42号溝全景 (北東から)
	4号溝1-2区東端部 (西から)	42号溝全景 (南西から)
P.L. 25	4号溝西部 (北から)	42号溝断面A-A' (西から)
	4号溝Ⅱ区部分 (西から)	43号溝全景 (南から)
	4号溝Ⅱ区部分 (東から)	43号溝全景 (北西から)
	4号溝断面A-A' (南から)	44号溝全景 (北から)
	4号溝断面B-B' (南から)	44・45号溝断面A-A' (南東から)
	4号溝断面C-C' (西から)	45号溝全景 (東から)
	4号溝断面D-D' (西から)	P.L. 35
	5号溝西・南部全景 (東から)	46 (左)・47 (右)号溝全景 (西から)
	5号溝西・北部 (南から)	46 (左)・47 (右)号溝断面A-A' (西から)
P.L. 26	5号溝西・北部 (北から)	51号溝全景 (西から)
	5号溝西断面A-A' (南から)	51号溝断面A-A' (西から)
	6号溝全景 (北から)	1号窪地全景 (北から)
	6号溝全景 (南から)	P.L. 37
	6号溝断面A-A' (北から)	2号窪地全景 (北から)
	7号溝全景 (東から)	2号窪地断面A-A' (南から)
	8・9号溝全景 (南西から)	3号窪地全景 (西から)
P.L. 27	8号溝全景 (南から)	3号窪地断面N-N' (西から)
	8号溝断面A-A' (南から)	3号窪地東壁えぐれの状態 (南から)
	9号溝全景 (南東から)	P.L. 38
	9号溝断面A-A' (南から)	Ⅰ-2・Ⅱ区推定東山道駅路全景 (西から)
	14号溝全景 (西から)	Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ区推定東山道駅路全景 (西から)
	14号溝断面A-A' (東から)	P.L. 39
	16号溝全景 (西から)	Ⅲ-2・Ⅳ区、大道東道跡推定東山道駅路全景 (西から)
	16号溝断面A-A' (東から)	13号溝 (北側溝) 全景 (西から)
P.L. 28	17号溝全景 (西から)	13号溝 (北側溝) 断面A-A' (西から)
	17号溝断面A-A' (東から)	5号溝東 (南側溝) 全景 (西から)
	18～20号溝全景 (北西から)	5号溝東 (南側溝) 断面A-A' (東から)
	18～20号溝全景 (南西から)	15号溝 (北側溝) 全景 (東から)
	20号溝全景 (西から)	25・28号溝 (南側溝) 断面B-B' (東から)
	21号溝全景 (西から)	25・28号溝 (南側溝) 遺物出土状況 (西から)
	22号溝全景 (南西から)	P.L. 41
P.L. 29	23号溝全景 (北西から)	25・28号溝 (南側溝) 断面A-A' (東から)
	23号溝断面A-A' (南西から)	26号溝 (北側溝) 断面A-A' (西から)
	24号溝全景 (東から)	26号溝 (北側溝) 断面B-B' (東から)
	24号溝全景 (西から)	26号溝近接 (東から)
	24号溝東端部 (北から)	26号溝近接 (東から)
P.L. 30	27号溝全景 (東から)	26号溝近接 (東から)
	27号溝全景 (西から)	P.L. 42
	27号溝断面A-A' (東から)	29号溝 (南側溝) 断面A-A' (東から)
	32号溝全景 (東から)	29号溝断面C-C' (東から)
	18・32号溝断面B-B' (南東から)	29号溝壁の状態 (東から)
	33号溝全景 (南から)	29号溝壁の状態 (北西から)
	33号溝断面C-C' (南西から)	P.L. 43
P.L. 31	33・35号溝全景 (北西から)	29号溝 (南側溝) 断面A-A' (東から)
	34号溝全景 (北から)	29号溝断面C-C' (東から)
P.L. 32	34号溝全景 (南から)	29号溝壁の状態 (東から)
	34号溝西側ビット列 (東から)	29号溝壁の状態 (北西から)
	34号溝西側ビット列 (東から)	P.L. 44
	34号溝断面A-A' (北から)	Ⅲ-1区推定東山道駅路 (右・37号溝、左・38号溝) 全景 (西から)
	34号溝断面B-B' (南から)	Ⅲ-1区推定東山道駅路 (下・37号溝、上・38号溝) 全景 (上から)
	34号溝断面C-C' (北から)	P.L. 45
	34号溝断面D-D' (南から)	Ⅲ-2・Ⅳ区推定東山道駅路 (右・37号溝、左・38号溝) 全景 (西から)
P.L. 33	35号溝全景 (南東から)	Ⅲ-1区37号溝 (南側溝) 断面A-A' (東から)
	35号溝断面E-E' (南東から)	Ⅲ-1区37号溝 (南側溝) 断面B-B' (東から)
	36号溝全景 (西から)	Ⅳ区37号溝 (南側溝) 断面A-A' (東から)
	36号溝全景 (東から)	Ⅳ区37号溝 (南側溝) 断面B-B' (東から)
	36号溝断面F-F' (東から)	Ⅲ区37号溝断面E-E' (西から)
	39号溝全景 (東から)	Ⅲ区37号溝断面C-C' (東から)
	39号溝A-A' (東から)	Ⅲ区37号溝掘り残し部分 (南から)
P.L. 34	40号溝全景 (東から)	Ⅲ区37号溝掘り残し部分 (南東から)
		P.L. 47
		Ⅲ-1区38号溝 (北側溝) 断面A-A' (東から)
		Ⅲ-1区38号溝 (北側溝) 断面B-B' (東から)
		Ⅳ区38号溝 (北側溝) 断面A-A' (東から)
		Ⅳ区38号溝 (北側溝) 断面B-B' (東から)
		Ⅲ-1区38号溝硬化部分 (東から)
		Ⅲ-1区38号溝硬化部分断面Ⅰ-Ⅰ' (西から)

- P.L. 48 II区1号道路(上・30号溝、下・31号溝)全景(左が北)  
II区1号道路(右・30号溝、左・31号溝)全景(南から)
- P.L. 49 30号溝(東側溝)全景(北から)  
30号溝断面B-B'(南から)  
31号溝(西側溝)全景(北から)  
31号溝断面A-A'(南から)  
1号掘立柱建物全景(上が北)  
1号掘立柱建物全景(南から)
- P.L. 50 ビット群(掘立柱建物A群)東側(北から)  
ビット群(掘立柱建物A群)全景(左が北)  
ビット群(掘立柱建物A群)全景(北から)
- P.L. 51 ビット群(掘立柱建物B群)全景(上が北)  
ビット群(掘立柱建物B群)全景(北から)
- P.L. 52 ビット群(掘立柱建物B群)全景(西から)  
ビット群(掘立柱建物B群)全景(東から)  
ビット群(掘立柱建物C群)全景(北から)  
ビット群(掘立柱建物C群)西部(北から)  
ビット群(掘立柱建物D群)全景(西から)
- P.L. 53 ビット群(掘立柱建物D群)全景(北から)  
ビット群(掘立柱建物D群)北半部(西から)  
ビット群(掘立柱建物D群)東半部(北西から)  
ビット群(掘立柱建物E群)北半部(西から)  
ビット群(掘立柱建物E群)全景(東から)
- P.L. 54 ビット群(掘立柱建物E群)全景(西から)  
ビット群(掘立柱建物G群)全景(北から)
- P.L. 55 ビット群(掘立柱建物H群)全景(西から)  
ビット群(掘立柱建物E群)東端(北から)  
ビット群(掘立柱建物H群)全景(北西から)  
71号掘立柱建物付近(東から)
- P.L. 56 1・2号住居出土遺物、4号住居出土遺物(1)
- P.L. 57 4号住居出土遺物(2)
- P.L. 58 5号住居出土遺物、11号住居出土遺物(1)
- P.L. 59 11号住居出土遺物(2)
- P.L. 60 12～16号住居出土遺物
- P.L. 61 17・18号住居、9・15号土坑、1号井戸、1・2号溝出土遺物
- P.L. 62 4・6・16・22・33・44・13号溝出土遺物
- P.L. 63 25号溝出土遺物、26号溝出土遺物(1)
- P.L. 64 26号溝出土遺物(2)
- P.L. 65 26号溝出土遺物(3)、28号溝出土遺物
- P.L. 66 29・37号溝出土遺物
- P.L. 67 38号溝、3号窪地、1449・2717・3385号ビット出土遺物
- P.L. 68 円筒埴輪
- P.L. 69 円筒埴輪
- P.L. 70 円筒埴輪
- P.L. 71 円筒埴輪
- P.L. 72 円筒埴輪
- P.L. 73 円筒埴輪
- P.L. 74 円筒埴輪
- P.L. 75 円筒埴輪
- P.L. 76 円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪
- P.L. 77 朝顔形円筒埴輪
- P.L. 78 朝顔形円筒埴輪・家形埴輪
- P.L. 79 家形埴輪・盾形埴輪・靴形埴輪・人物埴輪
- P.L. 80 馬形埴輪
- P.L. 81 馬形埴輪
- P.L. 82 馬形埴輪
- P.L. 83 馬形埴輪
- P.L. 84 馬形埴輪
- P.L. 85 馬形埴輪
- P.L. 86 馬形埴輪
- P.L. 87 馬形埴輪・器種不明の形象埴輪、形象埴輪の器台部
- P.L. 88 縄文・弥生時代の遺物(1)
- P.L. 89 縄文・弥生時代の遺物(2)
- P.L. 90 縄文・弥生時代の遺物(3)、遺構外出土の遺物

## 第1章 調査の経緯・経過・方法

### 第1節 調査に至る経緯

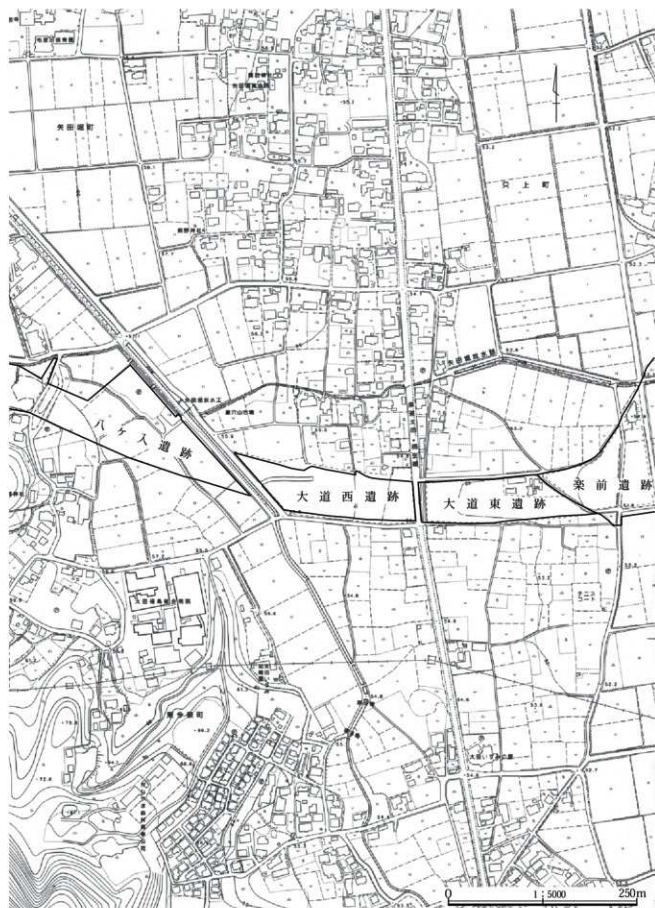
北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴う伊勢崎インターチェンジから栃木県境までの17.7kmの発掘調査が開始されたのは平成12年度である。平成12年6月、日本道路公団、群馬県土木部、群馬県教育委員会、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の4者による協議において、道路公団から橋梁下部工事等の工事優先区間の一部について、平成12年8月から発掘調査実施の要請があった。これを受けて当事業団は用地解決状況、残土場の確保、側道と本線の調査地区分の検討等、調査実施への準備を進めた。

平成12年8月1日、日本道路公団、群馬県教育委員会、当事業団の3者による「北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を締結し、また、協定書に基づく公団と事業団による平成12年度発掘調査の契約が結ばれ、発掘調査は伊勢崎市書上遺跡から着手となった。

太田市の金山以东の調査については、用地買収が比較的進展している大道西遺跡がまず対象となり、平成14年度4月より調査を開始することとなった。当初はその年度1年間の調査を予定していたが、他遺跡との調査工程の調整により、当遺跡の調査は11月末までとなり、調査班は金山の西に位置する上強戸遺跡の調査に合流することとなった。この年度の未調査部分と未買収地について



第1図 道跡の位置（国土地理院20万分の1地勢図「宇都宮」使用）



第2図 大道西遺跡調査区周辺図（太田市2,500分の1地形図「28」使用）

は、用地買収がすべて完了した後、平成16年度10月～平成17年1月の4ヶ月に調査し、大道西遺跡の現地における調査はすべて終了した。

## 第2節 調査の方法と経過

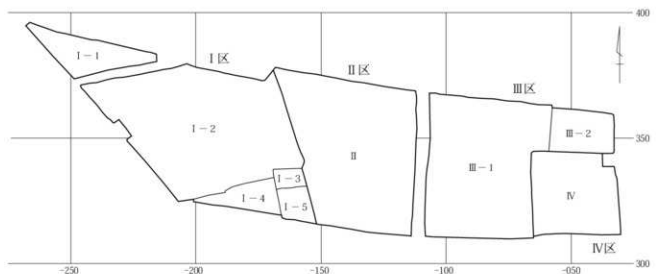
### 1 調査の方法

大道西遺跡の調査対象地内は、道や水路、あるいは宅地などの未買収地などが入り組んでおり、また、排土の置き場を対象地内に確保するために、全域を一度に調査することができないので、第3図のように地区分けをして調査を行うこととした。地区分けは西から大きくⅠ～Ⅳ区の4地区に分け、さらにⅠ区は1～5、Ⅲ区は1・2に細分した。

調査に用いたグリッドは5m×5mを基本とした。その名称は本遺跡特有のものを設定することはせず、国土座標Ⅹ系（旧国土座標系＝日本測地系）を用い、X・Y座標について、その下3桁を用いて表すことにした（X＝36350、Y＝-40150の場合、350-150）。地点を細かく表示する場合は、この下3桁の数字をそのまま用いた場合も多い（例：5mないし10mグリッドにこだわらず、1m単位で351-152と表す場合がある）。

予想される遺構が住居・溝などであったため、調査方法に特殊なものではなく、ごく標準的な方法を用いた。その概略は以下の通りである。

表土除去は基本的にバックホーを用いた。表土除去終了後はジョレンを用いて遺構確認を行い、確認できた遺構について調査を行った。遺構の種類は住居跡、掘立柱建物のほか、土坑、溝、ピットであり、それぞれに適した方法を用いた。ピットについては数が非常に多いため、まず半成して掘り下げ、遺構と判断されるものに限って記録することにし、土層も類別して注記した。遺構名は調査区にかかわらず、全て続き番号で表した。調査工程の都合上、隣接する調査区を連続して調査できなかった場合があったが、隣接する調査区でありながら、遺構番号が大きく離れる場合が生じてしまっているのはそのためである。遺構の測量は、断面図は作業員により手実測で行い、平面図は原則として測量業者に委託し、平板・電子平板を用いて実測した。ただし、Ⅰ-2区南南部のピットの集中している部分については航空測量を行い、調査期間の短縮を図った。縮尺は1/10、1/20、1/40を遺構の性格に合わせて適宜使用した。写真撮影は6×7・6×6白黒、35mm白黒、35mmカラーリバーサルの3種類を基本とした。調査区の全景写真は業者に委託し、ラジコンヘリによる空中撮影を行った。遺構の調査終了後、全域でローム層の堆積が良好であったため、旧石器の調査を行った。調査は2×5mのトレンチを全域に設けて行った（配置は第187図～190図参照）が、遺構・遺物とも見つからなかった。



第3図 調査区設定図

## 2 調査の経過

調査は平成14年度(2002年)、平成16年度(2004年)の2回に分けて行った。

### 平成14年度の調査

平成14年度は4月1日から11月30日まで調査した。年度当初の準備作業の後、現地における調査を開始したのは4月11日からである。

この年度に調査を予定していたのは、Ⅰ-Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区と、Ⅱ区、そしてⅢ区であるが、Ⅲ区のうちⅢ-Ⅱ区は調査工程の変更で調査延期となり、Ⅲ-Ⅰ区のみを調査した。

まず最西端に位置するⅠ-Ⅰ区の表土除去を11日、15日に行い、16日からはⅠ-Ⅱ区の表土除去に移り、25日には必要部分を残して一旦終了した。遺構精査作業は表土除去が終了した場所から開始し、17日からは各遺構の調査を開始した。Ⅰ-Ⅰ区は小面積であったため、遺構の掘削作業は早期に終了し、5月8日には高所作業車による全景写真を撮影した。その後平面実測、旧石器調査を行い、15日からは埋め戻し作業を行った。埋め戻しは16日には終了し、引き続き、Ⅰ-Ⅱ区の重機が通路としていた部分の表土除去を20日まで行った。Ⅰ-Ⅱ区の表土除去はその後24日～28日にも実施し完了した。その間Ⅰ-Ⅱ区では多くの機具を処理しながら溝と土坑の調査を行い、同時に非常に数多く存在するピットの調査を行った。また、中央付近で調査を始めた大きな土坑は、井戸であることが判明したため、業者に掘削を委託することになった。これらⅠ-Ⅱ区の遺構の掘削作業は6月5日までにほぼ終了し、7日にはⅠ-Ⅱ区的全景写真を撮影した。その後平面実測を行い、平行してピットの再精査・調査、業者による1号井戸の掘削作業を実施し、19日からは旧石器の調査も開始した。

Ⅰ-Ⅱ区の調査の最終段階で、調査区中央を東西に横断する2列の溝が、約13mの間隔で平行していることが見出され、古代道路である可能性が浮上したため、以後この付近については特に慎重に調査する必要が生じた。まず、この溝がⅡ区へと続いていることを確認するため、Ⅰ-Ⅱ区の調査が継続中の6月11日～14日に、Ⅱ区の溝延長部分の一部について、先行して表土除去を行った。その結果、溝がさらに直線的にのびていることが判明し、古代道路である可能性が高まった。この部分については、

21日に高所作業車による全景写真を撮影した。

24日からはⅠ-Ⅴ区の表土除去を開始し、翌25日からはⅡ区の残りの部分の表土除去に移り、その排土でⅠ-Ⅱ区の埋め戻しを開始した。Ⅰ-Ⅱ区の埋め戻しは旧石器調査と平行して行い、7月3日には終了した。その後Ⅱ区の表土除去は、間に休止期間を挟みながら継続して行い、7月18日に終了した。

Ⅱ区は多くの遺構が重複していたが、それらは大きく2時期に分けることが可能と判断できたため、2面調査を行った。遺構の精査・調査は表土除去と平行して開始し、南西側のⅠ-Ⅴ区も同時に調査した。1面目の調査は8月1日に終了し、2日にラジコンヘリにより全景写真を撮影した。2面目の調査は5日から開始し、主として溝、窪地の調査を実施した。遺構の調査は9月12日までには終了し、13日にラジコンヘリにより全景写真を撮影した。

Ⅲ-Ⅰ区の調査は、古代道路跡をより広い範囲で検討するために、Ⅱ区2面と同時期に行うこととした。ただし、Ⅲ-Ⅰ区の排土はⅡ区を越えて西側のⅠ-Ⅱ区に運ばなければならないため、Ⅱ区内に通路を設ける必要があった。そのため、Ⅲ区の表土除去は、Ⅱ区2面の調査が行われている8月30日～9月10日にまず行い、その時の排土はⅢ区内に置き、その後Ⅱ区2面の空掘が終了し、その北側に排土をⅠ-Ⅱ区へ運ぶ通路を設置してから、Ⅲ区全面の表土除去を9月19日～10月10日に行った。

Ⅲ区の各遺構の精査・調査は9月4日から開始した。古代道路側溝と考えられる溝はこのⅢ区では特に良好に残っており、道路であることは確実にであると判断できた。そして、道路だとすれば古代東山道驛路の可能性が高まった。そのため、古代道路の研究者に現場を見ていただくと共に、上毛新聞の取材を受け、上毛新聞紙上に掲載された。その他、住居・溝・土坑・ピットなどを調査し、10月25日にⅡ区2面と共にラジコンヘリにより全景写真を撮影した。

Ⅱ区の旧石器調査は、9月18日から古代道路の調査に支障がない範囲で開始し、その他の場所は空掘などが終了した後10月25日～11月13日まで実施した。遺構・遺物は出土していない。Ⅲ-Ⅰ区では10月29日～11月18日まで実施し、これですべての遺構調査を終了した。両地区の埋め戻しは18日から開始し、その後11月末日まで



に機材搬出作業などを行い、大道西遺跡の現地における調査はすべて終了した。

#### 平成16年度の調査

この年度に調査したのは、Ⅰ-Ⅲ・Ⅳ区とⅢ-Ⅱ区、Ⅳ区である。このうちⅠ-Ⅲ区を除いた3地区は宅地として利用されていたため、跡地には建物基礎などが残されていた。16年度の作業は、まずその建物基礎部分の除去と搬出から開始した。10月6日より、大道東遺跡に調査に入っていた班により、作業が開始され、建物基礎の除去・搬出作業が実施された。その後26日からⅢ-Ⅱ区・Ⅳ区の表土除去を行い、11月1日からは大道西遺跡の調査班が現地における調査を開始した。

調査はⅢ-Ⅱ区・Ⅳ区から開始した。この地区の表土除去は11月4日で終了し、以後遺構調査を中心に行った。

この地区では竪穴住居が多く見つっている。17日～22日にはⅠ-Ⅲ・Ⅳ区の表土除去もを行い、以後Ⅲ-Ⅱ区・Ⅳ区と平行して調査した。この地区では溝・土坑・ピットなどが調査されている。12月14日にラジコンヘリで全景写真を撮影した後、Ⅳ区では東山道駅跡の下層と考えられる住居の調査を開始した。道路と新旧関係にある遺構の把握は、道路の敷設・使用・廃絶の時期を考える上で非常に重要であるが、この部分の道路跡の残りは悪く、明確な新旧関係は掴めなかった。

旧石器時代の調査は、Ⅲ-Ⅱ区では11月17日から先行して行い、その後Ⅰ-Ⅲ・Ⅳ区は12月17日～22日、Ⅳ区は1月11日～18日に行ったが、いずれの地区からも遺構・遺物は出土しなかった。

1月18日からは機材搬出作業などを行い、21日からは埋め戻しを開始し、28日にはすべての作業を終了した。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

大道西遺跡は群馬県太田市東今泉町にある。太田市街の北北東、東武伊勢崎線太田駅からは4kmあり、遺跡のすぐ南西には太田市のシンボルである金山（標高235.8m）が聳えている。

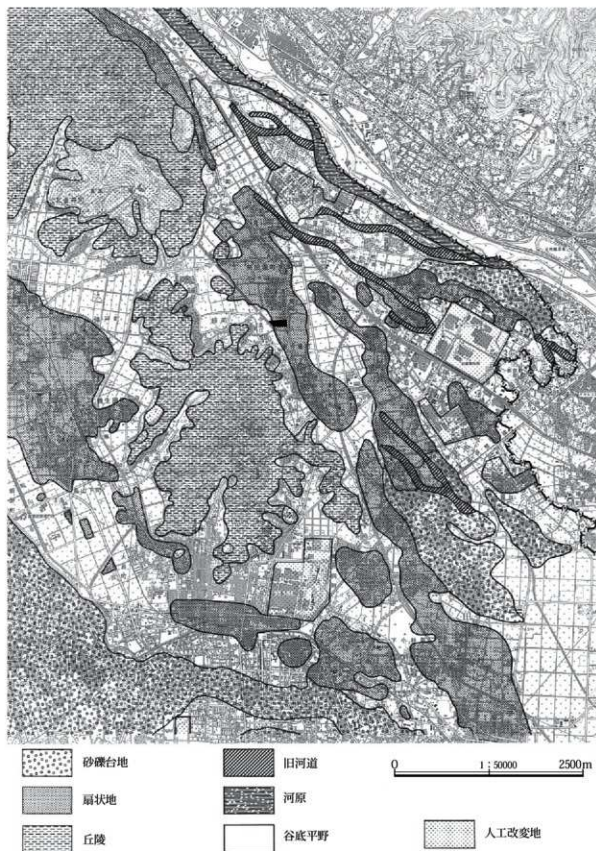
本遺跡の立地する金山北東部一帯の自然地形は、北東方向に足尾山地が連なり、南西方向には金山・八王子丘陵がのび、その間隙を、足尾山地を源流とする渡良瀬川が北西から南東に向かって流れている。遺跡は、この渡良瀬川が形成した扇状地上にある。この扇状地は、桐生市赤岩橋付近（標高120m）を扇頂部とし、太田市下小林から足利市御厨地区（標高30m）にかけてを扇端部にす、南北18km、東西7.5kmに及ぶ大規模なものである。扇状地はⅠ～Ⅲ面に区分されているが、それぞれの面は幅が狭く、現流路に沿って北西-南東に細長く分布している。最古期のⅠ面は最も丘陵側にあり、以下東の現渡良瀬川に向かってⅡ面、Ⅲ面が並んでいる。そのなかで本遺跡は丘陵に近く、最古期のⅠ面の最西端にあることになり、第4図にあげた『土地分類基本調査・深谷』（群馬県・1991）の地形分類図に従えば、本遺跡の東側大部

分は扇状地上、西端のごく一部は谷底平野にかかることになる。さらに西側には金山の裾野が迫っている。

遺跡周辺は平坦な地形が広がり、その中に丸山や小丸山のような小さな独立丘陵が点在している。調査対象地は全体に平坦であり、西側は金山裾野から続く水田、東側は宅地や畑地となっている。先述の地形分類でいえば、水田部分が谷底平野、宅地・畑地の部分が扇状地にあたることになるが、この部分の扇状地の幅は約400mであり、隣接する大道東遺跡の東端まで広がっている。遺跡の標高は約54.8m～53.7mであり、西から東に向かって緩やかに下がっている。

### 第2節 歴史的環境

本遺跡を中心とした太田市北東部の地域は、数多くの遺跡があることで知られている。特に渡良瀬川流域から丘陵地まで、地形的に変化に富み、いろいろな種類の遺跡がみられることが特徴であると思われる。以下、本遺跡周辺の歴史的環境を述べるが、特に今回の調査で遺構が見つまっている古墳時代以降の遺跡を中心として述べることにする。



第4図 大道西遺跡周辺地形分類図

(群馬県『土地分類基本調査・深谷』(1991)、同『桐生及び足利』(1997)による)

## 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、これまでさほど多く調査されていなかったが、近年調査例が増加している。渡良瀬川扇状地上では、東長岡戸井口遺跡（100、○）内の数字は第5図の遺跡番号。以下同じ。）と焼山南遺跡（99の付近）がある。前者は石刃と石刃製ナイフ型石器を伴う大規模な石刃石器群で、この地域の旧石器時代後期を代表する遺跡である。北関東自動車道に関連する調査では、矢部遺跡（13）と、本遺跡の西に隣接する八ヶ入遺跡（7）がある。前者では礫層上面からチャート製の剥片が出土し、後者ではAs-YP下から湧別技法による細石刃石器群を中心に、1,665点の石器・礫が出土している。金山丘陵北の地域では、やはり北関東自動車道関連で峯山遺跡（3）が調査され、AT下層の暗色帯からチャート製の石器群が、As-BP中・上部から黒曜石製の切出形ナイフ形石器を組成する石器群が出土している。

本遺跡ではこの時期の遺物は出土していない。

## 縄文時代

縄文時代の遺跡は渡良瀬扇状地1面に多く、下宿遺跡（68）や東長岡戸井口遺跡（100）などがあるが、より東側の地域には少ない傾向が指摘されている。これは東に行くに従って、渡良瀬川の氾濫層が厚く堆積しているためと考えられる（文献32）。

北関東自動車道関連の調査ではこの時代の遺構・遺物が多く確認されている。峯山遺跡（3）では早期の土坑1基のほか、早期を中心に草創期から後期の土器と石器が多数出土した。二の宮遺跡（6）では前期の竅穴住居1軒、土坑10基を調査している。本遺跡の東に隣接する大道東遺跡（8）では、中期後半から後期前葉の住居12軒、土坑93基を調査したほか、多数の土器、石器、石製品が出土している。栗前遺跡（9）でも、大道東遺跡に近い調査区で、その集落の続きと思われる住居2軒などを調査している。南東に近接する東今泉鹿島遺跡（11）では、前期の土坑4基と早期から晩期に至る土器多数が包含層から出土している。さらに東をみると、矢部遺跡（13）では土坑数基がみられる。渡良瀬川のすぐ南にある道原遺跡（15）では中期の住居5軒と土坑22基と、中期から後期にかけての土器多数が出土している。

以上のように北関東自動車道関連の調査によって縄文時代の遺構・遺物が数多く出土しているが、本遺跡では

遺構は土坑1基があるだけであり、その他は土器・石器などが出土するのみである。おそらくこれらは東に隣接する大道東遺跡の集落から二次的に運びこまれたものであろう。

## 弥生時代

周辺地域では弥生時代の遺跡はきわめて少なく、いくつかの遺跡で土器片の散布がみられる程度である。本遺跡でも遺構は見られず、土器片が172点出土しているにすぎないが、それらの土器の様相から再葬墓の存在を想定することができる。再葬墓の例は周辺地域には少ないが、有名な出流原遺跡（栃木県佐野市）は東約15kmのところにある。

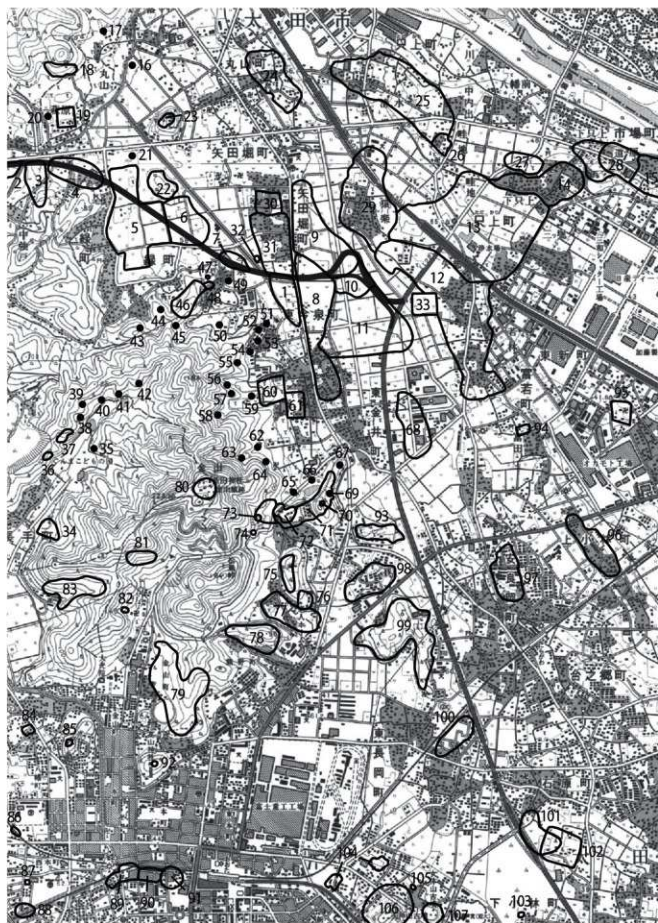
## 古墳時代

前期の集落は少なく、調査例も多くない。本遺跡周辺では、南東に近接する東今泉鹿島遺跡（11）で前期未から中期初頭の住居11軒が、道原遺跡で前期の住居3軒が調査されている。

中期から後期になると集落遺跡が増え、北関東自動車道関連の遺跡でも、八ヶ入遺跡（7）、大道東遺跡（8）、栗前遺跡（9）、東今泉鹿島遺跡（11）、向矢部遺跡（12）、新島遺跡（14）などで住居が調査されている。本遺跡でも6世紀代に遡る住居が4軒、7世紀代の住居が2軒調査されており、東側の大道東遺跡の集落の一部をなしていたことが分かっている。

後期になると特徴的なのは、金山丘陵北東部を中心とした地域で、須恵器生産が開始されることである。開始年代は表採資料によれば6世紀前半であるが、大規模に生産されるようになるのは6世紀中頃以降で、以後一大生産地に発展する。7世紀末から8世紀初頭になると丘陵西側に移動しながら生産を続ける。また、八王子丘陵にある萩原窯跡（20）では、7世紀末に太田市寺井廃寺の所用瓦の生産を開始するし、埴輪の生産も母衣埴輪窯跡（65）、金井口埴輪窯跡（66）等で行われるなど、窯業生産が盛んな地域と言える。

その他の生産遺跡では、鉄生産が7世紀末から峯山遺跡（3）で開始され、以後多くの遺跡が見られるようになり、金山丘陵と、その西側の一帯は鉄の一大生産地となる。以上のように金山丘陵とその周辺の地域は、古墳時代後期以降、須恵器・瓦・埴輪・鉄などを生産する、一大工業地帯となっていくのである。



第5図 大田西道跡周辺の遺跡  
(国土地理院5万分の1地形図「足利北部」「足利南部」「上野境」「桐生」使用)

番号	道跡名	旧石器	集落・溝等					墳墓		備考	文献	
			水田・畠		遺物のみ		古墳	古墳	奈良			中世
			開文	弥生	古墳前	古墳中後						
1	大道西道跡						○	○	○	古墳後期～平安集落、東山道駅跡、中世屋敷		
2	上張戸道跡群		△		■	■	■	■	■	古墳前～中世水田 古墳～平安木製品多数	27・28	
3	釜山道跡		△	○						旧石器文化層2面 製鉄炉 鍛冶遺構 灰窯	31・33・56・57	
4	萩原道跡					○	■			As-B下水田	56	
5	古米菜甲新水田跡									As-B下水田	1・30	
6	二の宮道跡			○						奈良平安集落	30	
7	八ヶ人遺跡		△		○	○	○	○		東山道駅跡	34・55・56	
8	大道東道跡			○						当該道跡	1・32・35	
9	栗前道跡			○						古墳後～平安集落	1・29・38・39・40・43	
10	鹿島崎道跡							○		奈良平安集落 東山道駅跡	36・55・56	
11	東今泉島道跡		○			○	■			古墳中～平安集落 漆器文書	26	
12	向矢部道跡					○	○	○		古墳後～平安集落	25・44・45・46・47	
13	矢部道跡		○					○		奈良平安集落 漆器文書	24・41・42・40・53	
14	新島道跡									奈良平安集落 古墳後～平安高	24	
15	道原道跡		○		■	■	●	○	○	古墳前期方形周溝墓 古墳 平安時代道路	56・57	
16	丸山北塚跡									須忠堂2 灰原 粘土積層坑 瓦葺出土	1・37	
17	吉沢塚跡群									須忠堂	1	
18	吉沢古墳群						●			終末期群集墳	1	
19	萩原道跡							○		15・16C 堀 土居 烽火台	12	
20	萩原道跡									瓦葺1 須忠堂	1	
21	丸山腰巻道跡									須忠堂1	48	
22	小丸山道跡							△		縄文～平安遺物散布地 瓦葺出土	1	
23	丸山の磐跡							○		16C 腰郭 烽火台	12	
24	丸山古墳群						●			6C末～7C前半前方後円墳1 円墳8	1	
25	七日市古墳群						●			古墳後期	58	
26	以上の磐跡									16C 堀	12	
27	以上深明道跡							○	■	平安集落・畠	42・56・57	
28	因濟寺城跡(道原城跡)									16C 堀 土居	12	
29	萩原道跡						●	○		後期古墳群 奈良平安集落	1・50・52	
30	矢田堀跡							○		16C 堀 土居 戸口	12	
31	矢田堀古墳群									終末期群集墳	58	
32	蔵穴山古墳						●			1辺30m方墳 横式横穴式石室 7C中	1・22	
33	矢部城跡							○		16C 堀 土居 碑	12	
34	式反田古墳群						●			円墳数基	1	
35	山去塚跡群									須忠堂 7C中	20	
36	高太郎Ⅱ道跡									製鉄炉3 灰窯3	20	
37	鍛冶ヶ谷戸道跡							○		製鉄道跡	20	
38	高太郎Ⅰ道跡									須忠堂10 工房1 製鉄炉2	20	
39	高太郎Ⅲ道跡									須忠堂	20	
40	ヒメ沢道跡									須忠堂	58	
41	堤人遺跡									須忠堂	20	
42	大長谷道跡									須忠堂	20	
43	諏訪ヶ人遺跡						△			灰原 須忠器出土	58	
44	八ヶ人遺跡									灰原 須忠器・鉄滓出土	58	
45	曾ノ沢Ⅰ道跡						○	■		須忠堂、灰窯、製鉄炉、古墳	1・3・6・22	
46	曾ノ沢古墳群						●			円墳5 7C	1・22	
47	曾ノ沢御廟古墳						●			直径30m円墳 横穴式石室		
48	今泉口八幡山古墳						●			前方後円墳 横穴式石室 家形石棺 6C末～7C初	1・16	
49	曾ノ沢Ⅱ道跡					○				灰原 須忠器出土	22	
50	川西道跡									須忠堂	58	
51	八幡Ⅰ道跡									須忠堂4 灰原	21	
52	八幡Ⅳ道跡									窯 灰原	21	
53	八幡Ⅲ道跡									窯2 灰原	21	
54	八幡Ⅴ道跡						■			窯 灰原 円墳1	21	
55	八幡Ⅵ道跡									窯1 灰原	21	
56	狸ヶ人Ⅱ道跡						△			灰原 須忠器出土	58	
57	辻小屋道跡									須忠堂4	1	
58	辻小屋道跡群									須忠堂4	21	
59	狸ヶ人Ⅰ道跡									窯1	58	
60	狸ヶ人館跡							○		堀 土居 戸口	12	
61	今泉城跡							○		16C 堀 土居	12	
62	入宿Ⅱ道跡									灰原	21	
63	入宿Ⅰ道跡									灰原	21	
64	入宿Ⅲ道跡									灰原 須忠器出土	21	
65	母衣塚輪窯跡									埴輪窯	1	

第1表 大道西道跡周辺道跡一覧表(1)

第2章 遺跡の位置と環境

番号	遺跡名	旧石器	集落・溝等○墳墓●生産跡□					備考	文献	
			水田・意洞	遺物のみ△	古墳	奈良	中世			
			縄文	弥生	古墳前	古墳中後	奈良平安	中世		
66	金井口埴輪集跡					□			埴輪室3以上	1
67	金井口遺跡	△	△				□		埴輪室2 製鉄室1	7
68	下宿遺跡		○		○			○	縄文草創期上坑 古墳前・平安集落 中世溝	9・10・11
69	亀山塚跡					□			須史室2 灰原	1
70	亀山塚古墳					●			後期円墳 陶棺 6C中	1
71	亀山古墳群					●			後期群集墳	1
72	東金井城跡							○	15・16C 堀・土居 戸口 腰郭	12
73	聖天沢遺跡					●		●	円墳 横穴式石室 中世墓	5
74	丸屋敷の菅							○		
75	内並木古墳群					●			円墳3	1
76	馬塚古墳群					●			後期群集墳	1
77	寺ヶ入遺跡					●			円墳約30	
78	寺ヶ入古墳群					●				1・14
79	富士山古墳群					●			終末期群集墳	58
80	東山古墳群					●			終末期群集墳	1
81	金山城跡							○	井戸	15・18・19
82	西山古墳群					●			終末期群集墳	1
83	由良氏五輪塔							●		58
84	貝芝塚古墳群					●			円墳約30 6C後半	1
85	大島館跡							○	14C 土居 戸口	12
86	八幡山古墳				●				前期前方後円墳 全長84m	1
87	三島木遺跡		○					○	奈良平安土坑 中世伽藍	58
88	柿崎山古墳					●			円墳 径20m	1
89	塚廻遺跡		○					○	縄文中期上坑 古墳後～平安集落	54
90	新町遺跡		△					○	古墳前～平安集落	23
91	新町古墳群					●			後期群集墳	1
92	宮内遺跡		△					○	古墳後～後・平安集落	51
93	高山古墳					●			後期前方後円墳	1
94	堀ノ山遺跡					●			円墳1	1
95	富田館跡							○	16C 堀・土居・戸口	12
96	宗金寺壇遺構							○	16C 2重の堀	12
97	上小林塚山古墳					●			中期円墳 径60m	1・38
98	安良岡古墳群							●	後期群集墳	1
99	横山北遺跡		△	△	△	●△			旧石器～古墳遺物包蔵地 後期円墳または帆立貝式古墳	1・2
100	横山北古墳					●			前方後円墳1(横山古墳) 円墳6以上	1・2
101	横山古墳群					●			縄文・古墳中～平安集落 中世伽藍	17
102	東長岡戸井口遺跡		△	○			○	○	縄文・古墳中～平安集落 中世伽藍	1・58
103	大日山古墳群					●				
104	下小林館跡(大倉城)							○	15・16C 堀・土居・戸口	12
105	下小林車塚古墳					●			円墳または帆立貝形古墳 5C後半	1
106	北田塚遺構							○	堀、二つの環壕	12
107	北田塚遺構							○	堀、二つの環壕	1
108	天神山古墳A陪塚					●			中期円墳 径22m	13
109	天神山古墳					●			中期前方後円墳 全長210m	1・4・8
110	女体山古墳					●			中期帆立貝形古墳または円墳 全長96m	1

第2表 大東西遺跡周辺遺跡一覧表(2)

参考文献

- 1 太田市 1996 『太田市史 通史編 原始古代』
- 2 はにわの会 1968 『横山遺跡総合調査報告』
- 3 日本考古学会 1970 『考古学雑誌』56巻3号
- 4 群馬県教育委員会 1971 『史跡天神山古墳外堀部発掘調査報告書』
- 5 太田市教育委員会 1972 『聖天沢遺跡調査報告書』
- 6 駒沢大学考古学研究会 1978 『菅ノ沢遺跡、巖穴山古墳調査概報』
- 7 太田市教育委員会 1979 『金井口遺跡発掘調査概報-第2次調査-』
- 8 太田市教育委員会 1982 『天神山古墳外堀部発掘調査概報』
- 9 太田市教育委員会 1985 『下宿遺跡発掘調査概報』
- 10 太田市教育委員会 1987 『下宿遺跡B地点』
- 11 太田市教育委員会 1988 『下宿遺跡F地点』
- 12 群馬県教育委員会 1989 『群馬県の中世城館跡』
- 13 太田市教育委員会 1990 『天神山古墳外堀・A陪塚確認調査』
- 14 太田市教育委員会 1992 『寺ヶ入遺跡発掘調査報告書1・Ⅱ』
- 15 太田市教育委員会 1994 『金山城跡大手遺跡調査』
- 16 太田市教育委員会 1997 『今泉口八幡山古墳発掘調査報告書』
- 17 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『東長岡戸井口遺跡』
- 18 太田市教育委員会 1997 『金山城跡・月ノ池』
- 19 太田市教育委員会 2001 『史跡金山城跡環境整備報告書発掘調査編』
- 20 太田市教育委員会 2002 『長手谷遺跡群発掘調査報告書』
- 21 駒沢大学考古学研究会 2007 『群馬・金山丘陵遺跡群Ⅰ』
- 22 駒沢大学考古学研究会 2009 『群馬・金山丘陵遺跡群Ⅱ』
- 23 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 『新町遺跡』
- 24 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『矢部遺跡・新島遺跡』
- 25 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『向矢部遺跡』
- 26 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『東今泉島遺跡』
- 27 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008 『上池戸遺跡群』
- 28 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『上池戸遺跡群(Ⅰ)』
- 29 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『葉前遺跡(Ⅰ)』

- 30 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『古峯条里水田跡二の古遺跡』
- 31 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『峯山遺跡Ⅰ』
- 32 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『大道東遺跡(Ⅰ)』
- 33 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010 『峯山遺跡Ⅱ』
- 34 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010 『八ヶ入遺跡Ⅰ』
- 35 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010 『大道東遺跡(Ⅱ)』
- 36 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010 『鹿島浦遺跡Ⅱ』
- 37 太田市教育委員会 1985 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 38 太田市教育委員会 1986 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 39 太田市教育委員会 1987 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 40 太田市教育委員会 1988 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 41 太田市教育委員会 1989 3月3日 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 42 太田市教育委員会 1989 3月30日 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 43 太田市教育委員会 1988 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』(Ⅱ次)
- 44 太田市教育委員会 1996 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報-向矢部遺跡(第Ⅱ次農政分)-』

- 45 太田市教育委員会 1996 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報-向矢部遺跡(第Ⅱ次文化庁分)-』
- 46 太田市教育委員会 1997 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報-向矢部遺跡(第Ⅲ次農政分)-』
- 47 太田市教育委員会 1997 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報-向矢部遺跡(第Ⅲ次文化庁分)-』
- 48 太田市教育委員会 2000 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報-丸山鹿島遺跡-』
- 49 太田市教育委員会 1993 『市内遺跡Ⅱ』
- 50 太田市教育委員会 1997 『市内遺跡Ⅲ』
- 51 太田市教育委員会 2005 『市内遺跡21(第Ⅱ次)』
- 52 太田市教育委員会 1993 『埋蔵文化財発掘調査年報3』
- 53 太田市教育委員会 1994 『埋蔵文化財発掘調査年報4』
- 54 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『年報21』
- 55 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 『年報23』
- 56 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『年報24』
- 57 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『年報25』
- 58 群馬県文化情報システムWEB版

古墳は前期の寺山古墳(第5図の範囲外)、八幡山古墳(85)、中期の天神山古墳(106)、女体山古墳(107)など、有名な古墳があるが、金山北東域には大きなものは少ない。遺跡周辺で大規模なものとしては、6世紀末～7世紀初頭の、長さ約50mの前方後円墳である今泉口八幡山古墳(48)があり、横穴式石室の中に家型石棺の存在が確認されている。その近くには径約30mの円墳である菅ノ沢御廟古墳(47)がある。さらに本遺跡のすぐ北には、一辺約30mの竪穴山古墳(32)がある。築造時期は7世紀中頃と推定され、東毛地域随一の終末期方墳として有名である。本遺跡から大道東遺跡にかけて調査されている竪穴住居には、この竪穴山古墳と同時期のものも含まれており、深い関連があるものと考えられる。また、後述する推定東山道駅路は、この古墳をすぐ周辺に見ながら通過していたわけで、当時は目立つモニュメントであったと考えられる。

後期の群集墳はこの地域にも数多く存在している。遺跡のすぐ北側には矢田堀古墳群(31)があり、西の金山丘陵にかかる部分には菅ノ沢古墳群(46)がある。東には猿楽遺跡(29)、北には丸山古墳群(24)があり、さらに金山丘陵南側から東にかけては多くの古墳群がある。本遺跡は、矢田堀古墳群として想定される範囲の南に接する位置にあるが、調査区内には古墳そのものは確認できなかった。しかし、推定東山道駅路の側溝を初めとした遺構から、馬形埴輪を初めとした、多くの埴輪片が出土している。これらの埴輪は近傍のどこかの古墳に樹立されていたものと考えられるが、その古墳がどこな

のか、上述のような歴史的環境の中で考えていかなければならないであろう。

#### 奈良・平安時代

7世紀後半以降、律令制が確立していく中で、地方は国一評(のち郡)一里(古くは「五十戸」のち郷)という行政組織に編成されていくことになった。本地域は、『和名抄』によれば「山田郡」と「新田郡」に属し、その境界はほぼ金山と八王子丘陵とを結んだ線と推定される。本遺跡は山田郡の領域に入るものと思われるが、「山田郡」という郡名の史料上の初見は8世紀末であり(ほかに「山田」という8世紀後半の文字瓦が存在するが、郡名かどうかは不明)、それ以前にどのような行政区画であったのかは、実は明確ではない。

山田郡の郡家は本遺跡の西1kmにある「古米」の地であると推定されているので、本遺跡周辺は古代山田郡の中心地域であったと考えられる。残念ながら郡家の存在を裏付ける直接の証拠は見つからないが、北関東自動車道関連の調査で奈良・平安時代の大集落が調査され(本遺跡の東端部と、その東にある大道東遺跡(8)、楽前遺跡(9)、鹿島浦遺跡(10)、東今泉鹿島遺跡(11)、向矢部遺跡(12)、矢部遺跡(13)などでこの時期の住居が数多く見つっている)、また、東今泉鹿島遺跡や矢部遺跡で漆紙文書が出土していること、八ヶ入遺跡(7)で瓦や三彩陶器といった寺院の存在を示すような遺物が出土していることなどから、近傍に郡家がある可能性は高いといえよう。さらに、隣郡である新田郡の郡家は本遺跡から約5km西の天良七堂遺跡であることが近

年の発掘調査で確定した。したがって、本地域は新田郡家からも近いということになる。このように両郡の中心地域か、あるいはその近傍であるということが、本地域の古代を考える上で重要な地理的条件となる。

さらにこの地域の古代を代表する遺跡としては、道路跡もあげられる。上野国東部では、伊勢崎市東部から太田市北西部にかけての地域で、東西に直線的にのびる古代道路が2本見つかっている(第191図)。このうち南側のものは「牛堀・矢ノ原ルート」と呼ばれているもので、側溝心一線で測って約13mの規模をもっている。北側のものはそれよりもやや狭く、側溝心一線で測って約12mあり、「下新田ルート」と呼ばれている。どちらも遺物がほとんど出土しないので、使用年代の確定は困難であるが、七世紀後半から八世紀代のもと考えられている。牛堀・矢ノ原ルートは、さらに西側は高崎市や玉村町で見つかっている古代道路につながるものと思われる、これが東山道駅路であると推定される。下新田ルートは東に延長すると新田郡家である天良七堂遺跡付近を通り、逆の西に延長すると佐位郡家である伊勢崎市三軒屋遺跡の南を通過することになる。このため、郡家同士をつなぐ道である伝路ではないかという説や、牛堀・矢ノ原ルートが廃された後の東山道駅路ではないかという説がある。このほか、新田郡家から武蔵国へ向かう東山道武蔵路といわれるルートが太田市域を通過するはずであるが、近年新野脇屋遺跡群(第5図の範囲外)でその一部と思われる道路跡が見つかり、この地域でのルートが判明しつつある。

牛堀・矢ノ原ルートと下新田ルートの2本の道路跡は、東へ延長すると本遺跡周辺のどこかを通過することになる。しかし、その間には金山丘陵と八王子丘陵があり、それをどこでどのように越えるかが問題となっていた。従来は、最も低くなる部分を通過し、足利市中心部へと向かうルート、すなわち、現在の県道足利・伊勢崎線に重なるルートが最も妥当と考えられていた。しかし、本遺跡では側溝心一線で約13mの幅をもつ道路跡が見つかり、その後八ヶ入遺跡、大道東遺跡、鹿島浦遺跡でも延長部が確認されて、約1kmの間直線的に伸びていることが判明した。想定されていたルートとは大きく異なる位置ではあるが、その規模から考えてこれが東山道駅路で、牛堀・矢ノ原ルートの東延長部である可能性

が高まっている。

道路の遺跡は生活跡ではないため出土遺物が少ないのが普通である。そのため、どこかの遺跡でも道路跡の使用期間の確定には非常な困難を伴うのが普通であるが、本遺跡と大道東遺跡では集落遺跡の中を通過するという特徴がある。そのため、東山道駅路の使用年代が確定できるのではないかと期待がもたれており、その面からも注目を集めることになった。

古墳時代から盛んになった須恵器・鉄の生産は、奈良時代になっても盛んに行われている。須恵器の生産は、高太郎Ⅰ・Ⅲ遺跡(38・39)やカニガ沢遺跡(40)、大長谷遺跡(42)などがある金山丘陵西側の地域で、七世紀末以降生産が盛んとなる。また、やはり七世紀末くらいから八王子丘陵東側に窯跡が増加し、先述した萩原窯跡(20)のほか、丸山北窯跡(16)、吉沢窯跡(17)、丸山腰巻遺跡(21)などで須恵器を生産している。

鉄生産は金山丘陵中に菅ノ沢Ⅰ遺跡(45)、高太郎Ⅰ・Ⅱ遺跡(38・36)などがあるが、北関東自動車道開通の調査では、西野原遺跡(第5図の範囲外)で大規模な製鉄遺跡が見つかり、先述した峯山遺跡などと併せてこの地域で鉄が大規模に生産されていたことが判明してきている。その背景として東北地方の蝦夷との戦争があり、ここで生産された鉄が武器・武具生産のために供給されていたことが指摘されている。この地域も古代史の大きな流れと無関係ではなかったのである。

また、以上の多くの遺跡の存在を支えた水田跡は、萩原遺跡(4)、古米条里制水田跡(5)で、浅間B軽石に埋もれたものが調査されている。

その他の遺跡としては、小丸山遺跡(22)がある。発掘調査は行われていないが、五重塔を模した瓦塔が見つかり、瓦塔としては全形を復元できる数少ない例のひとつであり、貴重な資料である。仏教関係の遺跡は数少ないが、先述したように八ヶ入遺跡では軒丸瓦などの瓦類や三彩陶器など、寺院の存在を示唆する遺物が出土しているし、周辺の遺跡からも数が少ないものの古代の瓦の散布が見られる。まだ位置は分からないものの、近傍に古代寺院があったことは確実と思われる。

## 中世

本地域の中世を代表するものとしては、新田荘と金山城とがよく知られている。



新田荘は新田義重によって12世紀中頃に成立した荘園で、古代新田郡を中心とした範囲を荘域としている。そのため、本遺跡は基本的にその範囲外となるが、この地域の歴史は新田荘を抜きにして考えることはできない。嘉応2（1170）年の「新田御荘目録」には金山のすぐ西側の郷名もみえており、本遺跡のすぐ近傍までが荘域であった。これに対し、本遺跡のある金山の北東側には、園田御厨があった。範囲については史料上に明記がないが、当地域は古代の「山田郡園田郷」であったと推定され、また、園田御厨の規模が200余丁と広いので、本遺跡も範囲内であった可能性がある。やはり12世紀中頃に立荘された御厨である。ただし、本遺跡ではこのころの遺構は確認できていない。

金山城は本遺跡の南西に聳える金山（標高235.8m）に築かれた山城である。中世の山城として遺存状態がいいことから昭和9年に国の史跡に指定されている。文明元（1469）年に岩松家純によって築城された。以後、享禄元（1528）には岩松氏の重臣横瀬氏へ、さらに天正12（1584）には後北条氏へと城主が変わっているが、その間東毛地区の中心的な城として重要な役割を果たし、難攻不落を誇っていたという。天正18（1590）年に後北条氏が滅亡した後は廃城となった。金山城の範囲は広大で、山頂部を中心にして、派生する尾根上に主要な曲輪を配している。山頂を中心とした部分を実城といい、西尾根上は西城、北に延びる観音山上は北城、南にある大八王子山から中八王子山にかけては八王子砦がある。発掘調査は平成4（1992）年度から行われ、その結果を受けて史跡整備が行われている。

本遺跡では14、15世紀頃をピークとしたと思われる掘立柱建物群が数多く見つかっており、中世の屋敷が複数あったことが分かっている。とすると、金山城よりも前の時代に中心があることになるが、16世紀の遺物も見つかっており、金山城と重複する時期にも建物が想定され、関連が注目される。

その他、周辺地域には中世の城館跡が多く見られるが、これらもちろん金山の存在に関連したものが多いであろう。萩原館跡（19）、丸山の砦跡（23）、只上の砦跡（26）、国済寺城跡（道原城跡・28）、矢田堀館跡（30）、矢部城跡（33）、狸ヶ入館跡（60）、今泉城跡（61）、東金井城跡（72）、丸屋敷の砦（74）、大島館跡（84）、富田館跡

（94）、下小林館跡（大倉城・102）、北田環濠遺構群（104）などあり、これらの多くの城館に囲まれた中に本遺跡がある。北関東自動車道関連の調査では、本遺跡以外にも中世の遺構が見つかっているが、それらは本遺跡を中心とした、金山丘陵北東部に多い傾向があるようである。

## 第3節 基本土層

基本土層は第6図に示す通りである。砂礫層までが厚いIV区南西部の土層をあげたが、本遺跡では場所によって土層が大きく異なるため、西端近くのI区北半部の土層もあげておく。いずれも表土を除去した後の、遺構確認面以下の土層を作図してある。

本遺跡では後世の削平が広く及んでいる。特に西半部のI区、II区では、50cm前後の表土を除去するとその下はすぐにロームとなっている、その面が遺構確認面となった。後述するように、この両地区の遺構の残りが悪いのは、この削平のためだと思われる。特に遺跡を縦断する推定東山道駅路の側溝は、この両地区では系統的に

しか残っていなかった。ロームの厚さは場所によって大きく異なり、浅いところでは遺構確認面に礫が出ていたところがあったのに対し、深いところでは1mほど掘り下げて礫層になるところもあった。III区、IV区では、旧地形が東へ向かって下がっていくこともあって、削平が深くまで及ばず、縄文土器を含む暗褐色土、あるいはローム漸移層上面が遺構確認面となる。このため、推定東山道駅路側溝もほとんど途切れることなく残っていた。しかし、やはり礫層までの厚さは場所によって大きく異なっていた。ローム層には緻密な一次堆積と思われる層もみられたが、砂粒を多く含む二次堆積と思われる層や砂層も多くみられることから、本遺跡は全体に水流の影響を大きく受け、安定した地形ではなかったらしい。



第6図 基本土層

## 第3章 調査の成果

### 第1節 成果の概要

本遺跡で調査した遺構は、竪穴住居17軒、土坑46基、墓1基、井戸1基、溝47条（後述の道路側溝も含む）、掘立柱建物77棟、ピット3,726基（掘立柱建物のピットを含む）、道路跡2条である。

竪穴住居は6世紀代から9世紀第1四半期のもので、そのうち8世紀代のもので8軒と、半分を占める。すべて調査区の東端付近、すなわち、Ⅲ-1区東半分と、Ⅲ-2区・Ⅳ区にあり、それより以西には全く見られない。本遺跡のすぐ東側には同時代の大集落が調査されている。大道東遺跡があるので、本遺跡の集落はその一部であると考えられる。

土坑は全域に散在するが、特に南西部の1-4区に多く見つかっている。遺物の出土が少ないので時期を特定できるものは多くないが、15号土坑が縄文時代、23号土坑が古代と推定できる以外は、大部分が中世以降のものであると思われる。そのうち、12号土坑からは馬の歯と骨が出土している。

墓は1基のみである。骨の残存度は不良であったが、銅銭が見つかっており、中世のものである。人骨と12号土坑出土の馬の歯については第4章第4節で報告する。

井戸は1-2区北半中央部付近で1基だけ見つかっている。出土遺物から明らかに中世のものであり、周囲で数多く見つかっている掘立柱建物に関連するものであろう。径3.5m程度の大きな井戸で、深さは5.3mあり、現在でも豊富な地下水が湧きだしていた。

溝は全域から47条見つかっている。その中には推定東山道駅路の側溝も含まれていて、それについては第7節で別に扱い、それ以外の溝は第6節で扱う。溝のなかには不整形であるため用途不明のものもあるが、中世の屋敷の区画溝と推定されるものもあり、注目される。

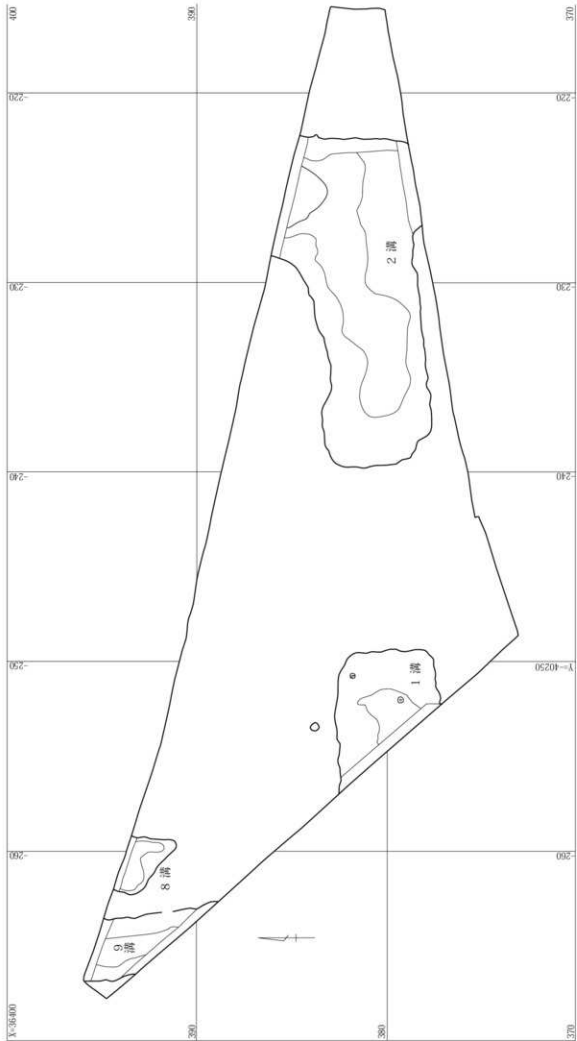
古代東山道駅路の側溝と推定されるのは、調査区のほぼ中央を東西に縦断する、2列の平行する溝である。特に西半部では削平のために断続的になり、またⅡ区では古代の土取りのために掘り広げられているが、本遺跡内

約220mを直線状に通過し、幅が約13mと広いため、古代東山道駅路の可能性が高いと判断した。従来の想定位置とはかなり異なる位置で確認されたため、当初は駅路と推定することに疑問もあったが、その後周囲の遺跡でも延長部が見つかり、約1kmの長さが確認されたことから、駅路である可能性がより高まっていると言えよう。

ピットはほぼ全域から非常に多く見つかっている。ただし、その数が多いに多かったため、建物としての組み合わせを把握するのは困難を極め、調査時に掘立柱建物と認識できたのはわずか1棟のみであった。その他の76棟の掘立柱建物は整理作業の時点で組んだものである。調査した範囲の中には、掘立柱建物が集中する場所が何方所か見られ、今回はA～Jの10の群を把握することができたので、第8節ではそれぞれについて報告する。

これらの遺構の調査終了後、全域で旧石器時代の調査を行ったが、同時代の遺構・遺物は発見できなかった。

以上の遺構からは大量の遺物が出土している。そのうち、古代と中世の遺物については、各遺構のところ取り上げているが、古墳時代の埴輪と弥生・縄文時代の遺物については、基本的に遺構と直接関係がなく、2次に移動して混入したものであるため、遺構とは切り離した形で第9、10節でまとめて報告している。埴輪は非常に数多く出土し、馬形埴輪をはじめ、完形近くまで復元できたものもある。東山道駅路の北側溝である26号溝を中心とした、Ⅱ・Ⅲ区北部の比較的狭い範囲から出土しているが、本遺跡の調査範囲内から古墳本体は見つかっておらず、すべて調査区外のどこから運ばれてきたものと考えられる。出土した埴輪はかなり大きいので、ある程度大きな規模の古墳に伴うものと思われる、その古墳がどこかが問題であるが、現状では確定できていない。遺跡のすぐ北側には7世紀後半の巖穴山古墳があるが、この古墳は7世紀代のものであり、埴輪を伴わない。また、北側の現在集落となっている一帯には、終末期の矢田堀古墳群があるが、埴輪を伴う大きな古墳はこれまで確認されていない。これらの埴輪が立てられていた古墳の確定は今後の課題である。



第7圖 大道西遺跡1-1区全体図



## 第2節 竪穴住居

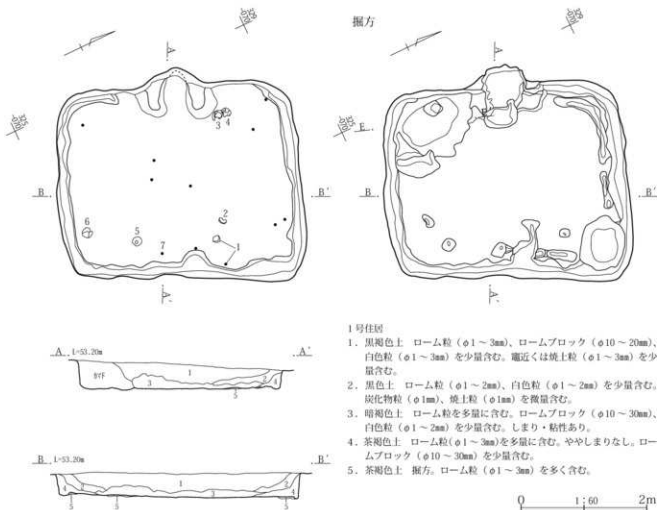
調査した住居は合計17軒である。これらは調査区の東端付近、すなわちⅢ区とⅣ区に集中しており、それより西には見られない。県道を挟んですぐ東には大道東遺跡があり、そこでは同時代の竪穴住居が多数調査されているので、本遺跡の竪穴住居はその集落の一部をなすものと考えられる。大道東遺跡では、本遺跡とほぼ同時期の竪穴住居がきわめて濃密に分布し、さらに東側にある築前遺跡と併せて大集落を形成している。本遺跡はこの大集落の西端部分にあたることになるわけだが、集落の限界を示す施設などは特に見つかっていない。また、これらの竪穴住居がある部分を、推定東山道駅路が東西に横切っている。本遺跡の範囲では、6軒の住居が路面・側溝と重複する位置にあるが、後述するように新旧関係を明確に把握することはできなかった。

## 1号住居 (第8～10図、第42表、P.L. 5・6・56)

Ⅲ-1区東端付近で見つかり、平成14年度に調査されたものである。本住居と次の2号住居とが、この集落の西端になる。

**位置** X=36324～330, Y=-40066～071。 **重複遺構** なし。 **形態** 長方形。 **方位** N-69°-W。

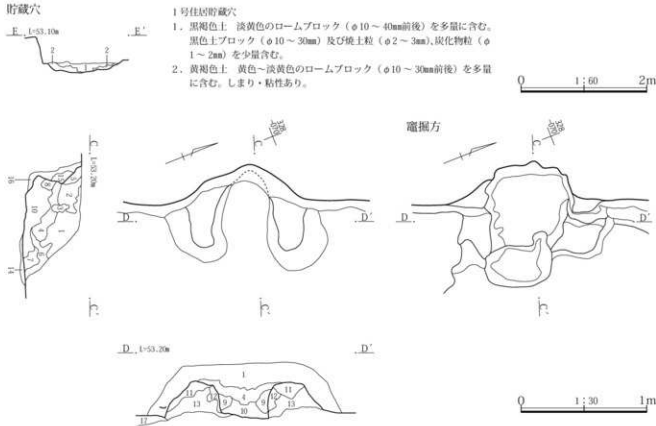
**規模** 3.85m×3.14m。 **床面積** 10.76㎡。 **壁高** 0.45m。 **床面** 掘方は一部を除いてほとんどなく、地山を直接床面としている。 **柱穴** なし。 **貯蔵穴** 床面では見つからなかったが、掘方の調査で南西隅から見つかった浅い土坑が貯蔵穴だと思われる。1.27×1.10mで深さは0.19mである。 **周溝** カマド周辺を除いて全周する。幅10～25cm、深さ1～3cmである。 **竈** 西壁中央付近にある。幅1.26m、長さ0.8mで煙道がごく短く、壁から出るのはごくわずかである。竈内部はよく焼けており、袖の内側と奥壁は焼土化している。 **遺物** 竈右脇から土師器環3・4が、その反対側の壁際から



第8図 1号住居平・断面図

### 第3章 調査の成果

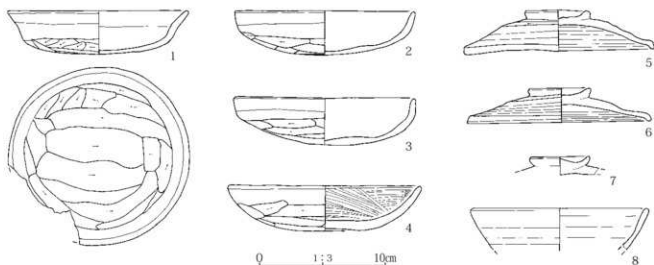
は土師器環1・2、須臾器蓋5・6が出土した。いずれも床面直上か、床面近い高さから出土している。他に土師器環類120g、同裳類480g、須臾器環類3点、同裳類190g、薦編み石と考えられる細長い自然石が7点出土している。薦編み石の大きさは平均して長さ9.9cm、幅4.5cmで、石材はチャート6点、ホルンフェルス1点である。 **所見** 出土遺物から8世紀第2～3四半期と考えられる。この住居は次の2号住居とともに平成14年度貯蔵穴



#### 1号住居跡

- 黒褐色土 ローム粒（ $\phi 1 \sim 3$ mm）、焼土粒（ $\phi 1 \sim 3$ mm）、焼土ブロック（ $\phi 5 \sim 8$ mm）を少量含む。白色粒（ $\phi 1 \sim 2$ mm）、炭化物粒（ $\phi 1$ mm）を微量含む。住居の埋土。
- 茶褐色土 ローム粒（ $\phi 1 \sim 2$ mm）を多量に含む。焼土粒（ $\phi 1 \sim 3$ mm）、焼土ブロック（ $\phi 7 \sim 10$ mm）を少量含む。白色粒を微量含む。
- 褐色土 ローム質土がブロック状に入る。粘性・しまりあり。天井あるいは袖の粘土が崩落したものか。
- 赤褐色土 焼土粒（ $\phi 1 \sim 3$ mm）、ロームブロック（ $\phi 8 \sim 10$ mm）を少量含む。ローム粒を多量に含む。
- 赤褐色粘質土 竈構築材の黄褐色粘土に、焼土粒（ $\phi 2 \sim 3$ mm）を多量に含む。炭化物粒（ $\phi 1 \sim 2$ mm）も少量含む。
- 黒褐色土 ローム粒（ $\phi 1 \sim 2$ mm）を少量含む。焼土粒（ $\phi 1 \sim 2$ mm）、白色粒を微量含む。1層より黒色を呈する。
- 暗褐色土 ローム粒（ $\phi 1 \sim 2$ mm）を多量に含む。焼土粒を少量含む。
- 赤褐色土 焼土粒（ $\phi 2 \sim 3$ mm）、焼土ブロック（ $\phi 8 \sim 13$ mm）を多量に含む。ややしまりなし。
- 赤褐色土 焼土粒（ $\phi 1 \sim 3$ mm）、焼土ブロック（ $\phi 7 \sim 15$ mm）、粘土質のローム粒を多量に含む。ロームブロック（ $\phi 10$ mm）、炭化物（ $\phi 7$ mm）を微量含む。粘性・しまりあり。
- 赤褐色土 焼土粒（ $\phi 1 \sim 3$ mm）、焼土ブロック（ $\phi 5 \sim 10$ mm）、粘土質のローム粒を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 赤褐色粘質土 竈袖上部に当たる黄褐色粘土ブロック（ $\phi 10 \sim 25$ mm）と焼土ブロック（ $\phi 5 \sim 10$ mm）を多量に含む。暗褐色土を混入する。しまりあり。
- 赤褐色粘質土 竈袖内側に当たり、被熱のため真赤に焼けたロームブロック（ $\phi 10 \sim 25$ mm）を多量に含む。焼土ブロックは硬く焼けている。
- 黄褐色粘土 黄褐色粘質土を多量に含む。焼土ブロック（ $\phi 5 \sim 10$ mm）及び地山の黄色砂質ロームを少量含む。竈袖の芯部、硬くしまり、粘性あり。
- 赤褐色土 焼土粒（ $\phi 1 \sim 3$ mm）を多量に含む。炭化物を少量含む。燃焼痕跡（焚き口）。
- 赤褐色土 ローム質ブロック（ $\phi 10 \sim 20$ mm）を少量含む。焼土粒（ $\phi 1 \sim 3$ mm）を多量に含む。
- 赤褐色土 焼土粒（ $\phi 1 \sim 3$ mm）、焼土ブロック（ $\phi 7 \sim 10$ mm）を多量に含む。
- 黒褐色土 淡黄色のロームブロック（ $\phi 10 \sim 40$ mm前後）を多量に含む。貯蔵穴の埋土。

第9図 1号住居貯蔵穴、竈平・断面図



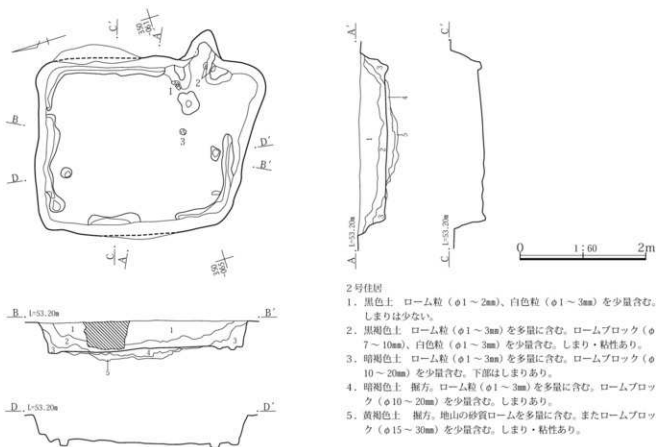
第10図 1号住居出土遺物

## 2号住居 (第11～13図、第42表、P.L. 6・7・56)

1号住居と共に平成14年度にⅢ-1区東端付近で調査したものであり、集落の西端である。

**位置** X=36348～353, Y=-40061～065, **重複遺構** なし。 **形態** 長方形。南東隅がやや膨らむ形である。 **方位** N-110°-E。 **規模** 3.35m×2.80m。

**床面積** 7.55㎡。 **壁高** 0.45m。 **床面** 中央部分を円形に掘り下げ、ロームを多く含んだ暗褐色土か黄褐色土で埋め戻して床面としている。使用面はほぼ平坦である。 **柱穴** なし。北壁と南壁の壁際にある小ピットは、深さがいずれも10cm程度と浅く、柱穴ではないと思われる。 **貯蔵穴** なし。 **周溝** 南隅付近を除いては



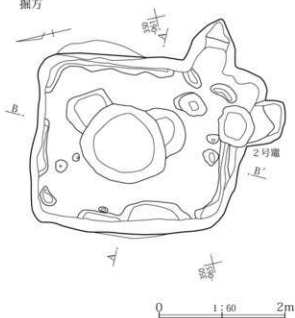
第11図 2号住居平・断面図

## 2号住居

1. 黒色土 ローム粒 (φ1～2mm)、白色粒 (φ1～3mm) を少量含む。しまりは少ない。
2. 黒褐色土 ローム粒 (φ1～3mm) を多量に含む。ロームブロック (φ7～10mm)、白色粒 (φ1～3mm) を少量含む。しまり・粘性あり。
3. 暗褐色土 ローム粒 (φ1～3mm) を多量に含む。ロームブロック (φ10～20mm) を少量含む。下部はしまりあり。
4. 暗褐色土 掘方。ローム粒 (φ1～3mm) を多量に含む。ロームブロック (φ10～20mm) を少量含む。しまりあり。
5. 黄褐色土 掘方。地山の砂質ロームを多量に含む。またロームブロック (φ15～30mm) を少量含む。しまり・粘性あり。

### 第3章 調査の成果

#### 掘方

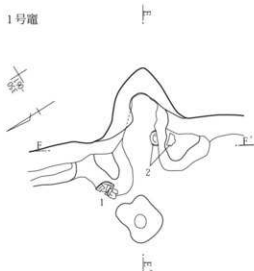


#### 2号住居1号堀

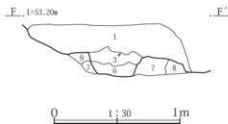
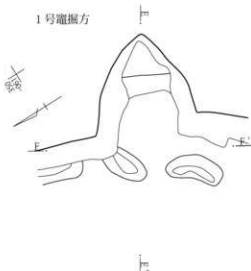
1. 黒褐色土 黒色土にローム粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ )、焼土粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ )、白色粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を少量含む。住居の埋土。
2. 茶褐色土 焼土粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ )、ローム粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を少量含む。炭化物粒 ( $\phi 1\text{mm}$ ) を微量含む。しまりは少ない。
3. 黄褐色土 黄褐色ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を多量に含む。焼土粒 ( $\phi 1 \sim 4\text{mm}$ )、炭化物粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ )、黄色ロームブロック ( $\phi 10\text{mm}$ ) を少量含む。しまりあり。
4. 赤褐色土 焼土粒 ( $\phi 2 \sim 3\text{mm}$ ) を多量に含む。ローム粒 ( $\phi 2\text{mm}$ ) を少量含む。しまりは少ない。部分的に焼土ブロック ( $\phi 20 \sim 30\text{mm}$ ) を多量に含む。
5. 赤褐色土 焼土粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を多量に含む。ローム粒 ( $\phi 2\text{mm}$ )、炭化物粒 ( $\phi 1\text{mm}$ ) を少量含む。ややしまりあり。3層より暗い色調を呈する。奥では、焼土粒は少なくなりローム粒が多量に含まれる。
6. 赤褐色土 焼土粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を多量に含む。焼土ブロック ( $\phi 10\text{mm}$ )、炭化物粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を少量含む。しまりあり。
7. 黄褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を多量に含む。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ) を少量含む。南側では焼土粒 ( $\phi 2 \sim 3\text{mm}$ ) をやや多く含む。
8. 黄褐色粘土 固くしまりのあるローム質粘土。竈袖の構築材と思われる。粘性あり。
9. 黄褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を多量に含む。焼土粒 ( $\phi 1\text{mm}$ )、炭化物粒 ( $\phi 1\text{mm}$ ) を微量含む。袖の外側部分か。
10. 黄褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を多量に含む。竈掘方覆土。



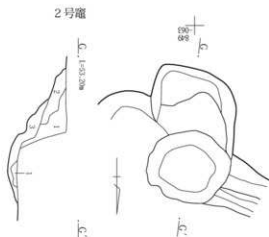
#### 1号竈



#### 1号竈掘方



#### 2号竈

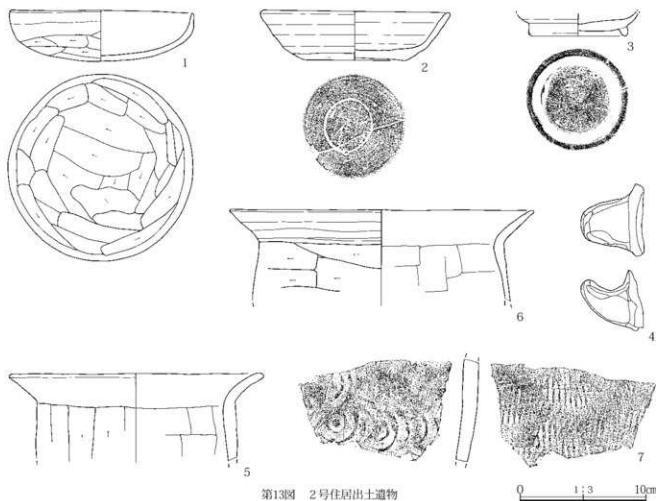


#### 2号住居2号堀

1. 暗褐色土  $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ の黄褐色粒子、褐色粒子をやや多く含む。
2. 暗黄褐色土  $\phi 1\text{mm}$ 以下の砂礫、黒褐色粒子を少量含む。ローム粒子を多く含む。
3. 暗褐色土  $\phi 1\text{mm}$ 以下の黄褐色ローム粒子を多く含む。 $\phi 5 \sim 20\text{mm}$ のロームブロックを多く含む。

第12図 2号住居掘方、1・2号竈平・断面図





第13図 2号住居出土遺物

ば全周する。幅10～20cm、深さは1～5cmである。

**竈** 東辺の南隅近くにある。主にローム質の黄褐色粘土で構築する。幅1.10m、長さ0.91m。煙道は壁から0.45m出る。内部の覆土に焼土を多く含むので、よく使用されていたようである。また、南東隅の壁が歪んでいる部分には、長さ1.05m、幅0.70mの土坑状の遺構が重複している。その位置から、古い時代の竈の痕跡である可能性があるので、2号竈として調査した。しかし、埋土に焼土が見られないため、土坑が重複したものである可能性も考えられる。この遺構からは遺物が出土していないため、時期は不明である。 **遺物** 遺物の出土は全体に少ない。土師器環1は竈左袖、須恵器環2は竈内から出土している。須恵器3は竈前の床面近い高さから出土した。その他、土師器環類80g、同裏類800g、須恵器環類80g、同裏類300g、円筒埴輪1点が出土している。

**所見** 1号住居と同様、出土遺物から8世紀第2～3四半期と考えられる。推定東山道駅路との関連については、1号住居同様、第4章(226ページ)参照。

### 3号住居(第14図、第42表、P.L.7)

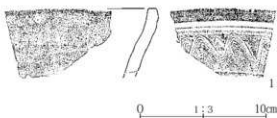
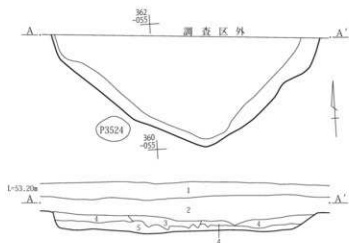
Ⅲ-2区北壁際にあり、北側の半分以上が調査区外となっているものである。

**位置** X=36360～362、Y=-40052～057。 **重複遺構** なし。 **形態** 不明。 **方位** 北東辺に竈があると想定して計測するとN-40°-E。 **規模** (3.10m × 2.18)m。 **床面積** (3.81)m<sup>2</sup>。 **壁高** 0.27m。

**床面** 地山を床面としている。平坦。 **柱穴** 調査区内では見つからない。 **貯蔵穴** 調査区内では見つからない。 **周溝** 調査区内では見つからない。

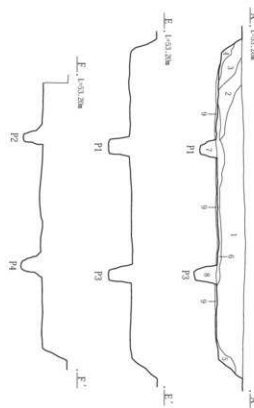
**竈** 調査区内では見つからない。 **遺物** 遺物の出土は全体に少なく、土師器・須恵器の小破片が散在して出土したのみである。そのうち須恵器裏の口縁部破片のみを報告する。縄文時代の打製石斧も出土しているが、これについては第10節で報告する。その他、土師器環類50g、須恵器環類90g、土師器裏類240g、須恵器裏類720g、円筒埴輪1点が出土している。 **所見** 出土遺

第3章 調査の成果



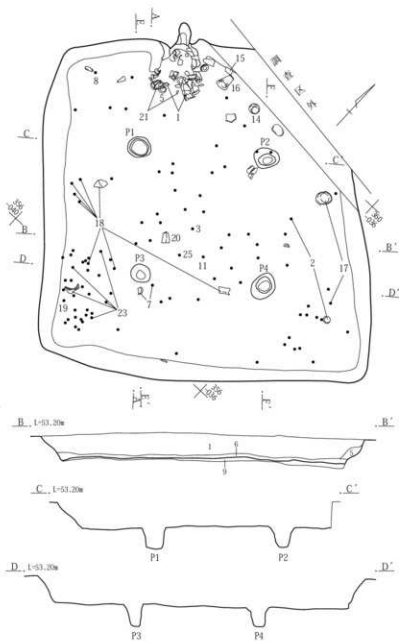
3号住居

1. 暗褐色土 白色粒子、炭化物粒を含む。鉄分沈着。現代の水田の床上。
2. 黒褐色土 ローム粒を含む。
3. 黒褐色土 ロームブロックを含む。2層以前の根壇乱、あるいは根倒木か、かなり乱れている。
4. 褐色土 ローム粒、炭化物粒、焼土粒を含む。
5. 褐色土 ロームブロックを含む。



4号住居

1. 黒褐色土 ローム粒、焼土粒、小礫 (φ 1mm) を含む。遺物の大半はこの層から出土。
2. 黒褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒を含む (全体の5%)。焼土粒が目立つ。
3. 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒を含む (全体の5%)。ベースとなる土の色調以外は2に同じ。
4. 黄褐色粘質土 焼土粒、炭化物粒を含む。竈袖。
5. 暗褐色土 ローム粒 (1/3程度)、炭化物粒を含む。
6. 暗褐色土 ロームブロック、炭化物粒を含む。
7. 暗褐色土 ビット1。ローム粒、小礫、焼土粒を含む。ボソボソしている。
8. 黒褐色土 ビット3。ローム粒、焼土粒を含む。
9. 黄褐色粘質土 黒色土を含む。非常に固く締まる。板方覆土。



第14図 3号住居平・断面図・出土遺物、4号住居平・断面図

物が少ないため時期の特定が難しいが、古墳時代後期、6～7世紀前半と考えられる。

**4号住居** (第14～20図、第42・43表、P.L. 7・8・56・57)

Ⅲ-2区北東隅付近で見つかったものである。北隅の一部が調査区外となる。

**位置** X=36354～361, Y=-40034～042。 **重複遺構** なし。 **形態** 北隅が調査区外となるが、ほぼ正方形と思われる。 **方位** N-39°-W。 **規模** 5.36m×5.02m。 **床面積** (19.96) m<sup>2</sup>。 **壁高** 0.43m。

**床面** 掘方は全体に浅く、1～5cmの厚さで黄褐色土を埋め戻し床面としている。非常に固く締まり、はっきりとした床面となっている。 **柱穴** 4本見られる。その間隔はほぼ2.0mで整った配置である。それぞれの柱穴の規模は以下の通り (長径×短径×深さ・m)。

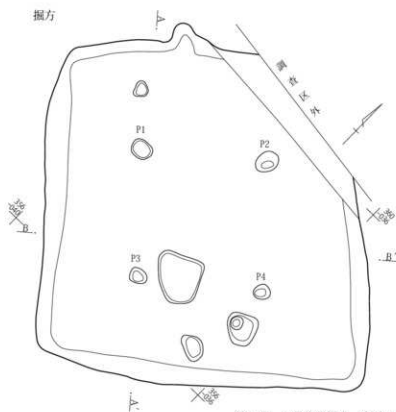
P 1 0.36×0.33×0.32

P 2 0.41×0.37×0.30

P 3 0.33×0.28×0.35

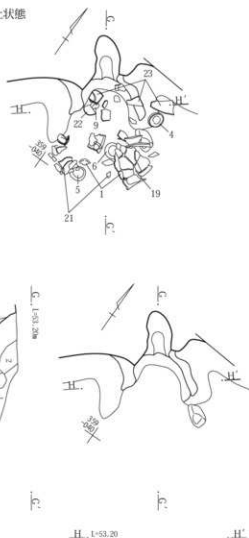
P 4 0.44×0.34×0.30

**貯蔵穴** 調査区内では見つからない。 **周溝** なし。



第15図 4号住居掘方、竪平・断面図

**竪遺物出土状態**



**4号住居竪**

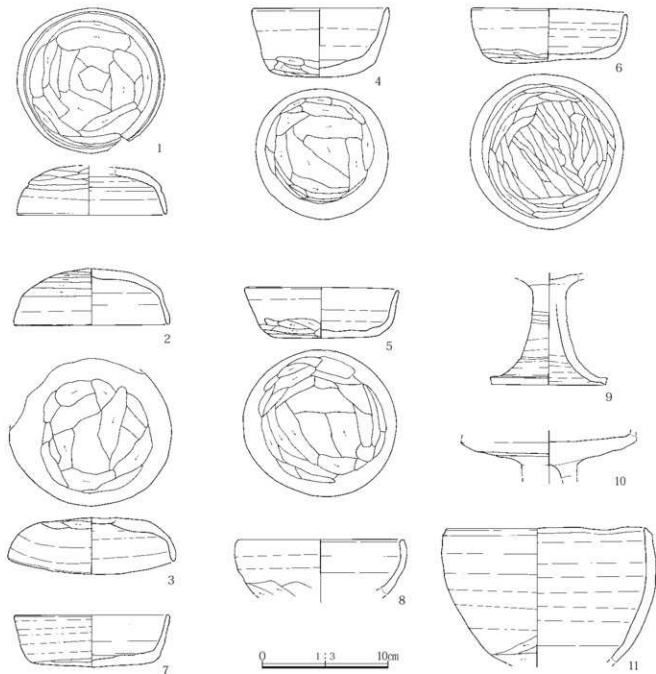
1. 暗褐色土 黒色土ブロック、焼土粒を含む。ややボソボソしている。
2. 褐色粘質土と焼土の混土 (6:4程度) ボソボソするが粘性あり。
3. 褐色粘質土 焼土粒、炭化物粒を含む。粘性あり。崩落した天井の上。
4. 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒を含む。ややボソボソしている。
5. 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒、ローム粒を含む。ややボソボソ。
6. 暗褐色土 ローム粒、焼土粒を含む。粘性あり。掘方覆土。
7. 褐色粘質土 暗褐色土粒 (1/4程度)、焼土粒を含む。粘性あり。竪袖。

竪 0 1:30 1m

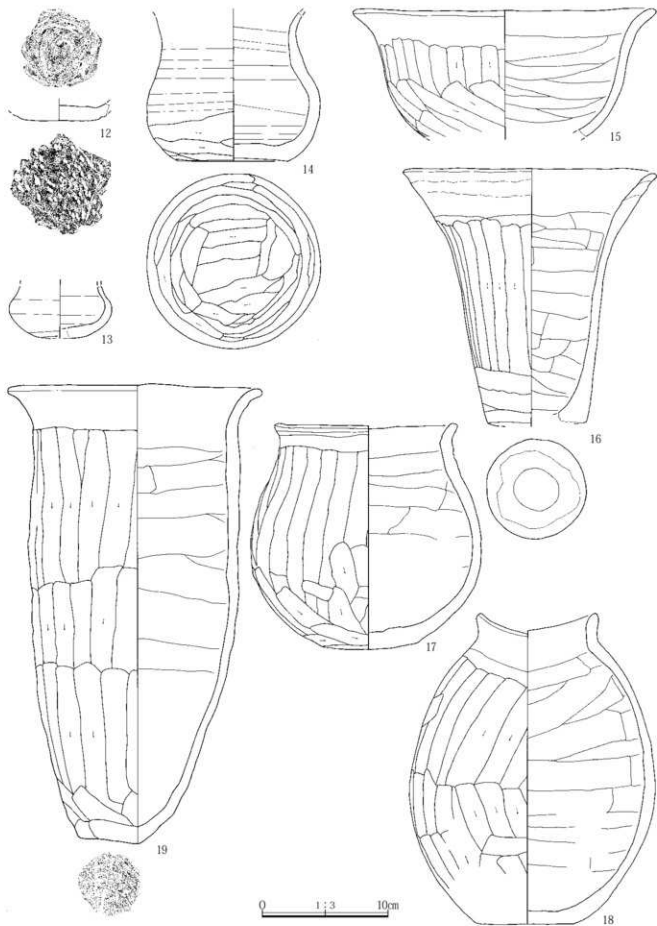
住居 0 1:60 2m

竈 北西辺の中央やや西寄りにある。褐色粘質土で構築する。幅0.87m、長さ0.79m。煙道はやや細長く、壁外へのびる。右袖には袖石が残っている。内部の覆土には焼土粒、炭化物粒を含む。竈の周辺からは多くの土器が出土した。遺物 出土遺物が多い。特に竈周辺からは多くの土器が見つれた状態で出土し、須恵器坏蓋1、同坏4～6、同高坏脚部9、土師器甕19・21～23など、完形あるいは大きく復元できるものが多い。16の鉢は竈右側の床面近くから出土し、ほぼ完形で底部に穿孔がある。14の須恵器壺も竈右側の床面近くから出土している。

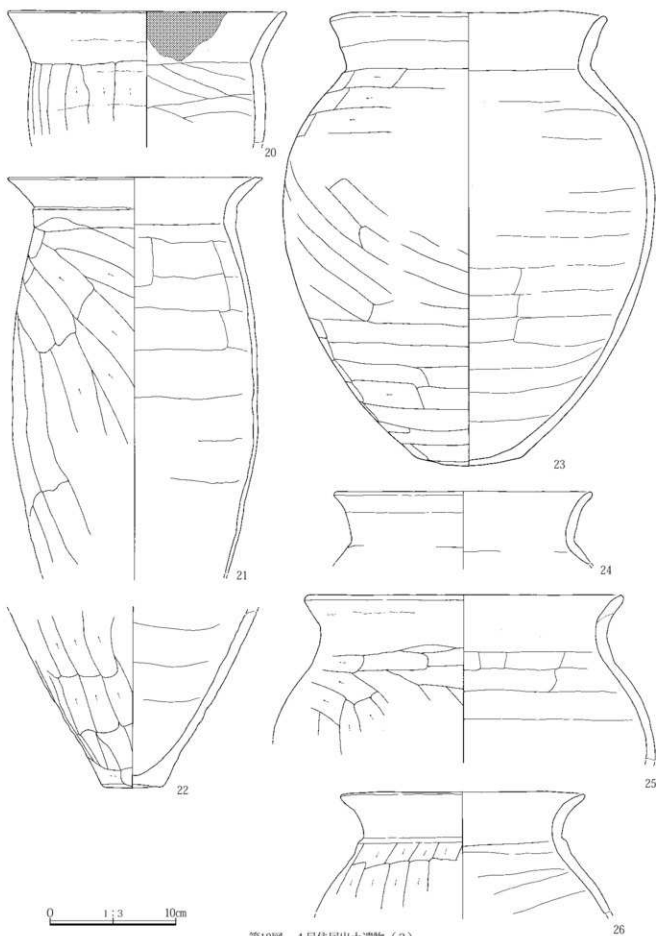
竈から離れた部分にも多くの破片が出土したが、これらはいずれも覆土中・上層に含まれるものが多い。その他、土師器坏類170g、同甕類4510g、須恵器坏類630g、同甕類2420g、磨編み石と考えられる細長い自然石が15点出土している。磨編み石の大きさは平均して13.0cm、幅6.2cmで、その石材は溶結凝灰岩6点、チャート・粗粒輝石安山岩・砂岩各2点、石英斑岩・変玄武岩・ホルンフェルス各1点である。所見 1～3のように6世紀代と考えられるものもあるが、その他の土器の特徴から7世紀後半と考えられる。



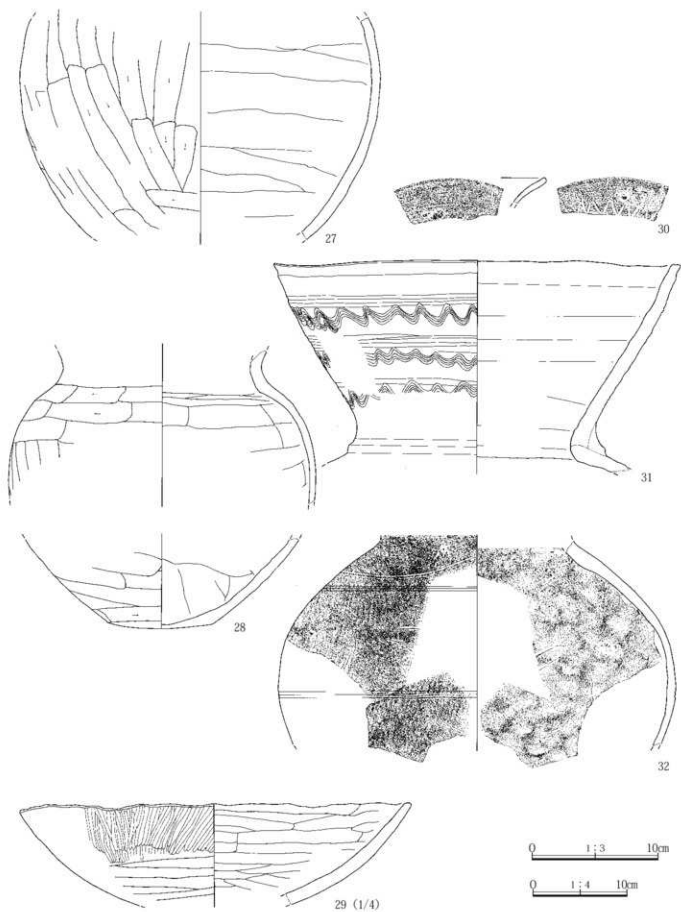
第16図 4号住居出土遺物(1)



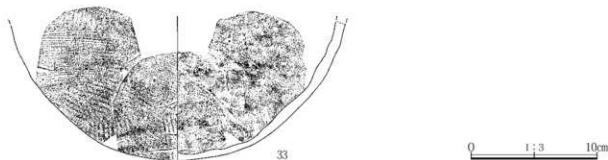
第17圖 4号住居出土遺物(2)



第18図 4号住居出土遺物(3)



第19圖 4号住居出土遺物(4)



第20図 4号住居出土遺物(5)

**5号住居** (第21～24図、第43・44表、P.L. 9・58)

IV区の南端近くで見つかったものである。7号住居と重複している。当初は3軒が重複しているものと想定して調査を進めたが、その後2軒であることが判明した。そのため6号住居が欠番となっている。

**位置** X=36314～321, Y=-40033～040。 **重複遺**

**構** 7号住居よりも新しく、22号土坑よりも古い。 **形態** 南北にやや長い長方形。 **方位** N-17°-W。

**規模** 5.20m×4.34m。 **床面積** 15.44㎡。 **壁高**

0.60m。傾斜がやや緩い。 **床面** 平坦で固く締まっている。

掘方は主として東半分であり、断面図の西側半分

は7号住居の掘方である。 **柱穴** 3本見つかった。南西

隅は22号土坑によって破壊されたものと思われるので、

本来は4本であったと思われるが、配置にはやや歪みがある。

P1とP3の間隔は2.60m、P2とP3の間隔は

2.50mである。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径

×深さ・m)であるが、深さにばらつきがある。P2の

断面には柱痕跡が確認できた。

P1 0.40×0.38×0.28

P2 0.53×0.43×0.48

P3 0.43×0.41×0.18

**貯蔵穴** 北東隅にある。楕円形で大きさは0.83×0.62m、

深さは0.17mである。 **周溝** なし。 **竈** 北壁、東壁

に1カ所ずつ、2カ所に見られる。東を1号竈、北を2

号竈として調査した。1号竈は袖が見られず、壊された

と思われるのに対し、2号竈は袖が残っていたので、1

号竈から2号竈に移動したものと思われる。1号竈は煙

道部分が残り、幅0.91m、長さ1.34mである。2号竈は

両袖が残り、幅1.15m、長さ1.50mである。いずれの竈

も燃焼部の奥から煙道部分が壁の外に作られている。2

号竈の燃焼部からは5の環と19の甕が出土している。

**遺物** 出土遺物が多いが、住居全体に散在している。5

の土師器環と19の甕は2号竈の燃焼部内のやや浮いた高

さから出土している。その他、土師器環類1400g、同

類5910g、須恵器類1090g、同類1710g、筒編み石と

考えられる細長い自然石が8点出土している。筒編み

石の大きさは平均して長さ10.2cm、幅4.9cmで、石材は

チャート5点、頁岩・砂質頁岩・砂岩各1点である。こ

の住居と次の7号との境付近から縄文時代の凹み石1点

も出土しているが、これについては第10節で報告する。

**所見** 出土遺物から8世紀第3四半期と考えられる。

**7号住居** (第21・24図、第44表、P.L. 9)

IV区南端近くにある。5号住居に大きく壊されている。

**位置** X=363314～320, Y=-40037～042。 **重複**

**遺構** 5号住居、22号土坑のいずれよりも古い。 **形態**

東側を5号住居に破壊されるので不明。正方形ないし

長方形であると思われる。 **方位** 東側に竈があると

想定してN-66°-E。 **規模** 4.34m×(2.02)m。

**床面積** (7.59)㎡。 **壁高** 0.70m。 **床面** ほぼ平

坦で固く締まっている。掘方は東西両側を10～20cm掘

り下げ、中央部分を掘り残している。それを主として黄

褐色ローム土で埋め戻して床面とする。 **柱穴** 見つ

からなかった。 **貯蔵穴** 見つからなかったが、竈ととも

に5号住居に破壊された可能性が高い。 **周溝** なし。

**竈** 見つからなかった。5号住居に破壊されたものと

考えられる。 **遺物** 出土遺物は少ないが、円面硯が

出土しているのが注目される。この円面硯は16号住居、37

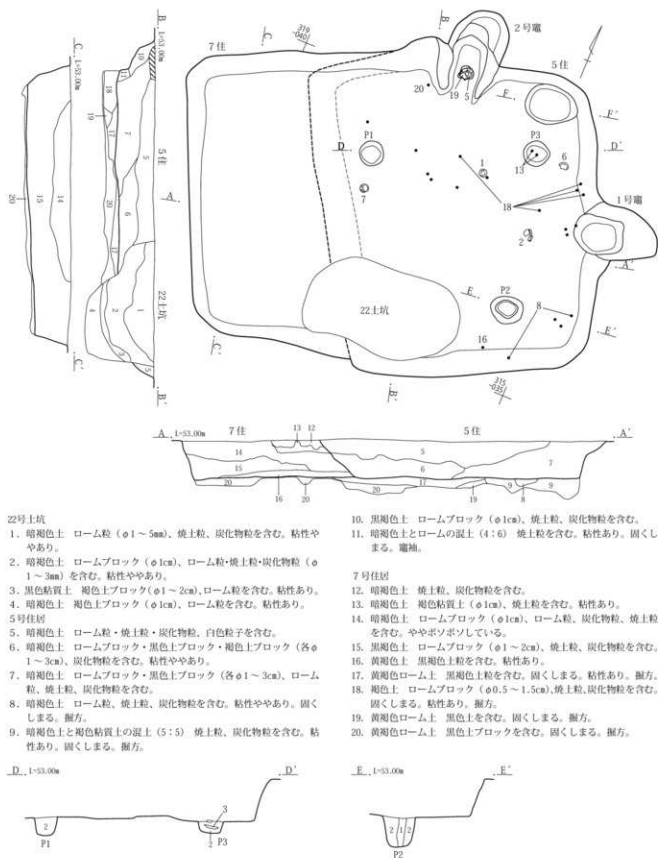
号溝出土品と接合して、ほぼ全形が判明したものである。

その他、土師器環類400g、同類1610g、須恵器環類

190g、同類240gが出土している。縄文時代の石鏃も

出土しているが、これについては第10節で報告する。





## 22号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ )、焼土粒、炭化物粒を含む。粘性ややあり。
2. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 1\text{cm}$ )、ローム粒・焼土粒・炭化物粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を含む。粘性ややあり。
3. 黒色粘質土 褐色土ブロック ( $\phi 1 \sim 2\text{cm}$ )、ローム粒を含む。粘性あり。
4. 暗褐色土 褐色土ブロック ( $\phi 1\text{cm}$ )、ローム粒を含む。粘性あり。
- 5号住居
5. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒、白色粒子を含む。
6. 暗褐色土 ロームブロック・黒色土ブロック・褐色土ブロック (各  $\phi 1 \sim 3\text{cm}$ )、炭化物粒を含む。粘性ややあり。
7. 暗褐色土 ロームブロック・黒色土ブロック (各  $\phi 1 \sim 3\text{cm}$ )、ローム粒、焼土粒、炭化物粒を含む。
8. 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒を含む。粘性ややあり。固くしまる。掘方。
9. 暗褐色土と褐色粘質土の混土 (5:5) 焼土粒、炭化物粒を含む。粘性あり。固くしまる。掘方。

10. 黒褐色土 ロームブロック ( $\phi 1\text{cm}$ )、焼土粒、炭化物粒を含む。
11. 暗褐色土とロームの混土 (4:6) 焼土粒を含む。粘性あり。固くしまる。竈袖。

## 7号住居

12. 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒を含む。
13. 暗褐色土 褐色粘質土 ( $\phi 1\text{cm}$ )、焼土粒を含む。粘性あり。
14. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 1\text{cm}$ )、ローム粒、炭化物粒、焼土粒を含む。ややボロボロしている。
15. 黒褐色土 ロームブロック ( $\phi 1 \sim 2\text{cm}$ )、焼土粒、炭化物粒を含む。
16. 黄褐色土 黒褐色土粒を含む。粘性あり。
17. 黄褐色ローム土 黒褐色土粒を含む。固くしまる。粘性あり。掘方。
18. 褐色土 ロームブロック ( $\phi 0.5 \sim 1.5\text{cm}$ )、焼土粒、炭化物粒を含む。固くしまる。粘性あり。掘方。
19. 黄褐色ローム土 黒色土を含む。固くしまる。掘方。
20. 黄褐色ローム土 黒色土ブロックを含む。固くしまる。掘方。

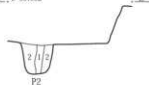
D, 1-53.00m



## 5号住居ピット

1. 黒色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ )、焼土粒を含む。しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ )、炭化物粒、焼土粒を含む。固くしまる。粘性あり。
3. ロームブロック。

E, 1-53.00m



第21図 5・7号住居平・断面図

0 1:60 2m

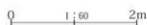
### 第3章 調査の成果

#### 貯蔵穴

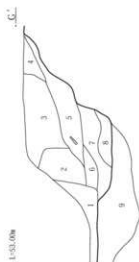
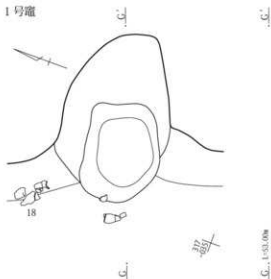


#### 5号住居貯蔵穴

1. 黒褐色土 ロームブロック (φ1cm), 焼土粒を含む。しまりよい。
2. 黒褐色土 ロームブロック (φ1~3cm), 焼土粒を含む。しまりよい。粘性ややあり。



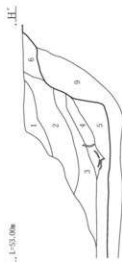
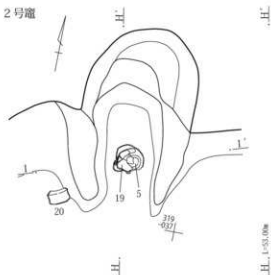
#### 1号壙



#### 5号住居1号壙

1. 暗褐色土 ロームブロック (φ1~2cm), 黒色土ブロック (φ1cm), 焼土粒, 炭化物粒, ローム粒を含む。
2. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5~1cm), ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
3. 黒褐色土 ロームブロック (φ0.5~3cm), 焼土粒 (φ1~3mm), 炭化物粒, ローム粒を含む。
4. 黒褐色土 焼土粒 (φ1~5mm)を含む。全体に赤い。
5. 暗褐色土 ローム粒, 焼土粒を含む。
6. 褐色粘質土 ロームブロック (φ1cm), 焼土粒を含む。しまりやや弱くボソボソしている。粘性あり。
7. 褐色粘質土 焼土ブロック (φ0.5~1.5cm)を含む。しまりやや弱くボソボソしている。粘性ややあり。全体にやや赤い。
8. 暗褐色土 ローム粒, 炭化物粒を含む。
9. 暗褐色土 褐色粘質土ブロック (φ1cm), 黒色土ブロック (φ1cm), 焼土粒 (φ1~3mm), 炭化物粒, 白色粒子を含む。壙掘方。

#### 2号壙

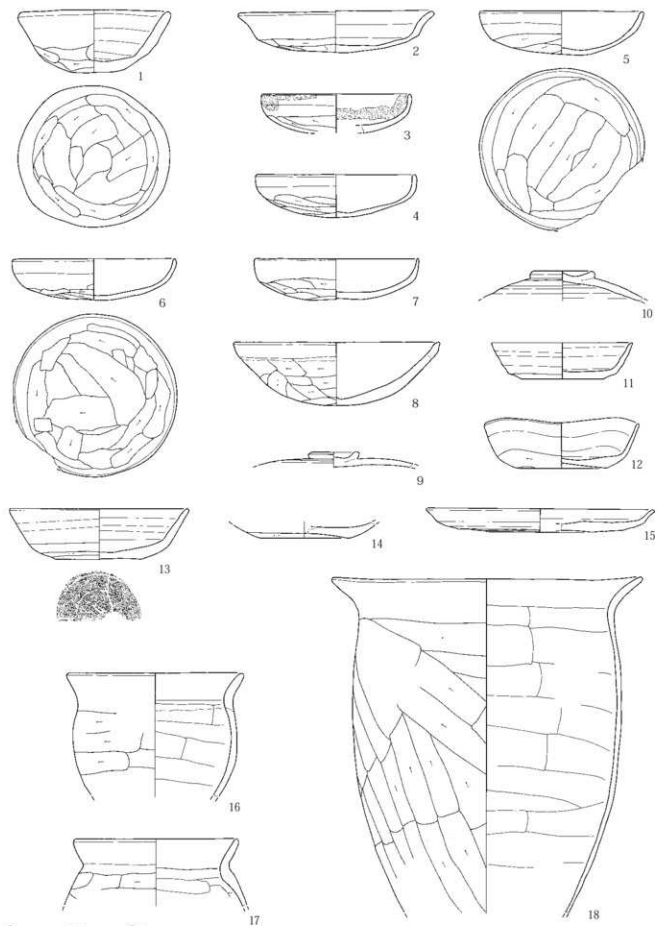


#### 5号住居2号壙

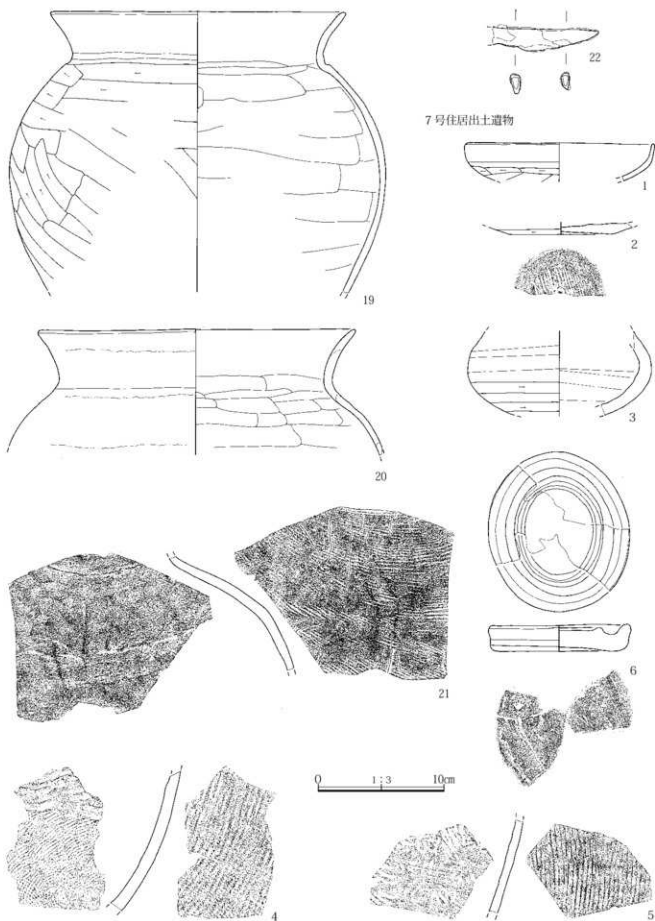
1. 暗褐色土 焼土粒 (φ1~5mm), 炭化物粒, ローム粒, 白色粒子を含む。しまりよい。
2. 褐色粘質土 ロームブロック (φ0.5~1.5cm), 焼土粒 (φ1~5mm), 炭化物粒, ローム粒を含む。しまり弱くボソボソ。粘性あり。
3. 褐色粘質土 ローム粒, 焼土粒, 炭化物粒を含む。しまりやや弱くボソボソしている。粘性ややあり。
4. 褐色粘質土 焼土粒 (φ2mm~5mm)を含む。粘性あり。
5. 暗褐色土 ロームブロック (φ1~1.5cm)を含む。しまりよい。
6. 暗粘質土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む。しまりよい。
7. 褐色粘質土 焼土粒 (φ1~3mm)を含む。しまりよい。粘性あり。壙の袖。
8. 黒褐色土 ロームブロック (φ1~2cm), 焼土粒を含む。しまりよい。粘性ややあり。壙の袖。
9. 黒褐色土 ロームブロック (φ1cm), 焼土ブロック (φ1cm)を含む。固くしまる。壙掘方。



第22図 5号住居貯蔵穴、壙平・断面図



第23圖 5号住居出土遺物(1)



第24図 5号住居出土遺物(2)、7号住居出土遺物

所見 出土遺物から8世紀第2四半期と考えられる。

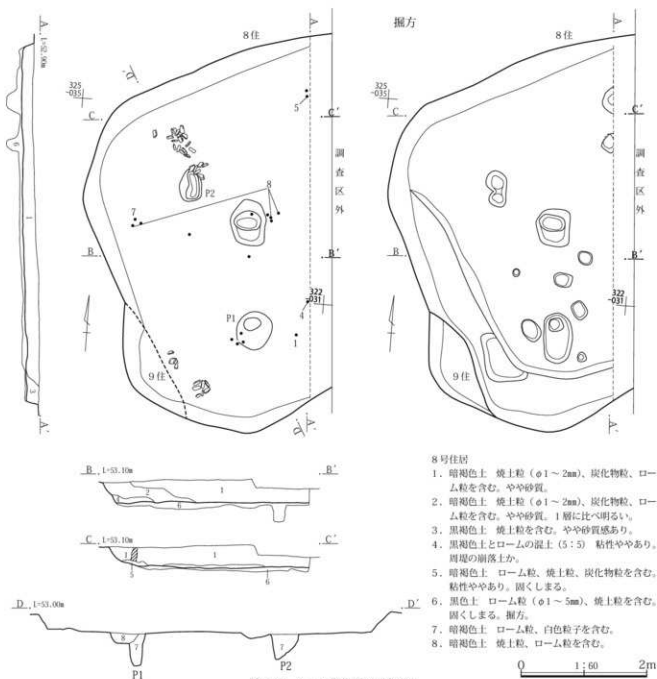
### 8号住居 (第25・26図、第44・45表、P.L.10)

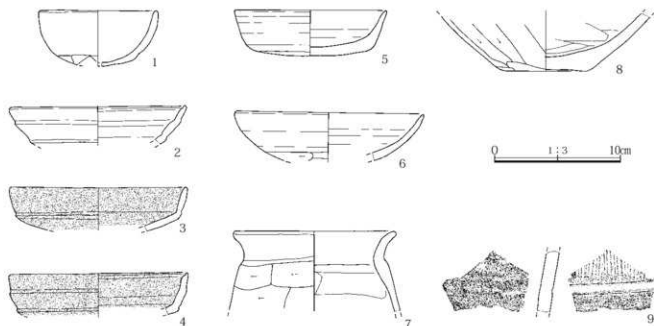
IV区西端南寄りにあり、東半分が調査区外となる。推定東山道駅路南側溝の延長線に接するような位置にある。

位置 X=36319~327, Y=-40031~035。重複遺構 9号住居より新しい。形態 東半分が調査区外となるので不明だが、正方形ないしは長方形になるものと

思われる。南西隅がやや不整形なのは、ここに9号住居が重複しているためである。方位 東辺に竈があると想定してN-63°-E。規模 5.60m×(3.95)m。

床面積 (16.80)m<sup>2</sup>。壁高 0.43m。床面 ほぼ平坦で固く締まっている。掘方は5cm程度と浅く、ほぼ平坦で、いくつかのピットが見られるのみである。そこに黒色土を薄く埋め戻し、床面としている。柱穴 床面では2本見つけた。おそらくこれを西辺として、4本あったものと思われる。大きさは以下の通りで(長径





第26図 8号住居出土遺物

×短径×深さ、m)、その間隔はピット心一心得計測して2.23mである。

P 1 0.59×0.55×0.50

P 2 0.52×0.35×0.39

**貯蔵穴** 調査区内では見つからない。周溝 なし。

**竈** 調査区内では見つからない。調査区外となっている東壁か南壁にあるものと思われる。遺物 土器類の出土は多くなく、全体に散在しており、大きく復元できるものは少ない。ピット2の北側付近と住居南西隅から、鵜編み石と思われる細長い自然石が集中して出土している。これらは覆土から出土したのものも含めて合計43点ある。大きさは平均して長さ10.6cm、重さ4.4cmで、石材はチャート30点、溶結凝灰岩4点、砂岩・ホルンフェルス各3点、粗粒輝石安山岩・ひん岩・変質安山岩各1点である。その他、土器器環類330g、同表類1820g、須恵器環類170g、同表類310gが出土している。所見 出土遺物から、7世紀前半代と考えられる。推定東山道駅路南側溝の延長線と接するような位置にあるが、大道東遺跡の調査結果から見て、道路が作られる以前の住居である。

#### 9号住居 (第25図、P.L.10)

IV区西端南寄りにある。8号住居と重複し、南西隅のごく一部が残っているにすぎない。

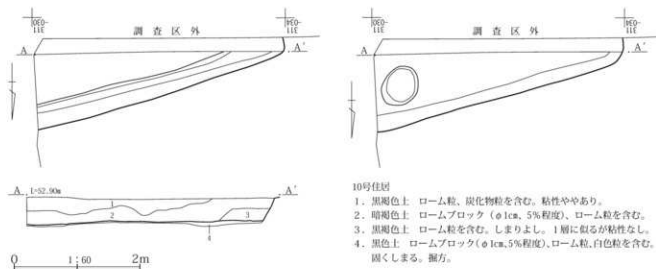
**位置** X=36320~322、Y=-40033~035。重複遺構 8号住居より古い。形態 南西隅のごく一部が残っているだけなので、全体の形態は不明である。方位 不明。規模 不明であるが、南壁は8号住居の南にまではのびていないので、1辺3mを越えることはなく、住居であったとすればごく小型であったと考えられる。床面積 (0.35) m<sup>2</sup>。壁高 0.26m。床面 掘方は5~7cmと浅く、それを埋め戻して床面とする。

**柱穴** 見つからなかった。8号住居の掘方の調査でも対応するピットが見つからないので、本来なかったものと思われる。貯蔵穴 見つからなかった。周溝 なし。竈 見つからなかった。遺物 出土していない。所見 遺物が出土していないので時期不明である。ごく一部しか残っていないため、住居ではなく、土坑であった可能性も考えられる。

#### 10号住居 (第27図、P.L.11)

IV区南東隅にある。調査区内にはごく一部がわかっているだけである。

**位置** X=36311~313、Y=-40030~035。重複遺構 なし。形態 不明。北辺が直線的に伸びるので、方形になるものと思われる。方位 北辺と平行に計測するとN-73°-E。規模 (3.90)m×(1.20)m。床面積 (2.78) m<sup>2</sup>。壁高 0.44m。床面 床面



第27図 10号住居平・断面図

は平坦で固く締まっている。掘方は浅く平坦で、2～7 cm程度であり、そこに黒色土を入れて床面とする。柱穴 調査区内では見つからない。貯蔵穴 調査区内では見つからない。周溝 ごく浅い凹みがあるのみで明確ではない。竈 調査区内では見つからない。遺物 出土していない。所見 固い床面が残っていたので竪穴住居であることは確定であるが、ごく一部分の調査にとどまり出土遺物もないため、時期等の詳細は不明である。

## 11号住居 (第28・29図、第45表、P L.11・58・59)

IV区南半部中央付近にある。丸みを帯びた方形で、竈がなく、通常の住居と異なっている。

位置 X=36319～323, Y=-40048～052。重複遺構 なし。形態 正方形に近い形状であるが、四隅が丸みを帯び、特に東・南壁が彫らんでいるため、全体的に円形に近い形態になっている。方位 竈はないが、長軸方向を計測してN-68°-E。規模 3.48m×3.45m。床面積 7.82㎡。壁高 0.45m。床面 地山を直接床面としている。柱穴 東半部の壁際に5カ所のピットが見つかっていて、これが柱穴と思われるが、いずれも浅い。P 6は深くしっかりした穴であるが、単独で存在している。それぞれの規模は以下の通り(長径×短径×深さ、m)。

P 1 0.18×0.16×0.05

P 2 0.21×0.16×0.09

P 3 0.21×0.15×0.10

P 4 0.30×0.26×0.11

P 5 0.25×0.18×0.17

P 6 0.42×0.39×0.91

貯蔵穴 なし。周溝 なし。竈 なし。遺物 出土する遺物の総量は少ないが、比較的大きな破片が多く、ほぼ全体から出土している。報告するのは土師器鉢1、同高環1、同甕1、同甕2、須恵器蓋2、同環2、同鉢1、同甕1である。その他、土師器環類4点、同甕類450g、須恵器環類30g、同甕類1点が出土している。所見 出土遺物から6世紀後半と考えられる。形態が丸みを帯びた方形であり、竈がなく、さらに柱穴の配置も独特であるなど、通常の住居とは様相が異なる。覆土に焼土を含むものの、床面には火を使った痕跡が見られないことから、住居とは別の用途をもった土坑である可能性が高いものと思われるが、その用途は確定できない。

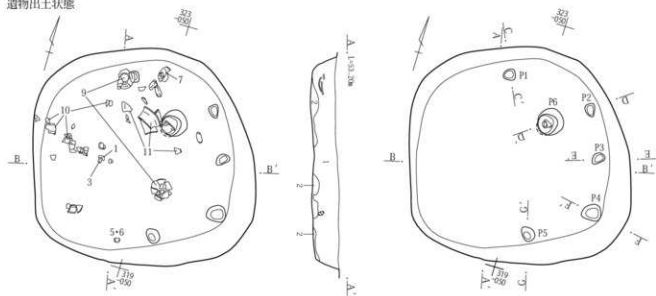
## 12号住居 (第30・31図、第45表、P L.12・60)

IV区南西隅付近にある。

位置 X=36315～320, Y=-40054～059。重複遺構 3643号・3644号ピットと重複する。いずれよりも古い。形態 長方形。方位 N-122°-E。規模 3.70m×3.21m。床面積 10.28㎡。壁高 0.53m。床面 平坦で固く締まっている。掘方は1～7cmと浅くほぼ平坦で、そこに暗褐色土を埋め戻して床面とする。柱穴 床面では四隅にピットを確認しているが、

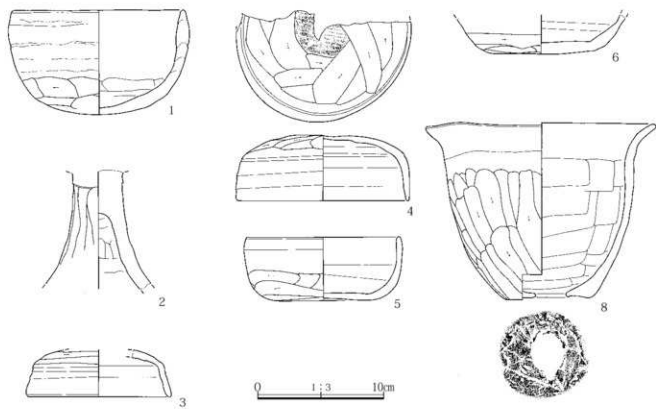
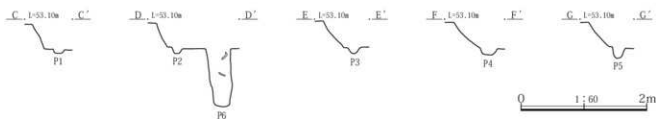
### 第3章 調査の成果

#### 遺物出土状態



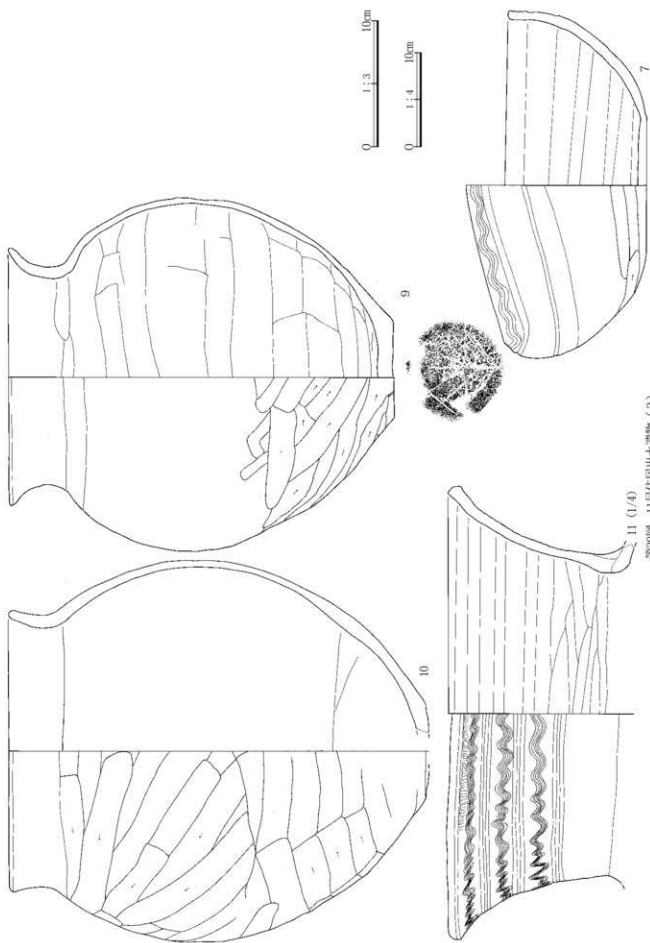
#### 11号住居

1. 黒褐色土 ローム粒、焼土粒、白色粒子を含む。しまりよし。粘性ややあり。
2. 褐色粘質土 黒色土ブロック(φ1cm, 3%程度)、焼土粒を含む。粘性に富む。



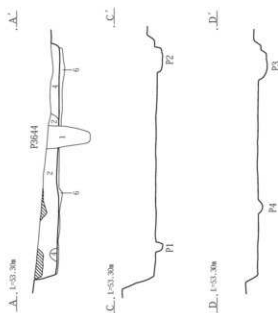
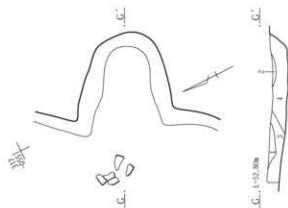
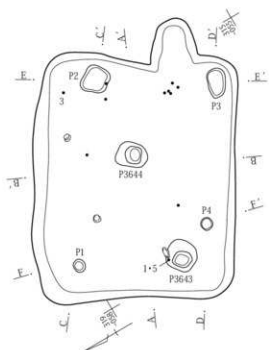
第28図 11号住居平・断面図、出土遺物(1)





11 (1/4)  
第29圖 11号住居出土遺物 (2)

### 第3章 調査の成果



#### 12号住居

1. ローム土主体の上 黒色土粒を含む。P3644埋土。
2. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5~1cm, 5%程度)、粘土粒、炭化物粒を含む。
3. 暗褐色土 焼土粒 (φ1~5mm, 10%程度) を含む。しまりややゆるく、ボソボソしている。
4. 褐色土 暗褐色土ブロック (φ1cm, 20%程度)、ローム粒、焼土粒 (各φ1~3mm, 3%程度) を含む。しまりよし。粘性ややあり。
5. 暗褐色土 褐色土ブロック (φ1cm, 10%程度)、ローム粒 (φ1~3mm, 3%程度) を含む。固くしまる。粘性ややあり。
6. 暗褐色土 ロームブロック (φ1~5cm, 20%程度)、白色粒子を含む。粘性ややあり。固くしまる。無方。

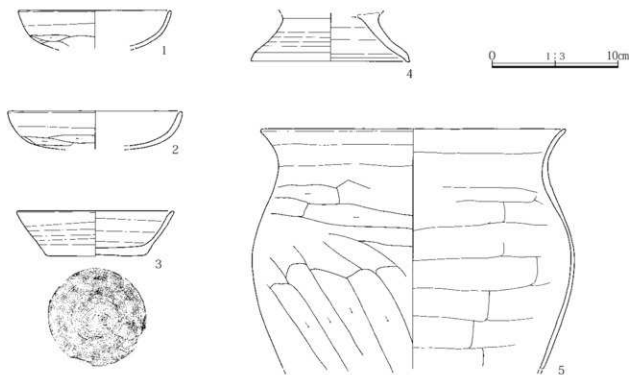
0 1:60 2m

#### 12号住居竈

1. 黒色土 焼土粒 (φ5mm)、ローム粒 (φ1~5mm) を含む (各5%程度)。しまりよし。
2. 褐色土 焼土粒見られる。ややボソボソしている。
3. 褐色土 焼土粒 (φ1~3mm)、ローム粒 (φ1~5mm) を含む (各5%程度)。ややボソボソしている。
4. 褐色土 焼土粒 (φ1~3mm, 10%程度) を含む。ややボソボソするが粘性もある。

0 1:30 1m

第30図 12号住居、竈平・断面図



第31図 12号住居出土遺物

いずれも浅く、柱穴ではない可能性が高い。本来は柱穴はなかったものと考えられる。調査時にP3としたものは、貯蔵穴の可能性が強いと思われる。それぞれの規模は以下の通り（長径×短径×深さ、m）。

P 1 0.20×0.18×0.11

P 2 0.49×0.39×0.09

P 3 0.47×0.29×0.11

P 4 0.21×0.18×0.07

**貯蔵穴** 調査時にP3としたピットが、その位置から考えて貯蔵穴だと思われる。**周溝** なし。**竈** 南東壁の南寄りにある。袖がなく、全体が壁から外に出る形態である。焚き口部分の幅は0.60m、長さ0.78mである。

**遺物** 遺物の出土は少なく、全体に散在して出土している。その他、土師器環類90g、同裏類690g、須恵器環類80g、同裏類1350gが出土している。縄文時代の凹み石1点も出土しているが、これについては第10節で報告する。**所見** 出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

### 13号住居（第32・33図、第45・46表、P.L.13・60）

IV区南西隅付近にある。

**位置** X=36316～321、Y=-40061～066。 **重複遺**

**構** なし。**形態** 竈のある南東壁がやや長いため、全体として台形をしている。**方位** N-121°-E。

**規模** 3.56m×2.68m。**床面積** 7.22㎡。**壁高** 0.41m。**床面** 平坦で固く締まっている。掘方は南辺際と北辺際を土坑状に掘る以外は、ほとんど掘られていない。それをロームブロックを含む暗黒色土で埋め戻し、床面とする。**柱穴** 柱穴の可能性のあるピットを4カ所確認したが、かなり変則的な配置である。それぞれの大きさは以下の通り（長径×短径×深さ、m）。

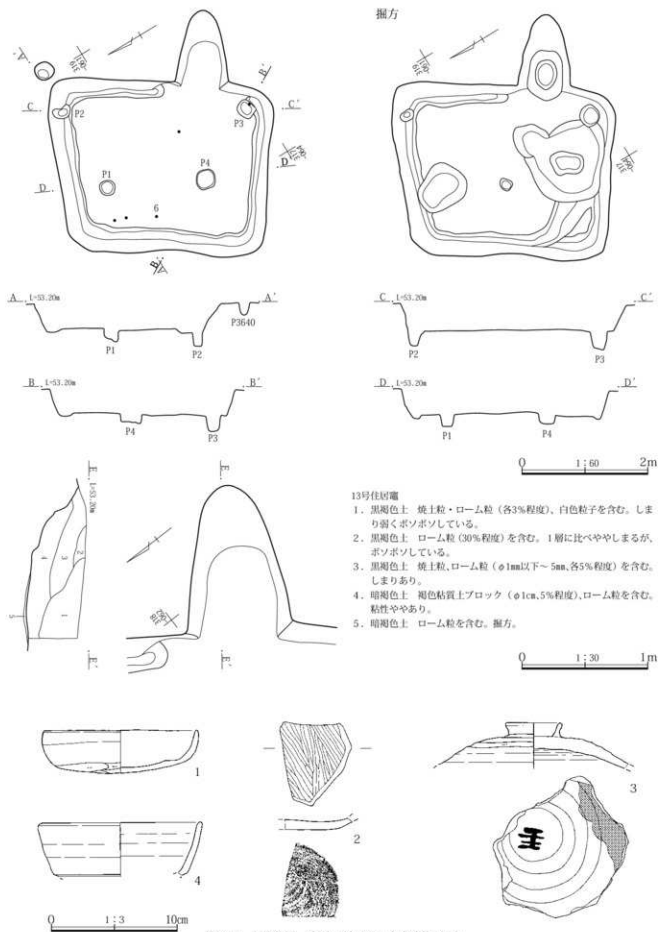
P 1 0.24×0.23×0.18

P 2 0.28×0.17×0.22

P 3 0.28×0.25×0.28

P 4 0.35×0.30×0.15

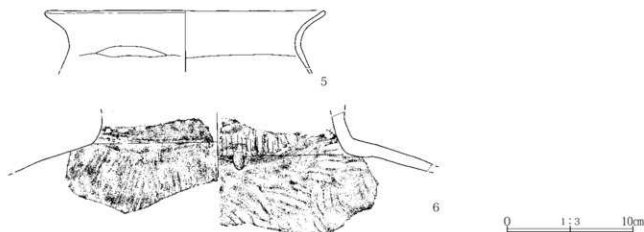
**貯蔵穴** なし。**周溝** 竈周辺を除いて全周する。幅15～30cm、深さ2～7cmで比較的是っきりした周溝である。**竈** 東壁の南隅近くにある。袖はなく、全体が壁の外にある形態である。焚き口幅は0.63m、長さは1.21mである。**遺物** 出土した遺物は少ない。報告するのは土師器環1、同埴1、同裏1、須恵器蓋1、同環1、同裏1である。3の須恵器蓋には内面に墨書がある。その他、土師器環類70g、同裏類420g、須恵器環類70g、同裏類580gが出土している。**所見** 出土遺物から9



13号住居層

1. 黒褐色土 焼土粒・ローム粒（各3%程度）、白色粒子を含む。しまり弱くボソボソしている。
2. 黒褐色土 ローム粒（30%程度）を含む。1層に比べややしまるが、ボソボソしている。
3. 黒褐色土 焼土粒、ローム粒（ $\phi$ 1mm以下～5mm、各5%程度）を含む。しまりあり。
4. 暗褐色土 褐色粘質土ブロック（ $\phi$ 1cm、5%程度）、ローム粒を含む。粘性ややあり。
5. 暗褐色土 ローム粒を含む。掘方。

第32図 13号住居、竈平・断面図、出土遺物（1）



第33図 13号住居出土遺物(2)

世紀第1四半期と思われる。

14A・B号住居(第34～37図、第46表、P.L.13～15・60)

IV区北西隅のやや中央寄りにある。この場所は推定東山道駅路の路面の中央部にあたる。調査開始当初は1軒として調査したが、掘方の調査時に、下層にもう一枚床面があり、一回り小さな住居が重なっていることが判明した。この下層の住居は方位もほぼ同じで、上層の住居のちょうど中央にあるため、全く無関係なものとは思えず、拡張の可能性も考えられる。ここでは新しいものを14A号住居、古いものを14B号住居として報告する。

位置 X=36334～342、Y=-40052～061。重複遺構 南隅に22号土坑が重複する。A・Bとも土坑よりも古い。

形態 Aは隅の丸い長方形。BはAとほぼ同形である。方位 A・B共にN-42°-E。規模 A 6.52×5.75m。B 4.73×3.88m。床面積 A 32.57㎡。B 16.27㎡。壁高 Aは0.52m。BはAに削平されているため、残りのいいところでも5cm程度しか残っていない。床面 A・Bともに平坦で固く締まっている。Aの掘方は一部を除いて平坦で、5～10cmの厚さで黒褐色土を埋め戻して床面としている。Bの掘方はごく浅く、地山を直接床面としている部分が多い。柱穴 Aの床面では5基のピットを調査したが、P3とP4は浅いので、本来はP1、P2、P5と南隅のピット(23号土坑で破壊されたらしい)の4本であったと思われる。それぞれの大きさは以下の通り(長径×短径×深さ、m)。

P1 0.55×0.47×0.63

P2 0.47×0.43×0.82

P3 0.49×0.40×0.19

P4 0.49×0.39×0.23

P5 0.47×0.41×0.55

BではP6～P11の6基を調査したが、そのうちP7、P8、P10、P11の4本が支柱穴になるものであり、P6とP9はその他の施設に関わるものであろう。それぞれの大きさは次の通り(長径×短径×深さ、m)。

P6 0.46×0.40×0.39

P7 0.24×0.21×0.48

P8 0.24×0.19×0.42

P9 0.23×0.18×0.23

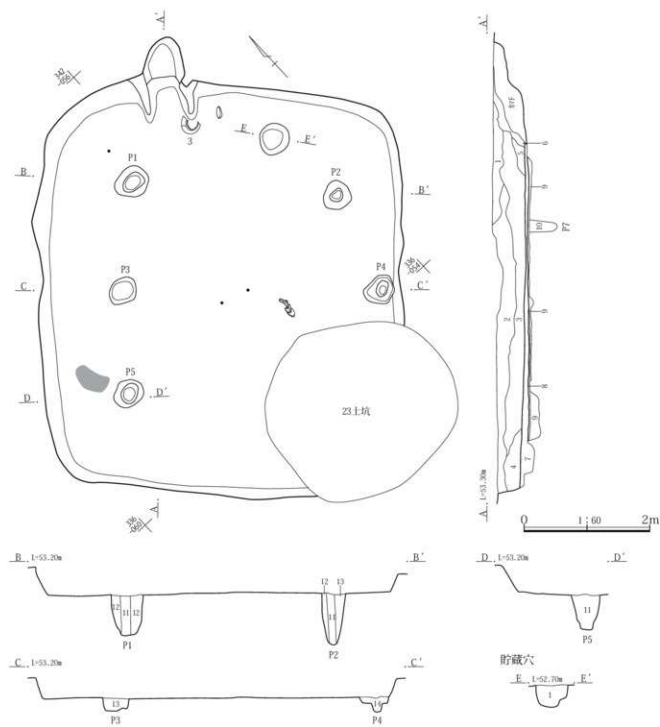
P10 0.27×0.18×0.55

P11 0.29×0.22×0.70

貯蔵穴 Aは北東壁際中央付近の小土坑が貯蔵穴だと思われる。0.52×0.46mの楕円形で、深さは0.34mである。

Bの貯蔵穴は見つからなかった。周溝 A・Bともになし。

竈 Aは北東壁の北寄り、Bは北東壁の中央やや南寄りにある。形態は異なり、Bの煙道はかなり長い。Aは両袖が残り、幅0.96m、長さ1.34mである。Bは袖がなく、全体が壁の外になる形態らしい。焚き口部の幅は0.45m、長さは1.84mである。遺物 Bは覆土がごく一部しか残存していないため、出土遺物はない。Aは出土した遺物は少ない。3の襖は竈石袖前から出土しているので、袖の構築に用いた可能性がある。その他、土師器環類230g、同表類970g、須恵器環類1片、同表類290gが出土している。所見 出土遺物から6世紀中葉と思われる。東山道駅路の路面にあたる場所であるが、



14号住居

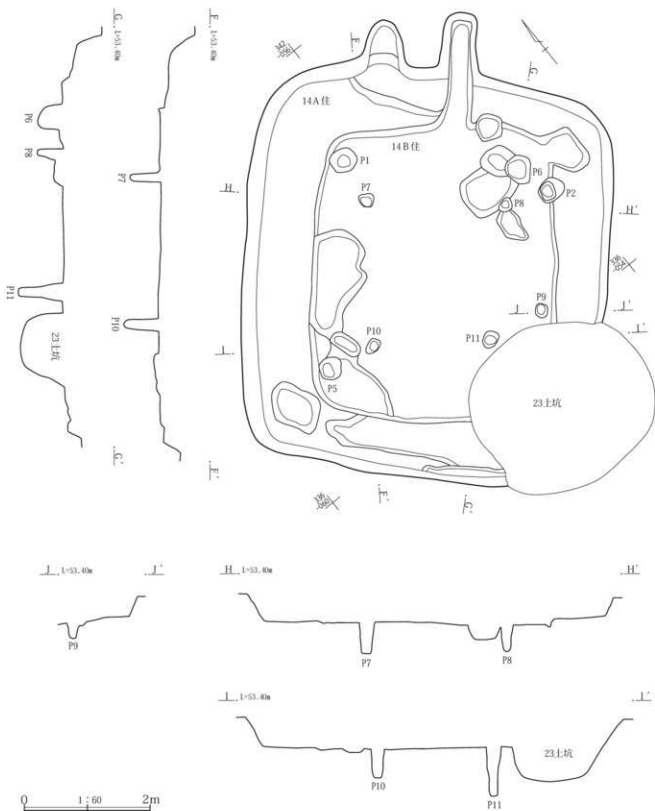
1. 暗褐色土 褐色土粒 (1~8mm), 焼土粒, 白色粒子を含む。やや砂質。
2. 暗褐色土 黒色土ブロック (φ1~3cm), 褐色土ブロック (φ1cm), 焼土粒, 炭化物粒, 白色粒子を含む。
3. 暗褐色土 ロームブロック (φ1cm), 黒色土ブロック (φ1cm), ローム粒 (φ1mm以下~2mm), 焼土粒, 炭化物粒, 白色粒子を含む。
4. 暗褐色土 ローム粒 (φ1~3mm), 白色粒子を含む。やや砂質。
5. 褐色粘質土 ローム粒, 焼土粒, 炭化物粒を含む。粘性あり。
6. 褐色粘質土 ロームブロック (φ1cm), 焼土粒 (φ1~3mm) 含む。粘性ややあり。この下面が14A号住居床面。
7. 黒褐色土 ロームブロック (φ2cm), 黒色土ブロック (φ1cm), 焼土粒, 炭化物粒, 白色粒子を含む。固くしまる。14A号住居掘方, この下面が14B号住居床面。

8. 暗褐色土 ロームブロック (φ2cm), 黒色土ブロック (φ1cm), ローム粒を含む。固くしまる。14B号住居掘方。
9. 暗褐色土 ロームブロック (φ2cm), ローム粒を含む。14B号住居掘方。
10. 黒褐色土 ロームブロック (φ1cm), 炭化物, 焼土粒を含む。P7埋土。
11. 暗褐色土 ローム粒 (φ1~5mm) を含む。しまりやや弱くボソボン。
12. 暗褐色土 ロームブロック (φ1~2cm), ローム粒 (φ1~2mm) を含む。粘性ややあり。しまりよい。
13. 暗褐色土 ローム粒 (φ1~3mm) を含む。しまりよい。
14. 暗褐色土 ローム粒 (φ1mm以下~2mm), 焼土粒, 炭化物粒を含む。

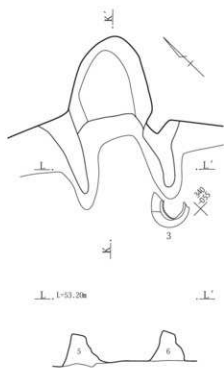
14号住居貯蔵穴

1. 暗褐色土 ローム粒 (φ1~3mm), 炭化物粒, 焼土粒を含む。しまり弱い。

第34図 14A号住居平・断面図



第35图 14A・B号住居掘方平・断面图



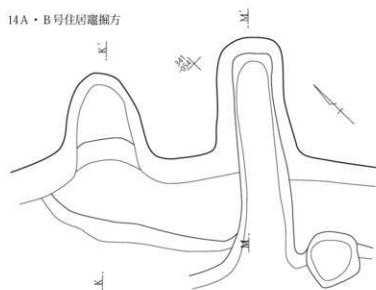
14A号住居窟

1. 褐色粘質土 焼土粒 (φ1~5mm)、暗褐色土粒 (φ2~3mm)、炭化物粒を含む。粘性あり。
2. 暗褐色土 褐色粘質土ブロック (φ1~2cm)、黒色土ブロック (φ1cm)、焼土粒 (φ1~5mm)、褐色粘質土粒、ローム粒、炭化物粒を含む。粘性あり。
3. 褐色土 焼土粒を含む。粘性ややあり。
4. 暗褐色土 焼土粒 (φ1mm以下~2mm)、炭化物粒を含む。
5. 褐色粘質土 焼土粒 (φ1mm)、暗褐色土粒 (φ1~8mm) を含む。粘性あり。竈袖。
6. 暗褐色土 焼土粒 (φ1~5mm)、褐色粘質土粒 (φ3~4mm) を含む。やや粘性あり。焼土粒は竈内側に片寄る。竈袖。
7. 黒褐色土 ロームブロック (φ2cm)、黒色土ブロック (φ1cm)、焼土粒、炭化物粒、白色粒子を含む。固くしまる。掘方。

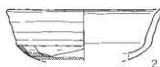
14B号住居窟

1. 褐色土 ロームブロック (φ1~2cm、やや北側に多い)、白色粒子、焼土粒を含む。しまりやや弱くボソボソしている。
2. 黒色土 褐色土ブロック (φ1cm)、白色粒子、焼土粒を含む。白色粒子は1層よりやや多め。
3. 褐色土 黒色土ブロック (φ1cm)、白色粒子、焼土粒、炭化物粒、ローム粒を含む。粘性ややあり。
4. 暗褐色土 褐色土ブロック (φ1~2cm)、ロームブロック (φ0.5~1cm)、焼土粒、炭化物粒、ローム粒を含む。
5. 暗褐色土 ロームブロック (φ1cm)、焼土粒を含む。しまり弱くボソボソしている。

14A・B号住居窟掘方



0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第36図 14A・B号住居窟平・断面図、出土遺物(1)



この住居は駅路以前に使用されたものである。

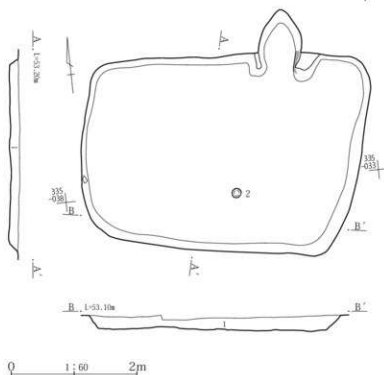
### 15号住居 (第37・38図、第46表、P.L.15・16・60)

Ⅳ区北東隅付近にある。この場所は推定東山道駅路の路面にあたる。

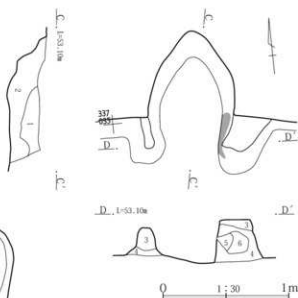
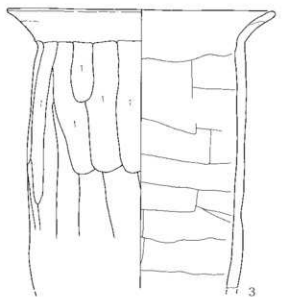
**位置** X=36333~338, Y=-40033~038。 **重複遺構** 21号土坑よりも古い。 **形態** 長方形だが東壁がやや歪む。 **方位** N-4°-E。 **規模** 4.44m×3.04m。

**床面積** 11.21㎡。 **壁高** 0.27m。 **床面** 地山を直接床面としている。 **柱穴** なし。 **貯蔵穴** なし。

**周溝** なし。 **竈** 北壁の東寄りにある。袖は短いが両袖とも残っていた。燃焼部の中ほどから煙道が壁の外に出る形態である。幅1.10m、長さ1.08m。右袖の内側は焼土化している部分がある。 **遺物** 出土した遺物は少ない。報告するのは土師器環1と須恵器壺1のみである。1は竈内から、2は床面中央やや南寄りから出土している。その他、土師器環類120g、同表類330g、須恵器環類と表類が各2点出土している。 **所見** 出土遺物から8世紀第1四半期と思われる。この住居のある場所は、推定東山道駅路の路面北側にあたり、道路との同時存在はあり得ることではないので、この住居の時期ま



### 14A号住居出土遺物



#### 15号住居竈

1. 黒褐色土 灰黄褐色粘質土ブロック (φ1cm, 15%程度)、焼土ブロック (φ0.5~1.5cm程度)、小礫、焼土粒、炭化物粒を含む。1層に比べ黒い。
2. 黒褐色土 焼土粒、炭化物粒、灰黄褐色粘質土粒見られる。1層に比べ黒い。
3. 灰黄褐色粘質土 暗褐色土粒 (φ1~8mm, 20%程度)を含む。粘性あり。以下甗袖。
4. 暗褐色土 ローム粒 (φ1~5mm, 5%程度)、焼土粒、炭化物粒を含む。
5. 暗褐色土 焼土粒 (φ1~5mm, 30%程度)、ローム粒、炭化物粒を含む。かなり赤い。
6. ロームブロック。

#### 15号住居

1. 黒褐色土 小礫 (φ1cm, 10%程度)、白色砂子、焼土粒、ローム粒、炭化物粒を含む。

第37図 14号住居出土遺物(2)、15号住居、竈平・断面図



第38図 15号住居出土遺物

ではこの道路は廃止されたことになる。これについては第4章(226ページ)参照。

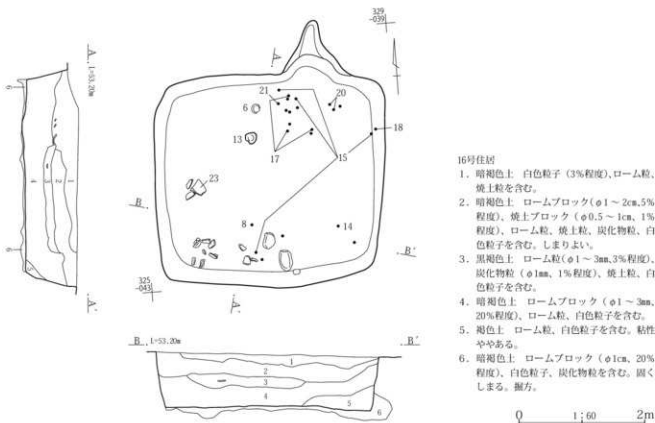
**16号住居** (第39～42図、第46・47表、P.L.16・17・60)

IV区北東隅近くにある。推定東山道駅路の南側溝に重複する位置にある。

**位置** X=36324～330、Y=-40039～043。 **重複遺構**

18号住居より新しい。37号溝(推定東山道駅路南側溝)とも重複していて、本住居が古い。しかし、この部分の37号溝は浅くなり、ここについては新しい時期の掘り直しの痕跡が認められたため、この道路使用時の側溝ではない可能性が高い。そのため、推定東山道駅路側溝との直接の新旧関係は把握できなかった。 **形態** ほぼ正方形。 **方位** N-5°-E。 **規模** 3.65m×3.42m。 **床面積** 9.38㎡。 **壁高** 0.90m。 **床面** 平坦で固

く締まっている。掘方は一部を除いて浅く、ほぼ平坦である。それを暗褐色土で埋め戻して床面とする。 **柱穴** なし。 **貯蔵穴** なし。 **周溝** 床面では見つからなかったが、掘方の調査では西壁・北壁の中央付近で周溝の痕跡と思われる凹みが見られるので、本来は存在した可能性が高い。 **竈** 北壁の東寄りにある。袖は残っていないが、燃烧部が壁の外へほとんど出ていないので、本来は袖があったものと思われる。幅は壁の部分で計測して0.85m、長さは0.99mである。 **遺物** 遺物は多く出土している。竈付近と、その逆側になる南西隅付近に多い傾向がある。竈前からは須恵器杯6、須恵器壺13、土師器甕15・17・20・21が出土し、南西隅は石類が多い。その他、土師器杯類1160g、同甕類6950g、須恵器杯類800g、同甕類2020g、藁編み石と考えられる細長い自然石が12点出土している。藁編み石の大きさは平



第39図 16号住居平・断面図

**16号住居**

1. 暗褐色土 白色粒子(3%程度)、ローム粒、焼土粒を含む。
2. 暗褐色土 ロームブロック(φ1～2cm、5%程度)、焼土ブロック(φ0.5～1cm、1%程度)、ローム粒、焼土粒、炭化物粒、白色粒子を含む。しまりよい。
3. 黒褐色土 ローム粒(φ1～3mm、3%程度)、炭化物粒(φ1mm、1%程度)、焼土粒、白色粒子を含む。
4. 暗褐色土 ロームブロック(φ1～3mm、20%程度)、ローム粒、白色粒子を含む。
5. 褐色土 ローム粒、白色粒子を含む。粘性ややある。
6. 暗褐色土 ロームブロック(φ1cm、20%程度)、白色粒子、炭化物粒を含む。固くしまる。掘方。

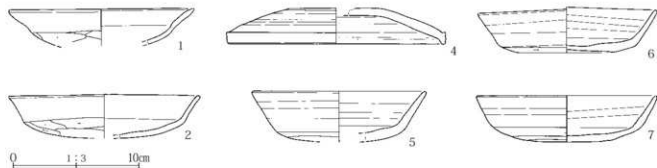
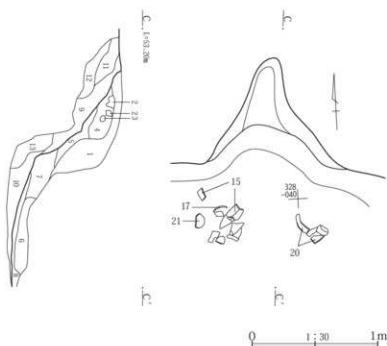
均して長さ10.6cm、幅4.9cmである。石材は、チャート9点、溶結凝灰岩・ホルンフェルス・砂岩各1点である。縄文時代の石畿と打製石斧も各1点出土しているが、これらについては第10節で報告する。所見 出土遺物から8世紀第2四半期と思われる。推定東山道駅路の南側溝と重複しているが、この部分は掘り直しであると思われる。第7節で後述するように、推定東山道駅路側溝は道路廃絶後に掘り直される場合がある。この場合も掘り直しの時期が不明であるため、溝との切り合い関係をもって駅路との直接の新旧関係を確定することができない。しかし大道東遺跡や15号住居などの例から、道路廃絶後の住居であると思われる。

16号住居掘方

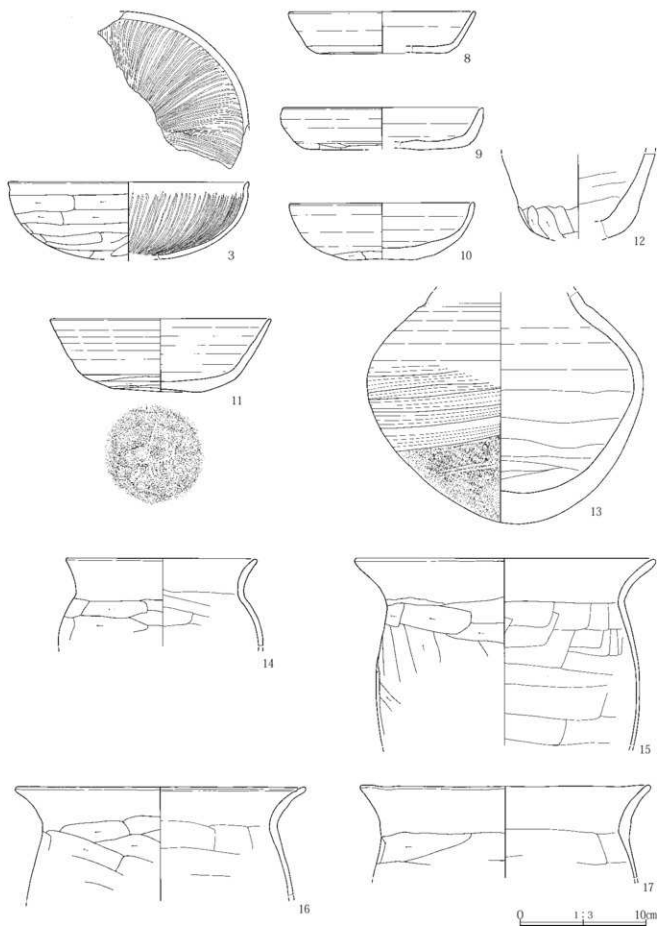


16号住居竈

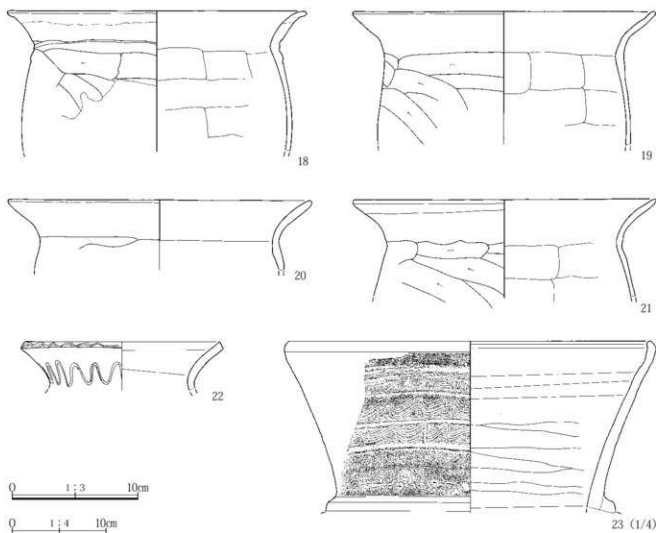
1. 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・炭化物粒 (φ1mm以下～3mm, 各3%程度)、白色粒子を含む。
2. ロームブロック。
3. 黒色土ブロック。
4. 暗褐色土 黒色土ブロック・ロームブロック (φ1cm, 各5%程度)、ローム粒 (φ1mm以下～3mm, 3%程度)、焼土粒、炭化物粒を含む。
5. 褐色粘質土 ローム粒・焼土粒 (φ1mm以下～3mm, 各5%程度) を含む。粘性あり。
6. 灰黄褐色粘質土。
7. 灰黄褐色粘質土 褐色土ブロック (φ1cm, 5%程度)、ローム粒・焼土粒 (φ1mm以下～3mm, 1%程度) を含む。粘性に富む。
8. 暗褐色土 炭化物 (φ1mm以下～5mm, 30%程度)、焼土粒、ローム粒を含む。ややボソボソしている。
9. 暗褐色土 焼土ブロック (φ0.5～2cm, 20%程度)、焼土粒、灰黄褐色粘質土を含む。粘性ややあり。掘方。
10. 暗褐色土 9層に比べややボソボソしている。9層、10層上面に炭化物分布。掘方。
11. 暗褐色土 ローム粒 (15%程度)、焼土粒を含む。掘方。
12. 暗褐色土 焼土粒を含む。掘方。
13. 灰黄褐色粘質土 焼土粒、炭化物粒を含む。粘性に富む。掘方。



第40図 16号住居掘方、竈平・断面図、出土遺物(1)



第41図 16号住居出土遺物(2)



第42図 16号住居出土遺物(3)

**17号住居** (第43・44図、第47表、P.L.17・18・61)

IV区の北東隅近くにある。この位置は推定東山道駅路の南側溝上であるが、南側溝(37号溝)はその部分で浅くなって削平されているため、直接の重複を確認できなかった。

**位置** X=36326~331, Y=-40033~039. **重複遺構** 18号住居より新しい。 **形態** 東西に長い長方形。

**方位** N-20°-W. **規模** 4.44m×2.98m. **床面積** 10.50㎡. **壁高** 0.46m. **床面** 地山を直接床面とする。 **柱穴** なし。南壁際中央にある小ピットは深さが10cmしかなく、柱穴ではないと思われる。 **貯蔵穴** なし。 **周溝** 全周する。幅15~25cm、深さ1~5cmである。 **竈** 北壁のほぼ中央にある。両袖が残り、右袖には袖石がある。幅0.88m、長さ1.04mである。竈袖は土を薄く積み重ねるようにして作っている。内部からは土器が出土したほか、焼土が散っていた。 **遺物**

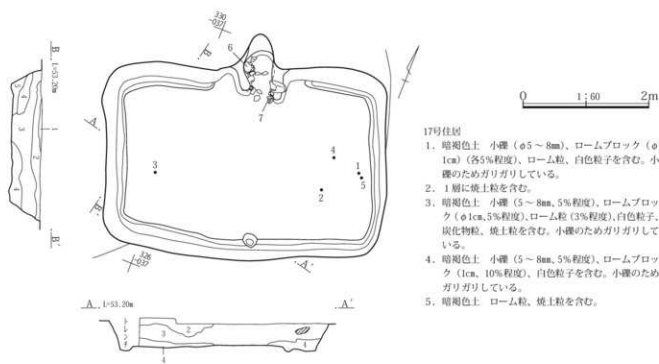
竈とその周辺を中心に出土した。6・7の土師器類は竈内から、1~4の土師器類は壁付近の床面近くから出土している。その他、土師器類360g、同裏類1730g、須恵器類60g、同裏類600gが出土している。 **所見**

出土遺物から8世紀第3四半期と思われる。推定東山道駅路の南側溝とは直接切り合っていないので、ここでは新旧関係を確定できない。大道東遺跡の調査成果によればこの時期にはこの道路は廃絶しているため、本住居が道路よりも新しいと思われる。

**18号住居** (第45・46図、第47表、P.L.18・61)

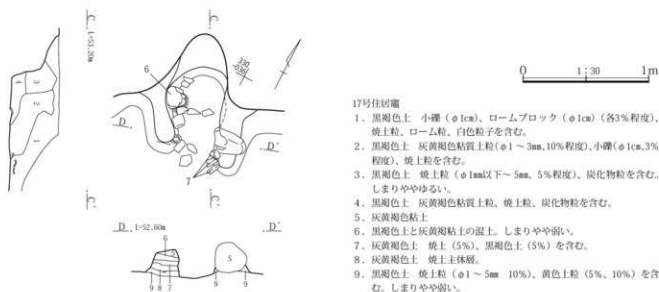
IV区北東隅近くにある。推定東山道駅路の南側溝に重複する位置にある。

**位置** X=36325~335, Y=-40033~043. **重複遺構** 16号・17号住居、37号・45号溝より古い。 **形態** ほぼ正方形。 **方位** 南東壁に竈があると想定してN-



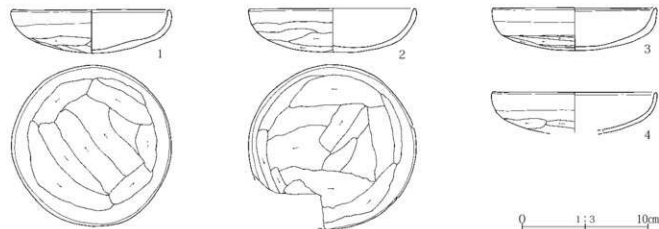
17号住居

1. 暗褐色土 小礫 (φ5~8mm)、ロームブロック (φ1cm) (各5%程度)、ローム粒、白色粒子を含む。小礫のためガリガリしている。
2. 1 別に焼土粒を含む。
3. 暗褐色土 小礫 (5~8mm, 5%程度)、ロームブロック (φ1cm, 5%程度)、ローム粒 (3%程度)、白色粒子、炭化物粒、焼土粒を含む。小礫のためガリガリしている。
4. 暗褐色土 小礫 (5~8mm, 5%程度)、ロームブロック (1cm, 10%程度)、白色粒子を含む。小礫のためガリガリしている。
5. 暗褐色土 ローム粒、焼土粒を含む。

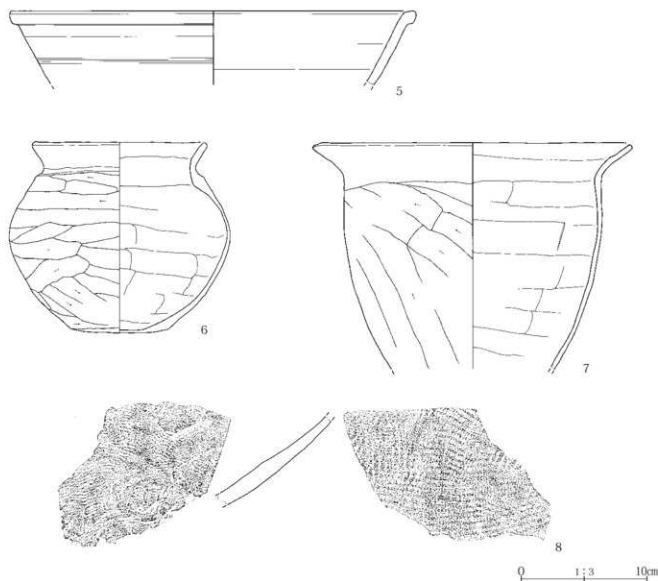


17号住居

1. 黒褐色土 小礫 (φ1cm)、ロームブロック (φ1cm) (各3%程度)、焼土粒、ローム粒、白色粒子を含む。
2. 黒褐色土 灰黄褐色粘質土粒 (φ1~3mm, 10%程度)、小礫 (φ1cm, 3%程度)、焼土粒を含む。
3. 黒褐色土 焼土粒 (φ1mm以下~5mm, 5%程度)、炭化物粒を含む。しまりややゆるい。
4. 黒褐色土 灰黄褐色粘質土粒、焼土粒、炭化物粒を含む。
5. 灰黄褐色粘土
6. 黒褐色土と灰黄褐色粘土の混り。しまりやや弱い。
7. 灰黄褐色土 焼土 (5%)、黒褐色土 (5%) を含む。
8. 灰黄褐色土 焼土主体層。
9. 黒褐色土 焼土粒 (φ1~5mm 10%)、黄色土粒 (5%、10%) を含む。しまりやや弱い。



第43図 17号住居、竈平・断面図、出土遺物 (1)



第44図 17号住居出土遺物(2)

135°-E。規模 6.80m×6.59m。床面積 41.30㎡。壁高 0.39m。床面 地山を直接床面とする。

**柱穴** 主柱穴は4本である。それぞれの大きさは以下の通り(長径×短径×深さ、m)。

P 1 0.55×0.42×0.67

P 2 0.46×0.39×0.73

P 3 0.47×0.38×0.74

P 4 0.53×0.41×0.91

柱穴の間隔は以下の通りである。

P 1～P 2 4.17m

P 2～P 4 4.44m

P 3～P 4 4.33m

P 1～P 3 4.09m

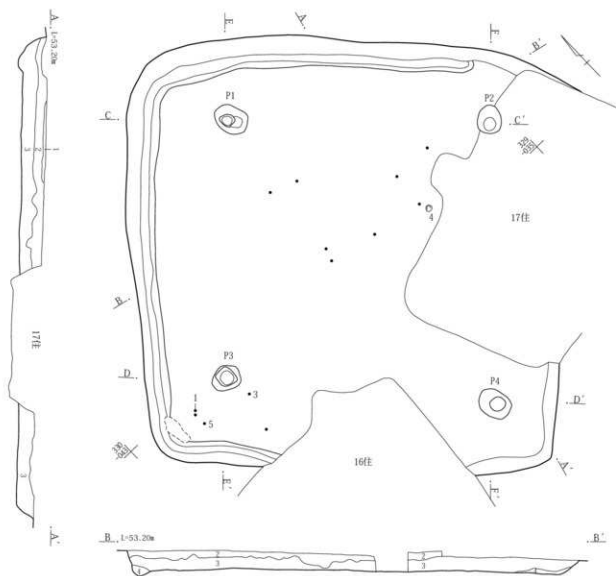
**貯蔵穴** 見つからなかった。16号・17号住居によって破

壊されている可能性がある。**周溝** 南隅では明瞭ではなかったが、その他の部分には掘られているので、本来全周するものと思われる。幅20～30cm、深さは深いところで7～8cmあり、はっきりとした周溝である。

**竈** 調査した範囲では見つからなかった。16号・17号住居

によって破壊されたものと思われる。**遺物** 出土総量は少ないが、大きな破片は少なく、全体に散在して出土する。覆土中・上層のものが多い。3の土師器坏は38号溝出土品と接合するもので、混入したものと思われる。その他、土師器坏150g、同表類1070g、須恵器坏類160g、同表類1350gが出土している。**所見** 出土遺物から6世紀後半と思われる。推定東山道駅路よりも古い住居である。

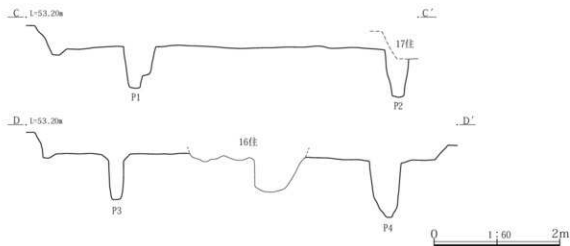
第3章 調査の成果



18号住居

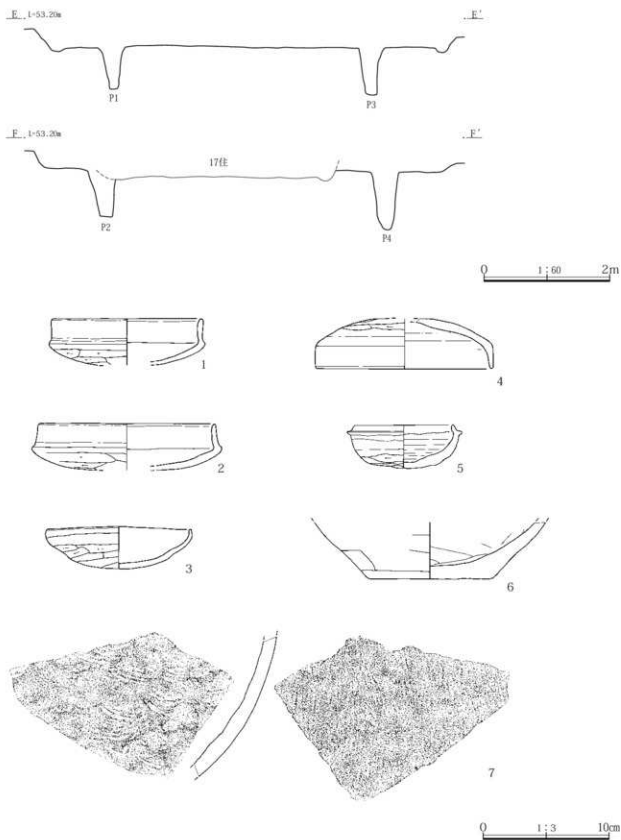
1. 暗褐色砂質土 小礫(φ1~5mm,5%程度)、白色粒子、焼土粒を含む。
2. 暗褐色土 小礫(φ5~6mm)、ローム粒(各3%程度)、焼土粒を含む。しまりよい。

3. 黒褐色土 小礫(φ5~6mm)、ローム粒(各3%程度)、焼土粒を含む。しまりよい。
4. 暗褐色土 小礫(φ5~6mm)、ローム粒(各3%程度)を含む。しまりよい。



第45図 18号住居平・断面図





第46图 18号住居断面图、出土遗物

## 第3節 土坑

土坑は合計46基調査した。調査区南西部にやや集中してみられる以外は、全域に散在して分布している。

調査対象地は遺構面が浅いところが多く、そのため後世の掘乱しが数多く入っており、特に土坑については遺構として認定するのがやや困難であった。というも、これらの土坑からは遺物が少量しか出土しないため、もともと時代判定が難しく、また、特に長方形の土坑については、その中に近現代のいわゆる「芋穴」が混在してしまう恐れがあり、それをいかに区別して除外するかが、実際にはかなり難しいからである。調査においては、土層の状態や他の遺構との重複関係を総合的に判断して遺構と掘乱しとを区別し、以下にあげる46基を遺構として報告することにした。

これらの土坑の基礎的なデータについては第3表にあげたとおりである。ここでは、特に注目されるものについて以下に解説を加える。

1、2号土坑はいずれも円形で、底面が上面よりも広くなることで共通している。その形態から墓坑のような用途を想定したが、人骨などは出土しなかった。この他、円形の土坑としては、16、17、39号土坑がある。これらは1、2号に比べて浅く、底面が広がらない点で異なるが、これらも墓坑の可能性がある。本遺跡では、人骨が出土して墓坑と断定できたのは1基のみ（1号墓、第4節参照）であるが、それも底の浅い円形の土坑であった。

12号土坑は長方形の土坑である。ごく浅いが、底面部分わずかに残ったものと思われ、その底面付近から馬の歯と骨が出土した。骨の残りは非常に悪く、痕跡程度の残存状態であったため、取り上げることはできなかったが、歯2本は状態がよく、これについては第4章第4節で報告する。骨はその位置・形態から前肢、後肢であると推定され、歯の大きさからも小型の馬であったと考えられる。遺物が出土しないので明確な時期は不明であるが、周囲には中世の掘立柱建物が多く見られるので、中世のものである可能性が高いと判断される。

15号土坑は縄文土器が出土し、また、埋土も白色軽石を含んだ固く締まった土で、他の土坑とは全く違うものであった。そのため、この土坑のみは縄文時代のもので

ある可能性が高いと思われる。

23号土坑は、径3m前後の大きな土坑である。14号住居と重複しており、本土坑が新しい。底面中央に径1.1mの小さな土坑が掘られて2段の構造になり、さらにその小さな土坑を囲むように4本のピットが設けられている。各ピットの大きさは、以下の通り（長径×短径×深さ・m）

P 1 0.34×0.25×0.26

P 2 0.29×0.20×0.44

P 3 0.20×0.18×0.34

P 4 0.33×0.21×0.43

特別に用途を示すようなものは出土していないので、土坑の性格を確定することは難しい。遺物は8世紀前半と考えられる土師器環（1）が出土している他、比較的多くの土器片が出土している。本土坑と重複する14号住居は6世紀中頃と考えられるので、（1）が年代の上限を示すものであり、本土坑の年代は8世紀前半以降ということになるが、明らかに中世に属する遺物は出土していないので、古代の中に収まる可能性が高い。

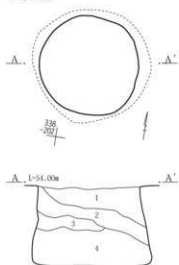
以上、46基の土坑のうち、15号土坑は縄文時代、23号土坑は古代と推定できるが、その他の土坑については時期を示す遺物や火山噴出物などは少ないので、大部分の土坑で時期を特定できない。しかし、Ⅲ区以西にある土坑については、周囲に中世の掘立柱建物が多数あることから、中世以降のものである可能性が高い。実際に中世陶器が出土したのは、9、16、17、34号である。また、27号土坑からは近世の国産陶器が出土しており、これについては近世以降のものである。

番号	所在グリッド	主軸方位	大きさ		備考
			長辺×短辺×深さ (m)		
1	335-200		1.05×1.05×0.85		底面が広がり、1.25m×1.15m。土師器類1点、須恵器類1点出土。
2	345-205		1.57×1.44×0.83		
3	365-185	N-81°-W	1.83×1.05×0.32		P1241より古い。P766、P900、P1201とは新旧不明。土師器類3点、須恵器類1点出土。
4	345-180	N-12°-E	3.04×1.45×0.41		4号溝、P1104と重複。新旧不明。土師器類1点出土。
5	欠番				
6	345-150	N-82°-W	5.04×1.35×0.67		7号土坑、16号溝より古い。
7	345-150	N-3°-W	2.33×1.18×0.57		16号溝より古く、6号土坑より新しい。土師器類1点出土。
8	320-150	N-2°-E	3.43×1.15×0.22		9号土坑より古い。P1976、P1977、P1978とは新旧不明。土師器類2点出土。
9	320-150	N-1°-E	1.24×0.80×0.28		8号土坑より新しい。中世片口鉢（1・15世紀）出土。
10	325-150	N-62°-W	2.52×(1.13)×0.20		11号土坑より古い。P1971より新しい。P1972、1973とは新旧不明。
11	325-145	N-64°-W	3.08×1.30×0.47		10号土坑より新しい。17号溝とは新旧不明。土師器類4点出土。
12	325-150	N-4°-E	1.52×0.99×0.10		13号土坑より新しい。馬骨・馬骨出土。
13	325-150	N-88°-W	3.27×1.00×0.25		12号土坑より古い。P1970とは新旧不明。
14	320-130	N-7°-W	4.20×1.20×0.53		P2220～2222と重複。新旧不明。須恵器類2点、中世片口鉢（1）出土。
15	345-115		1.25×1.10×0.45		22号溝より古い。縄文土器1点、土師器類4点、須恵器類1点出土。
16	320-080		1.50×1.40×0.42		須恵器類1点、中世在地系土器1点出土。
17	320-080		1.58×1.50×0.16		中世在地系土器皿1点出土。
18	355-030	N-87°-E	0.77×0.45×0.36		
19	355-030	N-88°-E	1.28×1.03×0.33		
20	355-040	N-87°-E	1.12×0.78×0.52		
21	355-030	N-32°-E	1.48×0.71×0.09		
22	310-035	N-86°-E	2.48×1.32×1.08		5号・7号住居より新しい。長辺×短辺は5号住居床面で計測。土師器類70g、同費類370g、須恵器類5点、同費類5点出土。
23	330-050		3.05×2.76×1.65		14号住居より新しい。長辺×短辺は14号住居床面で計測。土師器類（1）の他、土師器類5点、同費類130g、須恵器類1点、同費類390g出土。
24	345-040	N-47°-E	1.82×1.59×0.77		土師器類3点、須恵器類3点出土。
25	330-165		0.62×0.60×0.35		34号・44号土坑より新しい。
26	320-170	N-2°-E	1.67×1.07×0.41		
27	320-175	N-80°-W	2.96×1.18×0.32		P3698、P3699、P3721と重複。新旧不明。土師器類80g、近世国産陶器2点出土。
28	欠番				
29	325-170	N-77°-W	2.78×1.40×0.22		P3660、P3669、P3689と重複。新旧不明。須恵器類2点出土。
30	325-170	N-81°-W	2.38×0.91×0.23		P3709、P3718と重複。新旧不明。
31	320-175	N-80°-W	1.19×0.98×1.18		45号土坑より新しい。
32	320-170	N-82°-W	1.20×(0.90)×0.78		45号土坑より新しい。
33	335-165	N-3°-E	3.04×1.02×0.76		34号・43号土坑より古く、41号土坑より新しい。円筒埴輪1点出土。
34	330-160	N-25°-W	3.14×1.15×0.63		25号土坑より古い。33号・44号土坑より新しい。P3674とは新旧不明。中世常滑焼1点、円筒埴輪1点出土。
35	320-180	N-87°-W	1.63×1.12×0.63		41号土坑より新しい。
36	320-170	N-86°-W	3.08×(1.25)×0.27		37号土坑より新しい。P3706とは新旧不明。
37	320-170	N-87°-W	2.57×(1.05)×0.25		36号土坑より古い。42号土坑より新しい。P3965～P3697とは新旧不明。
38	330-170	N-90°	1.49×0.96×0.54		53号溝より古く、P3661より新しい。須恵器類1点出土。
39	325-175		0.97×0.90×0.26		
40	330-170	N-85°-E	2.30×1.02×0.50		P3671と重複。新旧不明。
41	320-180	N-80°-W	2.58×1.29×0.16		35号土坑より古い。P3725とは新旧不明。土師器類5点出土。
42	320-170		1.10×0.80×0.45		37号土坑より古い。P3715とは新旧不明。
43	335-160	N-29°-E	3.04×1.06×0.54		33号土坑より新しい。
44	335-165	N-24°-W	0.90×(0.64)×0.45		25号・33号・34号土坑より古い。
45	320-170	N-84°-E	1.34×0.70×0.35		31号・32号土坑より古い。P3713、P3714とは新旧不明。
46	315-170	N-82°-W	3.20×(1.40)×0.37		32号土坑より古い。P3710、P3711とは新旧不明。
47	欠番				
48	320-165	N-5°-E	1.38×1.14×0.90		49号土坑、P3680と重複。新旧不明。
49	320-165	N-3°-W	(2.05)×1.08×0.35		48号土坑と重複。新旧不明。

第3表 土坑一覧表

第3章 調査の成果

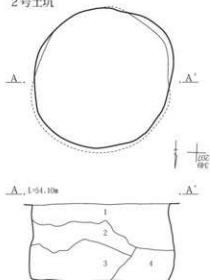
1号土坑



1号土坑

1. 黒褐色土 φ1~20mm程度のローム粒子を少量含む。
2. 暗褐色土 φ1~30mm程度のローム粒子、ロームブロックをやや多く含む。
3. 暗褐色土 φ1mm程度のローム粒子を多量に含む。
4. 暗黄褐色土 φ1~30mm程度のローム粒子を3より更に多量に含む。

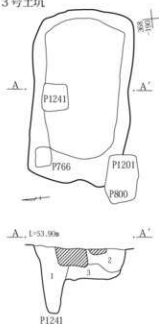
2号土坑



2号土坑

1. 暗黄褐色土 φ5~20mm程度のロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
2. 暗褐色土 φ1~5mm程度のロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。
3. 暗褐色土 φ1~10mm程度のロームブロック、ローム粒子、黒褐色粒子を多く含む。
4. 黄褐色土 φ5~20mm程度のロームブロック、ローム粒子を大量に含む。

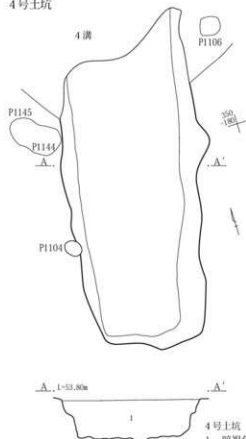
3号土坑



3号土坑

1. 暗褐色土 φ1~50mmのロームブロックを多く含む。P1241の埋土。
2. 暗褐色土 φ3~5mmの黄色・白色粒子、砂礫を少量含む。
3. 暗褐色土 φ1~50mmのロームブロックを大量に含む。

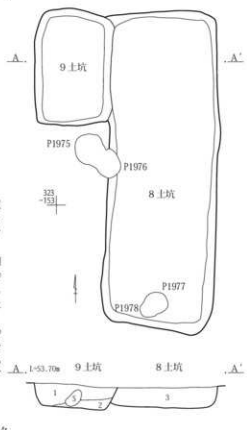
4号土坑



4号土坑

1. 暗褐色土 φ5~40mm程度のロームブロック、φ1~2mmのローム粒子を多量に含む。

8・9号土坑



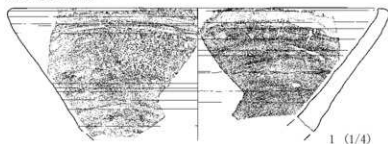
8・9号土坑

1. 黒褐色土 φ5~20mmの砂質ロームブロックを少量含む。8号土坑より黒っぽい色調を呈する。9号土坑。
2. 黒褐色土 1層より明るい色調を呈する。直径10~20mmの砂質ロームブロックを少量含む。全体にやや砂質である。9号土坑。
3. 黒褐色土 φ5~20mm程度の砂質ロームブロック(淡黄色)を少量含む。全体にやや砂質であるが部分的に硬い黒色上のブロックを含む。8号土坑。

0 1:40 1m

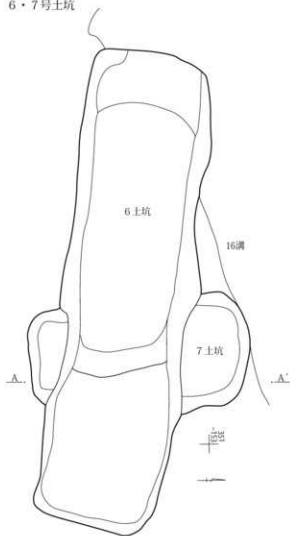
第47図 1~4・8・9号土坑平・断面図

## 9号土坑出土遺物



1 (1/4)

## 6・7号土坑



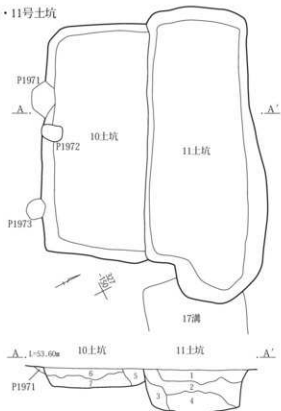
A, 1:53.70m



## 6・7号土坑

1. 暗褐色土 φ10～25mmのロームブロックを含む。炭化物(φ7mm)をごく少量含む。しまりは少ない。
2. 暗褐色土 φ10～30mmのロームブロックとローム粒を多量に含む。しまりは少ない。炭化物粒をごく少量含む。以下4まで7号土坑。
3. 黄褐色土 φ10～70mmのロームブロックを多量に含む。堅固落土。

## 10・11号土坑



## 10・11号土坑

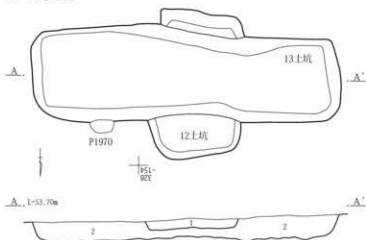
1. 暗褐色土 φ3～10mm程度のロームブロックをやや多く含む。以下4まで11号土坑。
2. 暗褐色土 φ5～60mm程度のロームブロック、ローム粒子を大量に含む。
3. 黒褐色土 φ1～2mmのローム粒子、φ30～50mm程度のロームブロックを少量含む。
4. 黒褐色土 φ1～10mmのローム粒子、ロームブロックをやや多く含む。
5. 暗褐色土 φ5～30mm程度のロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。10号土坑。
6. 暗褐色土 φ1～2mmの砂粒、φ1mm以下の黄色粒子を微量含む。10号土坑。
7. 暗褐色土 6よりもやや明るい色調を呈する。φ5～50mm程度のロームブロック、ローム粒子を少量含む。10号土坑。

0 1:40 1m

第48図 9号土坑出土遺物、6・7・10・11号土坑平・断面図

第3章 調査の成果

12・13号土坑



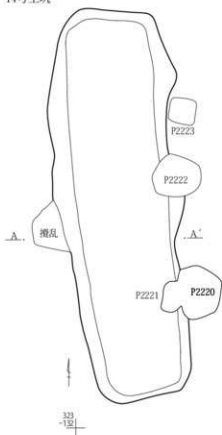
12号土坑馬骨・歯出土状態



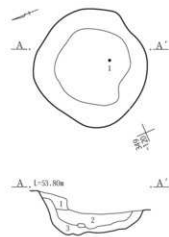
12・13号土坑

1. 黒褐色土 全体に砂質。φ1～2mmの砂粒、φ1mm程度の黄色粒子を含む。φ1cmの黄色砂質ロームブロックを微量含む、φ1mm程度の炭化物粒と焼土粒と思われる赤色粒を微量含む。12号土坑。
2. 黒褐色土 φ1～2mmの砂粒、φ5～20mmの黄色砂質ロームブロックを少量含む。ややしまりあり。12号土坑よりやや明るい。13号土坑。

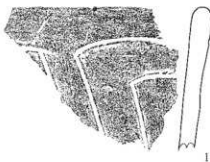
14号土坑



15号土坑



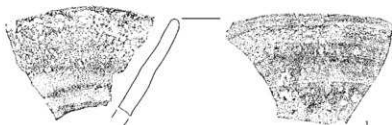
15号土坑出土遺物



15号土坑

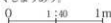
1. 灰褐色土 φ1mmの白色軽石を含む。しまりよく固い。
2. 暗褐色土 φ1mmの白色軽石を含む。φ3～10cmの小石をまばらに含む。しまりよく固い。
3. 黄褐色土 2にロームが混じった土。φ3～5cmの小石を多く含む。しまりよく固い。

14号土坑出土遺物



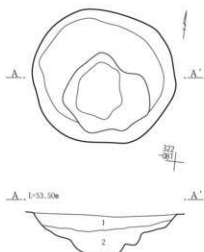
14号土坑

1. 黒褐色土 φ5～10mmのロームブロックとローム粒を少量含む。かたくしまりあり。
2. 黄褐色土 φ10～20mmのロームブロックを多量、φ40～50mmのロームブロックを少量含む。かたくしまりあり。



第49図 12～15号土坑平・断面図、14・15号土坑出土遺物

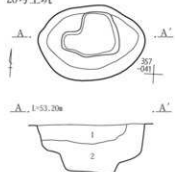
16号土坑



16号土坑

1. 暗褐色土  $\phi$ 1mm以下の砂粒、黒褐色粒子を少量、ローム粒子をやや多く含む。粘性・しまり強い。
2. 黄褐色土 ローム崩落土をベースにし砂礫・小石をやや多く含む。粘性・しまりやや強い。

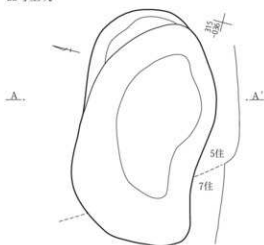
20号土坑



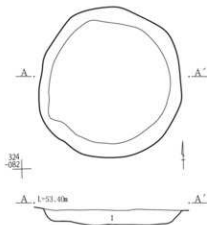
20号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒を含む。
2. 暗褐色土 ロームブロックを含む。粘性ややあり。

22号土坑



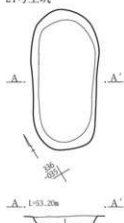
17号土坑



17号土坑

1. 暗黒褐色土  $\phi$ 1mm以下の砂粒、黒褐色粒子をやや多く含む。粘性強く、しまりはやや弱い。

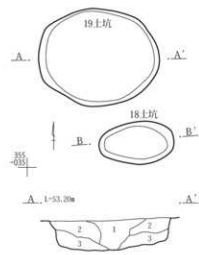
21号土坑



21号土坑

1. 暗褐色土  $\phi$ 1~3mmの埴土粒・ローム粒を含む(各5%程度塊状)。しまりゆるくボソボソしている。

18・19号土坑



19号土坑

1. 黒色土 灰黄褐色土ブロック、ローム粒を含む。
2. 暗褐色土 黒褐色土ブロック、ローム粒を含む。
3. 褐色土 ロームブロックを含む。しまりややゆるい。

18号土坑

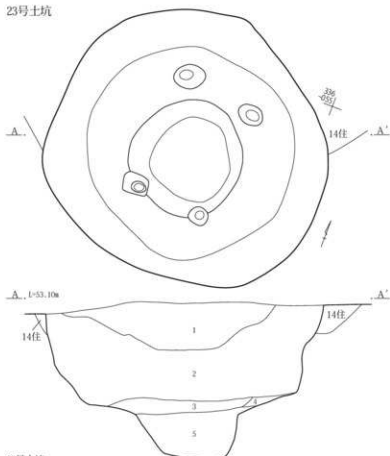
1. 黒色土 灰黄褐色土ブロック、ローム粒を含む。
2. 暗褐色土 黒褐色土ブロック、ローム粒を含む。
3. 褐色土 ロームブロックを含む。ややボソボソしている。



第50図 16～22号土坑平・断面図

第3章 調査の成果

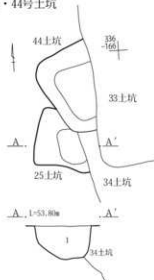
23号土坑



23号土坑

1. 暗褐色土 小礫 (φ0.5~1cm, 5%程度)、ローム粒、炭化物粒を含む。
2. 暗褐色土 ロームブロック (φ1cm, 3%程度)、ローム粒 (15%程度)、炭化物粒を含む。しまりよし。粘性ややあり。
3. 黒褐色粘質土 ロームブロック (φ1cm)、ローム粒 (各3%程度) を含む。しまりよし。粘性あり。
4. 暗褐色土 ロームブロック (φ1cm, 5%程度) を含む。粘性ややあり。
5. 暗褐色土 ロームブロック (φ1~1.5cm, 20%程度頭状) を含む。しまりよし。粘性ややあり。

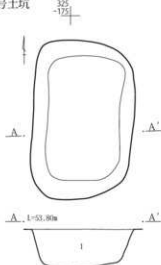
25・44号土坑



25号土坑

1. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5~1cm) を含む。粘性ややあり。しまりやや弱い。

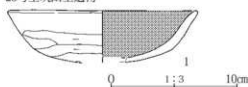
26号土坑



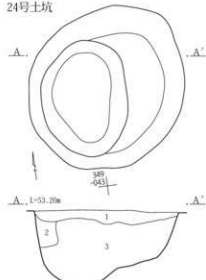
26号土坑

1. 暗褐色土 ロームブロック (φ1~3cm)、ローム粒を含む。粘性・しまりともややあり。

23号土坑出土遺物



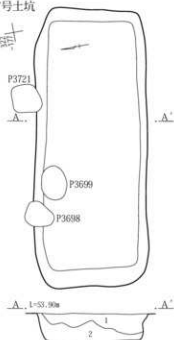
24号土坑



24号土坑

1. 暗褐色土 褐色土ブロック (φ1cm)、白色粒子、炭化物粒を含む。
2. 褐色土ブロック
3. 黒色土 白色粒子を含む。粘性ややあり。

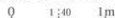
27号土坑



27号土坑

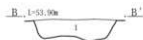
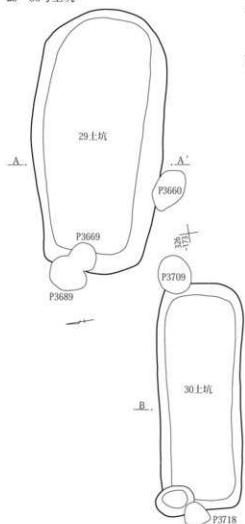
1. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5~1cm)、ローム粒を含む。しまりやや弱い。
2. 暗褐色土 ロームブロック (φ1~5cm)、ローム粒を多量に含む。しまりやや弱い。

第51図 23~27・44号土坑平・断面図、23号土坑出土遺物





## 29・30号土坑



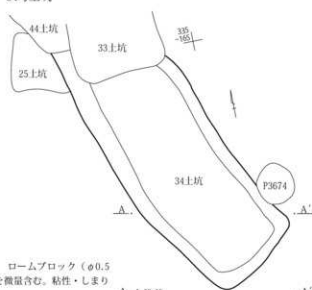
## 29号土坑

1. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5～3cm), ローム粒を少量含む。粘性・しまりとも中。

## 30号土坑

1. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5～3cm), ローム粒を少量含む。粘性・しまりとも中。

## 34号土坑

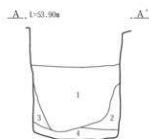
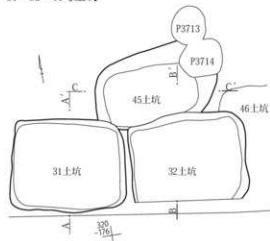


## 34号土坑

1. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5～1cm) を微量含む。粘性・しまりとも中。
2. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5～2cm), 少量のローム粒を含む。粘性・しまりとも中。
3. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5～1cm) を少量含む。粘性・しまりとも中。

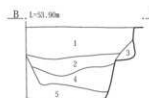


## 31・32・45号土坑



## 31号土坑

1. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5～1cm) を少量、ローム粒をやや多く含む。粘性中。しまり弱。
2. 黒褐色土 ロームブロック (φ0.5～1cm), ローム粒を少量含む。粘性中。しまり弱。
3. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5cm), ローム粒を微量含む。粘性中。しまり弱。
4. 暗褐色土 ローム主体。粘性中。しまりやや強。



## 32号土坑

1. 暗褐色土 ロームブロック (φ1～3cm), ローム粒を含む。粘性・しまりとも中。
2. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5～1cm) を多く、ローム粒をやや多く含む。粘性やや強。しまりやや弱。
3. 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性中。しまりやや弱。
4. 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5～1cm), ローム粒を多量に含む。粘性やや強。しまりやや弱。
5. 暗褐色土 ロームブロック (φ1～5cm) と、多量のローム粒を含む。粘性やや強。しまり中。

## 45号土坑

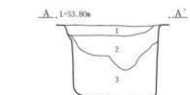
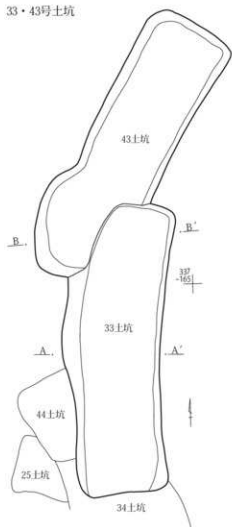
1. 暗褐色土 ロームブロック (φ1cm) を少量含む。粘性中。しまりやや弱。



0 1:40 1m

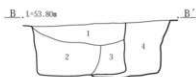
第52図 29～32・34・45号土坑平・断面図

33・43号土坑



33号土坑

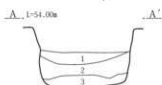
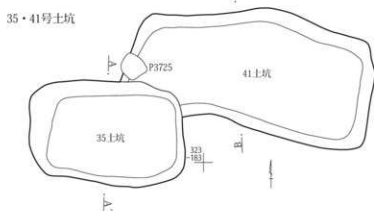
1. 暗褐色土 ロームブロック(φ0.5~1cm)、ローム粒を微量含む。粘性・しまりとも中。
2. 暗褐色土 ロームブロック(φ0.5~2cm)、多量のローム粒を含む。粘性中、しまりやや弱。
3. 暗褐色土 ロームブロック(φ0.5~2cm)、ローム粒を多量を含む。粘性中、しまりやや弱。



43号土坑

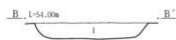
1. 暗褐色土 ロームブロック(φ0.5cm)、ローム粒を少量含む。粘性・しまりとも中。
2. 暗褐色土 ロームブロック(φ0.5cm)を少量、ローム粒をやや多く含む。粘性・しまりとも中。
3. 暗褐色土 ロームブロック(φ3~5cm)をやや多く含む。粘性・しまりとも中。
4. 暗褐色土 ロームブロック(φ0.5~3cm)を少量含む。粘性・しまりとも中。33号土坑。

35・41号土坑



35号土坑

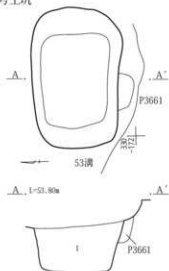
1. 暗褐色土 ローム粒を微量含む。粘性・しまりとも中。
2. 暗褐色土 ロームブロック(φ0.5cm)、小礫を微量含む。粘性・しまりとも中。
3. 暗褐色土 ローム粒。小礫を少量含む。粘性・しまりとも中。



41号土坑

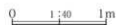
1. 暗褐色土 ロームブロック(φ0.5cm)を微量含む。粘性・しまりとも中。

38号土坑

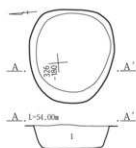


38号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性・しまりともやや強。



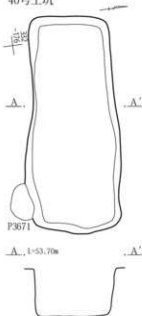
39号土坑



39号土坑

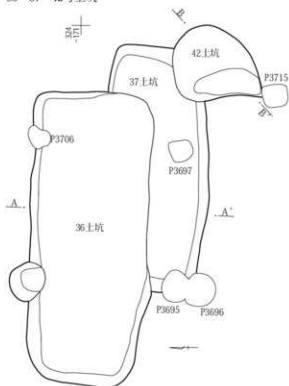
1. 暗褐色土 ローム粒を微量含む。粘性中、しまりやや強。

40号土坑



第53図 33・35・38~41・43号土坑平・断面図

36・37・42号土坑



## 36・37号土坑

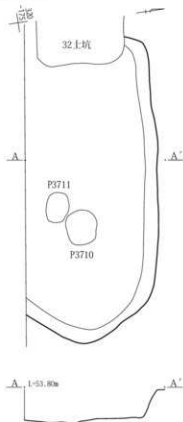
1. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 0.5 \sim 2\text{cm}$ )、ローム粒をやや多く含む。粘性・しまりとも中。36号土坑。
2. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 0.5 \sim 1\text{cm}$ ) を少量含む。粘性・しまりとも中。36号土坑。
3. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 0.5 \sim 1\text{cm}$ )、ローム粒を少量含む。粘性・しまりとも中。37号土坑。
4. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 0.5\text{cm}$ ) を少量含む。粘性・しまりとも中。37号土坑。



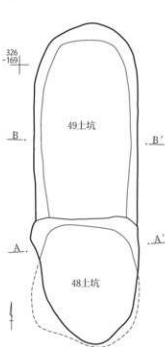
## 42号土坑

1. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 0.5 \sim 1\text{cm}$ )、白色粒子 ( $\phi 1\text{mm}$ ) を微量含む。粘性・しまりとも中。
2. 黒褐色土 ローム粒を少量含む。粘性・しまりとも中。
3. 黒褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性・しまりとも中。
4. 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性・しまりとも中。

46号土坑

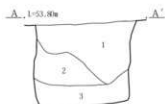


48・49号土坑



## 49号土坑

1. 黒褐色土 ロームブロック ( $\phi 0.5 \sim 1\text{cm}$ ) を少量含む。粘性中。しまりやや強。
2. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 2 \sim 5\text{cm}$ ) を少量含む。粘性・しまりともやや強。
3. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 0.5\text{cm}$ ) を微量含む。粘性・しまりともやや強。
4. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 1\text{cm}$ ) を微量含む。粘性やや強。しまり強。



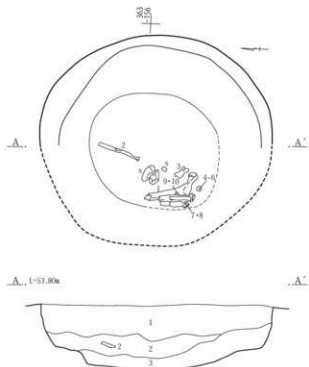
## 48号土坑

1. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 0.5 \sim 3\text{cm}$ )、ローム粒をやや多く含む。粘性・しまりとも中。
2. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 0.5 \sim 1\text{cm}$ )、ローム粒を少量含む。粘性・しまりとも中。
3. 暗褐色土 ロームブロック ( $\phi 0.5\text{cm}$ ) を微量含む。粘性・しまりとも中。

第54図 36・37・42・46・48・49号土坑平・断面図

## 第4節 墓

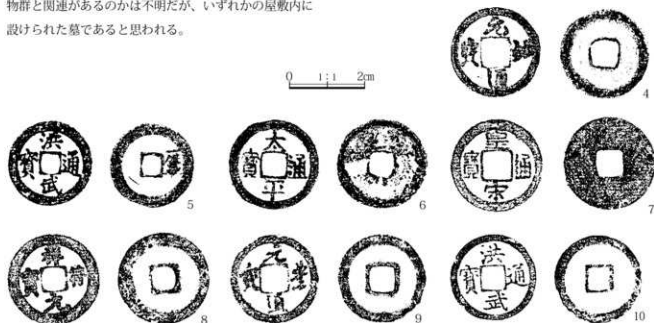
墓は1号墓が1基あるのみで、Ⅱ区北西部から見つかった。この墓は3号窟地と重複しており、遺構確認面ではその存在に気がつくことができなかった。その後3号窟地を掘り下げていく途中で人骨が出土したことから、墓の存在に初めて気づき、改めて付近を精査して調査を行うこととしたものである。残念ながら墓の西半分は掘り下げの過程でほとんど破壊してしまいましたが、残存部分の形状から、ほぼ円形の土坑であったと推定できる。規模は径1.22mで、深さは0.33mである。人骨(1~3)は残りが悪く、西半分に部分的に残っていただけであり、歯は見つからなかった。第4章第4節で報告するように、小柄な体格の成人の骨だと思われる。出土遺物は銅銭7枚のみで、土器・陶器は全く出土していない。銅銭は2、3枚ずつがくっついた形で、骨の間から出土した。銭種は太平通寶(北宋・976初鑄)、祥符元寶(北宋・1008初鑄)、皇宋通寶(北宋・1038初鑄)、元豐通寶(北宋・1078初鑄)、元祐通寶(北宋・1086初鑄)が各1枚と、洪武通寶(明・1368初鑄)が2枚であり、明銭が最も新しい。そのため、本墓の年代は14世紀後半以降ということになる。この場所は掘立柱建物H群のすぐ南、G群のすぐ西側であり、中世の掘立柱建物に囲まれた位置にあるが、墓のある部分はちょうど建物が空白な部分にあたっている。どの建物群と関連があるのかは不明だが、いずれかの屋敷内に設けられた墓であると思われる。



1号墓

1. 黒色土・ローム粒(φ2~3mm)、白色粒軽石(φ1~2mm)を少量、炭化物粒(φ2~4mm)を微量含む。固く締まっている。
2. 黒褐色土・ローム粒(φ1~3mm)を多量、ロームブロック(φ5~15mm)・骨片・骨粉を少量含む。1より柔らかい。
3. 黒色土・ローム粒、白色軽石(φ1~3mm)を少量含む。骨片を含む。1より柔らかい。

0 1:20 50cm



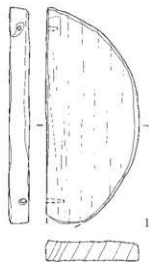
第55図 1号墓平・断面図、出土遺物

## 第5節 井戸

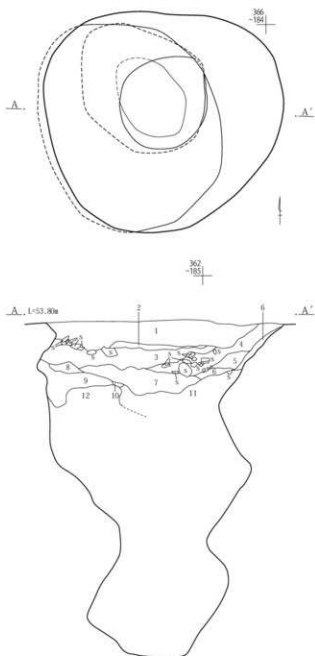
井戸は1号井戸の1基のみで、1-2区中央北側やや東寄りにある。この北側から西にかけては掘立柱建物C群が広がっており、おそらくこれらの建物群に伴う井戸であると思われる。確認面における大きさは3.75×3.55mの不整形円で、その下では急激に狭まり、最も狭いところでは径1.4mほどの円形となり、底面は1.43×0.95mの楕円形となる。深さは確認面から計測して5.30mである。

断面形をみると、確認面から1.50～3.50mに大きなアグリ、3.80～5.00mまでに小さなアグリが見られる。大きなアグリの下半分あたりに湧水層があり、現在でも非常に豊富な地下水が湧き出していた。その湧水量は、調査時の排水ポンプの稼働状況から、約70%分と見られる。井戸の下部2/3位は礫・砂の多い土層であり、その上にやや砂質のロームがのっているが、湧水量が多いために井戸の壁は崩れやすいと考えられ、実際埋土には壁が大きく崩壊した様子が見て取れた。

内部からは曲物の底板(1)の他、多くの中世陶器(2～20)、須恵器甕(21)、石鉢(22)、石臼(23)、茶臼(24)が出土した。中世陶器の年代は14～15世紀が多いが、16、17世紀にまで下る可能性のある播磨鉢も出土しており、最終的に埋没したのはその頃である可能性が高い。その他馬形埴輪1点、円筒埴輪2点を第9節で報告している。



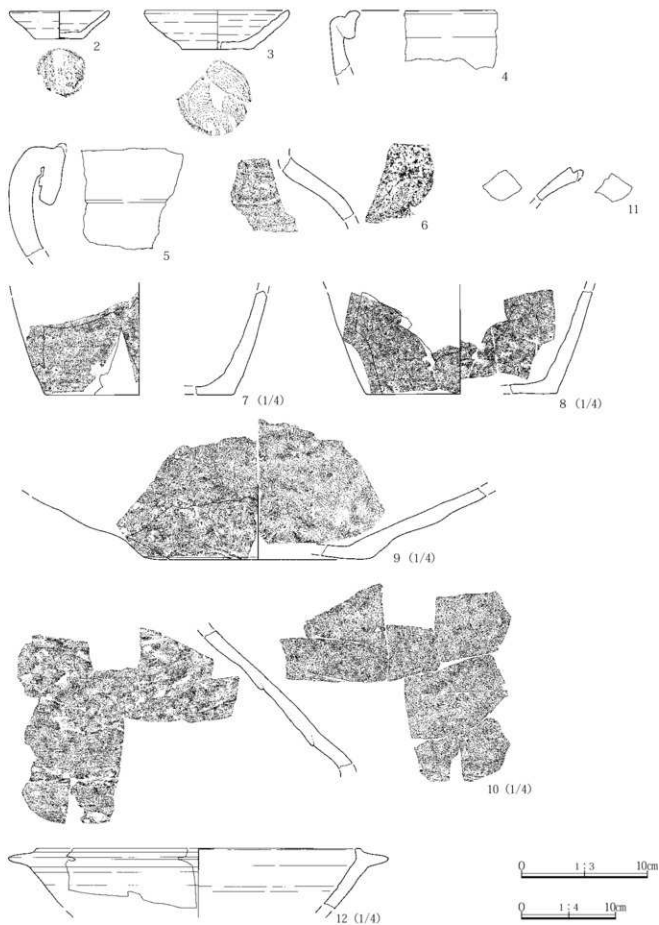
第56図 1号井戸平・断面図、出土遺物(1)



## 1号井戸

1. 暗褐色土 φ1～5mmの砂粒、φ1～5cmの礫を少量含む。
2. 暗褐色土 φ1～2mmの黄褐色粒子を少量含む。1よりやや明るい色調。
3. 暗褐色土 φ1～3mmの砂粒、φ1～5cmの礫を少量含む。1より暗い色調。
4. 暗褐色土 砂粒・礫を大量に含む。
5. 暗褐色土 φ1～30mmの砂粒・礫を多く含む。
6. 暗褐色土 黄褐色粒子、ローム粒を多量に含む。
7. 明黄色土 ローム粒、ロームブロックの堆積層。
8. 明黄色土 7に暗褐色土が多く混入した層。
9. 暗褐色土 φ1mm以下の砂粒・礫を少量含む。
10. 明黄色ロームブロック
11. 暗褐色土 部分的にローム粒、ロームブロックを大量に含む。φ1～5mmの砂粒・砂礫をや多く含む。目立った大きな礫の混入はない。
12. 明黄色土 砂質ローム上の堆積。

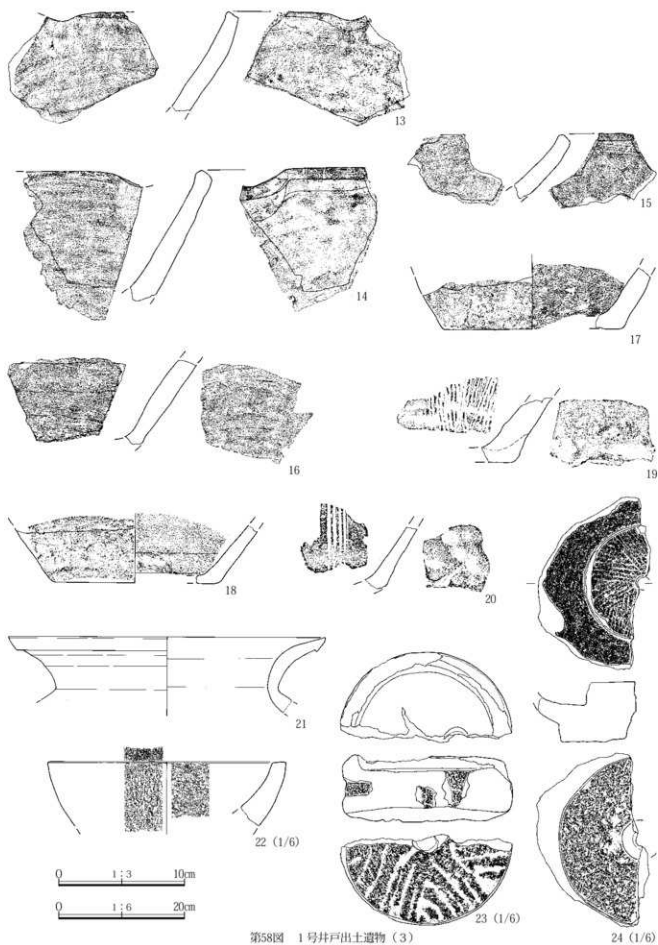
第3章 調査の成果



第57図 1号井戸出土遺物(2)

0 1:3 10cm

0 1:4 10cm



第58図 1号井戸出土物(3)

## 第6節 溝・窪地

溝は全域で数多く調査したが、そのうち推定東山道駅路に関わるものは次節で取り上げるので、本節で取り上げるのは合計38条と、2つの窪地である。

## 1号溝 (第59図、第49表、P.L.22・61)

I-1区南西にある浅い溝で、一部が調査区にかかっているだけであるが、2号溝と走行方向が近く、形状が類似しているので注目される溝である。

**位置** X=36377~383, Y=-40249~257。 **重複遺構** なし。 **形態** ごく一部だけが調査区にかかっているものと思われるので、全体の形状は不明。東端部分は隅が直角に近いので、長方形をしているように見える。

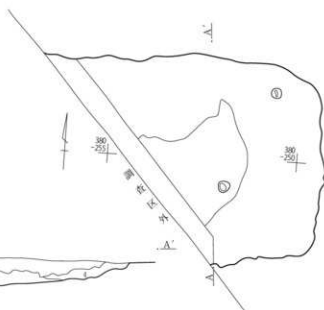
断面形状は浅い皿状である。 **走行方向** N-0°。

**規模** 長さは北辺部で測って7.50m、幅5.50m、深さ0.38m。 **埋土の状態** 軽石を含む黒褐色土、灰褐色土で埋まっている。 **遺物** 報告するのはすべて土師器高坏で5点ある。その他、土師器坏類50g、同裏類550gが出土している。 **所見** 走行方向、形状が2号溝に似ており、両者が一組になって区画を作っている可能性があるが、2号溝埋土上層にはAs-Bを多く含む層があり、1号溝とは大きく異なっている。1号溝にAs-Bを含む層がないのは、上部を削平されたためとも考えられるが、調査した範囲がごく少なく、その点について確定できないので、2号溝との関係は不明である。出土遺物に高坏が多く、それらは6世紀代と考えられるが、同様な遺物は2号溝でも出土しており、溝の年代を示すものではないと思われる。

## 1号溝

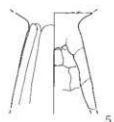
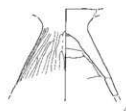
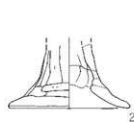
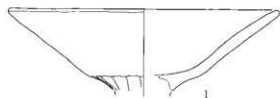
1. 黒褐色土 やや粘性あり。まじりけ少ない。
2. 灰黄褐色土
3. 黒褐色土 粘性少ない。φ1mmの軽石をまばらに含む。
4. 黒褐色土 ロームブロック含む。
5. 灰褐色土 黒褐色土含む。φ1mmの軽石をまばらに含む。

A, L=54.30m



0 1:50 2m 断面図

0 1:100 5m 平面図



0 1:3 10m

第59図 1号溝平・断面図、出土遺物



## 2号溝 (第60・61図、第49表、P.L.23・61)

1-1区東側にある。この区は東側では調査範囲が狭くなるため、一部しか調査できなかった。

**位置** X=36377~386, Y=-40222~40240。 **重複遺構** なし。 **形態** 調査区が狭いために南北が切られており、全体の形状は不明だが、L字形の溝らしい。東端部では南側に伸びる部分もあるが、そこは浅くなっており、南側に位置する1-2区でも延長部分は確認されていないので、すぐ途切れてしまうものであろう。断面形状はやや深い皿状で、北に曲がる部分はより深くなる。

**走行方向** 西側部分は $N-85^{\circ}-E$ 。東端部で北に曲がり、その部分はごく一部の調査にとどまるが $N-5^{\circ}-W$ と推定され、ほぼ直角に曲がっていることになる。

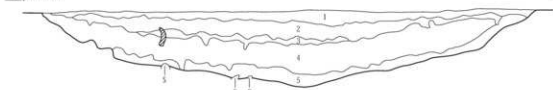
**規模** 長さは東端から西端まで17.3m。幅は西側東西方向部分で5.00~5.80m。深さは西側東西方向部分の断面図を実測したところで0.59m、北端の最も深い部分で1.02mである。 **埋土の状態** 上層にAs-Bを含む層が厚く堆積している。断面図(A-A')の3はAs-Bの層だが、二次堆積であるらしい。 **遺物** 土師器環2、同高環5、同糞1がある。その他、土師器環類760g、同糞類3910g、須恵器環類1点、同糞類1点が出土している。 **所見** 西側の東西方向の部分は1号溝によく似ており、関連が注目されるが、先述の通り1号溝にはAs-Bが見られず、同時存在か否かは確定できない。1号と2

平面図 0 1:100 5m

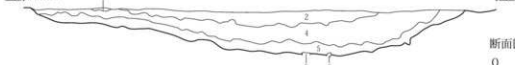
## 2号溝

1. 暗灰褐色土 AS-Bを大量に含む。
2. 黒褐色土 AS-Bを大量に含む。
3. AS-B 黒色土を含む。2次堆積らしい。
4. 黒色土  $\phi 5\text{mm}$ の軽石、 $\phi 5\sim 20\text{mm}$ の小石をまばらに含む。
5. 暗黄褐色砂質土  $\phi 10\sim 50\text{mm}$ の小石を含む。黄褐色砂を含む。

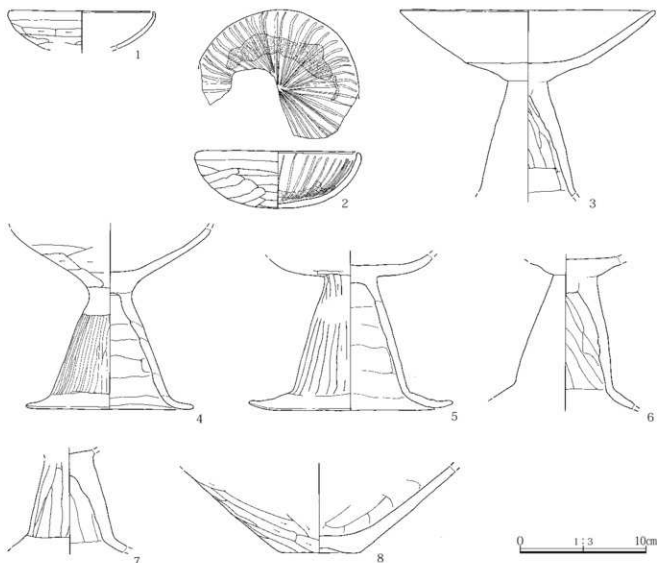
A, l=54.10m



B, l=54.10m



第60図 2号溝平・断面図



第61図 2号溝出土遺物

号が一連のものであるとすると、2号溝東端部は直角に曲がっていると推定されるので、何らかの区画の南東隅である可能性がある。高環5点は1号溝同様6世紀代と思われるが、坏は7～8世紀のものと思われる。上層にAs-Bを含むので、最終的に埋もれたのは12世紀以降である。

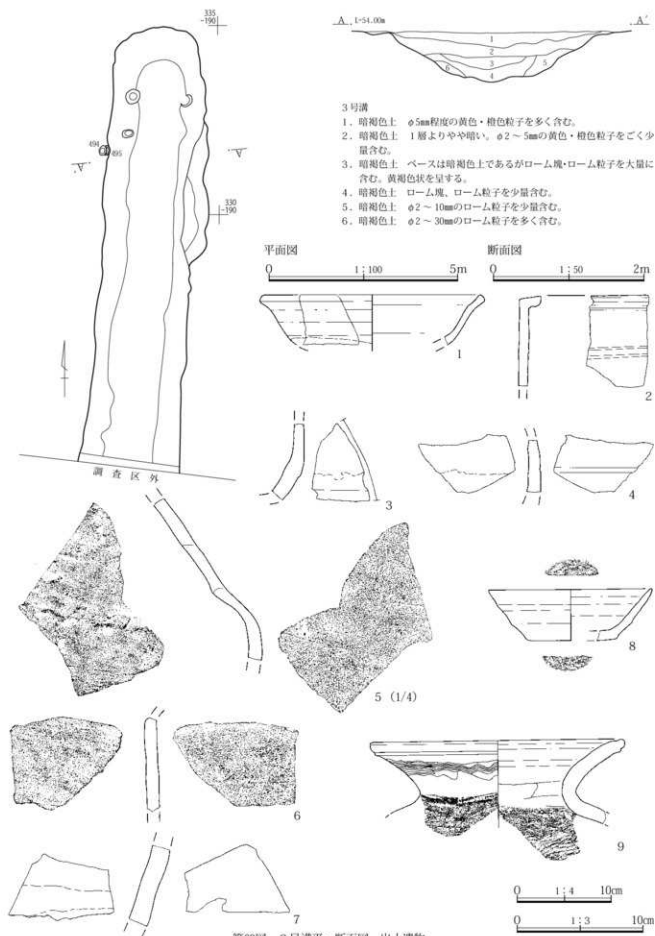
### 3号溝 (第62図、第50表、P.L.23)

1-2区南部と1-4区西端付近にまたがる位置にある。1-4区では50号溝として調査してしまっただが、ここでは3号溝として報告し、50号溝は欠番とする。直線的に伸び、深さも深い溝であるが、調査区に11.5mかかるのみで北側は途切れ、南側は調査区外に延びている。

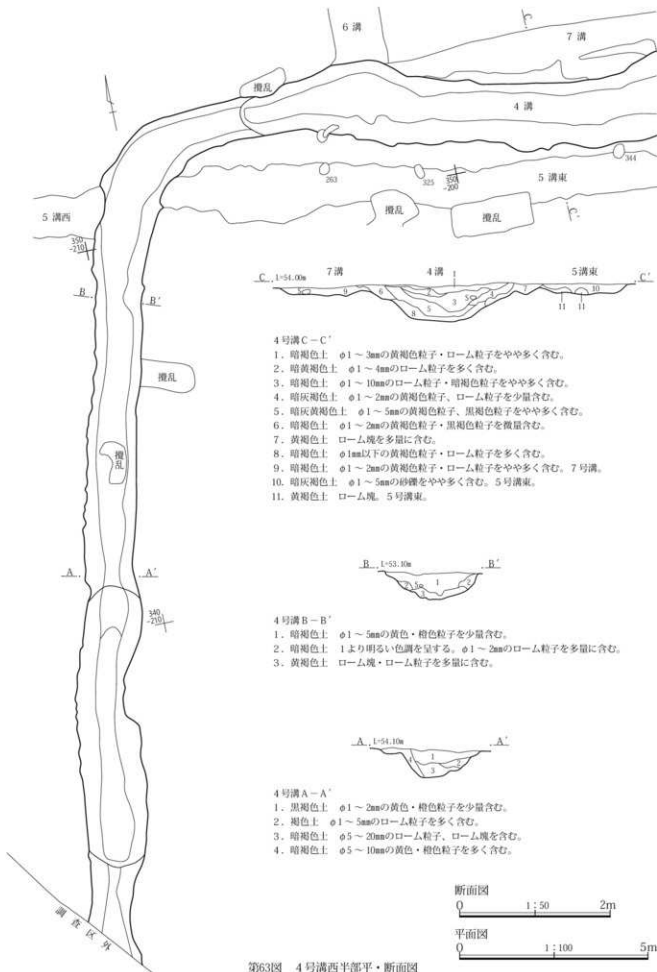
**位置** X=36323～335、Y=-40190～194。 **重複遺**

**構** P494・495と重複するが、わずかな部分であり新旧関係は不明。 **形態** ほぼ直線的に延びる。東側に壁の崩落が見られるが、それ以外は壁も直線的に掘られて乱れがなく、しっかりした溝である。断面は逆台形である。

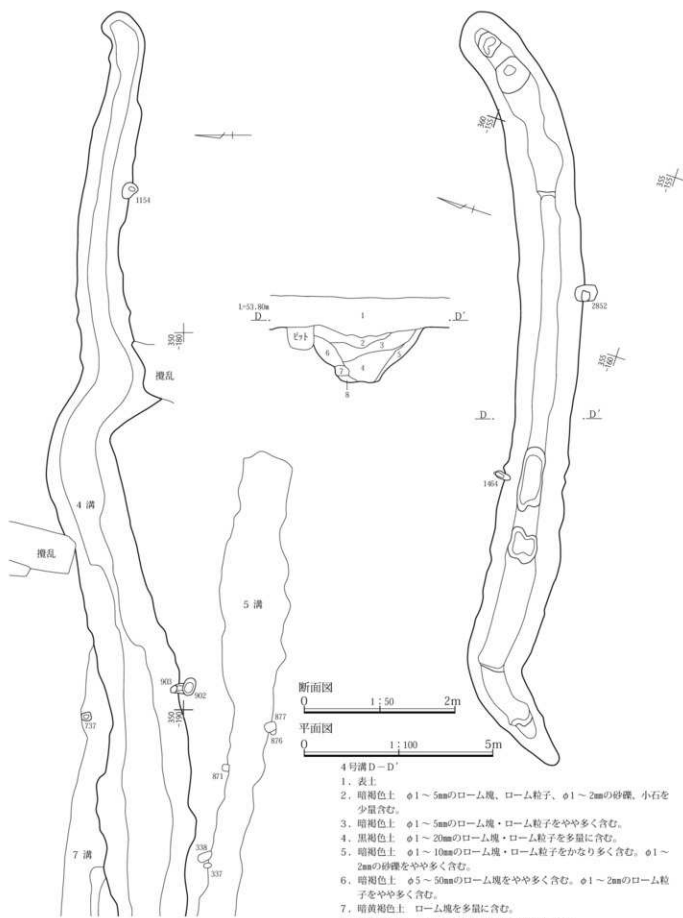
**走行方向** N-5°-E。 **規模** 長さ11.50m、幅2.34～2.82m、深さ0.64m。 **埋土の状態** 自然堆積だと思われ、土塁の崩壊土の流れ込みなどは認められなかった。 **遺物** 中世陶器を含めてやや多くの遺物が出土している。報告するのは古瀬戸皿1、桶3、常滑甕1、在地系の内耳鍋1、片口鉢1、皿1、須恵器甕1であり、家形埴輪1点は第9節で報告している。その他、中世陶器10点、土師器坏類2点、同契類200g、須恵器坏類1060g、円筒埴輪1点が出土している。 **所見** 中世の遺物が比較的多く出土しているが、遺物のうち最も新し



第62図 3号溝平・断面図、出土遺物



第63図 4号溝西部半部平・断面図



※前ページ右上へ

第64図 4号溝中央部、東端部平・断面図

いは古瀬戸後Ⅳ期（15世紀中頃～後半）であり、この溝はそれ以後に埋もれたものである。本遺跡で見ついている溝の中では最も直線的で、深さもあり、しっかりとした溝であるため、重要な区画溝であると思われるが、南側が調査区外となるため、どのような区画であるかは明らかにしがたい。掘立柱建物A群の東にあるので、その東を区画するものである可能性が高い。ただし、溝の周囲にも多くのピットがあるので、何棟かの掘立柱建物と重複していることが想定される。そのため、この付近では区画に何時期かの変遷があったものと思われる。

#### 4号溝（第63～67図、第50・51表、P.L.23～25・62）

I-2区の南西部からII区にまで延びる溝である。東端近くでは途切れている部分があるが、走行方向と埋土の特徴から同一の溝と判断した。

**位置** X=36331～362、Y=-40152～214、**重複遺構**

5号溝東、阿西、6、7号溝、3号窪地と重複する。

5号溝西とは新旧関係が不明だが、5号溝東、6、7号溝、3号窪地より新しいことは断面によって確認した。

**形態** 調査区南辺から北に約20m直線的に延び、東にほぼ

直角に曲がった後、やや北寄りに向きを変えながら緩やかに蛇行して延びている。幅には大きな変化はない。断面は逆台形あるいは椀形であり、幅は狭いものはっきりとした溝である。

**走行方向** 屈曲、蛇行を何回か繰り返す。西側の南北に延びる部分はN-12°-E。ほぼ

直角に曲がり、N-78°-Wになった後やや北よりに向きを変えN-77°-Eとなり、さらに蛇行しながら東へ

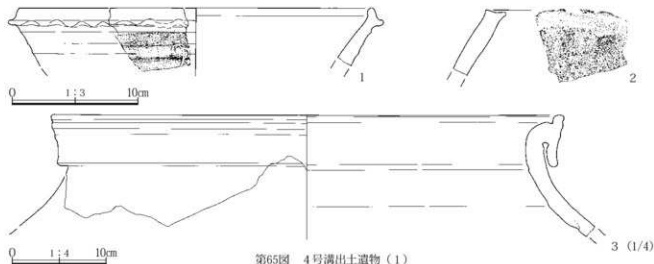
向かう。東端部分は弓なりに曲がっているが、全体とし

てN-74°-Eである。**規模** 西側の南北に延びる部分は22.2mだが、南は調査区外に延びる。東西に延びる部分は東端から西端まで直線距離で37.4mである。幅は1.06～2.53m。深さは西側～中央部の最も深いところで0.60m。東端部分の最も深いところは0.72mである。

**埋土の状態** ローム粒を多く含む土で埋没している。断面を見ると、A-A'、D-D'のように掘り直しが認められる部分があり、少なくとも1回の掘り直しがあったことが分かる。

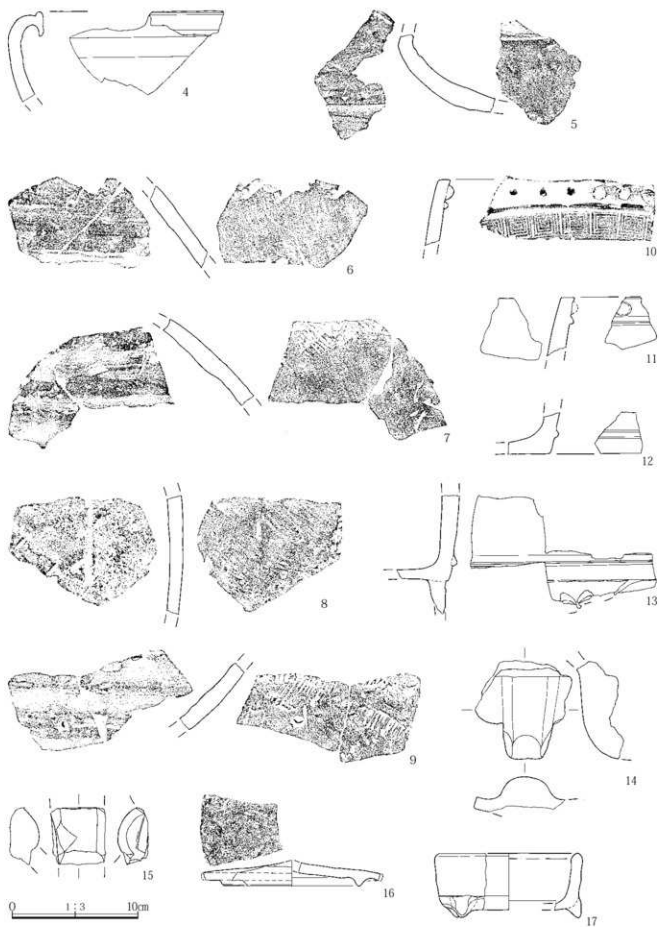
**遺物** 古代～近世の比較的多くの遺物が出土している。報告するのは、古瀬戸盤類1、常滑片口鉢1、同裏2、渥美甕5、搬入系の火鉢6、在地系片口鉢など17、石鉢1、板碑1である。この他、常滑甕15点、在地系土器4点、近世陶磁器7点、土師器環類940g、土師器裏類3750g、須恵器環類3点、須恵器裏類5720g、形象埴輪3点、円筒埴輪610gが出土している。

**所見** 古代～近世の遺物が出土しているが、他の遺構に比べて中世の遺物が多く、中世の溝であると考えることができる。近世の遺物は小破片であり、付近に攪乱も多く存在することから、混入であると思われる。掘立柱建物A・B・C・H群の間を通っているの、それらを区画する溝であると思われ、本遺跡の中世屋敷遺構を考える上で重要な溝である。溝の周囲にピットが少ないことから考えて、区画としての役割を長期間果たしていたらしく、その間に少なくとも1回の掘り直しを行っている。中世陶器には12世紀から16世紀までのものがあり、廃絶したのは中世末と考えられる。



第65図 4号溝出土遺物(1)

3 (1/4)



第66图 4号溝出土遺物(2)

第3章 調査の成果



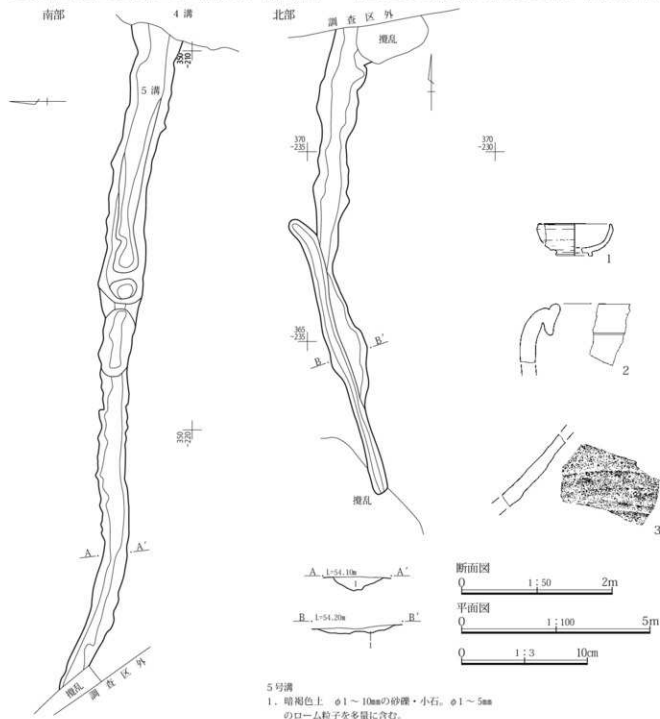
第67図 4号溝出土遺物(3)



## 5号溝西 (第68図、第51表、P.L.25・26)

5号溝と名付けたのは1-2区の中央を東西に縦断する長い溝であり、西端部で北に大きく屈曲する。その西端部では攪乱によって破壊されて間が途切れているが、形態と土層が共通することから同一のものと判断し、全体を一連のものとして調査を行った。しかしその後5号溝とした溝の東半部が、推定東山道駅路の南側溝であることが判明した。とすれば、その側溝が大きく北に屈曲

してしまうのは不自然である。そこで再検討を行ったところ、4号溝の東西で走行方向にずれがあることが分かり、4号溝を境として東西の溝は別のものである可能性が高いものとするに至った。そのため、ここではこの4号溝を境として東側を5号溝東、西側を5号溝西として報告することにし、さらに5号溝西は間に途切れている部分があって方向が全く異なるため、4号溝から調査区西壁までの東西方向の部分を5号溝西・南部、北に屈



第68図 5号溝西平・断面図、出土遺物

### 第3章 調査の成果

曲した南北方向の部分を5号溝西・北部と呼称する。ただし、遺物は5号溝全体を一連の遺構として取り上げてしまったために分離することができず、5号溝西出土として本項で報告する。

**位置** X=36350～374、Y=-40209～236。 **重複遺構** 東端で4号溝と重複する。新旧関係は不明である。

**形態** 5号溝西・南部は東西方向で緩やかに蛇行し、西端部分で北に大きく曲がったあと攪乱で途切れる。北部は南北方向となるが、中央付近で2本の溝が接合したような形態である。さらに北は調査区外となるものの、1-1区では延長部分を確認できなかった。断面は浅い皿状のところが多いが、東端の4号溝に近い部分では逆台形である。 **走行方向** 南部はN-71°～89°-W、北部は途中で方向が異なり、南半はN-17°-W、北半はN-7°-E。 **規模** 南部は長さ17.30m、幅0.58～1.20m、深さは最大で0.22m。北部は北端から南端まで直線距離で計測して12.30m、幅は0.30～1.03m、深さは0.03～0.11m。 **埋土の状態** 大部分のところは浅く、ローム粒子を多く含む暗褐色土1層で埋まっている。

**遺物** 5号溝東も含め、出土遺物はやや少ない。報告するのは美濃小碗1、常滑甕1、尾張型片口鉢1である。その他、肥前磁器片1点、土師器環類350g、同裏類1790g、須恵器環類90g、同裏類5点が出土している。

**所見** 出土している中世以降の遺物が5号溝東・西のどちらのものかは断定できないが、東は推定東山道駅路の側溝であるため、これらの中世遺物は5号溝西から出土した可能性が高い。美濃小碗は18世紀後半～19世紀前半のものであり、他に肥前磁器片も出土していることから、最終的に埋没したのは近世末にまで下る可能性がある。しかし、中世のものと考えられる4号溝や6号溝と組み合わせるとほぼ正方形の区画となるので、この溝が掘削されたのは中世にまで遡ることも考えられる。

#### 6号溝 (第69・70図、第51・52表、P.L.26・62)

1-2区北半部にある南北方向の溝である。南は4号溝から始まり、北は調査区外へ延びる。掘立柱建物C群の西部を通り、掘立柱建物と重複している。

**位置** X=36353～378、Y=-40197～203。 **重複遺構** 南端で4号溝、北部で14号溝と重複する。14号溝とは新旧関係不明だが、4号溝よりは古い。C群西の30号

掘立柱建物とも重複するが、新旧関係は不明である。

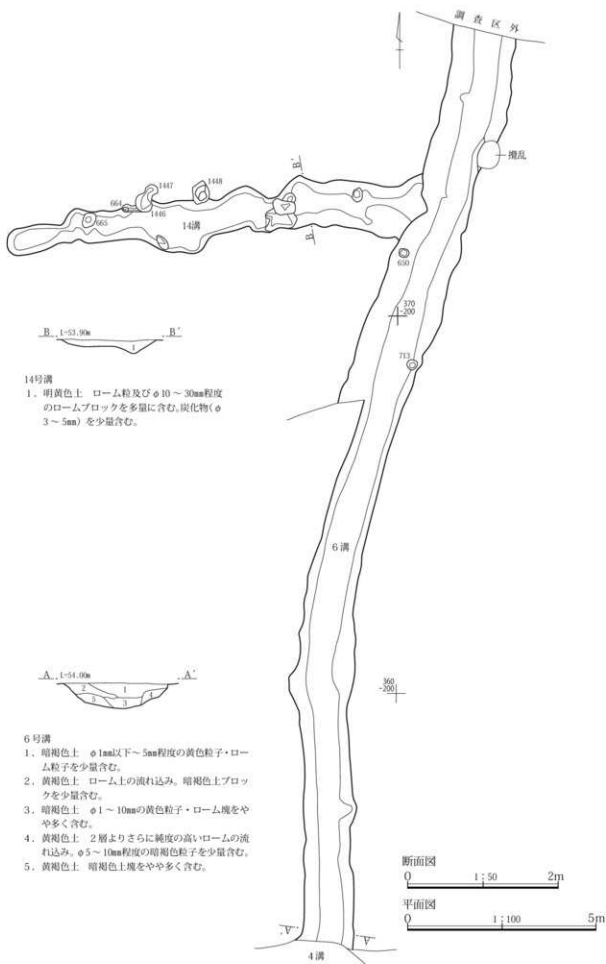
**形態** 緩やかに屈曲しながら南北に延びる。断面は浅い椀状。 **走行方向** 屈曲があり、南部はN-2°-W、中央部はN-17°-E、北端部はN-5°-E。 **規模** 南端から北端まで直線距離で24.50m。幅は、北半部1.40～1.85m、南半部1.02～1.70mで、中央部付近から南は表面が削平されているので南半部は狭くなる。深さは最も深いところで0.52mである。底面のレベルは北に向かって緩やかに下がる傾向がある。 **埋土の状態** 不自然な埋没状態を示すので、掘り直しや人為的な埋め直しを行っていると思われる。 **遺物** 報告するのは古瀬戸御目付大皿1、常滑甕3、常滑壺1、在地系土器片口鉢1である。その他、常滑甕25点、在地系土器皿5点、近世の在地系焙烙・鍋6点、国産陶器1点、土師器環類4点、同裏類1120g、須恵器環類4点、同裏類840gが出土している。常滑甕類には1号井戸から出土したものと同一個体と思われるものが多い。 **所見** 中世遺物の出土が多く見られ、また少なくとも4号溝との重複部分では、中世の4号溝よりも古いことが確認できたことから、この溝も中世のものと考えられる。これらの遺物の年代は14世紀後半から15世紀後半と考えられる。しかし小破片ながら近世の遺物も見られるので、最終的に埋没したのは近世にまで下る可能性がある。掘り直しの痕跡が見られるのは長期間の使用を反映しているためであろう。C群東部の掘立柱建物群の西に位置し、その建物の中には溝の中央付近の走行方位と主軸方位が一致するものがあるため、その屋敷の区画溝としての役割が想定できる。西側の建物とは重複するが、229ページで述べるように、C群の東西は別の屋敷と考えられ、西側の建物が使用されていた時にはこの溝はなかったはずであり、そこに時期差を認めることができる。

#### 14号溝 (第69図、P.L.27)

6号溝の北部から西側に延びる短い溝である。4号溝や7号溝などと走行方位が近く、これも区画溝の一部であると思われる。

**位置** X=33371～374、Y=-40199～211。 **重複遺構** 東端は6号溝から発しているが、新旧関係は不明である。

**形態** 全体としてはほぼ直線的に延びるが、深さはごく浅く、幅に広狭があり、底面にも凹凸があるな



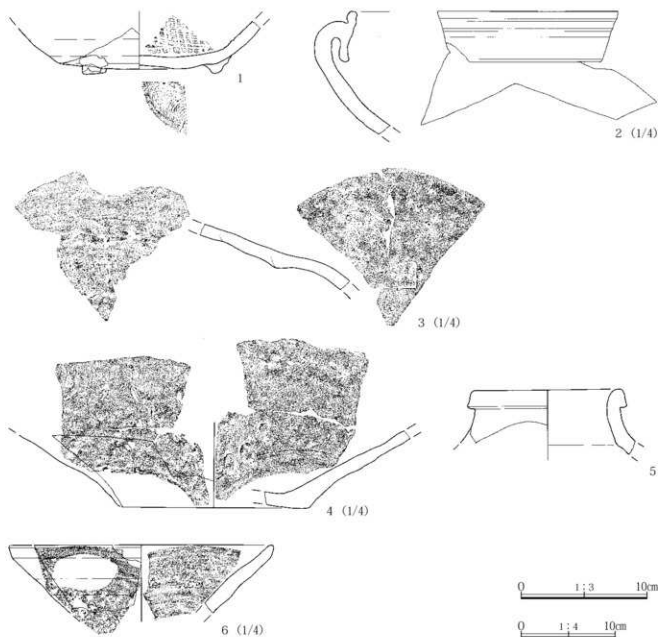
14号溝

1. 明黄色土 ローム粒及びφ10～30mm程度のロームブロックを多量に含む。炭化物(φ3～5mm)を少量含む。

6号溝

1. 暗褐色土 φ1mm以下～5mm程度の黄色粒子・ローム粒子を少量含む。
2. 黄褐色土 ローム上の流れ込み。暗褐色土ブロックを少量含む。
3. 暗褐色土 φ1～10mmの黄色粒子・ローム塊をやや多く含む。
4. 黄褐色土 2層よりさらに純度の高いロームの流れ込み。φ5～10mm程度の暗褐色粒子を少量含む。
5. 黄褐色土 暗褐色土塊をやや多く含む。

第69図 6・14号溝平・断面図



第70図 6号溝出土遺物

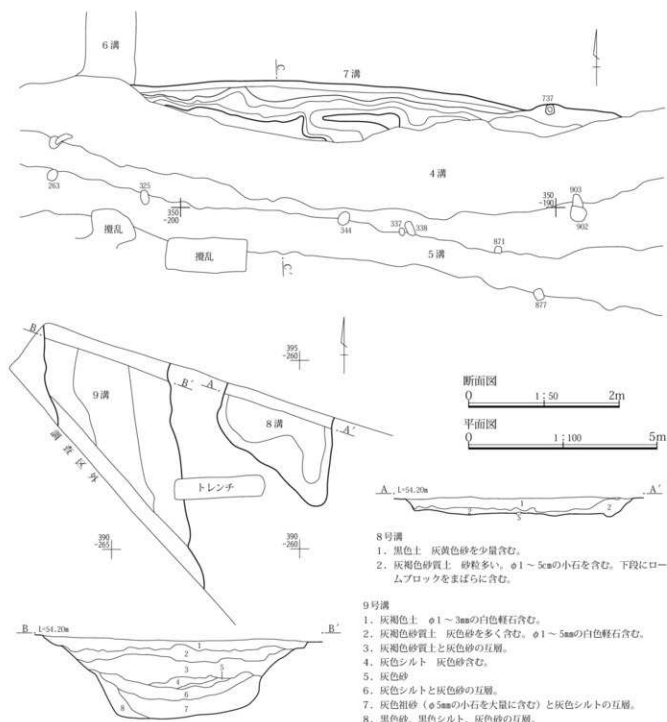
ど、しっかりした溝ではない。 **走行方向** N-85°-E。 **規模** 長さは11.10m。幅は広狭があり、0.46～1.42m。深さは最も深い所で0.20mである。 **埋土の状態** ローム粒・ロームブロックを多く含む土で埋没する。底面部付近しか残っていないため、掘り直しなどは確認できない。 **遺物** 出土遺物はない。 **所見** 出土遺物がないので時期の特定は難しい。しかし、6号溝の東には伸びていないことから、6号溝の存在を意識して作られているものと思われ、同時に存在していた時期があると考えられる。そのため、これも中世にまで溯る可能性が高い。4号溝の一部や7号溝などと走行方位

が近いので、この溝も何らかの区画であると思われる。

#### 7号溝（第71図、P.L.26）

1-2区中央付近にあり、4号溝の北側にわずかに残る溝である。

**位置** X=36351～354、Y=-40188～202。 **重複遺構** 東西両端で4号溝と重複する。本溝が古いことが断面で確認できる。 **形態** 緩やかに湾曲して東西に延びる。中央付近で南側に分かれる部分がある。断面は浅い皿状。 **走行方向** 緩やかに湾曲するが、東端と西端を結んだ線で計測してN-86°-W。 **規模** 東端と西端



第71図 7~9号溝平・断面図

の直線距離は13.00m。幅は0.52~1.10m、深さは最も深い所で0.22m。埋土の状態 底面付近しか残っていないため、掘り直しなどは確認できない。遺物 出土遺物はない。所見 出土遺物がないため時期の特定は困難であるが、4号溝よりも古いと推定され、中世のものと考えられる。走行方向が付近の溝と近く、この溝もある一時期の区画溝であった可能性が高い。

## 8号溝(第71図、P.L.26・27)

I-1区西端近くにあり、ごく一部分が調査区に掛かっているもので、北側は調査区外になる。

位置 X=36391~395, Y=-40259~263。重複遺構 なし。形態 北側が調査区外となるため不明。断面は浅い皿状で、底面は平坦である。走行方向 東西の壁の方向で計測してN-10°-E。規模 長さは2.42mで調査区境となる。幅は2.96m。深さは最も深い

ところで0.21m。埋土の状態 砂粒、小石を含む土で埋没している。掘り直しなどの痕跡は確認できない。

遺物 出土しているのは小破片のみで、土師器環類4点、同裏類2点が出土しているにすぎない。所見 ごく一部が調査区にかかっているだけなので詳細は不明であり、土坑である可能性もある。

#### 9号溝 (第71図、P.L.26・27)

I-1区西端にあり、深くしっかりとした南北方向の溝であるが、南北が調査区外となりごく短い部分が調査区にかかるだけである。

位置 X=36389~396, Y=-40262~267。重複遺構 なし。形態 南北が調査区外となってしまうが、ほぼ直線に伸びている。断面は逆台形。走行方向 N-7°-W。規模 長さ6.05m、幅3.02~3.35m、深さは最も深いところで1.21m。埋土の状態 砂を多く含む土で埋没している。中層以下はシルトと砂が細かい互層になっている部分が多く、豊富な流水があったものと考えられる。遺物 遺物はごく少なく小破片のみで、土師器環類1点、同裏類2点、須恵器環類1点があるにすぎない。所見 遺物が少なく時期を特定できないが、多くの流水があったと考えられ、用水路として使用されていた溝と考えられる。わずかに調査区にかかるのみであり、詳細は不明である。調査当時この溝の西側には、道路を挟んで五ヶ村用水がほぼ同じ方向に流れており、この溝がその用水の前身であった可能性も考えられる。

#### 16号溝 (第72図、第52表、P.L.27・62)

II区西側中央付近にある短い東西溝である。

位置 X=36340~344, Y=-40145~160。重複遺構 西端付近で6、7号土坑と重複する。本溝が新しいことは断面で確認した。東端付近では71号掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。形態 緩く弓状に湾曲している。断面は逆台形である。走行方向 西側はN-74°-E、東端近くはN-84°-W。規模 長さ14.92m、幅1.26~1.60m、深さは最も深いところで0.50mである。埋土の状態 ローム粒、ロームブロックを含む土で埋没している。掘り直しなどの痕跡は確認できない。遺物 出土遺物は少ない。報告するのは中世在地系土器の皿1、砥石1である。その他中世の在地

系土器皿3点、時期不詳の在地系土器18点、須恵器裏類530g、形象埴輪5点、円筒埴輪560gが出土している。

所見 出土遺物は少ないが、中世の遺物が出土していることから、中世の溝であると思われる。南側に掘立柱建物F群があり、その北側を区画する溝であろう。

#### 17号溝 (第72図、P.L.28)

II区南西部にある、短い東西溝である。

位置 X=36326~329, Y=-40140~150。重複遺構 西端部で11号土坑と重複する。新旧関係は不明。

形態 東西溝だが中央付近で屈曲する。底面には2ヶ所に段があり、土坑が3基連続したような形態である。断面は逆台形である。走行方向 西半部はN-75°-W、東半部はN-88°-E。規模 長さ8.90m、幅0.94~1.24m、深さは最も深いところで0.33m。埋土の状態

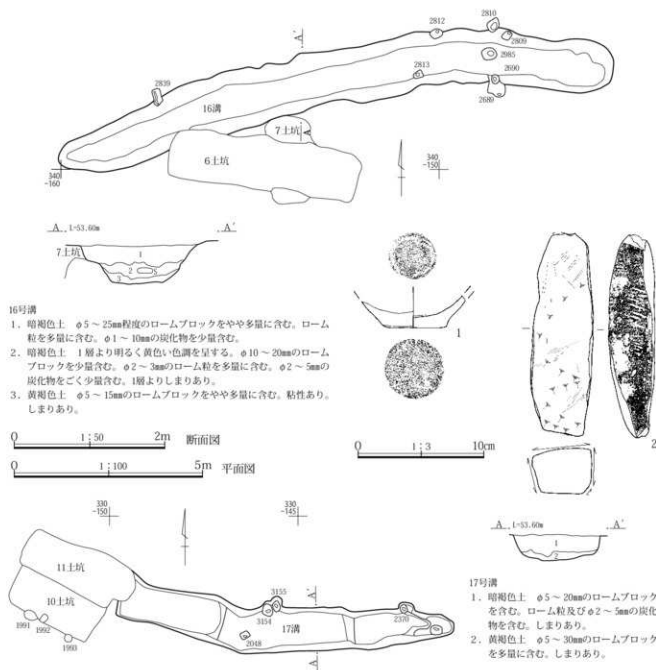
16号溝と似た土層である。掘り直しなどの痕跡は確認できない。遺物 出土遺物は少ない。小破片のみで、時期不詳の在地系土器2点、土師器裏類2点、須恵器裏類4点、形象埴輪1点が出土している。所見 遺物が少なく時期を特定できないが、16号溝と類似していることからこれも中世である可能性が高い。掘立柱建物F群とE群の間にあり、両者を分ける区画溝であると思われる。

#### 18号溝 (第73・79・80図、P.L.28)

II区からIII-1区にまたがる細い溝である。

位置 X=36323~345, Y=-40094~143。重複遺構 II区では19、20、25号溝と重複する。19、25号溝より新しいが、20号溝とは新旧関係不明である。III-1区では、32、36、37号溝と重複する。36号溝とは新旧関係不明だが、32、37号溝より新しいことは断面で確認した。

形態 西端は20号溝から発し、直線的に西に伸びた後、III-1区で南に屈曲してさらに直線的に伸びて途切れる。断面は椀状。走行方向 II区ではN-70°-W、III-1区ではN-36°-Wに屈曲する。規模 長さは西端から屈曲部まで20.80m。そこから東端までは15.30m。幅はII区東端付近では0.62~0.86m、III-1区では0.26~0.55m。深さはII区で0.12~0.14m、III-1区で0.14~0.25mである。埋土の状態 III-1区では砂粒の多い土で埋没している。シルトとの互層と



第72図 16・17号溝平・断面図、16号溝出土遺物

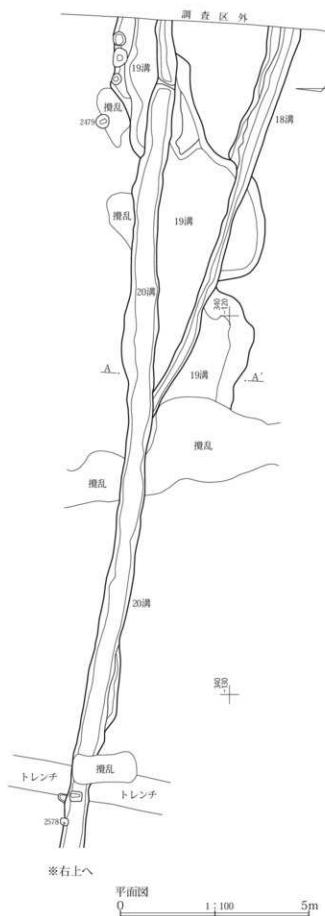
なる部分もあり、この部分には流水があったことがわかる。遺物 出土遺物は少なく、土器は小破片のみである。Ⅱ区部分では土師器甕類90g、須恵器坏類2点、同甕類660g、Ⅲ-1区部分では須恵器甕類2点が出土している。これ以外に、形象埴輪1点、円筒埴輪520gが出土している他、円筒埴輪1点は第9章で報告している。

所見 出土遺物が少なく時期不明であるが、推定東山道駅路南側溝である25・37号溝よりは新しいので、古代以降の溝であることは確実である。Ⅲ-1区では流水があったことが窺え、用排水路の役割をもっていたらしい。

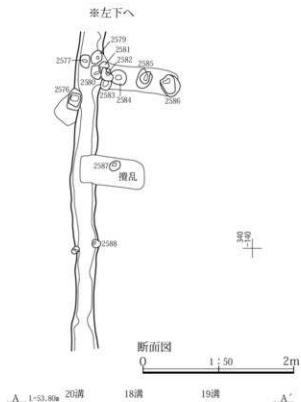
35号溝と方向が近く、その他の溝とは大きく異なっている。

#### 19号溝(第73図、P.L.28)

Ⅱ区東端中央にある。ごく浅い溝で形が不明瞭である。位置 X=36349～344, Y=-40112～124。重複遺構 18、20、25号溝と重複する。18、20号溝より古く、25号溝より新しい。形態 18、20号溝や攪乱と重複するため、形態がはっきりしないが、東西方向の溝である。東端は調査区外となる。位置からみてⅢ-1区で42



第73図 18～20号溝平・断面図



18・19・20号溝

1. 暗褐色土 黄褐色ロームブロック、ローム粒子を少量含む。18号溝
2. 暗褐色土 φ1～5mmの砂粒・砂礫を多量に含む。20号溝。
3. 暗褐色土 砂粒。20号溝。
4. 暗褐色土 φ1～2mmのローム粒子・黒褐色粒子をごく少量含む。20号溝。
5. 暗褐色土 黄褐色砂粒・黒褐色砂粒をやや多く含む。19号溝。

号溝としたものがその延長である可能性が高い。断面は浅い皿状であり、幅は広狭が著しい。走行方向 明確ではないが、N-84°-Eと推定。規模 西端から調査区境まで11.5m。幅は重複が激しく計測できる所がない。最も広い所では2.90mある。深さは最も深いところで0.22mである。埋土の状態 掘り直しや流水の痕跡は見られない。遺物 土器は小片のみで、報告できるものはない。土師器坏類200g、同斐類950g、須恵器坏類60g、同斐類2490gが出土している。埴輪は第9節で形象埴輪の家・穀各1点、円筒埴輪6点を報告しているほか、形象埴輪650g、円筒埴輪2555gが出土している。

所見 下層に推定東山道駅路南侧溝である25号溝があるので、古代以降の溝と思われるが、遺物には明らかに中世に属するものは含まれていない。また、同様に古代以降と思われる18号溝よりは古いので、中世でもやや古い時期の溝と考えられる。その延長部の可能性がある42



号溝では常滑甕の小破片が出土している。

#### 20号溝 (第73図、P.L.28)

Ⅱ区中央を東西に縦断する長い溝である。東側は調査区外に伸び、西側は削平のため途切れている。

**位置** X=36341～345, Y=-40112～143。 **重複遺構** 東端付近で18、19号溝と重複する。18号溝とは新旧不明だが、19号溝よりも新しい。 **形態** 緩やかに蛇行しながら東西方向に伸び、西端は削平されて途切れている。東端は調査区外へ続いているが、Ⅲ区には延長部を確認できない。断面は浅い逆台形である。 **走行方向** 緩やかに蛇行しているため、N-80°～90°-W。 **規模** 西端から調査区境までは30.60m。幅は0.46～0.89m。深さは最も深いところで0.28m。 **埋土の状態** 中層以下には砂粒、小礫を多く含み、流水があったと思われる。 **遺物** 土器は小破片のみであり、土師器環類3点、同甕類210g、須恵器環類2点、同甕類360gが出土している。埴輪は第9節で円筒埴輪2点を報告しているほか、形象埴輪280g、円筒埴輪960gが出土している。

**所見** 時期を確定する遺物に乏しいが、19号溝よりも新しいので、中世以降の溝であると思われる。流水があったと思われるので、用排水路として用いられたと考えられる。

#### 21号溝 (第74図、P.L.28)

Ⅱ区東部中央やや北寄りにある短い溝であり、東西方向に伸びている。

**位置** X=36346～350, Y=-40112～125。 **重複遺構** 22号溝と重複する。重複部分はごくわずかだが、この部分では本溝が古い。1群の73号掘立柱建物とも重複するが、新旧関係は確認できなかった。 **形態** 緩やかに蛇行する。東端近くでは底部が2条に分かれる形態となり、北に大きく曲がりながら途切れる。22号溝の南辺とはほぼ並行する。断面は浅い皿状である。 **走行方向** 西半部はN-83°-W、東端付近はN-52°-E。 **規模** 東端から西端までは11.88m。幅は0.68～1.42m。深さは最も深いところで0.08mである。 **埋土の状態** 周囲の溝とは異なり黒色土で埋没するので、非常に目立つ。 **遺物** 遺物の出土は少なく小破片のみである。中世の常滑甕3点、天目碗1点、在地系皿1点、近世の埴

烙1点、須恵器甕類1点、形象埴輪4点、円筒埴輪510gが出土している。 **所見** 出土した遺物は少ないものの、中でも中近世の遺物が多いので、少なくとも近世以降の溝であると思われる。さらに本溝と一部並行する22号溝からは近現代の遺物も出土しているので、最終的に埋没したのは近現代にまで下る可能性がある。

#### 22号溝 (第74・75図、第52表、P.L.28・62)

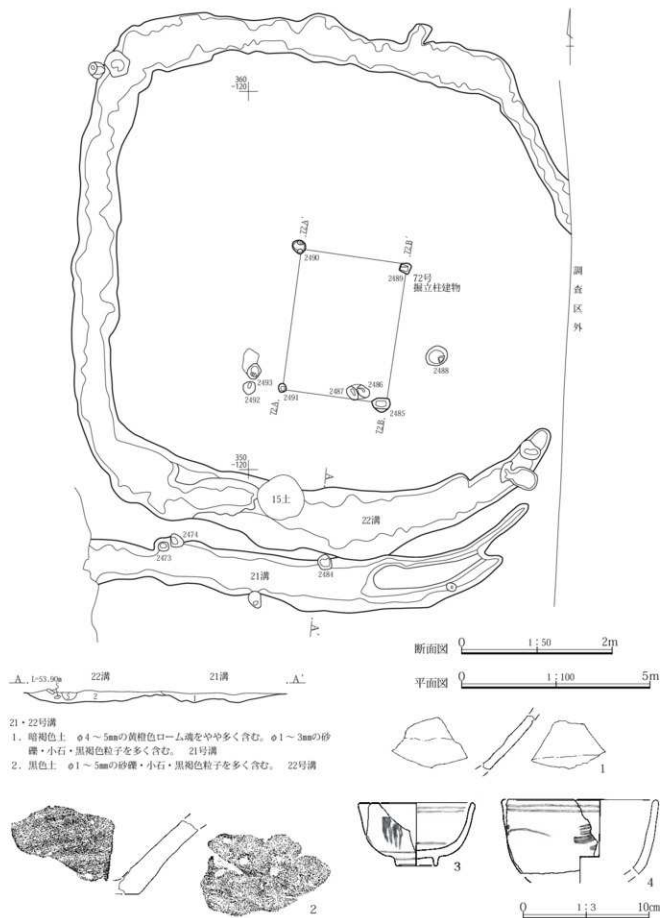
Ⅱ区北東部にある。五角形に溝が廻っている。

**位置** X=36346～362, Y=-40111～125。 **重複遺構** なし。 **形態** 全体として五角形である。断面は皿状で浅い。 **走行方向** 西辺はN-2°-E、北辺はN-84°-W、南辺は湾曲しており、西半はN-75°-W、東半はN-74°～39°E。北東辺はN-30°-W。 **規模** 全体の五角形の規模を計測すると、南北は14.17m、東西は西端から調査区の境まで13.22m。幅は0.48～1.86m、深さは0.10m前後の所が多いが、最も深いところは0.22mである。 **埋土の状態** ロームブロックを多く含む土で埋まるが、掘り返しなどの痕跡は確認できなかった。 **遺物** 出土遺物は比較的多い。報告するのは古瀬戸盤類1、在地系片口鉢1のような中世の遺物の他、近世から近現代のものとして、瀬戸掃り鉢1、瀬戸・美濃碗1、肥前碗3、生産地不詳燈火受台1、十能瓦1である。埴輪もやや多く出土し、10点(家形1、人物2、円筒5、朝顔1、不明1)を第9節で報告している。その他、常滑甕1点、国産陶磁器3点、在地系焙烙2点、十能瓦2点、土師器甕類2点、須恵器甕類2200g、形象埴輪1750g、円筒埴輪7390gが出土している。 **所見** 全体として五角形をしており、調査当初は古墳周囲の底部ではないかと思えたが、遺物に中近世から近現代までのものが多く含まれていること、調査前の地割りがこの溝とはほぼ同じ形であることから、新しい遺構であることが判明した。最終的に埋没したのは近現代であると思われるが、最初に掘削した年代がいつまで測るかは明らかではない。中央に72号掘立柱建物があるが、関連は不明である。

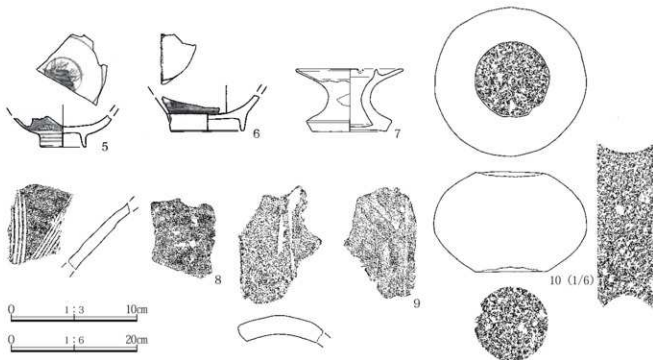
#### 23号溝 (第76図、P.L.29)

Ⅱ区2面南東部にある。中層以上にはAs-Bが見られる。

**位置** X=36311～330, Y=-40113～126。 **重複遺**



第74図 21・22号溝平・断面図、22号溝出土遺物(1)



第75図 22号溝出土遺物(2)

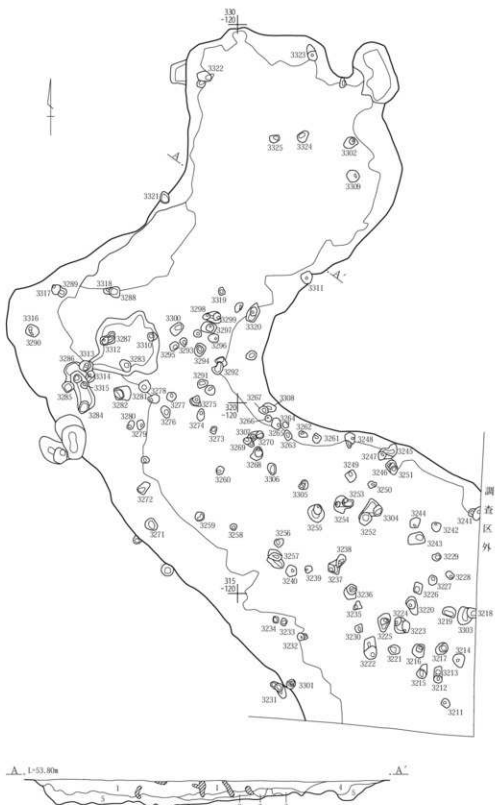
**構** なし。底面に多くのピットが見られるが、遺構確認時にはAs-Bの面でピットの確認が困難であったため、これらのうちの大部分は本来中世の掘立柱建物のピットであると思われる。**形態** 全体的にはL字形であるが、不整形であり、深さも浅く、断面は皿状である。**走行方向** 南半部ではN-50°-W、北半部ではN-31°-E。**規模** 屈曲しているが、長さは南半部17.00m、北半部13.55m。幅は4.32～7.32m、深さは0.40m前後の部分が多く、ピットを除く最も深いところで0.43mである。**埋土の状態** 中層以上にはAs-Bを多く含む土が堆積している。**遺物** 出土しているのは小破片のみで、土師器環類30g、同裏類370g、須恵器環類270g、同裏類470gである。その他、近現代の焙烙と磁器も1点ずつ出土しているが、混入であろう。**所見** 中層以上にAs-Bを含んでいるので、古代に遡るものである。調査時には古墳の周堀ではないかと考えたが、それを裏付けるような遺物は出土していない。しかし形態が不整形で周囲の溝とは異なり、その用途は不明である。

#### 24号溝 (第77図、P.L.29)

I-5区2面とII区2面にまたがった位置にある。その平面形から古墳の周堀を想定したが、それを裏付けるものは出土しておらず、23号溝同様用途不明の溝である。**位置** X=36314～324、Y=-40138～165。**重複遺構** 中央付近で8号土坑と重複する。本溝が古い。また、

掘立柱建物D群の大部分の建物と重複するが、本溝はそれらの柱穴を調査した後に調査したもので、本溝が古い事は平面的に確認している。その他、本溝の底面で新たに見つかったピットも、中世の掘立柱建物に伴うものを見逃したものである可能性が高い。**形態** 南側が調査区外となるので全形は不明だが、全体としてコの字型である。深さは場所によって差があるが、断面は逆台形である。**走行方向** 北辺は中央付近で屈曲しており、西半はN-69°-E、東半はN-88°-Wである。東辺はN-24°-Eである。**規模** 北辺は西端から東端まで長さ21.30m。東辺は北端から調査区境まで長さ10.74m。幅は1.84～4.98で西端付近が広い。深さは北辺から西端付近が0.20～0.30mだが、東辺は最も深いところで0.44mである。**埋土の状態** 23号溝とは異なりAs-Bを含まない。上層に黒色土があり、特徴的な埋土である。

**遺物** 出土した遺物は少なく、みな小破片である。土師器裏類5点、須恵器裏類190g、円筒埴輪1点が出土している。その他近現代の十能瓦片が1点出土しているが混入であると思われる。**所見** その平面形から古墳の周堀を想定して調査したが、それを裏付けるものは出土していない。遺物が少なく時期の特定は困難であるが、混入と思われる十能瓦以外には中世以降のものは出土しておらず、古代のものである可能性が高い。その用途は不明である。



23号溝

1. 黒色土 As-Bを多く含む。
2. 黒灰色土 As-Bを大量に含む。
3. 黒褐色土 As-Bをほとんど含まない。ローム粒少量含む。
4. 暗黄褐色土 ローム粒を多量に含む。As-Bは含まない。
5. 黒褐色土とロームの混合土。ハードロームブロックを含む。

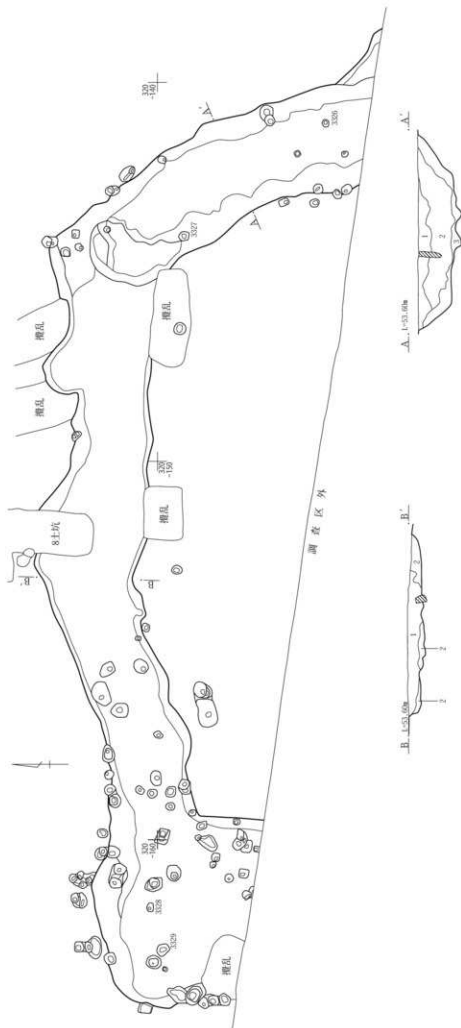
断面図

0 1:50 2m

平面図

0 1:100 5m

第76図 23号溝平・断面図



断面図

0 1:50 2m

平面図

0 1:100 5m

24号溝 B-B'

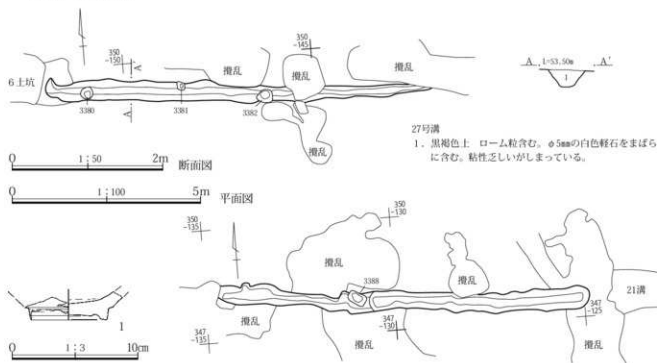
1. 黒色土 粘性ない、細砂含む。φ1mmの白色軽石を含む。(A-A')のりと似るが、砂が多く柔らかい)
2. 暗灰色砂質土 φ1mmの白色軽石を含む。

24号溝 A-A'

1. 黒色土 粘性ない、細砂含む。φ1mmの白色軽石をまばらに含む。
2. 黒褐色土 粘性ない、φ1mmの白色軽石を含む。
3. 暗褐色土 ローム質土を多く含む。

第77図 24号溝平・断面図

### 第3章 調査の成果



第78図 27号溝平・断面図、出土遺物

#### 27号溝 (第78図、第52表、P.L.30)

Ⅱ区2面中央付近にある東西溝である。中央に多くの攪乱が入り、約7m途切れている。東延長に位置する21号溝とは、幅、深さが異なるため、違う溝と判断した。  
**位置** X=36347～350、Y=-40124～153。  
**重複遺構** 71号掘立柱建物と重複するが、柱穴とは直接重複しないので新旧関係は不明。  
**形態** ほぼ直線に延びる細い東西溝である。断面は逆台形である。  
**走行方向** N-85°-W。  
**規模** 長さは27.25mで、中間が7.20m途切れる。幅は0.23～0.54m、深さは0.10～0.31m。

**埋土の状態** 1層で埋没し、掘り直し等の痕跡は確認できない。  
**遺物** 出土した遺物はごく少ない。報告するのは古瀬戸平焼1のみである。その他、中世の片口鉢1点、土師器坏類1点、同裳類4点、須恵器裳類1点、形象埴輪480g、円筒埴輪1点が出土している。

**所見** 2面として調査したが、この場所は推定東山道駅路の路面中央であり、出土した遺物から中世のものである可能性が高い。報告した古瀬戸は14世紀前半から中頃のものと思われる。幅は狭いものの深さはやや深く、直線的に延びているので、明確な目的をもった溝だと思われるが、用途は不明である。1面として調査した20号溝とは3～4m離れてほぼ平行しており、関連する可能性もある。

#### 32号溝 (第79・80図、P.L.30)

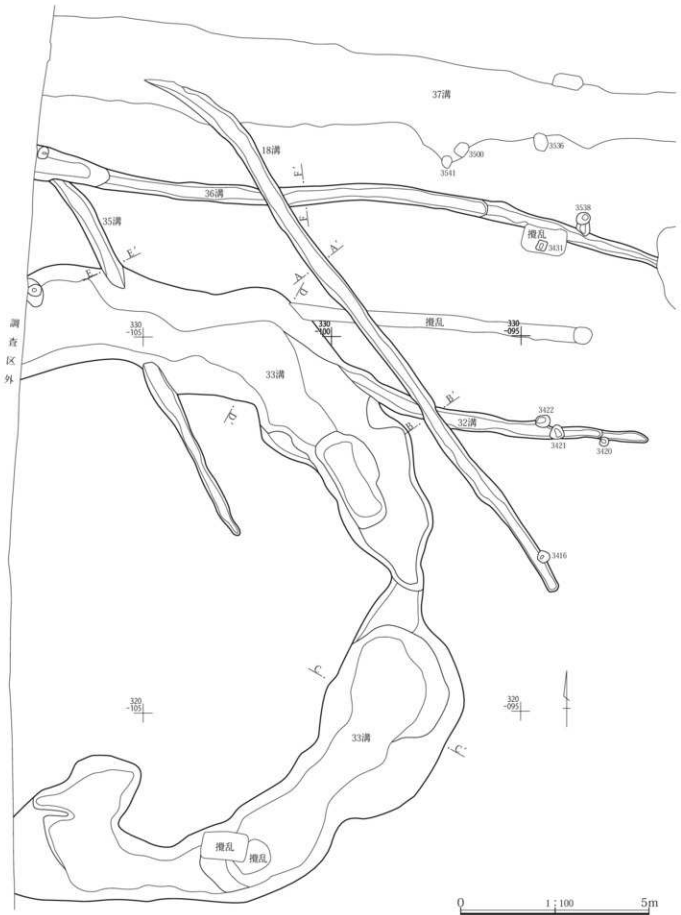
Ⅲ-1区南西部にある細い東西溝である。

**位置** X=36327～330、Y=-40091～100。  
**重複遺構** 18、33号溝と重複する。本溝が古い。  
**形態** 細い東西溝だが、西半部で大きく北に曲がる。断面は逆台形である。  
**走行方向** 東半部はN-84°-W、西半部はN-61°-W。  
**規模** 長さ8.44m、幅0.22～0.56m、深さは最も深いところで0.20m。  
**埋土の状態** 鉄分を含む砂質土で埋没している。  
**遺物** 出土した遺物は少なく、小破片のみである。土師器坏類3点、同裳類50g、須恵器坏類3点、同裳類1点が出土している。  
**所見** 出土遺物が少ないので時期を特定できないが、18、33号溝よりも古く、明らかに中世の遺物が見られないことから、古代の溝であると思われる。北にある36号溝とは形態が類似し、4～5m離れてほぼ平行しているため、関連性が考えられる。幅30～50cm前後の溝がこの付近に4本集中し、しかもそれが2本ずつ平行しているのは注目される。

#### 33号溝 (第79・80図、第52表、P.L.30・31・62)

Ⅲ-1区南西隅にあり、やや不整な半円形の溝である。

**位置** X=36315～332、Y=-40096～109。  
**重複遺構** 32、35号溝と重複する。本溝は32号溝よりも新しく、



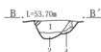
第79図 18・32・33・35・36号溝平面図

### 第3章 調査の成果



18号溝

1. 灰色砂質土 灰色シルトが層状に入る。鉄分沈着甚し。



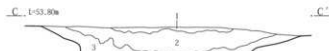
18・32号溝

1. 灰色砂 灰色シルトが層状に入る。一部鉄分でそまる部分がある。18号溝。  
2. 暗灰色砂質土 灰色砂含む。18号溝。  
3. 黒灰色砂質土 32号溝。  
4. 灰色砂質土 鉄分含む。32号溝。



35号溝

1. 黒褐色土 砂粒をやや多量に含む。ローム粒及び白色粒(軽石)を少量含む。しまりあり。全体にやや灰色を呈する。  
2. 黒褐色土 ローム粒を少量含む。1層よりしまりなし。  
3. 茶褐色土 ローム粒を多量に含む。しまりあり。



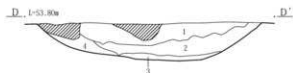
33号溝 C-C'

1. 暗褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の黒褐色粒子・砂粒をごく少量含む。粘性、しまり強い。  
2. 黒褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の黒褐色粒子・黄褐色粒子を少量含む。やや灰色がかった色調を呈する。粘性、しまりあり。  
3. 暗褐色土 1・2よりかなり明るい色調を呈する。 $\phi 1\text{mm}$ 以下の黄褐色粒子、ローム粒子を多量に含む。 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の黒褐色粒子、砂粒を少量含む。粘性、しまりややあり。



36号溝

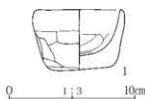
1. 黒褐色砂質土 灰色砂を多量に含む。  
2. 灰褐色砂質土 鉄分にそまる部分が多い。灰色砂を含む。



33号溝 D-D'

1. 黒褐色土  $\phi 1\text{mm}$ 以下の黄褐色粒子・砂粒をごく少量含む。  
2. 暗褐色土  $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ の砂礫・小石をやや多く含む。粘性、しまり強い。  
3. 黄褐色土 黄褐色ロームのプロックをやや多く含む。  
4. 暗褐色土  $\phi 1\text{mm}$ 以下のローム粒子を多量に含む。

0 1:50 2m



第80図 18・32・33・35・36号溝断面図、33号溝出土遺物

35号溝より古い。形態 全体はやや不整な半円形で、北端は調査区外にさらに延びるが、南端は調査区境付近で終わるように見える。東辺中央で細くなるなど、幅に広狭がある。走行方向 ほぼ半円を描く。規模 北端から南端で計測して直径17.00mの半円。幅は0.89～3.40m。深さは最も深いところで0.54mである。埋土の状態 掘り直しの痕跡などは確認できない。遺物 遺物は少なからず出土しているが、小破片が多く、報告するのは手捏土器1、須恵器坏蓋1、同塊1である。その他、土師器坏類200g、同甕類780g、須恵器坏類240g、同甕類2600g、円筒埴輪3点が出土している。近現代の焙烙片も1点出土しているが、混入だと思われる。所見 明らかに中世の遺物が出土していないため、古代の溝だと思われる。ほぼ半円形ではあるが、西側のⅡ区に

ある23号溝とは対称形とならず、古墳の周堀ではないと判断できるが、実際の用途は明らかにはがたい。

#### 35号溝(第79・80図、P.L.31・33)

Ⅲ-1区南西部にある細い溝である。18号溝と平行する。

位置 X=36324～335、Y=-40102～108。重複遺構 33、36号溝と重複する。33号溝よりも新しいが、36号溝とは新旧関係不明である。形態 ほぼ直線的に延びるが細い溝である。断面は逆台形である。走行方向 N-25°-W。北端ではより西に曲がる。規模 長さ10.70m、幅0.26～0.58m、深さは最も深いところで0.15m。埋土の状態 上層には砂粒を含むが、流水があったとは断定できない。遺物 遺物の出土は少なく



小破片のみであり、土師器環類3点、同表類60g、須恵器表類5点が出土しているだけである。**所見** 明らかに中世の遺物は出土していないので、古代にまで遡る可能性があるが、18号溝と平行しており、関連するものとすれば古代末以降のものである。18号溝とは4～5.5m離れてほぼ平行している。周囲の溝とは異なり、北西から南東方向に斜めになっているのが注目されるが、用途は不明である。

### 36号溝 (第79・80図、P.L.33)

Ⅲ-1区南西部にある細い東西溝である。

**位置** X=36331～335、Y=-40091～108。**重複遺構** 18、35号溝と重複する。新旧関係は不明である。

**形態** ごく緩やかに蛇行しながら東西に延びる溝である。西端は調査区外となり、東端は攪乱で途切れる。断面は逆台形ないし椀形である。**走行方向** 緩やかに蛇行し、N-87°-EからN-72°-Wの間で方向を変えている。**規模** 長さ16.64m。幅は0.25～0.92mで西端付近が広い。深さは西端付近で0.44mだが、それ以外では最も深いところで0.22m。**埋土の状態** 砂を多く含む土で埋没しており、流水があった可能性がある。

**遺物** 出土した遺物は少なく、小破片のみであり、土師器環類15g、同表類50g、須恵器環類2点、同表類2点が出土している。**所見** 遺物が少ないので時期を特定できないが、南に4～5m離れてほぼ平行する32号溝と関連するとすれば、古代の溝である可能性が高い。

### 34号溝 (第81・82図、第52表、P.L.31・32)

Ⅲ-1区の中央やや西寄りを南北に横断する溝である。直線的に延び、深さもあって非常にしっかりした溝である。

**位置** X=36310～367、Y=-40087～093。**重複遺構** 37、38、40号溝と重複する。本溝はいずれよりも新しいことを断面で確認した。**形態** 直線的に延び、南北は調査区外となる。断面は深い逆台形であり、底面は狭い。西側の壁際にピットが並び、特に南側は密である。

**走行方向** N-2°-3°-W。**規模** 長さは56.40mでさらに調査区外に延びる。幅は0.79～1.75m、深さは0.50～0.60mのところが多く、最も深いところは0.76mである。**埋土の状態** 掘り直しの痕跡は確認で

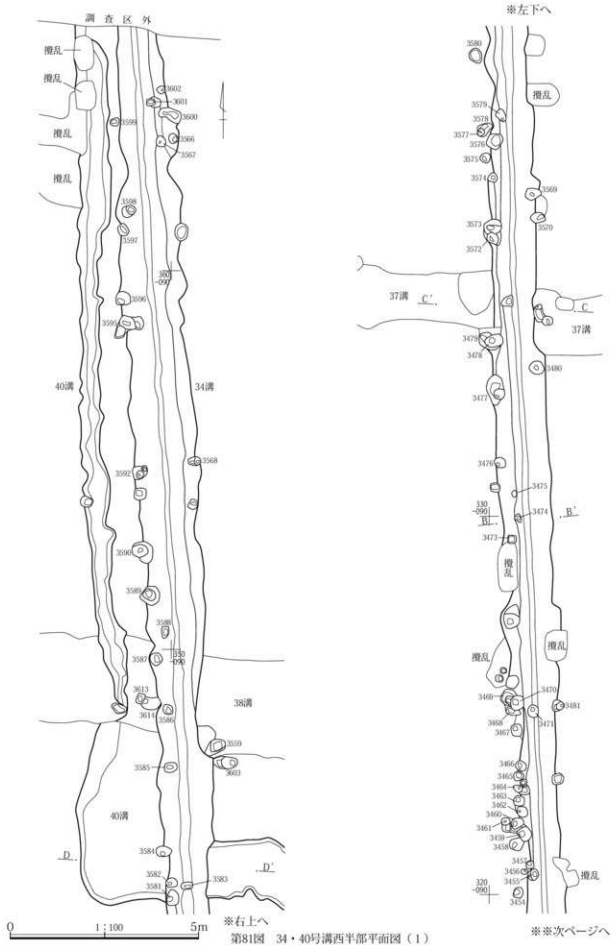
きない。砂粒などはほとんど見られず、流水はなかったと思われる。**遺物** 報告するのは常滑表1、常滑と思われる壺1、土師器台付表1、円筒埴輪2点(第9節)である。その他中近世の陶磁器・土器10点、土師器環類150g、同表類680g、須恵器環類370g、同表類4410g、形象埴輪750g、円筒埴輪1320gが出土している。**所見** 推定東山道駅路である37、38号溝よりも新しく、中世の遺物も出土しているので、中世以降の溝である。近世の遺物も出土しているため、最終的に埋もれたのは近世以降と思われる。直線的に延び、断面は逆台形で深く、非常にしっかりとした溝であり、重要な意図をもったものと推定できる。流水はなかったと考えられるので、用水路ではなく区画溝であろう。西側の壁の上端にそって多くのピットが並んでおり、ここに塼状の施設があったと思われる。これらのピットの時期を特定することは難しいが、中世の掘立柱建物はそのほとんどがこの溝よりも西にあるので(1、77号のみがその東側に位置する)、ここが掘立柱建物の一応の東端である可能性が高く、この区画施設は同時期ののものであると思われる。とすれば、本遺跡の中世屋敷群を考える上で重要な溝となる。

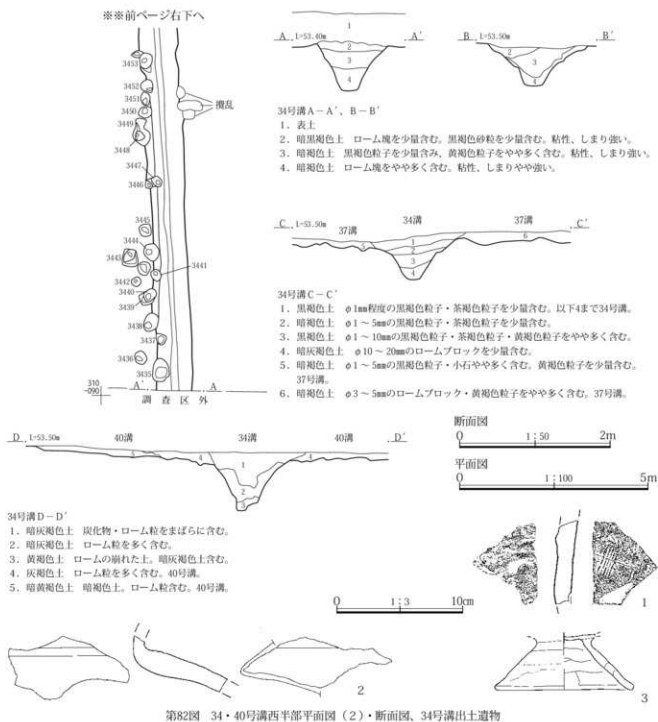
### 39号溝 (第83図、P.L.33)

Ⅲ-1区北東隅付近にある不整形の溝である。

**位置** X=36357～365、Y=-40057～073。**重複遺構** なし。**形態** 不整な半円形で、北側は調査区外となる。幅は広狭が著しい。断面は浅い皿状で、南側には浅い部分が広がっている。**走行方向** 半円形なので方向を大きく変えている。**規模** 東端から西端までは14.93m。幅は3.16～6.55mで凹凸が激しい。深さは全体に浅いが、東半は一段低くなり、最も深いところで0.58m。**埋土の状態** 掘り直しなどの痕跡は認められない。**遺物** 遺物の出土は少ないが小破片ばかりであり、土師器環類50g、同表類270g、須恵器環類140g、同表類1910gが出土している。その他近世の火鉢片が1点出土しているが、混入の可能性が高い。**所見** 不整ではあるものの半円形であるため、調査当初は古墳の周堀と考えたが、それを裏付けるようなものは出土していない。明らかな中世以降の遺物は出土していないので古代の溝であると思われる。

第3章 調査の成果



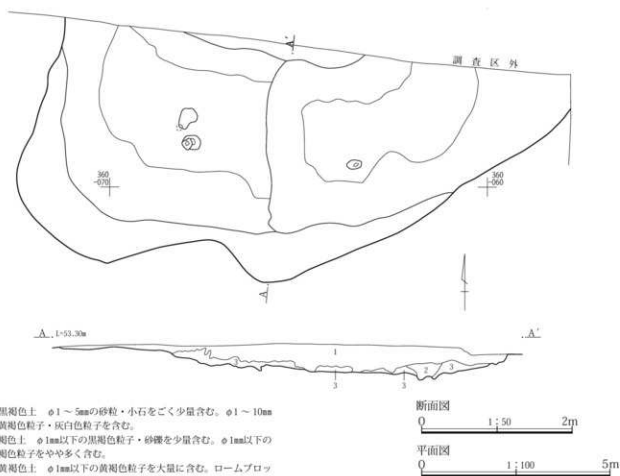


第82図 34・40号溝西部平面図(2)・断面図、34号溝出土遺物

## 40号溝(第81・82・84図、P.L.34)

Ⅲ-1区の北東部にある。東西、南北方向に直角に曲がって延びる溝であり、重要な区画溝であると思われる。**位置** X=36347~367, Y=-40065~093。**重複遺構** 34、38、41号溝と重複する。本溝は34号溝よりも古く、38号溝よりは新しい。41号溝との新旧関係は不明だが、同時存在である可能性が高い。**形態** 調査区東壁から東西方向に延び、34号溝を越えた所で北にほぼ直角に曲がる。それぞれの辺はほぼ直線に延びる。西辺は東

側を34号溝に破壊されるので幅が分からない。西端は溝状に一段低くなる。**走行方向** 南辺は東西方向でごくわずかに湾曲しているが、全体的にはN-89°-W。西辺はほぼ正確に南北方向である。**規模** 南辺は26.75m、西辺は23.30mで、それぞれ調査区外へ延びる。幅は南辺は狭く、0.38~1.52mで西ほど広がる。西辺は東側を34号溝で破壊されるが、広い所では2.20m以上となる。**埋土の状態** 流水や掘り直しなどの痕跡は確認できなかった。**遺物** 出土した遺物は少なく、小破



39号溝

1. 暗黒褐色土 φ1～5mmの砂粒・小石をごく少量含む。φ1～10mmの黄褐色粒子・灰白色粒子を含む。
2. 暗褐色土 φ1mm以下の黒褐色粒子・砂礫を少量含む。φ1mm以下の黄褐色粒子をやや多く含む。
3. 暗黄褐色土 φ1mm以下の黄褐色粒子を大量に含む。ロームブロックをやや多く含む。

第83図 39号溝平・断面図

片のみであり、土師器表類3点、須恵器環類1点、同表類5点が出土しているにすぎない。所見 出土物は少ないが、推定東山道駅路北側溝である38号溝よりも新しく、中世の34号溝よりも古いので、その中間の時期である。直角に曲がる溝であり、次の41号溝を併せ考えれば、この付近をほぼ東西南北方向の方形に区画する施設であると考えることができる。

41号溝 (第84図、P.L.34)

Ⅲ-1区の北東部にある南北溝である。浅く、幅も凹凸があり、しっかりとした溝ではないが、40号溝と組み合せて方形の区画を形成していると思われる。

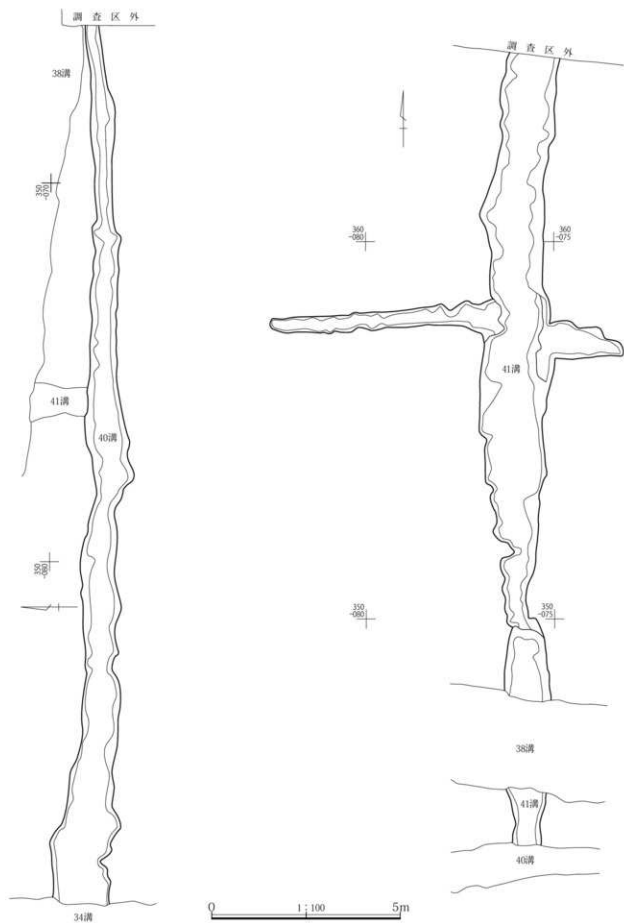
**位置** X=36344～365, Y=-40073～083。 **重複遺構** 38、40号溝と重複している。38号溝よりも新しい。40号溝との新旧関係は確認できなかったが、40号溝の南には延びておらず、同時存在である可能性が強い。 **形態** 40号溝からほぼ真北に直線的に延び、途中で十字形に短い東西溝が交差する。この東西溝は本溝と同時存在

であると思われる。断面は皿状である。 **走行方向** ほぼ正しく南北方向である。東西部分はわずかに傾き、N-88°-Eである。 **規模** 南北方向部分は長さ29.00m、幅は広狭があり、0.59～1.90m。深さは浅い所が多いが、最も深いところで0.20m。東西部分は、西は6.05m延び、東はわずかに1.85m延びるだけである。西側部分の幅は0.40～0.71m、深さは0.08mである。 **埋土の状態** 流水や掘り直しの痕跡は確認できなかった。

**遺物** 遺物は少なく、小破片のみで、土師器表類3点、須恵器環類3点、同表類2点、形象埴輪1点が出土しているにすぎない。 **所見** 遺物が少なく時期を特定するのは困難であるが、40号溝とは同時存在と思われる。前述のように、40号溝と組んで方形の区画を形成していると考えられる。

42号溝 (第85図、P.L.34・35)

Ⅲ-1区西側中央付近にある。周囲の溝と方位が異なる。Ⅱ区19号溝の東側延長部である可能性がある。



第84図 40・41号溝平面図

**位置** X=36343~349, Y=-40093~107。 **重複遺構** 東端部で38号溝と重複する。直接の新旧関係は確認できなかったが、出土遺物から本溝が新しいと考えられる。 **形態** 直線的に延びる。断面は浅い皿状である。

**走行方向** N-71°-E。 **規模** 長さ14.23m、幅1.14~1.77m、深さは最も深いところで0.30mである。

**埋土の状態** 砂粒は多くなく、流水があったとは思えない。明確な掘り直しの痕跡は確認できない。 **遺物** 遺物は円筒埴輪1点を第9節で報告する他は小破片のみであり、本項で報告する遺物はない。小破片の遺物は、中世の常滑甕1点、近世と思われる国産陶器1点、土師器環類2点、同裏類440g、須恵器甕類900g、形象埴輪3点、円筒埴輪430gである。 **所見** 位置からみてⅡ区の19号溝の延長部であると思われる、中世でもやや古い時期のものと思われる。近世と思われる遺物は1点のみであり、埴輪と共に混入であろう。周囲の溝とは走行方向が異なるのが注目されるが、用途は不明である。

**43号溝** (第85・86図、第53表、P.L.35)

Ⅲ-1区北西部にあり、38号溝から北に延びる。

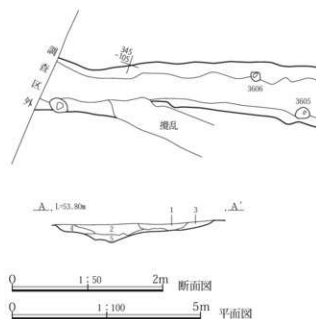
**位置** X=36350~368, Y=-40096~107。 **重複遺構** 南端で38号溝と重複する。切り合いなどは確認できず、同時存在と思われる。 **形態** 38号溝から北へ緩やかに湾曲しながら延び、調査区外へと続く。断面は浅い

皿状である。 **走行方向** N-16°-W。 **規模** 長さ17.50m、幅 4.65~7.35m、深さは南ほど深くなり、最も深いところで0.54mである。 **埋土の状態** 38号溝と同時に埋没していることが確認できる。掘り直しなどの痕跡は確認できない。 **遺物** 遺物の出土は埴輪が数多く出土しているのが目立つが、土器は小破片が多い。報告するのは手捏土器塊1のほか、第9節で17点の埴輪(家形1、円筒13、朝顔3)を報告している。その他、近世の掘り鉢1点、磁器1点、土師器環類150g、同裏類560g、須恵器環類150g、同裏類2550g、形象埴輪460g、円筒埴輪10270gが出土している。 **所見** 推定東山道駅路北側溝である38号溝と同時に存在と考えられるので古代の溝であり、埴輪と近世の遺物は混入であろう。道路側溝から延びているが、用途を示すようなものはなく、なぜ側溝が北に延びるのか不明である。

**44号溝** (第87図、第53表、P.L.35・62)

Ⅳ区北部中央にある溝である。

**位置** X=36330~344, Y=-40043~057。 **重複遺構** 38、45号溝と重複する。38号溝よりも新しく、45号



第85図 42号溝平・断面図、43号溝出土遺物



**42号溝**

1. 灰褐色砂質土 砂質φ2~3mmの黄褐色ローム粒子を含む。
2. 暗褐色土 φ1~2mmの砂粒、黄褐色ローム粒子をごく少量含む。
3. 暗黄褐色土 φ1~3mmの砂粒・小石を少量含む。
4. 暗褐色土 φ1~2mmの砂粒・黄褐色ローム粒子を若干含む。
5. 暗褐色土 φ2~5mmの黄褐色ローム粒子をやや多く含む。φ1~2mmの砂粒、黒褐色粒子を少量含む。



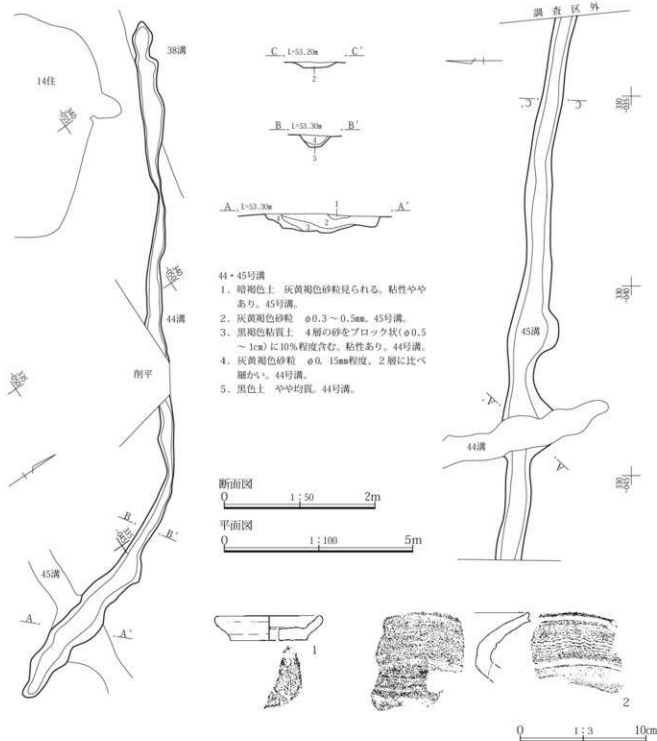
## 38、43号溝

1. 暗褐色土 As-Bの $\phi$ 1mm以下の粒子を多く含む。
2. 黒褐色土  $\phi$ 1mm以下の黒褐色粒子・砂粒を少量、 $\phi$ 1mm以下の黄褐色粒子をごく少量含む。
3. 暗褐色土  $\phi$ 1~2mmの黄褐色ローム粒子、 $\phi$ 2~5mmの黄褐色ローム塊をやや多く含む。(1層よりかなり明るい色調を呈する)
4. 暗黄褐色土  $\phi$ 1~5mmの砂礫、小石をやや多く含む。ローム粒子を大量に含む。

第86図 38・43号溝平・断面図

溝よりも古い。形態 細い溝で、東半部で屈曲する。断面は逆台形である。走行方向 西半部は $N-61^{\circ}\sim 58^{\circ}-E$ 、東半部で屈曲し $N-20^{\circ}-E$ 。規模 東端から西端まで直線距離で18.14m、幅0.06~0.91m、深さは最も深いところで0.25mである。埋土の状態 砂粒の層が堆積し、流水があった可能性がある。遺物 報告するのは尾張陶器小皿1、須恵器甕1である。その

他、土師器環類130g、同糞類50g、須恵器環類2点、同糞類350点が出土している。所見 1の陶器小皿は13世紀前半~中頃のものであり、この溝はそれ以後のものである。流水があったと推定され、Ⅲ-1区南西にある細い4本の溝(18、32、35、36号溝)と同様なものと思われる。



第87図 44・45号溝平・断面図、44号溝出土遺物



## 45号溝 (第87図、P.L.35)

IV区東部中央付近にある東西溝である。西端は削平され、東端は調査区外へ延びるので、一部分の調査にとどまった。

**位置** X=36331～334、Y=-40032～048。**重複遺構** 18号住居、44号溝と重複する。いずれよりも本溝が新しい。**形態** ほぼ直線的に延びる。断面は逆台形である。**走行方向** N-85°-E。**規模** 長さ14.43mで東は調査区外にのびる。幅0.49～1.32m、深さは最も深いところで0.22m。**埋土の状態** 砂層で埋没しており、流水があったと思われる。**遺物** 出土した遺物は少なく、小破片のみであり、土師器環類4点、同表類180g、須恵器環類5点、同表類3点が出土しているにすぎない。**所見** 中世の44号溝よりも古く、明らかな中世遺物は出土していないので、古代にまで溯る可能性があるが、推定東山道駅路の路面にあるため、道の廃絶後に掘られた溝だと思われる。

## 46号溝 (第88図、P.L.36)

47号溝と共に38号溝の上層にある浅く細い溝である。調査区内にかかるのはごく一部分のみで、東は調査区外に延びる。

**位置** X=36341～344、Y=-40037～046。**重複遺構** 38、47号溝と重複する。いずれよりも新しい。**形態** 緩やかに蛇行する。断面は浅い碗状である。**走行方向** N-81°-E。**規模** 長さは8.64mで東は調査区外へ延びる。幅は0.24～0.68m。深さは全体に浅く、最も深いところで0.11m。**埋土の状態** 砂粒の多い土で埋没するので、流水があった可能性もある。**遺物**

出土遺物は少なく、須恵器環類の小破片が1点出土しているのみである。**所見** 調査区にかかるのがわずかなので詳細は不明だが、Ⅲ-1区などで見ついている細い溝と似ており、関連する可能性がある。

## 47号溝 (第88図、P.L.36)

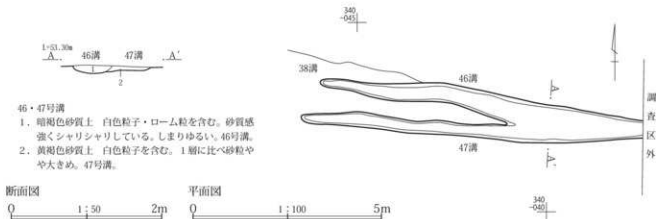
46号溝と共に38号溝の上層に掘られた浅く細い溝である。やはり調査区内にかかるのはごく一部分のみで、東側は調査区外となる。

**位置** X=36341～343、Y=-40037～047。**重複遺構** 38、46号溝と重複する。38号溝よりも新しく、46号溝よりも古い。**形態** ほぼ直線的に延びる東西溝である。断面は皿状ないし浅い碗状である。**走行方向** N-87°-E。**規模** 長さ9.08m、幅0.25～0.42m。深さは全体に浅く、最も深いところで0.10mである。**埋土の状態** 粒の大きな砂粒を多く含む土で埋没している。**遺物** 出土遺物は少なく、小破片のみであり、土師器環類2点、同表類55g、須恵器環類5点が出土しているにすぎない。**所見** 47号溝と同様、調査区にかかるのがわずかなので詳細は不明だが、Ⅲ-1区などで見ついている細い溝と似ており、関連する可能性がある。

## 51号溝 (第89図、P.L.36)

I-4区にある東西溝である。東西両端とも攪乱によって破壊され途切れている。

**位置** X=36326～330、Y=-40167～185。**重複遺構** なし。**形態** 東半部でわずかに屈曲する。断面は逆台形の部分が多い。**走行方向** 東端部はN-85°-W。その他の部分はN-81°-E。**規模** 東端から西



第88図 46・47号溝平・断面図

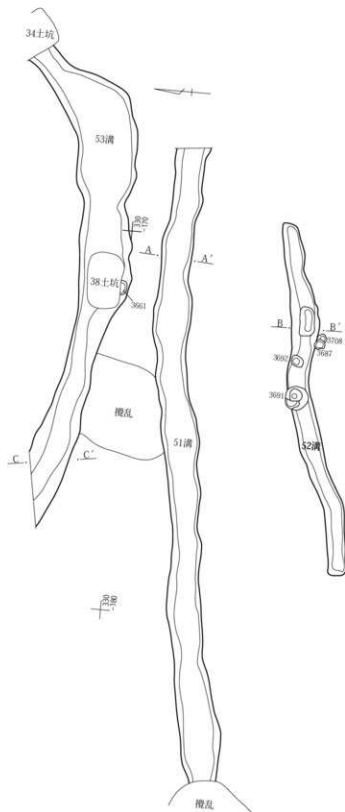
### 第3章 調査の成果

端までは長さ16.70m。幅は0.66～1.08m。埋土の状態 暗褐色土1層で埋没しており、流水や掘り直しなどの痕跡は認められない。遺物 出土遺物はない。所見 出土遺物がなく、詳細は不明である。

52号溝 (第89図、第53表、P.L.21)

I-4区にある東西溝である。

位置 X=36323～326, Y=-40169～179。重複遺構 なし。形態 緩やかに蛇行する短く細い溝である。断面は逆台形である。走行方向 N-79°-WからN



51号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。しまりやや強い。粘性ややあり。



52号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック(φ0.5～3cm)を少量、ローム粒をややく含む。しまり粘性ともあり。



53号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック(φ0.5～1cm)、炭化粒を微量含む。粘性ややあり。しまりやや強い。

断面図



平面図



第89図 51～53号溝平・断面図、52号溝出土遺物

-62°-Eまで間で蛇行する。**規模** 長さは東端から西端まで9.43m。幅0.44～0.75m。深さは最も深いところで0.33m。**埋土の状態** 流水、掘り直しの痕跡は確認できない。**遺物** 出土した遺物は、報告する古瀬戸香炉1点のみである。この遺物は14世紀後半から15世紀初頭のものと思われる。**所見** 出土遺物が少ないが、1点出土した遺物を重視すれば中世以降の溝である。

### 53号溝 (第89図、P.L.3)

I-4区北部にある溝で、北側はI-2区へと延びるが、I-2区調査時には攪乱が多くあったため、この溝を認識できなかったため、調査区境で途切れている形となっている。

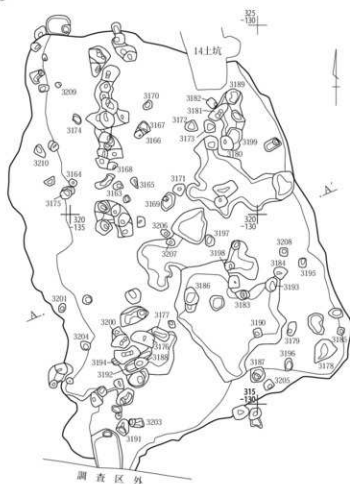
**位置** X=36329～334, Y=-40165～179。

**重複遺構** 34、38号土坑と重複する。本溝が新しい。**形態** 弓状に湾曲している。断面は底面がやや丸みを帯びた逆台形である。**走行方向** 弓形に湾曲している。**規模** 東端から西端まで直線で計測して12.74m。幅は0.68～1.69m。深さは最も深いところで28cmである。**埋土の状態** 1層で埋没しており、流水や掘り直しの痕跡は確認できない。**遺物** 出土遺物はない。**所見** 出土遺物はないが、掘立柱建物群B群とC群との間に位置し、その区画溝である可能性がある。さらに西側が北西方向に延びるのであれば、A群とB群との区画ともなる可能性が考えられる。

### 1号窪地 (第90図、P.L.36)

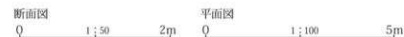
「窪地」と名付けたものは性格不明の凹みであ

る。土坑としては大きく浅く、なおかつ溝ではないものを「窪地」としたものであり、II区2面に3ヶ所あった。1号窪地はII区南部中央にあり、南端は調査区外となる。**位置** X=36316～325, Y=-40127～137。**重複遺構** 14号土坑、掘立柱建物E群の南東部にある48、49号掘立柱建物と重複し、いずれよりも古い。**形態** 平面形は釣り鐘状である。底面には凹凸があり、形そのものに意味があるとは思えない。**規模** 長さ11.23m、幅7.52m、深さは凹凸が激しく、断面を計測した部分で0.28



#### 1号窪地

1. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ10mm前後) を少量含む。炭化物粒 (φ2～5mm) を微量含む。しまりあり。上部にAs-Fと思われるものが混入している。
2. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ10～30mm) を少量含む。しまりあり。
3. 黒色土 ローム粒を含む。ビット埋上。



第90図 1号窪地平・断面図

### 第3章 調査の成果

mである。 **埋土の状態** 最上部にAs-Bと思われる軽石が混入している。 **遺物** 出土遺物はない。 **所見** 出土遺物はないが、埋土の最上部にAs-Bと思われる軽石が混入し、掘立柱建物や多くのピットよりも古いため、古代のものと考えられる。平面形が不整形で、底面も凹凸が激しく、用途は不明である。

#### 2号窪地 (第91図、P.L.37)

II区北部にある。浅くやや細長い土坑状の凹みである。推定東山道駅路北側溝である26号溝に重複し、その溝の一部が北に延びたような形態となる。

**位置** X=36358～367、Y=-40130～136。 **重複遺構**

南端部で26号溝と重複する。切り合いは確認できず、同時存在であると思われる。 **形態** 細長い土坑状。断面は浅い皿状であるが、底面には凹凸がある。 **規模** 長さ7.84m、幅2.70m、深さは最も深いところで0.26m。

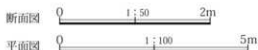
**埋土の状態** 26号溝の埋土とよく似ているが、As-Bを含む層は見られない。 **遺物** 出土遺物はない。 **所見**

As-Bは見られないものの、推定東山道駅路北側溝の26号溝とは同時存在だと思われ、古代の溝であると考えられる。26号溝は後述するように、道路廃絶後に大きく掘り広げられており、2号窪地もその時に掘られたものとするのが妥当であろう。



#### 2号窪地

1. 黒褐色土 ○1～10mmの砂礫・小石をやや多く含む。
2. 暗褐色土 ○1～15mmのローム粒子・ロームブロックを少量含む。
3. 黄褐色土 ロームの崩壊土。



第91図 2号窪地平・断面図

## 第7節 推定東山道駅路

東山道駅路と考えられる道路跡は、I区からIV区まで、調査区を東西に縦断している。路面と思われる部分には、硬化面やいわゆる波板状圧痕などといった、道路特有の痕跡は全く残っていなかったが、側溝と思われる2列の溝が、平行して直線的に伸びているのが確認できることから、道路跡と判断したものである。

### 駅路発見の経緯

大道西遺跡は北関東自動車道関連の諸遺跡の中で、金山以東で初めて調査が行われた遺跡である。この金山北側一帯の地域には、上野国を横断したのちに下野国に向かう東山道駅路が通過していることが、これまでの調査・研究からほぼ確実視されていた。北関東自動車道関連の諸遺跡は、その一帯を横切るように調査されるため、どこかでその道路跡と交差するはずであり、それによって東山道駅路のルートが確認できるのではないかと期待されていた。ただし、多くの研究者によって予想されていたルートは、金山と八王子丘陵との境の、最も標高の低くなる地点を通過して足利市に向かうルート、すなわち、現在の県道足利・伊勢崎線のルートであり、古代の東山道駅路が見つかるのであれば、その近辺の遺跡であろうと考えられていた。本遺跡はそのルートからは南に1kmも離れており、通過する可能性はほとんどない位置と思われていた。

ところが、本遺跡の調査が開始され、I-2区の調査を行ったところ、途切れ途切れではあるものの古代の溝が2列平行して伸びているのが確認され、それが道路跡である可能性が高まった。道路跡だとすれば、その幅は側溝の心-心距離で計測して約13mもあるので、駅路以外に考えられない規模となる。ただしI-2区のみでの調査結果だけでは、わずか80m程度の長さしかならず、断定するのは時期尚早なので、以後慎重に調査を進めることにした。その後II区に調査の手を広げたところ、2本の溝の延長部が見つかったものの、それぞれの溝が広く深くなり、一見道路側溝とは思えない形状になってしまった。このため、道路跡と断定するのは一時保留とせざるをえない状況となった。しかし、さらに東側のIII区

を調査したところ、ここではI・II区とは全く異なって、明確な2本の溝が平行していることが判明し、これによって、本遺跡内約220mの範囲ではあるものの、2本の溝が心-心で約13m離れて平行していることが確認されたことになり、これが古代道路跡であることがほぼ確定した。しかも、規模が大きく、直線的に伸びていることから、古代東山道駅路であると考えられる。駅路の可能性が高まった後、県内外の古代道路研究者が遺跡を訪れ、注目を集めることとなり、11月25日には上毛新聞に報道された。2003年6月には古代道路研究会において本遺跡の概要を発表し、翌年刊行された『古代道路研究第13号』にも同内容が掲載された。ただし、研究会で発表した時点では、道路跡が調査されているのは大道西遺跡のみで、東西の延長部が通過するはずの遺跡はまだ調査が行われていなかった。

その後本遺跡の周辺の遺跡、すなわち、八ヶ入遺跡、大道東遺跡、鹿島浦遺跡からも、この道路の延長部分が見つかり、総延長約1kmもの間、直線的に伸びていることが明らかとなった。その直進性と、幅13mという規模からみて、古代の東山道駅路であるのが妥当だと思われる。しかし、位置が予想外であり、金山以西で見つかる古代道路跡とどのように接続するかが明らかではないこと、道路跡をそのまま東に延長すると従来予想されていたルートと大きく離れ、その先のルートが予想できないことなど、疑問点が多い。この点については第4章で述べる。

### 駅路の概要

駅路側溝はI-2区からIII・IV区にかけて見つかっており、総延長は215mであるが、III・IV区を除いて残りが悪く、状態が調査区によって大きく異なっている。走行方位はN-82°-Wであり、これは周囲の遺跡でもほぼ変わっていない。道路の幅は、III・IV区において側溝心-心で計測すると12.5~14.0mであり、13.0m前後の部分が多い。基本的にその幅は変わっていないと考えられるが、後述のように、II区では道路廃絶後に側溝が掘り広げられているため、その部分ではやや広くなってしまっていて、古代の幅を反映していないと思われる。路面はすべての地区で削平を受けているため、硬化面や造成に関わる痕跡などは全く認められなかった。ただし、

Ⅲ区においては、溝を横切った痕跡が見つかっている。

Ⅰ-Ⅱ区とⅡ区では、表面の削平のために側溝の溝は途切れがちであり、また、Ⅱ区では後世に掘り広げられているため、いくつかの溝が連続するような形態となっている。このため、この両地区については各単位毎に違った溝番号を付けて調査した。同じ道路の北側溝・南側溝でありながら、複数の溝番号が付いているのは、そのような事情による。以下、西端の地区から説明を加える。

#### Ⅰ-Ⅱ区

Ⅰ-Ⅱ区では、北側溝として13号溝と15号溝、南側溝として5号溝東がある。表面が削平されているため残りが悪く、途切れている部分が多い。

##### 13号溝 (第93・94図、第53表、P.L.39・62)

北側溝の最西端に当たる溝であり、Ⅰ-Ⅱ区北西部にある。西端は攪乱によって破壊されているが、さらに西に延びるものと考えられる。東端は途切れ、東側延長部の15号溝まで約30m離れている。東端から西端まで35.8mあるが、中間にも途切れている部分があり、全体として3本の溝となっている。断面形は一定せず、浅い皿状の部分や箱状の部分がある。幅は0.76~1.57m、深さは最も深いところで0.37mである。この部分が本遺跡における驛路の西端となるが、これと組み合わせる南側溝は見つかっていない。当初南側溝と思われた5号溝西は、前述の通り中世のものと思われる。報告する出土遺物は土師器高環4、同台付甕の脚部片1、同器種不明の脚部片1である。高環はすぐ北側に位置するⅠ-Ⅰ区の1・2号溝からも出土しており、この付近に6世紀代の遺構が存在した可能性がある。その他、土師器環類280g、同甕類1700g、須恵器甕類2点が出土している。

##### 15号溝 (第96・97・105図、P.L.40)

北側溝であり、Ⅰ-Ⅱ区北東部にある。東端は攪乱によって破壊されている。西端は途切れ、その一部かと推定される土坑状の凹みがある。断面形は不整形で一定しない。全長は西端の土坑まで含めて19.0m、幅は0.48~1.85mで、深さは最も深いところで0.23mである。これに対応する南側溝は5号溝東の東半部分であり、この付近の道路幅は側溝心一心で計測して13.40mである。出土遺物は小破片のみで図などを掲載できるものはなく、

土師器環類、甕類が各1点、須恵器甕類が3点である。

##### 5号溝東 (第95~97図、P.L.40)

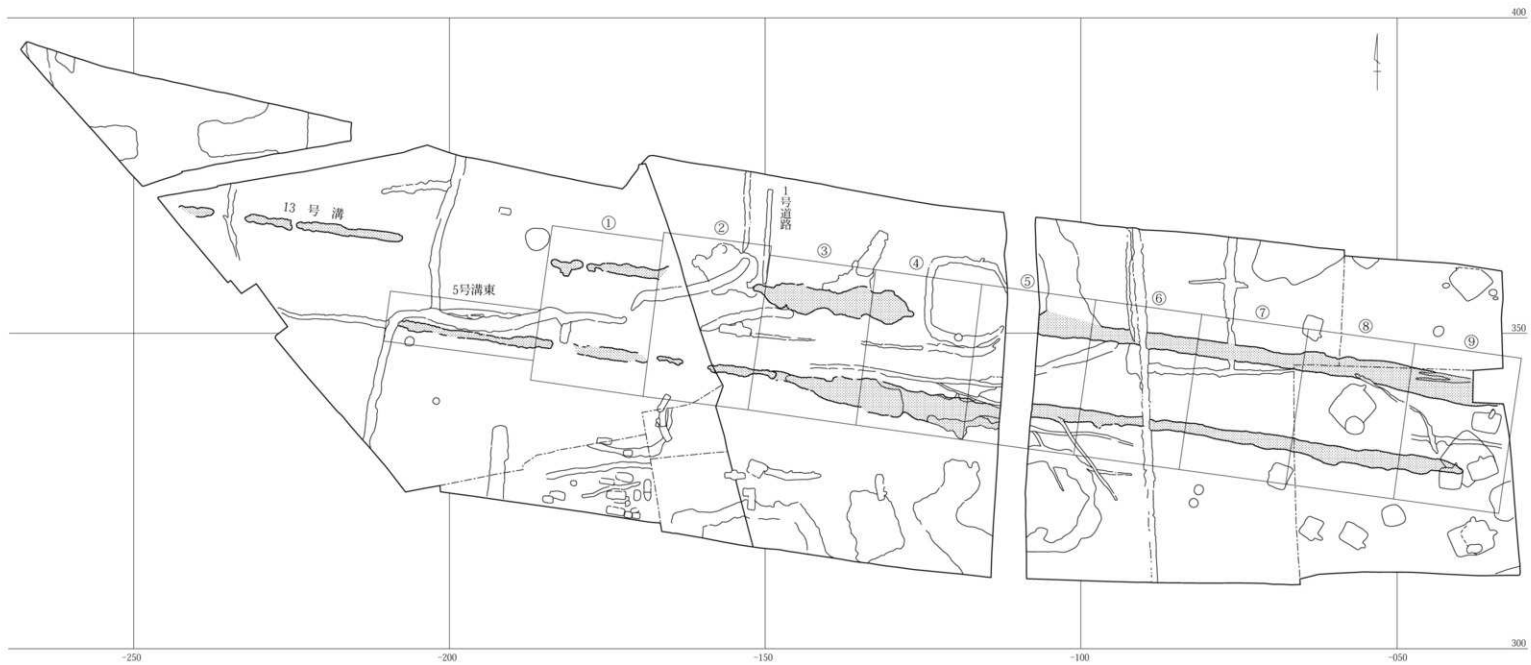
南側溝であり、Ⅰ-Ⅱ区の中央部を東西に延びる。西端は中世の4号溝に切れ、そのさらに西側は浅くなるらしく確認できなかった。当初延長部と判断した5号溝西は、前節で述べたように中世のものであり、別の溝である。東は攪乱が多くなるとともに確認面のレベルが低くなって遺構が浅くなり、途切れてしまうが、東端にある細く短い溝も延長部分と判断した。断面形は不整形で一定しない。長さは東端から4号溝まで45.5m、幅は東端部を除いて0.75~1.90m、深さは全体に浅く、最も深いところで0.35mである。出土遺物は5号溝西で報告したように、5号溝東・西で分離することができなかったため、すべて5号溝西で報告しているが、古代の遺物は小破片しか出土していない。

#### Ⅱ区

Ⅱ区では中世以降の遺構が多かったため、それらを1面として調査した後、推定東山道驛路に関連する溝などは2面として調査した。Ⅰ-Ⅱ区で見つかった北側溝、南側溝の延長と思われる部分には、それぞれ細長い遺構を見つけたが、やはり途切れている部分があり（特に北側溝）、また幅が非常に広がる部分があるなど、側溝としてはふさわしくない形状となっている。Ⅱ区では南側溝と思われる部分を25号溝、北側溝と思われる部分を26号溝と名付けて調査を開始したが、南側溝においては3条の溝が切り合っていることが確認できたので、それぞれに別の番号、すなわち、25号溝、28号溝、29号溝と名付けて調査を行った。ただしこれらの溝は、いずれも後述するように、道路廃絶後に掘り広げられていると考えられるので、厳密に言えば道路側溝そのものではない。

##### 25号溝 (第99・100・105・110図、第53表、P.L.40・41・63)

南側溝である。Ⅱ区における南側溝は調査区東端から西端まで46mの長さがあるが、東端から15mの部分で別の溝と切り合っていることが判明したので、これよりも西側は29号溝として区別している。さらに南側にも別の溝が重複していることが判明し、これは28号溝と名付けた。本溝は28・29号溝のいずれよりも古い。25号溝はⅡ



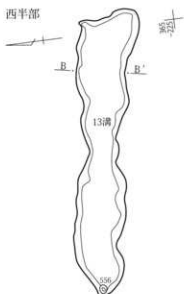
第92図 推定東山道駅全体図

0 1:600 20m

第7節 推定東山道駅路

東半部

西半部



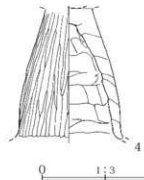
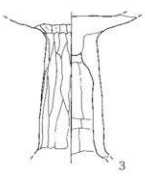
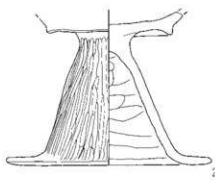
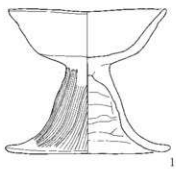
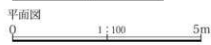
- 13号溝 A-A'
1. 黒褐色土 φ1~10mmのローム粒子・黄褐色粒子・砂礫等をやや多く含む。
  2. 黒褐色土 φ1~5mmのローム粒子・黄褐色粒子・砂礫等を少量含む。1よりかなり明るい。
  3. 暗黄褐色土 ロームブロック・ローム粒子を多く含む。砂礫・黒褐色粒子をやや多く含む。
  4. 暗黄褐色土 2よりやや暗い色調を呈する。ロームブロック、ローム粒子を2より少なく含む。



- 13号溝 B-B'
1. 暗褐色土 φ1~1.5mmのローム粒子・砂粒を少量含む。

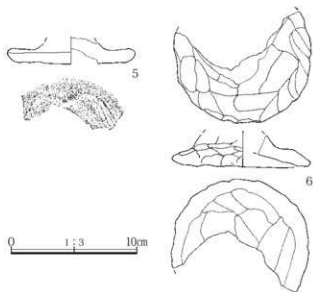


- 13号溝 C-C'
1. 黒褐色土 φ1~5mmの砂礫・小石をやや多く含む。下層に黄褐色粒子・ローム粒子を多く含む。



第93図 推定東山道駅路北侧溝 (13号溝) 平・断面図、出土遺物 (1)





第94図 推定東山道驛路北側溝(13号溝)出土遺物(2)

区東壁より19mがほぼ直線的に延びている。幅は28号溝と重複しているので明確ではない部分が多く、重複していない部分で計測すると、西端付近で3.45～4.25m、東端付近では1.95～2.05mである。深さは0.25～0.35mのところが多く、最も深いところは0.45mであり、底面は凹凸が少ない。出土遺物は少なく、報告するのは須恵器環1、同提瓶1、同甕2である。その他、土師器環類1点、同甕類90g、須恵器環類140g、同甕類2340g、円筒埴輪3点が出土している。位置からみてこの溝が南側溝であると思われるが、幅がやや広いため、道路廃絶後に掘り広げられた可能性がある。

#### 28号溝 (第99・100・105・113図、第54表、P.L.40・41・65)

25号溝の南東側に重複する溝であり、本溝が新しい。長さは11.5mであり東はさらに調査区外に延びる。Ⅲ区の延長部には36号溝があるが、形態がかなり異なり、同一の溝かどうかは不明確である。幅は広狭が激しく0.73～2.76mである。底面に凹凸が激しく、深さは最も深いところで0.54mである。出土遺物は少ない。報告するのは土師器環1、須恵器甕2であり、円筒埴輪1点は第9節で報告している。その他、土師器甕類2点、須恵器甕類2点、円筒埴輪3点、形象埴輪1点が出土している。溝の時期は明らかな中世の遺物は出土していないので、古代のものである可能性がある。位置からみて南側溝そのものではなく、そのやや南側に新たに掘られたものと思われる。

#### 29号溝 (第97・98・105・108・113図、第54表、P.L.43・66)

25号溝の西側に重複する溝であり、本溝が新しいことは調査時に断面で確認した。長さは31.60mであるが、西側12mは幅が狭く、様相が異なるため、本来は別の溝で、この部分が古代の東山道南側溝である可能性もある。東側の広い部分では幅1.20～5.30mであり、深さは最も深いところで1.06mに及ぶが、西側では幅0.58～1.55mで深さは最も深くても0.26mである。底面は凹凸が激しく、何回にも分けて掘られたという印象を受ける。本溝は広い部分では5.3mにも及び、深さも1.06mに達するため、驛路の側溝としては異常な形態であり、本来の側溝が掘り広げられたとしか思えない。実際、最も深い部分の壁を見ると、えぐられたようになっている部分が目立つので、何らかの目的で土を採取するためにこのように溝を掘り広げたものと考えられる。壁に見えるロームは特に粘土質ではなかったが、同じ高さでえぐられている部分が多いので、特定の土を狙って掘り広げていることが分かる。恐らく道路側溝がまだ埋まらないうちに、ある特定の層位にある土を採取するために、深く、広く溝を掘り広げたのだと思われる。その時期は、埋土上層にAs-Bが堆積している(断面図O-O'参照)ので、古代の中には取まることは間違いないが、溝が埋まりきらないという時間を考えれば、驛路が廃絶してからさほど経たないうちと考えるのが妥当であろう。以上の状況は北側溝の26号溝も同様であり、Ⅱ区では道路廃絶後に両側溝で土取りのために溝を掘り広げる作業が行われたらしい。出土遺物は多くはない。報告するのは土師器環1、須恵器環2、同蓋1、同提瓶1である。その他、土師器環類110g、同甕類870g、須恵器環類190g、同甕類340g、形象埴輪1点、円筒埴輪4点が出土している。

#### 26号溝 (第97～99・106～108・110～112図、第53・54表、P.L.41・42・63～65)

北側溝であるが、29号溝と同様、本来の側溝が掘り広げられたものと思われる。西端部分のごくわずかな長さだけ細い溝になっており、これが本来の側溝であった可能性があるが、重複関係などは不明である。長さは25.64m、幅は2.70～5.26m、深さは凹凸が激しく、最も深いところで1.25mである。全体に凹凸が激しく、何回にも分けて掘られたという印象があり、また、壁がえ

※次ページ左下へ

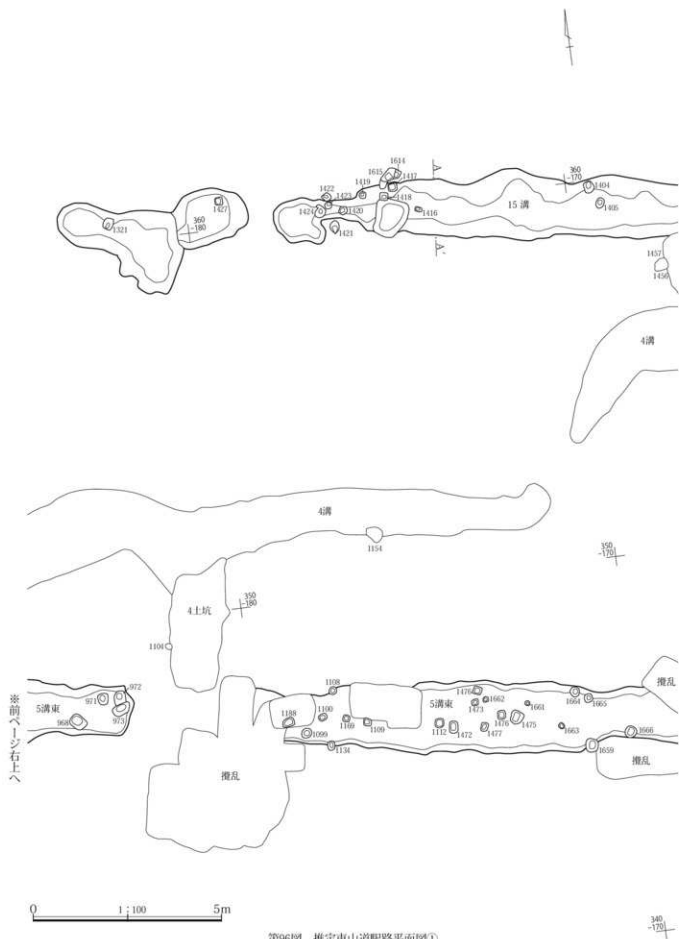
ぐられたような状態になっている点など、29号溝と共通しているため、こゝも土を取るために掘り広げられたものと思われる。やはり上層にAs-Bが堆積しているため、掘り広げられた時期が古代の中に収まることも同様であり、おそらく駅路廃絶後さほど時間が経たないうちにこの溝も掘り広げられたものと思われる。出土遺物は非常に多く、特に埴輪が目立つ。埴輪は大型の破片が多かったが、層位・位置ともにバラバラの状態で、特に東端付近から多く出土した。埴輪片は断面図O-O'の20層とした黒褐色土に多く含まれるが、P.L. 42の写真のように、底面近くからAs-B直下までの広い範囲から出土しているため、ある時期に埴輪だけを投棄したというのではなく、破砕された埴輪片を多く含んだ土によって溝を埋めたと考えられる。これらの埴輪は第9節でまとめて報告し、本節ではその他の遺物を取り上げる。報告するのは土師器壺1、同環1、須恵器環蓋1、同壺2、同環1、同提瓶3、甕4、砥石1である。その他、土師器環類200g、同甕類2645g、須恵器環類110g、同甕類2100g、円筒埴輪17730g、形象埴輪14000gが出土している。

### 3号窪地 (第97・107・116図、第55表、P.L. 37・67)

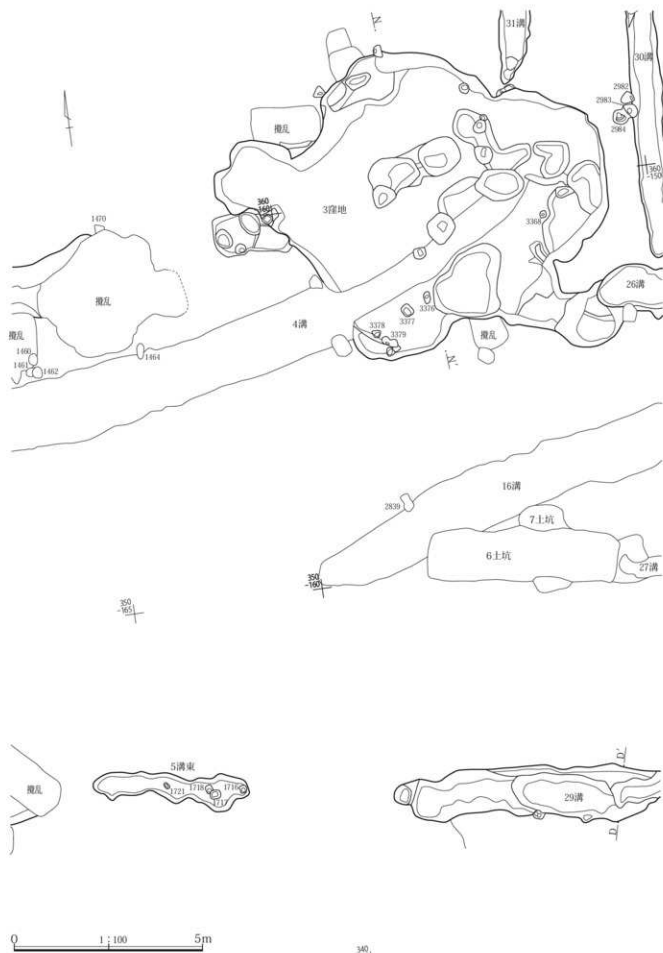
26号溝の西に接した位置にある。不整形の凹みであり、道路側溝とは直接関連しないと思われるが、北側溝に重複する位置にあるので本節で取り上げる。壁がえぐられたような形状であり、上層にAs-Bが堆積していることなどが26号・29号溝と共通するため、これも同時期の土取りの穴であると思われる。26号・29号溝とは異なり、側溝の形状とは全く無関係に、広く大きく掘り広げている。長さ10.30m、幅8.10mほどの不整形形で、深さは最も深いところで1.10mである。遺物は少なく、本項で取り上げるのは須恵器蓋1、長頸壺口縁部1、銅銭1である。銅銭が1枚出土しているが、「天聖元寶」で初鑄年代が1023年である。その他、土師器環類100g、同甕類2点、須恵器環類5点、同甕類340gが出土している。



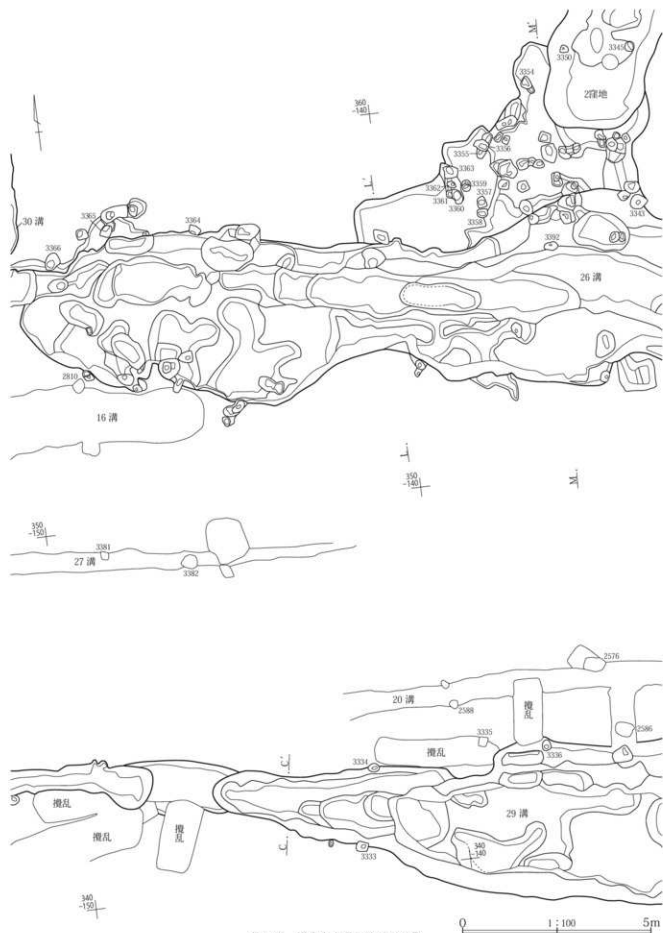
第95図 推定東山道駅路南側溝(5号溝東)平・断面図



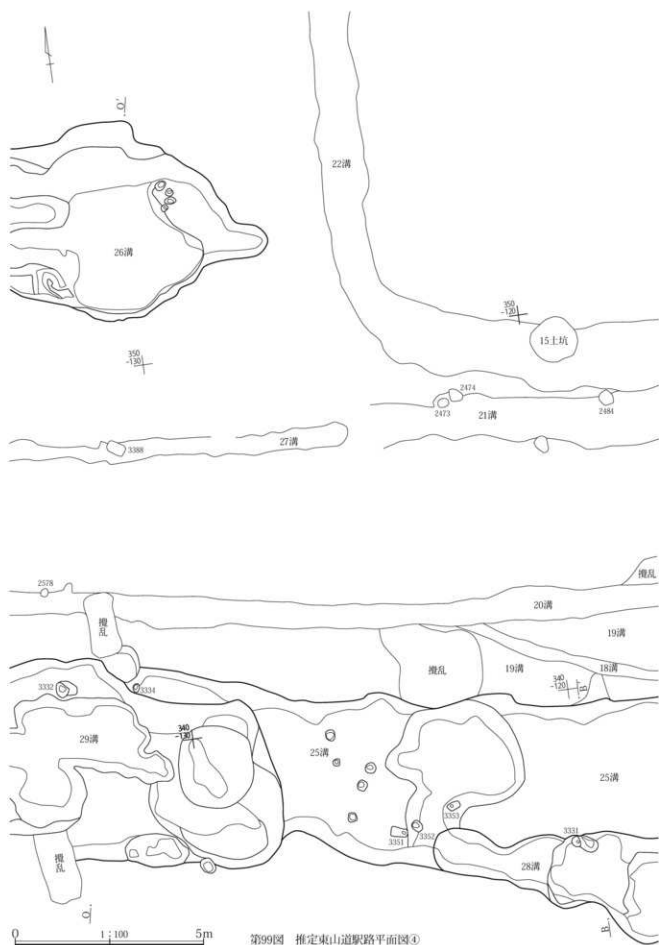
第96図 推定東山道駅路平面図①



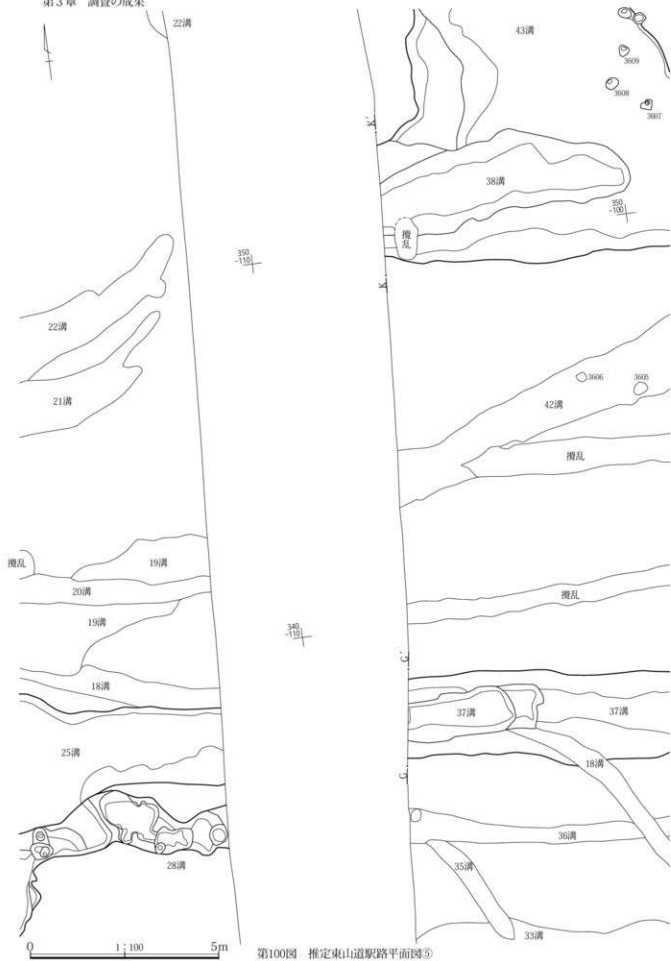
第97圖 推定東山道驛路平面圖②



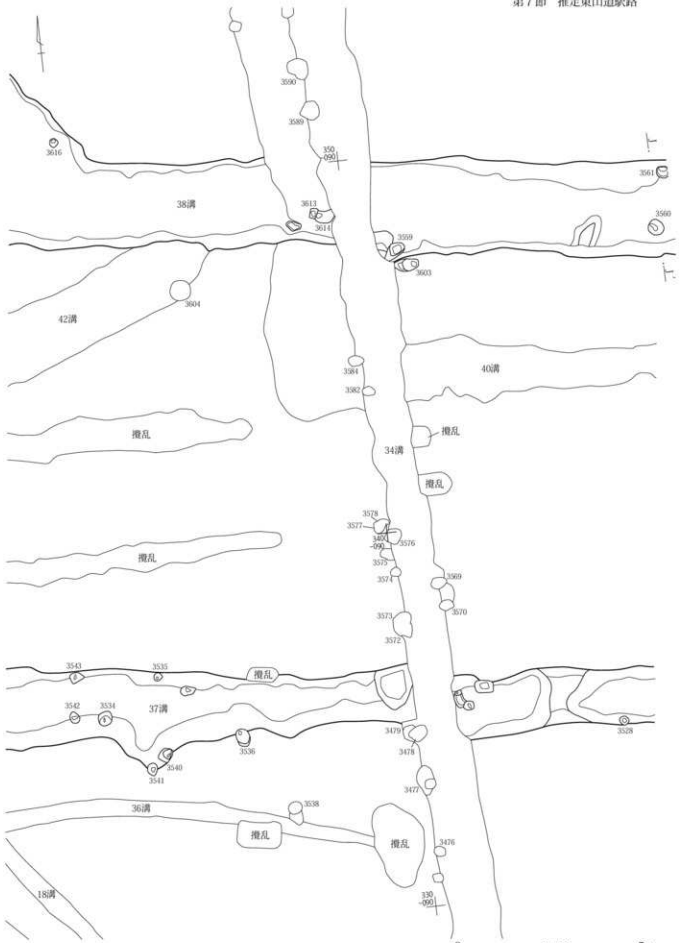
第98図 推定東山道駅路平面図③



第99図 推定東山道駅路平面図①

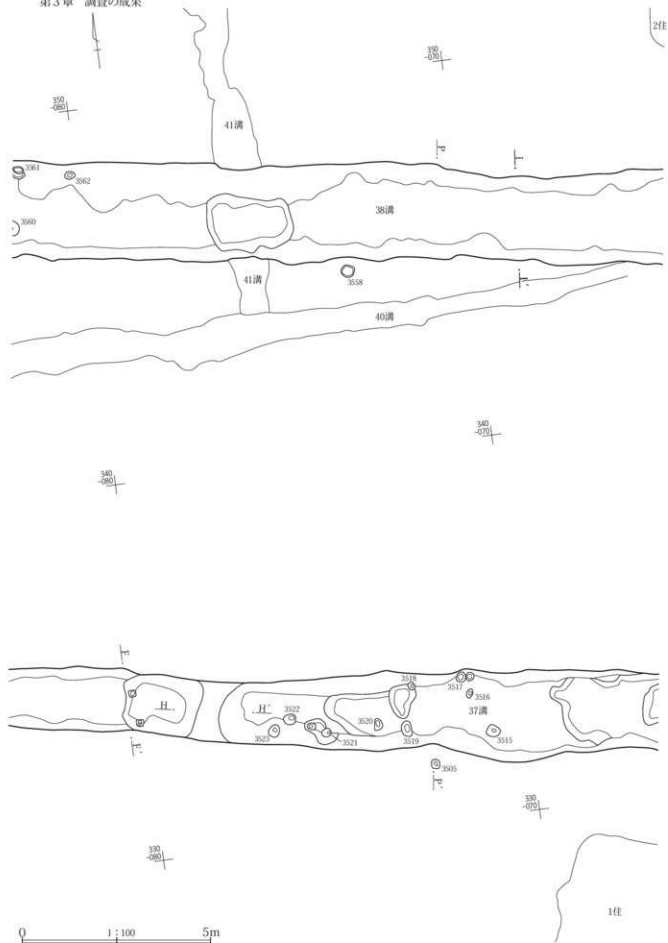


第100図 推定東山道駅路平面図⑤

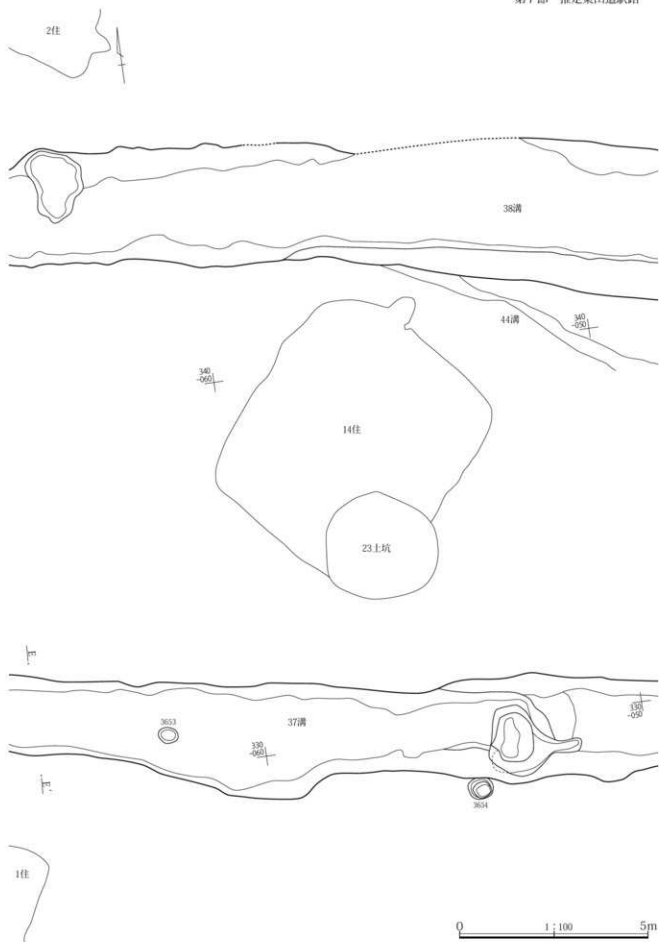


第101圖 推定東山道駅路平面圖⑥

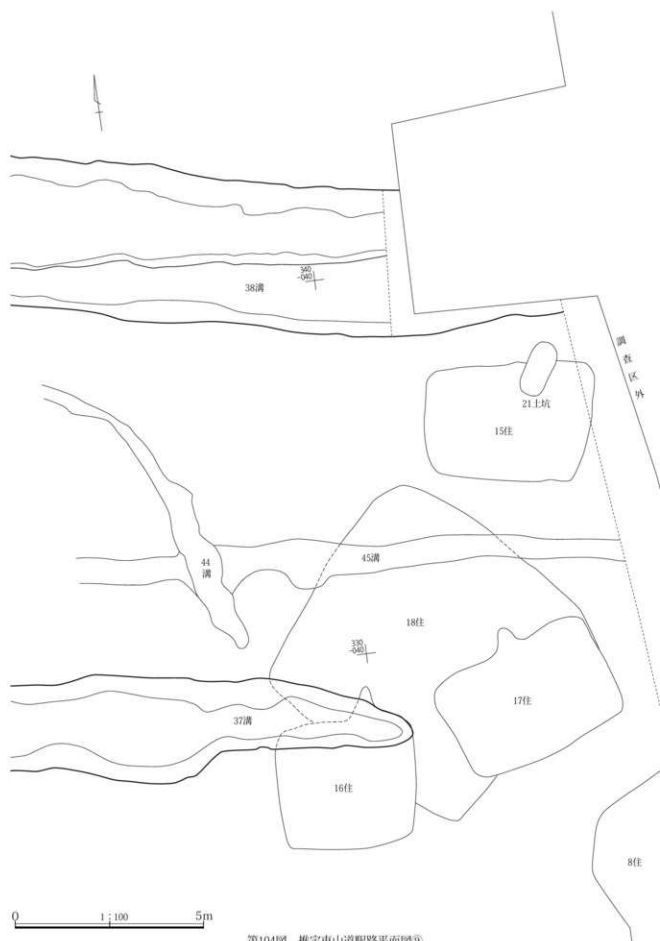




第102図 推定東山道駅路平面図⑦



第103圖 推定東山道駅路平面図⑧

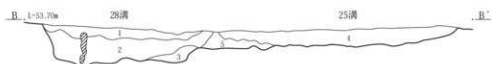


第104図 推定東山道駅路平面図⑨



15号溝 A-A'

1. 黒褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の砂粒・黒褐色粒子をやや多く含む。



25・28号溝 B-B'

1. 暗褐色土 ローム粒・細かい白色軽石を含む。  
 2. 黄褐色土 ロームブロック・黒色土ブロックを含む。  
 3. 黒色土とローム上の混土。  
 4. 暗灰褐色土  $\phi 3 \sim 5\text{cm}$ の小石を含む。固くしまっている。  
 5. 暗黄褐色土 ローム粒含む。



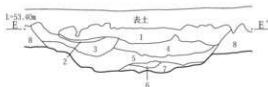
29号溝 C-C'

1. 黒色土 ローム粒、白色軽石を少量含む。炭化物粒を微量含む。しまりあり。  
 2. 黒褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ )をやや多量に含む。炭化物粒 ( $\phi 2 \sim 3\text{mm}$ )と白色軽石 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ )を微量含む。しまりあり。  
 3. 黄褐色土 ロームブロック ( $\phi 1 \sim 6\text{cm}$ )、ローム粒を多量に含む。かたくしまりあり。粘性あり。



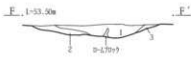
29号溝 D-D'

1. 黒色土 ローム粒、白色軽石 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ )を少量含む。炭化物粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ )を微量含む。しまりあり。  
 2. 黒褐色土 ローム粒 ( $\phi 2 \sim 3\text{mm}$ )、白色軽石 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ )を少量含む。ロームブロック ( $\phi 10 \sim 25\text{mm}$ )を微量含む。しまりあり。  
 3. 暗黄褐色土 粘性の強いロームブロック ( $\phi 2 \sim 3\text{cm}$ )が多量に含まれる。非常にかたくしまりあり。部分的に黒色土ブロック ( $\phi 20 \sim 40\text{mm}$ )が含まれる。



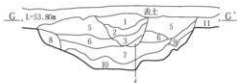
37号溝 E-E'

1. 暗黒灰色土  $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ の砂粒・小石、 $\phi 1\text{mm}$ 以下の黒褐色ローム粒子を少量含む。As-Bの粒子を少量含む。  
 2. 灰褐色砂質土 As-Bの堆積土。  
 3. 暗黒褐色土  $\phi 1\text{mm}$ 以下の黄褐色ローム粒子を少量含む。  
 4. 暗灰黄褐色土  $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ の黄褐色ローム粒子、ロームブロックを多く含む。  
 5. 暗灰褐色土  $\phi 1\text{mm}$ 以下の黄褐色ローム粒子、黒褐色粒子を多く含む。  
 6. 暗灰黄褐色土  $\phi 1\text{mm}$ 以下の黄褐色ローム粒子、ロームブロックを含む。  
 7. 暗灰黄褐色土 6層よりもさらに明るい色調を呈する。 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の黄褐色粒子を多量に含む。ロームブロックをやや多く含む。  
 8. 黒灰色土 地山。



37号溝 F-F'

1. 暗黒褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の砂粒・黒褐色粒子をやや多く、 $\phi 1\text{mm}$ 以下の黄褐色ローム粒子を多く含む。ロームブロックを少量含む。  
 2. 暗黄褐色土  $\phi 1\text{mm}$ 以下の黄褐色ローム粒子を多量に含む。ロームブロックを多く含む。



37号溝 G-G'

1. 灰褐色シルト質土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の砂粒を多く含む。  
 2. 灰褐色粘質土  $\phi 1\text{mm}$ 以下の砂粒を多く含む。  
 3. 灰褐色シルト質土  $\phi 1\text{mm}$ 以下の砂粒、褐色粒子を多量に含む。  
 4. 暗灰褐色粘質土  $\phi 1\text{mm}$ 以下の砂粒・黄褐色粒子を少量含む。  
 5. 黒灰色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の砂粒を多く含む。  
 6. 暗灰褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の黄褐色粒子をやや多く含む。ロームや灰褐色土のブロックを含む。  
 7. 黒灰色土  $\phi 1\text{mm}$ 以下の黄褐色ローム粒子を少量含む。  
 8. 暗黄褐色土  $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ の砂粒・黄褐色粒子を少量含む。  
 9. 暗褐色土  $\phi 1\text{mm}$ 以下の砂粒・黄褐色粒子を微量含む。  
 10. 灰褐色土 ベースとなるのは灰褐色土だが  $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ のローム粒子、ロームブロックを多く含む。  
 11. 黒褐色土 地山。



第105図 推定東山道駅路側溝断面図(1)

### 第3章 調査の成果



38号溝 J-I'

1. 黒色硬化土 非常に固くしまった層。黒色土中には、白色粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) をやや多量に含む。白色粒では  $\phi 3\text{mm}$  程度の大粒のものも少量含まれる。溝の南壁・北壁に近い部分ではローム粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ )、ロームブロック ( $\phi 7 \sim 10\text{mm}$ ) を少量含む。
2. 黒褐色硬化土 非常に固くしまった層。横縞状に何層もの薄い層が観察される。縞状のごく薄い層はごく細かいローム粒や部分的に直径  $2 \sim 3\text{mm}$  のローム粒が含まれるため淡い黄褐色を呈する。白色粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を 1 層と同じ程度含んでいる。
3. 黄褐色土 非常に固くしまった層。ローム粒及びロームブロック ( $\phi 10 \sim 30\text{mm}$  前後) を多量に含む。部分的に 2 層の黒色土が含まれるため、黒褐色を呈する。



38号溝 J-J'

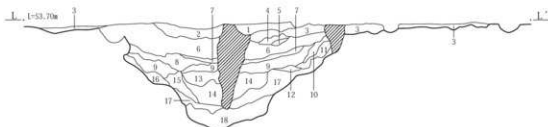
1. 黒褐色土  $\phi 1\text{mm}$  以下の黄褐色ローム粒子を多く含む。 $\phi 1\text{mm}$  以下の灰白色粒子・黒褐色粒子を少量含む。
2. 暗灰黄褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の黄褐色ローム粒子を多量に含む。
3. 暗灰黄褐色土  $\phi 1\text{mm}$  以下のローム粒子を少量、ロームブロックを少量含む。
4. 暗灰黄褐色土 2~3層より暗い色調を呈する。 $\phi 1\text{mm}$  以下のローム粒子を多く含む。



38号溝 K-K'

1. 表土
2. 暗褐色土  $\phi 1\text{mm}$  以下の黄褐色ローム粒子をごく少量含む。 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  前後の黒褐色粒子を少量含む。
3. 黒褐色土  $\phi 1 \sim 3\text{mm}$  の黄褐色ローム粒子・褐色粒子を少量含む。 $\phi 1\text{mm}$  以下の黒褐色・茶褐色粒子をごく少量含む。
4. 暗褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  のローム粒子・褐色粒子をやや多く、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$  の黒褐色・茶褐色粒子を少量含む。

5. 暗灰褐色粘質土 4層によく似るが4層に比べてややわらかくボロボロしており、黄褐色粒子の含有量が少ない。
6. 暗灰土  $\phi 1 \sim 3\text{mm}$  の黄褐色ローム粒子・ロームブロックを多く含む。
7. 暗灰褐色土 ロームブロックを大量に含む。ローム地山の崩落上。
8. 黒褐色土 地山。



26号溝 L-L'

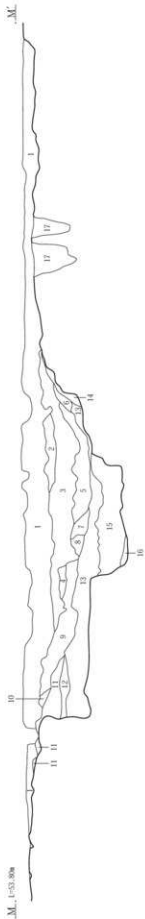
1. 暗褐色土  $\phi 1 \sim 8\text{mm}$  の黄色ローム粒子、ロームブロック、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  白色粒子、砂礫を少量含む。
2. 暗褐色土  $\phi 1\text{mm}$  程度の  $\text{As}$ -粒子を多量に含む。 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の砂粒をごく少量含む。粘性なし。
3. 暗褐色土  $\phi 1\text{mm}$  程度の黄色ローム粒子をごく少量、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の砂粒・白色粒子を少量含む。
4. 暗灰褐色土  $\phi 1 \sim 5\text{mm}$  の黄色ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。 $\phi 1\text{mm}$  以下の白色粒子を含む。
5. 暗灰褐色土  $\phi 1\text{mm}$  以下の黄色ローム粒子・白色粒子を少量含む。
6. 暗褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の黄色ローム粒子・白色粒子をやや多く含む。粘性、しまり強い。
7. 暗灰褐色土  $\phi 1 \sim 15\text{mm}$  の黄色ロームブロック、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$  の黄色ローム粒子・白色粒子をやや多く含む。硬質、粘性強い、しまり強い。
8. 暗褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の白色粒子・砂粒を少量含む。
9. 暗灰褐色土  $\phi 1 \sim 3\text{mm}$  の黄色粒子・白色粒子・砂粒を含む。ロームブロックを少量含む。粘性、しまり強い。

10. 暗黒褐色土  $\phi 1\text{mm}$  以下の砂粒を少量含む。
11. 暗褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の砂粒・白色粒子をやや多く含む。
12. 暗灰褐色土  $\phi 2 \sim 5\text{mm}$  の黄色ローム粒子、ロームブロックを多く含む。 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$  の砂粒・白色粒子を少量含む。
13. 明黄褐色土  $\phi 1 \sim 3\text{mm}$  の白色粒子をやや多く、 $\phi 5 \sim 10\text{mm}$  の暗灰褐色土ブロックを少量含む。(壁面崩落上)
14. 暗灰褐色土  $\phi 1 \sim 5\text{mm}$  の黄色ローム粒子・白色粒子、 $\phi 5 \sim 15\text{mm}$  の暗灰褐色土ブロックを多く含む。粘性、しまりやや強い。
15. 暗灰褐色土  $\phi 1 \sim 3\text{mm}$  の黄色ローム粒子・白色粒子を多量含む。粘性、しまり強い。
16. 暗灰褐色土  $\phi 1 \sim 5\text{mm}$  の黄色ローム粒子を少量含む。粘性、しまり強い。(壁面崩落上)
17. 暗灰褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の白色粒子を多量に含む。 $\phi 5 \sim 20\text{mm}$  の暗灰褐色土ブロックを少量含む。粘性、しまり強い。(壁面崩落上)
18. 暗灰褐色土  $\phi 1\text{mm}$  以下の白色粒子とローム粒子を多く含む。粘性、しまりやや強い。

0 1:50 2m

第106図 推定東山道驛路側溝断面図(2)

M. 1:50.0m



## 2号窪地M-N'

1. 黒褐色土 As-8の砂粒を大量に含む。
2. 明黒褐色土  $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ の黄色粒子を少量含む。
3. 黒褐色土 1・2層よりさらに黒い色調を呈し $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ のローム粒子・黒褐色砂粒をごく少量含む。
4. 黒褐色粘質土 3層よりさらに黒い色調を呈し、ロームプロックをやや多く含む。
5. 黒褐色土 黄褐色ローム粒子、ロームプロックをやや多く含む。

6. 黒褐色土 ロームプロック、ローム粒子を少量含む。

7. 黒褐色土 黒褐色粘質プロック。
8. 暗褐色土 砂粒・黄褐色粒子をごく少量含む。
9. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
10. 黒褐色土 1・2層よりさらに暗い色調を呈する。 $\phi 1\text{mm}$ 以下の砂粒・ローム粒子をやや多く含む。
11. 暗黒褐色土 黒褐色ロームの崩落土。黒色土との混合。砂粒を少量含む。
12. 暗褐色土 11層よりさらに明るい色調を呈する。ローム粒子

を多量に含む。

13. 暗褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ のローム粒子を多く含む。 $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ 程度のロームプロックを多量に含む。
14. 明黒褐色土 ロームプロック、ローム粒子を多量に含む。
15. 暗黒褐色土 ロームの崩落土。 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の黄褐色粒子・白色粒子を多量に含む。粘性、しまり強い。
16. 暗黒褐色土 ロームの崩落土。暗褐色粒子を多く含む。粘性、しまり強い。
17. ヒートの層土 土層不明。

M. 1:50.0m



## 3号窪地・4号窪地N'-N'

1. 暗褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を多量に含む。炭化物 ( $\phi 2 \sim 4\text{mm}$ ) を微量含む。しまりあり。
2. 暗褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を少量含む。炭化物 ( $\phi 1 \sim 4\text{mm}$ ) を微量含む。3層よりやや細かい。
3. 暗褐色土 ローム粒 ( $\phi 1\text{mm}$ ) と砂粒 ( $\phi 1\text{mm}$ 以下) を多量に含む。炭化物 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を少量含む。しまりのない部分もある。
4. 黒褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を少量含む。炭化物 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を微量含む。
5. 茶褐色土 ロームプロック ( $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ) を少量含む。ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を多量に含む。炭化物 ( $\phi 1\text{mm}$ ) を微量含む。

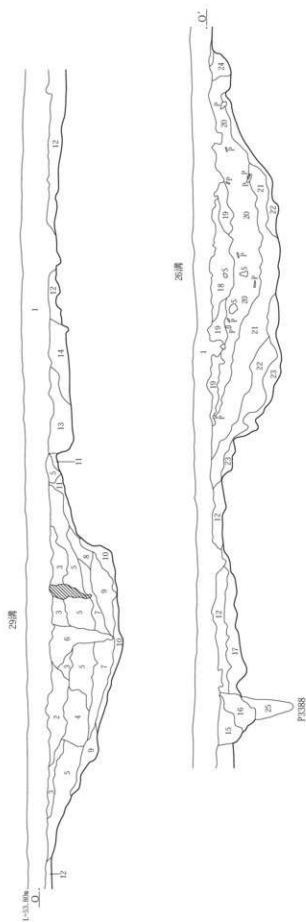
を、固くしまっている。粘性あり。

6. 茶褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を多量に含む。ロームプロック ( $\phi 5 \sim 30\text{mm}$ ) を少量含む。しまりあり。
7. 暗褐色土 ローム粒 ( $\phi 1\text{mm}$ )、砂粒を少量含む。しまりはやや弱い。
8. 黒褐色土 ローム粒 ( $\phi 1\text{mm}$ ) を少量含む。しまりはやや強い。
9. 黒土 ローム粒 ( $\phi 1\text{mm}$ ) を微量含む。しまり強い。
10. 黒褐色土 ローム粒 ( $\phi 1\text{mm}$ )、砂粒を少量含む。しまり弱い。
11. 灰黒粘砂質土 As-8と思われる層が少量に含まれる。固くしまっている。
12. 黒土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ )、白色軽石 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を少

量含む。炭化物 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を微量含む。しまりあり。

13. 暗褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を多量に含む。ロームプロック ( $\phi 10 \sim 25\text{mm}$ ) を少量含む。炭化物 ( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ) を微量含む。しまりあり。
14. 黄褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を多量に含む。ロームプロック ( $\phi 10 \sim 70\text{mm}$ ) を少量含む。中央の深い部分に暗褐色土プロック ( $\phi 10 \sim 25\text{mm}$ ) を少量含む。しまり・粘性あり。
15. ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ) を多量に含む。ロームプロック ( $\phi 10 \sim 60\text{mm}$ ) を少量含む。炭化物 ( $\phi 1\text{mm}$ ) を微量含む。

第107図 推定東山道駅路断面面図(3)



20・29号溝0-0'

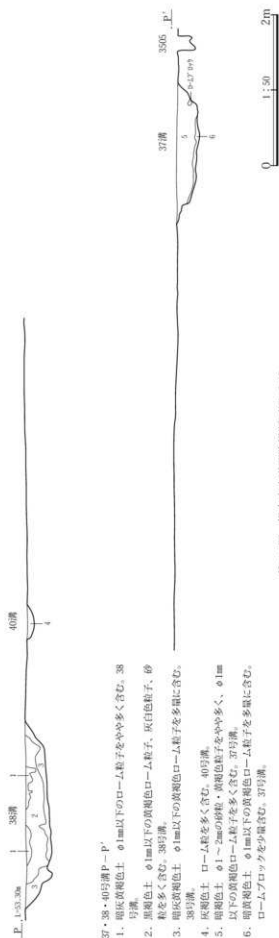
1. 表土 圧痕色土 As-Bを含む。
2. 灰褐色土 As-Bを多く含む、 $\phi 1mm$ の白色軽石を含む。
3. 灰褐色土 As-Bを多く含む、 $\phi 1mm$ の白色軽石を含む。
4. 暗褐色土 As-Bを大量に含む、 $\phi 1mm$ の白色軽石を含む。
5. 黒褐色土 As-Bを含んだ土がまだらにはいる。
6. 黒褐色土  $\phi 1 \sim 2mm$ の白色軽石を含む。
7. 黒褐色土 ビット、As-Bを大量に含む。
8. 暗褐色土  $\phi 1 \sim 3mm$ の白色軽石をまばらに含む。
9. 暗褐色土 ローム土がまばらに混じる、 $\phi 1 \sim 3mm$ の白色軽石を含む。
10. 黄褐色土 ロームの崩れた土。

11. 黄褐色土 ロームの崩れた土、暗褐色土を含む。
12. 暗褐色土  $\phi 1 \sim 3mm$ の白色軽石を含む、ロームブロックをまばらに含む。
13. 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を含む。
14. 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量に含む。
15. 暗褐色土 ロームブロックを含む、ボソボソしている、27号溝。
16. 暗褐色土とロームブロックの混合土、27号溝。
17. 暗褐色土 大きいロームブロックを大量に含む。
18. 黒褐色土 As-Bをやや多く含む、ローム粒、 $\phi 1mm$ の白色軽石を少量含む。
19. 黒褐色土 As-Bを多量に含む、ローム粒を少量含む。
20. 黒褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 2mm$ )、白色粒 ( $\phi 1 \sim 3mm$ ) を少量含む。

21. 暗褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3mm$ ) をやや多く含む、ロームブロック ( $\phi 10mm$ ) を少量含む、白色粒 ( $\phi 1 \sim 2mm$ ) を少量含む。
22. 暗褐色土 ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3mm$ ) を多量に含む、ロームブロック ( $\phi 10 \sim 40mm$ ) を少量含む、白色粒 ( $\phi 1 \sim 2mm$ ) を少量含む。
23. 黄褐色土 壁のロームの崩落土、ロームブロック・ローム粒の塊。
24. 黄褐色土 ローム粒を大量に含む、ややしまりなし。
25. 黒色土 ローム粒を含む、P3388埋土。



第108図 推定東山運動路断断面図(1)



## Ⅲ区・Ⅳ区

Ⅲ・Ⅳ区では南北両側溝は明確となり、2本の溝が平行して東西に横断している。南側溝を37号溝、北側溝を38号溝と名付けて調査した。道路の走行方位はN-82°-Wであり、これは周囲の遺跡でもほぼ変わっていない。道路の幅は、Ⅲ・Ⅳ区において側溝心-心で計測すると12.5～14.0mであり、13.0m前後の部分が多い。

**37号溝** (第100～105・109・114図、第54・55表、P.L.44～46・66)

南側溝であり、Ⅲ・Ⅳ区を東西に横断するが、東端は途切れている。長さは69.2m、幅は1.18～3.06mとやや広狭があるが、2m前後の部分が多い。深さは比較的浅く、0.2～0.4m程度のところが多いが、土坑状に深く掘られているところが数カ所ある。断面形状は逆台形で、底面は比較的平坦なところが多い。また、Ⅲ-1区の中央やや東側の部分には、底面を土橋状に掘り残した部分がある。断面(H-H')にみるように、底面幅1.5m、上面幅0.6mの部分が高くなっている。調査時は1号住居に近い部分にあることから、側溝を横断する施設だと考えたが、高さは低いものの同様な高まりはそれより西側8mのところにもあり、さらに1号住居は道路廃絶後の住居である可能性が高まったので、駅路使用時の施設ではないと思われる。高まりの上面は硬化していたので、人が横断していたことが分かる。

出土遺物は比較的多い。報告するのは土師器坏6、須恵器壺1、同甗の把手1、同甗3、同円面硯1であり、その他、土師器坏類520g、同甗類2480g、須恵器坏類510g、同甗類5820g、円筒埴輪2点などが出土している。

**38号溝** (第100～104・106・109・115・116図、第55表、P.L.44・45・47・67)

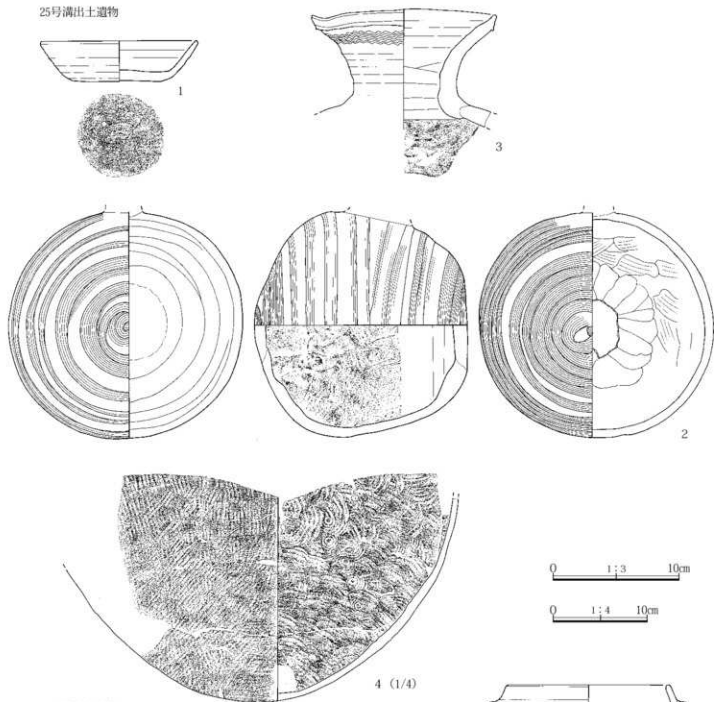
北側溝であり、Ⅲ・Ⅳ区を東西に横断し、両端は調査区外に延びる。長さは75.0m、幅は2.20～4.15mであるが、2.5m前後の部分が多い。断面は逆台形で、深さは浅く、0.2～0.4m程度のところが多いが、最も深いところでは0.70mである。2号住居の南西に当たる部分には、埋土中層に硬化した面が観察できた。断面(1-1')に見られるように、硬化面が複数確認でき、溝が埋没していく過程で、頻りに横断を繰り返した痕跡と思われる。

出土遺物は多く、埴輪も多く出土している。これら埴

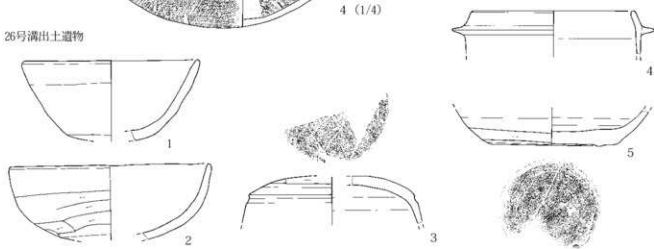


第3章 調査の成果

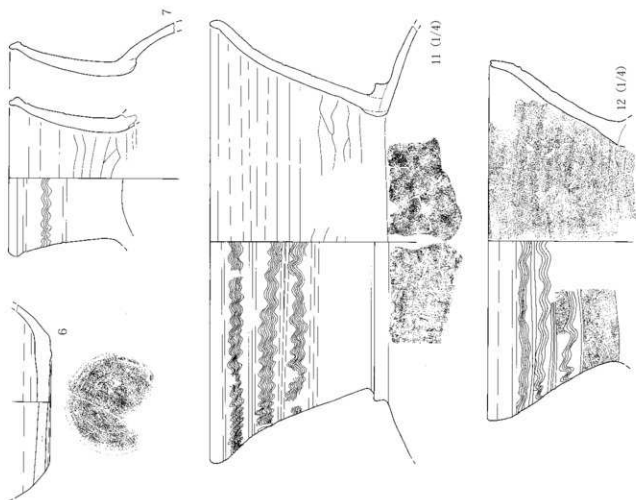
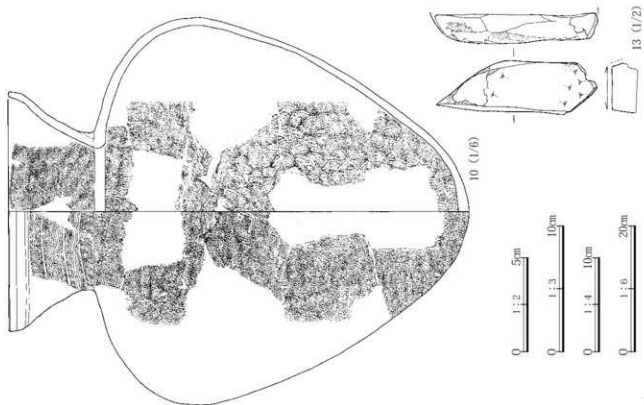
25号溝出土遺物



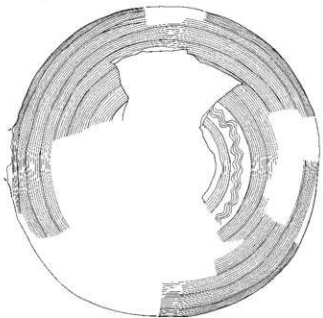
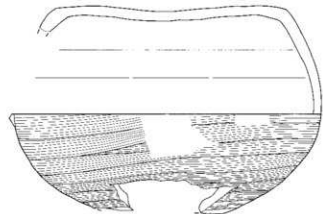
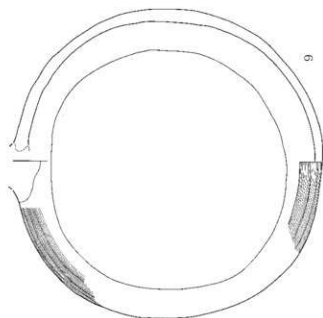
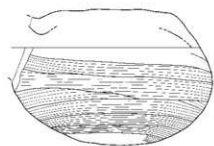
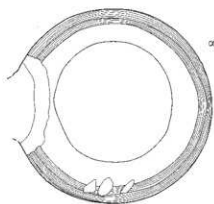
26号溝出土遺物



第110図 25号溝出土遺物、26号溝出土遺物(1)

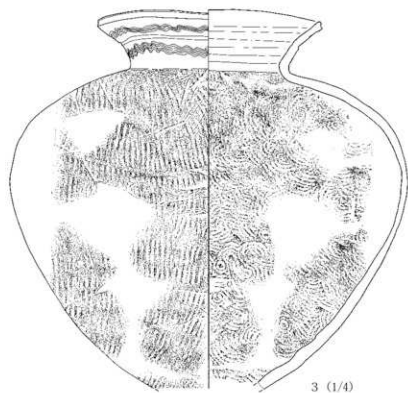
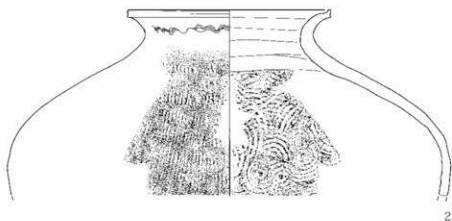


第111圖 26号溝出土遺物(2)

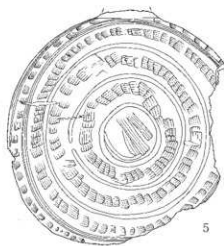
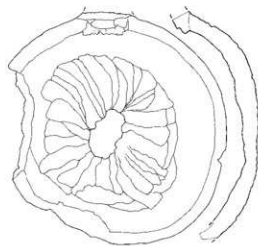
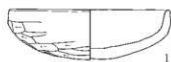


第112図 26号溝出土遺物(3)

28号溝出土遺物



29号溝出土遺物



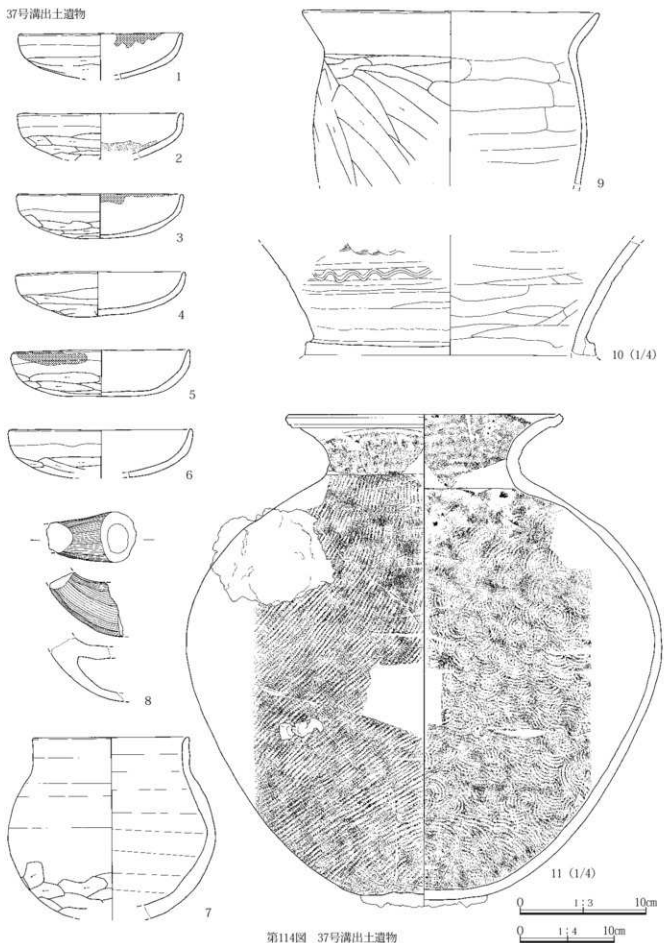
0 1:3 10cm

0 1:4 10cm

第113図 28・29号溝出土遺物

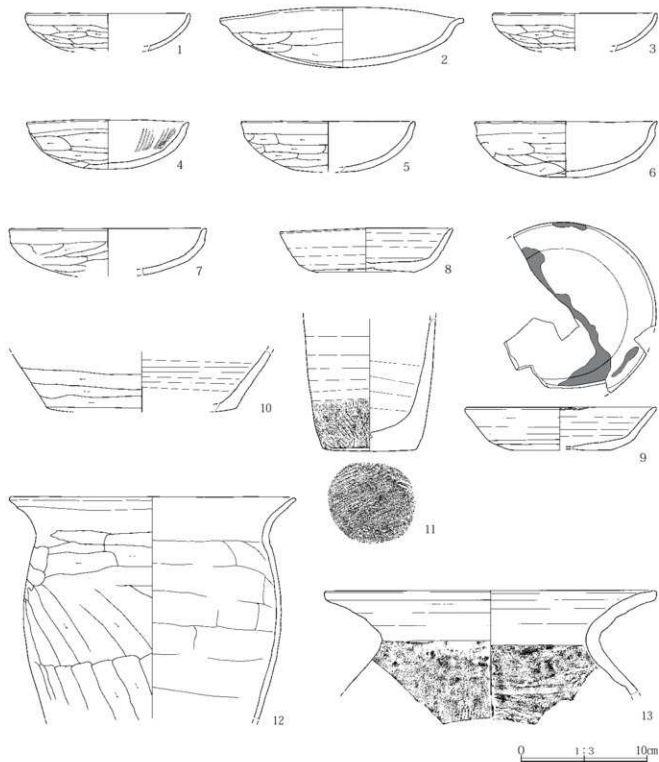
第3章 調査の成果

37号溝出土遺物

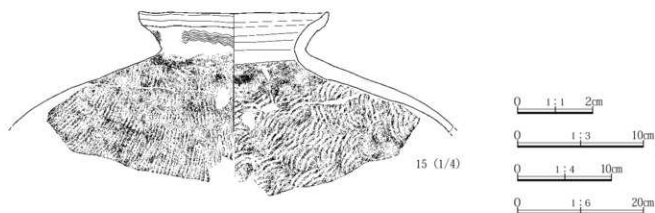
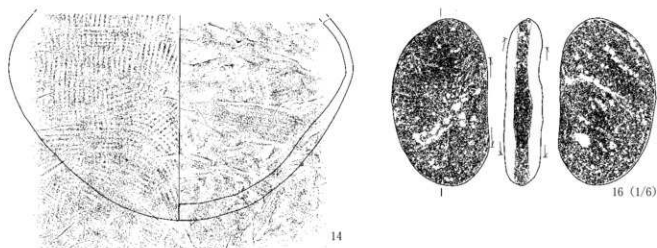


第114図 37号溝出土遺物

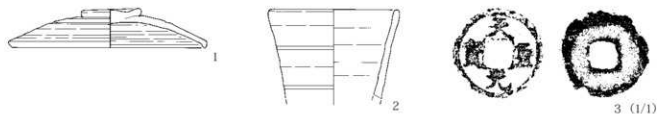
## 38号溝出土遺物



第115図 38号溝出土遺物(1)



3号窪地出土遺物



第116図 38号溝出土遺物(2)、3号窪地出土遺物

輪については第9節でまとめて報告し、本節ではそれ以外の遺物を取り上げる。報告するのは土師器環7、同糞1、須恵器環2、同鉢1、同長頸壺1、同甕3であり、その他に土師器環類935g、同糞類4990g、須恵器環類850g、同糞類11550gが出土している。

1号道路 (第117図、P.L.48・49)

Ⅱ区2面北西部において、ほぼ南北方向に延びる2本の平行する溝を確認した。推定東山道駅路北侧溝とは直接重複しないが、その形態から、この2本の溝も道路側溝である可能性が高いものと判断したので、1号道路と

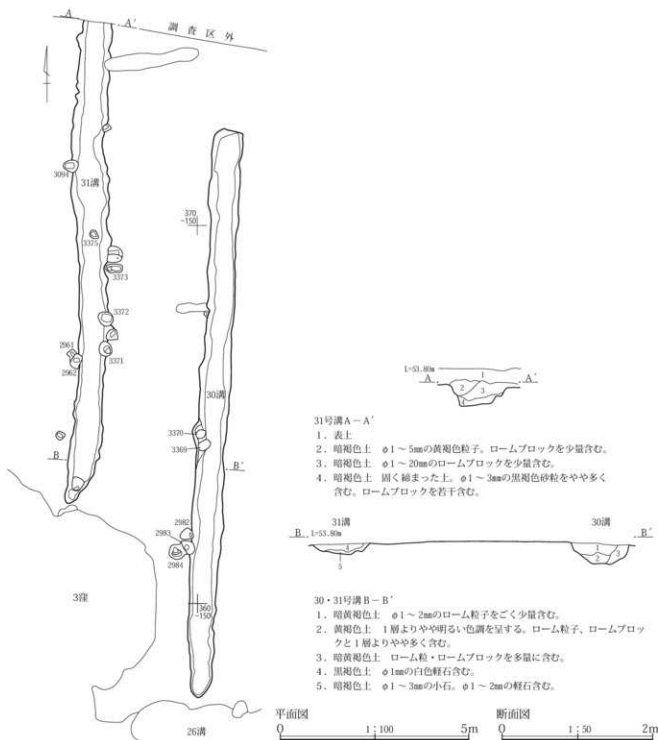
名付けて報告する。ただし、路面には硬化面などは認められず、表面は削平されているものと考えられる。調査区内で確認できたのは長さ18m、幅は側溝心一線で3.35～3.75m、走行方向はN-3°-Eである。

東西の側溝となる30号溝と31号溝の形態はほぼ同じであり、細く直線的で、断面は逆台形ないし楕形である。30号溝は長さ15.06m、幅0.56～0.86m、深さ0.25mであり、南北両端が途切れている。31号溝は、南端は3号窪地のすぐ北側から始まり、長さ12.84mで北端は調査区外に延び、幅0.65～1.00m、深さ0.34mである。

出土遺物は少なく、30号溝では須恵器環類1点、円筒

埴輪2点の小破片が、31号溝では近世の磁器の小破片が出土しているにすぎない。遺物が少ないため、この溝の年代を確定することは非常に難しい。31号溝から出土している近世の遺物を重視すれば、この道も近世のものということになる。しかし、推定東山道駅路北側溝である26号溝と、それを壊して掘られている3号窪地と交差す

ことなく、わずかに離れた部分から掘り込んでいるので、それらの遺構の存在を意識して作られていると考えることが可能であると思われる。とすれば、少なくとも3号窪地が埋まりきる前までは遡ることが可能であると思われ、駅路とは同時存在ではないものの、古代の道であることも考えられる。その場合は近世の遺物は混入品ということになる。



第117図 1号道路平・断面図



## 第8節 掘立柱建物・ピット

ピットは非常に数が多く、総計3726基を調査した(ピット番号はP1からP3763までであるが、そのうち16基が欠番であり、逆に1号掘立柱建物の6基のピットがその中に入っていない)。これらは平面形が方形であるものが多く、大きさは一辺20～40cm程度のもので大部分で、あまり大きなものは見あたらなかった。調査区全域から数多く見つかったが、密度には粗密があり、Ⅰ-Ⅱ区からⅡ区にかけてが特に多い。そのなかでも詳細に見れば粗密があり、いくつかの群が把握できそうであった。Ⅲ-Ⅰ区西部にある34号溝は、調査区を南北に横断する中世の溝であるが、この溝の東側にはピットが少ない。おそらく、ここがピット群の一応の東端になると思われる。この溝の西壁際にはピットが列をなすように見つかり、この溝の報告の項では塀のような施設の存在を想定したが、区画施設としてしっかりとした塀状の遮蔽物があったか否かは明らかではないのもちろんである。この溝を東端とすると、その東側に例外的に見つかり、1号、77号掘立柱建物の2棟のみであり、それ以外の大部分の掘立柱建物はこの溝の西側にあることになる。

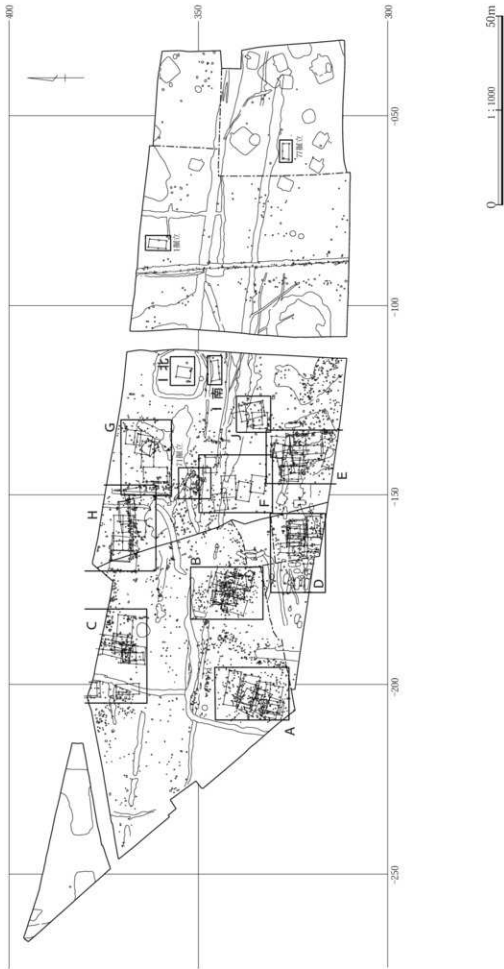
各ピットから出土している遺物が少ないため、時期を確定するのは難しいが、その形態と、ピット内からわずかに出土している遺物から、これらのピットは中世の掘立柱建物に関わるものがほとんどを占めるものと思われる。そして、それらのピット群の周囲を囲うように配置される中世の溝が、それらの建物を区画した溝であったと考えられる。すなわち、Ⅰ-Ⅱ区からⅢ区西端にかけての範囲に多くの掘立柱建物が建ち並び、それらを溝やあるいは塀のようなもので区画した、複数の屋敷が存在したものと考えてよいであろう。

しかし、このように多くの掘立柱建物が想定されるとはいうものの、現地における発掘調査の際は、ピットの数があまりに多く、なおかつ密集して存在しているということが災いして、個々の掘立柱建物を把握することは非常に困難であり、なおかつ平面図作成にはかなりの時間を要するため、現地においての認定作業はあきらめざるを得なかった。わずかな例外が1号掘立柱建物とした

ものであるが、これは周囲に掘立柱建物がなく、単独で位置していたからに他ならない。それ以外のピットについては、今回整理作業を行うにあたって、当事業団の飯森康広が詳細に再検討を行い、柱間隔や方向から判断して、建物として組み合うと考えられるピットを抽出する作業を行った。具体的には、1/40の平面図を作成してそれを基本図とし、1尺単位のマス目を示した方眼を使用して、柱間寸法と柱筋を基準に各ピットの形態・規模・深さをも加味した上で図上で掘立柱建物の認定を行ったものである。その作業によって、以下本節で取り上げる76棟の建物を把握することができ、現地で把握できた1号掘立柱建物をあわせて合計77棟を把握することができた。本節の記述は飯森の認定作業の結果を受けて、整理担当の高井が執筆したものである。もちろん、このような作業によっても、これらの掘立柱建物に関わらないピットの方が多いので、本来はこの数倍の建物があったはずであるが、大体の傾向は把握できたものと思われる。

これらの掘立柱建物は、第118図にみるように、大きく分けてA～Jの10群を把握することができ、それぞれが一つの屋敷地をなしていたものと考えられる。本節ではその群に従って報告することにする。ただし、1号、77号の2棟のみは単独で位置し、群として把握することはできなかったため、これのみは単独で取り上げる。

出土遺物は、ピットそのものからはごく少数しか出土していない。特に掘立柱建物として認定されたピットからはほとんど出土していないが、ここではH群の69号掘立柱建物、F群の北に位置する71号掘立柱建物を構成するピットから出土した2点を報告するほか、C群の建物群に近いピットから出土した1点を報告し、その他のピットから出土した遺物は節末にまとめて報告する。それ以外の、掘立柱建物に関連する遺物としては、建物群を区画する溝や、井戸・土坑から出土する遺物も重要である。特にA群・B群・C群付近の溝・井戸などからある程度まとまった数の遺物が出土しているが、それらは各遺構の項で報告しており、それらと掘立柱建物群との関連については第4章の中で触れることにする。全体に12世紀から16世紀までの遺物が出土しているが、14、15世紀のものが多く、このころ掘立柱建物群はピークを迎えているらしい。

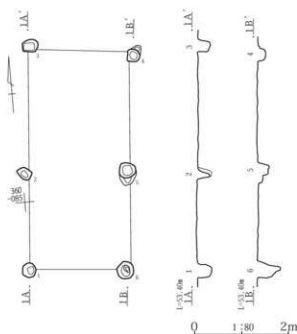


第1188号 掘立柱建物分布図

## 1号掘立柱建物 (第119図、第4表、P.L.49)

Ⅲ-1区で見つかったものである。周囲に別の掘立柱建物が少ないため、これのみは現地における調査の際に1棟の建物と認識することができた。1間×2間の側柱建物であり、やや東に振れる南北棟である。桁行の柱間は南側がやや狭くなっている。40、41号溝の作り出す方形の区画の中にあり、方位もほぼ同じであるため、関連が考えられるが、他に建物を把握することができなかったため、屋敷としての構成は明らかではない。この付近は掘立柱建物の一応の東限と考えられる34号溝よりもさらに東となり、ピットが少ない。屋敷などが造られたとすれば、ごく短期間に廃絶したものと思われる。

なお、各掘立柱建物の計測値などは、一覧表として掲げた。各項目の内容は、下に凡例を示したとおりである。



第119図 1号掘立柱建物平・断面図

凡例	
建物規模を間数で表示	主軸方位 各辺の長さ、○内に各柱間寸法を西、ないし南から順に表示。単位はm。
ピットの大きさ。各辺毎にそこにかかるピットを計測して表示。長径×短径×深さ。単位はcm。	
1号掘立柱建物 P1～P6は本建物のピット番号であり、ピット群の続き番号とは異なる。	
1間×2間	N-5°-E 東辺4.52 (2.11+2.41)、西辺4.74 (2.03+2.71)、北辺2.20、南辺2.04
東辺	P6 36×35×52 P5 47×36×22 P4 40×28×17
西辺	P1 30×28×32 P2 30×22×29 P3 33×26×25

第4表 1号掘立柱建物計測表

## A群 (第120～122図、第5・6表、P.L.49・50)

1-2区南西隅に把握できた掘立柱建物群であり、建物として認定できたのは2～11号の10棟である。建物の重複が多く、229ページで述べられているように7時期以上が存在すると思われる。全体に東西棟が多く、南北棟は1棟のみである。西・北には4号溝があり、これが屋敷地の区画であろう。東側には3号溝があるが、この溝の周囲にもピットが数多く存在するため、3号溝と掘立柱建物とが重複している可能性があり、3号溝が区画線であったとしても、短期間のものではあったと思われる。この部分では区画と建物群とに変遷があったと考えられる。また、この付近のピットは、北側にあるピットとあわせて、全体としてL字形をしてA群の建物を囲んでいる。あるいはこれらのうちのいくつかは、ピット列としてA群の北・東を画するものであるかもしれない。いずれにしても、この付近の区画はかなり複雑な変遷をしてしている可能性がある。さらに、東に存在するB群とは共通する要素がいくつかあり、それとの関連も注意しなければならない。なお、時期不明ではあるが、1号土坑がこの

群の北部に存在し、2～4号建物と重複している。

2～5号建物はA群の北半にある。2号建物は1間×4間の東西棟で、比較的大型の建物である。

3号建物は1間×3間の東西棟で、南側に下屋(庇)をもつ。

4号建物は1間×3間の東西棟で、東側に下屋(庇)をもつ比較的大型の建物である。2号建物と主軸方位が共通している。南にわずか70cm離れて平行に存在するので、同時存在とは考えられない。

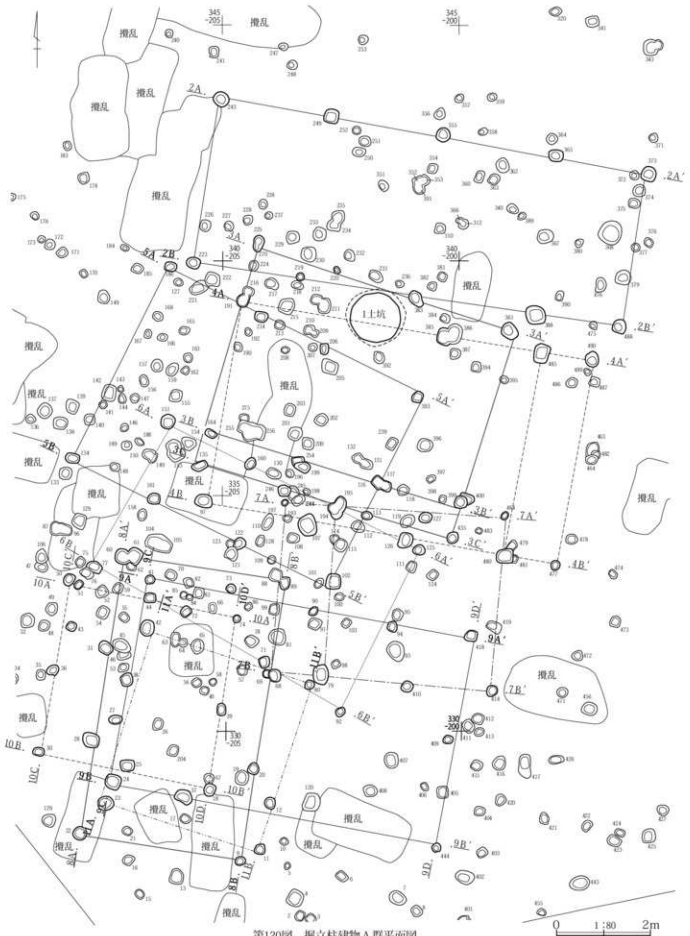
5号建物は1間×3間のやや傾いた東西棟で、次の6号と主軸方位がほぼ共通する。

6、7号建物はA群の中央にある。6号建物は1間×3間のやや傾いた東西棟である。

7号建物は1間×2間の東西棟で、比較的小型の建物であり、西に下屋(庇)をもつ。

8～11号建物はA群の南半にある。8号建物は1間×3間の南北棟で、この群では南北棟はこれのみである。

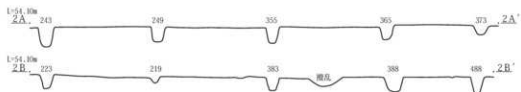
9号建物は2間×4間の東西棟で、比較的大きく、主軸方位が2、4号と共通している。南辺の柱穴が攪乱に



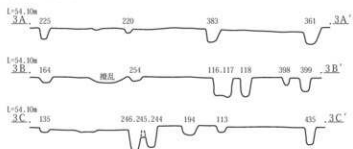
第120図 掘立柱建物A群平面図

### 第3章 調査の成果

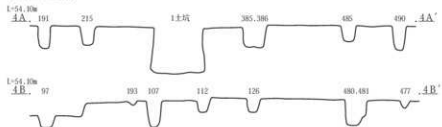
#### 2号掘立柱建物



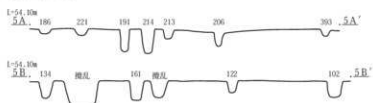
#### 3号掘立柱建物



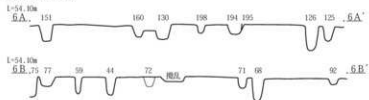
#### 4号掘立柱建物



#### 5号掘立柱建物



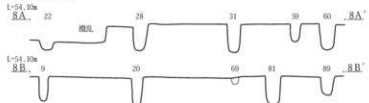
#### 6号掘立柱建物



#### 7号掘立柱建物



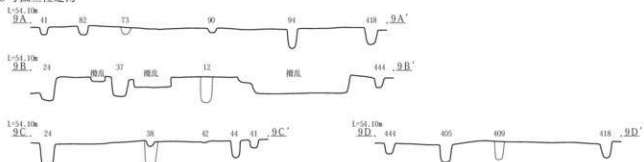
#### 8号掘立柱建物



第121図 掘立柱建物A群断面図(1)

0 1:80 2m

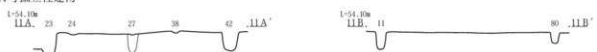
## 9号掘立柱建物



## 10号掘立柱建物



## 11号掘立柱建物



第122図 掘立柱建物A群断面図(2)

A群

## 2号掘立柱建物

1間×4間	N-80°-W		北辺9.20 (2.38+2.40+2.43+1.99), 南辺9.10 (2.30+2.49+2.56+1.75) 東辺3.30, 西辺3.50							
北辺	P243	35×32×39	P249	30×30×32	P355	30×29×47	P365	30×25×27	P373	32×31×20
南辺	P223	30×25×25	P219	18×16×10	P383	40×27×25	P388	40×40×34	P488	32×30×36

## 3号掘立柱建物

1間×3間南下屋(庇)	N-74°-W		北辺5.64 (1.79+1.89+1.96), 身舎南辺5.48 (1.89+1.8+1.79) 下屋南辺5.60 (1.89+1.83+1.88), 東辺4.60 (0.79+3.81), 西辺4.80 (0.74+4.06)							
北辺	P225	23×(20)×33	P270	18×(15)×25	P220	16×12×7	P383	40×27×25	P361	37×32×26
身舎南辺	P164	27×16×11	P254	27×(13)×8	P116	(24)×24×37	P399	27×25×28		
下屋南辺	P135	32×18×12	P246	27×24×40	P113	22×18×14	P435	24×23×38		

## 4号掘立柱建物

1間×3間東下屋(庇)	N-80°-W		北辺7.54 (4.36+2.09+1.09), 南辺7.61 (2.28+2.12+2.13+1.08), 東辺4.44, 西辺4.35							
北辺	P191	(28)×27×48	P385	38×(25)×40	P485	45×32×33	P490	34×28×50		
南辺	P097	36×28×26	P107	44×38×66	P126	37×30×53	P481	18×(10)×35	P477	21×19×17

## 5号掘立柱建物

1間×3間	N-65°-W		北辺5.95 (2.19+1.51+2.25), 南辺6.14 (1.92+2.04+2.18), 東辺4.31, 西辺4.53							
北辺	P186	25×20×11	P214	29×23×50	P206	24×18×28	P393	25×23×14		
南辺	P134	30×21×34	P161	27×24×40	P122	27×23×24	P102	33×32×35		

## 6号掘立柱建物

1間×3間	N-62°-W		北辺5.96 (1.95+2.07+1.94), 南辺6.07 (2.18+1.96+1.93), 東辺3.78, 西辺3.40							
北辺	P151	32×30×33	P160	27×22×11	P195	28×(20)×20	P125	26×23×31		
南辺	P077	35×23×19	P072	23×22×20	P071	24×23×21	P092	21×18×14		

## 7号掘立柱建物

1間×3間西下屋(庇)	N-86°-W		北辺4.70 (1.07+1.96+1.67), 南辺4.66 (1.01+1.84+1.81), 東辺3.70, 西辺3.67							
北辺	P197	15×14×12	P194	36×(23)×19	P127	27×22×35	P484	19×15×15		
南辺	P068	27×25×46	P079	42×33×59	P410	25×24×33	P414	24×23×40		

## 8号掘立柱建物

1間×3間	N-10°-E		東辺5.98 (1.97+2.07+1.94), 西辺5.92 (1.97+1.98+1.97), 北辺3.51, 南辺3.48							
東辺	P009	23×19×52	P020	25×24×60	P069	18×(12)×13	P089	25×22×40		
西辺	P022	29×29×19	P028	34×32×51	P031	31×27×60	P060	35×(30)×55		

## 9号掘立柱建物

2間×4間	N-80°-W		北辺6.94 (1.74+1.82+1.72+1.66), 南辺7.01 (1.52+1.87+3.62) 東辺4.55 (2.29+2.26), 西辺4.35 (2.18+2.17)							
北辺	P041	20×18×17	P073	21×20×15	P090	23×16×9	P094	24×20×41	P418	23×23×29
南辺	P024	35×34×51	P037	38×26×36	P012	26×22×54	P444	19×19×22		
東西中央	P409	22×18×28	P038	28×26×58						

第5表 掘立柱建物A群計測表(1)

### 第3章 調査の成果

10号掘立柱建物									
2間×2間		N-11°-E		北辺3.66 (1.76+1.90)、南辺3.72 (1.90+1.82)					
				東辺3.69 (1.70+1.99)、西辺3.72 (1.73+1.99)					
北辺	P050	26×23×31	P044	26×20×37	P074	18×16×7			
南辺	P030	24×18×20	P025	30×24×41	P018	27×24×19			
東西中央	P039	25×20×20	P036	26×21×21					
11号掘立柱建物									
1間×2間		N-74°-W		北辺3.68、南辺3.46、東辺3.67、西辺3.78					
	P042	34×29×39	P080	20×19×22	P011	22×22×38	P023	34×29×15	

第6表 掘立柱建物A群計測表(2)

よって破壊されている。

10号建物と11号建物は正方形に近い平面形をもっている。10号建物は2間×2間、11号建物は1間×2間である。A群の南に重複するが、主軸方位は異なっている。

A群に関連する出土遺物は、4号溝や3号溝で出土した土器が考えられる。それぞれの項で報告したように、比較的まとまった数の中世陶器が出土しており、この屋敷のある程度の存続年代を知ることができる。12世紀から16世紀にかけてのものが見られるが、14・15世紀のものが多い。その他、遺構に伴わないが、A群内のグリッドの中世の出土遺物としては在地系の内耳鍋などが出土している(第11節第182図の18・21~24)。

#### B群(第123~125図、第7表、P.L.51・52)

1-2区南東部に把握できた掘立柱建物群であり、建物として認定できたのは12~19号の8棟である。しかし、第123図を見れば明らかのように、この付近はピットの数がきわめて多く、建物として把握できなかったピットも数多く存在する。後世の攪乱も数多く入っているので、破壊されたピットも多かったと考えられ、それらを考慮に入れば、認定できた建物よりもかなり多くの建物が存在していたはずである。認定できた建物は狭い範囲に密集して重複しており、229ページで述べられているように最低でも7時期があったものと考えられる。主軸方位をみると、北を基準としてやや西に傾くものが2棟あるほかは、A群と比べて、比較的揃った方位を示すものが多いという印象を受ける。また、A群とは傾向が大きく異なって南北棟が大部分であり、東西棟として把握できたのは1棟のみである。

12号建物は1間×4間で、やや長い南北棟である。東側にある13号建物とやや似た方位、大きさではあるが、下屋(庇)は見られない。

13号建物は1間×3間の南北棟で、南に下屋(庇)を

もつ。

14号建物は1間×3間の南北棟で、西にやや振れた主軸方位をもつ。

15号建物は2間×3間の南北棟である。西辺の南側が大きく攪乱で壊されているため、この部分の柱穴がなくなってしまっている。

16号建物は1間×3間で、把握できた中では唯一の東西棟である。この16・17号建物付近が最も重複が激しい。

17号建物は1間×3間の南北棟である。

18号建物は1間×4間の南北棟であり、B群の中では最も大きい。

19号建物は2間×3間の南北棟で、西にやや振れた主軸方位をもつ。

B群に関連する遺物は、A群同様、4号溝から出土した遺物が考えられる。4号溝からは、先述のようにまとまった数の遺物が出土している。12世紀から16世紀までの遺物が出土しているが、14・15世紀に中心があり、その頃に本屋敷の存続年代があると思われる。

A群とB群とは東西に15mほど離れて存在するが、おなじ4号溝の南にあり、A群は南北棟が多く、B群は東西棟が多いという違いはあるものの、主軸方位に共通するものがあり、関連性が指摘できる。ただし、先述のように、その中間の部分には3号溝と共にピットが数多く見られるので、ここにも建物、あるいはピット列による堀などの存在が考えられる。A群とB群との関連は、その部分をどのように考えるかによって評価が異なってくると思われるが、明確な施設を認定することができなかったため、詳細は不明である。また、B群の南側には、D群との間を画するように53号溝がある。1-2区ではこの溝の西側延長部が不明であるため、全形が分からないが、これがA群とB群とを区画する溝である可能性も考えられる。



第123図 掘立柱建物B群平面図

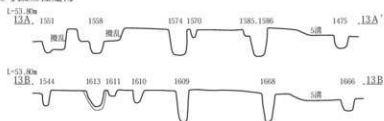


### 第3章 調査の成果

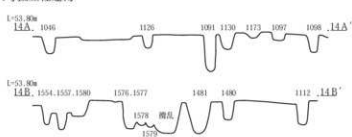
#### 12号掘立柱建物



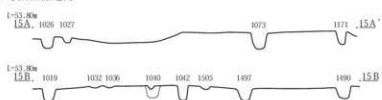
#### 13号掘立柱建物



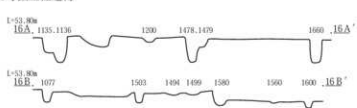
#### 14号掘立柱建物



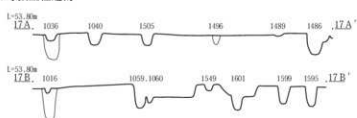
#### 15号掘立柱建物



#### 16号掘立柱建物



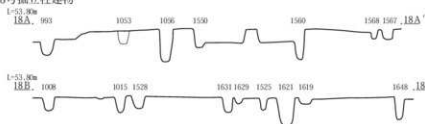
#### 17号掘立柱建物



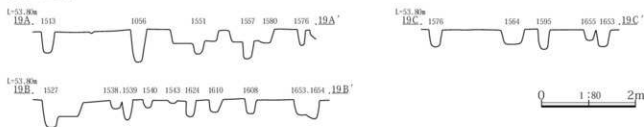
0 1:80 2m

第124図 掘立柱建物B群断面図(1)

## 18号掘立柱建物



## 19号掘立柱建物



第125図 掘立柱建物B群断面図(2)

## B群

12号掘立柱建物		N-13°-E		東辺6.9 (1.78+1.88+1.76+1.48)、西辺6.84 (1.69+3.63+1.52)、北辺2.84、南辺2.82	
東辺	P1041 30×25×22	P1114 22×22×7	P1491 27×23×20	P1480 26×25×52	P1472 29×21×30
西辺	P1121 31×21×18	P1065 26×24×44	P1094 32×31×60	P1169 18×18×29	
13号掘立柱建物		N-15°-E		東辺6.32 (1.09+1.77+1.80+1.66)、西辺6.22 (1.02+1.76+1.69+1.75)	
1間×3間南下屋(庇)		北辺3.08、南辺3.09			
東辺	P1544 19×17×32	P1613 47×33×41	P1609 28×23×69	P1668 27×25×62	P1666 31×30×26
西辺	P1551 24×24×34	P1558 30×33×25	P1574 43×30×52	P1586 33×33×60	P1475 34×32×28
14号掘立柱建物		N-3°-W		東辺5.43 (1.76+3.67)、西辺5.53 (2.05+1.67+1.81)、北辺3.42、南辺3.36	
東辺	P1554 29×19×24	P1577 40×30×57	P1112 25×24×22		
西辺	P1046 29×27×36	P1126 19×18×27	P1130 33×28×33	P1008 26×21×36	
15号掘立柱建物		N-16°-E		東辺6.25 (2.22+1.92+2.11)、西辺6.18 (4.44+1.74)	
2間×3間		北辺3.95 (2.00+1.95)、南辺4.15			
東辺	P1019 27×24×30	P1040 32×27×25	P1497 32×29×25	P1490 31×23×-	
西辺	P1026 31×28×23	P1073 32×28×33	P1171 25×23×16		
北辺中央	P1090 22×16×15				
16号掘立柱建物		N-80°-W		北辺5.63 (2.11+3.52)、南辺5.55 (1.93+1.75+1.87)、東辺3.51、西辺3.51	
北辺	P1135 (29)×25×36	P1200 25×22×9	P1660 30×26×50		
東辺	P1077 22×20×30	P1503 24×(16)×21	P1580 39×32×30	P1600 23×20×13	
17号掘立柱建物		N-14°-E		東辺5.52 (1.90+1.79+1.83)、西辺5.51 (1.98+1.46+2.07)、北辺3.50、南辺3.54	
東辺	P1016 29×27×67	P1059 28×26×48	P1601 27×26×49	P1595 25×24×42	
西辺	P1036 36×26×53	P1505 25×22×22	P1496 17×15×17	P1486 32×30×44	
18号掘立柱建物		N-11°-E		東辺7.36 (1.86+1.90+1.62+1.98)、西辺7.18 (1.59+3.75+1.84)、北辺3.49、南辺3.75	
東辺	P1008 28×28×27	P1528 33×30×27	P1631 27×26×33	P1619 28×27×13	P1648 21×20×45
西辺	P993 27×23×27	P1053 24×24×27	P1560 31×25×55	P1567 29×25×19	
19号掘立柱建物		N-10°-W		東辺5.34 (1.63+1.84+1.87)、西辺5.36 (1.95+3.41)	
2間×3間		北辺3.53 (1.62+1.91)、南辺3.52			
東辺	P1527 40×31×26	P1540 25×23×42	P1610 34×25×26	P1653 (28)×28×33	
西辺	P1513 28×25×45	P1056 39×31×69	P1576 27×19×35		
北辺中央	P1564 46×21×30				

第7表 掘立柱建物B群計測表

**C群**(第126～130図、第8・9・55表、P.L.52・67)

1～2区北側中央に把握できた掘立柱建物群であり、建物として認定できたのは20～31号の12棟である。しかし、西にある28～31号の4棟の建物と東にある8棟の建物とは、間に5～6mのピットのない空間を挟むので、本来は別の屋敷であった可能性が高いと思われる。西側にある6号溝は西側の建物と重複あるいは近接するので、ここには時期差が考えられ、この6号溝は東側の8棟の西を区画する溝であると思われる。西側の4棟は重複関係から最低2時期の変遷が考えられるが、東側の8棟は重複が激しい。東の建物群の南東には1号井戸がある。

20号建物は1間×3間かそれ以上の、やや規模の大きな南北棟である。東西棟である23号建物とは規模が近く、主軸方位の違いがほぼ90度になっている。

21号建物は1間×3間の南北棟で、東に下屋(庇)をもつ建物である。この建物のみ主軸方位が異なり、西にある6号溝と方位が最も近い。

22号建物は2間×3間の東西棟で、全体の形は正方形に近い。

23号建物は1間×3間のやや規模の大きな東西棟の側柱建物である。

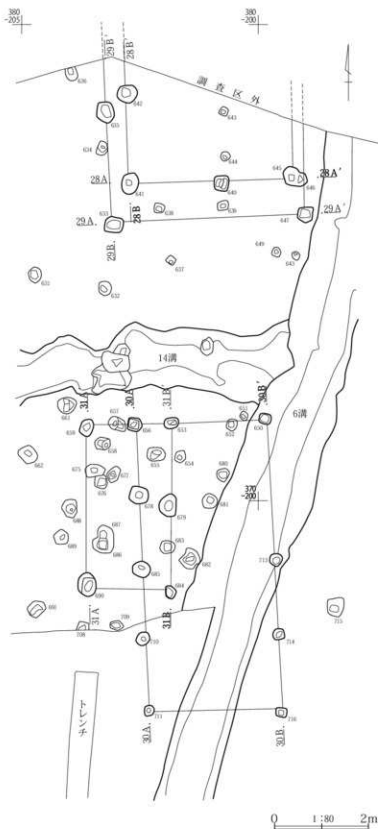
24号建物は南北棟の建物であるが、1間×2間の2棟の建物が、南北に1間分ずれて接合したような形態をしている。

25号建物は1間×3間の南北棟である。

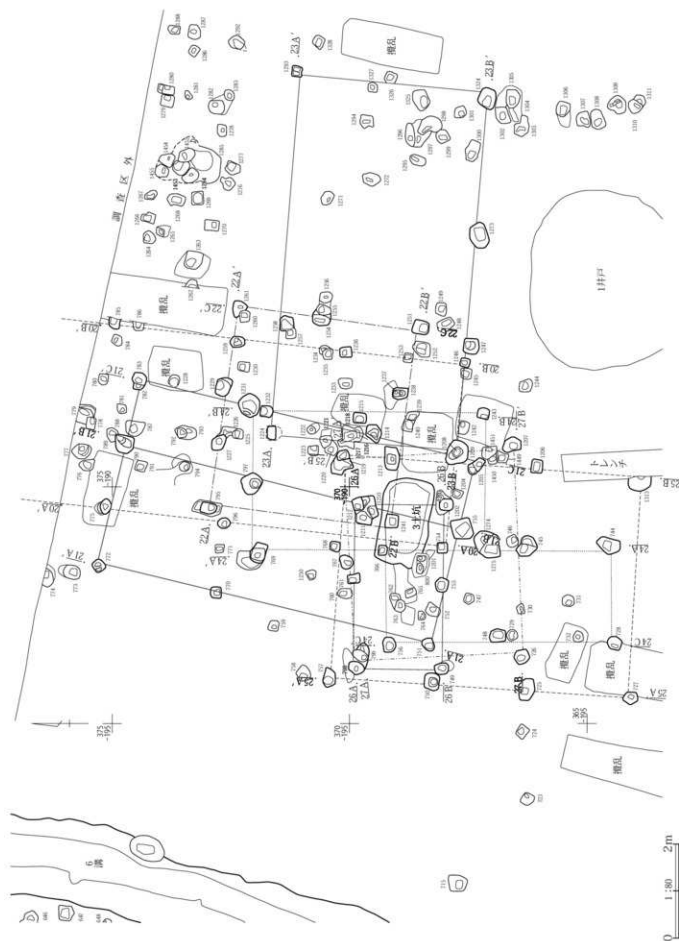
26号・27号建物はいずれも1間×2間の東西棟で、26号は特に小型の建物である。

28号建物は29号建物の内側に入れ子状に重複し、いずれも北側が調査区外となる。28号建物は2間×1間以上の南北棟と推定され、29号は1間×1間以上のやはり南北棟と推定される。主軸方位はほとんど同じである。

30号建物は1間×4間の南北棟である。新旧関係は不明であるが、6号溝と重複する。



第126図 掘立柱建物C群西平面図



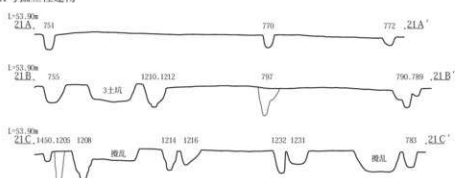
第127図 掘立柱建物C群東平面図

### 第3章 調査の成果

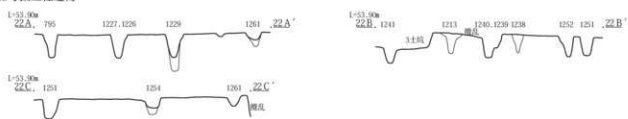
#### 20号掘立柱建物



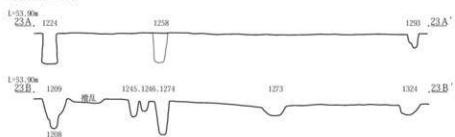
#### 21号掘立柱建物



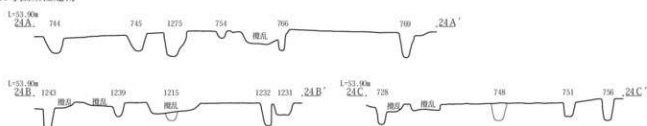
#### 22号掘立柱建物



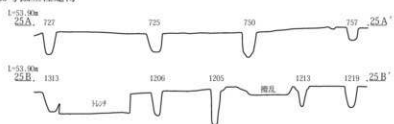
#### 23号掘立柱建物



#### 24号掘立柱建物

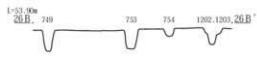


#### 25号掘立柱建物

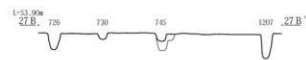
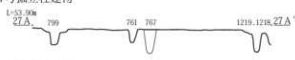


第128図 掘立柱建物C群断面図(1)

26号掘立柱建物



27号掘立柱建物



28号掘立柱建物



29号掘立柱建物



30号掘立柱建物



0 1:80 2m

31号掘立柱建物



第129図 掘立柱建物C群断面図(2)

C群

20号掘立柱建物

1間×3間かそれ以上		N-6'-E		東辺7.75 (2.56+2.31+2.58(区外まで0.30)、西辺8.09 (4.46+2.50(区外まで0.95) 南辺3.88				
東辺	P1246	21×18×22	P1236	25×23×44	P1259	31×23×15	P785	22×(22)×21
西辺	P754	22×22×16	P796	27×22×31	P775	36×32×17		

21号掘立柱建物

1間×3間東下屋(庇)		N-13'-E		下屋(庇) 東辺7.42 (2.34+2.39+2.69)、身舎東辺7.32 (2.15+2.36+2.81) 西辺7.18 (4.64+2.54)、北辺3.95 (2.60+1.35)、南辺3.95 (2.57+1.38)				
下屋東辺	P1205	25×19×79	P1214	42×30×43	P1232	26×14×49	P783	30×25×31
身舎東辺	P755	42×42×38	P1210	27×23×47	P797	46×46×59	P790	40×38×22
西辺	P751	29×23×32	P770	24×23×28	P772	25×25×23		

22号掘立柱建物

2間×3間		N-82'-W		北辺4.26 (1.38+1.17+1.71)、南辺4.13 (1.28+1.42+1.43) 東辺3.92 (2.20+1.72)、西辺3.86				
北辺	P795	32×29×46	P1227	40×28×50	P1229	42×32×88	P1261	35×28×22
東辺	P1241	29×27×33	P1213	48×32×45	P1238	32×25×48	P1251	35×30×41
東辺中央	P1254	38×24×35						

23号掘立柱建物

1間×3間		N-85'-W		北辺7.70 (2.31+5.39)、南辺7.43 (2.29+2.37+2.77)、東辺4.09、西辺3.94				
北辺	P1224	33×32×64	P1258	34×29×64	P1293	23×20×28		P1208とP1209は重複
南辺	P1208	23×19×45	P1209	55×47×45	P1247	24×23×73	P1273	55×39×25
							P1324	40×37×27

第8表 掘立柱建物C群計測表(1)

### 第3章 調査の成果

#### 24号掘立柱建物

1間×2間が2棟接合か	N-0°		東辺4.98 (2.62+2.36), 中央辺7.38 (2.41+2.34+2.63), 西辺4.74 (2.46+2.28) 東棟北辺3.14, 東棟南辺2.77, 西棟北辺2.03, 西棟南辺2.13							
東辺	P1243	24×23×52	P1215	27×22×21	P1231	50×45×28			P1274とP1275は重複	
中央辺	P744	50×35×34	P1274	50×(27)×46	P1275	52×43×49	P766	21×17×35	P769	43×32×52
西辺	P728	30×28×42	P748	33×27×37	P756	32×25×46				

#### 25号掘立柱建物

1間×3間	N-4°-E		東辺6.32 (2.22+4.1), 西辺6.38 (2.25+1.93+2.20), 北辺4.74, 南辺4.66							
東辺	P1313	48×(33)×42	P1206	28×23×52	P1219	26×20×39				
西辺	P727	30×27×48	P725	47×34×40	P750	37×32×57	P757	42×26×47		

#### 26号掘立柱建物

1間×2間	N-86°-W		北辺3.43 (1.88+1.55), 南辺3.44 (1.74+1.70), 東辺1.86, 西辺1.82							
北辺	P798	35×27×40	P761	26×19×18	P1212	26×22×68				
南辺	P749	30×23×44	P753	29×27×42	P1202	29×26×37				

#### 27号掘立柱建物

1間×2間	N-87°-E		北辺4.10 (2.04+2.06), 南辺4.46 (2.31+2.15), 東辺3.67, 西辺3.30							
北辺	P799	35×22×34	P767	31×28×50	番番号	47×32×11				
南辺	P726	31×29×35	P745	45×26×36	P1207	40×30×52				

#### 28号掘立柱建物

2間×1間以上	N-3°-W		南辺3.45 (1.89+1.56), 西辺2.55 (1.90-区外まで0.65)						
南辺	P641	46×35×25	P640	32×31×20	P645	39×(33)×19	P646	28×(23)×22	P645とP646は重複
西辺	P642	44×36×22							

#### 29号掘立柱建物

1間×1間以上	N-2°-W		南辺4.07, 西辺3.50 (2.40-区外まで1.10)							
南辺	P633	40×33×16	P647	32×30×29						
西辺	P635	45×37×20								

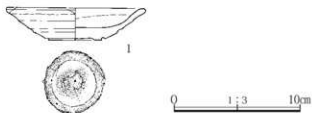
#### 30号掘立柱建物

1間×4間	N-3°-W		東辺6.20 (1.64+1.57+2.99), 西辺6.07 (1.55+1.51+1.53+1.48), 北辺2.80, 南辺2.79							
東辺	P716	24×19×24	P714	25×23×23	P713	28×26×15	P650	26×22×26		
西辺	P711	23×22×10	P710	29×27×22	P685	38×34×27	P678	40×38×30	P656	30×28×26

#### 31号掘立柱建物

1間×2間	N-0°		東辺3.59 (1.84+1.75), 西辺3.35, 北辺1.76, 南辺1.71							
東辺	P684	29×22×15	P679	48×35×40	P653	32×23×32				
西辺	P690	51×38×24	P659	37×27×26						

第9表 掘立柱建物C群計測表(2)



第130図 1449号ピット出土遺物

31号建物は30号建物の北西に重複するもので、1間×2間の南北棟であり、小型の建物である。

C群に関わる中世遺物としては、東側の建物群の中にあるP1449から出土した古瀬戸緑釉小皿があり、15世紀中頃のものと考えられる。その他、1号井戸、6号溝からはまとまった数の中世陶器が出土している。6号溝の常滑裏片の中には、1号井戸から出土したものと同一個体と思われるものが多く含まれている。また、遺構には伴わないが、C群の範囲のグリッド出土遺物として、13世紀末～14世紀前半の古瀬戸盤類がある(第11節第182図の6)。

#### D群(第131～133図、第10・11表、P.L.52・53)

D群は1区の南東隅、1-4区と1-5区にまたがった位置に把握できた掘立柱建物群であり、建物として認定できたのは、32～42号の11棟である。西側の1-4区には1棟しかなく、残りの10棟はみな東側の1-5区にある。1-5区の建物は狭い範囲に集中しているため重複が激しく、230ページで指摘されているように6時期以上が想定できる。中規模以上の建物が多く、正方形の建物が4棟もあるのが特徴的である。

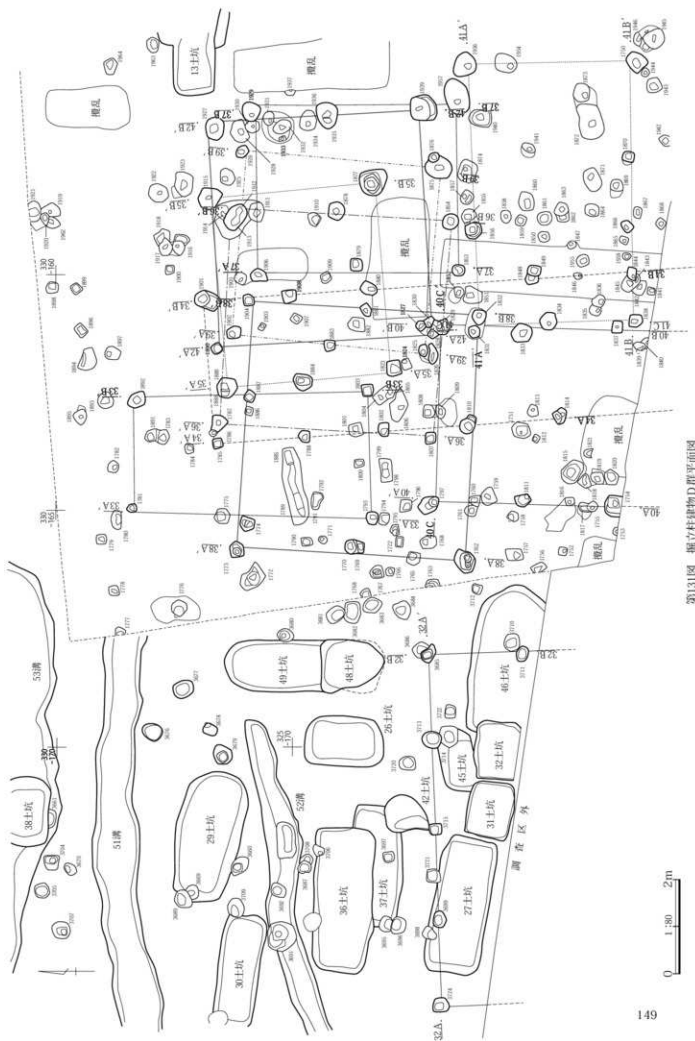
32号建物は西側にあるもので、南側大部分が調査区外となる。1間以上×4間の、比較的大きな東西棟の側柱建物である。

33号建物は1間×2間の南北棟であり、柱配置がやや歪んでいる。

34号建物は1間×5間かそれ以上の長い南北棟である。さらに南側に延びるとすれば、本遺跡最長の建物となる。

35号建物は1間×2間の東西棟である。

36号建物は1間×2間のほぼ正方形の建物で、同様な



第131图 掘立柱建物D群平面图

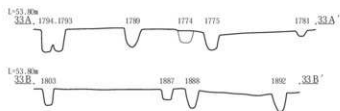


### 第3章 調査の成果

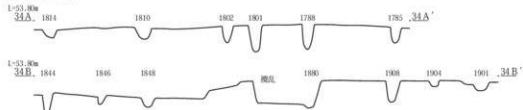
#### 32号掘立柱建物



#### 33号掘立柱建物



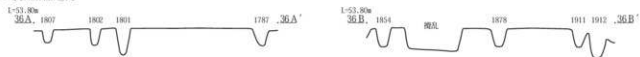
#### 34号掘立柱建物



#### 35号掘立柱建物



#### 36号掘立柱建物



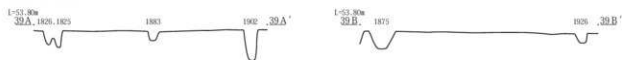
#### 37号掘立柱建物



#### 38号掘立柱建物



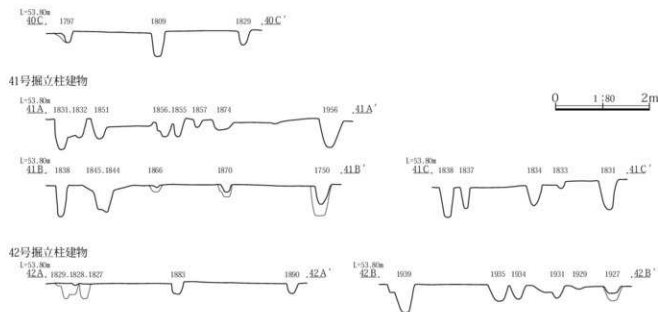
#### 39号掘立柱建物



#### 40号掘立柱建物



第132図 掘立柱建物D群断面図(1)



第133図 掘立柱建物D群断面図(2)

D群

32号掘立柱建物		N-88°-E		北辺7.46 (1.84+1.93+1.92+1.77)、東辺2.34 (区外から0.34+2.00)						
1階以上×4階										
東辺	P3724	33×29×52	P3699	31×28×46	P3715	26×24×67	P3713	41×37×49	P3685	35×25×55
西辺	P3711	33×25×21								
33号掘立柱建物		N-3°-W		東辺4.93 (2.52+2.41)、西辺5.12 (2.52+2.61)、北辺2.80、南辺2.68						
1階×2階										
東辺	P1803	25×25×35	P1887	23×20×28	P1892	40×29×39				
西辺	P1793	27×25×46	P1774	30×29×36	P1781	20×17×10				
34号掘立柱建物		N-5°-W		東辺9.71 (区外から0.58+2.14+3.40+1.75+1.84) 西辺8.86 (区外から1.62+1.91+1.79+1.69+1.85)、北辺3.10						
1階×5間かそれ以上										
東辺	P1844	26×18×47	P1848	(20)×27×39	P1880	35×26×57	P1908	29×27×47	P1901	53×36×18
西辺	P1814	34×28×17	P1810	32×32×26	P1802	28×22×35	P1788	25×24×52	P1785	21×21×34
35号掘立柱建物		N-5°-W		東辺3.48、西辺3.64 (2.02+1.62)、北辺4.04、南辺3.97						
1階×2階										
東辺	P1877	62×56×58	P1915	47×43×36						
西辺	P1823	34×26×15	P1884	40×35×31	P1889	45×42×53				
36号掘立柱建物		N-4°-E		東辺4.52 (2.45+2.07)、西辺4.52、北辺4.50、南辺4.66						
1階×2階										
東辺	P1854	33×33×40	P1878	40×40×38	P1912	(40)×(45)×59	P1913	(60)×(50)×59	P1912とP1913は重複	
西辺	P1807	23×21×27	P1787	(33)×33×37						
37号掘立柱建物		N-2°-W		東辺4.39、西辺4.28 (2.20+2.08)、北辺3.37、南辺3.55						
1階×2階										
東辺	P1957	77×51×96	P1929	40×40×42						
西辺	P1853	37×24×19	P1879	27×25×51	P1906	35×26×25				
38号掘立柱建物		N-86°-W		東辺4.51 (2.42+2.09)、西辺4.93 (2.51+2.42)、北辺5.22、南辺5.15						
1階×2階										
東辺	P1832	32×29×68	P1881	28×19×20	P1904	23×21×12				
西辺	P1762	53×39×49	P1769	25×15×39	P1770	29×24×54	P1773	34×30×55	P1769とP1770は重複	
39号掘立柱建物		N-11°-E		東辺4.22、西辺4.07 (1.99+2.08)、北辺3.88、南辺3.94						
1階×2階										
東辺	P1975	57×49×39	P1926	29×23×20						
西辺	P1825	27×18×35	P1826	45×18×28	1883	25×24×22	P1902	29×26×66	P1825とP1826は重複	
40号掘立柱建物		N-1°-E		東辺4.45 (区外から0.68+1.99+1.78)、西辺3.83 (1.94+1.89)、北辺3.68 (1.92+1.76)						
2階×2階以上										
東辺	P1837	25×23×45	P1833	44×39×55	P1829	16×16×32				
西辺	P1754	(35)×43×41	P1811	30×27×32	P1797	47×36×23				
北辺中央	P1809	30×19×29								

第10表 掘立柱建物D群計測表(1)

### 第3章 調査の成果

41号掘立柱建物

2間×3間		N-88°-E		北辺5.65 (2.19+3.46)、南辺5.48 (2.01+1.49+1.98) 東辺3.53、西辺3.43 (1.78+1.65)					
北辺	P1831	27×25×65	P1856	37×33×40	P1956	52×47×55			
南辺	P1838	29×26×63	P1866	27×21×13	P1870	29×24×27	P1750	44×36×66	
西辺中央	P1834	38×36×42							

42号掘立柱建物

1間×2間		N-87°-E		東辺4.37 (2.40+1.97)、西辺4.50、北辺4.68、南辺4.68					
東辺	P1939	56×56×61	P1935	35×44×32	P1936	30×46×34	P1927	50×38×31	P1935とP1936は重複
西辺	P1827	21×19×32	P1828	22×20×22	P1830	24×16×30	P1890	22×21×22	P1827・8とP1830は重複

第11表 掘立柱建物D群計測表(2)

ものには他に38号、39号、42号があり、近い位置で重複している。

37号建物は1間×2間の南北棟である。

40号建物は南側が調査区外となり、2間×2間以上の南北棟の側柱建物である。

41号建物は2間×3間の東西棟の側柱建物である。

D群に関わる中世遺物は、42号建物の北にある52号溝から出土した、14世紀後半から15世紀初めのものと考えられる香炉と、東側の9号土坑から出土した、15世紀のものと考えられる片口鉢があるにすぎない。

#### E群 (第134～136図、第12・13表、P.L.53～55)

Ⅱ区の南端に把握できた掘立柱建物群で、建物として認定できたのは、43～53号の11棟で重複が激しく、230ページで指摘されているように、少なくとも7時期以上の重複がある。49号のように大きな建物を含め、中規模以上の建物が多く、また、梁間が2間の建物が多い。

43号建物は群の北端にあり、2間×3間の東西棟の側柱建物である。

44号は2間×2間の側柱建物であり、平面形は正方形である。攪乱と大きく重複しており、一部の柱穴が破壊されている可能性もある。正方形の建物は他に47、48号建物があるが、主軸方位は44号とは異なっている。

45号建物は2間×3間の東西棟の側柱建物であり、この建物のみ主軸方向がやや異なる。西側に17号溝が重複するため、西辺の中央の柱がこれによって破壊されている可能性がある。

46号建物は1間×3間の東西棟である。梁間の柱間が広い。

47号と48号建物は正方形の建物で、47号は3間×3間であり、東側に下屋(庇)がつくかなり大きな建物である。48号は2間×2間である。

49号建物は2間×4間の南北棟であり、大型の側柱建物である。

50号建物は1間×4間のやや長い南北棟である。

51号建物は1間×2間の小型の南北棟である。

52号建物は2間×3間の南北棟であるが、南西隅の柱穴は攪乱で破壊されている。

53号建物は南端にあり、南側が調査区外となる。1間以上×3間の東西棟と推定される。

この群に関わる出土遺物は少ない。西側のD群との間にある9号土坑からは15世紀代の片口鉢が、14号土坑からは中世の片口鉢が出土しているにすぎない。

#### F群 (第137～140図、第14・15・55表、P.L.55・67)

E群の北西、Ⅱ区の中央やや西寄りに把握できた掘立柱建物群である。建物として認定できたのは、54～58号の5棟と、北側にあり、やや方向の異なる71号建物の合計6棟である。ピットの分布は比較的少なく、建物の重複は激しくない。北にある71号建物を除いて東西棟のみからなる。

54号建物から57号建物までの4棟は、少しずつ重複しながら南北に並ぶ。北側の2棟と南側の2棟の主軸方位が異なる。

54号建物は1間×2間の東西棟である。

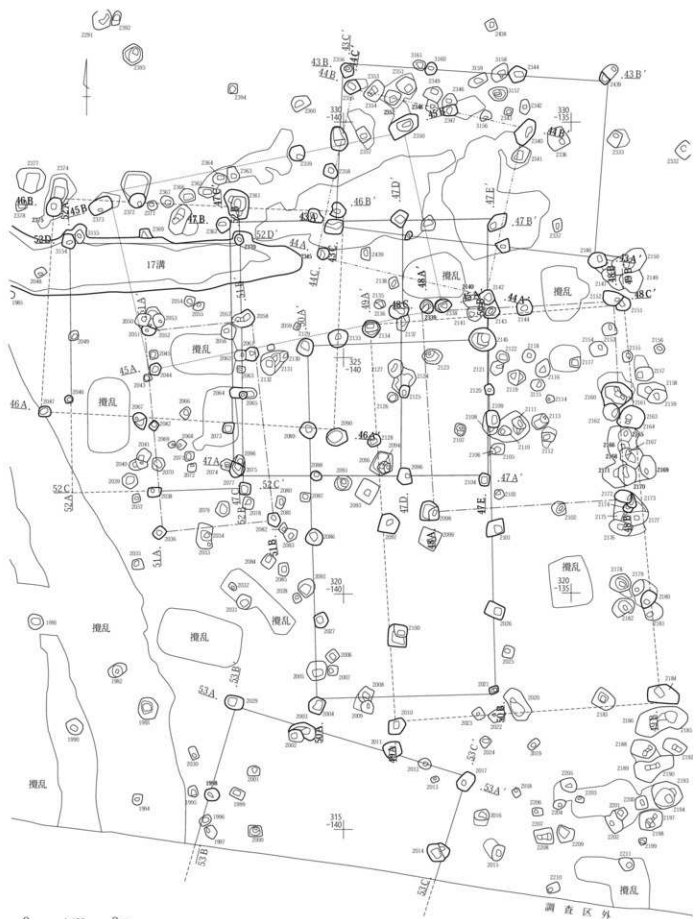
55号建物は1間×3間の東西棟で、この群の中では最も大きい。

56号建物は1間×2間の東西棟である。

57号建物は1間×2間の東西棟で北辺の中央の柱穴は見つからなかった。

58号建物は北東にある。1間×2間のやや小さな東西棟で、北辺の中央の柱穴は見つからなかった。

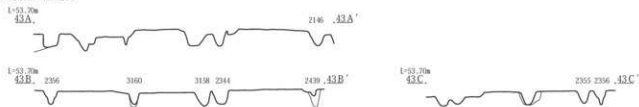
71号建物はこの群の北端にあり、これのみ主軸方位が大きく異なっている。1間×2間のほぼ正方形の建物で



第134図 掘立柱建物E群平面図

### 第3章 調査の成果

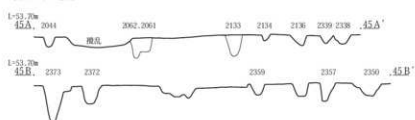
#### 43号掘立柱建物



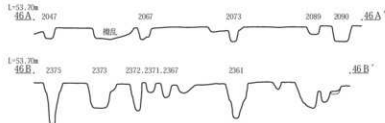
#### 44号掘立柱建物



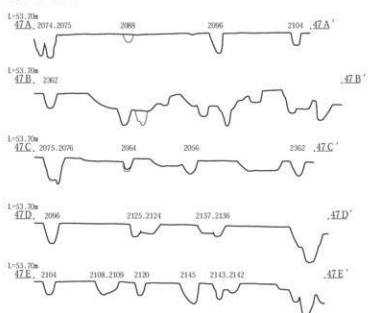
#### 45号掘立柱建物



#### 46号掘立柱建物



#### 47号掘立柱建物



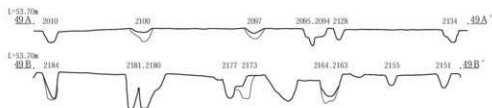
第135図 掘立柱建物E群断面図(1)

0 1:80 2m

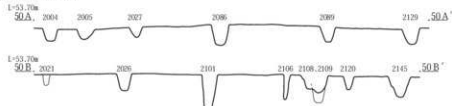
## 48号掘立柱建物



## 49号掘立柱建物



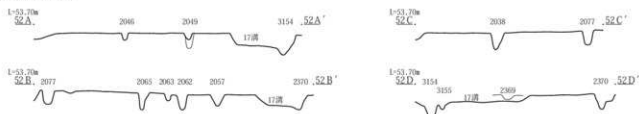
## 50号掘立柱建物



## 51号掘立柱建物



## 52号掘立柱建物



## 53号掘立柱建物



第136図 掘立柱建物E群断面図(2)

0 1:80 2m

## E群

## 43号掘立柱建物

2間×3間		N-83°-W		北辺5.43 (1.76+1.80+1.81)、南辺5.61 (1.55+2.00+2.06)			
北辺	P2356 31×29×29	P3160	29×21×29	P2344	36×33×30	P2439	45×25×44
南辺	無番号 33×29×20	無番号	19×10×30	無番号	32×32×35	P2146	(50)×(40)×34
西辺中央	無番号 51×38×28						

## 44号掘立柱建物

2間×2間		N-77°-W		北辺3.84 (2.12+1.72)、南辺3.62 (1.60+2.02)、東辺3.62、西辺3.64 (1.80+1.84)			
北辺	P2355 51×29×25	P2347	32×24×22	P2340	59×33×39		
南辺	P2345 25×25×25	P2138	22×20×9	P2142	(31)×30×20		
西辺中央	P2358 35×33×22						

第12表 掘立柱建物E群計測表(1)

### 第3章 調査の成果

45号掘立柱建物						
2間×3間	N-78°-E		北辺6.69 (4.23+2.46)、南辺6.23 (2.04+1.86+2.33)、東辺3.94 (1.78+2.16)、西辺3.56			
北辺	P2373	70×39×77	P2359	30×30×21	P2350	67×38×25
南辺	P2044	25×24×20	P2061	32×28×18	P2133	40×37×43
東辺中央	無番号		32×28×24		P2338	36×28×18
46号掘立柱建物						
1間×3間	N-86°-W		北辺5.95 (1.80+2.07+2.08)、南辺6.15 (1.94+1.95+2.26)、東辺4.78、西辺4.34			
北辺	P2375	(55)×31×88	P2372	77×59×59	P2361	62×50×72
南辺	P2047	25×23×23	P2067	37×27×24	P2073	23×22×23
東辺中央	無番号		34×29×23		P2090	40×35×34
47号掘立柱建物						
3間×3間東下屋(庇)	N-1°-E		下屋(庇) 東辺5.39 (1.91+1.66+1.82)、身舎東辺5.43 (1.76+1.77+1.90) 西辺5.16 (1.53+3.63)、北辺5.70 (1.93+1.81+1.96)、南辺5.20 (1.68+1.91+1.61)			
下屋東辺	P2104	27×23×26	P2120	24×19×27	P2143	(38)×35×-
身舎東辺	P2096	35×30×43	P2125	26×20×36	P2136	42×30×22
西辺	P2075	(30)×30×47	P2064	56×24×29	P2362	35×30×32
身舎北辺	無番号		35×27×71			
身舎南辺	P2088		21×20×16			
48号掘立柱建物						
2間×2間	N-3°-W		北辺4.01 (2.05+1.96)、南辺4.11、東辺4.20 (2.19+2.01)、西辺4.32			
北辺	P2339	30×27×16	P2144	33×32×20	P2152	42×30×31
南辺	P2098		42×40×38		P2172	37×26×63
東辺中央	P2160		59×50×59		P2161	75×67×27
東辺中央	P2160		59×50×59		P2160とP2161は重複	
49号掘立柱建物						
2間×4間	N-4°-W		東辺8.25 (1.94+2.12+1.76+2.43)、西辺8.44 (1.93+2.35+1.74+2.42) 北辺5.32、南辺5.57 (2.60+2.97)			
東辺	P2151	(27)×32×30	P2163	50×(30)×58	P2164	50×(20)×60
東辺	P2180	40×29×71	P2184	65×40×58	P2173	(30)×19×48
西辺	P2134	39×35×25	P2128	28×26×21	P2097	41×38×23
南辺中央	P2020		74×41×37		P2100	48×39×24
南辺中央	P2020		74×41×37		P2010	36×33×24
50号掘立柱建物						
1間×4間	N-2°-W		東辺7.46 (1.68+1.76+2.31+1.71)、西辺7.62 (1.81+1.78+2.25+1.78) 北辺3.80、南辺3.72			
東辺	P2021	20×15×22	P2026	41×29×36	P2101	38×31×71
西辺	P2004	33×32×26	P2027	30×28×21	P2086	35×33×42
東辺中央	P2026		41×29×36		P2109	36×28×39
東辺中央	P2026		41×29×36		P2089	33×33×33
東辺中央	P2026		41×29×36		P2129	37×33×33
51号掘立柱建物						
1間×2間	N-6°-W		東辺4.27、西辺4.27 (2.28+1.99)、北辺2.12、南辺2.42			
東辺	P2081	29×26×26	P2058	(25)×32×19		
西辺	P2036	25×22×41	P2042	20×17×16	P2051	30×(18)×33
52号掘立柱建物						
2間×3間	N-1°-W		東辺5.30 (1.99+1.61+1.70)、西辺3.34 (南東隅柱穴穴) 北辺3.56 (1.58+1.98)、南辺1.93 (南東隅柱穴穴)			
東辺	P2077	25×23×28	P2065	15×15×36	P2057	(25)×30×24
西辺	P2046	17×16×17	P3154	30×28×25	P2370	21×17×19
南北中央	P2038		28×20×36		無番号	
南北中央	P2038		28×20×36		24×(20)×9	
53号掘立柱建物						
1間以上×3間	N-73°-W		北辺5.67 (1.67+1.86+2.14)、東辺2.13 (区外から0.54+1.59) 西辺3.12 (区外から1.10+2.02)			
北辺	P2029	40×28×35	P2003	55×33×40	P2011	38×36×22
東西中央	P2014		44×41×15		P1998	30×27×36
東西中央	P2014		44×41×15			

第13表 掘立柱建物E群計測表(2)

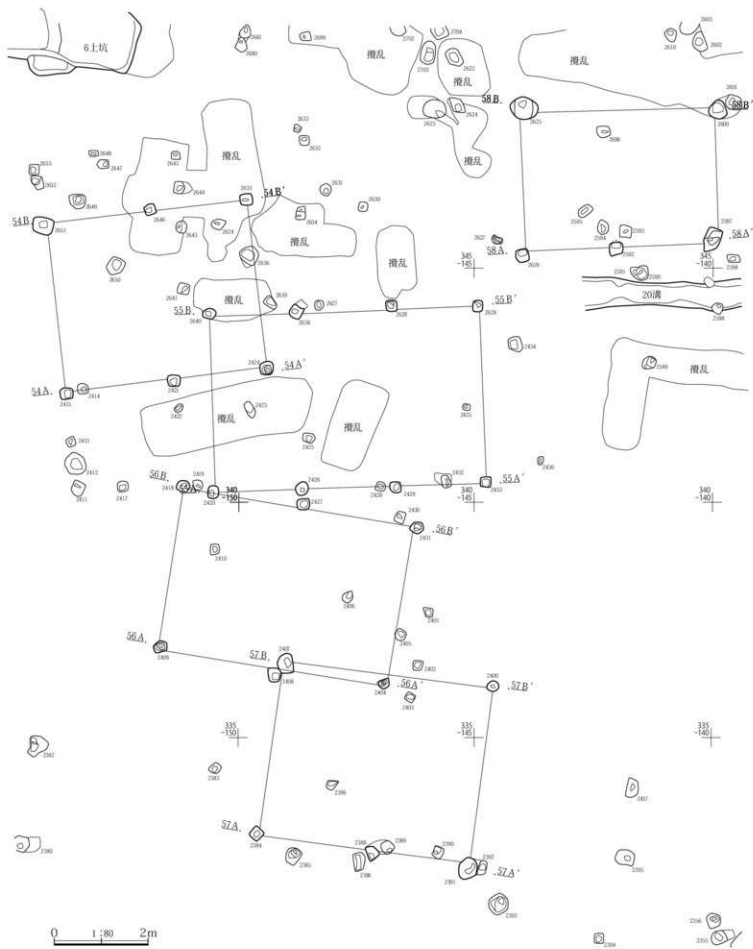
ある。この付近には多くのピットがあるため、本来は建物が多く建てられたものと思われる。

F群に関わる出土遺物は少ない。71号建物を構成する2717号ピットからは13世紀中頃の東瀛陶器山茶碗が出土している。71号建物と重複する16号溝からは、中世の在地系土器皿が1点出土している。その他、F群の範囲からはやや離れたが、北西に位置する350-150グリッドからは在地系内耳鍋(第11節第184図の49)が出土していて、15世紀末から16世紀にかけてのものとして推定される。

#### G群(第141・142図、第16表、P.L.54)

Ⅱ区北側中央に把握できた掘立柱建物群である。認定できた建物は59～63号の5棟である。東側に4棟重複している。建物が認定できた部分には、他のピットはさほど多くないが、この群の西側には南北の狭い範囲に多数のピットが存在する。建物などは認定できなかったが、この付近にも本来建物やピット列が数時期あったことが想定される。西にある63号建物は南北棟だが、それ以外は東西棟が多い。

59号建物は1間×2間の東西棟で南側に下屋(庇)を



第137图 独立柱建物F群平面图

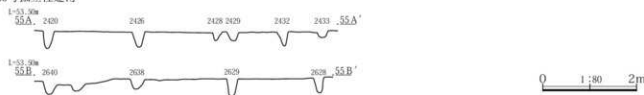


### 第3章 調査の成果

#### 54号掘立柱建物



#### 55号掘立柱建物



#### 56号掘立柱建物



#### 57号掘立柱建物



#### 58号掘立柱建物



第138図 掘立柱建物F群断面図

#### F群

54号掘立柱建物		N-83°-E		北辺4.32(2.23+2.09), 南辺4.27(2.24+2.03), 東辺3.67, 西辺3.62					
1間×2間	P2651	45×35×63	P2646	22×22×22	P2635	26×25×33			
南辺	P2415	27×23×50	P2421	27×25×32	P2424	30×29×37			
55号掘立柱建物		N-88°-E		北辺5.73(1.85+2.02+1.86), 南辺5.80(1.95+1.97+1.88), 東辺3.78, 西辺3.84					
北辺	P2640	25×22×27	P2638	41×26×20	P2629	24×22×37	P2628	24×20×32	
南辺	P2420	26×23×37	P2426	28×28×32	P2429	24×23×17	P2433	22×22×13	
56号掘立柱建物		N-81°-W		北辺5.01(2.58+2.43), 南辺4.76(2.52+2.24), 東辺3.35, 西辺3.43					
1間×2間	P2418	26×23×-	P2427	28×23×24	P2431	27×25×19			
北辺	P2409	28×23×31	P2408	(25)×29×29	P2404	24×19×19			
南辺									
57号掘立柱建物		N-83°-W		北辺4.34, 南辺4.56(2.47+2.09), 東辺3.88, 西辺3.66					
1間×2間	P2407	43×32×43	P2400	25×23×23					
北辺	P2384	25×23×54	P2388	32×26×57	P2391	42×42×72			
南辺									
58号掘立柱建物		N-88°-E		北辺4.10, 南辺3.95(1.96+1.99), 東辺2.84, 西辺3.15					
1間×2間	P2625	59×48×64	P2600	41×38×32					
北辺	P2626	28×27×42	P2592	27×26×66	P2597	53×31×62			
南辺									

第14表 掘立柱建物F群計測表

もつ。下屋(庇)を含めれば、正方形に近い平面形の建物である。

60号建物は2間×2間の東西棟の側柱建物である。

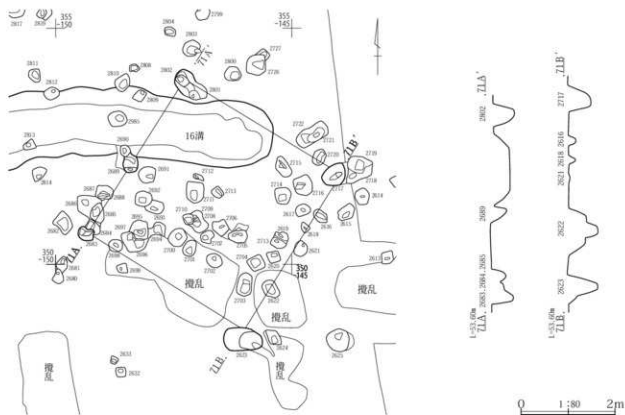
61号建物は1間×3間のやや長い東西棟である。

62号建物は2間×2間の側柱建物で、平面形は正方形

に近いが、西辺がやや短いため、平面形が歪んでいる。

63号建物は群の西側にあり、1間×3間の南北棟である。梁間の柱間が広い。この西側にはピットが南北方向に多く見られる。

この群に関わる遺物は見られない。



第139図 71号掘立柱建物平・断面図

71号掘立柱建物

1間×2間		N-30°-E		東辺3.98, 西辺3.84 (1.84+2.00), 北辺3.84, 南辺4.02	
東辺	P2623 82×49×61	P2717	54×43×50		
西辺	P2683 32×29×45	P2689	60×45×33	P2802	(40)×43×84

第15表 71号掘立柱建物計測表

## H群 (第143～145図、第17・56表、P.L.55)

Ⅱ区北西部にあり、西端部が一部Ⅰ-2区にかかる。認定できた建物は64～70号の7棟であり、東西方向に並んで分布する。規模の大きな東西棟が多く、総柱建物も2棟ある。南側に接するように1号墓があり、関連が考えられる。

64号建物は東端にあり、1間×2間の小型の南北棟である。

65号建物は1間×3間の東西棟である。桁行は2間分の柱穴しかないが、西側の柱間が広いので、中間に柱穴が存在した可能性が高い。

66号建物は2間×4間の東西棟で、やや大きな総柱系の建物である。北辺の東側の柱穴が2本見つけられなかった。

67号建物も2間×4間の東西棟で、総柱系の建物である。この群では最も大きな建物である。北辺、南辺の東側の柱穴が数本見つけられなかった。

68号建物は2間×2間の側柱建物で、平面形はほぼ正



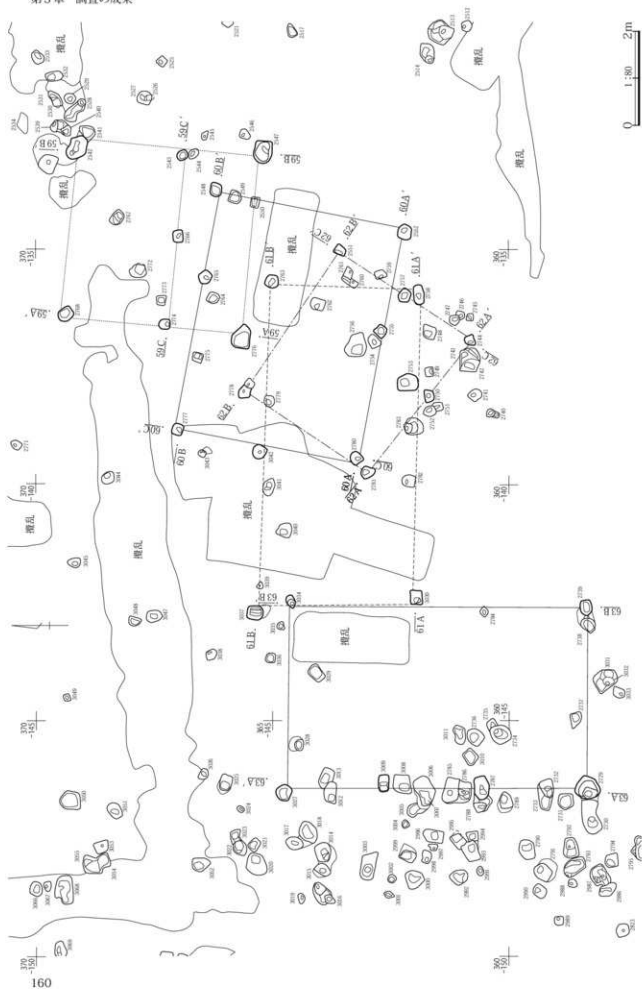
第140図 71号掘立柱建物P2717出土遺物

方形である。

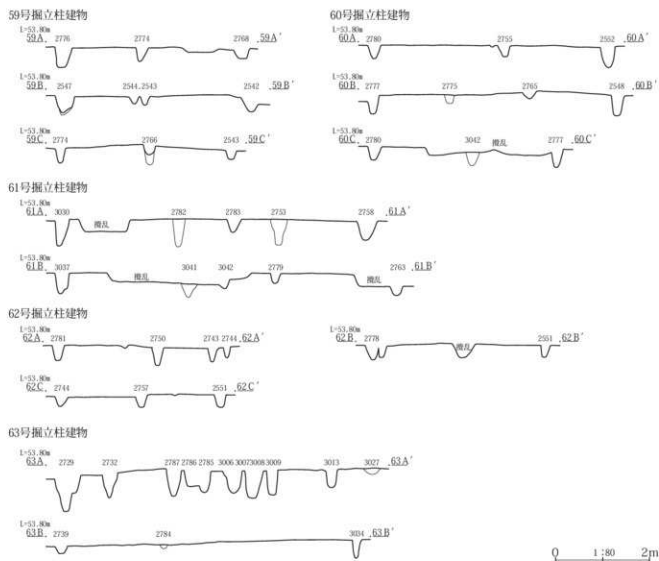
69号建物は1間×3間の東西棟で、梁間の柱間が5mを越えるほど広い。

70号建物は群の西端にあり、2間×3間のやや大きな南北棟の側柱建物である。桁行は2間分の柱穴しかないが、北側の柱間が広いので、中間に柱穴が存在した可能性が高い。南辺中央の柱穴は見つけられなかったが、5mを越すほど広いので、間に柱穴が本来存在したものと思われる。

この群に関わる遺物としては、69号建物を構成する3127号ピットから出土している美濃陶器筒形香炉があるが、この遺物は18世紀後半から19世紀前半のものである。



第141図 掘立柱建物G群平面図

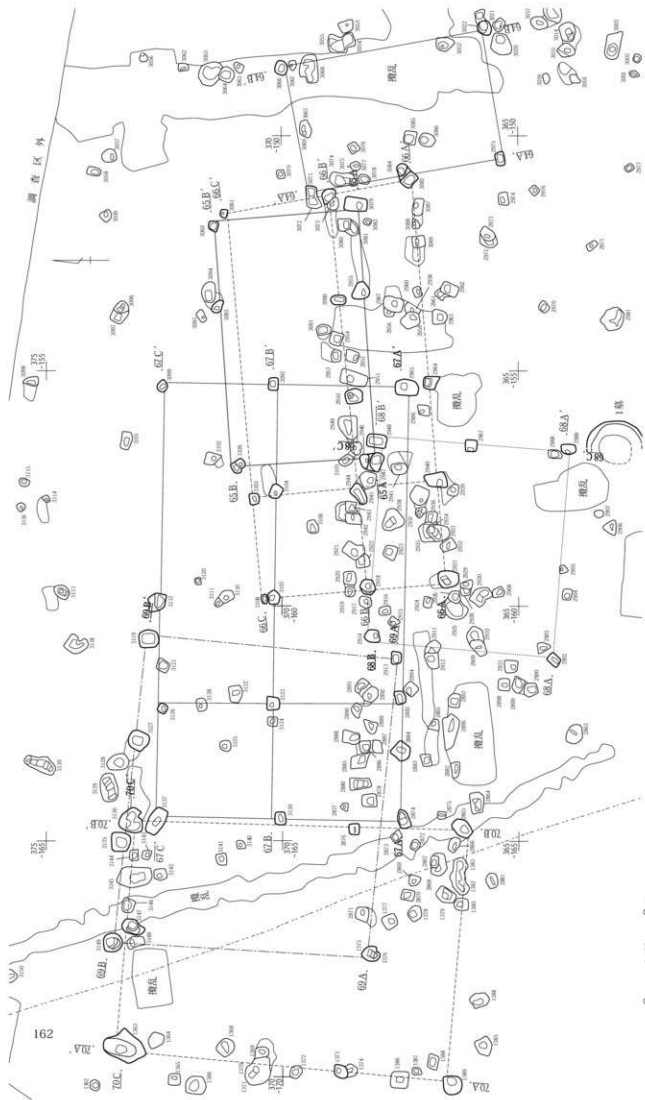


第142図 掘立柱建物G群断面図

G群

59号掘立柱建物		N-84°-W		北辺3.54、身舎南辺3.60(1.90+1.70)、下屋(庇)南辺4.05 東辺3.98(1.72+2.26)、西辺3.75(1.60+2.15)			
1間×2間南下屋(庇)							
北辺	P2768	33×24×20	P2542	55×41×31			
身舎南辺	P2774	24×21×30	P2766	25×21×43	P2543	24×20×18	
下屋南辺	P2776	52×38×44	P2547	47×39×39			
60号掘立柱建物		N-79°-W		北辺5.13(1.58+1.69+1.86)、南辺4.92(2.76+2.16)、東辺4.04、西辺3.84(2.08+1.76)			
2間×2間							
北辺	P2777	25×24×39	P2775	23×21×19	P2765	29×26×17	P2548
南辺	P2780	26×25×28	P2755	24×22×23	P2552	34×33×44	
西辺中央	P3042	29×29×28					
61号掘立柱建物		N-88°-W		北辺6.97(2.62+4.35)、南辺6.42(2.50+2.08+1.84)、東辺3.10、西辺3.38			
1間×3間							
北辺	P3037	48×30×44	P3041	36×23×20	P2763	29×28×19	
南辺	P3030	30×25×55	P2782	27×25×57	P2753	44×36×54	P2758
42×22×41							
62号掘立柱建物		N-54°-W		北東辺3.56、南西辺3.51(2.07+1.44)、北西辺3.10、南東辺3.38(1.73+1.65)			
2間×2間							
北東辺	P2778	45×26×30	P2551	25×21×36			
南西辺	P2781	31×26×33	P2750	27×19×38	P2744	27×23×22	
南東中央	P2757	30×25×27					
63号掘立柱建物		N-1°-E		東辺6.2(2.15+4.05)、西辺6.43(2.25+2.07+2.11)、北辺3.99、南辺3.95			
1間×3間							
東辺	P2739	34×25×15	P2784	21×16×7	P3034	28×18×38	
西辺	P2729	(55)×53×64	P2787	50×31×56	P3009	36×22×52	P3027
35×32×11							

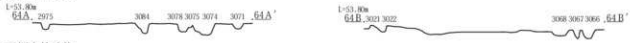
第16表 掘立柱建物G群計測表



第143圖 掘立柱建物群平面圖

0 1:50 2m

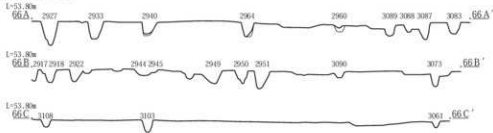
64号掘立柱建物



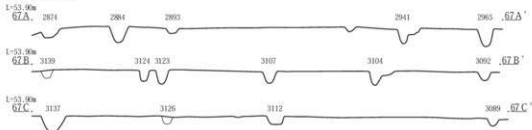
65号掘立柱建物



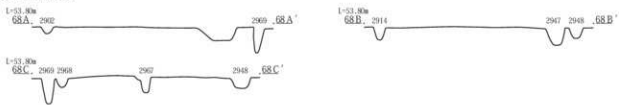
66号掘立柱建物



67号掘立柱建物



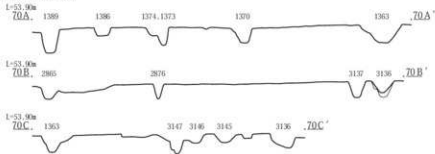
68号掘立柱建物



69号掘立柱建物



70号掘立柱建物



第144図 掘立柱建物H群断面図

## H群

64号掘立柱建物									
1間×2間		N-10°-W		東辺4.31、西辺4.05(2.10+1.95)、北辺2.69、南辺2.74					
東辺	P3022	34×29×14	P3066	28×28×18					
西辺	P2975	30×19×14	P3084	26×20×21	P3071	(20)×22×10			
65号掘立柱建物									
1間×2間(3間分)		N-87°-E		北辺5.15(3.42+1.73)、南辺5.41(3.55+1.86)、東辺3.13、西辺2.95					
北辺	P3109	30×26×14	P3093	31×20×14	P3060	23×20×9			
西辺	P2946	31×20×37	P2947	37×26×34	P2955	47×35×29	P3079	47×29×33	
66号掘立柱建物									
2間×4間 総柱建物		N-85°-E		北辺8.21(2.13+6.08)、中央辺8.24(2.00+2.02+2.06+2.16) 南辺8.46(2.00+2.14+1.94+2.38)、東辺4.03(1.74+2.29)、西辺2.81(1.60+2.21)					
北辺	P3108	19×12×15	P3103	22×20×25	P3061	16×15×14			
中央辺	P2918	32×25×26	P2944	45×26×11	P2950	37×30×29	P3090	32×20×8	無番号 31×(25)×13
南辺	P2927	44×35×50	P2940	46×33×29	P2964	32×27×29	P2960	23×16×12	P3083 33×25×25
67号掘立柱建物									
2間×4間 総柱建物		N-1°-E		北辺9.23(2.39+2.29+4.55)、中央辺9.20(2.40+2.29+2.22+2.29) 南辺9.21(2.59+6.62)、東辺3.10(2.76+2.34)、西辺25.24(2.60+2.64)					
北辺	P3137	59×35×34	P3126	19×18×16	P3112	35×24×16	P3099	24×21×16	
中央辺	P3139	26×23×18	P3123	28×28×37	P3107	29×24×25	P3104	30×24×30	P3092 26×20×17
南辺	P2874	41×24×18	P2893	28×22×8	P2965	49×35×36			
68号掘立柱建物									
2間×2間		N-85°-W		東辺4.07(2.04+2.03)、西辺3.81、北辺4.12、南辺4.44(1.91+2.53)					
東辺	P2969	31×22×52	P2967	25×23×27	P2948	41×29×23			
西辺	P2902	28×20×13	P2914	32×25×28					
南辺中央	P2905	19×17×15							
69号掘立柱建物									
1間×3間		N-84°-W		北辺6.49(2.13+2.20+2.16)、南辺6.27、東辺5.25、西辺5.48					
北辺	P3149	40×40×50	P3135	46×46×53	P3127	42×39×54	P3119	41×38×34	
南辺	P1375	50×33×17	P1376	39×33×17	P2013	29×20×10	P1375とP1376は重複		
70号掘立柱建物									
2間×2間(3間分)		N-5°-E		東辺7.03(2.31+4.72)、西辺6.99(2.39+4.60)、北辺4.81(2.64+2.17)、南辺5.34					
東辺	P2865	45×32×26	P2876	23×21×33	P3136	51×49×32			
西辺	P1389	40×38×49	P1373	37×26×38	P1363	90×66×38			
北辺中央	P3147	46×31×18							

第17表 掘立柱建物H群計測表



第145図 69号掘立柱建物P3127出土遺物

平面図に見るように、このピットには小さな攪乱が重複しているため、混入の可能性がある遺物であり、これのみで掘立柱建物の年代を決めることはできない。南にある1号墓からは初葬年代が976年～1368年の中国銭が出土している。

## I群(第146図、第18表)

Ⅱ区北東に把握できた掘立柱建物群である。71、72号の2棟の建物が認定できたが、周囲にピットは少なく、この付近は元々建物は少ないものと思われる。72号建物は22号溝に囲まれ、73号建物はその南にある。

72号建物は1間×1間の南北棟である。

73号建物は1間×3間の東西棟である。北側に21号溝

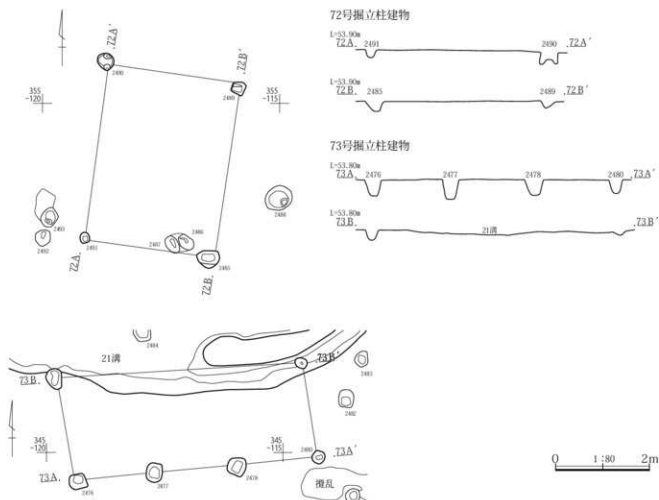
が重複するためか、北辺の柱穴が見つからなかった。平面形はやや歪んでいる。

この群に関わる遺物はなく、そのため、建物の年代は不明である。72号建物は、22号溝に囲まれるようになっているが、22号溝は出土遺物に近現代のものまで含まれることが、現在の区画と重なっていることから、最終的に埋没したのは近現代と考えられる。もちろん、掘削された年代がいつまで遡るかは明らかではないが、72号建物とは無関係である可能性もある。73号建物と重複する21号溝からは近現代の遺物は出土していないが、22号溝に平行しているため、関連しているものと思われる、時間的に隔たっているものとは思えない。そのため、これも掘立柱建物との関連は明らかではない。

## J群(第147図、第19表)

Ⅱ区中央やや東に把握できた掘立柱建物群であり、認定できた建物は74～76号の3棟である。

74号建物は2間×3間の南北棟の側柱建物である。桁



第146図 掘立柱建物1群平・断面図

1群

## 72号掘立柱建物

1間×1間	N-9°-E		東辺3.60、西辺3.78、北辺2.85、南辺2.64			
東辺	P2485	50×38×20	P2489	27×26×16		
西辺	P2491	23×20×17	P2490	37×31×25		

## 73号掘立柱建物

1間×3間	N-86°-E		北辺5.21、南辺5.10 (1.63+1.74+1.73)、東辺2.01、西辺2.03			
北辺	無番号	46×35×18	無番号	24×19×15		
南辺	P2476	36×33×33	P2477	42×35×44	P2478	40×38×33
					P2480	28×25×29

第18表 掘立柱建物1群計測表

行は2間分の柱穴しか見つからないが、柱間からみて3間であると考えられる。平面形はやや歪んでいる。

75号建物とはほぼ同じ大きさの建物である。

75号建物は1間×2間の東西棟である。

76号建物は1間×2間のほぼ正方形の建物である。やはり東辺がやや長く、平面形が歪んでいる。

この群に関わる遺物はないが、北側に接する340-130グリッドからは中世の在地系内耳鍋が出土している(第11節第185図の51)。

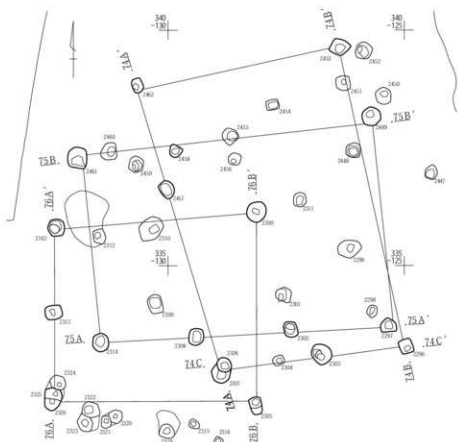
## 77号掘立柱建物(第148図、第20表)

IV区西部中央で認定できた建物である。1間×2間の小型の東西棟で、南辺の中央の柱穴は見つからなかった。周囲に他の建物は認定できなかった。

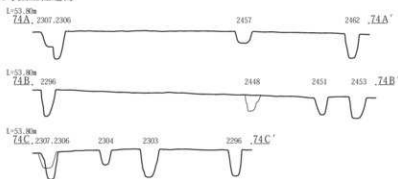
## その他のピットからの出土遺物(第149図、第56表、P L.67)

中世の在地系土器皿、須恵器甕、開元通宝、砥石が出土している。

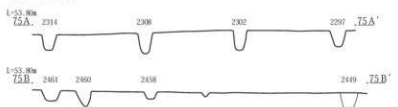




74号掘立柱建物



75号掘立柱建物



0 1:80 2m

76号掘立柱建物



第147図 掘立柱建物J群平・断面図

J群

74号掘立柱建物

2間×2間(3間か)		N-13°-W		東辺6.52(4.31+2.21)、西辺6.26(4.00+2.26)、北辺4.37、南辺3.93(2.10+1.83)		
東辺	P296	30×28×56	P2448	31×29×20	P2453	38×33×46
西辺	P2306	33×30×58	P2307	(40)×40×32	P2457	36×30×30
南辺中央	P2303	46×40×59			P2462	30×23×51
P2306とP2307は重複						

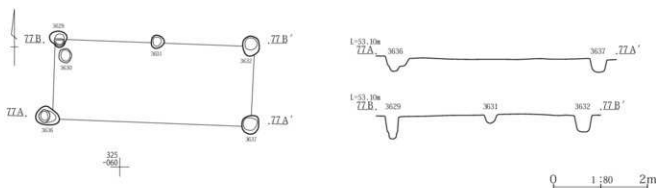
75号掘立柱建物

1間×3間		N-85°-E		北辺6.25(2.06+4.19)、南辺6.07(2.01+1.97+2.09)、東辺4.50、西辺3.86		
北辺	P2461	44×41×23	P2458	25×25×16	P2449	40×39×39
西辺	P2314	39×33×32	P2308	36×31×46	P2302	34×28×41
				P2297	34×29×35	

76号掘立柱建物

1間×2間		N-84°-E		東辺3.65(1.88+1.77)、西辺4.05、北辺4.29、南辺4.28		
東辺	P2305	37×27×49	P2300	45×40×38		
西辺	P2325	(35)×41×37	P2326	(30)×34×21	P2313	35×29×36
				P3162	35×35×18	P2325とP2326は重複

第19表 掘立柱建物J群計測表

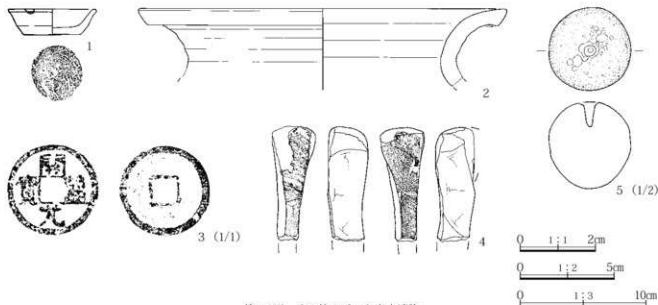


第148図 77号掘立柱建物平・断面図

77号掘立柱建物

1間×2間		N-85°-W		北辺4.02(2.05+1.97)、南辺4.30、東辺1.69、西辺1.60		
北辺	P3629	36×34×44	P3631	28×26×18	P3632	43×35×34
南辺	P3636	50×40×32	P3637	39×36×29		

第20表 77号掘立柱建物計測表



第149図 その他のピットの出土遺物

## 第3章 調査の結果

番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ
1	325-200	22×20×24	66	330-205	23×17×11	131	335-200	29×22×19	196	335-200	19×18×15
2	325-200	22×20×30	67	325-205	24×22×16	132	335-200	22×22(2)×37	197	330-200	15×14×12
3	325-200	25×25×19	68	330-200	27×25×46	133	335-205	27×26×29	198	335-200	17×14×17
4	325-200	36×33×34	69	330-200	18×(12)×13	134	335-205	30×21×34	199	335-200	33×22×24
5	325-200	16×14×13	70	330-205	26×22×36	135	335-205	32×18×12	200	335-200	27×26×35
6	325-200	25×19×56	71	330-200	24×23×21	136	335-205	22×19×18	201	335-200	31×29×31
7	325-200	38×30×55	72	330-205	23×22×20	137	335-205	33×32×25	202	335-200	28×27×40
8	325-200	24×22×15	73	330-200	21×20×15	138	335-205	29×27×27	203	335-200	26×25×25
9	325-200	23×19×52	74	330-200	18×16×7	139	335-205	28×28×52	204	325-205	24×23×19
10	325-200	19×15×17	75	330-205	23×20×28	140	335-205	24×24×23	205	335-200	35×29×50
11	325-200	22×22×38	76	330-205	30×20×42	141	335-205	18×17×20	206	335-200	24×18×28
12	325-200	26×22×54	77	330-205	35×23×19	142	335-205	35×28×61	207	335-200	20×18×21
13	325-205	34×30×56	78	330-200	27×25×31	143	335-205	14×14×14	208	335-200	19×15×9
14	320-205	21×21×28	79	330-200	42×33×59	144	335-205	22×18×26	209	335-200	27×17×10
15	325-205	23×19×28	80	330-200	20×19×22	145	335-205	23×18×12	210	335-200	22×20×16
16	325-205	26×23×21	81	330-200	37×37×60	146	335-205	19×17×18	211	335-200	33×28×35
17	325-205	24×20×34	82	330-205	23×19×19	147	335-205	21×20×9	212	335-200	21×(21)×47
18	325-205	27×24×19	83	330-205	24×22×27	148	335-205	23×19×17	213	335-200	23×20×18
19	325-200	32×29×42	84	330-205	14×13×9	149	335-205	25×13×18	214	335-200	29×23×50
20	325-200	25×24×60	85	330-205	18×16×15	150	335-205	27×23×30	215	335-200	35×33×39
21	325-205	22×19×26	86	330-200	19×15×13	151	335-205	32×30×33	216	335-200	25×(18)×25
22	325-205	29×29×19	87	330-205	30×(29)×30	152	335-205	30×(20)×31	217	335-200	32×23×11
23	325-205	34×29×15	88	330-200	29×27×36	153	335-205	35×28×17	218	335-200	25×18×14
24	325-205	35×34×51	89	330-200	25×22×40	154	335-205	30×29×39	219	335-200	18×16×10
25	325-205	30×24×41	90	330-200	23×16×9	155	335-205	27×27×23	220	335-200	16×12×7
26	330-205	25×21×27	91	330-200	27×26×32	156	335-205	27×19×20	221	335-205	38×28×17
27	330-205	29×20×39	92	330-200	21×18×14	157	335-205	25×25×42	222	335-205	31×30×47
28	325-205	34×32×51	93	330-200	45×35×44	158	330-205	25×20×26	223	335-205	30×25×25
29	325-205	28×28×29	94	330-200	24×20×41	159	335-205	30×23×15	224	335-200	22×19×25
30	325-205	24×18×20	95	330-200	25×23×26	160	335-200	27×22×11	225	340-200	33×(20)×33
31	330-205	31×27×60	96	330-205	(28)×25×35	161	330-205	27×24×40	226	340-205	25×22×30
32	330-205	30×30×35	97	330-200	36×28×26	162	335-205	18×18×9	227	340-200	22×18×11
33	330-205	28×22×18	98	330-200	20×17×11	163	335-205	21×20×13	228	340-200	23×19×23
34	330-205	22×20×20	99	330-200	25×21×42	164	335-205	27×16×11	229	340-200	29×27×30
35	330-205	22×20×11	100	330-200	21×17×14	165	335-205	23×18×18	230	340-200	33×33×30
36	330-205	26×21×21	101	330-200	24×18×14	166	335-205	21×15×34	231	335-200	33×23×25
37	325-205	38×26×36	102	330-200	33×32×35	167	335-205	19×16×9	232	340-200	27×26×24
38	330-205	28×26×58	103	330-200	21×18×17	168	335-205	24×20×18	233	340-200	30×28×20
39	330-205	25×20×20	104	330-205	35×(20)×48	169	335-205	30×25×19	234	340-200	30×(20)×43
40	330-205	20×18×45	105	330-205	35×(35)×55	170	335-205	18×15×6	235	340-200	(28)×28×41
41	330-205	20×18×17	106	330-205	31×25×20	171	340-205	23×21×17	236	335-200	19×16×19
42	330-205	34×29×39	107	330-200	44×38×66	172	340-205	23×23×18	237	340-200	18×15×18
43	330-205	23×21×46	108	330-200	28×22×8	173	340-205	17×15×13	238	340-200	20×19×23
44	330-205	26×20×37	109	330-200	18×18×15	174	340-205	24×24×26	239	335-200	27×20×32
45	330-205	41×29×54	110	330-200	38×22×32	175	340-205	20×16×16	240	340-205	17×17×7
46	330-205	30×(20)×43	111	330-200	24×22×25	176	340-205	20×16×12	241	340-205	21×(19)×19
47	330-205	29×(22)×22	112	330-200	29×25×33	177	345-205	20×27×31	242	340-205	18×(9)×19
48	330-205	26×24×51	113	330-200	22×18×14	178	345-205	20×16×35	243	340-200	35×32×39
49	330-205	28×25×29	114	330-200	22×(16)×18	179	345-205	28×21×22	244	330-220	30×22×46
50	330-205	26×23×31	115	330-200	28×27×41	180	345-205	20×(17)×23	245	330-200	32×26×24
51	330-205	21×17×21	116	335-200	(24)×24×37	181	345-205	20×(11)×19	246	335-200	27×24×40
52	330-205	27×25×30	117	335-200	(23)×22×40	182	345-205	21×20×16	247	340-200	20×17×8
53	330-205	25×20×22	118	335-200	26×23×40	183	340-205	20×16×30	248	340-200	22×20×9
54	330-205	28×24×42	119	330-200	33×25×30	184	340-205	18×13×15	249	340-200	30×30×32
55	330-205	24×19×29	120	325-200	38×37×44	185	335-205	23×21×34	250	340-200	28×20×43
56	330-205	21×20×13	121	330-200	29×28×45	186	335-205	25×20×11	251	340-200	26×22×20
57	330-200	23×22×16	122	330-200	27×23×24	187	335-205	20×17×20	252	340-200	20×18×12
58	330-205	17×16×15	123	330-200	20×(18)×21	188	335-205	21×15×7	253	340-200	20×19×12
59	330-205	23×22×37	124	330-200	24×20×24	189	335-205	22×21×21	254	335-200	27×(13)×8
60	330-205	35×(30)×55	125	330-200	26×23×31	190	335-200	20×18×18	255	335-200	43×(30)×38
61	330-205	34×30×46	126	330-200	37×30×53	191	335-200	(28)×27×48	256	335-200	60×32×39
62	330-205	21×(16)×27	127	330-200	27×22×35	192	335-200	18×15×10	257	350-205	25×22×39
63	330-205	32×20×30	128	330-200	25×19×17	193	330-200	20×17×16	258	350-205	32×26×27
64	330-205	20×18×19	129	330-205	32×28×25	194	330-200	36×(23)×19	259	350-205	29×25×24
65	330-205	32×27×34	130	335-200	33×23×17	195	330-200	28×(20)×20	260	350-200	31×25×40

第21表 ビット一覧表(1)

番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)	
		長さ×幅	×深さ			長さ×幅	×深さ			長さ×幅	×深さ			長さ×幅	×深さ
261	350-200	28×22×41	326	345-200	19×16×31	391	340-200	28×23×16	456	330-195	33×27×23				
262	350-200	23×17×35	327	345-195	35×23×23	392	335-200	27×22×20	457	325-190	31×23×40				
263	350-200	32×27×33	328	345-195	18×18×23	393	335-200	25×23×14	458	330-190	25×25×23				
264	350-205	26×23×10	329	345-195	24×(12)×14	394	335-195	22×22×13	459	330-190	22×20×27				
265	350-205	23×18×11	330	345-195	20×(14)×15	395	335-195	20×15×16	460	330-190	29×20×27				
266	350-200	27×24×43	331	345-195	17×(15)×14	396	335-200	33×28×37	461	330-190	28×20×26				
267	350-200	18×16×16	332	350-200	22×15×7	397	335-200	20×15×12	462	330-190	29×22×23				
268	350-200	35×35×45	333	350-200	28×(16)×28	398	330-200	18×17×15	463	330-190	36×28×36				
269	350-205	19×17×29	334	350-200	29×(21)×25	399	330-195	27×25×28	464	335-195	28×20×31				
270	340-200	18×(19)×25	335	345-195	38×27×30	400	330-195	33×23×14	465	335-195	(26)×28×19				
271	245-200	22×19×16	336	345-195	23×17×30	401	325-195	28×(12)×27	466	330-190	29×24×36				
272	245-200	20×(13)×23	337	345-190	21×14×20	402	325-195	41×28×16	467	330-190	(21)×21×16				
273	245-200	29×25×44	338	345-190	42×22×19	403	325-195	25×20×18	468	330-190	29×(27)×23				
274	245-200	45×23×24	339	345-190	29×23×39	404	325-195	24×20×22	469	330-190	25×21×15				
275	335-200	22×(18)×8	340	340-195	25×20×27	405	325-200	27×24×33	470	330-190	29×23×23				
276	345-200	29×23×21	341	340-195	28×24×20	406	325-200	20×15×13	471	330-195	23×21×24				
277	345-200	(25)×22×14	342	340-195	23×(15)×46	407	325-200	36×30×42	472	330-195	33×21×17				
278	345-200	33×25×70	343	340-195	35×(26)×42	408	325-200	28×26×38	473	330-195	24×22×17				
279	345-200	32×25×38	344	345-195	37×30×39	409	325-200	22×18×28	474	330-190	36×20×19				
280	345-200	30×22×15	345	345-190	24×21×39	410	330-200	25×24×33	475	335-195	18×16×15				
281	345-200	23×18×18	346	345-190	18×18×32	411	330-195	30×26×22	476	335-195	32×22×22				
282	345-200	31×22×16	347	345-190	32×22×19	412	330-195	25×24×21	477	330-195	21×19×17				
283	345-200	22×18×15	348	345-190	27×20×15	413	335-195	25×19×12	478	330-195	25×23×35				
284	345-200	24×22×29	349	345-190	17×15×28	414	330-195	24×23×40	479	330-195	(25)×23×16				
285	345-200	27×23×22	350	335-190	30×23×35	415	325-195	34×23×27	480	330-195	35×31×55				
286	345-200	28×23×19	351	340-200	25×20×14	416	325-195	30×28×26	481	330-195	(18)×18×35				
287	345-200	31×20×40	352	340-200	(18)×(16)×29	417	325-195	51×23×34	482	335-195	19×118×34				
288	345-195	18×(9)×10	353	340-200	22×20×23	418	330-195	23×23×29	483	330-195	15×13×16				
289	345-195	30×25×32	354	340-200	22×20×8	419	330-195	34×21×21	484	330-195	19×15×15				
290	345-195	21×(20)×33	355	340-200	30×29×47	420	325-195	25×23×17	485	335-195	45×32×33				
291	345-195	30×28×40	356	340-200	25×24×22	421	325-195	27×21×27	486	335-195	25×22×15				
292	345-195	34×30×30	357	340-195	19×17×14	422	325-195	22×20×25	487	335-195	24×21×25				
293	345-195	17×(19)×15	358	340-195	20×15×7	423	325-195	30×23×14	488	335-195	32×30×36				
294	345-195	21×18×15	359	340-195	21×17×11	424	325-195	23×15×12	489	335-195	17×14×16				
295	345-195	35×30×23	360	340-195	27×18×25	425	325-195	29×28×21	490	335-195	34×28×50				
296	345-195	18×17×27	361	335-195	37×32×26	426	325-195	33×18×18	491	330-190	20×19×19				
297	345-195	13×11×17	362	340-195	32×27×42	427	325-195	34×23×13	492	330-190	34×28×44				
298	345-195	26×24×12	363	340-195	24×22×41	428	325-190	50×44×56	493	330-190	46×33×41				
299	345-195	30×29×10	364	340-195	23×23×27	429	325-190	21×19×25	494	330-190	27×20×21				
300	345-195	30×24×40	365	340-195	30×25×27	430	325-195	33×21×41	495	330-190	25×(10)×25				
301	345-195	34×28×36	366	340-200	(15)×(13)×14	431	325-190	24×23×26	496	330-190	22×20×39				
302	345-195	23×20×19	367	340-195	35×30×40	432	325-190	33×25×41	497	欠番					
303	345-195	18×(19)×8	368	340-195	51×47×35	433	325-190	25×21×26	498	330-190	38×23×41				
304	345-195	18×17×14	369	335-190	31×27×23	434	325-195	23×(17)×40	499	335-190	28×(23)×47				
305	345-195	25×22×35	370	340-195	22×21×19	435	330-200	24×23×38	500	335-190	25×22×32				
306	345-195	18×15×17	371	340-195	19×19×11	436	325-195	27×24×25	501	355-200	33×29×28				
307	345-195	23×20×25	372	340-195	20×19×21	437	325-190	20×20×26	502	355-200	40×16××				
308	345-195	29×20×20	373	340-195	32×31×20	438	325-190	33×(23)×39	503	355-200	47×42×14				
309	345-195	35×(29)×19	374	340-195	25×25×49	439	325-190	(25)×22×44	504	355-205	27×20×12				
310	340-200	23×23×13	375	340-195	24×22×34	440	325-190	23×(21)×29	505	360-205	28×(20)×31				
311	345-195	32×19×21	376	340-195	23×19×19	441	325-190	31×24×29	506	360-205	29×(28)×25				
312	340-195	23×(17)×24	377	340-195	20×19×14	442	325-190	21×17×17	507	360-205	35×30×20				
313	345-195	18×15×11	378	340-195	30×22×27	443	325-195	43×30×36	508	360-215	30×24×23				
314	345-195	21×16×8	379	335-195	33×30×47	444	325-200	19×19×22	509	355-210	21×20×19				
315	345-195	32×22×34	380	340-195	19×17×15	445	325-190	45×31×55	510	355-205	29×22×19				
316	345-195	30×20×19	381	335-200	20×20×27	446	325-190	44×28×34	511	355-205	26×23×11				
317	345-195	23×18×18	382	335-200	21×19×15	447	325-190	18×16×18	512	350-205	30×25××				
318	345-195	21×18×10	383	335-200	40×27×25	448	325-190	24×15×23	513	355-205	28×26×9				
319	345-195	18×(14)×24	384	335-200	23×19×16	449	325-190	27×22×23	514	360-210	31×25×27				
320	345-195	23×19×16	385	335-200	38×(25)×40	450	325-195	24×23×36	515	350-210	34×29×18				
321	350-200	23×22×16	386	335-195	44×(28)×45	451	330-190	18×15×16	516	350-210	25×22×24				
322	350-200	32×22×18	387	335-195	26×22×26	452	330-190	20×19×26	517	355-210	24×(20)×9				
323	350-200	36×(23)×44	388	335-195	40×40×34	453	330-190	23×23×23	518	350-210	33×27×17				
324	345-200	31×(22)×32	389	340-195	18×14×16	454	330-190	21×20×27	519	355-215	40×33×22				
325	330-200	38×22×26	390	335-195	22×17×7	455	325-195	19×15×17	520	360-215	32×26×29				

第22表 ビット一覧表(2)

## 第3章 調査の結果

番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ
521	360-220	25×25×21	586	375-210	37×33×32	651	370-200	18×16×12	716	365-195	24×19×24
522	355-200	55×20×32	587	375-210	25×20×18	652	370-200	25×22×18	717	355-195	17×14×17
523	350-215	32×29×21	588	375-210	42×32×23	653	370-200	32×25×32	718	355-195	27×23×34
524	350-220	27×18×19	589	375-210	29×25×21	654	370-200	26×23×16	719	355-195	18×18×15
525	350-220	38×32×19	590	375-210	25×23×12	655	370-200	39×29×21	720	355-195	20×18×34
526	350-215	25×21×17	591	370-210	29×26×17	656	370-200	30×28×26	721	355-195	21×21×30
527	355-215	25×20×17	592	370-210	23×22×22	657	370-200	41×27×18	722	355-195	24×23×28
528	355-220	26×24×22	593	370-210	36×30×23	658	370-200	32×25×30	723	365-195	31×27×23
529	365-220	21×15×35	594	370-205	25×22×25	659	370-200	37×27×26	724	365-195	26×22×30
530	355-220	21×15×12	595	375-205	33×30×26	660	370-200	41×(14)×40	725	365-190	47×34×40
531	365-220	17×15×21	596	375-205	47×35×23	661	370-200	41×(20)×49	726	365-190	31×29×35
532	360-220	28×21×17	597	375-205	50×31×44	662	370-200	39×33×39	727	360-190	30×27×48
533	355-220	20×19×13	598	375-205	45×(28)×22	663	370-205	47×45×29	728	360-190	30×28×42
534	355-220	33×24×24	599	375-205	25×22×27	664	370-205	20×15×27	729	365-190	24×23×15
535	355-220	40×35×41	600	375-205	40×25×29	665	370-205	42×34×34	730	365-190	21×16×13
536	355-220	31×31×41	601	375-205	30×(23)×6	666	370-205	28×27×24	731	365-190	27×25×37
537	355-225	44×25×43	602	375-205	37×25×21	667	370-205	20×15×12	732	365-190	27×23×9
538	355-225	52×25×33	603	375-205	30×(25)×17	668	365-205	119×17×24	733	355-190	38×34×33
539	355-225	28×23×33	604	370-205	28×25×27	669	365-205	18×16×14	734	355-190	24×24×29
540	355-225	34×22×21	605	370-205	20×21×38	670	365-205	25×24×26	735	355-190	24×23×29
541	355-225	37×36×46	606	370-205	32×31×30	671	365-205	40×28×20	736	350-190	25×24×34
542	355-225	19×18×18	607	370-205	18×(15)×19	672	365-205	36×25×19	737	350-190	25×22×14
543	355-225	29×22×21	608	370-205	(26)×23×24	673	370-205	29×20×9	738	350-185	28×24×13
544	355-225	53×53×17	609	375-205	25×20×19	674	365-205	25×22×13	739	350-185	37×34×19
545	365-225	37×25×39	610	370-205	21×18×18	675	370-200	43×27×30	740	355-190	29×27×34
546	350-220	33×30×19	611	375-205	30×26×21	676	370-200	29×27×36	741	355-190	38×29×26
547	365-230	25×24×45	612	375-205	24×23×25	677	370-200	35×26×26	742	355-190	30×25×36
548	365-235	18×18×13	613	375-205	41×31×17	678	365-200	40×38×30	743	360-190	24×22×21
549	365-240	22×19×33	614	375-205	27×27×17	679	365-200	48×35×40	744	360-190	50×35×34
550	370-235	20×20×12	615	375-205	28×25×30	680	370-200	28×27×14	745	365-190	45×26×36
551	370-235	(23)×19×22	616	375-205	25×19×27	681	365-200	33×30×17	746	365-190	25×24×34
552	370-235	(20)×18×24	617	375-205	53×30×27	682	365-200	44×33×31	747	365-190	23×22×13
553	370-235	27×24×21	618	375-205	38×23×33	683	365-200	31×27×17	748	365-190	33×27×37
554	365-230	20×19×18	619	375-205	25×(14)×17	684	365-200	29×22×15	749	365-190	30×23×44
555	365-230	45×35×31	620	375-205	18×13×15	685	365-200	38×34×27	750	365-190	37×32×57
556	365-230	23×18×25	621	370-210	48×(30)×53	686	365-200	45×32×43	751	365-190	29×23×32
557	365-235	26×17×11	622	370-210	45×(35)×51	687	365-200	35×27×17	752	365-190	31×25×6
558	365-240	36×23×40	623	370-210	33×20×23	688	365-200	40×33×48	753	365-190	29×27×42
559	365-240	22×19×11	624	375-210	29×24×14	689	365-200	32×32×36	754	365-190	22×22×16
560	370-230	22×17×24	625	375-205	(25)×30×30	690	365-200	51×38×24	755	365-190	42×42×38
561	370-230	20×19×13	626	375-205	65×(25)×39	691	365-200	38×30×25	756	365-190	32×25×46
562	370-230	33×27×23	627	370-205	28×24×16	692	365-205	25×23×20	757	370-190	42×26×47
563	370-225	38×29×37	628	370-205	40×35×31	693	365-205	23×23×26	758	370-190	34×31×15
564	365-225	27×25×11	629	370-205	18×15×11	694	365-205	27×23×15	759	370-190	23×22×33
565	365-225	57×44×25	630	370-205	22×20×22	695	365-205	27×22×24	760	370-190	31×21×30
566	365-225	29×22×19	631	370-200	34×28×13	696	365-205	21×19×12	761	365-190	26×19×18
567	365-220	17×15×16	632	370-200	30×27×16	697	365-205	21×19×14	762	365-190	38×23×18
568	365-220	24×17×21	633	375-200	40×33×16	698	365-205	32×32×23	763	365-190	26×21×24
569	365-220	68×43×31	634	375-200	30×22×13	699	365-205	18×17×13	764	365-190	19×16×12
570	365-220	29×20×18	635	375-200	45×37×20	700	365-205	17×17×13	765	365-190	30×23×10
571	365-215	19×15×16	636	370-200	30×25×25	701	365-205	42×35×19	766	365-190	21×17×35
572	365-215	20×20×13	637	375-200	18×16×18	702	365-205	33×25×16	767	370-190	31×28×50
573	365-215	30×21×17	638	375-200	22×20×14	703	365-205	19×18×15	768	370-190	22×21×29
574	365-215	25×20×19	639	375-200	23×18×18	704	365-205	28×20×14	769	370-190	43×32×52
575	370-215	24×22×10	640	375-200	32×31×20	705	365-205	22×18×10	770	370-190	24×23×28
576	370-220	22×22×18	641	375-200	46×35×25	706	360-205	20×20×13	771	370-190	19×18×13
577	370-220	22×18×12	642	375-200	44×36×22	707	360-205	30×25×35	772	370-190	25×25×23
578	370-215	26×25×34	643	375-200	18×18×11	708	365-200	26×(16)×12	773	375-190	46×29×30
579	370-215	22×19×15	644	375-200	18×18×11	709	365-200	29×22×12	774	375-190	45×(22)×31
580	370-215	25×25×14	645	375-195	39×(33)×19	710	365-200	29×27×22	775	375-190	36×32×17
581	370-215	31×29×28	646	375-195	28×(23)×22	711	365-200	23×22×10	776	375-185	30×23×19
582	370-210	25×25×29	647	375-195	32×30×29	712	360-200	28×22×19	777	375-185	42×31×54
583	370-210	27×27×17	648	375-195	18×16×33	713	365-195	28×26×15	778	375-185	26×20×39
584	370-210	77×50×43	649	375-195	19×19×12	714	365-195	25×23×23	779	375-185	42×36×36
585	370-210	33×32×14	650	370-195	26×22×26	715	365-195	44×36×39	780	375-185	24×20×18

第23表 ビット一覧表 (3)

番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×高さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×高さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×高さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×高さ
781	370-185	25×21×12	846	335-190	30×22×28	911	340-180	22×20×28	976	330-170	25×21×14
782	370-185	22×(12)×16	847	335-190	27×27×36	912	335-185	26×19×8	977	335-170	24×23×21
783	370-185	30×25×31	848	340-190	31×25×17	913	335-180	30×22×9	978	335-170	30×26×35
784	370-185	23×21×20	849	335-195	19×18×16	914	340-185	25×25×-	979	335-170	29×24×33
785	370-185	22×(22)×21	850	335-190	23×20×39	915	335-180	21×15×18	980	335-170	31×23×19
786	370-185	23×(18)×19	851	340-190	27×23×32	916	335-180	29×22×42	981	330-170	22×20×37
787	370-185	42×32×25	852	340-190	45×33×16	917	335-180	25×22×32	982	330-175	23×20×12
788	370-185	29×25×19	853	340-190	29×24×20	918	335-185	26×23×26	983	330-175	17×15×15
789	370-185	23×(13)×43	854	340-190	18×18×13	919	335-185	26×24×27	984	335-175	18×17×15
790	370-185	40×38×22	855	340-190	26×20×26	920	335-185	30×21×35	985	335-175	28×28×40
791	370-185	23×23×16	856	340-190	19×16×28	921	335-185	29×20×16	986	335-175	20×(17)×28
792	370-185	22×20×29	857	340-190	24×22×23	922	335-185	19×17×22	987	335-175	17×17×13
793	370-185	45×28×24	858	340-190	35×35×67	923	335-185	23×22×21	988	穴番号	
794	370-185	33×26×42	859	340-185	33×25×41	924	340-185	27×27×14	989	335-175	26×22×26
795	370-190	32×29×46	860	340-185	42×30×34	925	335-185	32×22×34	990	335-175	31×22×28
796	370-190	27×22×31	861	340-185	20×19×17	926	340-185	16×14×8	991	335-175	19×17×18
797	370-185	46×46×59	862	340-185	27×21×33	927	335-185	24×17×14	992	335-175	21×16×10
798	365-190	35×27×40	863	340-185	24×22×34	928	335-185	19×18×15	993	335-175	27×23×27
799	365-190	35×22×34	864	340-185	24×24×27	929	340-185	26×21×55	994	335-170	25×25×20
800	365-190	50×35×43	865	340-185	29×24×36	930	340-185	27×27×36	995	335-175	21×18×11
801	325-185	34×33×36	866	340-185	21×21×20	931	340-185	25×22×24	996	335-175	16×15×22
802	325-185	33×19×40	867	340-190	22×15×13	932	340-185	25×21×26	997	335-170	25×25×36
803	325-185	19×14×9	868	340-185	33×26×18	933	340-185	23×19×23	998	335-170	21×17×26
804	325-185	19×17×31	869	340-185	26×23×21	934	340-185	21×13×15	999	335-170	29×23×34
805	335-190	16×15×24	870	340-185	23×18×33	935	340-185	47×34×36	1000	335-170	20×19×33
806	330-185	17×17×27	871	345-190	19×18×13	936	340-185	20×8×7	1001	330-170	41×25×22
807	335-190	40×28×27	872	345-190	31×22×23	937	340-185	34×20×11	1002	335-170	18×15×9
808	330-185	19×18×22	873	345-190	25×18×31	938	340-185	22×17×17	1003	335-170	14×11×8
809	330-185	25×20×29	874	345-190	26×16×11	939	340-185	36×28×33	1004	335-170	18×16×12
810	330-185	30×28×17	875	345-190	23×23×23	940	340-185	37×25×21	1005	335-170	45×25×25
811	330-190	19×17×23	876	345-190	18×(11)×10	941	340-185	35×20×11	1006	335-170	20×20×23
812	330-190	23×21×36	877	345-190	31×26×22	942	340-185	20×17×32	1007	335-170	30×28×46
813	330-185	43×37×22	878	345-190	27×27×30	943	340-185	24×20×28	1008	335-170	28×28×27
814	330-185	38×15×13	879	345-190	32×25×30	944	330-190	32×22×41	1009	335-170	26×24×49
815	330-185	18×16×11	880	345-185	31×22×35	945	340-185	18×16×29	1010	335-170	34×30×31
816	330-185	30×23×33	881	345-185	27×19×30	946	340-185	25×20×22	1011	335-170	28×24×24
817	335-190	23×20×23	882	345-185	22×17×24	947	340-185	30×22×24	1012	335-170	26×21×24
818	330-185	32×(28)×23	883	345-185	27×25×38	948	340-180	27×26×41	1013	335-170	24×20×25
819	330-185	37×29×30	884	345-185	24×22×33	949	340-185	25×24×64	1014	335-170	20×17×22
820	330-185	15×13×16	885	345-185	20×18×37	950	340-185	19×15×9	1015	335-170	24×(19)×35
821	330-185	31×30×18	886	340-185	25×20×41	951	340-185	20×17×23	1016	335-170	29×27×67
822	335-185	26×22×45	887	340-185	27×18×23	952	340-185	24×22×33	1017	335-170	19×17×23
823	330-190	16×10×13	888	340-185	26×22×19	953	340-185	18×17×15	1018	335-170	28×25×30
824	330-190	17×17×15	889	340-185	33×17×25	954	340-185	22×17×18	1019	335-175	27×24×30
825	340-190	26×24×28	890	345-190	18×14×10	955	340-185	19×14×14	1020	335-170	14×14×28
826	335-185	25×18×19	891	345-190	27×18×20	956	340-185	28×20×11	1021	335-170	20×18×29
827	335-185	17×17×22	892	345-190	23×20×21	957	340-185	20×17×29	1022	335-170	28×(29)×29
828	335-190	33×25×31	893	345-185	22×18×27	958	340-185	29×21×29	1023	345-180	38×34×54
829	335-190	25×24×33	894	345-185	23×21×39	959	340-185	29×21×24	1024	345-180	42×35×40
830	335-190	35×25×31	895	345-185	15×14×24	960	340-185	30×16×41	1025	335-180	17×15×10
831	335-190	23×20×33	896	345-185	23×22×31	961	340-185	26×21×7	1026	335-180	31×28×23
832	340-185	28×20×37	897	335-190	22×17×35	962	340-185	28×23×40	1027	335-180	23×17×11
833	335-190	38×26×21	898	335-190	44×37×49	963	340-185	23×17×15	1028	335-180	25×19×9
834	335-190	25×24×17	899	345-185	35×30×38	964	340-185	17×15×11	1029	335-180	21×18×6
835	335-190	28×20×29	900	345-185	34×20×55	965	340-180	27×23×32	1030	335-180	24×22×18
836	335-190	20×18×12	901	345-190	18×17×27	966	穴番号		1031	335-175	27×19×28
837	335-190	28×21×23	902	345-185	43×40×31	967	345-180	30×27×21	1032	335-175	32×26×28
838	335-190	32×24×21	903	350-185	20×15×-	968	345-180	44×34×23	1033	335-175	28×24×27
839	335-190	22×22×17	904	345-185	24×17×54	969	345-180	22×20×24	1034	335-175	24×22×35
840	335-190	24×20×16	905	345-185	24×19×16	970	340-180	30×29×46	1035	335-175	25×23×24
841	335-190	25×18×7	906	345-185	15×14×23	971	345-180	30×27×24	1036	335-175	36×26×53
842	335-190	25×20×20	907	345-185	30×27×38	972	345-180	(35)×30×37	1037	335-175	22×22×25
843	335-190	23×20×7	908	345-185	30×16×23	973	345-180	50×26×30	1038	335-175	26×24×28
844	335-190	22×19×12	909	345-185	25×23×18	974	330-170	22×19×46	1039	335-175	27×24×31
845	335-190	29×20×26	910	345-185	20×17×22	975	330-170	22×18×22	1040	335-175	32×27×25

第24表 ビット一覧表(4)

第3章 調査の成果

番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ
1041	335-175	30×25×22	1106	350-175	21×20×39	1171	340-175	25×23×16	1236	365-185	25×23×44
1042	335-175	24×(19)×31	1107	345-180	18×13×11	1172	340-175	35×21×6	1237	365-185	53×30×20
1043	335-175	45×34×26	1108	345-175	22×20×16	1173	340-175	31×(27)×11	1238	365-185	32×25×48
1044	335-175	35×30×38	1109	345-175	20×20×25	1174	345-175	33×29×15	1239	365-185	25×20×29
1045	335-175	32×25×29	1110	345-175	24×24×38	1175	345-175	24×22×10	1240	365-185	25×22×51
1046	340-175	29×27×36	1111	345-175	29×25×46	1176	345-175	19×18×19	1241	365-190	29×27×33
1047	340-175	18×17×13	1112	345-175	25×24×22	1177	345-170	31×29×22	1242	365-185	28×22×35
1048	335-175	37×29×20	1113	340-175	47×38×66	1178	345-175	26×18×15	1243	365-185	28×23×52
1049	335-175	32×23×71	1114	340-175	22×22×7	1179	345-170	32×25×35	1244	365-185	27×25×18
1050	欠番		1115	340-175	33×28×37	1180	350-175	21×20×9	1245	365-185	24×23×36
1051	335-175	29×27×72	1116	340-175	30×25×22	1181	350-175	23×20×8	1246	365-185	21×18×22
1052	335-170	23×22×35	1117	340-175	32×25×30	1182	345-170	55×25×56	1247	365-185	24×23×73
1053	335-170	24×24×27	1118	340-180	38×24×26	1183	345-170	25×(13)×29	1248	365-185	38×26×39
1054	335-175	25×(22)×17	1119	340-180	23×20×39	1184	345-170	37×21×47	1249	365-185	28×23×18
1055	335-175	30×(21)×23	1120	340-175	17×15×7	1185	345-180	24×18×17	1250	370-190	22×21×19
1056	335-170	39×31×69	1121	335-175	31×21×18	1186	345-180	33×30×11	1251	365-185	35×30×41
1057	335-175	30×27×21	1122	340-175	36×26×35	1187	345-175	23×20×19	1252	365-185	39×32×44
1058	335-175	45×35×17	1123	340-175	23×16×27	1188	345-175	33×24×38	1253	365-185	20×20×28
1059	335-170	28×26×48	1124	340-175	19×19×24	1189	340-175	17×16×12	1254	370-185	38×24×35
1060	335-170	23×15×11	1125	340-175	20×18×19	1190	340-175	15×13×10	1255	370-185	30×23×30
1061	340-175	23×17×30	1126	340-175	19×18×27	1191	340-175	25×24×17	1256	370-185	30×25×33
1062	340-175	23×18×23	1127	340-175	27×23×11	1192	340-175	16×15×12	1257	370-185	21×21×46
1063	340-180	30×25×62	1128	340-175	28×25×35	1193	340-175	20×19×19	1258	370-185	34×29×64
1064	340-175	24×22×19	1129	340-175	28×26×18	1194	340-175	25×(17)×59	1259	370-185	31×23×15
1065	340-175	26×24×44	1130	340-175	33×28×33	1195	340-175	28×(24)×31	1260	370-185	25×23×23
1066	340-175	26×24×12	1131	340-175	32×23×20	1196	340-175	40×25×31	1261	370-185	35×28×22
1067	340-175	20×20×46	1132	340-175	24×22×27	1197	340-175	18×13×23	1262	370-185	29×(17)×23
1068	335-170	25×(19)×35	1133	345-175	22×22×18	1198	340-175	30×28×51	1263	370-185	65×58×49
1069	340-180	33×32×36	1134	345-175	26×18×19	1199	340-175	25×23×20	1264	370-180	28×27×38
1070	340-180	31×28×68	1135	345-175	(25)×25×36	1200	345-175	25×22×9	1265	370-180	27×25×15
1071	340-180	30×27×6	1136	345-175	(28)×22×54	1201	365-190	(20)×14×8	1266	370-180	29×20×21
1072	340-180	39×24×10	1137	345-175	20×17×17	1202	365-190	29×26×37	1267	370-180	29×19×22
1073	340-180	32×28×33	1138	345-175	22×19×16	1203	365-190	52×38×16	1268	370-180	38×24×31
1074	340-180	27×23×41	1139	345-175	25×23×31	1204	365-190	22×18×10	1269	370-180	27×25×19
1075	340-175	27×23×20	1140	345-175	20×19×22	1205	365-185	25×19×79	1270	370-180	26×23×39
1076	340-175	23×22×22	1141	345-175	20×17×14	1206	365-185	28×23×52	1271	370-180	32×23×20
1077	340-175	22×20×30	1142	345-175	24×22×29	1207	365-185	40×30×52	1272	365-180	40×27×19
1078	340-170	25×22×29	1143	350-175	17×16×8	1208	365-185	23×19×45	1273	365-180	55×39×25
1079	340-175	20×20×40	1144	350-180	33×30×58	1209	365-185	55×47×45	1274	365-190	50×(27)×46
1080	340-180	22×20×16	1145	350-180	28×24×52	1210	365-190	27×23×47	1275	365-190	52×43×49
1081	340-180	35×25×35	1146	345-180	70×62×70	1211	365-190	35×26×46	1276	370-180	32×28×21
1082	340-180	27×25×35	1147	350-175	21×20×23	1212	365-190	26×22×68	1277	370-180	31×26×31
1083	340-175	18×18×14	1148	350-175	20×20×19	1213	365-185	48×32×45	1278	370-180	25×19×18
1084	340-175	32×30×18	1149	345-175	22×(13)×16	1214	365-185	42×30×43	1279	370-180	37×24×51
1085	340-175	30×26×73	1150	345-175	31×25×17	1215	365-185	27×22×21	1280	370-180	24×18×43
1086	340-175	23×(23)×15	1151	345-175	25×20×11	1216	365-185	32×(14)×29	1281	370-180	19×17×3
1087	340-175	39×27×51	1152	350-175	20×19×17	1217	365-185	28×18×40	1282	370-180	34×29×75
1088	340-175	23×19×16	1153	345-175	30×30×4	1218	365-185	18×17×24	1283	370-180	27×21×30
1089	340-175	30×28×29	1154	350-175	48×47×32	1219	370-185	26×20×39	1284	370-180	55×25×30
1090	340-175	22×16×15	1155	350-175	25×23×14	1220	370-185	30×28×40	1285	370-180	45×(20)×23
1091	340-175	28×26×78	1156	350-170	15×12×21	1221	370-185	25×25×48	1286	370-180	22×20×28
1092	340-175	28×(21)×41	1157	345-175	26×23×26	1222	370-185	28×19×20	1287	370-180	31×27×32
1093	340-175	19×19×17	1158	345-170	34×26×24	1223	370-185	23×22×49	1288	370-180	25×23×33
1094	345-175	32×31×60	1159	345-170	30×26×35	1224	370-185	33×32×64	1289	370-175	20×14×2
1095	340-175	22×26×36	1160	345-170	22×20×29	1225	370-185	23×22×32	1290	370-175	20×19×17
1096	340-175	計測不能	1161	345-170	28×28×36	1226	370-185	(45)×23×20	1291	370-175	47×42×55
1097	345-175	33×27×39	1162	345-175	23×22×16	1227	370-185	40×28×50	1292	370-180	35×28×23
1098	345-175	26×21×36	1163	345-175	20×19×14	1228	370-185	25×23×23	1293	370-180	23×20×28
1099	345-175	27×25×27	1164	345-175	23×18×37	1229	370-185	42×32×88	1294	365-180	28×26×28
1100	345-175	22×18×10	1165	345-175	24×24×19	1230	370-185	25×20×40	1295	365-180	35×20×24
1101	340-180	20×16×12	1166	345-175	27×24×43	1231	370-185	50×45×28	1296	365-180	50×20×45
1102	340-180	24×22×44	1167	345-175	20×18×23	1232	370-185	26×14×49	1297	365-180	60×25×43
1103	345-180	26×23×15	1168	345-175	18×14×18	1233	365-185	30×(23)×18	1298	365-180	53×34×46
1104	345-180	19×16×25	1169	345-175	18×18×29	1234	370-185	(22)×21×12	1299	365-180	28×27×23
1105	345-175	20×17×20	1170	340-180	23×12×26	1235	370-185	25×22×15	1300	365-180	44×29×43

第25表 ビット一覧表(5)

番号	グリッド	大きさ (cm)	番号	グリッド	大きさ (cm)	番号	グリッド	大きさ (cm)	番号	グリッド	大きさ (cm)
		長径×短径×深さ			長径×短径×深さ			長径×短径×深さ			長径×短径×深さ
1301	365-180	28×23×19	1366	370-165	45×42×47	1431	355-180	35×30×39	1496	340-175	17×15×17
1302	365-180	44×30×52	1367	370-170	28×27×45	1432	355-180	24×17×26	1497	340-175	32×29×25
1303	365-180	44×29×39	1368	370-165	37×34×24	1433	355-180	25×20×19	1498	340-175	23×21×17
1304	365-180	(34)×28×38	1369	370-165	(55)×47×12	1434	355-180	25×25×53	1499	340-175	49×40×29
1305	365-180	48×29×42	1370	370-165	30×(22)×23	1435	355-175	23×21×13	1500	欠番	
1306	365-180	52×29×20	1371	370-165	60×53×58	1436	355-175	17×16×11	1501	340-175	(24)×24×28
1307	360-180	30×30×32	1372	365-165	30×24×17	1437	355-175	25×23×24	1502	340-175	34×28×33
1308	360-180	42×29×33	1373	365-165	37×26×38	1438	355-170	22×20×19	1503	340-175	24×(16)×21
1309	360-180	40×33×24	1374	365-165	26×(22)×17	1439	355-170	21×19×8	1504	340-175	17×17×15
1310	360-180	30×25×18	1375	365-165	50×33×17	1440	350-175	18×18×24	1505	340-175	25×22×22
1311	360-180	36×(17)×10	1376	365-165	30×33×17	1441	355-170	25×22×15	1506	335-175	20×16×17
1312	360-180	39×37×24	1377	365-165	31×29×19	1442	355-165	35×30×22	1507	335-175	31×28×46
1313	360-185	48×(33)×42	1378	365-165	32×27×32	1443	355-165	42×35×31	1508	335-175	18×17×18
1314	355-185	36×36×37	1379	365-165	41×30×32	1444	355-165	45×33×35	1509	335-170	16×15×18
1315	355-185	21×17×16	1380	365-165	30×26×29	1445	355-165	20×17×5	1510	335-170	30×11×23
1316	355-185	31×27×18	1381	365-165	(32)×25×15	1446	370-205	(50)×45×30	1511	335-170	28×25×24
1317	350-180	37×31×16	1382	365-165	32×(25)×17	1447	370-205	30×(27)×29	1512	335-170	16×14×16
1318	355-180	28×27×39	1383	365-165	30×(28)×14	1448	370-205	60×43×22	1513	335-170	28×25×45
1319	355-180	33×26×38	1384	365-165	42×31×33	1449	365-185	23×20×11	1514	335-170	22×20×15
1320	355-180	25×24×27	1385	365-165	40×33×18	1450	365-185	(21)×18×21	1515	335-170	(24)×24×46
1321	360-180	31×27×17	1386	365-165	37×35×36	1451	365-185	33×25×49	1516	335-170	26×20×33
1322	360-180	25×23×16	1387	365-165	18×15×-	1452	370-180	40×26×33	1517	335-170	24×19×13
1323	360-180	37×20×20	1388	365-165	30×22×16	1453	370-180	33×28×18	1518	335-170	22×20×16
1324	365-180	40×37×27	1389	365-170	40×38×49	1454	370-180	30×28×36	1519	335-170	36×25×32
1325	365-180	44×33×39	1390	365-170	37×28×24	1455	370-180	28×27×55	1520	335-170	(60)×23×16
1326	365-180	25×25×15	1391	365-170	45×38×48	1456	355-165	31×25×24	1521	335-165	17×15×9
1327	365-180	20×19×16	1392	365-170	37×(26)×42	1457	355-165	31×28×25	1522	335-165	24×13×30
1328	370-180	24×24×22	1393	365-170	38×(30)×21	1458	355-165	34×27×28	1523	335-165	26×19×18
1329	370-175	25×25×31	1394	365-170	43×(32)×28	1459	355-165	40×28×32	1524	335-165	13×13×23
1330	370-175	27×25×33	1395	360-170	29×22×25	1460	355-165	31×24×30	1525	335-170	19×16×24
1331	370-175	27×21×14	1396	360-170	19×14×9	1461	355-165	(40)×23×21	1526	335-170	22×18×20
1332	370-175	20×20×-	1397	360-170	23×20×14	1462	355-165	38×26×28	1527	335-170	40×31×26
1333	370-175	39×30×27	1398	360-170	37×29×24	1463	355-165	47×40×29	1528	335-170	33×30×27
1334	370-175	38×(31)×27	1399	360-165	34×31×49	1464	355-160	42×17×30	1529	335-170	24×12×16
1335	370-175	37×31×35	1400	360-165	20×16×9	1465	355-160	25×25×13	1530	335-170	25×19×27
1336	370-175	42×40×43	1401	360-165	24×18×14	1466	355-160	42×31×15	1531	335-170	(60)×19×17
1337	370-175	35×34×31	1402	360-165	47×30×56	1467	355-160	40×30×21	1532	335-170	43×28×66
1338	370-175	43×32×36	1403	360-165	32×29×34	1468	355-160	37×(21)×24	1533	335-170	21×(14)×15
1339	370-175	49×35×54	1404	355-165	31×26×30	1469	355-160	34×24×30	1534	335-170	20×13×23
1340	370-175	30×30×42	1405	355-165	30×20×15	1470	360-160	27×20×38	1535	335-170	41×24×10
1341	370-175	27×26×23	1406	360-170	22×21×16	1471	355-165	30×23×28	1536	335-170	27×25×25
1342	365-175	20×19×18	1407	360-170	(40)×32×21	1472	345-170	29×21×30	1537	335-170	27×20×37
1343	365-175	62×35×67	1408	360-170	46×26×31	1473	345-170	17×17×20	1538	335-170	25×(18)×14
1344	370-175	(27)×25×36	1409	360-170	22×21×28	1474	欠番		1539	335-170	27×(25)×15
1345	365-175	54×(18)×14	1410	360-170	24×18×14	1475	345-170	34×32×28	1540	335-170	25×23×42
1346	欠番		1411	360-175	24×21×2	1476	345-170	23×20×40	1541	335-170	30×(13)×16
1347	370-175	33×24×38	1412	360-175	28×23×32	1477	345-170	24×19×14	1542	335-170	20×21×27
1348	370-175	(33)×33×66	1413	360-175	28×26×10	1478	345-175	35×30×50	1543	335-170	22×18×16
1349	370-175	40×30×65	1414	360-170	25×(15)×24	1479	345-170	(27)×25×20	1544	335-170	19×17×32
1350	370-170	56×34×69	1415	360-170	45×27×30	1480	340-175	26×25×52	1545	335-170	18×14×22
1351	370-170	(40)×30×16	1416	355-170	18×13×8	1481	340-170	62×52×78	1546	335-170	22×16×24
1352	370-170	26×23×43	1417	355-170	23×23×20	1482	340-170	25×18×36	1547	340-170	40×34×54
1353	370-170	32×22×17	1418	355-170	21×21×16	1483	340-175	23×23×27	1548	340-170	25×21×23
1354	370-170	26×(20)×21	1419	360-175	19×18×12	1484	340-175	19×(13)×18	1549	340-170	24×17×16
1355	370-170	38×28×57	1420	360-175	24×20×9	1485	340-175	24×(16)×16	1550	335-170	30×20×41
1356	370-170	43×37×26	1421	355-175	35×25×31	1486	340-175	32×30×44	1551	340-170	24×24×34
1357	370-170	22×20×19	1422	360-175	20×20×15	1487	340-175	22×22×24	1552	340-175	30×28×45
1358	370-170	22×22×18	1423	360-175	19×19×17	1488	340-175	37×25×25	1553	340-175	24×23×33
1359	370-170	36×(18)×24	1424	360-175	32×25×15	1489	340-175	35×22×27	1554	340-170	29×19×24
1360	370-170	39×38×77	1425	360-175	20×18×9	1490	340-175	31×23×-	1555	340-175	19×15×27
1361	370-170	35×33×49	1426	360-175	24×23×33	1491	340-175	27×23×20	1556	340-175	19×14×14
1362	370-170	23×20×16	1427	360-175	22×19×18	1492	340-175	26×25×28	1557	340-170	27×25×31
1363	370-165	90×66×38	1428	355-175	25×20×29	1493	340-175	39×35×79	1558	340-170	30×33×25
1364	370-165	45×30×13	1429	355-180	29×29×15	1494	340-175	(37)×35×25	1559	340-170	18×15×16
1365	370-165	38×26×-	1430	355-180	22×19×18	1495	340-175	21×15×11	1560	340-170	31×25×55

第26表 ビット一覧表(6)



## 第3章 調査の結果

番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ
1561	340-170	24×23×18	1626	335-170	18×15×18	1691	335-160	18×14×8	1756	315-165	30×(19)×26
1562	340-170	24×21×44	1627	335-170	17×14×14	1692	335-160	30×22×19	1757	320-165	35×24×56
1563	340-170	36×21×27	1628	335-165	20×17×22	1693	335-160	20×20×10	1758	320-165	25×19×60
1564	340-170	46×21×30	1629	335-170	26×18×22	1694	335-160	25×23×16	1759	320-160	35×29×25
1565	340-170	31×28×28	1630	335-170	24×19×15	1695	335-160	33×23×7	1760	320-160	25×23×22
1566	340-170	29×24×23	1631	335-170	27×26×33	1696	335-160	18×14×13	1761	320-160	25×24×32
1567	340-170	29×25×19	1632	335-170	23×23×19	1697	335-160	(15)×16×10	1762	320-165	53×39×49
1568	340-170	(16)×16×19	1633	335-165	21×18×27	1698	335-160	20×20×26	1763	320-165	30×(17)×27
1569	340-170	24×22×25	1634	335-165	38×32×9	1699	335-160	25×20×10	1764	320-165	35×26×59
1570	340-170	16×15×16	1635	335-165	26×26×12	1700	335-160	25×25×12	1765	320-165	27×27×54
1571	340-170	16×11×16	1636	335-165	16×13×16	1701	335-160	30×27×17	1766	320-165	20×18×18
1572	340-170	46×34×8	1637	335-165	28×22×19	1702	335-160	(15)×17×7	1767	320-165	28×26×36
1573	340-170	20×14×11	1638	335-165	23×14×13	1703	335-160	30×15×26	1768	320-165	(17)×22×27
1574	340-170	43×30×52	1639	340-165	16×13×15	1704	335-160	24×21×23	1769	320-165	25×15×39
1575	340-170	24×21×29	1640	340-165	17×13×14	1705	335-155	25×25×25	1770	320-165	29×24×54
1576	340-170	27×19×35	1641	340-165	13×11×9	1706	340-155	26×26×15	1771	320-165	19×17×11
1577	340-170	40×30×57	1642	340-165	13×9×19	1707	340-155	27×25×13	1772	325-165	55×36×39
1578	340-170	30×23×37	1643	340-165	21×18×17	1708	340-155	26×18×7	1773	325-165	34×30×55
1579	340-170	39×22×46	1644	340-165	27×18×18	1709	340-155	31×22×22	1774	325-165	30×29×36
1580	340-170	39×32×30	1645	340-165	22×18×28	1710	340-160	29×15×11	1775	325-165	35×32×36
1581	340-170	26×20×12	1646	340-170	18×17×23	1711	340-160	25×23×19	1776	325-165	34×33×34
1582	340-170	31×23×67	1647	340-165	19×12×26	1712	340-160	27×24×8	1777	325-165	21×(17)×11
1583	340-170	25×24×17	1648	340-170	21×20×45	1713	340-160	35×20×9	1778	325-165	22×21×28
1584	340-170	32×27×26	1649	340-170	(32)×30×27	1714	340-160	17×15×9	1779	325-165	22×20×38
1585	340-170	28×(20)×14	1650	340-170	26×(18)×62	1715	340-160	19×16×11	1780	325-165	40×21×25
1586	340-170	33×33×60	1651	340-170	20×15×14	1716	340-160	20×18×16	1781	325-160	30×17×10
1587	340-170	22×20×19	1652	340-170	18×17×14	1717	340-160	28×21×22	1782	325-160	25×23×10
1588	340-170	(25)×23×15	1653	340-170	(28)×28×33	1718	345-160	(21)×18×32	1783	325-160	32×24×24
1589	340-170	(25)×23×39	1654	340-170	30×(25)×38	1719	340-160	20×18×12	1784	325-160	21×19×21
1590	340-170	30×(17)×48	1655	340-170	28×25×21	1720	340-160	21×18×14	1785	325-160	21×21×34
1591	340-170	25×24×20	1656	340-170	18×16×12	1721	345-160	18×11×9	1786	325-160	16×13×15
1592	340-170	29×(12)×18	1657	340-170	50×28×56	1722	345-160	22×19×14	1787	325-160	(33)×33×37
1593	340-170	30×23×51	1658	340-170	35×33×48	1723	350-160	26×21×10	1788	320-160	25×24×52
1594	340-170	36×31×76	1659	345-170	36×33×43	1724	350-165	43×33×14	1789	320-165	(66)×40×49
1595	340-170	25×24×42	1660	340-170	30×26×50	1725	350-165	66×40×49	1790	320-165	23×18×19
1596	340-170	23×18×14	1661	345-170	15×13×15	1726	350-165	30×22×18	1791	320-165	(6)×16×7
1597	340-170	23×23×35	1662	345-170	15×15×9	1727	350-165	44×32×29	1792	320-160	25×(19)×19
1598	340-170	29×18×21	1663	345-170	18×14×13	1728	350-170	33×30×9	1793	320-165	27×25×46
1599	340-170	20×17×17	1664	345-170	26×24×16	1729	350-165	38×28×29	1794	320-165	27×21×43
1600	340-170	23×20×13	1665	345-170	22×22×18	1730	350-165	50×39×25	1795	320-165	23×19×22
1601	340-170	27×26×49	1666	345-170	31×30×26	1731	350-160	48×24×42	1796	320-160	26×23×18
1602	340-170	22×14×8	1667	340-170	28×26×41	1732	350-160	18×12×21	1797	320-160	47×36×23
1603	340-170	20×14×56	1668	340-170	27×25×62	1733	350-160	45×35×33	1798	320-160	(27)×25×41
1604	340-170	17×15×13	1669	340-165	15×14×14	1734	350-160	49×32×35	1799	320-160	(23)×25×39
1605	340-170	20×17×26	1670	340-165	20×18×11	1735	350-160	35×34×21	1800	320-160	21×16×14
1606	340-170	28×20×28	1671	340-165	22×17×10	1736	350-160	34×(30)×42	1801	320-160	29×27×57
1607	340-170	32×27×36	1672	340-165	18×17×10	1737	355-160	(33)×30×43	1802	320-160	28×22×35
1608	340-170	23×22×32	1673	340-165	35×30×13	1738	350-160	17×(10)×10	1803	320-160	25×25×35
1609	340-170	28×23×69	1674	340-165	40×25×21	1739	350-160	26×24×14	1804	320-160	25×22×40
1610	340-170	34×25×26	1675	340-165	24×18×13	1740	345-160	24×22×22	1805	320-160	30×27×25
1611	340-170	19×17×11	1676	340-165	42×27×29	1741	345-160	32×30×24	1806	320-160	70×37×38
1612	340-170	20×18×30	1677	340-165	32×24×22	1742	345-155	22×19×6	1807	320-160	23×21×27
1613	340-170	47×33×41	1678	340-165	31×29×19	1743	345-155	38×24×29	1808	320-160	27×25×57
1614	340-170	25×17×34	1679	340-165	26×20×19	1744	340-155	22×19×20	1809	320-160	30×19×29
1615	340-170	19×15×23	1680	340-165	18×16×16	1745	340-155	23×19×11	1810	320-160	32×32×26
1616	340-170	(23)×18×26	1681	335-165	40×38×6	1746	340-155	26×24×25	1811	315-160	30×27×32
1617	340-170	(17)×17×33	1682	335-165	48×38×13	1747	340-155	22×20×24	1812	315-160	15×14×26
1618	340-170	20×15×12	1683	335-165	20×16×14	1748	340-155	44×37×45	1813	315-160	25×23×40
1619	340-170	28×27×13	1684	335-165	18×11×12	1749	340-155	41×32×42	1814	315-160	34×28×17
1620	340-165	32×25×44	1685	335-165	35×35×18	1750	315-155	34×36×66	1815	315-160	52×36×35
1621	340-170	(26)×25×52	1686	335-165	35×28×15	1751	320-160	42×32×60	1816	315-160	19×16×27
1622	340-170	(29)×26×71	1687	335-165	15×13×39	1752	315-165	32×19×27	1817	315-160	(25)×18×18
1623	340-170	17×16×14	1688	335-165	22×16×8	1753	315-165	17×(9)×15	1818	315-160	30×25×26
1624	340-170	31×28×46	1689	335-165	20×12×12	1754	315-160	(35)×43×41	1819	315-160	32×25×30
1625	335-170	19×16×25	1690	335-160	23×23×13	1755	315-160	22×20×48	1820	315-160	33×30×23

第27表 ビット一覧表(7)

## 第8節 掘立柱建物・ビット

番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)	
		長さ×短径×深さ	長さ×短径×深さ			長さ×短径×深さ	長さ×短径×深さ			長さ×短径×深さ	長さ×短径×深さ				
1821	315-160	(17)×18×15	1886	325-160	17×17×8	1951	320-150	39×36×23	2016	315-135	36×32×18				
1822	320-165	23×15×11	1887	325-160	23×20×28	1952	320-150	20×20×16	2017	315-135	42×30×29				
1823	320-160	34×26×15	1888	325-160	44×(20)×40	1953	320-150	15×15×21	2018	315-135	18×16×20				
1824	320-160	23×20×36	1889	325-160	45×42×53	1954	320-155	48×37×53	2019	315-135	28×17×-				
1825	320-160	27×18×35	1890	325-160	22×21×22	1955	315-155	27×24×19	2020	315-135	74×41×37				
1826	320-160	45×18×28	1891	325-160	32×25×34	1956	320-155	52×47×55	2021	315-135	20×15×22				
1827	320-160	21×19×32	1892	325-160	40×29×39	1957	320-155	77×51×96	2022	315-135	35×25×34				
1828	320-160	22×20×22	1893	325-160	35×33×36	1958	320-150	25×25×15	2023	315-135	25×23×25				
1829	320-160	16×16×32	1894	325-160	50×35×28	1959	320-150	25×25×15	2024	315-135	23×20×14				
1830	320-160	24×16×30	1895	325-160	34×28×35	1960	320-150	29×29×29	2025	315-135	25×24×19				
1831	320-160	27×25×65	1896	325-160	26×20×13	1961	320-150	16×16×19	2026	315-135	41×29×36				
1832	320-160	32×29×68	1897	325-160	36×28×52	1962	325-155	(26)×22×20	2027	315-140	30×28×21				
1833	320-160	44×39×55	1898	320-160	27×25×45	1963	325-155	32×25×17	2028	315-140	20×17×22				
1834	315-160	38×36×42	1899	325-160	23×21×8	1964	325-155	55×28×15	2029	315-140	40×28×35				
1835	315-160	(22)×25×45	1900	325-155	18×18×14	1965	320-150	23×19×11	2030	315-140	27×17×57				
1836	315-160	28×27×54	1901	325-160	53×36×18	1966	325-150	35×25×15	2031	315-140	30×30×44				
1837	315-160	25×23×45	1902	325-160	29×26×66	1967	325-150	33×31×30	2032	320-140	18×13×21				
1838	315-160	29×26×63	1903	325-160	16×11×21	1968	325-150	25×21×26	2033	320-140	53×33×27				
1839	315-160	26×17×45	1904	325-160	23×21×12	1969	325-150	29×26×24	2034	320-140	22×21×27				
1840	315-160	(16)×16×33	1905	325-155	27×23×18	1970	325-150	25×(12)×6	2035	320-140	25×23×40				
1841	315-160	15×15×12	1906	325-155	35×26×25	1971	325-150	40×(25)×18	2036	320-140	25×22×41				
1842	315-160	35×(2)×31	1907	325-160	20×18×10	1972	325-150	22×17×12	2037	320-140	16×16×27				
1843	315-155	(15)×(10)×41	1908	325-160	29×27×47	1973	325-150	20×20×27	2038	320-140	38×20×36				
1844	315-155	26×18×47	1909	320-155	22×21×32	1974	325-155	26×23×10	2039	320-140	32×31×21				
1845	315-160	(25)×27×34	1910	320-160	30×15×13	1975	320-150	(33)×33×30	2040	320-140	(32)×23×36				
1846	315-155	17×14×19	1911	325-155	40×32×37	1976	320-150	32×23×40	2041	320-140	27×27×27				
1847	315-155	20×18×23	1912	325-155	(40)×(45)×59	1977	320-150	(16)×27×17	2042	320-140	20×17×16				
1848	320-160	(20)×27×39	1913	325-155	(60)×(50)×59	1978	320-150	20×13×21	2043	320-140	18×14×19				
1849	315-155	27×22×37	1914	325-155	65×(25)×25	1979	320-150	40×20×27	2044	320-140	25×24×20				
1850	315-155	25×23×20	1915	325-155	47×43×36	1980	320-150	(20)×25×27	2045	325-140	18×18×17				
1851	320-160	40×35×42	1916	325-155	(30)×30×57	1981	320-150	34×30×31	2046	320-145	17×16×17				
1852	320-160	36×27×30	1917	325-155	30×30×57	1982	320-150	(23)×26×20	2047	320-145	25×23×23				
1853	320-155	37×24×19	1918	325-155	24×(30)×30	1983	325-145	23×23×11	2048	325-145	24×18×17				
1854	320-155	33×33×40	1919	325-155	42×30×23	1984	325-145	13×11×16	2049	325-145	20×20×31				
1855	320-155	30×27×37	1920	325-155	40×(22)×24	1985	325-145	15×15×16	2050	325-140	28×26×42				
1856	320-155	37×33×40	1921	325-155	42×(25)×24	1986	320-145	19×18×25	2051	325-140	30×(18)×33				
1857	320-155	29×25×26	1922	325-155	44×37×18	1987	320-145	30×20×19	2052	325-140	(45)×(35)×30				
1858	320-155	27×21×36	1923	325-155	37×(25)×27	1988	315-145	20×19×20	2053	325-140	28×25×35				
1859	320-155	22×22×16	1924	325-155	45×(30)×32	1989	315-145	25×23×54	2054	325-140	22×20×18				
1860	315-155	41×32×42	1925	325-155	35×32×41	1990	315-145	37×32×53	2055	325-140	21×18×21				
1861	315-155	30×28×14	1926	325-155	29×23×20	1991	315-145	33×32×21	2056	325-140	31×30×32				
1862	315-155	(20)×26×23	1927	325-155	50×38×31	1992	315-140	40×27×28	2057	325-140	(25)×30×24				
1863	315-155	30×27×34	1928	325-155	48×34×23	1993	315-140	47×40×38	2058	325-140	(25)×32×19				
1864	315-155	30×28×34	1929	325-155	40×40×42	1994	315-140	24×20×24	2059	325-140	15×13×15				
1865	315-155	19×15×8	1930	325-155	30×25×30	1995	315-140	25×20×18	2060	325-140	15×12×21				
1866	315-155	27×21×13	1931	325-155	64×(32)×26	1996	315-140	26×19×13	2061	325-140	28×28×18				
1867	315-155	25×18×20	1932	325-155	(45)×(30)×32	1997	310-140	29×24×32	2062	325-140	34×24×31				
1868	315-155	20×20×6	1933	325-155	65×(40)×20	1998	315-140	30×27×36	2063	320-140	17×14×15				
1869	315-155	39×26×24	1934	320-155	44×35×29	1999	315-140	30×21×31	2064	320-140	56×24×29				
1870	315-155	29×24×27	1935	320-155	(35)×44×32	2000	310-140	30×23×66	2065	320-140	15×15×36				
1871	315-155	48×35×42	1936	320-155	(30)×46×34	2001	315-140	28×21×4	2066	320-140	25×20×39				
1872	315-155	76×51×51	1937	325-155	(23)×(13)×25	2002	315-140	32×27×52	2067	320-140	37×27×24				
1873	315-155	51×40×69	1938	315-155	17×16×13	2003	315-140	55×33×40	2068	320-140	22×17×19				
1874	320-155	46×37×47	1939	320-155	56×56×61	2004	315-140	33×32×26	2069	320-140	15×13×17				
1875	320-155	57×49×39	1940	320-155	48×35×29	2005	315-140	41×39×21	2070	320-140	28×28×23				
1876	320-155	23×18×33	1941	315-155	30×30×21	2006	315-140	25×23×14	2071	320-140	20×19×26				
1877	320-155	62×56×58	1942	315-155	26×21×8	2007	315-140	22×20×11	2072	320-140	18×18×20				
1878	320-155	40×40×38	1943	315-155	32×31×26	2008	315-135	(35)×30×18	2073	320-140	23×22×23				
1879	320-155	27×25×51	1944	315-155	18×17×13	2009	315-135	30×38×36	2074	320-140	(25)×24×43				
1880	320-160	35×26×57	1945	315-150	54×43×32	2010	315-135	36×33×24	2075	320-140	(30)×30×47				
1881	320-160	28×19×20	1946	315-150	45×(20)×19	2011	315-135	38×36×22	2076	320-140	(30)×27×58				
1882	320-160	37×28×47	1947	315-150	25×24×27	2012	315-135	14×12×15	2077	320-140	25×23×28				
1883	320-160	25×24×22	1948	315-150	21×19×21	2013	315-135	17×12×15	2078	320-140	25×22×50				
1884	320-160	40×35×31	1949	315-150	26×21×21	2014	310-135	44×41×21	2079	320-140	23×29×19				
1885	325-160	(35)×36×23	1950	320-150	20×18×15	2015	310-135	50×37×30	2080	320-140	27×18×11				

第28表 ビット一覧表(8)

## 第3章 調査の結果

番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ
2081	320-140	29×26×26	2146	325-130	(50)×(40)×34	2211	310-130	35×28×44	2276	320-125	41×32×44
2082	320-140	20×15×37	2147	325-130	(29)×26×33	2212	310-130	31×22×58	2277	320-125	63×35×40
2083	320-140	(20)×31×19	2148	325-130	(35)×(35)×36	2213	310-125	38×25×27	2278	320-125	24×19×34
2084	320-140	25×25×28	2149	325-130	(45)×41×71	2214	310-130	40×30×18	2279	320-125	26×22×31
2085	320-140	29×21×28	2150	325-130	75×45×75	2215	310-130	47×42×24	2280	320-125	60×45×51
2086	320-140	35×33×42	2151	325-130	(27)×32×30	2216	310-130	30×25×22	2281	320-120	29×23×34
2087	320-140	22×19×14	2152	325-130	42×30×31	2217	315-130	47×35×66	2282	320-120	22×17×22
2088	320-140	21×20×16	2153	325-130	30×28×18	2218	320-130	52×48×59	2283	320-120	34×32×26
2089	320-140	33×33×33	2154	325-130	36×33×24	2219	320-130	41×35×36	2284	320-120	40×36×34
2090	320-140	40×35×34	2155	320-130	24×21×20	2220	320-130	(40)×(30)×37	2285	320-125	50×40×42
2091	320-135	35×30×37	2156	320-130	21×19×10	2221	320-130	32×27×18	2286	325-125	29×23×49
2092	320-140	37×34×25	2157	320-130	57×37×54	2222	325-130	52×44×55	2287	325-120	39×31×31
2093	320-135	45×40×31	2158	320-130	(40)×39×29	2223	325-130	27×27×40	2288	325-115	21×21×25
2094	320-135	25×25×43	2159	320-130	42×32×42	2224	320-125	(35)×45×40	2289	325-115	24×23×32
2095	320-135	48×34×18	2160	320-130	39×50×59	2225	320-125	47×(20)×49	2290	325-115	28×22×36
2096	320-135	35×30×43	2161	320-130	75×67×27	2226	315-125	22×21×19	2291	325-120	39×31×33
2097	320-135	41×38×23	2162	320-130	34×32×53	2227	315-125	28×23×19	2292	320-120	72×(50)×44
2098	320-135	42×40×38	2163	320-130	50×(30)×58	2228	315-125	39×30×34	2293	320-120	75×(55)×67
2099	320-135	43×43×27	2164	320-130	50×(20)×60	2229	315-125	35×25×27	2294	320-120	32×28×27
2100	315-135	48×39×24	2165	320-130	63×(35)×65	2230	315-125	35×30×44	2295	320-120	50×45×33
2101	320-135	38×31×71	2166	320-130	(45)×60×60	2231	315-125	49×33×53	2296	320-120	30×28×56
2102	320-135	30×29×34	2167	320-130	(30)×(25)×41	2232	310-125	30×27×27	2297	320-125	34×29×35
2103	320-135	22×21×39	2168	320-130	(42)×(28)×57	2233	310-125	30×26×28	2298	320-125	25×22×23
2104	320-135	27×23×26	2169	320-130	53×33×53	2234	310-125	28×23×17	2299	325-125	40×40×39
2105	320-135	30×22×33	2170	320-130	42×38×59	2235	310-125	22×22×9	2300	325-125	45×40×38
2106	320-135	14×11×55	2171	320-130	(58)×52×45	2236	310-125	29×23×31	2301	320-125	34×28×44
2107	320-135	28×25×25	2172	320-130	37×26×63	2237	310-125	30×29×19	2302	320-125	34×28×41
2108	320-135	52×35×30	2173	320-130	(30)×19×48	2238	310-125	30×25×29	2303	320-125	46×40×59
2109	320-135	36×28×59	2174	320-130	(16)×20×7	2239	310-125	21×16×9	2304	320-125	24×20×31
2110	320-135	28×20×41	2175	320-130	30×(20)×24	2240	310-120	23×23×22	2305	320-125	37×27×49
2111	320-135	35×27×27	2176	320-130	48×29×51	2241	310-120	25×25×30	2306	320-125	33×30×58
2112	320-135	45×31×37	2177	320-130	(45)×29×65	2242	315-125	23×22×19	2307	320-125	(40)×40×32
2113	320-135	35×30×27	2178	320-130	57×43×40	2243	315-120	25×25×16	2308	320-125	36×31×46
2114	320-135	17×17×19	2179	320-130	37×24×46	2244	315-120	27×24×21	2309	320-130	40×30×59
2115	320-135	30×25×31	2180	315-130	40×29×71	2245	315-120	31×30×21	2310	325-120	58×44×47
2116	320-135	42×30×21	2181	315-130	(35)×40×75	2246	315-120	30×30×30	2311	325-125	31×27×24
2117	325-135	66×56×48	2182	315-130	46×35×68	2247	315-120	15×13×14	2312	325-130	48×32×36
2118	325-135	29×25×13	2183	315-130	45×38×36	2248	315-120	27×22×42	2313	320-130	55×29×36
2119	320-135	33×32×28	2184	315-130	65×40×58	2249	315-120	24×22×21	2314	320-130	39×33×32
2120	320-135	24×19×27	2185	315-130	(50)×(42)×59	2250	315-120	36×31×22	2315	320-125	22×18×20
2121	320-135	31×25×31	2186	315-130	(65)×50×50	2251	315-120	30×28×39	2316	320-135	23×20×24
2122	325-135	28×25×15	2187	315-130	49×(15)×60	2252	315-120	26×22×22	2317	320-125	39×33×40
2123	320-135	43×31×24	2188	315-130	49×(25)×69	2253	310-120	30×23×26	2318	325-125	25×20×34
2124	320-135	55×(30)×19	2189	315-130	52×(40)×75	2254	310-115	31×23×44	2319	320-125	55×45×29
2125	320-135	26×20×36	2190	315-130	(50)×32×78	2255	310-120	25×20×30	2320	320-130	(30)×28×25
2126	320-135	22×21×16	2191	315-130	47×29×52	2256	310-115	26×25×22	2321	320-130	26×20×24
2127	320-135	39×32×32	2192	315-130	29×22×36	2257	310-115	24×22×42	2322	320-130	39×32×50
2128	320-135	28×26×21	2193	315-130	60×55×46	2258	310-115	25×23×36	2323	320-130	(40)×46×38
2129	325-140	37×33×33	2194	315-130	44×38×45	2259	310-115	22×20×56	2324	320-130	34×28×40
2130	325-140	(20)×18×17	2195	315-130	39×(20)×58	2260	310-115	28×23×22	2325	320-130	(35)×41×37
2131	325-140	(20)×21×29	2196	315-130	(35)×(15)×58	2261	315-120	28×28×12	2326	320-130	(30)×34×21
2132	320-140	37×30×43	2197	315-130	(25)×(10)×51	2262	315-115	40×34×20	2327	320-130	26×25×22
2133	325-140	40×37×43	2198	315-130	40×(20)×45	2263	315-115	26×21×41	2328	325-130	28×22×27
2134	325-135	39×35×25	2199	315-130	16×15×15	2264	315-110	37×35×15	2329	325-130	30×23×35
2135	325-135	22×20×25	2200	315-130	26×26×51	2265	315-115	27×25×28	2330	325-130	42×(30)×30
2136	325-135	42×30×22	2201	315-130	(25)×26×40	2266	320-115	28×25×34	2331	325-130	39×32×27
2137	325-135	33×(29)×18	2202	315-130	41×29×54	2267	320-115	26×23×30	2332	325-130	34×30×37
2138	325-135	22×20×9	2203	315-130	17×14×14	2268	320-115	69×45×55	2333	325-130	44×36×30
2139	325-135	28×19×24	2204	315-135	27×19×35	2269	320-115	33×23×32	2334	325-130	36×30×21
2140	325-135	37×26×27	2205	315-135	37×30×44	2270	315-120	37×27×39	2335	325-130	33×32×31
2141	325-135	(31)×30×25	2206	315-135	23×16×31	2271	315-120	40×35×43	2336	325-135	44×42×56
2142	325-135	(31)×30×20	2207	310-135	(28)×33×22	2272	315-125	28×18×27	2337	325-135	26×19×16
2143	325-135	(30)×35×-	2208	310-135	35×(15)×21	2273	315-125	42×29×36	2338	325-135	36×28×18
2144	325-135	33×32×20	2209	310-135	37×36×20	2274	315-125	36×34×50	2339	325-135	30×27×16
2145	325-135	58×50×45	2210	310-135	28×19×28	2275	340-125	43×36×20	2340	325-135	59×33×39

第29表 ビット一覧表(9)

番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ
2341	325-135	(55)×57×33	2406	335-145	25×20×27	2471	345-120	46×31×27	2536	370-130	23×19×39
2342	330-135	32×21×24	2407	335-145	43×32×43	2472	345-120	28×27×29	2537	370-130	18×17×36
2343	330-135	16×16×22	2408	335-145	(25)×29×29	2473	345-120	28×23×23	2538	370-130	22×19×35
2344	330-135	36×33×30	2409	335-150	28×23×31	2474	345-120	35×34×31	2539	365-130	(25)×28×29
2345	325-140	25×25×25	2410	335-150	22×18×24	2475	340-115	53×40×14	2540	365-130	21×20×18
2346	330-135	33(28)×19	2411	340-150	30×25×46	2476	340-115	36×33×33	2541	365-130	36×27×23
2347	330-135	32×24×22	2412	340-150	48×40×38	2477	340-115	42×35×44	2542	365-130	55×41×31
2348	330-135	25×23×23	2413	340-150	19×18×17	2478	340-115	40×38×33	2543	365-130	24×20×18
2349	330-135	35×(30)×28	2414	340-150	23×22×30	2479	340-110	37×35×26	2544	365-130	21×18×15
2350	325-135	67×38×25	2415	340-150	27×23×50	2480	340-110	28×25×29	2545	365-130	16×14×20
2351	330-135	(50)×52×81	2416	340-155	28×26×24	2481	340-110	31×29×24	2546	365-130	25×21×23
2352	330-135	(45)×(35)×54	2417	340-150	24×24×25	2482	345-110	39×32×42	2547	365-130	47×39×39
2353	330-135	(30)×30×63	2418	340-150	36×23×—	2483	345-110	35×28×44	2548	365-130	35×25×42
2354	330-135	33×(20)×57	2419	340-150	22×20×16	2484	345-115	59×34×18	2549	365-130	27×27×16
2355	330-135	51×29×25	2420	340-150	26×23×37	2485	350-115	50×38×20	2550	365-130	23×18×23
2356	330-135	31×29×29	2421	340-150	27×25×32	2486	350-115	35×25×20	2551	360-130	25×21×36
2357	325-135	88×43×39	2422	340-150	20×14×24	2487	350-115	39×25×18	2552	360-130	34×33×44
2358	325-140	35×33×32	2423	340-145	35×17×18	2488	350-110	60×47×20	2553	350-130	25×21×24
2359	325-140	30×30×21	2424	340-145	30×29×37	2489	355-115	37×26×16	2554	350-130	25×19×18
2360	330-140	49×30×29	2425	340-145	27×21×20	2490	355-115	37×31×25	2555	350-130	25×20×46
2361	325-140	62×50×72	2426	340-145	28×28×32	2491	350-115	23×20×17	2556	350-130	30×29×45
2362	325-140	35×30×32	2427	335-145	28×23×24	2492	350-115	34×32×21	2557	350-130	(40)×33×36
2363	325-140	33×25×27	2428	340-145	20×20×17	2493	350-115	42×45×23	2558	345-130	16×20×19
2364	325-140	30×24×22	2429	340-145	24×23×17	2494	360-110	33×23×41	2559	345-130	28×25×69
2365	325-140	47×21×27	2430	335-145	25×21×17	2495	360-110	(50)×45×43	2560	345-130	22×22×66
2366	325-140	33×28×50	2431	335-145	27×25×19	2496	365-115	22×18×32	2561	345-130	23×22×32
2367	325-140	27×23×30	2432	340-145	36×32×31	2497	365-120	36×32×9	2562	345-130	27×25×15
2368	325-140	67×34×54	2433	340-140	22×22×13	2498	365-120	44×28×26	2563	345-130	77×36×44
2369	325-140	67×(40)×9	2434	340-140	33×28×29	2499	365-120	52×33×22	2564	345-130	135×44×26
2370	325-140	21×17×19	2435	340-145	19×15×13	2500	365-120	(45)×38×16	2565	345-130	65×48×48
2371	325-140	21×20×18	2436	340-140	18×12×14	2501	365-120	37×26×23	2566	345-135	35×30×30
2372	325-140	77×59×59	2437	330-140	41×24×23	2502	365-120	30×30×17	2567	345-135	30×27×21
2373	325-145	70×39×77	2438	330-135	24×22×15	2503	365-120	28×25×24	2568	345-135	(30)×36×34
2374	325-145	(50)×57×67	2439	330-130	45×25×44	2504	360-120	52×36×16	2569	345-135	33×25×27
2375	325-145	(55)×31×88	2440	320-120	60×51×39	2505	360-125	34×25×18	2570	345-135	50×39×16
2376	325-145	58×(33)×67	2441	330-110	42×31×43	2506	360-125	64×35×58	2571	345-135	24×22×40
2377	325-145	60×(30)×58	2442	330-115	34×26×42	2507	355-125	21×21×10	2572	345-135	51×37×90
2378	325-145	23×22×18	2443	330-115	37×26×38	2508	355-125	28×23×30	2573	345-135	69×(38)×32
2379	325-145	35×33×62	2444	330-115	42×37×28	2509	355-125	35×25×50	2574	345-135	28×22×58
2380	330-150	59×33×38	2445	330-120	19×19×14	2510	355-125	25×25×27	2575	345-135	(25)×22×38
2381	330-150	(30)×21×27	2446	330-120	46×37×30	2511	360-125	45×33×41	2576	340-135	56×35×76
2382	330-150	39×(20)×33	2447	335-120	30×25×20	2512	360-130	24×22×42	2577	340-130	33×25×45
2383	330-150	23×20×14	2448	335-125	31×29×20	2513	360-130	48×46×26	2578	340-130	21×20×44
2384	330-145	25×23×54	2449	335-125	40×39×39	2514	360-130	47×32×28	2579	340-130	39×31×55
2385	330-145	34×30×48	2450	335-125	36×31×40	2515	360-125	(20)×17×23	2580	340-135	29×(29)×35
2386	330-145	(20)×23×25	2451	335-125	31×30×38	2516	360-125	72×59×42	2581	340-135	30×20×35
2387	330-145	(20)×25×23	2452	335-125	36×33×36	2517	360-130	30×20×19	2582	340-135	35×22×71
2388	330-145	32×26×57	2453	335-125	38×33×46	2518	360-125	29×22×36	2583	340-135	(25)×26×36
2389	330-145	25×25×61	2454	335-125	28×21×20	2519	365-125	29×15×31	2584	340-135	(41)×39×63
2390	330-145	25×21×43	2455	335-125	32×31×28	2520	365-125	25×17×20	2585	340-135	50×37×77
2391	330-145	42×42×72	2456	335-125	27×26×40	2521	365-130	30×21×33	2586	340-135	55×47×106
2392	330-140	30×16×49	2457	335-125	36×30×30	2522	365-120	32×24×47	2587	340-135	30×22×33
2393	330-140	45×40×47	2458	335-125	25×25×16	2523	365-120	29×25×21	2588	340-135	23×23×25
2394	330-140	20×20×33	2459	335-130	35×31×32	2524	365-120	38×28×26	2589	340-140	32×25×43
2395	330-140	40×32×63	2460	335-130	35×33×39	2525	365-130	20×20×17	2590	340-140	24×20×34
2396	330-145	25×20×22	2461	335-130	44×41×23	2526	365-130	(28)×(10)×36	2591	340-140	35×30×22
2397	330-130	56×46×55	2462	335-130	30×23×51	2527	365-130	(20)×27×42	2592	345-140	27×26×66
2398	335-130	35×29×22	2463	340-125	37×25×22	2528	365-130	15×15×22	2593	345-140	25×25×27
2399	335-135	35×34×35	2464	340-125	38×33×47	2529	365-130	25×22×13	2594	345-140	30×24×16
2400	335-140	25×23×23	2465	340-125	23×22×24	2530	365-130	(18)×20×19	2595	345-140	32×20×14
2401	335-145	20×20×24	2466	345-125	62×45×14	2531	365-130	(25)×19×25	2596	345-140	27×25×23
2402	335-145	22×21×20	2467	345-125	27×25×14	2532	365-130	37×30×27	2597	345-135	53×31×62
2403	335-145	20×19×19	2468	345-125	34×25×33	2533	365-130	30×23×26	2598	345-135	25×16×26
2404	335-145	24×19×19	2469	345-130	(58)×39×49	2534	370-130	40×24×58	2599	345-135	22×22×13
2405	335-145	25×24×12	2470	345-125	27×27×25	2535	370-130	28×30×26	2600	345-135	41×38×32

第30表 ビット一覧表 (10)

## 第3章 調査の結果

番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ
2001	345-135	37×33×60	2666	345-155	(20)×25×42	2731	355-145	35×32×31	2796	350-145	48×44×49
2002	345-140	41×26×38	2667	345-155	(19)×28×45	2732	355-145	40×28×63	2797	350-145	29×26×28
2003	350-140	47×32×37	2668	345-155	27×24×14	2733	355-145	(55)×32×47	2798	350-145	27×27×50
2004	350-135	26×25×38	2669	345-155	63×53×50	2734	360-145	48×39×68	2799	350-145	30×26×44
2005	350-135	24×22×31	2670	345-155	19×19×16	2735	360-145	(20)×21×32	2800	350-145	35×29×80
2006	350-135	25×23×29	2671	345-155	25×24×29	2736	360-145	38×31×12	2801	350-145	(43)×37×55
2007	350-140	30×27×39	2672	345-155	29×19×21	2737	355-140	31×25×27	2802	350-145	(40)×43×84
2008	350-140	37×33×60	2673	345-160	27×23×28	2738	355-140	(55)×32×42	2803	350-145	39×32×57
2009	350-140	29×27×37	2674	345-160	17×16×16	2739	355-140	34×25×15	2804	350-145	24×18×48
2010	345-140	26×24×45	2675	345-155	20×16×14	2740	360-130	28×18×18	2805	355-145	32×22×49
2011	350-140	27×25×18	2676	345-155	21×20×34	2741	360-130	26×23×40	2806	355-145	31×28×69
2012	350-140	25×24×26	2677	345-155	25×21×25	2742	360-130	42×(20)×19	2807	355-145	36×31×47
2013	350-140	25×25×21	2678	350-150	31×26×33	2743	360-130	53×46×51	2808	350-145	30×22×22
2014	350-140	35×30×42	2679	350-150	50×37×45	2744	360-130	27×23×22	2809	350-145	24×20×55
2015	350-140	45×31×24	2680	345-145	30×26×29	2745	360-130	16×15×16	2810	350-145	33×29×64
2016	350-140	35×23×25	2681	345-145	28×23×19	2746	360-130	(16)×20×14	2811	350-150	30×26×11
2017	350-140	33×23×17	2682	350-145	40×34×8	2747	360-130	25×21×25	2812	350-150	32×25×54
2018	350-140	21×16×14	2683	350-145	32×29×45	2748	360-130	28×26×49	2813	350-150	24×20×62
2019	350-145	36×33×29	2684	350-145	(25)×33×25	2749	360-130	38×18×19	2814	350-150	33×25×20
2020	350-145	26×24×34	2685	350-145	33×29×31	2750	360-130	27×19×38	2815	350-150	31×30×16
2021	350-140	34×26×29	2686	350-145	(40)×45×42	2751	360-130	(21)×19×23	2816	350-130	30×27×41
2022	345-140	45×29×24	2687	350-145	(20)×31×37	2752	360-130	27×21×37	2817	355-150	49×45×45
2023	345-140	82×49×61	2688	350-145	26×(15)×37	2753	360-130	44×36×54	2818	355-150	34×27×48
2024	345-140	32×25×41	2689	350-145	(60)×45×33	2754	360-130	29×22×13	2819	355-150	40×34×23
2025	345-140	59×48×64	2690	350-145	24×21×6	2755	360-130	24×22×23	2820	355-150	67×50×42
2026	345-140	28×27×42	2691	350-145	36×34×31	2756	360-130	57×40×55	2821	355-150	51×45×32
2027	345-140	25×16×19	2692	350-145	36×32×56	2757	360-130	30×25×27	2822	355-150	54×38×72
2028	340-140	24×20×32	2693	350-145	(40)×26×25	2758	360-130	42×22×41	2823	355-145	27×25×37
2029	340-145	24×22×37	2694	350-145	(35)×(25)×21	2759	360-130	25×17×35	2824	355-150	40×35×22
2030	345-145	20×19×26	2695	350-145	(40)×39×35	2760	360-130	(19)×15×5	2825	355-150	30×29×13
2031	345-145	24×24×13	2696	350-145	(40)×(30)×39	2761	360-130	30×21×35	2826	355-150	38×33×22
2032	345-145	21×20×30	2697	350-145	45×(26)×45	2762	360-130	30×24×53	2827	360-150	30×23×29
2033	345-145	16×16×19	2698	350-145	29×26×34	2763	365-135	29×28×19	2828	350-150	28×25×24
2034	345-145	28×20×22	2699	345-145	21×20×16	2764	365-135	25×24×29	2829	350-150	30×22×20
2035	345-145	26×25×33	2700	350-145	41×35×49	2765	365-135	29×26×17	2830	350-150	34×33×30
2036	345-145	40×39×28	2701	350-145	34×22×37	2766	365-130	25×21×43	2831	350-150	35×34×68
2037	340-145	22×18×17	2702	350-145	35×28×34	2767	365-130	33×25×18	2832	355-150	35×31×22
2038	340-145	41×26×20	2703	345-145	50×31×24	2768	365-135	33×26×20	2833	355-150	44×38×34
2039	340-145	30×21×19	2704	350-145	32×30×9	2769	370-135	21×20×19	2834	355-155	32×30×17
2040	340-150	25×22×27	2705	350-145	40×25×28	2770	370-135	22×21×18	2835	350-155	31×28×48
2041	340-150	24×21×16	2706	350-145	35×32×29	2771	370-135	23×17×14	2836	350-155	(22)×28×26
2042	345-150	32×23×33	2707	350-145	32×27×15	2772	365-135	35×28×43	2837	350-155	30×21×15
2043	345-150	26×23×32	2708	350-145	(22)×31×23	2773	365-135	22×20×16	2838	360-155	33×25×20
2044	345-150	38×25×42	2709	350-145	(40)×(25)×28	2774	365-135	24×21×30	2839	350-155	44×25×28
2045	345-150	20×16×25	2710	350-145	22×22×41	2775	365-135	23×21×19	2840	355-155	21×20×65
2046	345-150	22×22×22	2711	350-145	45×37×73	2776	365-135	52×38×44	2841	350-155	44×43×39
2047	345-150	24×18×16	2712	350-145	23×10×13	2777	365-135	25×24×39	2842	350-155	40×25×27
2048	345-150	18×13×13	2713	350-145	23×20×30	2778	365-135	45×26×30	2843	350-160	27×19×20
2049	345-150	33×31×51	2714	350-145	45×35×41	2779	365-135	23×21×23	2844	350-160	26×25×16
2050	340-150	38×32×28	2715	350-145	47×26×21	2780	360-130	26×25×28	2845	355-160	24×22×18
2051	345-150	45×35×63	2716	350-140	41×40×62	2781	360-130	31×26×33	2846	355-160	28×22×42
2052	345-150	32×24×28	2717	350-140	54×43×50	2782	360-130	27×25×57	2847	350-155	32×26×30
2053	345-150	22×22×31	2718	350-140	52×(35)×49	2783	360-135	41×34×50	2848	350-155	50×40×33
2054	345-150	24×21×30	2719	350-140	52×35×65	2784	360-140	21×16×7	2849	350-155	31×39×35
2055	345-150	26×24×42	2720	350-140	36×25×26	2785	360-145	54×(42)×60	2850	350-155	34×27×22
2056	345-155	28×23×27	2721	350-140	40×20×75	2786	360-145	37×26×44	2851	355-155	30×29×36
2057	345-155	32×30×17	2722	350-140	72×34×67	2787	360-145	50×31×56	2852	355-155	60×43×38
2058	345-155	33×22×23	2723	350-140	42×37×24	2788	360-145	43×41×19	2853	350-155	30×25×53
2059	345-155	35×23×19	2724	350-140	34×26×13	2789	360-145	40×32×59	2854	355-155	40×31×14
2060	345-155	37×(20)×28	2725	350-140	40×30×39	2790	355-145	42×32×51	2855	350-155	42×36×67
2061	345-155	(35)×37×58	2726	350-145	43×40×84	2791	355-145	47×46×65	2856	360-155	25×24×29
2062	345-155	49×29×30	2727	350-145	(20)×22×44	2792	355-145	44×33×47	2857	350-155	(36)×37×62
2063	345-155	28×(10)×38	2728	355-145	29×27×27	2793	355-145	50×33×37	2858	360-155	33×30×42
2064	345-155	34×30×68	2729	355-145	(55)×53×64	2794	350-145	30×27×40	2859	350-155	45×34×37
2065	345-155	47×31×64	2730	355-145	73×38×69	2795	360-145	(50)×45×47	2860	355-155	32×30×47

第31表 ビッター一覧表(11)

番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)	
		長さ×短径×深さ	径			長さ×短径×深さ	径			長さ×短径×深さ	径			長さ×短径×深さ	径
2861	355-150	30×26×51	2926	365-155	26×23×29	2991	360-145	20×15×35	3056	370-145	16×16×43				
2862	355-150	29×19×17	2927	365-155	44×35×50	2992	360-145	35×30×16	3057	370-150	30×29×36				
2863	360-160	42×34×33	2928	365-155	(20)×22×17	2993	360-145	44×33×43	3058	370-150	29×18×8				
2864	365-160	44×29×32	2929	365-155	25×20×34	2994	360-145	(40)×25×22	3059	370-150	26×25×28				
2865	365-160	45×32×26	2930	365-155	46×33×26	2995	360-145	(35)×23×39	3060	370-150	23×20×9				
2866	365-165	33×23×12	2931	365-160	29×26×36	2996	360-145	43×26×35	3061	370-150	16×15×14				
2867	365-165	26×17×38	2932	365-155	32×24×30	2997	360-145	19×13×30	3062	370-145	21×17×18				
2868	365-165	50×35×25	2933	365-155	40×(29)×40	2998	360-145	25×20×31	3063	370-145	55×47×12				
2869	365-165	24×24×13	2934	365-155	(16)×25×50	2999	360-145	33×31×24	3064	370-145	32×30×17				
2870	365-165	27×22×8	2935	365-155	40×(24)×29	3000	360-145	38×38×26	3065	370-145	22×18×8				
2871	365-165	32×27×23	2936	365-155	(25)×23×23	3001	360-145	20×15×20	3066	365-145	28×28×18				
2872	365-165	22×18×15	2937	365-155	18×15×24	3002	360-145	17×16×22	3067	365-145	21×15×16				
2873	365-160	23×19×13	2938	365-155	47×45×40	3003	360-145	58×30×40	3068	365-145	61×39×21				
2874	365-160	41×24×18	2939	365-155	30×23×22	3004	360-145	17×15×17	3069	365-145	38×25×26				
2875	365-160	18×15×14	2940	365-155	46×33×29	3005	360-145	(35)×25×25	3070	365-150	18×16×11				
2876	365-160	23×21×33	2941	365-155	34×25×30	3006	360-145	66×46×74	3071	365-150	(20)×22×10				
2877	365-160	19×16×19	2942	365-155	34×22×28	3007	360-145	61×35×67	3072	365-150	60×31×9				
2878	365-160	31×28×28	2943	365-155	24×22×31	3008	360-145	40×38×56	3073	365-150	29×23×35				
2879	365-160	(23)×20×18	2944	365-155	45×26×11	3009	360-145	36×22×52	3074	365-150	55×30×21				
2880	365-160	26×(23)×24	2945	365-155	36×36×26	3010	360-145	33×28×14	3075	365-150	(25)×21×12				
2881	365-165	31×25×19	2946	365-155	31×20×37	3011	360-145	42×24×18	3076	365-150	63×20×17				
2882	365-160	34×19×18	2947	365-155	37×26×34	3012	360-145	43×26×58	3077	365-150	23×20×36				
2883	365-160	26×21×16	2948	365-155	41×29×23	3013	360-145	45×27×39	3078	365-150	25×20×17				
2884	365-160	38×36×35	2949	365-155	50×40×28	3014	360-145	42×32×53	3079	365-150	47×29×33				
2885	365-160	35×27×39	2950	365-155	37×30×29	3015	360-145	32×32×33	3080	365-150	27×27×39				
2886	365-160	25×24×35	2951	365-155	57×30×38	3016	360-145	58×35×23	3081	365-150	(23)×28×17				
2887	365-160	28×20×25	2952	365-150	28×24×30	3017	360-145	48×28×30	3082	365-150	16×13×11				
2888	365-160	36×28×47	2953	365-150	27×21×17	3018	360-145	47×35×19	3083	365-150	33×25×25				
2889	365-160	37×27×21	2954	365-150	27×25×23	3019	360-145	22×14×24	3084	365-150	26×20×21				
2890	365-160	32×24×19	2955	365-150	47×35×29	3020	365-145	53×42×49	3085	360-150	28×25×30				
2891	365-160	43×20×22	2956	365-150	64×35×32	3021	365-145	25×23×8	3086	360-150	33×29×42				
2892	365-160	36×25×24	2957	365-150	43×31×38	3022	365-145	34×29×14	3087	365-150	37×23×36				
2893	365-160	28×22×8	2958	365-150	34×(24)×18	3023	365-145	(25)×22×-	3088	365-150	(26)×21×15				
2894	365-160	25×25×22	2959	365-150	41×34×18	3024	365-145	16×12×12	3089	365-150	28×25×23				
2895	365-160	25×23×24	2960	365-150	23×16×12	3025	365-145	43×30×71	3090	365-150	32×20×8				
2896	365-160	77×36×33	2961	365-150	(18)×(25)×15	3026	365-145	24×18×-	3091	375-150	30×22×9				
2897	365-160	30×24×31	2962	365-150	36×25×51	3027	360-145	35×32×11	3092	370-155	26×20×17				
2898	365-160	25×23×18	2963	365-150	32×32×21	3028	360-145	34×34×35	3093	370-150	51×20×14				
2899	360-160	32×24×23	2964	365-155	32×27×29	3029	360-140	38×28×41	3094	370-150	45×29×48				
2900	360-160	31×27×27	2965	365-155	49×35×36	3030	360-140	30×25×55	3095	370-150	25×21×28				
2901	360-160	26×24×29	2966	365-155	25×23×14	3031	355-140	50×40×36	3096	370-150	28×28×18				
2902	360-160	28×20×13	2967	365-155	25×23×27	3032	355-140	21×19×57	3097	370-150	(33)×30×12				
2903	360-160	27×22×13	2968	360-155	28×18×18	3033	355-140	24×20×43	3098	375-155	53×32×17				
2904	360-155	23×20×31	2969	360-155	31×22×52	3034	360-140	28×18×38	3099	370-155	24×21×16				
2905	360-155	19×17×15	2970	360-150	22×22×11	3035	360-140	17×15×29	3100	370-155	22×(18)×23				
2906	360-155	33×29×14	2971	360-150	24×15×22	3036	365-140	20×20×16	3101	370-155	(20)×19×25				
2907	360-155	18×15×17	2972	365-150	(38)×35×15	3037	365-140	48×30×44	3102	370-155	32×26×33				
2908	365-155	27×21×15	2973	365-150	33×26×29	3038	365-140	23×20×19	3103	370-155	22×20×25				
2909	365-160	40×25×25	2974	365-150	29×20×15	3039	365-140	15×11×27	3104	370-155	30×24×30				
2910	365-160	32×(30)×19	2975	365-150	30×19×14	3040	360-140	32×30×29	3105	365-155	28×21×11				
2911	365-160	(37)×28×33	2976	360-150	18×17×19	3041	365-135	36×23×20	3106	365-155	30×25×11				
2912	365-160	35×30×38	2977	360-150	18×14×14	3042	365-135	29×29×28	3107	370-155	29×24×25				
2913	365-160	29×20×10	2978	360-150	(30)×32×13	3043	365-135	27×17×12	3108	370-155	19×12×15				
2914	365-160	32×25×28	2979	360-150	34×(20)×17	3044	365-135	29×25×25	3109	370-155	30×26×14				
2915	365-160	25×23×9	2980	360-150	(25)×32×20	3045	365-140	33×21×13	3110	370-155	32×25×14				
2916	365-160	25×20×16	2981	360-150	50×45×21	3046	370-140	37×30×35	3111	370-155	(16)×18×6				
2917	365-155	26×25×29	2982	360-150	33×30×20	3047	365-140	34×25×30	3112	370-155	35×24×16				
2918	365-155	32×25×26	2983	360-150	45×28×49	3048	365-140	26×19×6	3113	370-155	35×27×32				
2919	365-155	21×21×16	2984	360-150	42×36×40	3049	365-140	15×13×12	3114	370-155	58×22×19				
2920	365-155	30×26×22	2985	350-145	37×32×33	3050	365-145	44×38×12	3115	375-155	23×18×13				
2921	365-155	42×36×47	2986	355-145	41×24×42	3051	365-145	35×26×35	3116	375-155	17×16×12				
2922	365-155	(28)×28×25	2987	355-145	(47)×35×41	3052	365-145	39×33×33	3117	375-155	23×18×16				
2923	365-155	30×27×24	2988	355-145	20×17×20	3053	365-145	31×25×30	3118	370-160	51×42×10				
2924	365-155	22×18×19	2989	355-145	20×18×12	3054	365-145	(26)×30×17	3119	370-160	41×38×34				
2925	365-160	52×41×22	2990	355-145	40×24×24	3055	365-145	40×38×27	3120	370-155	15×13×10				

第32表 ビット一覧表 (12)

## 第3章 調査の結果

番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ	番号	グリッド	大きさ (cm) 長径×短径×深さ
3121	370-160	27×23×16	3186	315-130	47×40×21	3251	315-115	22×18×44	3316	320-125	36×(29)×68
3122	370-160	37×28×26	3187	315-130	30×37×54	3252	315-115	35×30×24	3317	320-120	27×21×57
3123	370-160	28×28×37	3188	315-130	39×26×12	3253	315-115	30×26×21	3318	320-120	65×30×25
3124	370-160	21×19×22	3189	320-130	41×35×33	3254	315-115	44×(30)×30	3319	320-120	19×16×19
3125	370-160	24×23×28	3190	315-130	23×21×34	3255	315-115	45×40×39	3320	320-115	52×30×37
3126	370-160	19×18×16	3191	310-130	40×34×52	3256	315-115	25×21×32	3321	325-120	32×25×19
3127	370-160	42×39×54	3192	315-130	(35)×26×7	3257	315-115	38×27×29	3322	325-120	39×27×31
3128	370-160	48×34×41	3193	315-125	39×30×26	3258	315-120	18×17×25	3323	325-115	45×24×34
3129	370-160	61×37×23	3194	315-125	(16)×20×23	3259	315-120	25×25×26	3324	325-115	34×25×32
3130	370-160	68×33×18	3195	315-125	24×20×26	3260	315-120	24×20×27	3325	325-115	27×21×42
3131	375-160	34×21×31	3196	315-125	33×22×23	3261	315-115	23×21×42	3326	315-140	20×19×12
3132	375-160	43×35×49	3197	315-130	32×26×27	3262	315-115	26×16×28	3327	315-140	28×23×27
3133	375-160	30×15×19	3198	315-130	26×21×34	3263	315-115	27×19×26	3328	320-160	22×17×23
3134	375-160	33×32×21	3199	320-130	(45)×45×31	3264	315-115	17×13×29	3329	315-160	53×29×39
3135	370-160	46×46×33	3200	315-130	(30)×40×21	3265	315-115	30×25×46	3330	340-130	22×17×29
3136	370-160	51×49×32	3201	315-135	24×18×32	3266	315-115	17×17×21	3331	335-120	29×22×29
3137	370-160	59×35×34	3202	310-130	20×18×29	3267	315-115	22×21×29	3332	340-130	38×30×43
3138	370-160	27×20×24	3203	310-130	(25)×23×18	3268	315-115	36×32×38	3333	340-140	30×24×46
3139	365-160	26×23×18	3204	315-130	27×23×18	3269	315-115	29×20×25	3334	340-140	29×24×18
3140	370-165	22×19×18	3205	315-125	28×23×36	3270	315-115	20×20×27	3335	340-135	25×23×52
3141	370-165	26×22×20	3206	315-130	24×17×22	3271	315-120	25×30×21	3336	340-135	27×23×30
3142	370-165	26×25×27	3207	315-130	24×18×20	3272	315-120	35×24×32	3337	340-150	32×20×14
3143	370-165	19×19×18	3208	315-125	22×20×16	3273	315-120	20×15×29	3338	欠番	
3144	370-165	22×17×19	3209	320-135	15×14×34	3274	315-120	33×20×31	3339	345-135	28×28×45
3145	370-165	80×43×16	3210	320-135	34×27×26	3275	320-120	34×29×33	3340	345-135	58×35×51
3146	370-165	30×25×18	3211	310-110	24×21×44	3276	315-120	32×23×25	3341	350-135	23×22×30
3147	370-165	46×31×18	3212	310-110	24×20×27	3277	320-120	26×24×26	3342	350-135	47×40×73
3148	370-165	35×22×41	3213	310-110	(30)×22×36	3278	320-120	30×23×23	3343	355-130	40×40×59
3149	370-165	40×40×50	3214	310-110	36×32×49	3279	315-120	23×20×24	3344	355-130	30×28×40
3150	375-165	30×27×30	3215	310-115	40×24×34	3280	315-120	24×15×46	3345	360-130	27×25×16
3151	355-160	27×25×46	3216	310-115	35×32×55	3281	320-120	30×30×29	3346	360-130	26×24×20
3152	355-160	25×23×19	3217	310-110	37×28×33	3282	320-120	43×38×50	3347	360-130	32×24×23
3153	355-155	19×16×18	3218	310-110	(25)×26×43	3283	320-120	35×26×55	3348	360-130	26×21×31
3154	325-145	30×28×25	3219	310-110	35×25×29	3284	315-120	35×26×68	3349	360-130	24×21×34
3155	325-145	30×20×32	3220	310-115	52×28×66	3285	320-120	28×28×26	3350	360-130	22×21×49
3156	320-135	26×23×44	3221	310-115	33×24×46	3286	320-120	21×21×26	3351	335-120	45×26×28
3157	320-135	40×27×26	3222	310-115	35×30×45	3287	320-120	32×(18)×14	3352	335-120	30×25×11
3158	320-135	41×28×34	3223	310-115	30×20×68	3288	320-120	22×26×66	3353	335-120	54×20×21
3159	320-135	43×21×18	3224	310-115	26×18×51	3289	320-120	(25)×25×20	3354	360-135	31×30×22
3160	320-135	29×21×29	3225	310-115	50×35×40	3290	320-125	35×(15)×51	3355	355-135	(30)×28×29
3161	320-135	26×20×11	3226	315-110	27×23×31	3291	320-120	28×21×22	3356	355-135	40×28×40
3162	335-130	35×35×18	3227	315-110	26×23×48	3292	320-120	35×26×42	3357	355-135	29×25×35
3163	320-130	25×20×18	3228	315-110	23×16×22	3293	320-120	21×18×18	3358	355-135	27×22×28
3164	320-130	20×18×14	3229	315-110	23×19×15	3294	320-120	33×27×50	3359	355-135	30×23×25
3165	320-130	30×19×18	3230	310-115	21×21×16	3295	320-120	26×20×27	3360	355-135	43×26×30
3166	320-130	23×19×33	3231	310-115	22×20×35	3296	320-120	28×21×40	3361	355-135	(20)×22×25
3167	320-130	32×24×27	3232	310-115	22×17×17	3297	320-120	40×29×30	3362	355-135	25×16×39
3168	320-130	30×20×27	3233	310-115	18×15×21	3298	320-120	22×15×20	3363	355-135	37×34×37
3169	320-130	49×34×25	3234	310-115	17×14×22	3299	320-120	20×19×37	3364	335-140	33×22×33
3170	320-130	26×20×26	3235	310-115	24×20×13	3300	320-120	37×25×33	3365	335-145	52×28×68
3171	320-130	32×29×25	3236	310-115	28×28×62	3301	310-115	25×23×30	3366	335-145	47×36×39
3172	320-130	32×29×17	3237	315-115	21×18×44	3302	325-115	36×28×24	3367	335-150	20×15×16
3173	320-130	34×30×31	3238	315-115	35×21×40	3303	310-110	46×40×20	3368	335-150	16×16×49
3174	320-130	25×20×26	3239	315-115	20×18×33	3304	315-115	30×23×15	3369	360-145	35×24×20
3175	320-135	41×29×24	3240	315-115	30×30×44	3305	315-115	27×22×34	3370	360-145	31×24×16
3176	315-130	65×35×36	3241	315-110	(20)×25×10	3306	315-115	32×23×16	3371	365-150	39×33×25
3177	315-130	51×37×27	3242	315-110	25×25×29	3307	315-115	(35)×21×14	3372	365-150	40×36×39
3178	315-125	69×50×24	3243	315-115	46×31×40	3308	315-115	(30)×23×22	3373	365-150	45×20×-
3179	315-125	40×21×23	3244	315-115	27×25×26	3309	325-115	33×30×25	3374	365-150	45×40×56
3180	320-130	38×32×40	3245	315-115	(40)×32×28	3310	320-120	25×22×33	3375	365-150	25×20×25
3181	320-130	58×30×36	3246	315-115	(30)×28×32	3311	320-120	41×31×31	3376	335-155	28×17×23
3182	320-130	26×21×43	3247	315-115	24×21×31	3312	320-120	140×24×97	3377	335-155	52×27×26
3183	315-130	19×16×35	3248	315-115	28×24×33	3313	320-120	28×25×27	3378	335-155	23×18×18
3184	315-130	31×31×26	3249	315-115	27×25×60	3314	320-120	20×18×30	3379	335-155	45×22×47
3185	315-125	20×18×16	3250	315-115	22×17×36	3315	320-120	18×18×38	3380	345-150	33×32×40

第33表 ビット一覧表 (13)

番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)	
		長径	短径			長径	短径			長径	短径			長径	短径
3381	325-145	22×20×44		3446	315-085	25×19×37		3511	325-085	35×32×22		3576	335-085	42×38×34	
3382	325-145	44×36×51		3447	315-085	32×23×33		3512	325-080	34×22×28		3577	340-090	50×48×63	
3383	345-135	24×20×29		3448	315-085	28×26×24		3513	330-080	27×24×29		3578	340-090	42×30×32	
3384	345-135	29×31×48		3449	315-085	47×47×54		3514	330-080	35×25×33		3579	340-085	32×23×81	
3385	345-135	28×26×54		3450	315-085	38×30×56		3515	330-070	35×31×20		3580	340-090	40×33×25	
3386	345-130	23×21×26		3451	315-085	36×26×38		3516	330-070	26×17×13		3581	340-085	42×32×87	
3387	345-130	32×26×32		3452	315-085	37×33×51		3517	330-070	26×25×25		3582	340-085	30×23×20	
3388	345-130	49×30×61		3453	315-085	40×34×33		3518	330-070	21×17×18		3583	340-085	31×19×28	
3389	345-130	26×25×23		3454	315-085	28×25×37		3519	330-070	42×28×26		3584	340-090	41×27×74	
3390	345-130	39×33×30		3455	320-085	30×21×19		3520	330-070	30×21×21		3585	345-085	33×26×68	
3391	345-130	35×29×28		3456	320-085	20×15×37		3521	330-075	26×22×19		3586	345-085	26×25×46	
3392	355-135	36×22×44		3457	320-085	21×21×41		3522	330-075	33×28×23		3587	345-090	35×33×32	
3393	325-080	26×25×21		3458	320-085	37×35×41		3523	330-075	34×28×30		3588	350-090	31×20×21	
3394	310-095	32×22×24		3459	320-085	38×32×53		3524	335-065	27×26×32		3589	350-090	50×48×59	
3395	310-095	42×40×30		3460	320-085	32×28×19		3525	330-070	27×25×29		3590	350-095	72×53×61	
3396	310-095	37×31×41		3461	320-085	22×20×36		3526	335-080	28×24×18		3591	350-095	47×33×36	
3397	310-090	60×50×53		3462	320-085	29×28×33		3527	335-080	24×22×21		3592	350-090	40×33×43	
3398	310-090	50×44×34		3463	320-085	29×27×32		3528	330-080	24×20×30		3593	350-095	30×25×44	
3399	310-090	28×24×31		3464	320-085	26×19×23		3529	335-080	23×23×36		3594	355-095	22×20×29	
3400	310-095	35×32×29		3465	320-085	28×25×14		3530	335-080	25×23×28		3595	355-090	49×33×63	
3401	310-090	42×25×39		3466	320-085	30×25×32		3531	335-090	22×22×34		3596	355-090	40×35×57	
3402	315-090	21×18×31		3467	320-085	33×28×35		3532	335-090	30×25×35		3597	360-090	32×26×16	
3403	315-090	25×25×55		3468	320-085	38×22×29		3533	335-090	30×29×39		3598	360-090	38×26×47	
3404	315-090	26×22×48		3469	325-085	23×(15)×28		3534	335-095	32×30×32		3599	360-090	22×20×11	
3405	315-090	38×25×57		3470	320-085	40×35×64		3535	335-095	22×22×34		3600	360-090	59×30×22	
3406	315-090	20×19×37		3471	320-085	35×28×13		3536	330-090	50×35×54		3601	360-090	22×19×14	
3407	315-090	29×23×56		3472	325-085	43×38×11		3537	330-090	33×28×35		3602	360-090	22×20×34	
3408	315-090	26×24×30		3473	325-085	23×23×18		3538	330-090	38×33×62		3603	345-085	63×33×37	
3409	315-090	47×45×41		3474	325-085	24×18×31		3539	330-095	37×28×42		3604	345-090	55×55×50	
3410	315-090	32×27×41		3475	330-085	18×15×31		3540	330-095	38×32×43		3605	345-100	36×31×21	
3411	320-090	38×38×34		3476	330-085	30×26×38		3541	330-095	38×28×54		3606	345-100	24×24×23	
3412	320-090	32×22×32		3477	330-085	30×27×27		3542	335-095	32×25×31		3607	350-095	28×25×44	
3413	320-090	36×30×53		3478	330-085	48×32×53		3543	335-095	33×25×25		3608	350-095	34×27×42	
3414	320-090	24×23×21		3479	330-085	50×39×59		3544	355-065	34×25×23		3609	350-095	30×26×26	
3415	320-095	24×24×37		3480	330-085	42×36×58		3545	330-065	14×14×21		3610	355-095	35×27×31	
3416	320-090	32×30×55		3481	330-085	22×18×38		3546	340-070	36×33×21		3611	360-095	58×41×38	
3417	320-090	32×28×54		3482	320-085	30×22×34		3547	340-070	46×32×35		3612	360-100	60×47×40	
3418	325-090	31×28×38		3483	320-085	27×23×30		3548	350-065	30×27×25		3613	345-090	27×20×54	
3419	325-090	27×25×22		3484	320-085	24×19×26		3549	350-065	77×90×31		3614	345-090	45×32×29	
3420	325-090	25×23×25		3485	315-085	29×25×40		3550	355-065	43×38×26		3615	350-095	42×33×34	
3421	325-090	38×38×38		3486	315-085	23×23×26		3551	355-065	56×41×53		3616	350-095	25×23×29	
3422	325-090	38×31×37		3487	315-085	29×24×20		3552	355-070	51×38×34		3617	360-100	26×24×26	
3423	325-090	32×30×56		3488	315-085	24×24×29		3553	350-070	41×34×40		3618	360-100	30×27×27	
3424	325-090	27×24×40		3489	315-085	29×26×33		3554	350-070	35×33×36		3619	360-100	37×32×46	
3425	325-095	28×23×19		3490	310-085	27×27×26		3555	355-070	42×34×43		3620	360-100	28×24×21	
3426	325-095	33×30×21		3491	310-085	33×26×50		3556	355-080	27×24×22		3621	360-100	36×30×34	
3427	320-100	25×25×24		3492	310-080	40×30×20		3557	350-065	22×20×24		3622	360-105	30×28×46	
3428	325-090	47×45×57		3493	310-075	35×29×38		3558	340-070	35×32×25		3623	340-090	30×27×42	
3429	325-090	21×18×17		3494	310-080	28×25×31		3559	345-085	62×35×49		3624	360-055	54×39×34	
3430	330-090	53×40×61		3495	310-075	29×25×19		3560	345-080	45×40×43		3625	355-050	45×33×24	
3431	330-090	26×25×37		3496	310-075	34×31×42		3561	345-080	30×17×28		3626	350-045	40×38×22	
3432	330-095	30×26×25		3497	310-075	27×22×26		3562	345-080	28×20×9		3627	355-040	61×60×46	
3433	335-095	40×40×54		3498	310-070	35×29×19		3563	355-085	32×25×25		3628	330-055	21×19×10	
3434	335-095	38×37×57		3499	315-065	32×29×33		3564	355-085	33×33×26		3629	325-060	36×34×44	
3435	310-085	60×44×52		3500	310-065	26×25×26		3565	355-085	39×32×32		3630	325-060	30×27×19	
3436	310-085	33×33×46		3501	320-065	29×29×70		3566	360-085	26×26×24		3631	325-055	28×26×18	
3437	310-085	28×28×38		3502	325-070	25×23×49		3567	360-090	30×25×31		3632	325-055	43×35×34	
3438	310-085	50×37×62		3503	325-070	26×23×40		3568	350-085	33×24×41		3633	320-040	28×26×15	
3439	310-085	(38)×31×42		3504	325-070	22×22×31		3569	335-085	45×30×26		3634	325-050	65×60×30	
3440	310-085	35×27×53		3505	330-070	25×22×25		3570	335-085	40×28×29		3635	325-050	47×45×30	
3441	310-085	30×25×52		3506	330-070	42×34×57		3571	335-085	31×29×49		3636	325-060	50×40×32	
3442	310-085	26×23×31		3507	335-070	24×17×27		3572	335-085	27×26×37		3637	325-055	59×36×29	
3443	310-085	46×42×39		3508	330-075	31×24×42		3573	335-085	40×22×76		3638	325-055	13×12×19	
3444	310-085	45×42×57		3509	325-075	48×38×32		3574	335-085	25×25×10		3639	320-060	27×27×26	
3445	310-085	33×32×24		3510	325-085	32×23×29		3575	335-090	26×25×74		3640	315-060	30×28×26	

第34表 ビット一覧表 (14)



第3章 調査の成果

番号	グリッド	大きさ (cm)		番号	グリッド	大きさ (cm)	
		長径×短径×深さ				長径×短径×深さ	
3641	315-055	21×15×18		3706	320-170	27×20×28	
3642	310-055	20×19×25		3707	325-170	30×35×52	
3643	315-055	53×47×45		3708	320-170	309×24×17	
3644	315-055	51×47×66		3709	325-170	41×34×16	
3645	335-050	36×30×21		3710	320-165	37×33×37	
3646	345-040	65×54×40		3711	320-165	33×25×21	
3647	350-035	60×47×49		3712	320-165	23×20×39	
3648	345-035	30×19×27		3713	320-165	41×37×49	
3649	345-035	62×50×58		3714	320-165	45×38×49	
3650	345-035	33×33×41		3715	320-170	26×24×67	
3651	345-030	(35)×37×41		3716	320-175	34×33×28	
3652	345-030	(35)×40×35		3717	325-180	32×30×37	
3653	330-060	53×42×10		3718	325-175	27×25×23	
3654	欠番			3719	欠番		
3655	345-040	25×20×9		3720	320-170	33×29×65	
3656	345-040	40×30×51		3721	320-170	40×38×45	
3657	345-040	41×37×55		3722	320-165	28×23×28	
3658	345-040	46×39×41		3723	325-190	36×25×59	
3659	320-060	27×24×28		3724	320-175	33×29×52	
3660	325-170	22×18×41		3725	325-180	26×24×21	
3661	330-170	38×(17)×35		3726	320-195	25×23×34	
3662	330-155	42×40×19		3727	320-195	27×25×34	
3663	330-160	28×23×18		3728	330-040	30×23×14	
3664	330-155	34×13×13		3729	330-045	28×18×12	
3665	335-160	32×22×21		3730	330-045	45×38×29	
3666	335-160	29×25×41		3731	335-045	45×42×31	
3667	330-160	25×23×22		3732	345-035	38×29×37	
3668	330-165	38×28×39		3733	345-035	50×47×56	
3669	325-170	30×(22)×32		3734	345-030	66×48×35	
3670	325-170	29×21×53		3735	345-035	32×26×45	
3671	330-170	20×17×52		3736	345-035	58×43×33	
3672	330-160	28×17×12					
3673	330-170	31×28×19					
3674	330-160	41×39×39					
3675	330-160	50×37×61					
3676	325-165	43×35×22					
3677	325-165	45×36×22					
3678	325-165	30×23×60					
3679	325-170	23×22×55					
3680	325-165	35×28×5					
3681	320-165	40×31×29					
3682	320-165	47×33×18					
3683	320-165	42×33×27					
3684	320-165	39×35×32					
3685	320-165	35×25×55					
3686	320-165	35×(20)×28					
3687	320-170	28×25×50					
3688	欠番						
3689	325-170	40×35×98					
3690	325-175	45×38×37					
3691	325-170	63×61×83					
3692	325-170	33×28×41					
3693	欠番						
3694	欠番						
3695	220-170	33×(25)×32					
3696	220-170	36×31×46					
3697	220-170	24×22×18					
3698	220-170	31×25×31					
3699	220-170	31×28×46					
3700	欠番						
3701	欠番						
3702	325-175	43×40×56					
3703	欠番						
3704	330-170	33×32×33					
3705	330-170	32×30×41					

第35表 ビット一覧表 (15)

## 第9節 埴輪

### 1. 埴輪の出土状況

埴輪片は、2・3号住居、3・4・16～22・24～31・33・34・37・38・41～43号溝(25・26・28・29・37・38号溝は推定東山道駅路の側溝)、1208・2470・2509・2559・2589・2716号ピット、1号井戸、33・34号土坑や表土から出土した。

遺物は特に推定東山道駅路北側側溝のX=36355、Y=-40130～-40140付近(26号溝)に集中している。このほかには、19号溝、22号溝、34号溝、38号溝、43号溝から比較的多くの埴輪片が出土している。推定東山道駅路の側溝の規模は、概ね幅1～2m・深さ50cm程度であるが、埴輪片が集中して出土した推定東山道駅路北側側溝のX=36355、Y=-40130～-40140付近は幅550cm・深さ80cmと幅広く、深い。この部分は底面から北側側壁が、抉り取られるように掘削されており、推定東山道駅路廃絶後に土取りが行われた個所であったと推測されている(第7節参照)。埴輪片は、遺構の覆土であるAs-B層下層の最大厚40cmを測る黒褐色土層中に大量に含まれており、土取りで抉り取られた窪みに土砂とともに廃棄されたと推測される。埴輪片が多く出土した地点の周辺に、古墳を確認することはできなかった。

掲載遺物の出土位置については観察表に、掲載外の埴輪片については円筒埴輪と形象埴輪に分類し、出土遺構ごとに重量を計測し、第36表に示した。

### 2. 出土埴輪

本項には円筒埴輪129点、形象埴輪72点に番号を付して掲載した。円筒埴輪は普通円筒、朝顔形円筒の順に、形象埴輪は、家形埴輪、器形埴輪、人物埴輪、馬形埴輪、器種不明の埴輪の順に提示した。これらの資料の中には同一個体をなす複数の破片に独立した番号を付した資料もあり、埴輪個体数とは直接連動していない。掲載外の埴輪は重量を測り、第36表にまとめて示した。

円筒埴輪は器形を実測し、器面の調整については拓本により表現した。形象埴輪については外面の形状意匠について写真実測により素図を作成、これを基に細部の修

正、補足をおこない、実測図を完成させている。

### (1) 円筒埴輪

円筒埴輪は、普通円筒埴輪111点、朝顔形埴輪18点(可能性ある資料も含む)を資料化掲載した。

全体形状を知り得る資料は、1～3のわずか3例であった。これは、埴輪の出土状態が古墳の周堀や墳丘付近からの出土ではなく、移動が激しかったことが要因としてあったようである。

第36表 掲載外埴輪出土遺構一覧

出土遺構	形象埴輪(g)	円筒埴輪(g)	合計 (g)
2号住居	0	65	65
3号住居	0	35	35
3号溝	0	20	20
4号溝	135	610	745
16号溝	215	560	775
17号溝	20	0	20
18号溝	70	520	590
19号溝	650	2,555	3,205
20号溝	280	960	1,240
21号溝	40	510	550
22号溝	1,750	7,390	9,140
24号溝	0	5	5
25号溝	0	210	210
26号溝	14,000	17,730	31,730
27号溝	480	20	500
28号溝	110	95	205
29号溝	60	75	135
30号溝	0	100	100
31号溝	35	0	35
33号溝	0	110	110
34号溝	750	1,320	2,070
37号溝	0	160	160
38号溝	1,000	6,740	7,740
41号溝	75	0	75
42号溝	150	430	580
43号溝	460	10,270	10,730
1号井戸	0	410	410
33号土坑	0	50	50
34号土坑	0	50	50
P1208	0	40	40
P2470	0	10	10
P2509	0	50	50
P2559	0	10	10
P2589	0	20	20
P2716	140	0	140
Ⅱ区	6,000	16,975	22,975
Ⅲ区	200	2050	2,250
Ⅳ区	0	50	50
調査区内	3,210	5,510	8,720
合計 (g)	29,830	75,715	105,545

### 第3章 調査の成果

普通円筒の形状は2者に大別できる。ひとつは1に代表されるように基底部から口縁部に向かって徐々に直径が大きくなる形状を呈し、口縁部が短く外反するものである。1は4条5段構成であるが、同じ形状でも2に代表される3条4段構成、3に代表される2条3段構成の資料も認められる。

一方、4に代表されるように基底部から胴部に至るまで直径がほとんど変化することなく全体形状が寸胴で、口縁部のみ短く外反するものもある。4は3条4段構成以上である。

前者が主体的な存在で、後者が客体的である。後者は4以外に17・18がこの形状である可能性がある。

完存する資料から知り得る各部位の法量は、器高43.3～53.1cm、口縁部径23.0～29.5cm、底径13.3～17.0cmである。これらは、基底部から口縁部に向かって直径が大きくなる形状の円筒埴輪であるが、基底部から胴部に至るまで直径がほとんど変化することなく、口縁部のみ短く外反する4の器高は、基底部以下が欠損して

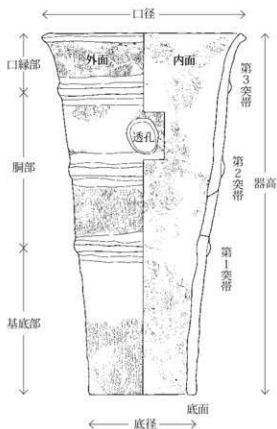
いるにもかかわらず、52.9cmあり、前者の形状より器高が高いと考えられる。

完存する円筒埴輪の各段の高さについて比較してみると、基底部の高さが15.5～22.3cm、胴部1段の高さが9.3～11.5cm、口縁部の高さが6.0～12.0cmである。口縁部の高さが胴部より短いか、ほぼ同じであるのに対し、基底部の高さは胴部の1.7～2.0倍となっている。基底部の伸長化が目立つ。また、4の胴部の高さは各段とも14.0cm以上あり、1～3の胴部の高さより高い。

口縁部は外反して立ち上がる形状である。口縁部は2段に稜が表れるほどに強く撫でたものがほとんどである。中には5に代表されるように口縁部先端のみ撫でるものもある。これらの口縁部の形状は外反が弱い。

基底部は粘土板一枚を丸めて基部とすることから成形が開始されているものがほとんどである。その痕跡は36・50などの剥離面で明瞭に確認される。基部粘土板の高さは36では明らかではないが、50では16cmである。43・45のように、中には粘土紐を輪積みして成形したものも確認される。ここで円筒埴輪の基底部として掲載したものの中には、形象埴輪の基部の可能性があるものも含まれている。43・45の径は20.0～22.0cmと小径で、形象埴輪の基部であることも考えられる。

突帯は、総じて発達度合いが弱いものであった。25・66に代表されるように、粗雑なものや歪みのあるものが目立つ。突帯の幅は、下幅1.5～2.5cm、上幅0.5～1.2cmである。高さは0.3～1.2cmが中心である。突帯の断面形状は、台形(台)、M字形(M)、三角形(三)に分類した。前2者は上側の稜が下側よりも高いものを(1)、上下の高さが均衡するものを(2)、下側が上側よりも高いものを(3)に細分でき、分類は台1、台2、台3、M1、M2、M3、三の7細分した。掲載遺物の中では、台1が26点、台2が15点、台3が3点、M1が31点、M2が16点、M3が3点確認できる。一個体内で異なる形状の突帯のものもあり、1は第1・第4突帯が台1、第2・第3突帯がM1の組み合わせである。その他には17が台1と台2、37が台1とM1、45が台1と三、49がM1と台2、124が台2と台3の組み合わせと、一個体内で異なる形状の突帯が見られ、突帯貼付の作業に細かな配慮が必要とされなかったことがうかがえる。透孔は1段に2孔が対向する位置に配置されていた。全体



第150図 円筒埴輪の各部位の名称

形状の中における各段の配置は完形品が少ないために検討することは困難であった。その中で2～5が胴部の各段に透孔が配されているのに対し、1が胴部第2段に透孔がない事例があり、強い規格性があったとは言い難い。また、2は上下段の配置関係も、90度ずつ規格性を有して割りつけられているのではなく、若干のずれがある。段間の穿孔位置も1・6・7ではほぼ中央、2・3では中央よりやや下より、5・6・18ではやや下より、4ではほぼ中央と上よりが混在するなどしており、規格性に欠けている。透孔の形状は円形の1種類である。円形を志向するものの正円の形状は少なく、縦長、あるいは横長に変形、歪んだものが多い。透孔の切り込みは刀子状の工具でおこなわれており、切り込まれた面はそのまま、特段ナデ等による補正を加えていない。

胎土は、砂粒の混入量に差異が見られた。これは原料の性質というよりも混和剤として意識的に砂礫の混入量が増減されているように見える。混入物には粗砂粒、細砂粒、赤色粒、凝灰岩・チャート・石英・角閃石などの礫、重角礫を含んでいた。特に馬形埴輪161は他の資料と比較して礫・砂粒を多く含んでいるように見える。

器面の色調は、赤褐色・明赤褐色・橙色・にぶい橙色・黄橙色・にぶい黄橙色・灰色を呈する。

焼成は全体的に良好で、概ね硬質であった。中には45のように、色調が灰色味を帯び、還元焰焼成状態を呈する不良品が少量含まれていた。焼成技術が不安定な状況下で製作された製品が供給されていたことが知られる。

器面の調整としては、外面はそのほとんどすべての資料が、一次調整のタテハケであることが上げられる。口縁部の先端はタテハケ後、最後にヨコナデを加えているものが大半である。中には5に代表されるように口縁部先端のみ撫でたため、先端までタテハケが残るものが見られる。器面にはハケメの開始に伴う工具痕を観察することがまれであることから、その多くは段間を通して工具が動き、上下のハケメの重なりは、突帯やその貼付に

際して施されたヨコナデと重複しているものと考えられる。4には上下のハケメの重なりが中央の突帯やや下位の一部に見られる。

ハケメの調整に使用された工具は多様であるが木目の密な木板を使用した例が大半である。掲載遺物で、2cmの幅の中の木目の本数は5～27本、平均で約12本である。8・29・55・103・109は、6・5・7・7・7本と特に少ない。また、64・107は20・27本と特に多い。

また、二次調整の可能性があるヨコハケの事例も確認された。口縁部から胴部片である64の外面は突帯の下位はタテハケ、上位はヨコハケが見られる。タテハケ後にヨコハケが施されており、ヨコハケは二次調整の可能性がある。ヨコハケの事例はこれ一つである。

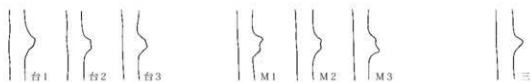
口縁部外面の調整は、口縁部形状の分類の際に記載したとおりである。

内面の調整はハケメと指頭によるナデ調整である。1は第1突帯やや下の底面から約13cmまでがナデ調整、それより上位がハケメ調整である。2は第3突帯やや下の底面から約39cmまでがナデ調整、それより上位の口縁部の内面のみがハケメ調整である。3は第2突帯やや下の底面から約34cmまでがナデ調整、それより上位の口縁部の内面のみがハケメ調整である。4・5のハケメは口縁部の内面のみで、底部が残存していないが、それ以下はナデ調整であると考えられる。いずれも製作の進行に則して、その種類や角度が変化している。ハケメを施した上にナデを重ねているが、胴部内面には部分的に粘土紐の接合痕が消いきれずに残存している面が多くみられ、1・4・5は接合痕の痕跡が顕著に見られる。

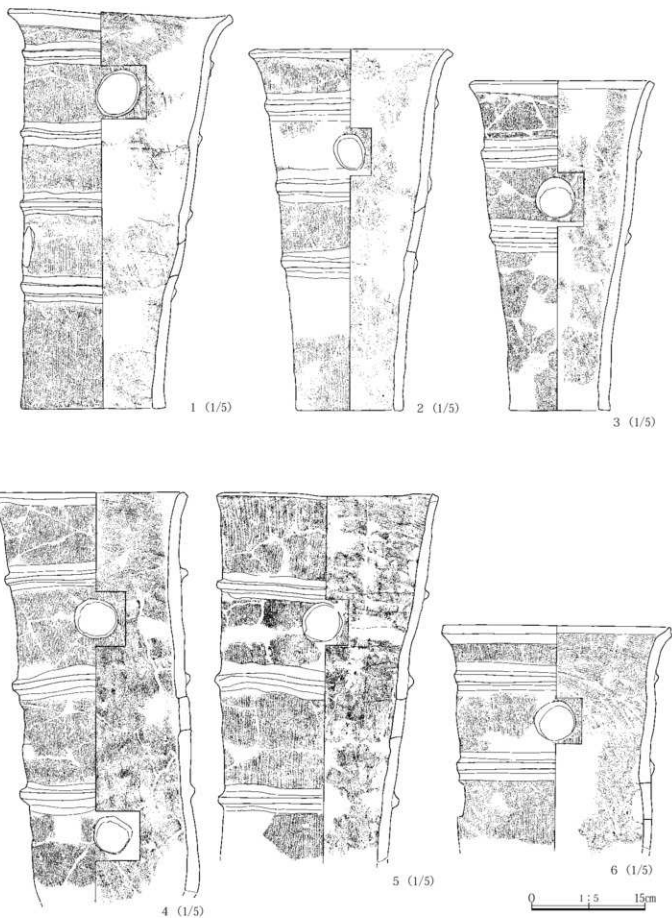
底部調整は確認できなかった。

底面が丁寧にナデられているものは少ない。赤色塗彩については、器面の摩耗・磨滅が著しいものがほとんどであったことから、観察が困難であった。

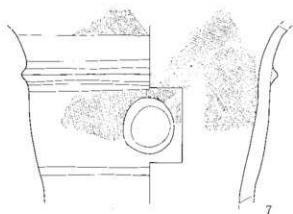
ヘラ記号は口縁部から胴部内外面にヘラ状工具によって施された線刻が見られた。破片資料が多く、空容の把



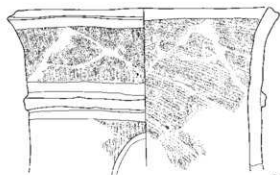
第151図 円筒埴輪の部位模式図（突帯の形状）



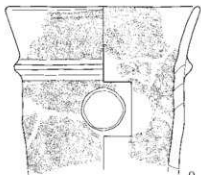
第152図 円筒埴輪 (1)



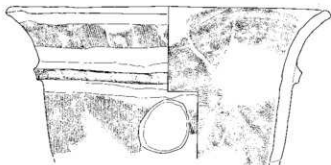
7



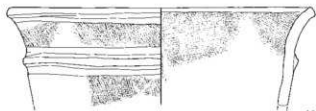
8



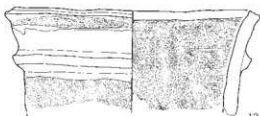
9



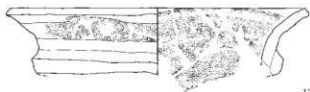
10



11



12



13



14



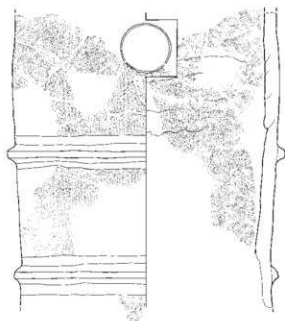
15



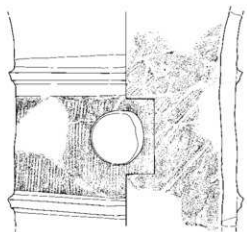
16



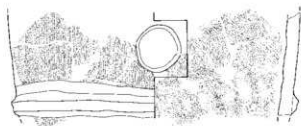
第153圖 円筒埴輪 (2)



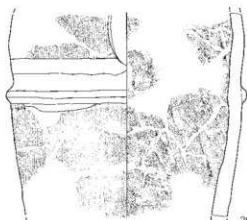
17



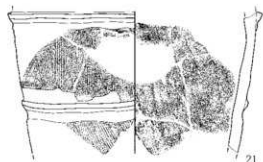
18



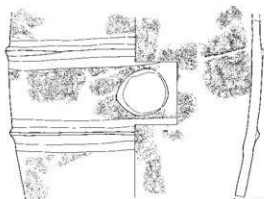
19



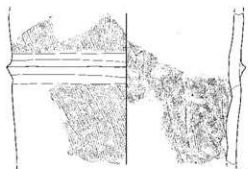
20



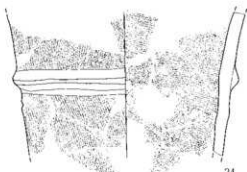
21



22



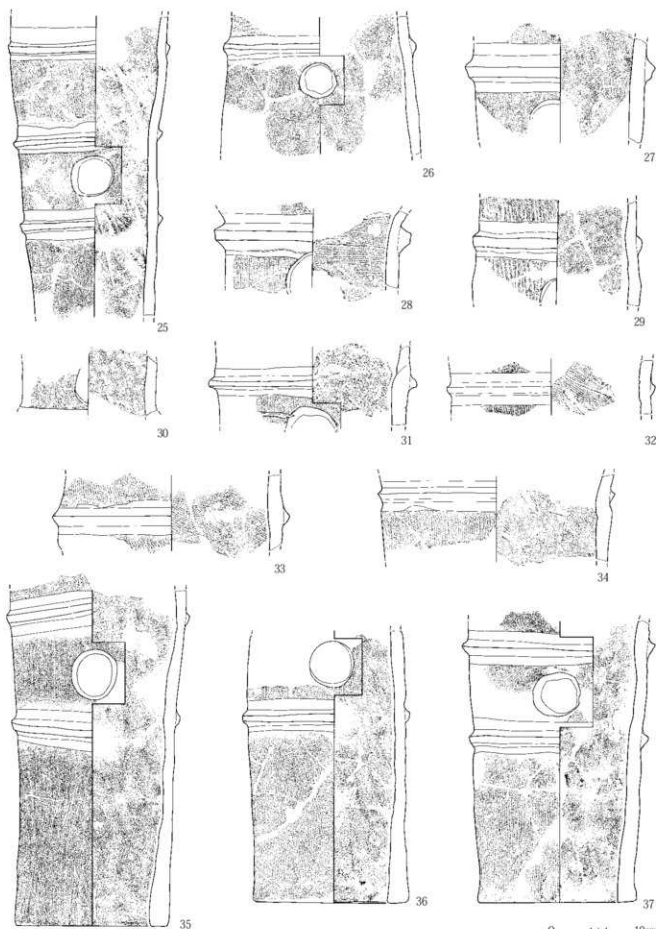
23



24

第154図 円筒埴輪 (3)

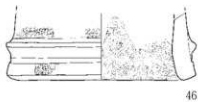
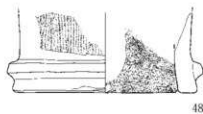
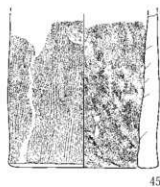
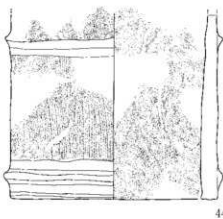
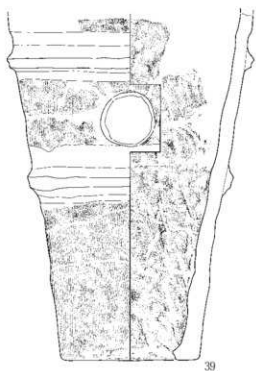
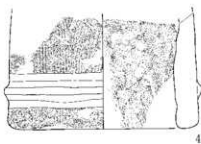
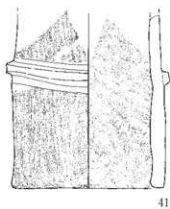
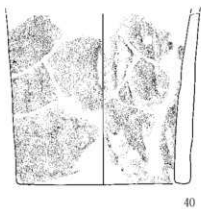
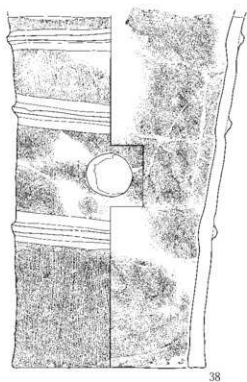
0 1:4 10cm



第155圖 円筒填輪 (4)

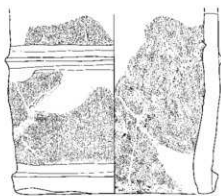
0 1:4 10cm



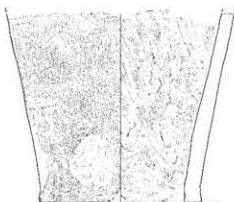


0 1:4 10cm

第156図 円筒埴輪(5)



49



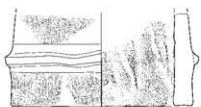
50



51



52



53



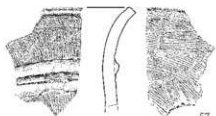
54



55



56



57



58



59



60



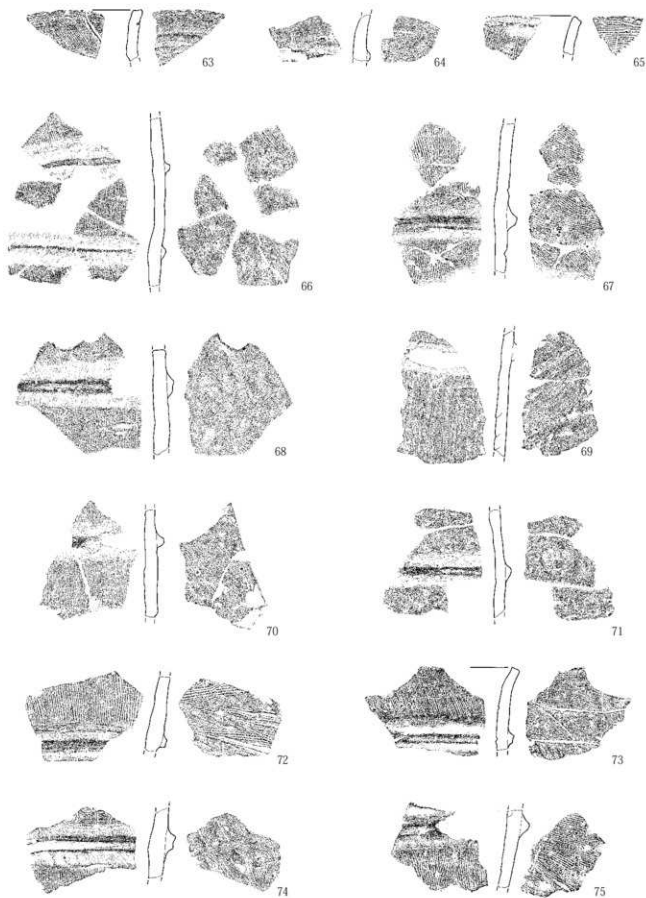
61



62

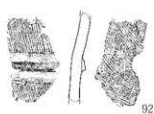
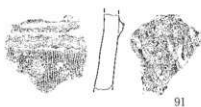
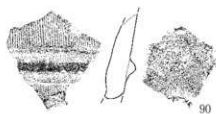
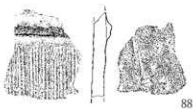
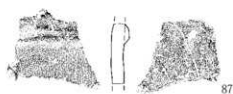
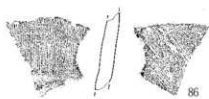
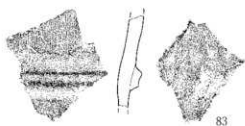
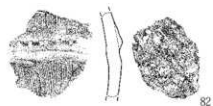
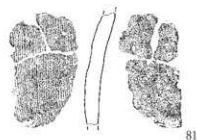
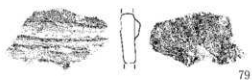
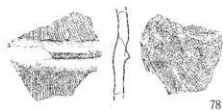
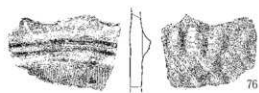
第157圖 円筒埴輪 (6)

0 1:4 10cm



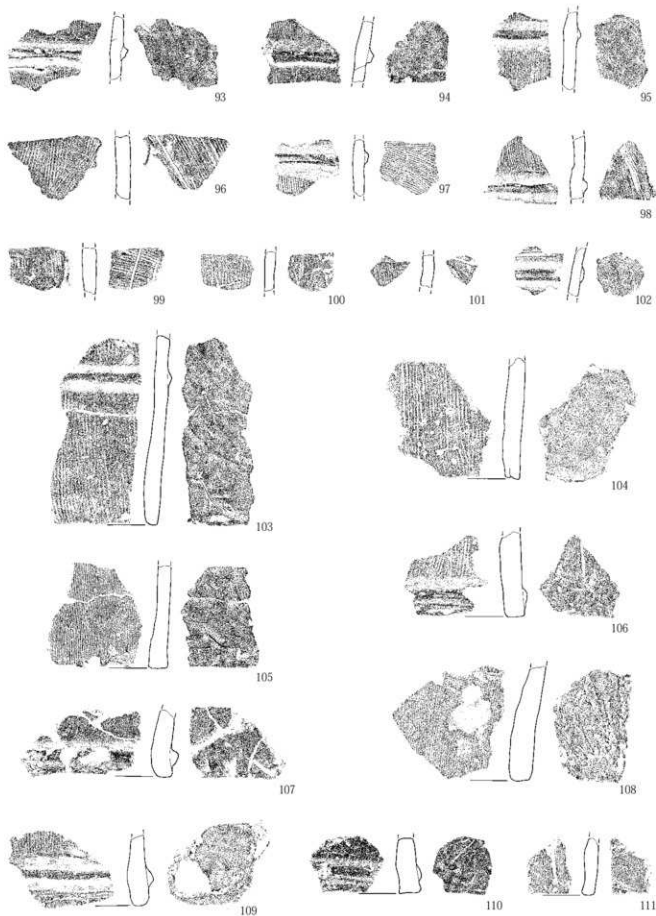
第158図 円筒埴輪(7)

0 1:4 10cm



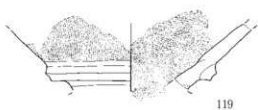
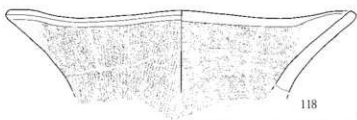
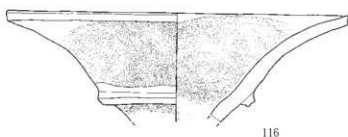
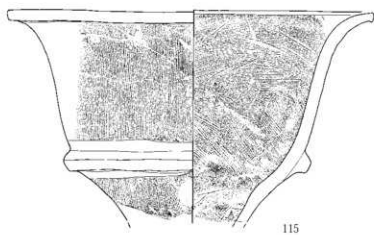
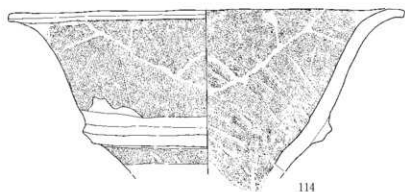
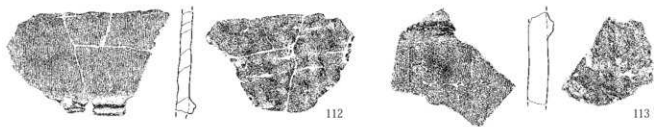
第159圖 円筒埴輪 (8)

0 1:4 10cm



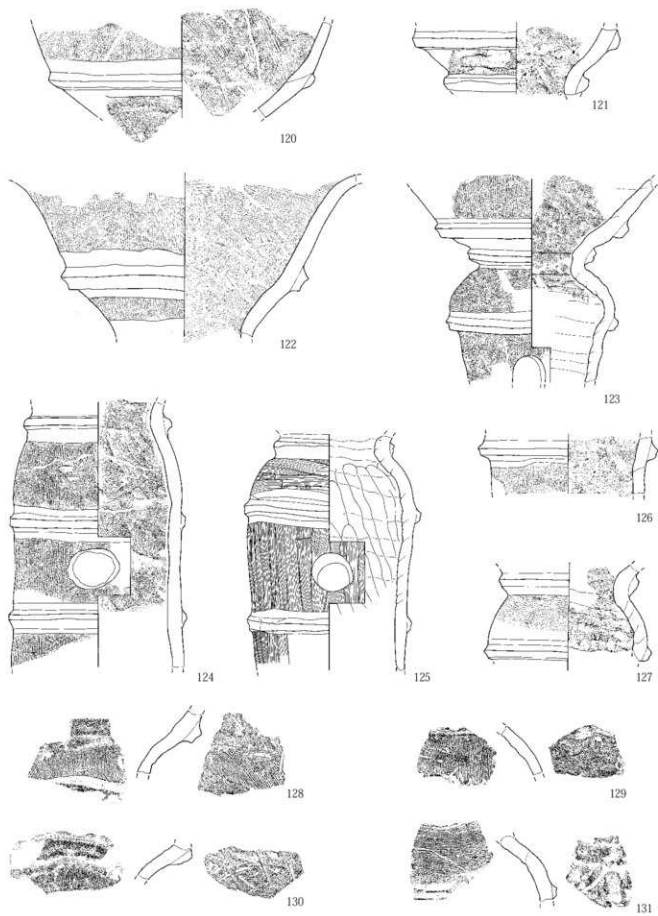
第160図 円筒埴輪(9)

0 1:4 10cm



第161圖 円筒埴輪(10)、朝顔形円筒埴輪(1)

0 1:4 10cm



第162図 朝顔形円筒埴輪（2）

0 1:4 10cm

掘は困難であるが、73は口縁部突帯付近の内面に突帯と平行するように二条の線刻が施されている。

朝顔形埴輪の掲載資料18点のうち、114～127の14点の器形を復元することが可能であった。114～123の10点が口縁部、124～127の4点が頸部から胴部である。

口縁部の形状は2者に大別できる。ひとつは114に代表されるように垂直気味に立ち上がり先端で短く外反するものである。これらは深く径も大きい。114・115・120・122がこれにあたる。

一方、116に代表されるように最初から開き、先端で短く外反するものもある。116・117・119がこれにあたる。残存が一部で、全体の形状が明らかでないものもあった。資料が少なく、どちらの形状が主体的な存在であるか確認することはできなかった。資料から知り得る口縁部の法量は、前者で口径38.3～41.2cm、深さ約18.0～20.0cm、後者で口径35.9～36.0cm、深さ約14～18cmである。口縁部は外面タテハケ、内面ヨコハケを施している。口縁部の先端は、前者の形状が2段に稜が表れるほどに強く撫でたものがほとんどである。後者の中には口縁部先端のみ撫でるものもある。これらの口縁部の外反が弱い。

頸部から胴部の形状が明らかな資料は123～125である。頸部及び肩部と胴部の境にそれぞれ突帯を貼付している。形状は2者に大別でき、123・125は肩部が最も張り出す形状、124は肩部から胴部まで直径がほとんど変化することない形状である。

器面の調整としては、突帯を境にして頸部から肩部にかけてヨコハケ、胴部タテハケであることが上げられる。

ハケメの調整に使用された工具は木目の密な木板を使用した例が大半である。掲載遺物で、2cmの幅の中の木目の本数は10～15本、平均で約12.5本とほかの円筒埴輪と変わらない。内面の調整はハケメと指頭によるナデ調整である。口縁部はハケメによる調整が施された資料も多くあるが、ナデ調整のみで粘土紐の接合痕が目立つ資料もある。胴部は指頭によるナデ調整も弱く、ほとんどの資料で粘土紐の接合痕が消しきれずに多く残存している。117などの口縁部の破片では断面観察から、成形時、疑似口縁を製作する工程が確認された。

## (2) 形象埴輪

本遺跡から出土した形象埴輪の器種としては、家形埴輪、器田埴輪、人物埴輪、馬形埴輪などがある。本項では、器種ごとに順次、実測図を掲載し、観察の概要について記しておく。器田埴輪や人物埴輪の基部を形成していたと考えられるもの、破損後、本体から分離してしまったものについては形象埴輪の基部とし、種類を確定し得なかった形象本体の部分とともに器種不明の形象埴輪として扱い、最後尾に掲載した。個々の観察内容については末尾の観察表を参照されたい。掲載資料は合計70点である。個々の資料に付した番号は円筒埴輪からの通番である。

### 1) 家形埴輪

132～142は、家形埴輪と考えられる。

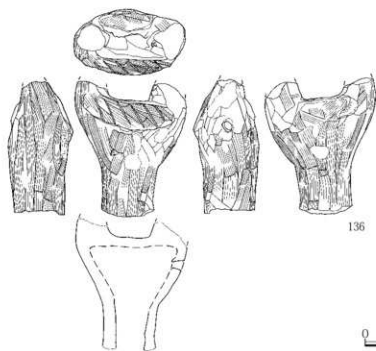
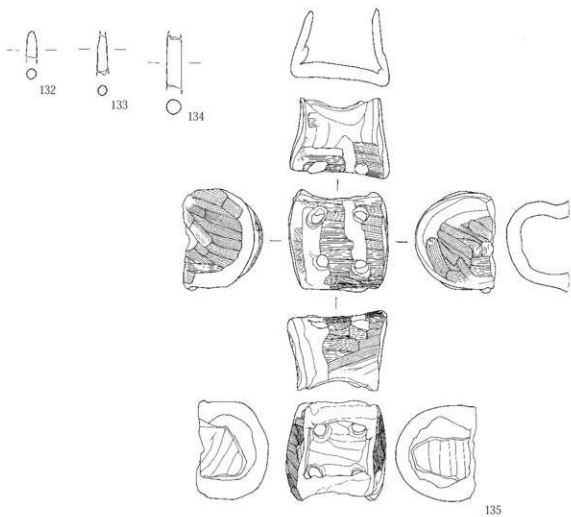
132～136は上屋根の棟頂部とそこに貼付された堅魚木や棟飾りである。135は上屋根の棟頂部を飾る堅魚木である。棟頂部上面に4つの孔が空いており、中空で大型である。132～134は棒状を呈する樹串である。135と同一であるか不明であるが、県内の堅魚木の出土例を見ると堅魚木に刺さる串様の樹串であると考えられる。136は鳥形を呈し、筒状の基部が続いている。小型であるため、棟飾りの可能性が高い。首より上位、足、止まり木などが欠損している。残された片側の羽根は粘土板を貼り、線刻で羽毛を表現している。足や止まり木の痕跡が確認できる。

137は破風板の上部にあたる部分と考えられる。破風板は風字形に粘土板を取り付ける事例があり、破風板の上部、千木に相当すると考えた。

138は組合式入母屋造の上屋根の流れから破風板にかけての下端部片である。破風板の一部が残っており、流れに二重の円文あるいは弧文と考えられる沈線文を施している。

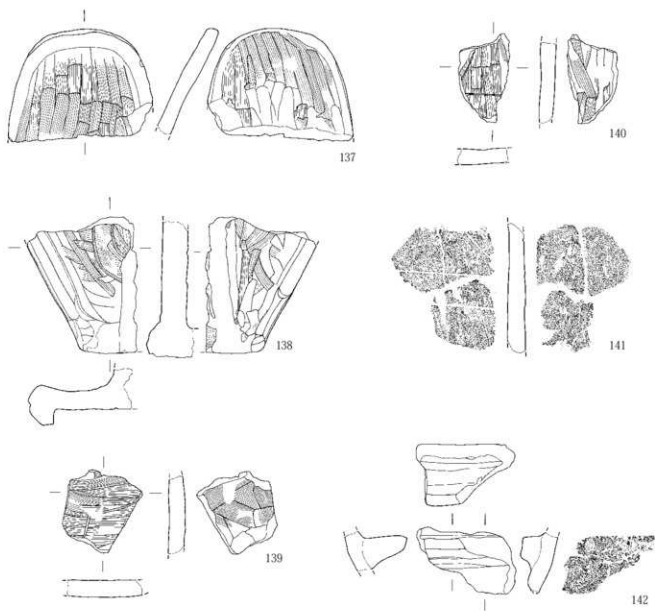
139・140・141は、板状の破片である。3片とも表面に沈線が施されていることから、上屋根の流れの破片の一部であると考えた。139は2条の沈線が直交するように施されており、1条は直線、もう1条は弧状である。140は2条の沈線が施されており、2条とも直線である。141は2条の沈線が平行に施されており、2条とも直線



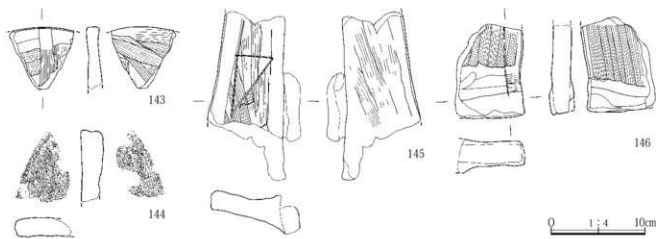


第163図 家形埴輪（1）

0 1:4 10cm

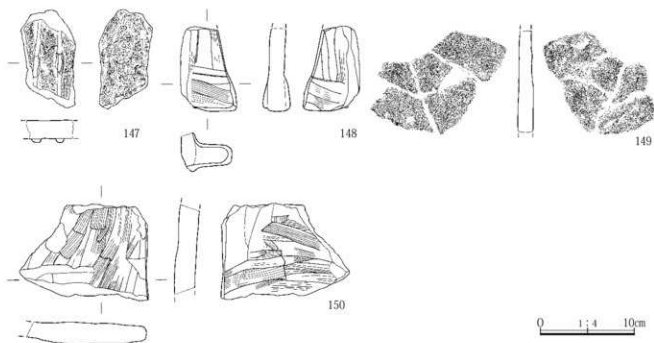


第164圖 家形埴輪（2）



第165圖 盾形埴輪

0 1:4 10cm



第166図 鞍形埴輪

である。

142は組合式入母屋造の下屋根の上屋根受部である。

## 2) 器埴輪

143～150が器埴輪である。器種として盾形埴輪と鞍形埴輪が確認された。

143～146が盾形埴輪およびその可能性が考えられる資料である。いずれも断片的な資料で、全体形状を把握できた資料はない。

143・144は盾面上辺突出部の可能性が高い破片である。周縁は弧状に成形されており、周縁部はナデ調整されている。144は、厚さ等から別の器種の可能性もある。

145・146は盾形埴輪の外区片であると考えられる。145は円筒状の本体から板状の部位が突出していることから盾形埴輪の外区であると考えた。ヘラガキの文様が鋸歯文でない点が一考を要する。146は周縁が直角に成形されており、盾形埴輪の外区下端部片と考えた。最下部には幅2.5cm、厚さ0.5cmの粘土板を貼付して肥厚させている。

147～150が鞍形埴輪およびその可能性が考えられる資料である。いずれも断片的な資料で、全体形状を把握できた資料はない。

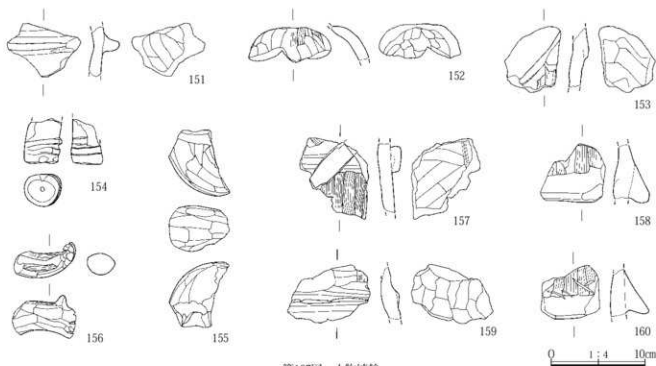
147は矢筒部から突出した矢柄が粘土紐の貼付で表現

されている。鞍表面は表裏ともナデ調整が施されている。148は矢筒部の下板である。最下部には幅3.0cm、厚さ0.5cmの粘土板を貼付して肥厚させている。149は円筒状の本体に2本一体の沈線が施されていることから、鞍の円筒部の可能性が高い。150は鞍の上板である。

## 3) 人物埴輪

151～160は人物埴輪の一部と考えられる。いずれも小破片であった。

151は、貼付された突帯が小径であり、発達の度合いが高いことから、人物埴輪の帽子の一部であると考えられる。152は、頭部の破片と考えられる。頂部がわずかに開放しており、女子の髪が乗っていた可能性がある。153は、顔面の一部である。左頬部であると考えられる。154は、棒状の粘土塊に細い粘土紐が2条貼付されていることから、飾り紐で束ねた下げ美豆良の端部片であると考えた。155は、胴部と接合する柄状の突起が破面に観察できることから人物埴輪の二の腕である。調整の具合から、右腕の可能性が高い。156は、人物埴輪の右手である。親指が残存しており、4指は欠損している。157・159は人物埴輪の腰部片である。突帯がめぐり、腰紐を表現したものと思われる。157には粘土板が貼付されており、鎌の可能性もある。159は表面に一部剥離が



第167図 人物埴輪

見られる。158・160は半身表現の人物埴輪の上着裾部破片である。破片が小破片で識別ができなかったが、1破片で1個体の可能性がある。

#### 4) 馬形埴輪

161～194は馬形埴輪と考えられる。馬形埴輪は個体の復元を行った161を中心に事実記載を行う。

161は、飾り馬である。たて髪・両耳の上位、鞍の前輪と後輪の一部、左前脚下半、装飾の一部、尻尾の先端などが欠損していたものの、残存状況は良好である。脚下端から残存するたて髪までの高さ $98\text{cm}$ 、鼻先から残存する尻尾の端部までの長さ $96\text{cm}$ である。

復元作業は胴・腹部内面の調整状況を図化するために、胴部の接合を優先させ、4本の脚の付け根部分と胴部の接合に進んだ。

頭部は口先から耳の付け根までの距離が $29.5\text{cm}$ である。両耳の上位、右目の上半などが残存していなかったために後補した。頭部の成形は内面の観察から、円筒状の本体を製作、これに板状の粘土板を貼付して頬骨を表現している。下顎の下面には径約 $5.8\text{cm}$ の円形の穿孔がなされている。口先は円筒状に開放されており、側面からみると粘土板に斜めに線刻して上顎と下顎を表現している。

目は、長径 $2.3\text{cm}$ の横長の孔を穿ち、外側には高まり

を設け、まぶたの膨らみを写実的に表現している。孔は工具で切り込まれた後、指先で調整されている。

耳は、筒状に成形したものを頭頂部に穿孔して差し込んでいる。外面は頭頂部から耳の先端部に向かって丁寧なハケメ調整が施されている。

鼻は、 $1.8\sim 2.0\text{cm}$ の円形の穿孔により、表現されている。外面から内面に向かって斜めに切り込んでおり、外面の径の方が内面の径よりやや大きい。切り込みは刀子状の工具でおこなわれており、切り込まれた面はそのままで、特段ナデ等による補正は加えていない。

面繫は幅約 $2.5\text{cm}$ の粘土帯を貼り付けて、厚さ $0.7\sim 1.0\text{cm}$ 前後肥厚させている。鼻革・頬革・項革は厚さ約 $0.7\text{cm}$ であるが、額革だけ約 $1.0\text{cm}$ と厚手である。鼻革・額革にはそれぞれ中心に径 $3.0\text{cm}\cdot 3.8\text{cm}$ の円形の粘土板で表現したボタン状の飾りが一つずつ貼付されている。また、鼻革と頬革、額革と項革の接合部分には径 $5.0\text{cm}$ の粘土板で辻金具が表現されていた。円形の円盤の中心には径 $1.3\text{cm}$ の円形の小さな粘土板をさらに貼付して金具を写実的に表現している。左頬側の頬革と辻金具は欠損していたので、右頬側を参考にして復元した。引手金具の轡側は欠損している。頸側は先端を丸く曲げて環状の壺を表現している。轡側の先端は頸側と同様に後補し、神保下條遺跡2号古墳出土の馬形埴輪の出土例などを参考にS字状の引手金具に復元した。轡は幅約 $1.0\text{cm}$ 、厚

### 第3章 調査の成果

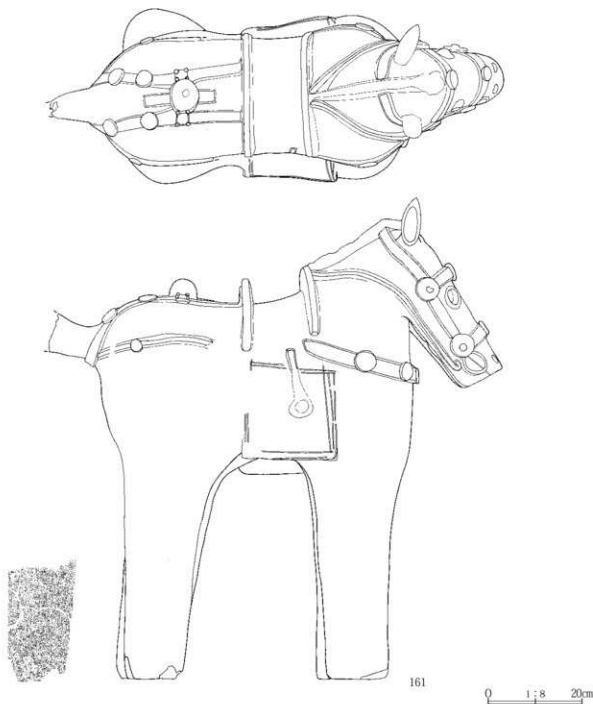
さ0.3cmの粘土帯を内径4.5cmの環状に貼付して肥厚化することにより表現している。

たて髪は厚さ約2.0cmの粘土板を貼り付けて表現している。額は根元から、頭頂部から首のたて髪は上半が欠損している。額の剝離面に、頭頂部と額のたて髪を分断するような切り込みがある。両面とも縦位にハケメを施している。

首はほとんどない。頭頂部から鞍の前輪まで20cmであ

る。

胸部には径5.0～5.5cmの円形の穿孔が施されている。切り込みは刀子状の工具でおこなわれており、切り込んだ後に軽いナデ補正が加えられている。胸繫は幅2.8～3.2cm、厚さ約0.9cmの粘土帯を貼り付けて表現されている。胸繫は胸部から鞍の前輪に向かって施されている。左側の端部は欠損していたために、右側を参考に補正した。胸繫には径3.0～4.5cmの円形の粘土板で表現した



第168図 馬形埴輪 (1)

ボタン状の飾りが5点貼付されている。ボタン上の飾りの大きさには規則性があり、喉下の中央が径3.0cmと最も小さく、側面になるに従い、左右対称に径3.5cm、4.5cmと大きくなる。厚さも径に連動して、0.7～1.0cmの間で側面になるほど左右対称に厚くなる。

鞍本体は、馬体本体と同一の粘土帯から形成されている。前輪と後輪の鞍金具は、三日月形の粘土板を胴部に直立ぎみに取り付けて表現している。前輪は横幅25cm、高さ4.5cm、後輪は横幅23cm、高さ5.0cmを測り、両者の間隔は11cmである。ともに器面にはハケメ調整がなされ、縁辺部にはナデ調整が施されている。

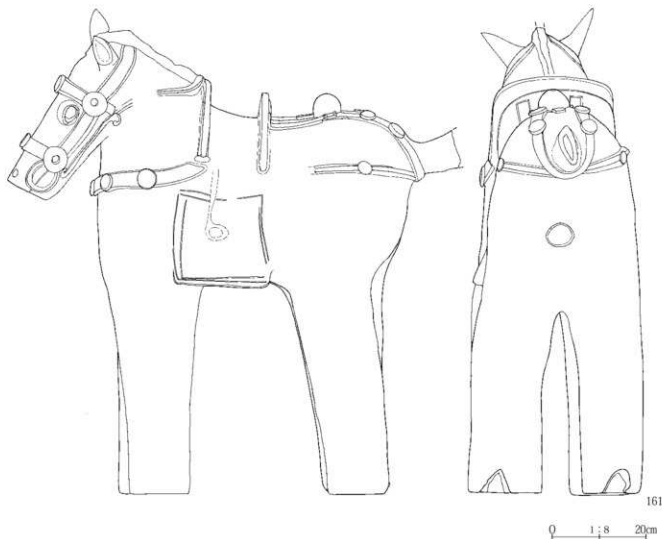
鞍の前輪寄りの右側部には、銜轡を表現している1本の細い粘土紐が鞍位に垂下している。端部は欠損しているが、障泥には剥離痕が残存している。銜轡の先には外径4.5cm、内径1.0cmの環状の剥離痕があり、剥離痕から

輪銜を表現した粘土帯が付着していたと、考えられる。左側面は、銜轡を表現した粘土帯が剥離したと考えられる痕跡が残存するが、輪銜が想定される位置は欠損している。

障泥は、側縁に2本一単位の沈線を施して、区画を表現している。下端は粘土板を本体に貼付することにより、胴部から垂下した部分を表現している。

背中の中央には雲珠が表現されている。これは直径6.0cmほどの半球状の鉢部に、釘止め表現の脚部が2か所付いている。半球状の鉢部の頂部には剥離痕があることから、鉢部には突起の表現が施されていたと考えられる。鉢部の前後には短い繫状の飾りが付く。

尻繫は、尾尻を巻くように2本の粘土帯で表現されている。1本は背側方向に、もう1本は胴部側面を横断するように取り付けられている。前者は、中央が雲珠の釘



第169図 馬形埴輪(2)

止めによって固定され、端部は後輪に取りついている。粘土帯は幅2.5cm、厚さ0.5cmほどで、ハケメ調整が施されている。雲珠の止めと尾尻の間には径3.4～3.8cm、厚さ0.5～0.7cmの円形の粘土板で表現したボタン状の飾りが4点貼付していたと考えられる。右尾尻側の飾りは剥落していたが、後補した。雲珠側の左右の飾り2点が、径3.4cm、厚さ0.5cmと同じ大きさであったことから、剥落していた飾りは、左尾尻側の飾りと同じ大きさの径3.8cm、厚さ0.7cmに復元した。後者の粘土帯は、尾尻を巻いているが、端部は後輪まで達していない。粘土帯は前者より細く、幅1.0cm、厚さ1.0cmほどである。器面に砂粒の動きが観察され、粘土帯貼付中のナデの後、特段調整などの補正は行われていない。径2.5cm、厚さ0.5cmの円形の粘土板で表現したボタン状の飾りが、側面に2点、左右対称に貼付されている。

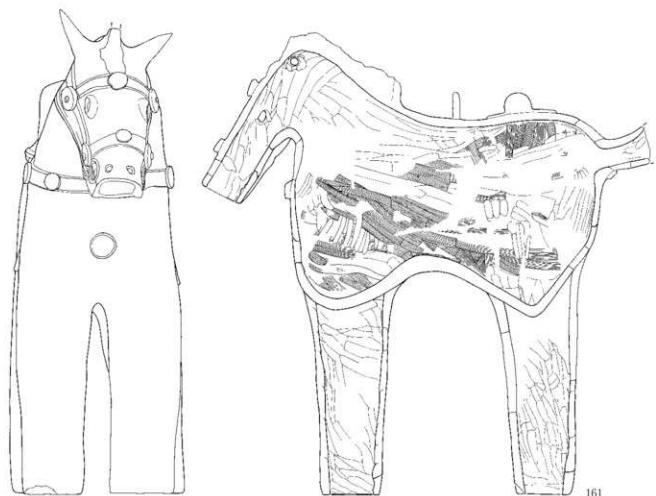
尾尻は先端が欠失しているが、残存部分では中空の状

態である。

尾尻の下位には径5.2～5.5cmほどの穿孔が施されている。胴部の穿孔は、前述した胸部の穿孔と合わせて2か所ある。穿孔後にナデ調整が丁寧に施されており、外面側、内面側それぞれを調整しているため、穿孔の縁部の断面がくの字状になっている。

脚部は、左前脚下半が欠損していたものの、それ以外の3脚は付け根から脚先までの大部分が残存していた。左前脚下半部は、他の3脚に合わせて後補した。脚部は前脚41.0cm、後脚40.0cmを測る。前後の脚間は左側43.0cm、44.0cmである。左右が、前脚19.0cm、後脚25.0cmである。脚部の太さは、下から上に向かってやや太くなり、脚先で13.0cm、付け根付近で18.0cmを測る。脚の後方に、逆V字形の切り込みがあり、蹄を表現している。肢間には性別を判断する痕跡は確認できなかった。

脚部の外面は全体に縦方向のハケメ調整が施されてい



第170図 馬形埴輪(3)

る。内面は底面から7.5～11.5cmまで基部を成形し、その後は粘土紐の巻き上げを行っている。内面には縦方向のナデが残る。このナデは脚先から付け根まで及んでおり、胴部と付け根部分にはハケメ調整を残している。

腹部は前後にアーチ状をなしている。器内の厚さは2.0～4.0cmと、他の胴部と比べて内厚である。

内面の調整は、腹部中央が左右方向に向けてハケメが充填され、胴部側面の調整はナデとハケメが認められる。工具は粘土紐の積み上げと直交あるいは交差する方向に動いている。腹部成形後、胴下半部は脚部成形と同様、横方向に粘土を積み上げており、尻部付近にも水平方向の輪積み痕が残っている。尻側から鞍側に向けて横方向のナデが施されており、背中部の成形が通例のように粘土紐を胴部下半の上に左右方向にブリッジ状にかけわたしていたことが想定される。観察の上では背中部から尻部分には最後に閉塞したと思われるような痕跡は確認できなかった。

162は耳部小片である。粘土板を筒状に成形し、頭部に差し込んでいたと考えられる。163は頭部左目周辺の破片である。目は、工具により切り込まれた後、指先で調整されている。切り込みの周囲には膨らみをもたせ写実感を出している。面繫の頬草が剥離した痕跡が見られる。164は頭頂部周辺の破片である。両耳の基部、及び、たて髪の一部が残存している。たて髪の前部に飾りの粘土紐が貼付している。165・166は鼻先片である。165は、残存上端に鼻孔の小孔が開いており、表面下位には口を表現した刻みが残存している。円筒状に口先を成形している。166も同様に、鼻孔の小孔が開いており、円筒状に口先を成形している。167は喉付近の破片である。筒状の頭部に頬骨を表現した粘土板の貼付が見られる。手綱と面繫を表現した粘土板の剥離した痕跡が見られる。

168は鞍の後輪である。胴部の本体に三日月形の粘土板を貼り付けて後輪を表現している。後輪の器面はナデ調整が施されており、特別な飾りはない。後方には粘土板の剥離が見られ、鞍金具により2本の繫を装着していたことがわかる。その内側にも粘土の剥離痕が見られることから、尻繫は4本の可能性が考えられる。胴部本体に薄く粘土板を貼り、鞍褥を表現している。端部に刺突を施し、鞍褥端部の装飾を表している。169～173は本体から外れているため不確定であるが、馬装の一部と考

えられる粘土板である。169は端部が生きており、雲珠周辺を飾っていたものと思われる。171は幅が狭く、手綱の可能性が高い。172・173は円形の粘土板で表現したボタン状の装飾である。

174は背中部の大型破片である。後輪が残存している。後輪の後方には偏平な円形粘土板で表現した雲珠に向かう2本の尻繫がX字状に交差して表現されている。175・176は胸部片である。胸繫の一部が残存し、偏平の粘土板で飾られている。177・178は胸部片である。177は残存上部に円形の穿孔があり、切り込みは刀子状の工具でおこなわれており、切り込んだ後に軽いナデ補正が加えられている。左足上部に添付痕があり、胸繫を表現した粘土板が貼付していたと考えられる。179・180は、破片である。181は、粘土塊3点を貼付した破片で、雄の生殖器官を表現したものと考えられる。体部との剥離痕がある。

182から194は脚部またはその破片である。182は左前脚部である。胸繫の一部が残存し、鈴が装飾されている。183は左後脚部である。184は右足部である。前後は不明である。186は脚上部、185・187・188・190～194は脚下部である。184・185・187・193・194の脚後方には逆V字形の切り込みがあり、蹄を表現している。

##### 5) 器種不明の形象埴輪

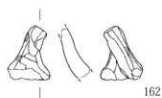
今回の調査において、家・盾・鞍・人・馬が確認されたが、このほかに器種を特定できなかった資料があり、195～199を取り上げた。

195・196は板状の破片である。195は端部を丁寧にナデしている。196は端部に粘土紐を貼付して肥厚させている。裏面の端部の剥離痕から馬形埴輪の陶泥の可能性がある。197は円筒状の破片である。外面の一部に粘土紐が残存しており、その延長には剥離痕と粘土紐を貼付するための刻みが施されている。198は馬の尾尻の可能性もあるが、端部の成・整形が荒く、一考を要する。199は棒状の粘土塊である。両端部が欠損しており、やや弧状に曲がっている。表面に剥離痕がある。

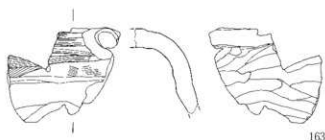
##### 6) 形象埴輪の基部

200・201は形象埴輪の基部と考えられる資料である。円筒埴輪と比較してやや小径で、ほぼ垂直に立ち上がる

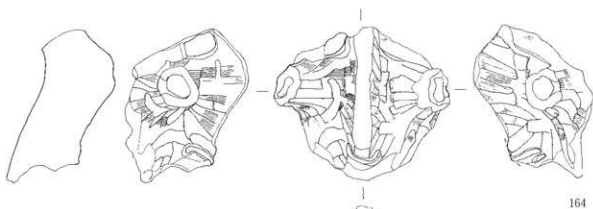




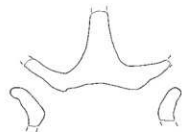
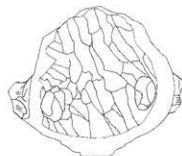
162



163

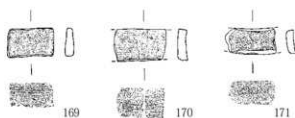
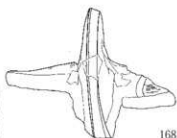
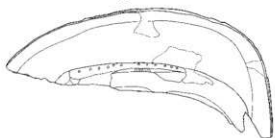
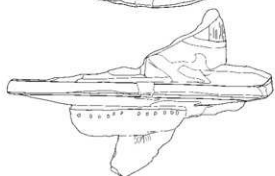
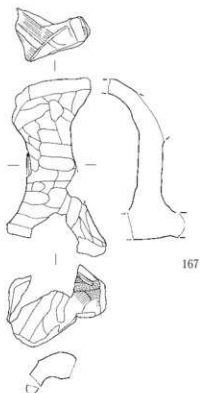
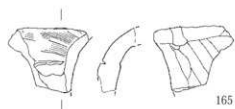


164



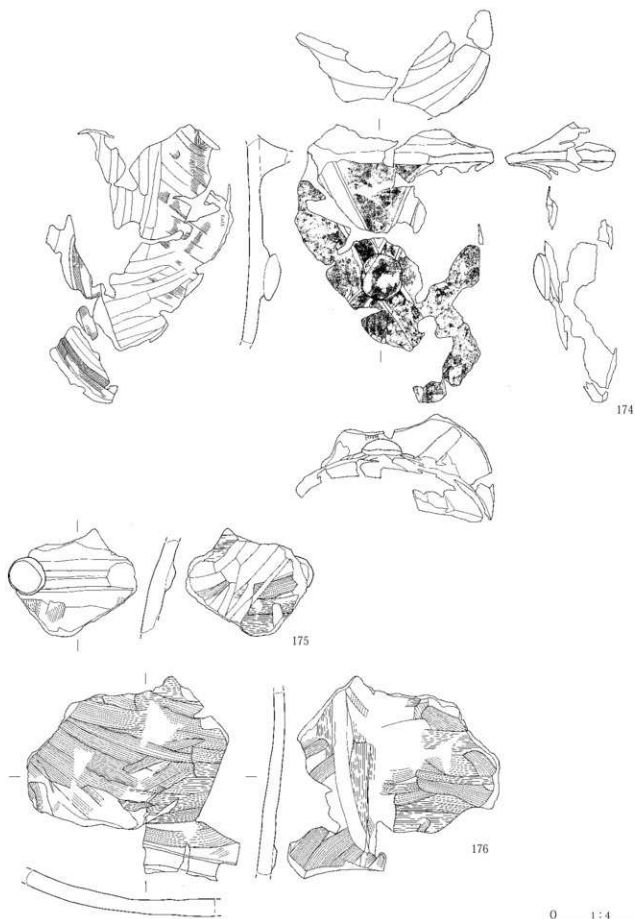
0 1:4 10cm

第171図 馬形埴輪(4)



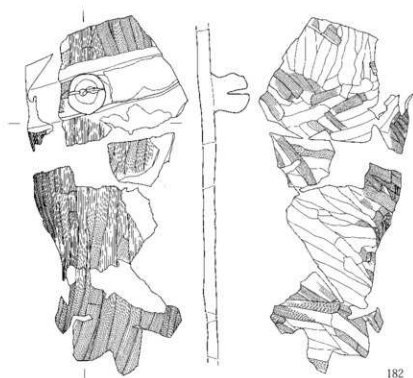
第172圖 馬形填輪 (5)

0 1:4 10cm



第173図 馬形埴輪 (6)

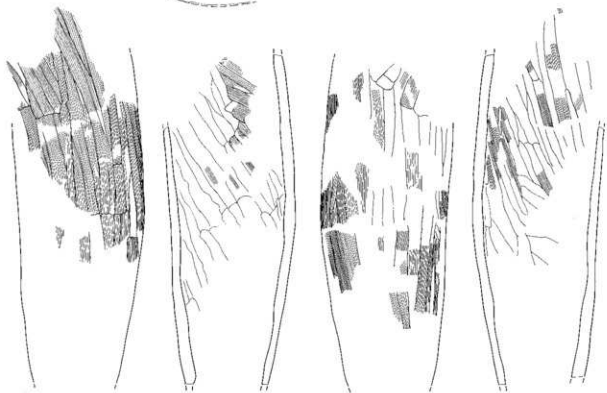




182



0 1:4 10cm



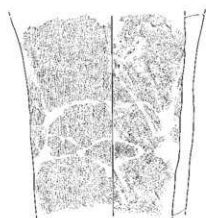
183 (1/5)

第175図 馬形埴輪(8)

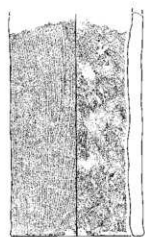
0 1:5 15cm



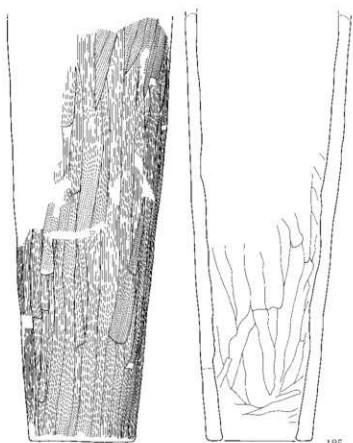
184 (1/5)



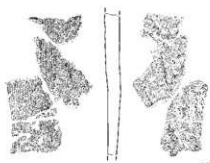
186



187



185



188

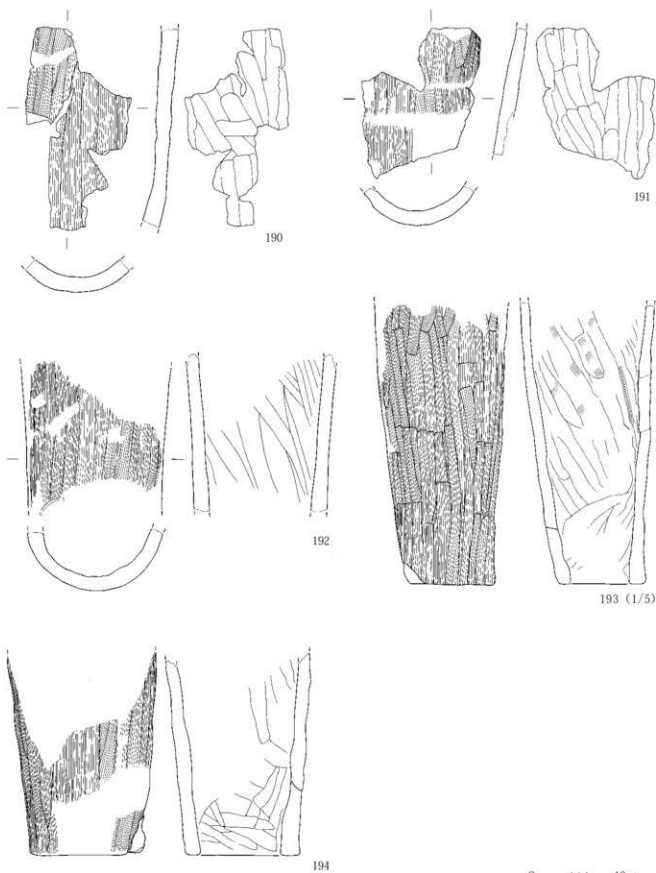


189

第176圖 馬形填輪 (9)

0 1:4 10cm

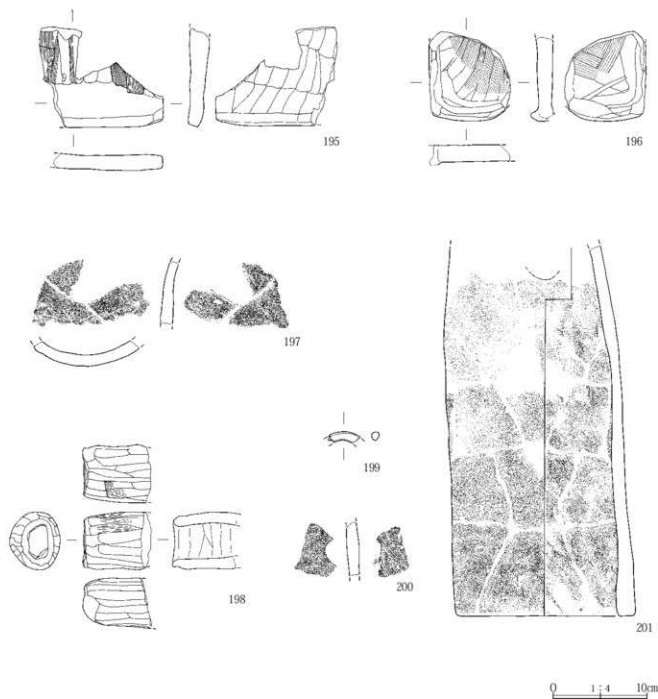
0 1:5 15cm



第177図 馬形埴輪 (10)

0 1:4 10cm

0 1:5 15cm



第178図 器種不明の形象埴輪、形象埴輪の器台部

点が共通する。底面近くの器肉は円筒埴輪よりも薄い。

200は小孔が穿かれており、基部位の透孔周辺の破片の可能性が考えられる。内外面とも縦位のハケメ調整

が施されている。201は残存上位に一对の円形透孔がある。内外面とも縦位のハケメ調整が施されているが、内面はナデでほとんど消されている。



## 第10節 縄文・弥生時代の遺物

本節では縄文・弥生時代の遺物を報告する。この時代の遺物は数は少ないものの、全域から出土している。しかし、同時代の遺構に伴うのは縄文時代の15号土坑の1例のみであり、それ以外は古代以降の遺構、あるいは表土・攪乱から出土していて、基本的には混入の遺物である。そのため、出土した各遺構で個別に報告するよりも、まとめて報告した方が全体の出土傾向を知る上で有益であると判断し、本節でまとめて報告することにした。

縄文時代の土器は236点出土している。その内訳は第37表に示したとおりである。全体の傾向は、中期後葉から後期前葉の出土量が多い。細片も多く、それらは詳細な時期を特定できないが、概ねこの時期に含まれるものと思われる。本節では、15号土坑出土の1点を除いた24点を報告するが、それらは中期後葉～後期後葉を中心として、時代幅は早期から晩期に及び、全体の傾向を反映している。

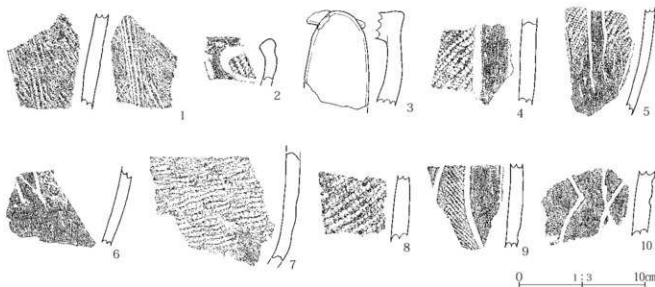
弥生土器は172点で、そのうち掲載するのは44点である。いずれもごく小さな破片なので時期を決定するのは困難であるが、大半は中期前半に属すると思われる。62は時期不明、68は後期樽式と考えられる。25は顔面付土器で、立体表現による「陽顔文」のいわゆる「顔面」である。報告されたものでは群馬県内初例である。茨城県女方遺跡や海後遺跡、小野天神前遺跡例に類似している。

草創期後半燃系紋系	1
早期表裏美面紋系	2
諸磯b（沈線）	1
加曾利E	43
称名寺I	3
称名寺II	21
堀之内I	14
堀之内2	3
後期前半	12
加曾利B	1
安行I	4
晩期	3
縄文・時期不明、細片	128

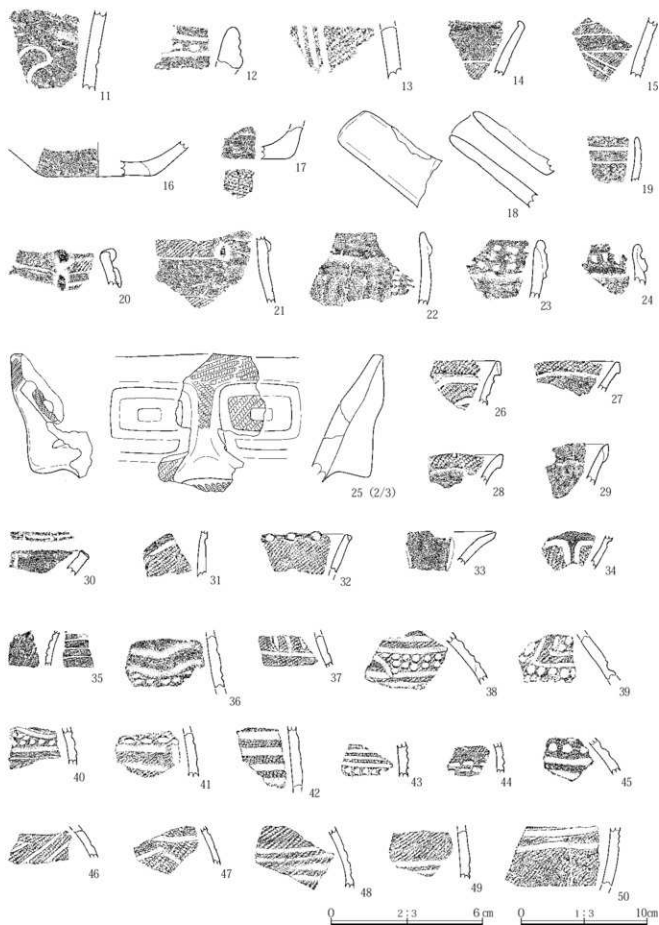
第37表 出土縄文土器分類表

30・35・60・61は北陸系の土器（小松式前後）で、県内での出土としては希少例となる。出土分布をみると、これら44点のうち、38点までがI～2区から出土していて、狭い範囲に集中している傾向が見て取れる。また、壺が、その可能性があるものを含めて34点を占め、さらに顔面付土器も出土していることが注目される。以上のことから、遺跡西側のI～2区の周辺に、遺構は確認できなかったものの、再葬墓が存在した可能性を考えることができるであろう。

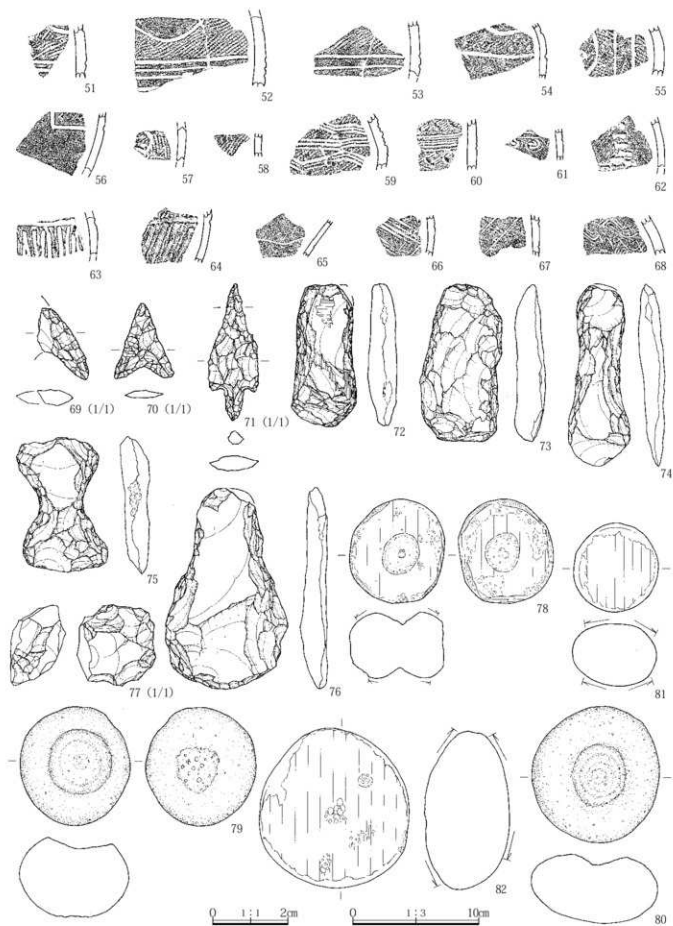
縄文時代と思われる石器は31点であり、本節では14点を報告する。67～69は石礫、70～74は打製石斧だが74は石礫の可能性もある。75は石核、76は磨石、77～80は凹石である。



第179図 縄文・弥生時代の遺物（1）



第180図 縄文・弥生時代の遺物(2)



第181図 縄文・弥生時代の遺物（3）

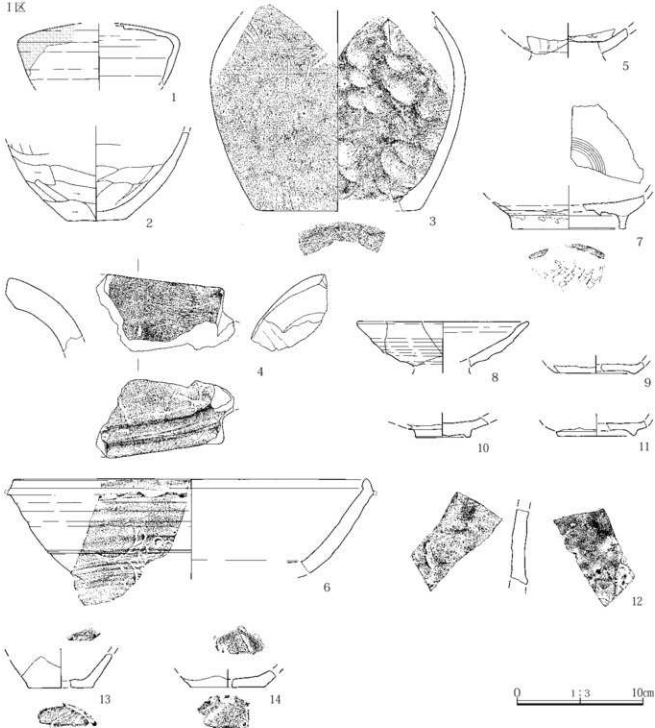
## 第11節 遺構外出土の遺物

本節では表土や攪乱など、遺構外から出土したものをまとめて報告する。本遺跡は遺構面までの深さが浅いところが多かったためか、遺構外からも多数の遺物が出土している。特にⅠ・Ⅱ区に中世以降の遺物が多いのは、

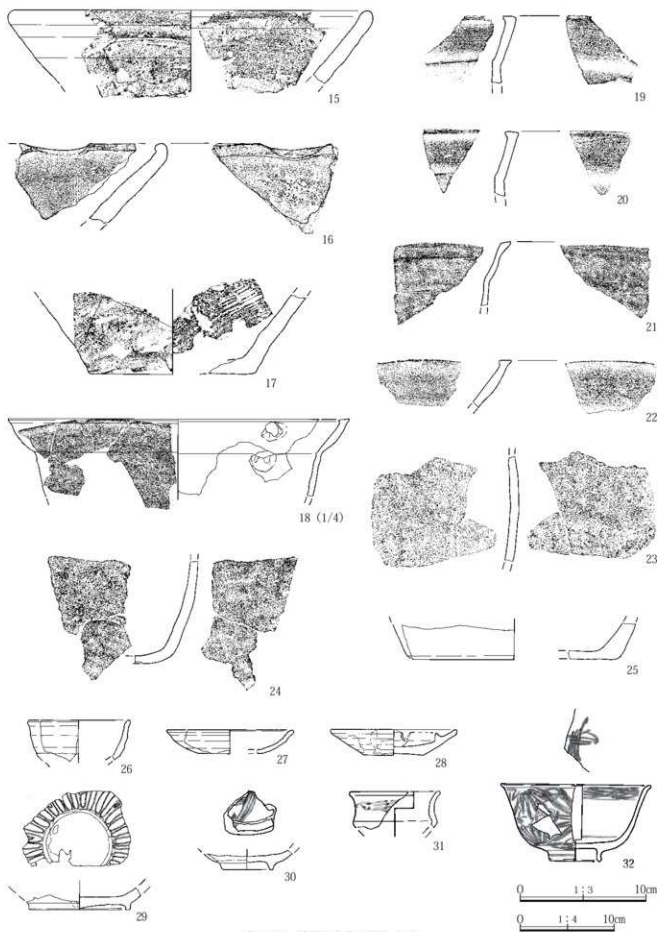
この地区に掘立柱建物が数多く見つっているからである。わずか3点ではあるが、中国の磁器が見つっているのは、それらの屋敷の性格を考える上で興味深い。

本節では大体の出土傾向を示すため、以下、区毎に出土遺物を報告する。

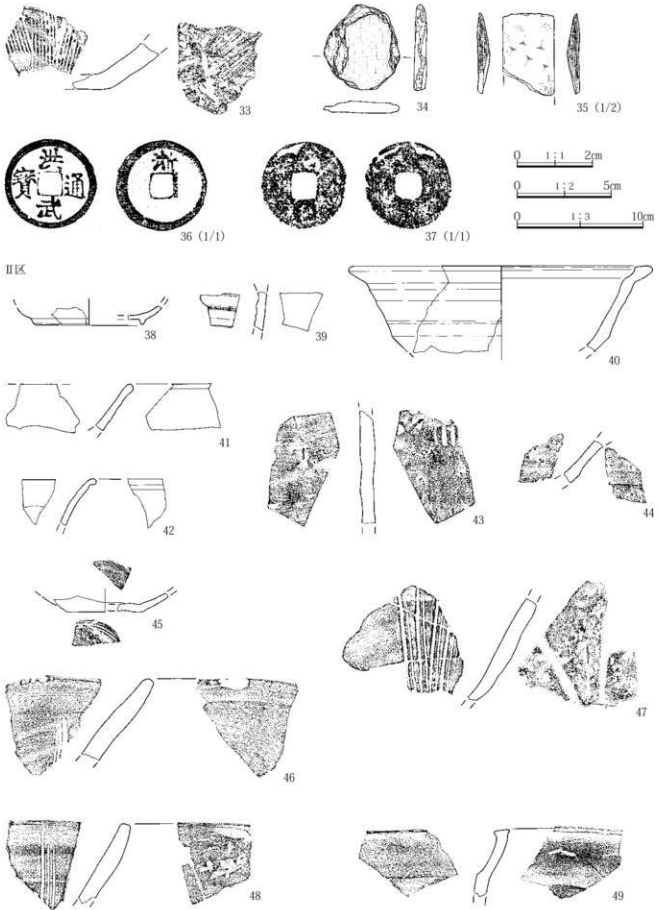
Ⅰ区



第182図 遺構外出土の遺物（Ⅰ）

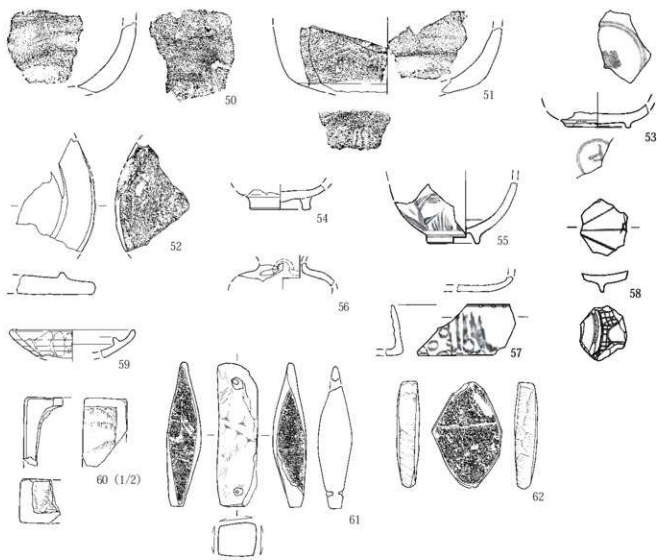


第183図 遺構外出土の遺物(2)

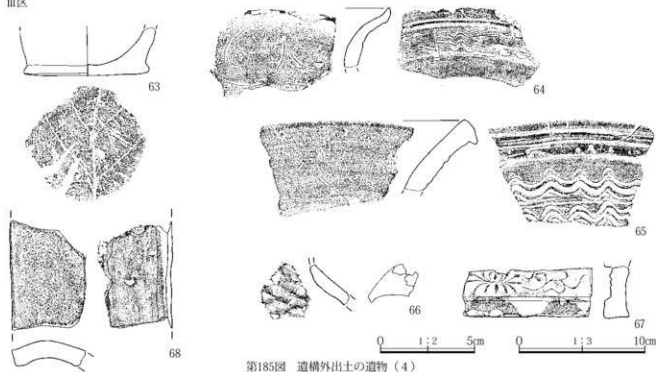


第184図 遺構外出土の遺物 (3)

第3章 調査の成果

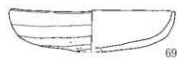


Ⅲ区



第185図 遺構外出土の遺物(4)

IV区



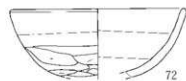
69



70



71



72



73



74



75



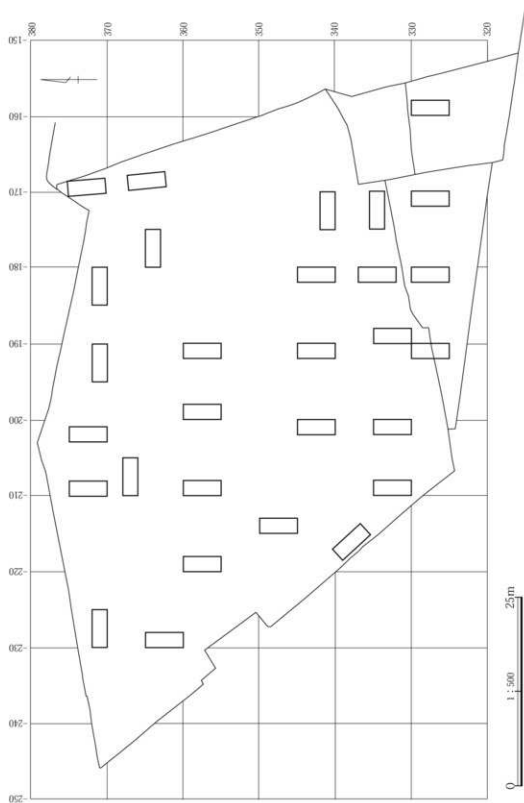
第186図 遺構外出土の遺物 (5)



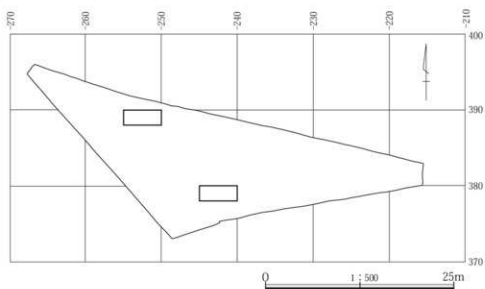
## 第12節 旧石器時代の調査

大道西遺跡の調査対象地全域には、砂質ではあるもののロームが残っていたため、遺構の調査終了後に旧石器

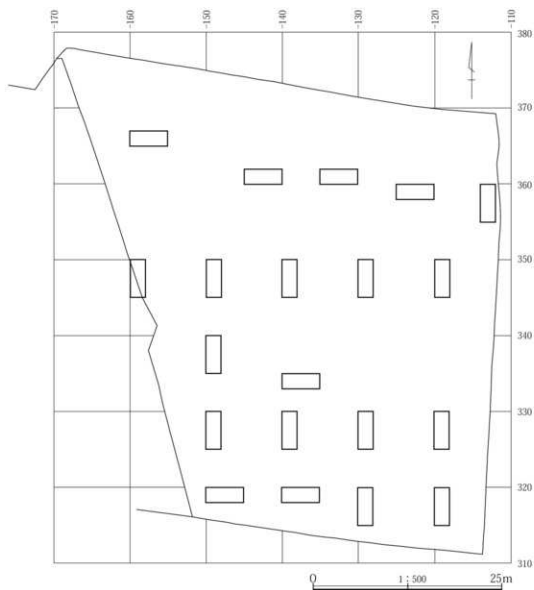
時代の調査を行った。調査は、2m×5mのトレンチを全域に設定し（第187図～第190図）、その内部をジョレンなどを用いて慎重に掘り下げ、遺物等が出土すれば周囲を掘り広げるという方法で行った。トレンチの配置は上面の遺構の存在などで一部不規則になっているところ



第187図 旧石器時代調査トレンチ配置図（1-2～5区）



第1888図 旧石器時代調査トレンチ配置図（I-1区）



第1889図 旧石器時代調査トレンチ配置図（II区）



第190図 旧石器時代調査トレンチ配置図（Ⅲ区・Ⅳ区）

があるが、ほぼ全域を網羅する形で設定した。各トレンチでは礫層上面まで掘り下げたが、遺構・遺物は出土しなかった。礫層までの高さは場所によって大きく異なり、旧地形にはかなりの起伏が認められる。

調査したトレンチの数は、Ⅰ-Ⅰ区で2ヶ所、Ⅰ-2～5区で29ヶ所、Ⅱ区で20ヶ所、Ⅲ-Ⅰ・2区で21ヶ所、Ⅳ区で9ヶ所の合計81ヶ所である。

## 第4章 総 括

### 第1節 推定東山道駅路について

第3章第7節で報告したように、本遺跡では側溝心一線で計測して幅13mにおよぶ直線道路が見つかった。本遺跡の範囲内では長さ215m分を調査しただけであるが、その後西にある八ヶ入遺跡、東の大道東遺跡、さらに東の鹿島浦遺跡でも延長部が見つかり、総延長1kmの間、直線的に延びていることが確認された。それほど長い距離を直線的に延び、しかも幅が13mにも及ぶことから、この道路は古代東山道駅路である可能性が非常に高いものと考えられる。

高崎市東部から太田市北西部にかけての地域は、古代道路跡の調査が数多く行われ、全国的に見ても研究が進んでいる地域である。太田市北西部についてみると、ここでは東西に延びる2本の道路跡が確認されている(第191図)。第2章第2節でも述べたように、南側のものは「牛堀・矢ノ原ルート」と呼ばれ、側溝心一線で測って約13mの規模をもっている。北側のものはそれよりもやや狭く、側溝心一線で測って約12mあり、「下新田ルート」と呼ばれている。どちらも遺物がほとんど出土しないので、使用年代の確定は困難であるが、七世紀後半から八世紀代のもと考えられている。牛堀・矢ノ原ルートは、さらに西側は高崎市や玉村町で見つかった古代道路につながるものと思われ、上野国の平野部を東西に横断しているのも、これが古代東山道駅路であると推定される。下新田ルートは東に延長すると新田郡家である天良七堂遺跡付近を通り、逆の西に延長すると佐位郡家である伊勢崎市三軒屋遺跡の南を通することになる。このため、郡家同士をつなぐ道である伝路ではないかという説や、牛堀・矢ノ原ルートが廃された後の東山道駅路ではないかという説がある。このほか、新田駅家から武蔵国へ向かう東山道武蔵路といわれるルートが太田市域を通過するはずであるが、近年新野臨屋遺跡群でその一部と思われる道路跡が見つかり、この地域でのルートが判明しつつある。

このように、金山西側については、8世紀代までの東

山道駅路のルートがある程度判明しているが、金山を越えた東側についてはこれまで全く分かっていなかった。ただ、金山から八王子丘陵にかけての丘陵部を越えなければならないことから、その最も低い部分を越えて足利を目指すルート、すなわち現在の県道足利・伊勢崎線に重なるルートが、古代東山道駅路のルートとしても最も妥当だと考えられていた。そのルート上となる足利市街中心部には、足利郡家と推定される国府野遺跡があるので、古代道路のルートとしてはよりふさわしいと考えられ、そこからさらに東へと延びていくものと考えられていたのである。

本遺跡周辺で見つかった道路跡は、その想定ルートから南に1kmも外れ、しかも方向がN-82°-Wであり、足利市中心部から離れた方向に向かっているため、東山道駅路だとすれば、従来の説を全く書き換えるものとなった。もちろん、牛堀・矢ノ原ルートのような東山道駅路と推定される道路跡も、佐位郡家である三軒屋遺跡とはかなり離れたところを通過しており、駅路は必ずしも郡家の近くを通らなくてもよいと思われるが、やはり東山道駅路と断定する上では問題となる点である。また、逆に、このように足利市街の南側を通過することによって、足利市街東側の丘陵部を避けて容易に東に向かえるという利点も考えられる。さらに東にある三森山などの丘陵の南側を通過した後に北に方向を変えれば、現在ルートが判明している宇都宮市付近に向かうことができるからである。これらのルート上の問題の解明は今後の課題であり、より東側のルートが調査されることを期待しなければならない。

また、この道路跡が牛堀・矢ノ原ルート、下新田ルートのどちらと接続するのかも問題である。道路幅から考えて、牛堀・矢ノ原ルートと接続するのではないかというのが、現状では最も有力な見解であると思われるが、とすれば、どのように丘陵部を越え、どこで方向を変えているのが問題となる。第191図に明らかのように、どちらも直線的に延びて接続するのだとすれば、牛堀・矢ノ原ルートがそのまま丘陵を越え、本遺跡のすぐ西側のあたりで接続しなければならないが、丘陵のかなり高

い部分を越えなければならないことから、些か不自然なルートといわざるをえない。やはりどこかで複数回方向を変えていると考えるのが自然であると思われるが、その際注目したいのが、ちょうど中間で丘陵部を越える現道が存在することである。第191図の地図では、「太田」という地名のすぐ南に、直角に曲がって丘陵を越える道が描かれている。この部分には東西から谷が入り、丘陵がやや低くなっているのを、それを越える道が現在でもあるのである。あるいはこの部分を駅路が通過しているのではないだろうか。これも今後解明しなければならない課題である。

本遺跡周辺の推定東山道駅路について大きな問題は、その存続年代の把握である。東に隣接する大道東遺跡では6～9世紀代の大集落の間を通るため、その年代の把握に期待が集まっていた。その結果、7世紀第3四半期～8世紀第1四半期という結果が導き出されている（群馬県埋蔵文化財調査事業団『大道東遺跡（3）』（2010刊

行予定）参照）。大道西遺跡では、調査した住居が少なく、路面あるいは側溝に重複する住居は6軒しかないが、そのうち15号住居という、路面に相当する場所に作られている住居が問題となる。路面に住居が作られるということはあり得ないので、道路は住居が作られたときには既に廃絶していたことになるからである。そしてその時期は、出土遺物から8世紀第1四半期と考えられ、大道東遺跡で得られた結果と矛盾はない。この道路はやはり7世紀第3四半期～8世紀第1四半期という、かなり短い期間だけ使用されていたものなのである。この短さは意外な結果ではあるが、とすれば、その後の駅路はどのルートを取るのかという問題が新たに生じることになる。それも今後の重要な研究課題といえよう。

なお、『古代交通研究第13号』（2004）に本遺跡の速報を発表した際には、1号住居と2号住居が駅路と有機的な関係にあるのではないかと考え、そのように記述した。これらの2軒の住居は両方とも8世紀第2～3四半



第191図 太田市周辺の推定東山道駅路の位置 1：天良寺堂遺跡、2：寺井廃寺、3：入谷遺跡  
（1：100,000 国土地理院5万分の1地形図「桐生及足利」「深谷」を縮小）

期のもので、同時に存在していた可能性があるものである。そして、両者は規模がほぼ同じで、駅路の南北にほぼ同じ距離離れた位置にある。竈の位置だけ東西逆になるので、いわば駅路に対して点対称の位置にあることになる。このような興味深い配置と、さらに両住居に近い側溝に、それを横断したような痕跡が見られたことから、この2軒の住居は、駅路と何らかの関連があるのではないかと考えたのである。しかし、その後の調査によってこの住居の東側に多くの住居が発見され、特にこの住居の配置が異様ということはないことが判明し、また、この住居が作られた時には既に駅路が廃絶していた可能性が高まったことから、この住居と駅路との関連は薄いものと考えざるをえなくなった。側溝を横断する痕跡の存在は、駅路廃絶後も側溝が完全には埋まりきっていない時期のものであると考えれば、矛盾はない。1・2号住居と駅路との関連は以上のように考えられるので、先に公表した見解は訂正することにした。

## 第2節 大道西遺跡の 掘立柱建物と屋敷群

### 1 はじめに

ここでは、認定を行った掘立柱建物の検討を中心に、屋敷群の様相を考えたいと思う。掘立柱建物については、1/40の平面図を基本図にして、1尺単位のマス目を示した方眼を使用して、柱間寸法と柱筋を基準に各ピットの形態や規模・深さを加味して図上認定を行った。したがって、調査現場段階で行った認定に比して、信頼性が低いことは否めないだろう。

本道跡の掘立柱建物の総数は77棟であり、その内ほぼ全体を調査し、およその形態が分かるのが73棟となる。これを建物群のブロックごとに項目別に集計したのが、第38表である。また、その基礎資料となるのが、第39表掘立柱建物総括表である。本稿では主軸方位の違いを基に、7つの分類を行い、これを時期区分の拠り所とした。建物の分析では、面積及び柱構造を中心に、柱間寸法なども考慮している。また、出土遺物についても、悉皆的

														( )内は総数	
分類	A群	B群	C群	D群	E群	F群	G群	H群	I群	J群	Ⅲ区	Ⅳ区	計	比率	
1類		1			1	1		1		1			5	6.5	
2類		1	6	8	6	2	2	3		2			30	39.0	
3類	1		5	2	2	2	1	3	2		1	1	20	26.0	
4類	5	2		1				1					9	11.7	
5類	2	4	1		2								9	11.7	
6類	2					1							3	3.9	
7類							1						1	1.3	
計	10	8	12	11	11	6	5	7	2	3	1	1		77	
比率	13.0	10.4	15.6	14.3	14.3	7.8	6.5	9.1	2.6	3.9	1.3	1.3			
棟別	A群	B群	C群	D群	E群	F群	G群	H群	I群	J群	Ⅲ区	Ⅳ区	計	比率	
東西棟	7	1	4	3	4	5	3	4	1	1	1		34	44.2	
南北棟	1	7	8	4	4		1	2	1	1		1	30	39.0	
正方形	2		4	3	1	1	1	1		1			13	16.9	
計	10	8	12	11	11	6	5	7	2	3	1	1		77	
規模	A群	B群	C群	D群	E群	F群	G群	H群	I群	J群	Ⅲ区	Ⅳ区	計	比率	
1×1間									1	1			2	2.8	
1×2間	2		3	7	1	5	1	1		1	1	1	23	32.4	
2×2間	1		2	0	2		2	1					8	11.7	
1×3間	5	4	3		1	1	2	2	1				19	26.8	
2×3間		2		1	3			1		1			8	11.3	
3×3間					1								1	1.4	
1×4間	1	2	1		1								5	7.1	
2×4間	1				1				2				4	5.6	
1×5～間				1									1	1.4	
計	10	8	9(12)	9(11)	10(11)	6	5	7	1	2	1	1		71(77)	
面積㎡	A群	B群	C群	D群	E群	F群	G群	H群	I群	J群	Ⅲ区	Ⅳ区	計	比率	
～10			2		1		1				1	1	6	8.3	
～20	3	6	3	5	4	5	2	3	2	1			34	47.2	
～30	4	2	4	4	4	1	2			2			23	31.9	
～40	3		1					3					7	9.7	
～50					1			1					2	2.8	
計	10	8	10(12)	9(11)	10(11)	6	5	7	2	3	1	1		72(77)	

第38表 大道西遺跡項目別建物数



に集約され、掲載遺物を中心に時期判定などもすてに  
行われているため、最終的に出土遺物も含めた屋敷評価を  
行いたいと考える。

## 2 建物の全体的な傾向

主軸方位による分類では、ブロックにより傾向が分か  
れる。A群は4類、B群は5類がそれぞれの半数を占め  
ている。この2つのブロックは3・4溝で区画された屋  
敷地であり、ほかのブロックとは違いがある。一方、C  
～J群、Ⅲ・Ⅳ区は2・3類が多く、建物総数で比較す  
れば、2類が29/77棟(37.7%)、3類が19/77棟(24.7%)  
に及ぶ。単純に考えれば、真北を指向したのが2・3類で、  
A・B群の4・5類は区画要素に影響されたのであろう。

棟方向を見ると、全体では東西棟34棟・南北棟30棟・  
正方形13棟で、東西・南北棟はほぼ等量に近い。正方形  
は相対的にやや多い印象を持つ。ブロックごとでは、A  
群・F群で東西棟が多く、B・C群では南北棟が多く、D・  
E群では正方形も目立っている。

面積では、40㎡を超えるのが2棟で、E群49号建物  
45.75㎡、H群67号建物47.80㎡である。30㎡を超えるの  
も7棟と少なく、A群で3棟、C群で1棟、H群で3棟  
と偏りが見られる。ただし、C群では別に29㎡が3棟あ  
る。10～30㎡は57棟で全体の79.2%を占める。なお、  
10㎡以下は6棟で、C群2棟、E群1棟、G群1棟、Ⅲ  
区1棟、Ⅳ区1棟である。また、I群は2棟ともに約10  
㎡である。

規模では、1×2間のもので23棟で、2×2間の8棟  
を加えると31棟で、全体の4割を超えて小規模なもの  
が多い。大きなものでは、桁行4間が9棟でA・B・C・  
E・H群の5ブロックに存在する。桁行5間を超えるの  
は、D群34号建物1棟のみである。ただし、D群は桁行  
2間が多いのが特徴であり、Ⅲ・Ⅳ区はすべて、F群も  
桁行2間がほとんどを占めている。

建物形態は大部分が側柱構造であるが、H群66・67号  
建物の2棟は総柱構造の系統に含まれるだろう。ただし、  
どちらも典型的な総柱構造ではない。67号建物は棟の下  
にそれぞれ柱があり、柱間も均整がとれているが、東側  
1・2間の側柱がなく不安定さが残る。66号建物も棟の  
下にそれぞれ柱があるが、北辺の柱2本が未検出で、67

号建物に近似する。しかし、66号建物の棟柱は南辺寄  
りに偏っている。2棟は規模も大きく、特に67号建物は  
本遺跡最大であり、構造的にも代表する建物と見なされ  
る。また、21号建物は1×3間の東に広庇が付くものと  
考えたが、しっかりした造りであり、66号建物と同様、  
2×3間の総柱建物あるいは、屋根束柱を建てた梁間2  
間の可能性もある。E群47号建物も特徴的で、3×3間  
の正方形であり、2間と1間を仕切るように柱が入る。  
柱配置は21号建物に近いが、桁側の柱間が異なり、全く  
違う建物の印象を受ける。

桁行平均柱間については煩雑であり、集約することは  
困難である。特に数量の多い桁行2間の建物でも、正方  
形プランと長方形プランで違いもあり、今後の検討課題  
としたい。桁行1・2間のもの、および正方形を除いて  
考えると、B群では6尺前後が8棟中7棟、C群では8  
尺強が7棟中4棟、D群は3棟すべてが約6尺を占める。  
一方、A・E・H群は2～3種の数値でバラツキが見ら  
れるが、建物の時期変遷も推定できないため、これ以上  
検討しにくい状況である。

## 3 ブロック別の傾向

A群 規模の比較的大きな東西棟が目立つ。主軸方位で  
は4類が多く、3棟が重複関係にある。5類の2棟も重  
複しており、3・6類もあわせると、最低でも7時期は  
存在すると思われる。5類は東西棟1棟と正方形1棟で  
1時期を思わせる。これは、4類の4・10号建物の関係  
に近く、連続性を感じさせる。

B群 中規模の南北棟が目立つ。重複関係で7棟が重複  
して、最低でも7時期が想定され、A群と一致する。4・  
5類が比較的多く、A群との関連を思わせる。

C群 2・3類が6棟で、5類は1棟のみである。区画  
溝と見られる6号溝は、5類の21号建物と走向が一致す  
る。一方、2類の30号建物は新旧関係が不明ながら6号  
溝と重複しており、2類の6棟が6号溝で区画される空  
間とは、区画が異なると考えられ、重複関係から最低2  
時期が想定される。5類では23・25号建物が並存する可  
能性があるので、最低3時期となり、C群全体で6時期  
が想定される。

D群 中規模以上の建物で構成され、桁行2間が多い特



徴を持つ。特に正方形のものが4棟あり、柱間が広いため、20㎡を超えるものが多い。重複関係では2類で最低3時期あり、全体で6時期が想定される。

E類 中規模以上の建物が多く、49号建物は45.75㎡と際立っている。重複関係では2類で最低4時期あり、全体で7時期が想定される。東西棟など棟方向の構成は、D類に近似する。

F類 中規模の建物がほとんどで、桁行2間で長方形の東西棟が多い。2類は2棟で1時期の可能性はある以外、1棟1時期として5時期が想定される。

G群 2・4類は中規模で、3・7類は小規模と時期により混在している。2類は2棟が連結して使われていた可能性があり、全体として4時期が想定される。

H群 大規模な建物が目立つ。総柱系の建物2棟を含むのが注目される。2類は重複関係から3時期あり、全体で5時期が想定される。65号建物の東辺は1類と同じであり、64号建物と連結していた可能性がある。

I群 72号建物は22号溝と関連すると思われ、1×1間と異質である。73号建物も北辺が隅柱しかない。

J群 中規模以上の3棟で、3時期である。

Ⅲ・Ⅳ区 ともに1棟ずつであり散在する。規模も小さい。

#### 4 出土遺物と屋敷の検討

年代的な要素も加味するため、第40表に中世遺物の出土状況を示した。A・B・C群を区画する3・4・6号溝とC群1号井戸で、遺物がやや多く出土しており、傾向を見ることができる。

A・B群は東西棟と南北棟を分け合っている状況や、4・5類の建物同士の関連も想定され、一時的には一連の屋敷であったと思われる。また、A群とB群の間にはL字形にピット群が集中しており、溝以外にピット列で区画していた段階も想定できる。このピット群の走向方位は、A群の6類に符合する観がある。遺物は12世紀代は伝世も想定されるため、13世紀後半から16世紀代に及ぶが、14世紀後半あたりにピークがあり4・5類段階頃をあてることができる。

C群では1号井戸と6号溝の出土遺物の傾向が異なる。1号井戸では16世紀代の遺物も含まれるが、量的には13世紀後半から15世紀前半に集中時期がある。一方、6号溝は14世紀後半から15世紀後半と時期幅が狭く若干年代が下るため、1号井戸よりも後出と考えられる。6号溝は5類21号建物と走向方位が一致する。また、2類

			12C		13C		14C		15C		16C		中世	17C	
			前	後	前	後	前	中	後	前	後				
A群	3溝	在地上器	片口鉢										1		
			皿											1	
	50溝	在地上器	皿						1						
			皿											2	
A・B群	4溝	在地上器	片口鉢			1	2								
			皿			1					1		1		
			火舎			1					1				
		古瀬戸	盤		1										
			常滑		1		1								
		瀧美	鉢				1								
			襷	5(2)											
C群	1井戸	在地上器	皿			2									
			片口鉢				1	1		1			3	1	
			火舎				1								
		尾張型	鉢		1										
		常滑	蓋											8(1)	
	6溝	在地上器	片口鉢				1							2	
			古瀬戸	皿					1						
		常滑	蓋							1					
			襷			1									
			襷											2(1)	
D群	52溝	古瀬戸	香炉					1							
D・E群	9上	在地上器	片口鉢					1							
E群	14上	在地上器	片口鉢									1			

第40表 大道西遺跡ブロック別遺物出土状況

の建物群は6号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

D群の北に接する52号溝では古瀬戸の香炉(15世紀前～中)が出土しており、比較的大きな東西棟32号建物との関係も思わせる。D・E群に隣接する土坑では片口鉢が1点ずつ出土し、1点は15世紀代である。D・E群は建物構成も近似しており、中規模な建物群が6～7時期にわたり、並存していたと思われる。また、正方形の建物が多いブロックであり、周辺に土坑が多いこととの関係も想定される。一方、大規模な49号建物に対応する遺物がないこともやや気にかかる。

F・J群の建物群は、小規模な建物が散在する状況であるが、F群は東西棟がほとんどを占める。それぞれに重複しており、明確な区画を持たないが、零細な屋敷地として踏襲されてきたと思われる。

G群に伴う遺物はなく時期は不明だが、西側にピット群が集中しており、ピット列による区画を思わせる。走向方位から見て、2類段階の区画とも考えられる。

H群は規模の大きい東西棟が多く、A群よりも卓越した建物群となっている。総柱系の建物も2棟あり、特徴的である。4号溝により南側を区画されている可能性もあり、西側は6号溝とすればC群と合わせた屋敷群を構成する可能性も残す。Ⅱ区4号溝で在土器皿も出土するが、出土遺物は少ない。

I群72号建物を囲む22号溝からは、近世から近現代の遺物が出土する。構造的に簡易であり、居住用の建物とは考えにくい。73号建物が接する21号溝では中世の遺物もやや多く出土しており、72号建物とは時期が異なることも考えられる。

## 5 まとめと問題点

本遺跡ではピットが多数検出され、77棟の掘立柱建物を認定した。もちろん、建物すべてを把握できたわけではないが、ある程度の傾向は反映すると考える。集中する部分を目安に、A～I群までの建物群を呼称し、それぞれに分析を試みた結果、大小の屋敷地が復元できた。印象としては、A・B群が明確な区画溝を持ち目立つ建物群と考えたが、建物の形態・面積ともに、むしろE群やH群に卓越したものがあるなど、比較的等質な屋敷群であった。ただし、F・G・J群など零細な屋敷地も周

辺に見ることができた。

出土遺物ではA・B・C群で時期を判断できるものがあり、14・15世紀にピークがあるが、12世紀から16世紀まで連続と続く様相もうかがえた。この傾向は、出土地点の不明な一括遺物を含めても同じである。やや高級品の中国青磁碗がⅠ区で1点、Ⅱ区で白磁皿1点、白磁瓶類が1点出土するが、出土量は多くないと言える。一方、古瀬戸から大塚段階の瀬戸・美濃窯系の遺物は多い。これが屋敷群の経済力なのか、本地域の地域色であるのかは不明である。

建物の様相、出土遺物の状況を考えると、武士などの領主層の屋敷地に比べると劣る傾向があり、やや中核的な集落と思えるが、周辺での調査事例なども考慮しながら、性格を考えていくことを課題としたい。

### 第3節 出土埴輪について

第3章第9節で報告したように、本遺跡の調査に際してはⅡ区の諸遺構から大量の埴輪が出土した。特に26号溝からは全体の3分の1にあたる資料が出土している。

出土した埴輪はいずれも窯窯焼成によるもので、器種は朝顔形埴輪を含む円筒埴輪、形象埴輪の家、器財の盾・鞍、人物、馬が確認された。本項ではこれらの埴輪の特徴について改めてその概要を記し、小結としたい。

円筒埴輪は大半が破片資料であり、全体形状を知ることができた資料は1・2・3の3点だけである。1は器高53.1cmの4条5段、2は器高47.7cmの3条4段、3は器高43.3cmの2条3段の各構成である。いずれも、第1段、基底部の伸張化と口縁部の短輪化の傾向が認められることが大きな特徴である。2の基底部長は器高の51%、口縁部長は器高の23%である。3の基底部長は器高の41%、口縁部長は器高の17%である。その他の属性としては、突帯は全体に発達し度合いが低いこと、透孔はいずれも円形であること、器面の調整は外面がタテハケ、内面はハケメの上にナデ調整が重ねられていることなどがあげられる。底部調整は認められなかった。

4は胴部が寸胴で、口縁部に至りわずかに外反する形状である。4条5段以上の構成であるが、基底部は欠損しており、第1突帯の貼付状況は不明である。破片資料の中には低位置突帯の資料が認められる。

群馬県東部地域における窯窯焼成の円筒埴輪の編年については島田孝雄氏の研究がある(註1)。これを参考にして今回出土した円筒埴輪について検討すると、これらは島田氏が設定した編年のⅣ期に含まれると考えられる。島田氏はⅣ期の年代観を陶器古窯址の須惠器編年のTK43型式からTK209型式の間に位置づけている。

形象埴輪の中では家形埴輪と馬形埴輪の中に注目される資料が見られた。家形埴輪は破片が少量出土しただけであるが、破風・堅魚木・樹串・上屋根の残存状態から大型で、分割成形技法による組合式入母屋造りの個体が存在したことが確認できた。中空の堅魚木やこれに付属したと考えられる棒状の樹串は伊勢崎市豊城町権現山出土例に類例が知られる。136の鳥形埴輪は小型で基部が付くことから棟頂部の飾りであると考えたい。

馬形埴輪は残存する部位、馬装の特徴などから4体以上の存在が想定される。蹄の大きさから大小の個体差もあったようである。全体形状を把握することができた161は、頭部を円筒状に成形し、これに頬骨の板状粘土を貼付している点や頸部の粘土紐の積み上げが省略されている点などに後出的な様相が認められる。この他に胴部の断面形状が横幅に比して高さを有する点や、先端の収束状況は不明であるものの尻尾を中空にした成形技法などにこの資料の特徴が認められる。

上記のような特徴から家形埴輪や馬形埴輪の製作年代も円筒埴輪同様、6世紀後半と考えられる。円筒埴輪の形状に見られる多様性からするとこれらの埴輪が同一の古墳に樹立されていたことを証明することは困難ではあるものの、それらの製作年代に大きな時間幅を求める必要はないように考えられる。製作地については胎土中に凝灰岩やチャートなどの鉱物粒が目視できることから太田地域の埴輪窯で製作されたものと考えられる。駒形神社埴輪窯跡は本遺跡の北西4.1kmに位置している。

今回の調査においては調査区内から古墳は検出されていない。前述したように今回検出された円筒埴輪の中には2条3段構成の他に、多条多段構成、あるいは低位置突帯などの資料が見られる。多条多段構成の円筒埴輪は、6世紀後半の群馬県内においては前方後円墳および直径30m前後の中規模円墳から出土することが通例である。太田地域においても二ツ山古墳1号墳や西長岡東山古墳群第3号墳のような前方後円墳に上記内容の埴輪が樹立されている。本遺跡に近接する前方後円墳としては低位置突帯の円筒埴輪を出土する今泉口八幡山古墳が存在する。ただし、太田地域においては直径約20mの独坐遺跡1号墳からも5条6段構成の円筒埴輪が出土しており、本遺跡出土埴輪の樹立されていた古墳の様相について具体的に言及することは非常に困難となっている。

大道西遺跡の周辺においては矢田堀古墳群が形成され、10基余の円墳が存在していたとされる。『上毛古墳総覧』を見ると東今泉町大道西に第7号墳赤城塚古墳があり、埴輪が出土している。他に字川西に2基、矢田堀町字北原に1基、古墳の分布が記録されている。本遺跡から出土した埴輪は近接する古墳から何らかの理由で本遺跡内に搬入されものとするのが妥当であろう。

註1 島田孝雄「群馬県東部の円筒埴輪」『埴輪研究会誌』第5号 2001

## 第4節 出土人骨・馬歯について

本遺跡からは第3章で報告したように、1号墓から人骨が、12号土坑から馬歯が出土した。1号墓は出土した銭貨から、14世紀以降の中世のものであると思われる。12号土坑は出土遺物はないものの周囲の掘立柱建物の存在から、やはり中世のものと考えられる。これらのうち特に人骨は残りが悪かったが、人骨については被葬者がどのような人物なのかを推定するために、その部位を確定し、可能であれば性別・年齢などを明らかにすることが必要であり、また馬歯については、馬の役割などを推定するために、その大きさから年齢・体長などを明らかにすることが必要であると考えられる。以上の課題を明らかにするために、鑑定分析を宮崎重雄氏に委託した。以下にその報告を収録する。

### 1 大道西遺跡1号墓出土の人骨

保存状況のきわめて不良の人骨で中世のものと考えられる。下肢と上肢の一部が出土している。頭蓋骨・体幹骨は残っていない。

資料番号1は左?大腿骨遠位半と脛骨、腓骨などから成る。大腿骨は骨体遠位半177mmが残存する。骨体後面の粗線の発達がよく、おそらく成人のものであろう。骨

体中央部で計測される横径・矢状径はそれぞれ27.0mm、25.4mmである。土圧により多少変形しているが、この計測値により小柄な体格であることがわかる。おおざっぱな推定をすれば身長は140±10cmほどではなかっただろうか。脛骨は長さ153.6mmほどの骨体部が残存しているが、保存不良で変形はなほだしく有用な所見・計測値がえられない。腓骨は更に保存状態が悪い。他に上肢の可能性も考えられる骨片が含まれている。

資料番号2もきわめて保存不良で正確な部位決定はできないが、埋存位置からして上肢骨のうちの上腕骨の可能性はある。

性別・詳細な年齢等は不明である。

### 2 大道西遺跡12号土坑の馬歯

本土坑から中世のものと思われる2本の馬歯が出土している。左上顎第2前臼歯と左上顎第3前臼歯である。中世の馬歯にしては保存良好で、歯根表層のセメント質が良く残っている。

出土時の実測図には前肢・後肢の出土位置が図示されている。これで見ると日本在来馬の小形馬相当の馬格が予想され、上記の2本の歯の大きさもそのことを裏付けている。西中川(1991)の計算式を用いて歯冠高から年齢を推定すると7~9才である。まだ成馬になって数年しか経っていない若い個体である。



第192図 1号墓出土人骨1(上:大腿骨、下:脛骨)

#### 第4章 総括

小型馬なので乗用でなく、運搬や農業に従事したのであろうが、若くしてなぜ死に至ったかは不明である。

#### 参考文献

西中川駿編 1991 『古代遺跡からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告書



第193図 12号土坑出土馬歯（右：第2前臼歯、左：第3前臼歯）

	歯冠長	歯冠幅	歯冠高	下後踵谷長	下内踵谷長	Doubleknot長	下内踵幅	歯根の状況
第2前臼歯	30.0	13.1	33.6	4.6	16.6	13.4	6.2	分岐
第3前臼歯	26.0	14.8	46.0	8.4	12.6	15.1	6.0	分岐

第41表 上顎臼歯計測表

1号住居							
神図番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第10図 PL.56	1	土師器 坏	東壁際-9,-1.5 口縁部1/5欠損	口 14.0 高 3.4 径 11.7	細砂粒/良好/ 赤い	口縁部横ナデ、底部(横下)は手持ちヘラ削り。	
第10図 PL.56	2	土師器 坏	+9 3/4	口 13.9 高 3.5 径 11.7	細砂粒/良好/ 赤い赤黒	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下平から底部は手持ちヘラ削り。	
第10図 PL.56	3	土師器 坏	3/4側-0.5 3/4	口 14.0 高 3.7	細砂粒/良好/ 赤黒	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下平から底部は手持ちヘラ削り。	
第10図 PL.56	4	土師器 坏	竈右側+0.5 3/4	口 15.0 高 3.6	細砂粒/良好/ 赤黒	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、内面は口唇部を除きヘラ磨き。	
第10図 PL.56	5	須恵器 坏蓋	南隣近+0.5 口縁部1/5欠損	口 14.1 高 2.7 径 4.8	細砂粒/還元焰/ 灰	口クロ整形、回転左回り。積みは貼付、天井部中央は回転ヘラ削り。	
第10図 PL.56	6	須恵器 坏蓋	南隣+2.5 口唇・換気部一部欠損	口 14.9 高 3.3 径 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	口クロ整形、回転左回り。積みは貼付、天井部中央は回転ヘラ削り。	
第10図	7	須恵器 坏蓋	東壁際-0.5 横のみ	径 4.7	微砂粒/還元焰/ 灰	口クロ整形、回転右回りか。積みは貼付。	
第10図	8	須恵器 坏	覆土 口縁部片	口 13.8	細砂粒/還元焰/ 灰	口クロ整形、回転右回りか。	
2号住居							
神図番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第13図 PL.56	1	土師器 坏	竈左袖前+2.0 完形	口 14.4 高 4.1	細砂粒/良好/ 赤黒	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下平から底部は手持ちヘラ削り。	
第13図	2	土師器 坏	竈右袖+0.5,-3.5 口縁部4/5欠	口 14.8 高 3.9 底 8.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	口クロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第13図	3	土師器 坏	竈前+4.0 底部	底 7.8	細砂粒・白色粒/ 還元焰/灰	口クロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
第13図	4	須恵器 甕	覆土 把手		細砂粒/還元焰/ 灰白	把手は貼付、上下、側面ともナデ。	
第13図	5	土師器 甕	覆土 口縁~胴部上位片	口 9.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第13図	6	土師器 甕	覆土 口縁~胴部上位片	口 12.0	細砂粒/良好/ 明黄	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第13図	7	須恵器 甕	覆土 胴部片		細砂粒/還元焰/ 褐灰	外面は平行明き筋、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
3号住居							
神図番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第14図	1	須恵器 甕	覆土 口縁部片		細砂粒/還元焰/ 灰	口縁部は口クロ整形、口唇部下に1条の凹線、その下位に交差する波状文。	
4号住居							
神図番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第16図 PL.56	1	須恵器 坏蓋	竈前-1.2,+3.0 天井部中央欠損	口 11.8 高 4.0	細砂粒/還元焰/ 灰オリーブ	口クロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
第16図 PL.56	2	須恵器 坏蓋	東隣付近+18.5, +32.8 1/2	口 12.1 高 4.5	細砂粒/還元焰/ 灰黄	口クロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。	
第16図 PL.56	3	須恵器 坏蓋	中央+48.6 口縁部1/3欠損	口 13.2 高 4.4	細砂粒/還元焰/ 暗灰	口クロ整形、回転右回り。天井部は中程まで手持ちヘラ削り。	
第16図 PL.56	4	須恵器 坏	竈右袖+8.5 ほぼ完形	口 10.6 高 5.4	細砂粒/還元焰/ 灰黄	口クロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第16図 PL.56	5	須恵器 坏	竈前-0.4 完形	口 12.0 高 4.0 底 8.2	細砂粒/還元焰/ 灰黄	口クロ整形、回転右回り。底部から体部下位は手持ちヘラ削り。	
第16図 PL.56	6	須恵器 坏	竈前+5.4 完形	口 12.2 高 4.2 底 9.6	細砂粒/還元焰/ 灰	口クロ整形、回転右回り。底部から体部下位は手持ちヘラ削り。	
第16図 PL.56	7	須恵器 坏	P.3東+35.4, +36.8 1/2	口 12.0 高 4.1 底 9.6	細砂粒/還元焰/ 灰	口クロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り、外面の一部に降灰が付着。	
第16図	8	須恵器 甕	西隣+16.9 口縁部~体部片	口 13.0	細砂粒・白色粒/ 還元焰/灰	口クロ整形、回転右回りか。体部は手持ちヘラ削り。	
第16図 PL.56	9	須恵器 高坏	竈内-0.6 脚部	脚 9.0	細砂粒/還元焰/ 灰	口クロ整形、回転右回り。坏身とは接合、中に2条、下位に1条の凹線が通る。	
第16図	10	須恵器 高坏	覆土 坏身底部片	底 13.8	細砂粒・白色粒/ 還元焰/灰	口クロ整形、回転右回り。脚部は貼付、坏身底部は回転ヘラ削り。	

第42表 遺物観察表(1)

遺物観察表

検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第16図 PL.56	11	須恵器 鉢	中央+42.0 口縁部～体部片	口 15.6	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。体部下位はへら削り。	
第17図 PL.56	12	須恵器 鉢	覆上 底部	底 5.8	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転左回り。底部に不規則な削突痕。	
第17図 PL.56	13	須恵器 短頸壺	覆上 底部～胴部片	胴 8.0	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転へら削り。	ミニチュア
第17図 PL.56	14	須恵器 壺	甕右前+5.4 口縁部+2組	胴 13.8 底 8.9	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から胴部下位は 手持ちへら削り。	
第17図 PL.56	15	土師器 鉢	甕右+0.5 口縁部～体部片	口 23.3	細砂粒/良好/に ふい黄橙	口縁部は横ナデ、体部はへら削り。内面体部は へらナデ。	
第17図 PL.56	16	土師器 鉢	甕右+4.2 完形か	口 19.8 高 20.3 底 7.8	細砂粒・粗砂粒 /良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、 体部から底部は手持ちへら削り。内面体部はへ らナデ。	底部の穿孔は焼成後。
第17図 PL.57	17	土師器 甕	北東塚原+1.9、 +26.4 2/3	口 14.0 高 17.9 底 8.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はへら削り、胴部 上半は器面厚減のため不明。内面胴部はへら ナデ。	
第17図 PL.57	18	土師器 甕	南西壁付近+6.3 ～22.1 1/4	口 9.0 高 24.5 底 7.5	細砂粒/良好/に ふい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内 面胴部はへらナデ。	歪み激しく正確なこ とは不鮮明。
第17図 PL.57	19	土師器 甕	南溝+0.7 4/5	口 20.0 高 36.1 底 4.9	粗砂粒/良好/に ふい橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面 胴部はへらナデ。	
第18図	20	土師器 甕	中央付近+4.7 口縁部～胴部上位 片	口 21.9	細砂粒/良好/明 赤褐	外面に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部 はへら削り。内面胴部はへらナデ。	内面の広範囲にスス が付着。
第18図	21	土師器 甕	甕前+1.6、+7.4 口縁部～胴部中位 片	口 20.0	細砂粒/良好/に ふい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内 面胴部はへらナデ。	
第18図	22	土師器 甕	甕内+4.9 底部～胴部下位片	底 4.8	粗砂粒/良好/赤 褐	底部と胴部はへら削り。内面はへらナデ。	
第18図 PL.57	23	土師器 甕	甕内、南溝+1.6 ～32.3 1/2	口 21.6 高 35.6 底 8.5	細砂粒・粗砂粒 /良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面 胴部はへらナデ。	
第18図	24	土師器 甕	覆上 口縁部片	口 20.0	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内 面胴部はへらナデ。	
第18図	25	土師器 甕	中央付近+44.1 口縁部～胴部中位片	口 24.6	細砂粒/良好/黄 橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部 は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部はへらナ デ。	
第18図	26	土師器 甕	覆上 口縁部～胴部上位 片	口 19.0	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部は へらナデ。	
第19図	27	土師器 甕	覆上 胴部片		細砂粒/良好/明 赤	胴部は外面がへら削り、内面はへらナデ。	26と同一個体か。
第19図	28	土師器 甕	覆上 頸部～胴部上位片	底 8.5	細砂粒/良好/に ふい橙	口縁部下位から頸部は横ナデ、胴部と底部はへ ら削り。内面胴部はへらナデ。	
第19図	29	土師器 甕	覆上 胴部下位片		細砂粒・粗砂粒 /良好/灰黄	残存上半はへら磨き、下半はへら削り。内面 はへらナデ。	輪積み痕力所で欠損 後磨り磨いて鉢に転用 か。
第19図	30	須恵器 甕	覆上 口縁部片		細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部に1条の波状 文が巡る。	
第19図 PL.57	31	須恵器 甕	覆上 口縁部～頸部片	口 31.8 頸 20.1	細砂粒/還元焰/ 暗灰	口縁部ロクロ整形、頸部に輪積み痕が貼付。口縁 部は1～3条の凹線が区画、凹線下に波状文が 巡る。	
第19図	32	須恵器 甕	覆上 胴部上半片		細砂粒/還元焰/ 灰	外面は平行明き痕がかすかに残り、上・中位に 凹線。内面はアテ具痕をナデ消している。	
第20図 5号住居	33	須恵器 甕	覆上 底部～胴部下位片		細砂粒・粗砂粒 /還元焰/灰	外面は平行明き痕後胴部にかき目。内面はアテ 具痕をナデ消している。	

検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第23図 PL.58	1	土師器 壺	中央 完形	口 11.7 高 5.0	細砂粒/良好/に ふい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。 内面は左回りのへらナデ。	
第23図 PL.58	2	土師器 杯	1号甕前 3/5	口 15.7 高 3.3 径 12.8	細砂粒/良好/に ふい橙	口縁部横ナデ、底部(縁下)は手持ちへら削り。	内面に黒斑状にスス が付着。
第23図	3	土師器 杯	覆上 1/4	口 11.6	細砂粒/良好/に ふい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は 手持ちへら削り。	内外面の一部に漆が 付着。
第23図 PL.58	4	土師器 杯	覆上 4/5	口 12.4 高 3.4	細砂粒/良好/に ふい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は 手持ちへら削り。	

第43表 遺物観察表(2)

挿入番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第23図	5	土師器 杯	2号壺内 口縁部1/4欠損	口 12.8 高 3.5	細砂粒/良好/ ぶい・橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下平から底部は 手持ちへう削り。	
第23図	6	土師器 杯	1号壺右 1/3	口 12.9 高 3.2	細砂粒/良好/明 赤	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちへう削り。	
第23図	7	土師器 杯	西壁際 ほぼ完形	口 12.6 高 3.3	細砂粒/良好/ ぶい・橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちへう削り。	
第23図	8	土師器 杯	南東隅 1/3	口 16.0 高 5.0	細砂粒/良好/ ぶい・黄橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、 体部から底部は手持ちへう削り。内面はへう磨 きか、器面厚減のため単位不鮮明。	
第23図	9	須恵器 杯蓋	覆上 天井部片	径 4.0	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。掴みは貼付、天井部 中央は回転へう削り。	
第23図	10	須恵器 杯蓋	覆上 天井部片	径 5.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。掴みは貼付、天井部 中央は回転へう削り。	
第23図	11	須恵器 杯	覆上 1/4	口 11.0 高 2.9 底 6.5	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へう削り。	底部は疑似高台状。
第23図	12	須恵器 杯	覆上 1/3	口 12.1 高 4.0 底 7.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下平は 回転へう削り。	焼成時の歪み大。
第23図	13	須恵器 杯	P 3上 1/3	口 14.0 高 4.0 底 6.8	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は 回転へう削り。	
第23図	14	須恵器 杯	覆上 底部片	口 7.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は 回転へう削り。	
第23図	15	須恵器 盤	覆上 1/5	口 17.8 高 1.9 底 8.2	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下平 は回転へう削り。	
第23図	16	土師器 甕	右壁際 口縁部～胴部上位	口 13.8	細砂粒/良好/赤 褐	内面胴部輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横 ナデ、胴部はへう削り。内面胴部はへうナデ。	
第23図	17	土師器 甕	覆上 口縁部～胴部上位	口 12.7	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内 面胴部はへうナデ。	
第23図	18	土師器 甕	1号壺右 口縁部～胴部下位	口 24.4	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はへう削り。内面胴部は へうナデ。	
第24図	19	土師器 甕	2号壺内 口縁部～胴部中位	口 23.1 胴 29.5	細砂粒/良好/ ぶい・橙	口縁部は横ナデ、胴部はへう削り。内面胴部は へうナデ。	
第24図	20	土師器 甕	2号壺左 口縁部～胴部上位	口 24.9	細砂粒・粗砂粒 /良好/明赤	外面に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部 は器面厚減のため不鮮明。内面胴部はへうナデ。	
第24図	21	須恵器 甕	覆上 胴部上位片		細砂粒/還元焰/ 灰	外面は平行明き前後部分的なナデ。内面はアテ 貝殻をナデ消している。	
第24図	22	鉄器 刀子	覆上 刀身部片	長 8.4 厚 0.5 幅 2.3 重 16.5		錆化が進み、内部が空洞化している。	
7号住居							
挿入番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第24図	1	土師器 杯	覆上 口縁部～底部片	口 14.7	細砂粒/良好/ ぶい・赤褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下平から底部は 手持ちへう削り。	
第24図	2	須恵器 杯	覆上 底部片	底 8.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り 後周面を回転へう削り。	
第24図	3	須恵器 短頸甕	覆上 胴部片	胴 14.4	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部下平から底部は 回転へう削り。	
第24図	4	須恵器 甕	覆上 胴部片		細砂粒/還元焰/ 灰	外面に平行明き痕、内面は残存片の上位と中位 以下異なるアテ貝殻が使用されている。	
第24図	5	須恵器 甕	覆上 胴部片		細砂粒/還元焰/ 灰	外面に平行明き痕、内面はアテ貝殻が残るが、 一部へうナデ。	
第24図	6	須恵器 片面碗	覆上 1/3	径 12.3×11.2 高 2.6	微砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形/底部はへうナデ、周縁部回転へう削 り。	16号住居、37号溝出 上の破片と検合。
8号住居							
挿入番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第26図	1	土師器 埴	南部・3.1 2/5	口 9.2 高 4.3 底 6.0	細砂粒/良好/ ぶい・橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちへう削り。 口縁部横ナデ範囲不鮮明。	
第26図	2	土師器 杯	覆上 口縁部片	口 13.8 径 10.5	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部横ナデ、体部(梗下)から底部は手持ち へう削り。	有段口縁杯
第26図	3	土師器 杯	覆上 口縁部片	口 13.9 径 13.0	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部横ナデ、体部(梗下)から底部は手持ち へう削り。	内外面漆塗。

第44表 遺物観察表(3)



遺物観察表

検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第26図	4	土師器 杯	南部*9.7 口縁部片	口 14.0 径 12.8	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部横ナデ、腰部(稜下)から底部は手持ちへう削り。	内外面漆塗り。 有段口縁部
第26図	5	須恵器 須恵器 環	北部*8.4 1/5	口 11.9 高 3.6 底 8.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は中央部が手持ちへう削り。周縁部は回転へう削り。	
第26図	6	須恵器 杯	覆土 口縁部～腰部片	口 14.9	細砂粒/還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。腰部下位は手持ちへう削り。	
第26図	7	土師器 甕	西壁際*6.5 口縁部～胴部上位片	口 12.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面胴部はへうナデ。	
第26図	8	土師器 甕	中央付近*3.3～10.8 底部～胴部下位片	底 6.8	細砂粒/良好/赤褐色	胴部と底部はへう削り。内面はへうナデ。	
第26図	9	須恵器 甕	覆土 口縁部下位小片		細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	外面は凹縁の上位が縦方向のカキ目、内面はへうナデ。	
11号住居							
検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第28図	1	土師器 鉢	中央西*10.7 1/4	口 13.2 高 8.2	細砂粒/良好/黒褐色	外面に輪軸み痕が残る。口縁部は横ナデ、腰部は上位から中位がナデ、下半から底部は手持ちへう削り。内面底部はへうナデ。	
第28図	2	土師器 高杯	覆土 腰部片		細砂粒/良好/にぶい赤褐色	杯身と脚部は接合。脚部は外面がへう削り、内面はナデ。	
第28図	3	須恵器 杯蓋	中央西*12.3 口縁部～天井部片	口 11.0	細砂粒/酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は回転へう削り。	
第28図 PL.58	4	須恵器 杯蓋	覆土 1/2	口 13.5 高 5.2	細砂粒/還元焰/にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転左回り。天井部は手持ちへう削り。	内面の状態から杯身の可能性もある。
第28図 PL.58	5	須恵器 杯身	南壁際*9.1 1/2	口 12.0 高 5.0 底 8.6	細砂粒/還元焰/にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部から腰部下半は手持ちへう削り。	
第28図	6	須恵器 杯	南壁際*9.1 底部～腰部片	底 10.4	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部から腰部下位は手持ちへう削り。	
第29図 PL.58	7	須恵器 鉢	北壁際*7.2 1/3	口 ー 高 11.2 底 11.1 14.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。口縁部に凹縁による区画、区画内に波状文が施される。内面下位はへう削り。	口縁部のふみか激しい。
第29図 PL.58	8	土師器 甕	覆土 胴部一部欠損	口 18.1 高 14.0 底 5.7 孔 2.4	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り、底部に木葉痕が残る。内面胴部はへうナデ。	
第29図 PL.59	9	土師器 甕	北壁・中央*4.1 ～12.5 ほぼ完形	口 20.3 高 30.4 底 7.7 胴 27.9	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部上半がナデ、下半はへう削り、底部は木葉痕が残る。内面胴部はへうナデ。	
第29図 PL.59	10	土師器 甕	西部*2.4～14.1 1/2	口 21.6 高 33.0 底 3.7	細砂粒・粗砂粒/良好/赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへう削り。内面胴部はへうナデ。	
第29図 PL.59	11	須恵器 甕	中央北*1.8～13.1 口縁部～腰部	口 46.3 径 34.0	細砂粒/還元焰/灰	口縁部ロクロ整形、頸部に補強の粘土紐が貼付。外面は縦位のカキ目後上半を凹縁によって3段に区画、内部に波状文が施される。内面下位はへうナデ。	頸部補強は矩形をしていない。
12号住居							
検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第31図	1	土師器 杯	西隅*0.4 口縁部～腰部片	口 11.9	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、腰部上半ナデ、下半から底部は手持ちへう削り。	
第31図	2	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 13.5	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、腰部上半ナデ、下半から底部は手持ちへう削り。	
第31図 PL.60	3	須恵器 杯	東隅*21.8 1/2	口 12.2 高 3.6 底 7.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へう削り。	
第31図	4	須恵器 高盤	覆土 腰部片	脚 12.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。脚部は貼付。	
第31図	5	土師器 甕	西隅*0.4 口縁部～胴部中位片	口 24.0 胴 25.3	細砂粒/良好/褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面胴部はへうナデ。	
13号住居							
検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第32図 PL.60	1	土師器 杯	覆土 1/2	口 12.0 高 3.4 底 10.2	細砂粒/良好/灰褐色	口縁部横ナデ、腰部ナデ、底部手持ちへう削り。	
第32図	2	黒色土器 碗	覆土 底部片		細砂粒/酸化焰/にぶい赤褐色	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へう削り。内面はへう磨き。	

第45表 遺物観察表(4)

検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第32図 PL.60	3	須臾器 杯蓋	覆土 天井部片	横 4.4	細砂粒/還元焰/ 黄灰	ロクロ整形。回転右回り。組みは貼付、天井部 は中程まで回転へう割り。	内面に黒書。一部に ススが付着。
第32図	4	須臾器 杯	覆土 口縁部～体部片	口 12.7	細砂粒/還元焰/ 黄灰	ロクロ整形。回転方向不明。	底部は疑似高台状。
第33図	5	土師器 甕	覆土 口縁～胴部上位片	口 21.8	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう割り。内 面胴部はへうナデ。	
第33図	6	須臾器 甕	内塚壁+6.1 頸部～胴部上位片		細砂粒/還元焰/ 黄灰	頸部内面に腹方向のナデ、胴部は外面に平行印 き痕。内面に同心円状アテ具痕が残る。	
14A号住居							
検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第36図	1	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 12.4 高 5.4 横 12.4	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部横ナデ、体部(椀下)から底部は手持ち へう割り。	
第36図	2	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 12.0 横 10.6	細砂粒/良好/粗	口縁部横ナデ、体部(椀下)から底部は手持ち へう割り。	底部にススが付着。
第37図 PL.60	3	土師器 甕	甕右前+9.6 口縁部～胴部中位 片	口 20.8	粗砂粒/良好/に ぶい黄橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、 胴部はへう割り。内面胴部はへうナデ。	
15号住居							
検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第38図	1	土師器 杯	覆土 2/5	口 13.2 高 4.1	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ。下半から底部は 手持ちへう割り。	
第38図 PL.60	2	須臾器 杯	南部中央+8.3 底部～体部	底 11.6	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。回転左回り。高台は貼付、底部は 回転へう割り。	
16号住居							
検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第40図	1	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 14.5	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部横ナデ、体部(椀下)から底部は手持ち へう割り。	
第40図	2	土師器 杯	覆土 1/3	口 14.8 横 12.6	細砂粒/良好/粗	口縁部横ナデ、体部(椀下)から底部は手持ち へう割り。	
第41図	3	土師器 杯	覆土 1/4	口 18.8	細砂粒/良好/赤 褐	口唇部横ナデ。口縁部、体部から底部は手持ち へう割り。内面は放射状へう磨き。	
第40図	4	須臾器 杯蓋	覆土 口縁部～天井部片	口 17.0	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/黄灰	ロクロ整形。回転右回り。組みは貼付、天井部 中央は回転へう割り。	
第40図	5	須臾器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 13.7 底 9.9	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転へう割り。	
第40図 PL.60	6	須臾器 杯	甕左前+6.3 ほぼ完形	口 14.0 高 3.6 底 7.6	細砂粒/酸化焰/ 灰黄褐	ロクロ整形。回転右回り。底部から体部下半は 回転へう割り。	
第40図	7	須臾器 杯	覆土 1/3	口 14.0 高 3.6 底 7.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形。回転左回り。底部から体部下位は 回転へう割り。	
第41図	8	須臾器 杯	中央南+13.6 口縁部～底部片	口 14.7 高 3.3 底 11.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形。回転右回り。底部から体部下位回 転へう割り。	
第41図	9	須臾器 杯	覆土 1/5	口 15.8 高 3.3 底 14.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形。回転右回り。底部は手持ちへう割り。	
第41図	10	須臾器 杯	覆土 1/3	口 14.4 高 4.4 底 5.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。回転右回り。底部から体部下位は 手持ちへう割り。体部に使用時の擦れ。	
第41図 PL.60	11	須臾器 碗	覆土 2/5	口 17.2 高 5.8 底 7.3	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。回転右回り。底部は手持ちへう割り。	
第41図	12	須臾器 鉢	覆土 底部～体部下位片		細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形か。底部はへう割り。内面はへうナデ。 外面に他個体片付着。	内面に降灰と窯壁片 が付着。
第41図 PL.60	13	須臾器 直	中央北+42.4 底部～胴部	胴 21.6	細砂粒/還元焰/ 灰白	胴部上半はロクロ整形。中位にはカキ目、下位 から底部には格子目状印き痕が残る。内面は底 部から胴部中位がへうナデ。	
第41図 PL.60	14	土師器 甕	南東隅 口縁部～胴部上位 片	口 14.7	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう割り。内 面胴部はへうナデ。	
第41図 PL.60	15	土師器 甕	北・東・南壁-2.8 ～+4.8 口縁部～胴部中位 片	口 23.5	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう割り。内 面胴部はへうナデ。	外面胴部に粘土着 力所有り。
第41図	16	土師器 甕	覆土 口縁部～胴部上位 片	口 22.5	細砂粒/良好/粗	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう割り。内 面胴部はへうナデ。	

第46表 遺物観察表(5)

遺物観察表

検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第41図 Pl.60	17	土師器 甕	甕前-0.7~+4.6 口縁部~胴部上位片	□ 22.6	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	
第42図	18	土師器 甕	東壁際 口縁部~胴部上位片	□ 23.2	細砂粒/良好/明赤褐	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	外面胴部に粘土付着。
第42図	19	土師器 甕	覆土 口縁部~胴部上位片	□ 23.5	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	
第42図	20	土師器 甕	甕右前+0.3、+1.4 口縁部~頸部片	□ 23.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	
第42図	21	土師器 甕	甕左前+3.8 口縁部~胴部上位片	□ 23.6	細砂粒・粗砂粒 少/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	
第42図	22	須恵器 甕	甕土+14.1~16.0 口縁部片	□ 15.2	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。口唇部と口縁部に各1段の波状文が認められる。	
第42図	23	須恵器 甕	西壁際 口縁部片	□ 38.2	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/灰	口縁部はロクロ整形、頸部に補強帯が附付。口縁部は上半が凹縁によって4段に区画、最上位を除き波状文が流る。内面は下半がへらナデ。	

17号住居

検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第43図 Pl.61	1	土師器 坏	東壁際+9.7 ほぼ完形	□ 12.4 高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら削り。	
第43図 Pl.61	2	土師器 坏	東部+0.7 4/5	□ 13.0 高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら削り。	
第43図	3	土師器 坏	西部+5.2 2/5	□ 13 高 3.3	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちへら削り。	
第43図	4	土師器 坏	東部+2.2 1/4	□ 12.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちへら削り。	
第44図	5	須恵器 鉢	東壁際+17.3 口縁部片	□ 31.8	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転方向不明。口唇部は矩形状を呈し、口縁部下位に2条の凹縁。	
第44図 Pl.61	6	土師器 甕	甕内-2.5 2/3	□ 13.4 高 15.1 底 7.8 胴 17.4	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	
第44図	7	土師器 甕	甕右袖-0.1~2.0 口縁部~胴部中位片	□ 24.8	細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	
第44図	8	須恵器 甕	甕土 胴部片		細砂粒/還元焰/ 灰	外面は格子目状甲子痕、内面はアテ具痕が残る。	

18号住居

検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第46図	1	土師器 坏	西壁 口縁部~底部片	□ 11.6 横 12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへら削り。	内外面とも漆塗り。
第46図	2	土師器 坏	覆土 口縁部~底部片	□ 13.7 横 14.9	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへら削り。	内外面とも漆塗り。
第46図	3	土師器 坏	西壁 1/2	□ 11.2 高 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちへら削り。	38号溝出土の破片と適合。
第46図	4	須恵器 坏器	中央東+26.1 1/4	□ 13.7 高 4.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は中程まで手持ちへら削り。	内面の摺れ状態から身に転用使用か。
第46図 Pl.61	5	須恵器 坏身	西壁 ほぼ完形	□ 7.7 高 3.4	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちへら削り。	
第46図	6	土師器 甕	覆土 底部~胴部片	底 10	細砂粒/良好/橙	底部はへらナデ、胴部はへら削り。内面はへらナデ。	
第46図	7	須恵器 甕	覆土 胴部片		細砂粒/還元焰/ 灰	外面は平行甲子痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

9号土坑

検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第48図 Pl.61	1	在地系土器 片口鉢	覆土 1/5	□ 38.0	//浅黄	体部下位外反し、口縁部内湾。体部内面下位使用により摩滅、体部下端顕著な摩滅により窪む。	15世紀。

第47表 遺物観察表(6)

14号土坑

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第49図	1	在地系土器 片口鉢	覆土 片口部のみ		//淡赤橙～浅黄	口縁部直線的に伸、端部は肥厚しない。	中世。

15号土坑

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第49図 PL.61	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片		粗砂、白色・黒色粒/普通/鈍い黄褐色	帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	称名寺Ⅱ式。

23号土坑

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第51図	1	土師器 杯	覆土 1/3	口 14.7	細砂粒/良好/黄灰	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちへラ削り。	内面には全面ススが付着。

1号竪戸

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第55図	4	銅銭		径 2.430～2.433 重 3.74g			元祐通寶 北宋 1086年初鋳 行書
第55図	5	銅銭		径 2.276～2.278 重 3.44g			洪武通寶 明 1368年初鋳 背一銭
第55図	6	銅銭		径 2.421～2.426 重 2.94g			太平通寶 北宋 976年初鋳
第55図	7	銅銭		径 2.483～2.491 重 3.00g			皇宋通宝 北宋 1038年初鋳
第55図	8	銅銭		径 2.466～2.481 重 3.45g			祥符元寶 北宋 1008年初鋳
第55図	9	銅銭		径 2.380～2.391 重 3.33g			元豊通寶 北宋 1078年初鋳
第55図	10	銅銭		径 2.337～2.344 重 4.13g			洪武通寶 明 1368年初鋳

1号井戸

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第56図	1	木器 曲物	埋土 底板1/2	長 17.0 厚 1.6 幅 7.3			スギ。
第57図 PL.61	2	在地系土器 皿	埋土 口縁部1/3、底部完	口 7.8 高 2.2 底 3.7	//明褐色	口縁部僅かに内湾、右回転糸切無調整、板状厚。見込み指撫で。	14世紀後半。
第57図 PL.61	3	在地系土器 皿	埋土 1/2	口 11.1 高 3.0 底 5.9	//赤褐色	右回転糸切無調整。見込み指撫で。	14世紀後半。
第57図	4	常滑陶器 甕	埋土 口縁部片		//褐色	口縁部「N」字状を呈する。上面と胴部外面自然釉。内面器表鈍い赤褐色。	13世紀後半。66型式。
第57図	5	常滑陶器 甕	埋土 口縁部片		//褐色	口縁部外面の縁帯下方に延び、上方は小さく立ち上がる。器表鈍い赤褐色。	14世紀後半から15世紀前半。89型式。
第57図	6	常滑陶器 甕?	埋土 胴部片		//褐色	外面自然釉厚かかかる。内面器表鈍い赤褐色。	中世。6号溝5と同一個体か。
第57図	7	常滑陶器 甕?	埋土 底部片	底 20.0	//明褐色	体部外面下端削り。内面板状工具による調整後に撫で。外面器表鈍い赤褐色。	中世。22・34号溝出土片と接合。8と同一個体か。
第57図	8	常滑陶器 甕?	埋土 底部片	底 20.0	//明褐色	体部外面下端削り。内面板状工具による調整後に撫で。外面器表鈍い赤褐色。	中世。22号溝出土片と接合。7と同一個体か。
第57図	9	常滑陶器 甕	埋土 底部片	底 24.0	//明褐色	体部凹く。内面自然釉斑点状にかか。器表鈍い赤褐色。	中世。1号井戸10、3号溝5、4号溝3、6号溝2・3・4と同一個体か。
第57図	10	常滑陶器 甕	埋土 胴部片		//褐色	外面自然釉斑点状にかか。外面叩き目と考えられる段差あり。器表鈍い赤褐色。	中世。1号井戸9、3号溝5、4号溝3、6号溝2・3・4と同一個体か。
第57図	11	尾張型片口鉢	埋土 口縁部片		//褐色	口縁端部に凹線部。内面自然釉かかかる。	尾張型片口鉢7・8型式。13世紀後半から14世紀前半。5号溝3と同一個体か。

第48表 遺物観察表(7)

遺物観察表

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第57図 PL.61	12	在地系土器 火舎か	埋土 1/6	口 34.2	//にぶい橙	盤形火鉢か火舎。口縁部外反し、内面に突帯貼り付け。	14世紀か。4号溝27と同一個体か。
第58図	13	在地系土器 片口鉢	埋土 片口部片		//灰白	口縁部回転横溝で。片口部のため形不明。	15世紀中から後半。
第58図	14	在地系土器 片口鉢	埋土 片口部片		//灰白	口縁部回転横溝で。片口部のため形不明。体部内面下位すり鉢としての使用痕あり。口縁部内面厚減。器表灰色。	14世紀後半。
第58図	15	在地系土器 片口鉢	埋土 口縁部片		//灰白	口縁部回転横溝で。口縁部内面厚減。器表灰色白色から灰色。	15世紀前半か。
第58図	16	在地系土器 片口鉢	埋土 体部下位片		//灰白	内面にすり鉢としての顕著な使用痕。器表灰色。	中世。3号溝7と同一個体か。
第58図	17	常滑陶器 片口鉢?	埋土 底部から体部片	底 14.4	//赤灰	体部外面斜指頭状圧痕。内面平滑。鉢口類か。断面中央以外赤褐色。	中世。
第58図	18	在地系土器 片口鉢	埋土 底部から体部片	底 13.0	//赤橙	器表剥離。割れ口やや厚減。	中世。
第58図	19	在地系土器 すり鉢	埋土 底部から体部片		//灰黄褐	内面すり目密に入る。	17世紀か。
第58図	20	在地系土器 すり鉢	埋土 体部下位片		//にぶい黄褐	内面に粗いすり目入る。	15世紀後半から16世紀。
第58図	21	須恵器 甕	埋土 口縁部片	口 25.0	細砂粒/還元焼/灰	口縁部はロクロ整形。内面は頸部がヘラナデ。	
第58図 PL.61	22	石製品 石鉢	埋土	口 38.2		表裏両面とも工具痕が著しい。口縁部内外面は磨き仕上げ。	粗粒輝石安山岩。
第58図 PL.61	23	石製品 石臼	埋土 上白1/2	口 26.8		分画数不明。溝の切り直し顕著。副溝は2~3cm間隔で刻まれているが、部分的に間を埋めるよう切り直し前の副溝が残る。	粗粒輝石安山岩
第58図 PL.61	24	石製品 茶臼	埋土 下白1/2	高 9.6		8分画。幅2mm前後の副溝7~9を刻む。芯棒孔は径2cm。はんざり径は不明。副溝の切り直し顕著。	粗粒輝石安山岩

1号溝

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第59図 PL.61	1	土師器 高杯	覆土 坏身部1/2片	口 11.0	細砂粒・褐色粒/良好/明焼	口縁部は内外面ともヘラ磨き。器面厚減のため単位不鮮明。底部はヘラ削り。	
第59図	2	土師器 高杯	覆土 脚部片	脚 9.4	細砂粒/良好/灰褐	内面脚部に輪積み痕が残る。脚部はヘラ削り。瓶部は横ナデ。内面脚部はナデ。	
第59図	3	土師器 高杯	覆土 脚部片		細砂粒/良好/橙	脚部内面に輪積み痕が残る。外面は器面厚減のため単位不鮮明。内面はナデ。	
第59図	4	土師器 高杯	覆土 脚部片		細砂粒/良好/にぶい橙	脚部内面に輪積み痕が残る。脚部はヘラ磨き。内面はナデ。	
第59図	5	土師器 高杯	覆土 脚部片		細砂粒/良好/にぶい赤褐	脚部内面に輪積み痕が残る。脚部はヘラ削り。内面はナデ。	

2号溝

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第61図	1	土師器 坏	覆土 2/5	口 11.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ。下半がナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.61	2	土師器 坏	覆土 3/5	口 12.7 高 4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ。下半がナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面放射状暗文。	内面体部にススが付着。
第61図	3	土師器 高杯	覆土 坏身~脚部片	口 20.0 底 10.0	細砂粒/良好/にぶい橙	坏身と脚部は接合。坏身口縁部は横ナデ。底部はヘラ削り。内面は脚部がナデ。	
第61図	4	土師器 高杯	覆土 坏身底部~脚部片	脚 13.2	細砂粒/良好/橙	内面脚部に輪積み痕が残る。坏身と脚部は接合。坏身底部はヘラ削り。接合部は横ナデ。脚部はヘラ磨き。瓶部は横ナデ。内面は脚部がナデ。	
第61図	5	土師器 高杯	覆土 坏身底部~脚部片	脚 16.0	細砂粒/良好/橙	坏身と脚部は接合。坏身底部から脚部はヘラ削り。瓶部は横ナデ。内面は脚部がナデ。	
第61図	6	土師器 高杯	覆土 坏身底部~脚部片		細砂粒/良好/にぶい橙	坏身と脚部は接合。底部はヘラ削り。脚部はナデ。瓶部は横ナデ。内面は脚部がナデ。	
第61図	7	土師器 高杯	覆土 脚部片		細砂粒/良好/にぶい橙	坏身と脚部は接合。脚部はナデ。瓶部は横ナデ。内面は脚部がナデ。	
第61図	8	土師器 甕	覆土 底部~胴部下位片	底 6.6	細砂粒/良好/橙	底部から胴部下位はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

第49表 遺物観察表(8)

## 3号溝

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第62図	1	古瀬戸 底卸皿	覆土 口縁部から体部片	口 17.1	//灰白	口縁部小さく内湾して開く。内面から体部外面 下位灰輪。外面下端高台に近い。	古瀬戸中1期。13世 紀末から14世紀初。
第62図	2	古瀬戸 桶	覆土 口縁部片		//褐灰	口縁部水平に近く屈曲。外面2条の凹線。内外 面鉄輪。輪薄く、赤褐色地に黒色が流下するよ うに見える。	古瀬戸後4期。15世 紀中頃から後半。3、 4と同一個体か。
第62図	3	古瀬戸 桶	覆土 体部下端片		//褐灰	体部下位湾曲。外面上部鉄輪。内面踏輪状の輪 筋状にかかる。	古瀬戸後期様式。15 世紀。2、4と同一 個体か。
第62図	4	古瀬戸 桶	覆土 体部下位片		//褐灰	外面浅い凹線。外面と内面上半鉄輪。鉄輪は赤 褐色地に黒色が流下する。内面下半は踏輪。	古瀬戸後期様式。15 世紀。2、3と同一 個体か。
第62図	5	常滑陶器 罌	覆土 肩部片		//明褐色	外面斑状に自然輪不明。肩部外面押印状の段 差あるが、文様不明。	中世。1号并戸9・ 10、3号溝5、4号 溝3、6号溝2・3・ 4と同一個体か。
第62図	6	在地系土器 内耳罌	覆土 体部片		//鈍い黄橙	内面上端に段差。	中世。
第62図	7	在地系土器 片口鉢	覆土 体部下位片		//灰白	内面下半すり鉢としての使用痕あり。下端は顕 著に磨り減る。	中世。1号并戸16と 同一個体か。
第62図	8	在地系土器 皿	覆土 1/3	口 12.8 高 4.1 底 7.2	//鈍い黄橙	轆轤右回転調整。回転糸切調整後に圧着付着。 底部面指撫で。	14世紀後半。1-4 (50号溝として取上 げ)。
第62図	9	須恵器 罌	覆土 口縁部～胴部上位 片	口 19.5	細砂粒/還元焰/ 灰オリーブ	口縁部口クロ整形。上位に2段の波状文が間隔を あけずに施文。胴部は外面に叩き痕、内面にア テ具痕が残る。	

## 4号溝

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第65図 PL.62	1	古瀬戸 盤類	覆土 口縁部片	口 27.6	//灰白	内外面薄い灰輪。口縁部外面波状突帯貼付。体 部外面函花文。	古瀬戸中1・II期。 13世紀末から14世 紀前半。遺構外出土 6と同一個体か。
第65図	2	常滑陶器 片口鉢	覆土 口縁部片		//灰褐	口縁部回転横線で調整。口縁端部内外面小さく 突き出る。口縁端部上面凹線状に窪む。II期。	14世紀後半。8型式。
第65図 PL.62	3	常滑陶器 罌	覆土 口縁部1/4	口 54.0	//黄灰	器表暗赤褐色から明赤褐色。口縁部幅広の縁帯 をなすが、上方の立ち上がりやや高い。下方の 縁帯肩部と離れ、端部は小さく外反。	14世紀後半。1号并 戸9・10、3号溝5、 6号溝2・3・4と 同一個体か。
第66図	4	常滑陶器 罌	覆土 口縁部片		//灰黄	口縁部小さい「N」字状。	13世紀後半。6型式。
第66図	5	瀬美陶器 罌	覆土 肩部片		/やや不良/灰黄	轆轤まり強い。	12世紀。6～9と同 一個体か。
第66図	6	瀬美陶器 罌	覆土 体部片		/やや不良/灰黄	内面器表薄く剥落。	12世紀。5、7～9 と同一個体か。
第66図	7	瀬美陶器 罌	覆土 体部片		/やや不良/灰黄	外面叩き目あり。	12世紀。5・6・8・ 9と同一個体か。
第66図	8	瀬美陶器 罌	覆土 体部片		/やや不良/灰黄	内面器表薄く剥落。	12世紀。5～7・9 と同一個体か。
第66図	9	瀬美陶器 罌	覆土 体部片		/やや不良/灰黄	外面叩き目あり。	12世紀。5～8と同 一個体か。
第66図	10	瀬入系土器 火鉢	覆土 口縁部片		灰白色で夾雑物 少ない/黒灰	長方形の火鉢であろう。口縁部外面乳状貼付文、 突帯、雷文部状の方形渦巻文施す。	中世。11、12、13と 同一個体か。
第66図	11	瀬入系土器 火鉢	覆土 口縁部片		灰白色で夾雑物 少ない/黒灰	長方形の火鉢であろう。口縁部外面乳状貼付文、 突帯を施す。雷文帯の無いので推しが認められる。	中世。10、12、13と 同一個体か。
第66図	12	瀬入系土器 火鉢	覆土 体部片		灰白色で夾雑物 少ない/黒灰	長方形の火鉢であろう。外面体部下位に突帯1 条。	中世。10、11、13と 同一個体か。
第66図	13	瀬入系土器 火鉢	覆土 体部から底部片		灰黄色で夾雑物 少ない/黒灰	長方形の火鉢であろう。体部外面下位突帯。脚 貼り付け。	中世。10、11、12と 同一個体か。
第66図	14	瀬入系土器 火鉢	覆土 脚部片		灰白色で夾雑物 少ない/黒灰	上部には底部内面が一部残る。	中世。
第66図	15	瀬入系土器 火鉢	覆土 脚部片		灰白色で夾雑物 少ない/黒灰	ほぼ貼付部で剥落。内面に体部と底部の貼付 痕残る。	中世。

第50表 遺物観察表(9)

遺物観察表

種目番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第66図	16	在地系土器 蓋か	覆土 1/7		//橙	口縁部荒れており、内成形されている可能性高い。天井部やや盛りあがる。つまみ貼付時の撫で痕認められない。	時期不詳。
第66図	17	在地系土器 香炉	覆土 1/7	口 11.0 高 5.0	//明黄緑	体部から口縁部ほぼ直立。外面体部と底部境脚貼り付け。残存する脚は1箇所だが、3箇所貼り付けか。	時期不詳。
第67図	18	在地系土器 皿	覆土 底部	底 3.8	//鈍い黄橙	右回転糸切無調整。底部外面板状圧痕。底部内面指撫で。	中世。
第67図	19	在地系土器 皿	覆土 底部	底 4.6	//鈍い橙	右回転糸切無調整。底部外面板状圧痕。底部内面器表厚減のため指撫で不明。	中世。
第67図	20	在地系土器 皿	覆土 底部	底 4.6	//鈍い橙	右回転糸切無調整。底部外面板状圧痕。底部内面指撫で。	中世。
第67図	21	在地系土器 片口鉢	覆土 口縁部片	口 25.2	//灰黄	口縁部回転横撫で。口縁部内外面欠損多い。内面下部僅かに厚減。	14世紀?
第67図	22	在地系土器 片口鉢	覆土 口縁部片		//灰黄	口縁部回転横撫で。口縁部内面厚減。	14世紀後半。
第67図	23	在地系土器 片口鉢	覆土 口縁部片	口 33.5	//鈍い黄橙	口縁部回転横撫で。内面撫で。口縁部内湾する。外面口縁部下凹線状に窪む。器表付近灰黄色。	14世紀前半。
第67図	24	在地系土器 片口鉢	覆土 口縁部片		//灰白	器表青灰色。口縁部端玉縁状に先端を丸くおさめる。	14～15世紀。
第67図	25	在地系土器 片口鉢	覆土 口縁部片		//浅黄	外面器表青灰色。口縁部肥厚し、やや内湾する。内面器表薄く剥離。	14世紀後半。
第67図	26	在地系土器 片口鉢	覆土 体部片		//浅黄	内面撫で調整。外面成形時の凹凸残る。	中世。
第67図	27	在地系土器 火舎か	覆土 口縁部片		//鈍い橙	盤形火鉢か火舎。口縁部外反し、内面に突帯脚り付け。	14世紀か。
第67図	28	在地系土器 内耳罎	覆土 口縁部片		//灰黄	胎土は器表から黒、鈍い橙、黒のサンドイッチ状。口縁部端やや厚押し。端部を水平にする。	15～16世紀。
第67図	29	在地系土器 内耳罎	覆土 体部片		//鈍い黄橙	器壁やや厚い。口縁部下位内面鈍い段差。丸底か。	16世紀か。
第67図	30	在地系土器 内耳罎	覆土 1/6	底 17.0	//鈍い橙	平底。体部下位内湾。平底。	中世。
第67図	31	在地系土器 不詳	覆土 1/4	口 26.6	//鈍い黄緑	内外面丁寧な横撫で調整。外面板状黒色物付き。	中世以降。
第67図	32	在地系土器 不詳	覆土 口縁部片		//黒灰	胎土鈍い橙色。口縁部外傾し、内面には段差がある。口縁部回転横撫で。器壁厚い。	時期不詳。
第67図 Pl.62	33	石製品 板碑片か	覆土	長 9.2 高 幅 4.3		板碑片?の端部に著しい摩耗痕。表面側に打痕・摩耗痕がある。側縁を粗く加工。裏面側のキズはガジリ。	緑色片岩。
第67図 Pl.62	34	石製品 石鉢	覆土	口 30.0 高 9.9 底 18.4		外面腕位工具痕、口唇部・内面は磨き仕上げ。	粗粒輝石安山岩
5号溝							
種目番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第68図	1	美濃陶器 小碗	覆土 1/3	口 5.7 高 2.5 底 2.8	//鈍い黄橙	内面から高台輪状痕。貫入あり。	登窯8・9小期。18世紀後半から19世紀前半。
第68図	2	常滑陶器 塼	覆土 口縁部片		//青灰	口縁部外方に引き出さず縁部をなす。口縁部外面自然輪。	13世紀後半。6a、6b型式。
第68図	3	尾張型 片口鉢	覆土 体部片		//灰白	内面上部自然輪かかる。	中世。1号井戸11と同一個体か。
6号溝							
種目番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第70図 Pl.62	1	古瀬戸 細口付大皿	覆土 1/4	底 5.8	//灰白	体部内面御目。底部外面中央回転糸切痕残る。貼付脚一箇所残存。	古瀬戸後IV期か。15世紀中世。
第70図	2	常滑陶器 塼	覆土 口縁部から肩部		//青灰から灰白	口縁部幅広の縁部をなすが、上方の立ち上がりやや高い。下方の縁部頂部と離れ、端部は小さく外反。	14世紀後半。8型式。1号井戸9・10、3号溝5、4号溝3、6号溝3・4と同一個体か。
第70図	3	常滑陶器 塼	覆土 肩部片		//青灰	器表鈍い橙。外面に甲き目状の圧痕があるが、内面は無文。	中世。1号井戸9・10、3号溝5、4号溝3、6号溝2・4と同一個体か。

第51表 遺物観察表(10)

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第70図	4	常滑陶器 甕	覆上 底部片	底 19.8	//褐灰	体部開く。内面自然釉痕点状に付着。器表鈍い赤褐色。	中世。1号井戸9・10、3号溝5、4号溝3、6号溝2・3と同一個体か。
第70図	5	常滑陶器 甕	覆上 口縁部片	口 11.8	//灰白	口縁部丸くおさめるが、外面下部外方に尖る。口縁端部から内面自然釉痕かかる。器表灰黒色。	15世紀後半。1号井戸6と同一個体か。
第70図	6	在地系土器 片口鉢	覆上 1/6	口 27.8	//灰白	器表青灰色。口縁端部灰み気味。器表部分的に剥落。	14世紀後半。
16号溝							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第72図	1	在地系土器 皿	覆上 体部下位以下	底 5.1	//橙	底部静止糸切無調整。器表厚減。	中世。
第72図 PL.62	2	石製品 手持ち砥石	覆上	長 15.9 幅 5.0		内側面の特に左辺に整形前の分割面が残る。分割面は凹凸が激しく粗く研磨整形後に部分的に使用。側面に「月ならし皿」あり。	砥沢石。
22号溝							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第74図	1	古瀬戸 壺類	覆上 体部片		//褐灰	外面体部上位から内面灰釉。下平副毛塗り。	古瀬戸後Ⅳ期。15世紀中頃から後半。
第74図	2	在地系土器 片口鉢	覆上 体部下位片		//鈍い黄橙	器表黒色。体部外反。体部外面下位指押さえ痕。上位回転撫で調整。内面回転撫で調整。内面下位使用により器表厚減。	中世か。4号溝32と同一個体か。
第74図	3	瀬戸・美濃 磁器端反碗	覆上 口縁一部、底部 1/4	口 9.0 高 4.9 底 3.1	//白色	端反碗。見込み文様不明。	登窯11小期。19世紀中頃。
第74図	4	肥前陶器 碗	覆上 1/6	口 12.1	//灰白	陶胎染付。口縁端部内面僅かに窪む。	18世紀前半。
第75図	5	肥前磁器 端反碗	覆上 1/4～1/2	底 3.4	//白色	端反碗。粗い貫入あり。	19世紀前半から中頃。
第75図	6	肥前磁器 広東形碗	覆上 1/4	底 5.6	//白色	狭頸。貫入あり。	19世紀前半。
第75図	7	製作地不詳 陶器 灯火受台	覆上 1/2	口 8.4 高 4.9 底 5.7	//白色	灰釉。貫入あり。脚台部外面以下無釉。底部外面回転痕あり。	近現代。
第75図	8	瀬戸陶器 すり鉢	覆上 体部上位片		//灰白	内外面磨釉。	登窯1～4小期。17世紀。
第75図	9	十能瓦	覆上 破片		//黄灰	色調、断面中央から灰黄、灰白、黒色のサンドイッチ状。一方は形痕。他方は撫で調整。	近現代。
第75図 PL.62	10	石製品 五輪塔空輪	覆上	径 24.2 高 15.8		最大径は器体中央。正面縁は右下がりが、裏部中央付近に横位工具痕。正面上半は磨き仕上げ	粗粒輝石安山岩。
27号溝							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第78図	1	古瀬戸 平碗	覆上 3/4	口 6.0	//灰黄	内面から高台輪灰釉。貫入あり。底部回転糸切高台貼付。	古瀬戸中Ⅲ期。14世紀前半から中頃。
33号溝							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第80図 PL.62	1	手掛土器 埴形	覆上 口縁部1/3欠損	口 6.8 高 4.8 底 5.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。体部から底部はヘラナデ。内面体部から底部はナデ。	ミニチュア
第80図	2	須恵器 坏蓋	覆上 揃み～天井部片	幅 5.2	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形。回転右回り。揃みは貼付。天井部は中程まで回転ヘラナデ。	
第80図 PL.62	3	須恵器 塊	覆上 3/5	口 13.4 高 6.5 底 8.4	細砂粒/還元焰/ 灰黄褐	ロクロ整形。回転右回り。高台は貼付。底部は回転ヘラナデ。	
34号溝							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第82図	1	常滑陶器 甕	覆上 体部片		//黄灰	外面叩き目。器表灰褐色。内面漆状黒色物付着。	中世。
第82図	2	常滑陶器? 甕	覆上 肩部片		//灰黄	肩部外面自然釉。漆痕も痕あり。	中世。
第82図	3	土師器 台付甕	覆上 脚部片	脚 10.6	細砂粒/良好/ ぶい橙	外面脚部に輪積み痕が残る。脚部は貼付。外面は横ナデ。内面はヘラナデ。	

第52表 遺物観察表(11)



遺物観察表

43号溝							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第85図	1	手押杖上部 埴形	覆土 1/5	口 8.7 高 5.5 底 7.4	細砂粒/良好/灰 褐色	口縁部から体部はヘラナデ。	
44号溝							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第87図 PL.62	1	尾張陶器 小皿	覆土 1/3	口 8.0 高 1.9 底 6.1	//灰白	底部右回転糸切無調整。見込指渡。内面底部 四縁窪む。山肌。	尾張型6型式。13世 紀前半から中頃。
第87図	2	須恵器 襷	覆土 白縁部片		細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。口縁部下位に凹縁。その上位に波 状文。内面は下半がヘラナデ。	
52号溝							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第89図	1	古瀬戸 袴腰形香炉	覆土 1/2	底 6.7	//灰白	體部外面に灰蝕。内面と底部外面無蝕。貼付脚 に箇所残存。	古瀬戸後1・2期。 14世紀後半から15世 紀初。
13号溝							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第93図 PL.62	1	土師器 高坏	覆土 1/2	口 12.4 高 11.4 底 8.0 脚 13.0	細砂粒/良好/ ぶい澄	坏身と脚部は接合。口縁部は縦方向ハケ目後横 ナデ。脚部はハケ目。裾部は横ナデ。内面脚部 はナデ。	
第93図 PL.62	2	土師器 高坏	覆土 脚部～坏身底部片	脚 15.8	細砂粒/良好/稍 ぶい澄	坏身と脚部は接合。脚部は全面縦方向へ削磨。 内面はナデ。	
第93図	3	土師器 高坏	覆土 脚部～坏身底部片		細砂粒/良好/明 赤褐色	坏身は内面黒色処理。坏身と脚部は接合。脚部 はヘラナデ。内面はナデ。	
第93図	4	土師器 高坏	覆土 脚部片		細砂粒/良好/ ぶい澄	内面脚部に輪積み痕が残る。脚部はへら削磨。 内面はナデ。	
第93図	5	土師器 合付蓋	覆土 脚部片	脚 10.0	細砂粒/良好/ ぶい澄	脚部は胴部に貼付。外面と内面の周辺部は横ナ デ。内面中央部はナデ。	
第93図 PL.62	6	土師器 不明	覆土 脚部片	脚 10.5	細砂粒/良好/ ぶい黄褐色	内外面ともナデ。	
25号溝							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第110図	1	須恵器 坏	覆土 口縁部4/5欠損	口 12.2 高 3.2 底 7.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り後 はほぼ全面手持ちヘラ削り。	
第110図 PL.63	2	須恵器 埴瓶	覆土 口縁部欠損	胴部径18.0 胴部幅16.7	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。回転右回り。右側面より成形。左 側面で絞り込み閉塞後口縁部を削磨。外面は力 キ目。	
第110図 PL.63	3	須恵器 襷	覆土 口縁部～頸部	口 14.4	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/灰	口縁部はロクロ整形。回転右回り。上位に1段の 波状文。内面下半はヘラナデ。	
第110図	4	須恵器 襷	覆土 底部～胴部下半片		細砂粒/還元焰/ 灰	外面には平行削磨痕。内面には同心円状アケ 痕が残る。	
26号溝							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第110図	1	土師器 埴瓶	覆土 1/4	口 13.6 底 7.0	細砂粒/やや軟 質/ぶい澄	口縁部横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り か。器面厚感のため単位不詳。	
第110図	2	土師器 坏	覆土 1/3	口 15.6	細砂粒/良好/ ぶい澄	口縁部横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第110図	3	須恵器 坏蓋	覆土 天井部～口縁部片	径 13.0	細砂粒・白色粒 /還元焰/灰	ロクロ整形。回転右回りか。天井部は手持ちヘ ラ削り。	外面天井部にヘラ削 磨。
第110図	4	須恵器 埴瓶	覆土 口縁部片	口 12.6 脚 16.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。回転方向不明。罫は貼付。	
第110図	5	須恵器 坏	覆土 1/3	口 17.4 高 4.8 底 11.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。回転左回り。底部は回転ヘラ削り。	
第111図	6	須恵器 埴瓶	覆土 底部片	底 10.2	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形。回転右回り。高台は貼付であるが 剥落。底部と体部下位は回転ヘラ削り。	
第111図	7	須恵器 埴瓶	覆土 口縁部～胴部上位	口 11.6	細砂粒/還元焰/ 灰	口縁部と胴部は接合。口縁部は上位に凹縁による 区画、区画内に1段の波状文。胴部はヘラナデ。 内面は口縁部下半がヘラナデ。	
第112図 PL.63	8	須恵器 埴瓶	覆土 口縁部～頸部欠損	径 15.3 頸 5.3 厚 10.6	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/灰	ロクロ整形。回転左回りか。裏面はナデ。側面 から表面は力キ目。頸部周辺はナデ。	

第53表 遺物観察表 (12)

挿図番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第112図 PL.64	9	須恵器 埴瓶	覆土 胴部片	径 24.2	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。回転方向不明。裏面はナデ。外面 から表面はカキ目。表面中程に1段の波状文が 流る。	
第111図 PL.65	10	須恵器 甕	覆土 1/3	口 37.6 高 72.7 胴 61.2	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/灰	口縁部ロクロ整形。頸部に補強の粘土紐が貼付。 口縁部は凹線によって5段に区画。上位と下位 を除く段位波状文。胴部は外面に平行叩き痕、 内面に同心円状アテ具痕が残る。	
第111図 PL.63	11	須恵器 甕	覆土 口縁部片	口 45.5 胴 30.6	細砂粒/還元焰/ 赤灰	口縁部ロクロ整形。頸部に補強帯が貼付。口縁 部上半は凹線によって段に区画。区画内に波状 文が流る。内面下半はヘラナデ。胴部は外面に 平行叩き痕、内面にアテ具痕がかすかに残る。	
第111図 PL.65	12	須恵器 甕	覆土 口縁部片	口 頸			
第111図 PL.65	13	石製品 砥石	覆土	長 8.5 幅 2.7		上下両端・右辺に面取り整形痕。左辺は磨理面 で破損。この破損は使用過程で生じたものか？	注質粘板岩。
28号溝							
挿図番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第113図 PL.65	1	土師器 杯	覆土 2/3	口 12.7 底 4.3	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は上半が横ナデ。下半がナデ。体部から 底部は手持ちへら削り。	
第113図	2	須恵器 甕	覆土 口縁部～胴部上半 片	口 15.8	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/灰	口縁部はロクロ整形。口縁部には1段の波状文。 胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ 具痕が残る。	
第113図 PL.65	3	須恵器 甕	覆土 口縁部～胴部	口 23.2 胴 41.6	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/灰	口縁部ロクロ整形。中位に凹線。凹線の上下に 波状文が流る。胴部は外面に平行叩き痕、内面 に同心円状アテ具痕が残る。	
29号溝							
挿図番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第113図 PL.66	1	土師器 杯	覆土 1/2	口 12.2 高 3.9	細砂粒/良好/黄 灰	口縁部横ナデ。体部から底部は手持ちへら削り。	
第113図 PL.66	2	須恵器 杯蓋	覆土 3/4	口 18.5 高 3.3 幅 7.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。回転右回り。摘みは貼付。天井部 は中程まで回転へら削り。	
第113図 PL.66	3	須恵器 杯	覆土 3/5	口 12.9 高 3.2 底 7.6	細砂粒/還元焰/ 黄灰	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転系切り無 調整。	
第113図 PL.66	4	須恵器 杯	覆土 完形	口 12.8 高 3.5 底 6.7	細砂粒/還元焰/ 灰	外面体部に輪組み痕が残る。ロクロ整形。回転 右回り。底部は回転系切り無調整。	
第113図 PL.66	5	須恵器 埴瓶	覆土 胴部片		細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。残存能て閉塞。口縁部は貼付。 外面は凹線による区画。区画内に刺突文を流ら す。	
37号溝							
挿図番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第114図	1	土師器 杯	覆土 1/5	口 12.6	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部横ナデ。体部上半ナデ。下半から底部は 手持ちへら削り。	内面口縁部の一部に ススが付着。
第114図	2	土師器 杯	覆土 1/4	口 12.7	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部横ナデ。体部上半ナデ。下半から底部は 手持ちへら削り。	内面底部に漆が付着。
第114図	3	土師器 杯	覆土 2/5	口 12.8 高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。体部上半ナデ。下半から底部は 手持ちへら削り。	内面口唇部にススが 付着。
第114図 PL.66	4	土師器 杯	覆土 3/4	口 13.6 高 3.7	細砂粒。/良好/ にぶい赤褐	口縁部横ナデ。体部から底部は手持ちへら削り。	
第114図 PL.66	5	土師器 杯	覆土 ほぼ完形	口 13.9 高 3.7	細砂粒。/良好/ にぶい赤褐	口縁部横ナデ。体部上半ナデ。下半から底部は 手持ちへら削り。	外面一部と内面に黒 斑状にススが付着。
第114図	6	土師器 杯	覆土 1/3	口 14.1	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部横ナデ。体部上半ナデ。下半から底部は 手持ちへら削り。	
第114図	7	須恵器 甕	覆土 口縁部～胴部片	口 12.1 胴 16.4	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。回転右回り。底部から体部下位は 手持ちへら削り。	
第114図	8	須恵器 甕	覆土 把手片		細砂粒/還元焰/ 灰	外面はカキ目。内面はナデ。	
第114図	9	土師器 甕	覆土 口縁部～胴部上半 片	口 22.9	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部はへら削り。内面胴部は へらナデ。	
第114図	10	須恵器 甕	覆土 口縁部下半片	径 30.6	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/暗灰	口縁部と胴部は接合。頸部に矩形の補強帯が貼 付。外面は上半に凹線による区画。区画内に波 状文が流る。内面はへらナデ。	

第54表 遺物観察表 (13)

遺物観察表

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第114図 PL.66	11	須恵器 甕	覆土 口縁部、胴部～底 部片	□ 28.4 高 51.6 側 50.0	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/暗灰	口縁部ロクロ整形、外面は縦位の力キ目、内面は下平がヘラナデ。胴部は外面に平行叩き敷、内面に同心円状アテ貝痕が残る。	胴部に窯壁、底部に底面土砂が付着。
38号溝							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第115図 PL.67	1	土師器 杯	覆土 口縁部～体部片	□ 10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第115図 PL.67	2	土師器 杯	覆土 2/3	□ 19.0 高 4.7 横 17.0	細砂粒・粗砂粒 /良好/橙	口縁部横ナデ、体部（横下）から底部は手持ちヘラ削り。	
第115図	3	土師器 杯	覆土 口縁部～体部片	□ 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第115図 PL.67	4	土師器 杯	覆土 1/2	□ 12.5 高 3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は放射状暗文。	
第115図	5	土師器 杯	覆土 1/4	□ 13.6 高 4.1	細砂粒/良好/明 褐色	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第115図 PL.67	6	土師器 杯	覆土 1/3	□ 14.1 高 4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第115図	7	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	□ 15.4	細砂粒/良好/明 赤褐色	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第115図 PL.67	8	須恵器 杯	覆土 口縁部1/5欠損	□ 13.5 高 3.5 底 7.6	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第115図 PL.67	9	須恵器 杯	覆土 1/2	□ 15.0 高 3.4 底 8.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	内面の一部にベンガラ付着。
第115図	10	須恵器 鉢	覆土 底部～体部下位片	底 15.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部は回転ヘラ削り。	
第115図 PL.67	11	須恵器 長頸壺	覆土 底部～胴部下半	底 7.4	細砂粒・粗砂粒 /還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部と体部最下位に平行叩き敷が残る。	平城宮土器分類表G
第115図 PL.67	12	土師器 甕	覆土 口縁部～胴部中段 片	□ 22.3	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第115図	13	須恵器 甕	覆土 口縁部～胴部上位 片	□ 26.2	細砂粒多/還元 焰/暗灰	口縁部はロクロ整形。胴部は外面の整形不明、内面はアテ貝痕をナデ消している。	
第116図 PL.67	14	須恵器 甕	覆土 底部～胴部下半		細砂粒/還元焰/ 灰	外面は格子目状叩き敷が残る。内面は同心円状アテ貝痕をナデ消している。	
第116図 PL.67	15	須恵器 甕	覆土 口縁部～胴部上位 片	□ 19.8	細砂粒/還元焰/ 暗灰	口縁部ロクロ整形、中に1段の波状文。胴部は外面に平行叩き敷、内面に同心円状アテ貝痕が残る。	
第116図 PL.67	16	石製品 砥石	覆土	長 26.2 幅 6.2		楕円扁平。側面に鋭角な研磨面、表裏内面とも摩耗。表面に縦位線条痕あり。	粗粒輝石安山岩。
3号窪地							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第116図 PL.67	1	須恵器 杯蓋	覆土 1/2	□ 15.2 高 3.1 横 4.4	細砂粒/還元焰 燻し/黒褐色	ロクロ整形、回転右回り。縁みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第116図	2	須恵器 長頸壺	覆土 口縁部片	□ 10.2	細砂粒/還元焰/ 暗灰	ロクロ整形、回転右回りか。2葉以上の凹縁が露る。内面に降灰が付着。	
第116図	3	陶銭	覆土	径 2.428～2.436 重 2.26g		四圍磨食。	大聖元寶 北宋 1023年初铸
149号ピット							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第130図 PL.67	1	古瀬戸 緑釉小皿	埋土 口縁部1/5、底部 完	□ 10.8 高 2.5 底 4.2	//灰白	口縁部灰釉。高台輪削り込む。見込み指撫で。高台内快り肌。	古瀬戸後Ⅳ段隋古。 15世紀中頃。
71号掘立柱建物（P2717）							
種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第140図 PL.67	1	東濃陶器 山茶碗	埋土 口縁部片	□ 14.0 高 底	//灰白	口縁部小さい玉縁状。東濃型山茶碗。	明和寛式期。13世紀 中。

第55表 遺物観察表(14)

69号掘立柱建物 (P3127)

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第145図	1	美濃陶器 筒形香炉	埋土 口縁部片	口 11.0 高 底	//灰白	口縁部から体部外面灰釉。器壁薄い。	奈良 8・9 小南。18 世紀後半から19世紀 前半。

その他のビッド出土遺物

種別番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第149図 PL.67	1	在地系土器 皿	P3385 口縁部1/4、底部 完	口 6.8 高 2.0 底 4.5	//にぶい橙	右回転糸切無調整。口縁の1部に灯芯痕付着。	15世紀。
第149図	2	須恵器 盤	P3339 口縁部片	口 29.0	細砂粒/還元焰/ オリーブ灰	口縁部はロクロ整形。内面は頸部がヘラナデ。 内外面に降灰が付着。	
第149図	3	銅銭	P3393	径 2.43 ~ 2.453 重 2.26g			開元通寶 唐 621年 初造
第149図	4	石製品 砥石	P2680			4面使用。	
第149図	5	石製品 不明石製品	P1081	径 4.3 高 4.5		円環頂部に径7mm・深さ13mmの孔を回転穿孔。 用途不明	粗粒輝石安山岩。

円筒埴輪

NO.	器種 残存率	計測値 (cm)	突起		穿孔			胎土/焼成/ 色調	ハ ケ	成形・整形の特徴	出土位置地
			形状	段間	位置	形状	タテ				
1	円筒 完形	高 53.1 口 29.5 底 17.0	1	台 1 15.5	上F	楕円	5.5 5.0	粗砂粒・垂 角礫 / 良好 / にぶい橙	9	口縁部は外反、端部はわずかに膨らむ弧状。突起は貼付、突起の上下は横ナデ。外面は履位のハケメ、内面は口縁部が横位のハケメ、その下位からは斜めのハケメ、部分的に残してナデ消している。	26号溝から出 上。
			2	M 1 11.5	上B	楕円	5.0 5.7				
			3	M 1 9.3	下F	楕円	6.0 5.5				
2	円筒 完形	高 47.7 口 25.6 底 15.3	1	M 1 18.8	上F	楕円	4.7 4.2	粗砂粒・礫 / 良好 / に ぶい橙	15	口縁部はわずかに外反、端部はわずかに窪む弧状。突起は貼付、口唇部・突起の上下は横ナデ。底面はヘラナデ。外面は履位のハケメ、内面は口縁部に横位のハケメが残るが、その下位はナデ。	38・43号溝から 上出上。
			2	M 1 10.5	下F	楕円	5.2 4.5				
			3	M 1 10.0	下B	楕円	5.5 4.0				
3	円筒 完形	高 43.3 口 23.0 底 13.3	1	M 1 22.3	F	円	5.3 5.1	粗砂粒・礫 / 良好 / 黄 橙	11	口縁部はわずかに外反、端部はわずかに窪む弧状。突起は貼付、口唇部と突起上下は横ナデ。底面はヘラナデ。外面は履位のハケメ、内面は横位から斜めのハケメであるが、胴部はほとんどナデ消されている。	26・34・38号 溝から出上。
			2	M 1 11.2	B						
			3		9.8						
4	円筒 基部、そ の他部分的 に欠損	高 (52.9) 口 24.7 底	1	— —	上F	円	5.0 5.5	粗砂粒・褐 色粒 / 良好 / 明赤褐	13	口縁部はわずかに外反、端部はわずかに窪む弧状。突起は貼付、突起の上下は横ナデ。外面は履位のハケメ、内面は最上位が横位のハケメ、その下位はナデ。	22号溝から出 上。
			2	台 2 14.0	上B	楕円	5.6 4.5				
			3	台 2 14.8	中F	円	4.5 5.3				
			4	台 2 14.0 10.5	中B	楕円	4.8 6.0				
5	円筒 基部全 損、その他 1/2	高 口 29.7	1	欠損 —	上F	円	5.0 5.5	粗砂粒・垂 角礫 / 良好 / にぶい橙	8	内面に輪積み痕が残る。口縁部はわずかに外反、端部はわずかに窪む弧状。突起は貼付、突起の上下は横ナデ。外面は履位のハケメ、内面は最上位に横位のハケメが残るが、その下位はナデ消されている。	26・43号溝から 上出上。
			2	台 2 16.0	上B	円?					
			3	台 2 11.5 13.2	下F	楕円	6.0 6.0				
6	円筒部→胴 部上半片	高 口 29.8	1	M 1 11.5	上	円	5.4 5.5	粗砂粒・礫 / 良好 / に ぶい赤褐	12	口縁部は外反、端部はわずかに窪む弧状。突起は貼付、口唇部と突起の上下は横ナデ。外面は履位のハケメ、内面は最上位に横位のハケメとナデ。	43号溝から出 上。
			2	M 1 11.5	下	円	4.5				
			3	6.5							
7	円筒 口縁部→胴 部片	高 口 2	1	三		楕円	6.0 5.2	粗砂粒・礫 / 良好 / 橙	13	口縁部は外反、端部は横ナデ。突起は貼付、突起上下は横ナデ。外面は履位のハケメ、内面は横位から斜めのハケメ。	28号溝から出 上。
			2								
			3								
8	円筒 口縁部→胴 部上半片	高 口 26.6	1	M 2		楕円		粗砂粒・礫 / 良好 / 橙	6	口縁部は外反気味に開く、端部はやや窪む弧状。突起は貼付、口唇部と突起の上下は横ナデ。外面が履位。内面が斜めのハケメ。	26号溝から出 上。
			2	10.0							
			3								
9	円筒 口縁部→第 1突起上位 片	高 口 23.6	1			円	4.5 (4.0)	粗砂粒 / 良 好 / にぶい 橙	8	口縁部はやや開く、端部はほぼ平坦。横ナデ。外面は履位のハケメ、内面は横位のハケメ。第2突起下位はナデ消されている。	26号溝から出 上。
			2	台 1 11.5							
			3	6.5							
10	円筒 口縁部→胴 部片	高 口 33.4	1			楕円	5.7 5.2	粗砂粒・褐 色粒 / 良好 / にぶい橙	14	口縁部は外反、端部はわずかに窪む弧状。突起は貼付、突起の上位は横ナデ。外面は履位のハケメ、内面は口唇部から1.1cmは横ナデ、その下位は横位のハケメ。	38号溝から出 上。
			2	M 2							
			3								
11	円筒 口縁部片	高 口 31.7	1	台 1				粗砂粒 / 良 好 / にぶい 橙	12	口縁部は外反、端部はわずかに膨らむ弧状。突起は貼付、口唇部と突起上下は横ナデ。外面は履位のハケメ、内面は履位と斜めのハケメ。	38号溝から出 上。
			2	6.0							
			3								

第56表 遺物観察表 (15、埴輪 1)

遺物観察表

No.	器種 残存率	計測値 (cm)	突帯		穿孔		胎土/焼成 色/温度	ハケ	成形・整形の特徴	出土位置
			形状	段数	位置	形状				
12	円筒 口縁部～胴 部片	高口 25.0 底	1 2 3	台1			粗砂粒・礫 /良好/に ぶい橙	12	口縁部は外反、端部はわずかに窪む弧状が2段。突帯は貼付。突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は口唇端部より1cmは横ナデ、その下位は横位のハケメ。突帯付近より下位は斜めのハケメ。	26号溝から出 土。
13	円筒 口縁部片	高口 31.2 底	1 2 3	台2			粗砂粒・褐 色粒/良好 /にぶい橙	14	口縁部は外反、端部はほぼ平面をつくる。突帯は貼付。突帯の上位は横ナデ。内面は口唇端部から1.0cmは横ナデ、その下位は横位。突帯より下位は斜めのハケメ。	43号溝から出 土。
14	円筒 口縁部～突 帯片	高口 底	1 2 3	M2			粗砂粒少/ 良好/にぶ い赤褐色	11 ～ 13	口縁部は外反、端部はわずかに窪む弧状。突帯は貼付。突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ後突帯上位はナデ消している。内面は口唇端部から2.3cmは横ナデ。その下位は横位のハケメ。	26・43号溝か ら出土。
15	円筒 口縁部片	高口 29.4 底	1 2 3				粗砂粒・褐 色粒/良好 /橙	12	口縁部は外反、端部はわずかに窪む弧状。外面は縦位のハケメ後口唇端部から下1.5cmを横ナデ、内面は横位のハケメ。	26号溝から出 土。
16	円筒 口縁部片	高口 21.0 底	1 2 3				粗砂粒/良 好/赤褐色	10	口縁部はわずかに外反、端部はわずかに窪む弧状。外面は横下0.5cmまで横ナデ、その下位は縦位のヘラ削り。内面は横ナデ。	43号溝から出 土。
17	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	台3 12.8 16.0	円 5.2 5.3		粗砂粒・褐 色粒/良好 /明赤褐色	9	内面に輪積み痕が現る。突帯は貼付。突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のヘラ削り、内面はヘラナデ。	38・43号溝か ら出土。
18	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	M1 M1 13.5	上 円 下 円 5.8		粗砂粒/良 好/橙	8	突帯は貼付。突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ。内面は第2突帯の上位がナデ、下位は斜めのハケメ。	26号溝から出 土。
19	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	M1	円 5.1 4.8		粗砂粒・褐 色粒/良好 /赤褐色	13	突帯は貼付。突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ。内面はハケメ後ナデ。	38号溝から出 土。
20	円筒 胴部中位片	高口 底	1 2 3	台2	楕円か		粗砂粒・褐 色粒/良好 /にぶい橙	12	突帯は貼付。突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ。内面は縦位から斜めのハケメ後一部はナデ。	38号溝から出 土。
21	円筒 胴部中位片	高口 底	1 2 3	台1	9.5		粗砂粒/良 好/橙	11	突帯は貼付。突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ。内面は斜めのナデ。	38号溝から出 土。
22	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	三 三 9.0	円 4.8 5.2		粗砂粒・褐 色粒/良好 /にぶい黄 褐色	不 詳 明	突帯は貼付。突帯上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ。内面はナデか。	突帯形状は一 部台1を呈 す。38号溝か ら出土。
23	円筒 胴部片	径 25.0	1 2 3	三			粗砂粒/良 好/明赤褐色	11	突帯は貼付。突帯上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ。内面は斜めのハケメ後大半をナデ消している。	26号溝から出 土。
24	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	台1			粗砂粒・礫 /良好/に ぶい橙	10	突帯は貼付。突帯の上下は横ナデ。外面は突帯の上位は縦位。下位は斜めのハケメ。内面は横位のハケメ。	26号溝から出 土。
25	円筒 口縁部・基 底部欠損	高口 底	1 2 3	M1 12.0 M1 11.5 M1 11.0	上F 円か 上B 円か 下F 円 5.2 5.0 下B 楕円 5.0 4.2		粗砂粒/良 好/にぶい 赤褐色	10	突帯は貼付。口縁部、突帯上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ。内面は横位から斜めのハケメ後第3突帯より下位はハケメをナデ消している。	第3突帯の貼 付には歪み られる。26号 溝から出土。
26	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	台2	円 3.8 4.0		粗砂粒・褐 色粒/良好 /橙	12	突帯は貼付。突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ。内面はナデ。	38号溝から出 土。
27	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	M1	平円		粗砂粒/良 好/にぶい 橙	12	突帯は貼付。突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ。内面は縦位のナデ。	19号溝から出 土。
28	円筒 胴部小片	高口 底	1 2 3	M2	円		粗砂粒/良 好/にぶい 橙	12	突帯は貼付。突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ。内面は縦位のナデ。	26号溝から出 土。
29	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	台1	円		粗砂粒・礫 /良好/橙	5	突帯は貼付。突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ。内面はナデ。	26号溝から出 土。
30	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	不明	不整		粗砂粒/軟 質/橙	10	突帯は貼付。詳細は不明。外面は縦位のハケメ。内面は縦位のナデ。	38号溝から出 土。

第57表 遺物観察表(16、増輪2)

No.	器種 残存率	計測値 (cm)	突帯		穿孔			胎土/焼成 /色調	ハケ	成形・整形の特徴	出土位置
			形状	段間	位置	形状	タテ				
31	円筒 胴部小片	高 口 底	1 2 3	台3			円	粗砂粒・垂 角礫 / 良好 / 明赤褐色	14	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケ メ、内面はナデ。	透孔右にヘラ キズ。26号溝 から出土。
32	円筒 胴部小片	高 口 底	2 2 3	1台1				粗砂粒 / 良 好 / 橙	9	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケ メ、内面は横位のハケ メ。	内面にヘラキ ズ。26号溝 から出土。
33	円筒 胴部片	高 口 底	1 2 3	一三				粗砂粒・礫 / 良好 / 橙	10	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケ メ、内面は横位から斜めのハケ メ。	26号溝から出 上。
34	円筒 胴部片	高 口 底	2 2 3	一三				細砂粒・褐 色粒 / 良好 / 明赤褐色	11	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケ メ、内面は斜めのハケメ後部分的なナデ。	26号溝から出 上。
35	円筒 基底部～第 2突帯	高 口 底	1台1 2台1 3 16.0	21.7 11.5	上	円?	円 5.4 4.8	粗砂粒・褐 色粒 / 良好 / 橙	13	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ、底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面はヘラナデ。	26号溝から出 上。
36	円筒 基底部～第 2突帯下半	高 口 底	1台2 2 3	19.3 9.0+			円 4.9 4.7	粗砂粒・褐 色粒 / 良好 / 橙	12	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ、底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ後ヘラナデ。	26号溝から出 上。
37	円筒 胴部下半	高 口 底	1台1 2 M1 3 18.6	17.0 9.8	上F 上B 下F 下B	円 円	円 4.6 5.0 円 5.0 5.0	粗砂粒・褐 色粒 / 良好 / 橙	10	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ、底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面はヘラナデ。	26号溝から出 上。
38	円筒 基底部～第 3突帯	高 口 底	1台1 2台1 3 20.7	15.0 12.5	F B	円 円	円 4.8 5.0 円 4.2 4.5	粗砂粒・礫 / 良好 / 黄 橙	10	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ、底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ後大部分を ナデ消している。	26号溝から出 上。
39	円筒 基底部～第 2突帯片	高 口 底	1 M1 2 M1 3 14.6	18.5 12.5			円 5.7 5.8	細砂粒・褐 色粒 / 良好 / にぶい・橙	14	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面は斜めと横位のハケメ後部 分的にナデ。	38号溝から出 上。
40	円筒 基底部	高 口 底	1 2 3	1 18.4				粗砂粒・垂 角礫 / 良好 / にぶい・橙	15	底面はヘラナデ、外面は縦位のハケメ、内面は縦位の ハケメ後ナデ。	19号溝から出 上。
41	円筒 基底部	高 口 底	1 2 3	1 15.8				粗砂粒・垂 角礫 / 良好 / 橙	13	外面は縦位のハケメ、底面はヘラナデ、内面はヘラナ デ後一部ナデ。	外面の器面一 部剝離。43号 溝から出土。
42	円筒 基底部～第 1突帯上位 片	高 口 底	1 M2 2 3 16.0	12.7				粗砂粒 / 良 好 / 明赤褐色	12	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面は突帯裏に斜めのハケメが 残るが、大部分は斜めのナデで消されている。	34号溝から出 上。
43	円筒 基底部片	高 口 底	1台1 2 3 20.4	4.2				粗砂粒・褐 色粒 / 良好 / 橙	9	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面は突帯裏に斜めのハケメが かすかに残るが、大部分は斜めのナデで消されている。	43号溝から出 上。
44	円筒 基底部～第 1突帯片	高 口 底	1 M1 2 3 13.6	11.4				粗砂粒 / 良 好 / 明赤褐色	17	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面は突帯裏に斜めのハケメが 残るが、大部分は斜めのナデ。	38号溝から出 上。
45	円筒 基底部～第 2突帯片	高 口 底	1台1 2 三 3 22.0	2.3 14.5				細砂粒 / 礫 元礫 / 灰	12	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面は縦位から斜めのナデ。	38号溝から出 上。
46	円筒 基底部	高 口 底	1台1 2 3 20.0	3.5				粗砂粒 / 良 好 / にぶい 明	14	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面は底面付近はナデ、胴部は 横位のハケメ。	38号溝から出 上。
47	円筒 基底部～第 1突帯片	高 口 底	1 M2 2 3 20.3	2.7				粗砂粒・褐 色粒 / 良好 / にぶい・黄 橙	12	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面は斜めから横位のナデ。	38号溝から出 上。
48	円筒 基底部片	高 口 底	1台1 2 3 19.0	2.5				粗砂粒 / 良 好 / にぶい 赤褐色	9	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面は横位のヘラナデ。	43号溝から出 上。
49	円筒 基底部～第 2突帯片	高 口 底	1 M1 2台2 3 20.0	1.0 13.3				粗砂粒 / 良 好 / 明赤褐色	16	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面は縦位から横位のナデ。	26号溝から出 上。
50	円筒 基底部	高 口 底	1台1 2 3 19.0	4.9				粗・粗砂粒 / 良好 / に ぶい・赤褐色	16	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はヘラナデ。 外面は縦位のハケメ、内面は縦位のハケメ。	38号溝から出 上。

第58表 遺物観察表(17、続輪3)

遺物観察表

No.	器種 残存率	計測値 (cm)	突帯		透孔			胎土/焼成 色調	ハケ	成形・整形の特徴	出土位置他
			形状	段間	位置	形状	タテヨコ				
51	円筒 基底部片	高口 底	1 2 3	三 1.0				粗砂粒・褐色 色粒 / 良好 / 浅黄	11	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ、底面へラナデ、外面は縦位のハケメ、内面は底面付近が横位、胴部は縦位のナデ。	26号溝から出土。
52	円筒 基底部片	高口 底 23.8	1 2 3					粗砂粒 / 良好 / にふい 橙	15	突帯下は横ナデ、底面はへラナデ、外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ後残存部下半はナデ。	19号溝から出土。
53	円筒 胴部片	高口 底 27.0	1 2 3					細砂粒 / 良好 / にふい 橙	13	底面はへラナデ、外面は縦位のハケメ、内面は縦位のナデ、基部付近はへラナデ。	26号溝から出土。
54	円筒 基底部	高口 底 14.0	1 2 3					細砂粒 / 良好 / 橙	10	底面はへラナデ、外面は縦位のハケメ、内面は横位のナデ。	22号溝から出土。
55	円筒 基底部片	高口 底 16.6	1 2 3	1台2				粗砂粒 / 良好 / 橙	7	外面は縦位のハケメ、底面と内面はへラナデ。	1号并戸から出土。
56	円筒 口縁部小片	高口 底	1 2 3					粗砂粒 / 良好 / 橙	12	口縁部はわずかに外反、端部はわずかに窪む弧状、端部は横ナデ、外面は縦位のハケメ、内面は横位のハケメ。	18・19・42号溝から出土。
57	円筒 口縁部～突 帯片	高口 底	1 2 3	1台1		円形		細砂粒 / 良好 / にふい 橙	11	口縁部は外反、端部は下半が凹縁状にわずかに窪む。突帯は貼付、上下は横ナデ、外面は縦位のハケメ後突帯上位は一部ナデ消し、内面は横位、斜めのハケメ。	Ⅱ区から出土。
58	円筒 口縁部～突 帯片	高口 底	1 2 3					粗砂粒 / 良好 / 橙	15	口縁部は外反、端部はわずかに窪む弧状。突帯は貼付、上下は横ナデ、外面は縦位のハケメ、内面は横位ハケメ後口縁部はナデ消し。	28号溝から出土。
59	円筒 口縁部片	高口 底	1 2 3					粗砂粒 / 良好 / にふい 橙	12	口縁部は外反、端部はわずかに窪む弧状、口唇部下に1条の凹縁、外面は横ナデ、縦位のハケメ、内面は横位のハケメ。	26号溝から出土。
60	円筒 口縁部片	高口 底	1 2 3					細砂粒 / 良好 / 橙	10	口縁部は大きく外反、端部はわずかに膨らむ弧状、外面は口唇部に1条の凹縁、下1.0cmまで横ナデ、下位は縦位のハケメ、内面は横位のハケメ。	Ⅲ区から出土。
61	円筒 口縁部小片	高口 底	1 2 3					粗砂粒 / 良好 / にふい 橙	12	口縁部は外反、端部はわずかに窪む弧状、外面は横位のハケメ、内面は横位のハケメ。	26号溝から出土。
62	円筒 口縁部小片	高口 底	1 2 3					粗砂粒 / 良好 / 橙	11	口縁部はわずかに外反、端部はわずかに窪む弧状、外面口唇部から内面口縁部3cmまでは横ナデ、外面は縦位、内面は横位のハケメ。	Ⅱ区から出土。
63	円筒 口縁部小片	高口 底	1 2 3					細砂粒 / 良好 / にふい 橙	15	口縁部はわずかに外反、端部はわずかに窪む弧状を呈す。外面口唇部は横ナデ、外面は縦位のハケメ、内面は横位のハケメ。	Ⅱ区から出土。
64	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	1 M 2				粗砂粒・角礫 / 良好 / にふい 橙	20	突帯上位は口縁部か、わずかに外反。突帯は貼付、上下は横ナデ、外面は突帯上位は横位、下は縦位のハケメ、内面は口縁部が縦位のハケメ、胴部はへラナデか。	34号溝から出土。
65	円筒 口縁部小片	高口 底	1 2 3					粗砂粒 / 良好 / 橙	12	口縁部はわずかに外反、端部はわずかに窪む弧状を呈す。外面口唇部は横ナデ、外面は縦位のハケメ、内面は横位のハケメ。	Ⅱ区から出土。
66	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	1台1 2台1 9.0				細砂粒 / やや軟質 / 橙	15	突帯は貼付、突帯上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ後ほとんどナデ消している。	38号溝から出土。
67	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	1台2		平円		細砂粒・褐色 色粒 / 良好 / にふい 橙	11	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は横位、斜めのハケメ。	26号溝から出土。
68	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	1 M 1		円	3.5	細砂粒 / 良好 / にふい 黄橙	12	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ。	
69	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	不明				粗砂粒 / 良好 / 明赤褐	15	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は横位のハケメ後部分的に横位のナデ。	Ⅲ区から出土。
70	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	1台2				粗砂粒 / 良好 / 橙	17	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は横位のハケメ。	Ⅲ区から出土。
71	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	1台1				粗砂粒多 / やや軟質 / 不明 橙	不明	突帯は貼付、突帯上下は横ナデ、外面は縦位のハケメであるが、器面の大部分が剝離しており詳細不詳、内面は縦位のナデ。	43号溝から出土。

第59表 遺物観察表 (18、続輪4)

No.	器種 残存率	計測値 (cm)	突帯		透孔			胎土/焼成 /色調	ハケ	成形・整形の特徴	出土位置地
			形状	段間	位置	形状	タテ				
72	円筒 胴部片	高口 底	1 M 3 2 3					粗砂粒/良 好/橙	12	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面はわずかに斜めのハケメ。	Ⅱ区から出 上。
73	円筒 口縁部～突 帯片	高口 底	1 M 1 2 3					粗砂粒/良 好/橙	12	口縁部は外反、転部はわずかに窪む弧状。突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は横位から斜めのハケメ。	内面に線状に 2条のへら掘 き。26号溝か ら出上。
74	円筒 胴部片	高口 底	1 M 1 2 3					細砂粒/良 好/にぶい 橙	13	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ後部にナデ。	26号溝から出 上。
75	円筒 胴部片	高口 底	1 台 1 2 3					粗砂粒・円 礫/良好/橙	12	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ。	26号溝から出 上。
76	円筒 胴部片	高口 底	1 M 1 2 3		円			細砂粒/良 好/橙	15	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ。	43号溝から出 上。
77	円筒 胴部片	高口 底	1 M 1 2 3					細砂粒/良 好/にぶい 橙	11	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ。	内面に横位の へら掘き。43 号溝から出 上。
78	円筒 胴部片	高口 底	1 台 3 2 3		円形か			粗砂粒/良 好/橙	12	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面はわずかに斜めのハケメ後大部分をナデ消している。	Ⅱ区から出 上。
79	円筒 胴部片	高口 底	1 M 1 2 3		円			粗砂粒・褐 色粒/良好 /にぶい橙	14	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ、器面磨滅のため不鮮明。	Ⅲ区から出 上。
80	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3					細砂粒/良 好/にぶい 赤褐	8	外面は縦位のハケメ、内面は縦位のナデ。	43号溝から出 上。
81	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3					細砂粒/良 好/橙	12	外面は縦位のハケメ、内面はナデ。	26号溝から出 上。
82	円筒 胴部片	高口 底	1 三 2 3					粗砂粒/良 好/にぶい 黄橙	11	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのナデ。	26号溝から出 上。
83	円筒 胴部片	高口 底	1 M 2 2 3		円			細砂粒/良 好/黄橙	14	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は縦位のハケメ後ナデ消している。	22号溝から出 上。
84	円筒 胴部小片	高口 底	1 三 2 3					粗砂粒/良 好/橙	11	突帯は貼付、突帯上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、器面磨滅のため単位不鮮明、内面はへらナデ。	1号井戸から 出上。
85	円筒 胴部片	高口 底	1 M 1 2 3					粗砂粒/良 好/橙	12	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面はわずかに斜めのハケメ。	Ⅱ区から出 上。
86	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3		円			細砂粒/良 好/橙	14	突帯上位は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ。	38号溝から出 上。
87	円筒 胴部片	高口 底	1 M 2 2 3					粗砂粒/良 好/橙	14	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は突帯裏が縦位のハケメ、その下位はナデ。	22号溝から出 上。
88	円筒 胴部片	高口 底	1 M 1 2 3		不整			粗砂粒・礫 /良好/橙	8	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は縦位のナデ。	透孔の残存は わずか。Ⅱ区 から出上。
89	円筒 胴部片	高口 底	1 M 1 2 3		円形			粗砂粒/良 好/橙	12	突帯は貼付、突帯上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのナデ。	25号溝から出 上。
90	円筒 胴部片	高口 底	1 台 2 2 3		円			粗砂粒/良 好/橙	11	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は縦位のナデ。	20号溝から出 上。
91	円筒 胴部片	高口 底	1 三 2 3					細砂粒/良 好/橙	12	突帯は貼付、突帯上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は縦位のナデ。	突帯先端部摩 滅。Ⅱ区から 出上。

第60表 遺物観察表(19、挿輪5)



遺物観察表

No.	器種 残存率	計測値 (cm)	突帯		透孔			胎土/焼成 /色調	ハケ	成形・整形の特徴	出土位置他
			形状	段間	位置	形状	タテ				
92	円筒 胴部小片	高口 底	1 2 3	台3				11	突帯は貼付、突帯上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ。	25号溝から出土。	
93	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	M 1		円		14	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は縦位のナデ。	26号溝から出土。	
94	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	M 1					突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は横位のナデ。	19号溝から出土。	
95	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	三		円		14	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面はナデ。	19号溝から出土。	
96	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3			円		8	外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ。	43号溝から出土。	
97	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	M 1				10	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は横位のハケメ。	Ⅲ区から出土。	
98	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	台1		円		12	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ後部分的にナデ。	26号溝から出土。	
99	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3						不鮮明 外面は縦位のハケメ、内面は横位のハケメ。	内面にへら掻き。26号溝から出土。	
100	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3						不鮮明 外面は縦位のハケメ、内面は縦位のへらナデ。	外面にへらキズか。Ⅲ区から出土。	
101	円筒 胴部小片	高口 底	1 2 3					9	外面は縦位のハケメ、内面は横位のハケメ。	内面にへら掻き。Ⅱ区から出土。	
102	円筒 胴部片	高口 底	1 2 3	M 2				10	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ、上位横ナデ上に凹線が1条巡る。外面は縦位のハケメ、内面は縦位のハケメ。	20号溝から出土。	
103	円筒 基底部	高口 底	1 2 3	台1	15.5			7	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はへらナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのナデ。	42号溝から出土。	
104	円筒 基底部	高口 底	1 2 3					8	底面はへらナデ。外面は縦位のハケメ、内面は縦位のナデ。	19号溝から出土。	
105	円筒 基底部	高口 底	1 2 3					12	底面はへらナデ。外面は縦位のハケメ、内面は縦位のナデ、基部付近はへらナデ。	26号溝から出土。	
106	円筒 基底部片	高口 底	1 2 3	M 1	2.0				突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はへらナデ。外面は突帯横ナデ上位に縦位のハケメ、内面はへらナデ。	Ⅲ区から出土。	
107	円筒 基底部片	高口 底	1 2 3	台1	2.0			27	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はへらナデ。外面は縦位のハケメ、内面はへらナデ。	22号溝から出土。	
108	円筒 基底部片	高口 底	1 2 3					12	底面はへらナデ。外面は縦位のハケメ、内面は縦位のナデ。	Ⅱ区から出土。	
109	円筒 基底部片	高口 底	1 2 3	台2				7	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はへらナデ。外面は縦位のハケメ、内面は縦位のナデ。	43号溝から出土。	
110	円筒 基底部片	高口 底	1 2 3	台1	2.2				突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。底面はへらナデ。外面は突帯横ナデ上位に縦位のハケメ、内面はへらナデ。	Ⅲ区から出土。	
111	円筒 基底部片	高口 底	1 2 3					13	底面はへらナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ。	22号溝から出土。	

第61表 遺物観察表(20、続輪6)

No.	器種 残存率	計測値 (cm)	突帯		穿孔			胎土/焼成 /色調	ハケ	成形・整形の特徴	出土位置他
			形状	段間	位置	形状	タテ				
112	胴部片	高 口 底	1 M 1 2 3	10.8+				細砂粒/良 好/橙	12	内面に輪積み痕が残る。突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのナデ。	26号溝から出 上。
113	胴部片	高 口 底	1 M 1 2 3					粗砂粒・礫 /良好/橙	11	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのナデ。	26号溝から出 上。
114	朝顔 口縁部片	高 口 底	1 M 2 41.2					粗砂粒・褐 色粒・礫/ 良好/橙	15	口縁部は大きく外反、端部はほぼ平坦。突帯は貼付、口縁部と突帯上位は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は横位と斜めのハケメ。	26号溝から出 上。
115	朝顔 口縁部	高 口 底	1 台2 38.3 2 3					粗砂粒・礫 /良好/橙	14	突帯は貼付、口縁部、突帯上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は横位と斜めのハケメ。	26号溝から出 上。
116	朝顔 口縁部片	高 口 底	1 M 2 35.9 2 3					粗砂粒・褐 色粒・礫/ 良好/橙	14	口縁部は大きく外反、端部はわずかに窪む弧状。突帯は貼付、口縁部と突帯上位は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は横位ハケメとナデ。	26号溝から出 上。
117	朝顔 口縁部下半 片	高 口 底	1 M 2 2 3					細砂粒・褐 色粒/良好 /橙	13	口縁部上半は輪積み痕で剥落。突帯は貼付、突帯上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は縦位のハケメ。	Ⅱ区から出 上。
118	朝顔 口縁部	高 口 底	1 2 3	36.0				粗砂粒・褐 色粒/良好 /赤褐	11	口縁部は外反気味に開く、端部はほぼ平坦で横ナデ。口縁部は外面が縦位、内面が横位のハケメ。	38・43号溝から 出土。
119	朝顔 口縁部下片	高 口 底	1 M 3 2 3					粗砂粒/良 好/明赤褐	11	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は横位のハケメ、突帯裏に一部ナデ。	22号溝から出 上。
120	朝顔 頸部上位片	高 口 底	1 台1 2 3					粗砂粒・褐 色粒/良好 /橙	15	内面に輪積み痕が残る。突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ。	43号溝から出 上。
121	朝顔 頸部上位片	高 口 底	1 台3 2 台3 3	5.0				粗砂粒/良 好/橙	13	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面はナデ。	43号溝から出 上。
122	朝顔 口縁部中位 片	高 口 底	1 M 2 2 3					細砂粒/良 好/にぶい 橙	14	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めのハケメ。	26号溝から出 上。
123	朝顔 口縁部～胴 部上位片	高 口 底	1 M 2 2 M 2 3 M 2	7.5 2.5		楕円か		粗砂粒・褐 色粒/良好 /橙	10	内面に輪積み痕が残る。突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。口縁部と胴部は縦位、頸部は横位のハケメ、内面はナデ。	43号溝から出 上。
124	朝顔 胴部上半	高 口 底	1 台2 2 第2 3 第3	10.2 10.5	F 円 B 円	4.2 5.5		粗砂粒・褐 色粒/良好 /にぶい橙	13	突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面はハケメ後斜めのナデ。	26号溝から出 上。
125	朝顔 頸部～胴部 上半	高 口 底	1 M 1 2 M 1 3 M 1	12.0 7.0	F 円 B 円	4.0 4.3 4.2 4.3		粗砂粒/良 好/橙	12	内面に輪積み痕が残る。突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面はナデ。	26号溝から出 上。
126	朝顔 胴部片	高 口 底	1 M 1 2 3					細砂粒/良 好/橙	14	内面に輪積み痕が残る。突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は縦位のナデ。	38号溝から出 上。
127	朝顔 頸部編	高 口 底	1 M 2 2 M 2 3	7.5				粗砂粒/良 好/橙	12	内面に輪積み痕が残る。突帯は貼付、突帯上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面はナデ。	38、43号溝から 出土。
128	朝顔 頸部上位片	高 口 底	1 M 1 2 3					粗砂粒・礫 /良好にぶ い/橙	12	突帯は貼付、突帯の上は横ナデ。頸部は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は斜めから横位のハケメ。	26号溝から出 上。
129	朝顔 頸部下小位 片	高 口 底	1 2 3					細砂粒/良 好/橙	13	頸部は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面はナデ。	Ⅱ区から出 上。
130	朝顔 頸部上位片	高 口 底	1 M 1 2 3					粗砂粒/良 好/にぶい 橙	12	突帯は貼付、突帯の上は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面は横位後部分的に縦位のハケメ。	26号溝から出 上。
131	朝顔 頸部上位片	高 口 底	1 M 1 2 3					粗砂粒/良 好/橙	15	内面に輪積み痕が残る。突帯は貼付、突帯の上下は横ナデ。外面は縦位のハケメ、内面はナデ。	26号溝から出 上。

第62表 遺物観察表(21、補輪7)

遺物観察表

形象埴輪

No.	器種	残存率	計測値 (cm)	胎土/構成 /色調	成形・整形の特徴	出土位置他
132	家形	樹串片	残存長 2.9 径 1.0	細砂粒/良好/ 明赤褐色	外面はナデ。	26号溝から出土。
133	家形	樹串片	残存長 4.2 径 1.0	細砂粒/良好/ 明赤褐色	外面はナデ。	26号溝から出土。
134	家形	樹串片	残存長 5.6 径 1.5	細砂粒/良好/ 明赤褐色	外面はナデ。	26号溝から出土。
135	家形	棟飾り 鰐魚木	残存高 8.5 長 10.5 幅10.6 器厚 0.8～ 1.5	細砂粒/良好/ にぶい黄褐色	粘土板をU字状に曲げて側面に粘土板を貼付、樹串を穿孔。 外面はハケム(12前後)四縁部などをナデ。内面はヘラナデ。	38号溝から出土。
136	家形	鳥形棟飾りか	残存高 14.2 幅 11.8 厚 6.6 器厚 0.9～ 1.4	細・粗砂粒/良 好/明赤褐色	粘土紐巻き上げ、内面に輪積み頭が残る。外面はハケム(12 前後)後、羽にあたる部分に粘土板を貼付、羽部分はハケ ム後沈線文を施文。	26号溝から出土。
137	家形	破風板部分	残存高 11.6 幅 15.0 厚 1.7	細・粗砂粒少 量/明褐色	屋根本体には貼付か。表裏とも縦位のハケム(15)後四縁部 と側面を横ナデ。	26号溝から出土。
138	家形	土屋根縁辺部片		細・粗砂粒・ 褐色粒/良好/ 明赤褐色	四縁部はへう削り後ナデ。内部はハケム(12前後)後二重の 円文あるいは弧文と考えられる沈線文を施文。	Ⅱ区から出土。
139	家形	土屋根片		細砂粒/良好/ 橙	外面はハケム(12前後)後沈線文を施文。内面もハケム。	43号溝から出土。
140	家形	土屋根片		細砂粒/良好/ にぶい黄褐色	外面はハケム(12前後)後沈線文を施文。内面もハケム、 一部にナデ。	Ⅲ区から出土。
141	家形	土屋根片		細砂粒・褐色 粒/良好/橙	外面はハケム(12)後沈線文を施文。内面はハケム後ヘラナ デ。	19号溝から出土。
142	家形	下屋根の上屋根 受部片		細砂粒/良好/ 橙	上屋根受部は貼付。外面は横ナデ。内面はナデ。	22号溝から出土。
143	器財 盾	外区片		細砂粒・礫/良 好/橙	外面は四縁部横ナデ。内部はハケム(14)。内面はハケム。	26号溝から出土。
144	器財 盾か	外区小片	器厚 1.9～2.3	細・粗砂粒・ 礫/良好/赤褐色	表面は四縁部ナデ。内側はハケム。内面も同様。	外面に黒色の彩色 か。Ⅱ区から出土。
145	器財 盾	外区片	器厚 2.0～3.0	細砂粒・礫/良 好/橙	外区は内区円筒部分に貼付。四縁部はナデ。内側はハケム (14)後沈線文を施文。	38号溝から出土。
146	器財 盾	外区右下位片	器厚 2.7	細砂粒/良好/ 橙	内区とは貼付。最下部には幅3.5cm、厚さ0.5cmの粘土板を 貼付。表裏ともハケム(12～14)後ナデ。	38号溝から出土。
147	器財 靴	矢部	器厚 2.0	細砂粒/良好/ にぶい黄褐色	矢部分は細い粘土紐を貼付して表現。靴表面はハケム後ナ デか。裏面はナデ。	19号溝から出土。
148	器財 靴	矢筒部の下板	器厚 2.4	細砂粒/良好/ 橙	内区とは貼付。最下部には幅3.0cm、厚さ0.5cmの粘土板を 貼付。表裏ともハケム(12)後ナデ。	38号溝から出土。
149	器財 靴	円筒部片		粗砂粒・礫/良 好/橙	外面はハケム(12)後沈線による施文。内面は斜めのナデ。	38号溝から出土。
150	器財 靴	上板片		粗砂粒・褐色 粒・礫/良好/ 橙	外面は端部と四縁部が横ナデ。内側は縦位のハケム削。 内面は横位のハケム後四辺部を横ナデ。	Ⅱ区から出土。
151	人物	頭部、帽子跨片 か		粗砂粒・褐色 粒/良好/橙	帽子跨は貼付。外面は横ナデ。内面はナデ。	31号溝から出土。
152	人物	頭部片		細砂粒/良好/ 橙	外面はハケム後ナデ。内面はナデ。	26号溝から出土。
153	人物 男性	左顔面顎上位片		粗砂粒/良好/ 明赤褐色	顎端部、美豆良は貼付。顔面は丁寧なヘラナデ。首筋はハ ケムが残る。内面はナデ。	Ⅱ区から出土。
154	人物 男性	下げ美豆良端部 片	径 3.7×3.5	細砂粒/良好/ 明赤褐色	端部よりやや上位に幅0.5cm前後、厚さ0.3cmほどの粘土紐 が貼付。外面はナデ。	側面は黒褐色に彩 色か。Ⅱ区から出 上。
155	人物	右腕片		細砂粒/良好/ 明赤褐色	外面はナデ。肘部との貼付は差し込みによる。	22号溝から出土。
156	人物	右手片	腕径 3.1×2.6	細砂粒/良好/ 橙	腕部分はハケム後ナデ。指はへうによる刻み目で表現。	26号溝から出土。
157	人物 馬曳 腰、膝片			細砂粒/良好/ にぶい黄褐色	腰帯、膝は貼付。外面は腰帯とその上部は横ナデ。膝はナ デ。腰帯下部はハケム(12)。内面はナデ。一部にハケム。	26号溝から出土。

第63表 遺物観察表 (22、埴輪 8)

NO.	器種	残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成 /色調	成形・整形の特徴	出土位置他
158	人物	上着裾部		細砂粒・靛/良好/橙	上着裾部は円筒に貼付。残存部上半はハケメ、下半はナデ。	Ⅲ区から出土。
159	人物	腰紐部分片か		細砂粒/良好/橙	腰紐は貼付、外面は横ナデ。一部にハケメが残る。内面はナデ。	Ⅲ号溝から出土。
160	人物	上着裾部		細砂粒・靛/良好/橙	上着裾部は円筒に貼付。残存部上半はハケメ、下半はナデ。	Ⅱ号溝から出土。
161	馬形	平完形 (一部欠損)	高 (98) 幅 (96)	粗砂粒・靛/良好/橙	本文参照。	
162	馬形	耳部小片		細砂粒/良好/橙	外面はハケメ(単位不鮮明)後一部にナデ、内面はナデ。	Ⅱ区から出土。
163	馬形	頭部片		細砂粒・褐色粒/良好/明赤褐	左目周辺、面繫の痕跡の剥離した痕跡が見られる。外面はハケメ、内面はナデ。	Ⅱ号溝から出土。
164	馬形	頭部片	頭部器厚 1.5 たて髪部器厚 1.8 ~ 2.5	細砂粒・褐色粒/良好/にぶい橙	たて髪、耳、面繫などは貼付。外面はハケメ(単位不鮮明)後ナデ、内面はナデ。	Ⅰ号井戸から出土。
165	馬形	顔部右側面小片	器厚 1.1 ~ 1.3	粗砂粒/良好/橙	外面はハケメ後部分的なナデ、顔先端部はヘラナデ、口はヘラで深さ5mmの刻み。内面はナデ。	Ⅱ号溝から出土。
166	馬形	頭部鼻	器厚 1.5	粗砂粒・褐色粒/良好/にぶい橙	外面はハケメ(2)、内面はナデ。	Ⅱ号溝から出土。
167	馬形	喉付近片		細砂粒・褐色粒/良好/明赤褐	側面と下部は貼付か。外面はハケメ(不鮮明)とナデ、内面はナデ。	Ⅱ号溝から出土。
168	馬形	鞍後輪片		粗砂粒・靛、/良好/にぶい橙	鞍の後輪。ナデ調整。後方に粘土板の剥離痕。2本の繫を表現。	Ⅱ号溝から出土。
169	馬形	繫片	幅 3.0 器厚 0.9	細砂粒/良好/橙	本体には貼付、表面はハケメ後ナデ、裏面はハケメ(14)、側面はナデ。	Ⅱ号溝から出土。
170	馬形	繫片	幅 3.3 器厚 1.0	細砂粒/良好/橙	本体には貼付、表裏面ともハケメ(2)、側面はナデ。	Ⅱ号溝から出土。
171	馬形	手綱片	幅 2.8 器厚 0.7	細砂粒/良好/橙	本体には貼付、表裏面ともハケメであるが、ナデ消されている。側面はナデ。	Ⅱ号溝から出土。
172	馬形	ボタン状裝飾	径 4.4 器厚 1.0	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	本体には貼付、ボタン状裝飾はナデ。	Ⅱ号溝から出土。
173	馬形	ボタン状裝飾	径 3.4 器厚 1.0 本体厚 1.1	細砂粒/良好/にぶい橙	本体には貼付、ボタン状裝飾はナデ。	Ⅱ号溝から出土。
174	馬形	鞍後輪～尻部		粗砂粒・靛/良好/赤褐	鞍後輪、繫、ボタン状裝飾は貼付。鞍内側はナデ、外側から馬背にかけてはハケメ、器面磨滅のため単位等不鮮明。内面はハケメ、大部分はナデ消されている。	Ⅱ号溝から出土。
175	馬形	胴部片		粗砂粒・褐色粒/良好/にぶい橙	繫、ボタン状裝飾は貼付。繫の上下は横ナデ。胴部はハケメ(15)、内面はハケメ後一部ナデ。	Ⅱ号溝から出土。
176	馬形	胸部片		粗砂粒/良好/にぶい橙	胸繫は貼付、表面と上は横ナデ、外面は横位のハケメ(13)、内面は縦位のハケメ後部分的にナデ。	Ⅱ号溝から出土。
177	馬形	胸部～腹片		粗砂粒・褐色粒/良好/橙	残存部上位に円形の穿孔。右上部には貼付痕。外面は縦位のハケメ(13)後一部にナデ、内面は斜めのハケメ後ナデ。	Ⅱ号溝から出土。
178	馬形	胸部片		粗砂粒・褐色粒/良好/にぶい橙	外面は縦位のハケメ(2)、内面はハケメをナデ消している。	Ⅱ号溝から出土。
179	馬形	股～足上位		細砂粒/良好/橙	内外面ともハケメ後部分的にナデ。外面は器面がやや磨滅のため不鮮明。	Ⅱ号溝から出土。
180	馬形	股～足上位か		粗砂粒・靛、/良好/にぶい黄橙	外面は縦位のハケメ(11)、内面は残存部の上位が斜めのハケメ、その下位はナデ。	Ⅱ号溝から出土。
181	馬形	膝の生樂器	長 3.4 幅 4.4 器厚 1.3	細砂粒/良好/にぶい橙	粘土塊3点を貼付したものの、表裏ともナデ。	Ⅱ号溝から出土。
182	馬形	右前足上半～胸部片		粗砂粒・褐色粒/良好/にぶい橙	繫・鈴は貼付、繫の表面は横位のハケメ後上下と表面を横ナデ、外面は縦位のハケメ(10)、内面は横位のハケメ後部分的にナデ。	Ⅱ号溝から出土。
183	馬形	左後足部片		粗砂粒・白色粒/良好/灰黄褐	外面は縦位のハケメ、内面は上半が斜めから縦位のハケメ、下半はナデ。	Ⅱ号溝から出土。

第64表 遺物観察表(23、埴輪9)

遺物観察表

NO.	器種	残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成 /色調	成形・整形の特徴	出土位置他
184	馬形	右前足	底 12.3	粗砂粒/良好/橙	底面はヘラナデ、外面は縦位のハケメ(1)、内面は上半が縦位のハケメ、下半はナデ、外面の残存最上位にナデ。後方に跡を表現した逆V字形の切り込みあり。	26号溝から出土。
185	馬形	足下半片	底 11.3	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	底面はヘラナデ、外面は縦位のハケメ(1)、内面はナデ。後方に跡を表現した逆V字形の切り込みあり。	器面の一部剝離のため詳細不鮮明、26号溝から出土。
186	馬形	足上部片		粗砂粒・礫/良好/明赤褐色	ボタン状装飾は貼付、彫り上下は横ナデ。胴部はハケメ(1)、内面はハケメ後一部ナデ。	26号溝から出土。
187	馬形か	足下半片か	残存高 23.5 底径 14.1	粗砂粒・褐色粒・礫/良好/にぶい黄橙	外面は縦位のハケメ(1)、底面はヘラナデ、内面は斜め、横位のナデ。後方に跡を表現した逆V字形の切り込みあり。	26号溝から出土。
188	馬形	足部小片		細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	外面はハケメ(1)、内面はハケメ後大部分をナデ消している。	26号溝から出土。
189	馬形	足部片	底 14.2	粗砂粒・粗砂粒/良好/暗灰褐色	底面はヘラナデ、外面は縦位のハケメ(1)、内面はナデ。	26号溝から出土。
190	馬形	足下位一部片		粗砂粒・褐色粒/良好/灰黄褐色	外面は縦位のハケメ(1)、内面は縦位のナデ。	26号溝から出土。
191	馬形	足下位一部片		粗砂粒・褐色粒/良好/灰黄褐色	外面は縦位のハケメ(1)、内面は縦位のナデ。外面の多くは器面剝離のため詳細不鮮明。	26号溝から出土。
192	馬形	足下位一部片		粗砂粒・礫、良好/にぶい橙	わずかに後部の切り込みがみられる。外面は縦位のヘラ削り、内面は斜めのナデ。	26号溝から出土。
193	馬形	足下半片	底 11.0	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	底面はヘラナデ、外面は縦位のハケメ(1)、内面は縦位のハケメ後ナデ。後方に跡を表現した逆V字形の切り込みあり。	26号溝から出土。
194	馬形	足下位	底 12.2	粗砂粒/良好/にぶい黄	底面はヘラナデ、外面は縦位のハケメ(1)、内面はナデ。後方に跡を表現した逆V字形の切り込みあり。	26号溝から出土。
195	不明	一部片		細砂粒・褐色粒/良好/明赤褐色	外面は端部から周辺部は横ナデ、内側は縦位のハケメ(細かい、単位不鮮明)、内面は周縁部が横ナデ、内側はハケメであるが、器面剝離のため不鮮明。	38号溝から出土。
196	不明	一部片		粗砂粒/良好/にぶい橙	外縁部の突帯は粘土板を貼付。内外面とも周縁部はナデ、内部はハケメ(2前後)。	3号溝から出土。
197	不明	一部片		粗砂粒/良好/明赤褐色	外面はハケメ(不鮮明)後残存部下半に粘土板を貼付、内面はナデ。	38号溝から出土。
198	不明	一部片		粗砂粒・褐色粒/良好/にぶい橙	外面は端部がナデ、側面は縦位のハケメ(単位不鮮明)後ナデか。内面は横位のナデ。	26号溝から出土。家棟跡りか。
199	不明	一部片	残存長 3.7 器厚 1.0×0.9	細砂粒/良好/明赤褐色	表裏ともナデ、裏面に剝離痕が残る。	II区から出土。
200	不明	基部片		細砂粒/良好/橙	残存片右側部に円形透孔。外面は縦位のハケメ(1)、内面も縦位のハケメである。	38号溝から出土。
201	不明	基部	底 19.0	細砂粒/良好/橙	残存部上端に一对の円形透孔。底面はヘラナデ、外面は縦位のハケメ(1)、内面も縦位のハケメであるが、大部分がナデ消されている。	38号溝から出土。

第65表 遺物観察表 (24、埴輪10)

## 縄文土器

種別番号 写真図版	No	器種	部位	出土位置	胎土	色調	焼成	紋様の特徴等	備考
第179回 PL_88	1	深鉢	胴部	Ⅳ区38号溝	粗砂、繊維	にぶい橙	普通	内外面に稜線を施す。	早期後半条痕紋系
第179回 PL_88	2	深鉢	口縁部	Ⅱ区8号土坑	粗砂、黒色粒	橙	普通	沈線により楕円状モチーフを施し、R Lを充填施紋する。	加曾利E 3式
第179回 PL_88	3	深鉢	口縁部	Ⅲ区	粗砂、中礫	にぶい黄橙	普通	把手。	加曾利E 5式
第179回 PL_88	4	深鉢	胴部	Ⅲ区	粗砂	暗灰黄	普通	沈線を垂下させ、R Lを縦位充填施紋する。	加曾利E 3式
第179回 PL_88	5	深鉢	胴部	Ⅳ区14号住	粗砂	橙	普通	沈線を垂下させ、R Lを縦位充填施紋する。	加曾利E 3式
第179回 PL_88	6	深鉢	胴部	Ⅳ区14号住	粗砂	にぶい橙	普通	沈線を垂下させ、L Rを縦位充填施紋する。	加曾利E 3式
第179回 PL_88	7	深鉢	胴部	Ⅲ区3号住	粗砂	にぶい黄橙	普通	L Rを斜位施紋する。	加曾利E 5式
第179回 PL_88	8	深鉢	胴部	Ⅳ区37号溝	粗砂、石英	にぶい橙	普通	L Rを横位施紋する。	加曾利E 5式
第179回 PL_88	9	深鉢	胴部	Ⅱ区4号溝	粗砂	灰白	普通	帯状沈線により弧状モチーフを描き、L Rを充填施紋する。	称名寺Ⅰ式
第179回 PL_88	10	深鉢	胴部	Ⅱ区22号溝	粗砂	浅黄橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	称名寺Ⅱ式
第180回 PL_88	11	深鉢	胴部	Ⅰ-2区	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	称名寺Ⅱ式
第180回 PL_88	12	深鉢	口縁部	Ⅰ-2区	粗砂	浅黄橙	普通	口縁部を肥厚させ、肥厚部に横位沈線、刺突を施す。	堀之内Ⅰ式
第180回 PL_88	13	深鉢	胴部	Ⅱ区3号窪地	粗砂、黒色粒	にぶい黄橙	普通	L Rを地紋とし、弧状の集合沈線を施す。	堀之内Ⅰ式
第180回 PL_88	14	深鉢	口縁部	Ⅲ区350-030 G	粗砂	浅黄橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施紋する。	堀之内Ⅱ式
第180回 PL_88	15	深鉢	胴部	Ⅲ区3号住				№14と同一個体。	堀之内Ⅱ式
第180回 PL_88	16	深鉢	底部	Ⅲ区350-040 G				№14と同一個体。	堀之内Ⅱ式
第180回 PL_88	17	深鉢	底部	Ⅱ区	粗砂	にぶい黄	普通	残存部は無紋。底部に刺突痕。	後期前半
第180回 PL_88	18	注口土器	注口部	Ⅳ区5号住	粗砂	にぶい橙	普通	上部に突起物の刺突痕。	後期前半
第180回 PL_88	19	深鉢	口縁部	Ⅰ-1区	粗砂、石英	橙	普通	口縁が緩く内湾する器形。横位沈線を施し、L Rを充填施紋する。	加曾利B 5式
第180回 PL_88	20	深鉢	口縁部	Ⅳ区18号住	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁が内湾する器形。横位沈線を施し、L Rを充填施紋する。貼付紋を貼付。	安行Ⅰ式
第180回 PL_88	21	深鉢	胴部	Ⅳ区				№20と同一個体。	安行Ⅰ式
第180回 PL_88	22	深鉢	口縁部	Ⅲ区	粗砂、白色粒、黒色粒、石英	にぶい黄橙	普通	折り返し状の肥厚口縁で口縁が緩く内湾する。肥厚部下に角押状刺突を弧状に施す。	晩期中葉
第180回 PL_88	23	深鉢	口縁部	Ⅱ区4号溝	粗砂、石英	橙	普通	折り返し状の肥厚口縁。肥厚部内向押状刺突を2条施す。	晩期中葉
第180回 PL_88	24	深鉢	口縁部	Ⅳ区	粗砂、石英	黒褐	普通	折り返し状の肥厚口縁。肥厚部内向押状刺突を1条施す。	晩期中葉

## 弥生土器

種別番号 写真図版	No	器種	部位	出土位置	胎土	色調	焼成	紋様の特徴等	備考
第180回 PL_88	25	壺	口縁	Ⅰ-2区4号溝	白岩片、石英、輝石の細砂	にぶい橙	良好	口縁端部を断面三角形に肥厚させ、そこから梯状年度を垂下して鼻表現とする。鼻の内側には隅丸方形の沈線区画と中央への横沈線で目を表現する。顔から鼻梁、鼻下、目の周りは縄文(LR)を充填して顔面ふうの表現としている。	
第180回 PL_88	26	壺	口縁	Ⅰ-2区4号溝	白岩片、石英、輝石の細砂	にぶい橙	良好	1と同一個体の可能性が高いが、左上の沈線顔面部にわずかな高まりがあるので、耳表現にあたるかもしれない。	
第180回 PL_88	27	壺	口縁	Ⅰ-2区	赤色粒、石英、輝石の粗～細砂	浅黄橙	良好	口縁端部を断面三角形に肥厚させ、縄文(LR)を施文。内面は横位、外面は縦位のへらなで。	
第180回 PL_88	28	小型壺	口縁	Ⅰ-2区	赤色粒・細礫、石英、輝石の粗～細砂	赤褐	良好	口縁端部を断面三角形に肥厚させ、縄文(LR)を施文。上面は平面的面取り。	

遺物観察表

検出番号 写真図版	No	器種	部位	出土位置	胎土	色調	焼成	紋様の特徴等	備考
第180図 PL.88	29	壺	口縁	1-2区4号溝	赤色粒、石英、 輝石の粗～細砂	浅黄橙	良好	口縁端部を断面三角形に肥厚させ、縄文(LR)を施文。	
第180図 PL.88	30	壺	口縁	1-2区4号溝	チャート、輝石、 石英、黒色鉱物の粗砂	橙	良好	口唇部は円筒状の面取り、2条1対のへら状具による刻みを施す。内外面横なで。	北陸系類似。
第180図 PL.88	31	壺	頸部	1-2区4号溝	白岩片、石英、 輝石の粗砂	にぶい橙	良好	沈線による弧状区画無い縄文(LR)を充填する。	
第180図 PL.88	32	罍	口縁	1-2区4号溝	白岩片、石英、 輝石の粗砂	にぶい橙	良好	口縁に棒状具による押圧刻み、外面に縄文(LR)を施文。	
第180図 PL.88	33	鉢	口縁	1-2区4号溝	赤色粒、石英、 輝石の粗～細砂	浅黄橙	良好	片口部あり。口縁から底にかけて間隙を空けて沈線を垂下する。内面はていねいなで。	
第180図 PL.88	34	鉢	口縁	1-2区4号溝	白岩片、石英、 輝石の粗砂	にぶい橙	良好	沈線による方形区画文を花卉状に配置した文様横成と思われ。区画内に縄文(LR)充填。	
第180図 PL.88	35 (黄)	口縁	1-2区攪乱	白岩片、石英、 輝石の粗砂	橙	良好	内面に細く縦い沈線(断面V字状)で口縁ラインにそった横線をめぐらす。左方で垂下する方向へ屈曲する。	口縁内面加飾の北陸系か	
第180図 PL.88	36	壺	体部	1-2区4号溝	安山岩片、石英、 輝石、赤色粒の粗～細砂	橙	やや軟調	浅く太い2条の沈線により波状文をめぐらし、下位に縄先ないしは棒状具先端で刺突を充填する。	
第180図 PL.88	37	壺	体部	1-2区	赤色粒細砂と輝石、 石英の粗砂	橙	良好	複数の沈線で、三角形モチーフと思われる斜線と下位に横線を描く。地文に縄文(LR)。	
第180図 PL.88	38	壺	体部	1-2区攪乱	白岩片、石英、 輝石の粗砂	橙	良好	浅く太い複数条の沈線で横線をめぐらし、単沈線で弧線を描く。地文に縄文(LR)を施し、中央横線文間に楕円形の刺突を充填する。	
第180図 PL.88	39	壺	体部	1-2区5号溝	赤色粒細砂と輝石、 石英の粗砂	黒褐	良好	2条と思われる沈線で三角形ないし台形モチーフの区画文を描き、楕円形の刺突で充填する。地文に縄文(LR)を施す。	
第180図 PL.89	40	壺	体部	1-2区	白岩片、石英、 輝石の粗砂	橙	良好	浅い沈線で、横線文と波状文をめぐらし、間隙を楕円形の刺突で充填する。	
第180図 PL.89	41	壺	体部	II区3号窪地	赤色粒細砂と輝石、 石英の粗砂	橙	良好	浅い沈線で横線と縦線による区画文を描き、上位を幅8mm前後の縄先による刺突を充填する。地文に縄文(LR)を施す。	
第180図 PL.89	42	壺	体部	1-2区	赤色粒細砂と輝石、 石英の粗砂	赤橙	良好	浅く幅広い沈線複数条で横線を描く。地文(LR)。	
第180図 PL.89	43	壺	体部	1-2区5号溝	白岩片、石英、 輝石の粗砂	橙	良好	細い複数条の沈線で横線をめぐらし、下位に管状具先端による半月形の列点文をめぐらす。地文に縄文(LR)。	
第180図 PL.89	44	壺	体部	1-2区	白岩片、石英、 輝石の粗砂	灰褐	良好	浅い沈線で横線文を描き、中に幅8mm前後の縄先による刺突を充填する。地文に縄文(LR)を施す。	
第180図 PL.89	45	壺	体部	1-2区13号溝	赤色粒、石英、 輝石の粗～細砂	橙	良好	太い沈線で横線文をめぐらし、大きめの楕円形刺突を並べる。地文は縄文(LR)。	
第180図 PL.89	46	壺	体部	1-2区攪乱	赤色粒細砂と輝石、 石英の粗砂	橙	良好	縄文(LR)を地文に、複数条の沈線による三角文を描く。	
第180図 PL.89	47	壺	体部	1-2区攪乱	石英、赤色粒多い	にぶい橙	良好	縄文(LR)を地文に、単沈線による横線と鋸歯状の文様をめぐらす。内面は丁寧なで。	
第180図 PL.89	48	壺	体部	1-2区攪乱	赤色粒細砂と輝石、 石英の粗砂	橙	良好	縄文(LR)を地文に、浅い沈線による横線、下位に弧線状の文様を描く。	
第180図 PL.89	49	壺	体部	1-2区攪乱	赤色粒細砂と輝石、 石英の粗砂	赤橙	良好	縄文(LR)を地文に、浅い沈線による横線文を描く。	
第180図 PL.89	50	壺	体部	1-2区13号溝	赤色粒細砂と輝石、 石英の粗砂	浅黄橙	良好	縄文(LR)を地文に、浅い沈線複数条による横線文をめぐらす。	
第181図 PL.89	51	壺	体部	1-2区	赤色粒細砂と輝石、 石英の粗砂	赤褐	良好	縄文(L)を地文に、細い沈線で上位は曲線、下位は横線文を描く。内面は削り。	
第181図 PL.89	52	壺	体部	1-2区	赤色粒細砂と輝石、 石英の粗砂	暗褐	良好	細い沈線複数条(3条単位か)による横線文と、単線による波状文をめぐらす。波状文と横線文間に縄文(LR)を充填。内面削り。	

第67表 遺物観察表 (26、弥生土器2)

検出番号 写真図版	No	器種	部位	出土位置	釉上	色調	焼成	紋様の特徴等	備考
第181図 PL.89	53	壺	体部	I-2区	赤色粒細礫と 輝石、石英の 粗砂	暗褐色	良好	細い沈線複数条(3条単位)による横線文をめぐらす。 横線文の上位に縄文(LR)を充填。内面附り。	52と同一だろう。
第181図 PL.89	54	壺	体部	I-2区5号 溝	赤色粒細礫と 輝石、石英の 粗砂	にぶい褐色	良好	単沈線による横線と曲線文を描き、内区を縄文(LR) で充填。内面はなで。	器面の剥離著しい。
第181図 PL.89	55	壺	体部	I-2区13号 溝	チャート、赤 色粒の粗礫が 目立つ	にぶい褐色	良好	磨り消し縄文(LR擬似)手法による縦線と曲線文を描 く。内面は丁寧なで。	
第181図 PL.89	56	壺	体部	II区19号溝	白岩片、石英 の粗砂	黒灰褐色	良好	細く深い沈線(断面U字状)で方角文を描き、内区に 縄文(LRか)を充填する。内面なで。	
第181図 PL.89	57	(壺)	体部	I-2区4号 溝	赤色粒細礫と 輝石、石英の 粗砂	暗褐色	良好	磨り消し縄文(LR)手法による沈線文(入り組み文の 端部か)を描く。	
第181図 PL.89	58	不明	頸部	I-2区13号 溝	白岩片、石英 の粗砂	褐色	良好	三日月形の刺突列をめぐらし下位に縄文(LR)を施す。	
第181図 PL.89	59	(壺)	体部	III区33号溝	白岩片、赤色 粒の粗砂多い	褐色、内面 黒	良好	3条単位の帯状具による横線文と波状文をめぐらす。 地文は縄文(LR)。	
第181図 PL.89	60	壺か費	体部	I-2区	石英、赤色粒、 輝石の粗砂	褐色	良好	6条単位の帯状具による横線文と、上下位に斜行短線 文をめぐらす。	北陸系。
第181図 PL.89	61	(壺)	体部	II区	赤色粒細礫と 輝石、石英の 粗砂	褐色	良好	帯状具による横線文と下位にコンパス文をめぐらす。	北陸系。
第181図 PL.89	62	壺か費	体部	I-2区攪乱	赤色粒細礫と 輝石、石英の 粗砂	褐色	良好	幅10mm前後の稜先の刺突列点文による区画文を描く。 地文はなく、稜先によるなどと思われる。	弥生土器か?
第181図 PL.89	63	(費)	体部	IV区5号住	赤色粒細礫と 輝石、石英の 粗砂	赤褐色	良好	沈線による横線文をめぐらし、下位に縦沈線多条を垂 下する。内面なで。	外面はわずかに 傷ける。
第181図 PL.89	64	(壺)	体部	I-2区4号 溝	赤色粒細礫と 輝石、石英の 粗砂	暗灰褐色	良好	縄文(原体不明)を地文に、浅い沈線で横線と複数条 の斜線を描く。	
第181図 PL.89	65	(鉢)	体部	I-2区4号 溝	白岩片、石英、 輝石の粗砂	浅黄褐色	良好	細く深い沈線で山形文かと思われる屈曲線文をめぐら す。地文はなし。	
第181図 PL.89	66	(費)	体部	I-2区攪乱	チャート、軽 石、輝石の粗 ~粗砂	褐色	良好	4条単位の帯状具で斜格子文を描く。	
第181図 PL.89	67	(費)	体部	I-2区攪乱	チャート細礫、 石英、白岩片 の粗砂	明灰褐色	良好	浅い2状の並行沈線で斜線を描く。	
第181図 PL.89	68	(壺)	体部	II区	白色岩片、石 英、輝石	黒灰	良好	6条単位の帯状具による波状文を上下に重ねて施す事 。内面はなで。	後期樽式か。

## 縄文時代石器

検出番号 写真図版	No	器種	形態・素材	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	製作使用状況	石材
第181図 PL.89	69	石鎌	門基無基鎌	IV区16号住	(1.9)	(1.5)	2.7	完成状態、中央より左側欠損する	チャート
第181図 PL.89	70	石鎌	門基無基鎌	IV区7号住	2.0	1.6	2.4	完成状態、基部作出後に側縁を鋸刃剥離	チャート
第181図 PL.89	71	石鎌	門基有基鎌	I区28号土坑	3.6	1.4	3.4	完成状態、側縁鋸歯状、側縁は括弧味で先端に移行	黒色頁岩
第181図 PL.89	72	打製石斧	短冊型	IV区320-060G	11.2	5.1	175.3	完成状態、側縁・対部に顕著な磨耗痕、対部再生	ホルンフェルス
第181図 PL.89	73	打製石斧	短冊型	III区3号住	12.3	6.5	262.7	完成状態?風化が激しく磨耗・擦傷痕等は不明	ホルンフェルス
第181図 PL.89	74	打製石斧	短冊型	IV区16号住	(14.2)	4.9	135.4	完成状態、風化が激しく磨耗・擦傷痕等は不明	ホルンフェルス
第181図 PL.89	75	打製石斧	分銅型	I-2区4号 溝	10.9	7.1	175.9	完成状態、左側縁対部側に磨耗痕、右側縁側再生加工	ホルンフェルス
第181図 PL.89	76	打製石斧	石鎌?	I-2区4号 溝	15.8	9.7	301.4	完成状態、左辺磨耗痕、右辺側は再生?	ホルンフェルス
第181図 PL.89	77	石核	簀子状	II区	2.2	2.0	7.72	剥片素材、表裏面ですり削り	チャート

第68表 遺物観察表(27、弥生土器3・縄文時代石器1)



遺物観察表

採回番号 写真図版	No.	器種	形態・素材	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	製作使用状況	石材
第181図 PL.89	78	凹石	楕円礎	Ⅳ区5・7号 住	8.1	7.5	430.0	表裏両面にロート状の凹部1を穿つ。御鉢鼓打・磨耗痕	粗粒輝石安山岩
第181図 PL.90	79	凹石	偏平円礎	Ⅰ-Ⅱ区4号 溝	9.3	8.1	738.0	表面中央に径4.5cmの浅い凹部。裏面側中央にアバタ状の打痕。磨耗痕、凹部・アバタ状の打痕は磨耗した礫面に比べ新鮮で、時間差が確実。後世に転用？	粗粒輝石安山岩
第181図 PL.90	80	凹石	偏平円礎	Ⅱ区4号溝	10.6	10.1	698.8	表面中央に径4.2cmの浅い凹部。裏面側に磨耗痕。形態的には34に相似。風化状態は礫面に比べて凹部が若干新鮮に見える	粗粒輝石安山岩
第181図 PL.89	81	磨石	円礎	Ⅱ区表土	7.0	6.7	304.1	表裏面とも磨耗。特に表面側の磨耗が著しい	粗粒輝石安山岩
第181図 PL.90	82	凹石	偏平円礎	Ⅳ区12号住	12.6	11.8	1214.8	表面側中央に打痕。やや離れてロート状の凹穴。表裏面とも磨耗。御鉢打痕	粗粒輝石安山岩

遺物出土位置

採回番号 写真図版	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色 調	成形・整形の特徴	備考
第182図	1	須恵器 平皿	Ⅰ-Ⅱ区 銅部片	底 13.0	細砂粒/還元 焼/灰	ロウコ成形。回転回りが。大井部中央の接合痕は成形時の閉塞痕か。	自然焼成で厚く付着。
第182図	2	土師器 襷	Ⅰ-Ⅱ区 底部〜胴部下位	底 4.7	粗砂粒多/良 好/にぶい黄 橙	底部はヘラナデ。胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第182図	3	須恵器 須恵	Ⅰ-Ⅱ区攪乱 銅部片	底 13.0	細砂粒/還元 焼/灰	底部は回転ヘラ削りか。胴部は内面には無文アテ具痕。外面は間隔をあけたカキ目。	
第182図	4	土製品 丸瓦	Ⅰ-Ⅱ区 丸瓦	Ⅰ-Ⅱ区 銅部片	細砂粒/酸化 焼/にぶい黄	玉縁部付近。丸瓦部凸面隅目直き後撫で消し。凹面付直。御鉢面取り1回。	
第182図	5	磁器窯系青 磁 碗	Ⅰ-Ⅱ区 体部下位片		//黄灰	外面鑄造でであろう。内面底部周縁境明瞭。内面無文か。	12世紀から14世紀前
第182図 PL.90	6	古瀬戸 盤類	Ⅰ-Ⅱ区370-190 口縁部から体部 片	口 27.9	//灰白	内外面薄い灰釉。口縁部外面波状突起帯付。体部外面梅花文。	4号溝1と同一個体か。古瀬戸中1・Ⅱ期。13世紀末から14世紀前半。
第182図 PL.90	7	古瀬戸 底即口皿	Ⅰ-Ⅱ区 1/4	底 9.0	//灰白	内面灰釉。貫入あり。見込み5条の波線。高台内即口。	古瀬戸中1期。13世紀末から14世紀初。
第182図	8	古瀬戸 平皿	Ⅰ-Ⅱ区 口縁部片	口 13.6	//灰白	内面から体部外面下位灰釉。口縁部内消し。端部僅かに外反。外面凹線状の輪軸目顕著。	古瀬戸後Ⅱ期。15世紀前半から16世紀末。
第182図	9	瀬戸・美濃 陶器 椀皿	Ⅰ-Ⅱ区310-210 1/4	底 6.3	//灰白	内面から高台内鉄軸。	大室2・3段跡。16世紀前半から16世紀末。
第182図	10	古瀬戸 磨折皿	Ⅰ-Ⅱ区 底部	底 4.4	//灰黄	器表灰白色。内面灰釉。貫入あり。高台輪水平に削る。高台内の抉り浅い。体部直線的に開く。	古瀬戸後Ⅳ期跡。15世紀末。
第182図	11	瀬戸・美濃 陶器 端反面か丸 皿	Ⅰ区表採 1/4	底 6.0	//灰白	内面から高台内鉄軸。見込みの軸厚く貫入する。	大室1・2段跡。15世紀末から16世紀中頃。
第182図	12	常滑陶器 襷	Ⅰ-Ⅱ区 銅部片		//黄灰	内面器表鈍い赤褐色。外面自然焼。叩き目あり。	中世。
第182図	13	在地系土器 皿	Ⅰ-Ⅱ区 体部下位から底 部片		//明赤褐	底部回転糸切無調整。器高高い。	中世。
第182図	14	在地系土器 皿	Ⅰ区表採 1/4	底 5.8	//橙	底部回転糸切無調整。底部内面指撫で。	中世。
第183図	15	在地系土器 片口鉢	Ⅰ-Ⅱ区 口縁部片	口 28.0	//灰白	口縁部玉縁状をなす。口縁部内面僅かに窪む。	13世紀後半か。
第183図	16	在地系土器 すり鉢	Ⅰ-Ⅱ区 片口部片		//浅黄橙	断面中央から橙。浅黄橙。赤黒色のサンドイッチ状。口縁部内側に折り曲げる。内面口縁部付近まですり目を入れる。	15世紀後半から17世紀か。
第183図	17	在地系土器 片口鉢	Ⅰ-Ⅱ区 体部下位から底 部片		//鈍い橙	器表褐色。底部外面渾状圧痕。内面底部周縁使用により窪む。すり鉢としての使用痕顕著。	中世。
第183図	18	在地系土器 内耳鍋	Ⅰ-Ⅱ区340-190 口縁部1/4	口 36.0	//鈍い赤褐	器表黒色。外面保付着。口縁部外方に屈曲し。内湾気味に立ち上がる。口縁部平田で内外に小さく張り出す。	16世紀前半から中頃か。
第183図	19	在地系土器 内耳鍋	Ⅰ区表採 口縁部片		//鈍い黄橙	色調。断面中央から黒。鈍い黄褐色のサンドイッチ状。口縁部短く。内面に段差。端部上面水平で内面は突き出る。	15世紀。20と同一個体か。

第69表 遺物観察表 (28、縄文時代石器2、遺構外出土遺物1)

種別番号 写真図版	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色 調	成形・整形の特徴	備考
第183図	20	在地系土器 内耳鍋	I区表採 口縁部片		//鈍い黄橙	色調、断面中央から黒、鈍い黄橙色のサンドイッチ状。口縁部短く、内面に段差。端部上面水平で内面は突き出る。	15世紀。19と同一個体か。
第183図	21	在地系土器 内耳鍋	I-2区340-190 口縁部片		//灰黄	色調、断面中央から黒、灰黄色。外面器表黒色。口縁部外方に屈曲し、内湾気味に立ち上がる。口縁端部外方に折れる。	16世紀前半から中頃か。
第183図	22	在地系土器 内耳鍋	I-2区表採 口縁部片		//橙	器表黒色。口縁部内湾し、端部内外面に小さく張り出す。端部上面僅かに窪む。	15世紀後半から16世紀前半。
第183図	23	在地系土器 内耳鍋	I-2区340-190 体部片		//橙	内面器表赤灰色。外面器表黒色。外面一部に煤付着。	中世。
第183図	24	在地系土器 内耳鍋	I-2区340-190 体部下位から底 部片		//鈍い橙	体部内外面器表褐色から黒色。底部外面赤褐色。丸底。体部外面一部に煤付着。	中世。
第183図	25	在地系土器 内耳鍋	I-2区340-190 体部下位から底 部片		//鈍い橙	内面と体部外面黒色。外面体部下端から底部外面器表鈍い褐色。体部外面煤付着。平底。	中世。
第183図	26	美濃陶器 小坏	I-2区360-170 口縁部から体部 片	口 7.8	//淡い黄	内面から体部外面下位鉄軌。	登窯5・6小期。17世紀末から18世紀前半。
第183図	27	美濃陶器 灯火皿	I-2区370-210 1/5	口 9.8	//灰白	全面銷輪青軸後、底部外面の軸を拭う。外面口縁部以下回転造削り。	登窯8～11小期。18世紀後半から19世紀中頃。
第183図	28	美濃陶器 灯火受皿	I-2区 1/4	口 9.6 高 2.0 底 4.8	//赤灰	全面銷輪青軸後、外面口縁部以下の軸を拭う。外面口縁部以下回転造削り。	登窯10・11小期。19世紀中頃。
第183図	29	美濃陶器 黄瀬戸菊皿	I-2区表上 3/4	底 8.0	//灰白	内面から高台脇黄瀬戸輪。口縁部から体部内面銷輪軸。内面布痕。	登窯4小期。17世紀後半。
第183図	30	美濃陶器 折縁鉄軸皿	I-2区340-190 底部片	底 4.0	//黄灰	内面から体部外面下位鉄軌。見込み鉄軸。高台内接りやや深い。	登窯1・2小期。17世紀前半。
第183図	31	肥前磁器 香炉	I-2区 1/4	口 7.0	//白	外面簡略化した龍文。	18世紀末から19世紀中頃。
第183図	32	製作地不詳 磁器 細反碗	I-2区 口縁部1/4	口 11.9 高 6.0 底 3.9	//白	いわゆるベコ藍による手書き染付。見込み「み」字文。	近現代。
第184図	33	在地系土器 すり鉢	I-2区340-190 体部下位片		//褐灰	内面器表付近、外面器表鈍い褐色。内面すり目密に入る。	17世紀か
第184図 PL.90	34	石製品 板硝片か	I-2区表上	長 6.7 幅 6.0		厚さ8mmを測る板硝片?の周辺部を加工、略円形に整形	黒色片岩。
第184図 PL.90	35	石製品 砥石	I-2区表上	長 4.3 幅 2.7		両側面にノコギリ整形痕。極細粒石材を用いた仕上げ砥石	珪質粘板岩。
第184図	36	銅銭	I-2区	径 2.436～2.451 重 2.72g			洪武通寶 明 1368年初 銭。背番。
第184図	37	銅銭	I-2区370-190	径 2.310～2.352 重 1.29g			腐食進み銭文不明。
第184図	38	中国磁器 白磁皿	II区 体部下位から底 部片	底 8.6	//白	高台内傾し端部外側削る。	15世紀後半から16世紀
第184図	39	中国磁器 白磁壺	II区 体部小片		//やや不良/灰 白	素地白くなく灰白色。外面施釉。貫入あり。	中世。
第184図	40	古瀬戸 折縁深皿	II区 口縁部～体部片	口 24.0	//灰白	内面から体部外面下位鉄軌。体部外面下位回転造削り。口縁部外反し、内面に折り返す。	古瀬戸中IV期。14世紀中頃。
第184図	41	古瀬戸 直縁大皿	II区 口縁部片		//灰白	内面から口縁部外面鉄軌。	古瀬戸後II期。14世紀末から15世紀初。
第184図	42	古瀬戸 泡類	II区 口縁部片		//灰白	口縁部内面から外面鉄軌。口縁端部外面下凹線1条帯る。	中世。
第184図	43	湖美陶器 壺	II区 体部片		//オリーブ灰	外面叩き目。	12世紀。
第184図	44	尾張陶器 片口鉢	II区 体部下位片		//灰白	体部外面回転造削り。常滑でいう片口鉢I類。	中世。
第184図	45	在地系土器 皿	II区 1/4	底 5.9	//黒	断面中央から黒、淡赤橙、灰黄色のサンドイッチ状。底部糸切無調整後任意。底部内面指撫で。器表褐色。器壁厚い。口縁部内面を浅く窪めて内湾状にする。端部上面凹線状に窪み、端部内面は面取りする。内面口縁部付近まですり目入れる。	中世。
第184図	46	在地系土器 すり鉢	II区 口縁部片		//鈍い黄橙		15世紀後半から17世紀。
第184図	47	在地系土器 すり鉢	II区 体部片		//鈍い黄橙	内面2本一単位のすり目を4組施す。	15世紀後半から17世紀。

第70表 遺物観察表(29、遺構外出土遺物2)

遺物観察表

検出番号 写真図版	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色 調	成形・整形の特徴	備考	
第184図	48	在地系土器 すり鉢	Ⅱ区 口縁部片			//鈍い黄橙	外面器表黒灰色。口縁部外面を内湾させ、口縁部をやや薄くする。端部上面平坦。口縁部直下まですり目入る。	15世紀後半から17世紀。
第184図	49	在地系土器 内耳鍋	Ⅱ区350-150 口縁部片			//明褐色	口縁部内湾し器壁厚い。口縁部内面下位縁線をなすが、段差はない。口縁部上面平坦。端部内面は突き出し、台面は小さく突き出す。	15世紀末から16世紀中頃。
第184図	50	在地系土器 内耳鍋	Ⅱ区 体部～底部片			//鈍い黄橙	内面と体部外面黒色。外面体部下端から底部器表明赤褐色。丸底。	中世。
第185図	51	在地系土器 内耳鍋	Ⅱ区340-130 体部下位から底 部片	底 14.0		//明褐色	体部外面と内面器表黒色。体部外面下端から底部外面鈍い赤褐色。体部外面煤付。丸底。	中世。
第185図	52	在地系土器 不詳	Ⅱ区 1/6			//鈍い黄橙	器表黒灰色。砂底。内面受けのような突起帯。中世以降。	
第185図	53	肥前磁器 小皿?	Ⅱ区 2/3	底 5.0		//灰白	見込み五弁花コンチャク判。高台内1重圈線に不明跡。	波佐見系。17世紀末から18世紀。
第185図	54	瀬戸陶器 丸碗	Ⅱ区 底部片	底 4.8		//灰白	内面灰釉。貫入あり。高台高い。	登窯2小期。17世紀前半。
第185図	55	美濃磁器 端反碗	Ⅱ区350-125 1/4	底 3.8		//白	外面花吉文。内面底部周縁1重圈線。	登窯1小期。19世紀中頃。
第185図	56	美濃陶器 付水注	Ⅱ区 1/4			//灰白	内外面神釉。耳貼付部1カ所残存。	登窯1～4小期。17世紀。
第185図	57	美濃陶器 樹水入	Ⅱ区 口縁部から体部	高 4.0		//灰白	内面から体部外面灰釉。貫入あり。外面不鮮明な鉄粒。型紙か。底部外面無釉。	登窯5・6小期。17世紀末から18世紀前半。
第185図	58	肥前磁器 襷形用品	Ⅱ区 完形			//白	内外面に菊花文を施す薄手碗底部片周縁を細かく打ち欠いて円盤状に整える。	焼成時期は19世紀前半。
第185図	59	美濃陶器 灯火受皿	Ⅱ区 1/6	口 9.6		//灰白	内面から体部外面神釉。	登窯9・10小期。19世紀前半。
第185図 PL-90	60	石製品 硯	Ⅱ区 小破片				海部破片。内外面とも磨研仕上げ。硯に素材としては軟質だが内面に礫面状の整形面・幅の狭い割り工具痕。割り痕に墨痕?がある。	淡緑色細粒石質凝灰岩。
第185図 PL-90	61	石製品 砥石	Ⅱ区表土	長 11.3 幅 3.2			上下両端に孔を穿つ。上端の孔は内側穿孔で径8mm前後を測る。下端側は穿孔途上。	砥沢石。
第185図 PL-90	62	石製品 砥石	Ⅱ区表土	長 8.3 幅 5.5			表裏面は凸状に彫らむ。右辺が弧状となるのに対し左辺は角縁部を持つ。	ニッ信軽石。
第185図	63	土師器 糞	Ⅲ区 底部	底 9.8		細砂粒・粗砂粒/良好/橙	底部に木葉痕が残る。内面はヘラナデ。	
第185図	64	土師器 糞	Ⅲ区340-090 口縁部片			細砂粒/還元 釉/灰白	口縁部はロクロ整形。中に凹線。その上位に波状文が巡る。内面は頸部がヘラナデ。	
第185図	65	土師器 糞	Ⅲ区 口縁部片			細砂粒多/還元 釉/灰褐色	口縁部は凹線による区画。区画内に波状文が巡る。	
第185図	66	古瀬戸 壺か瓶	Ⅲ区 体部片			//灰白	外面灰釉。釉の多くは剥落。	古瀬戸中期様式。13世紀末から14世紀中頃。
第185図	67	十能瓦 小破片	Ⅲ区攪乱 小破片			//黒	色調。断面中央から黒、灰白、黒色のサンドイッチ状。軒先瓦。唐草文。	近現代。
第185図	68	十能瓦 側縁片	Ⅲ区攪乱 側縁片			//灰白	片面型痕。他方は推で調整。	近現代。
第186図	69	土師器 坪	Ⅳ区 1/3	口 12.9 高 3.3		細砂粒/良好/ 明赤褐色	口縁部横ナデ。体部上半ナデ。下半から底部は手持ちへら削り。	
第186図	70	土師器 坪	Ⅳ区 1/5	口 13.8		細砂粒/良好/ 橙	口縁部横ナデ。体部上半ナデ。下半から底部は手持ちへら削り。	
第186図	71	須恵器 坪	Ⅳ区 1/5	口 14.4 高 3.2 底 6.6		細砂粒/酸化 釉/橙	ロクロ整形。回転右回り。底部から体部下位は回転へら削り。	
第186図	72	須恵器 桶	Ⅳ区 口縁部～体部片	口 13.6		細砂粒・粗砂粒/ 還元釉/青灰	ロクロ整形。回転右回り。体部から底部は手持ちへら削り。	
第186図	73	土師器 糞	Ⅳ区 底部～胴部下位 片	底 7.4		細砂粒/良好/ 明赤褐色	底部は木葉痕か。胴部はへら削り。内面はヘラナデ。	
第186図	74	鉄器 鉄鏝	Ⅳ区 上下両端欠	長 5.1 厚 0.2 幅 2.7 重 7.4			有頸鉄製柳葉鏝	
第186図	75	鉄器 釘	Ⅳ区 上下両端欠	長 3.9 厚 0.3 幅 0.6 重 1.9				

第71表 遺物観察表(30、遺構外出土遺物3)

# 写真図版



調査区全景（西から）



調査区全景（東から）



1-1区全景（西から）



1-2区全景（上が北）



I-3・4区全景 (上が北)



II区I面全景 (上が北)



Ⅱ区2面全景（上が北）



Ⅲ-1区全景（左が北）





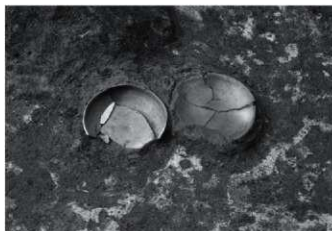
Ⅲ-2区・Ⅳ区全景（上が北）



1号住居全景（南東から）



1号住居遺物（5・6）出土状況（北から）



1号住居遺物（3・4）出土状況（東から）



1号住居跡全景（南東から）



1号住居掘方全景（南東から）



2号住居全景（北西から）



2号住居1号竈全景（北西から）



2号住居2号竈全景（北西から）



2号住居1号竈掘方全景（北西から）



2号住居2号竈掘方全景（北から）



3号住居遺物出土状況（北から）



3号住居全景（北から）



4号住居遺物出土状況（南東から）



4号住居遺物出土状況（南東から）



4号住居全景（南東から）



4号住居窟全景（南東から）



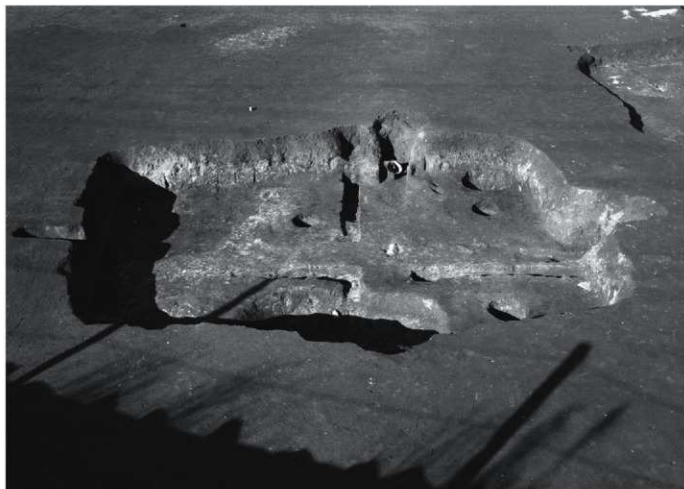
4号住居掘方全景（南東から）



4号住居掘方全景（南東から）



5号住居1号窟全景（南西から）



5・7号住居全景（南東から）



5号住居2号竈全景（南東から）



5・7号住居掘方全景（南東から）



5号住居1号竈掘方全景（南西から）



5号住居2号竈掘方全景（南東から）



8・9号住居全景（西から）



8・9号住居遺物出土状況（西から）



8号住居遺物出土状況（西から）



8号住居遺物出土状況（西から）



8・9号住居掘方全景（西から）



10号住居全景（南から）



10号住居掘方全景（北から）



11号住居全景（東から）



11号住居遺物出土状況（東から）



11号住居遺物出土状況（東から）



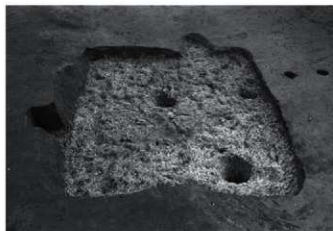
12号住居全景（北西から）



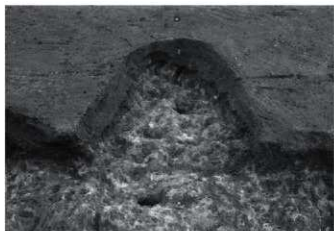
12号住居遺物出土状況（北西から）



12号住居竈全景（北西から）

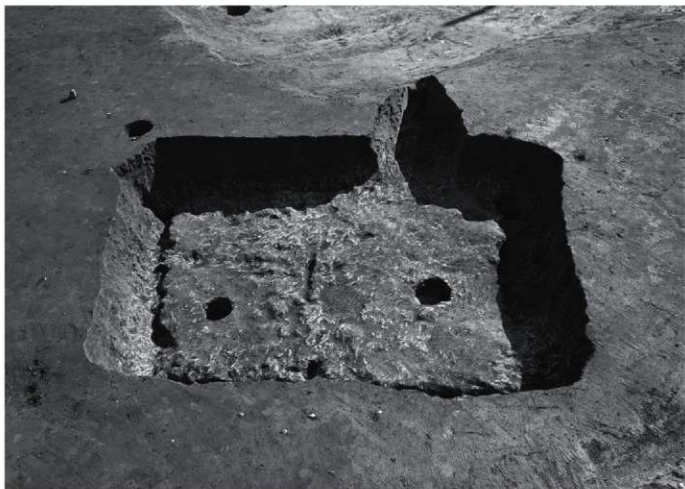


12号住居掘方全景（北西から）



12号住居竈掘方全景（北西から）





13号住居全景（北西から）



13号住居壙全景（北西から）



13号住居掘方全景（北西から）



13号住居壙掘方全景（北西から）



14A号住居壙全景（南西から）



14A号住居全景（南西から）



14B号住居全景（南西から）



14B号住居跡全景（南西から）



14B号住居跡掘方全景（南西から）



14A・B号住居跡方全景（南西から）



15号住居跡全景（南から）



15号住居跡全景（南から）



15号住居遺跡方全景 (南から)



16号住居遺物出土状況 (南から)



16号住居南壁付近石出土状況 (南から)



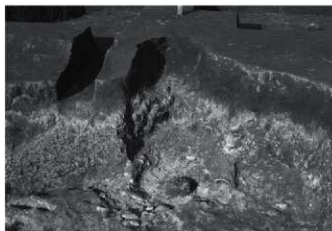
16号住居南壁付近石出土状況 (南から)



16号住居全景 (南から)



16号住居跡全景（南から）



16号住居跡掘方全景（南から）



16号住居跡掘方全景（南から）



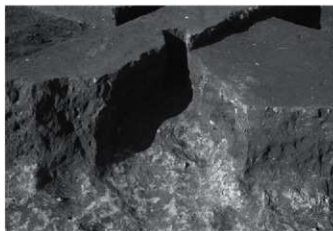
17号住居跡遺物出土状況（南から）



17号住居跡全景（南から）



17号住居竈全景（南から）



17号住居竈掘方全景（南から）



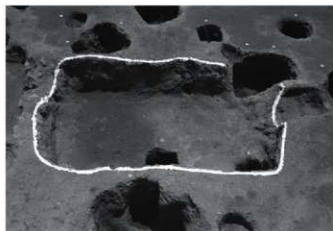
18号住居全景（南西から）



1号土坑断面（南東から）



2号土坑全景（西から）



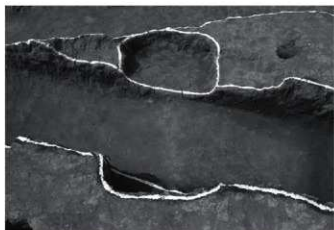
3号土坑全景（北から）



4号土坑全景（西から）



6号土坑全景（西から）



7号土坑全景（南から）



8（左）・9号土坑（右）全景（北から）



8（奥）・9号土坑（手前）全景（西から）



10（右）・11号土坑（左）全景（北西から）



12号土坑全景（北から）



12号土坑馬歯・骨出土状況(北から)



12・13号土坑全景(北から)



14号土坑全景(西から)



15号土坑全景(南から)



16号土坑全景(南から)



17号土坑全景(南から)



18号土坑全景(南から)



19号土坑全景(南から)





20号土坑全景 (南から)



21号土坑全景 (南西から)



23号土坑全景 (南東から)



24号土坑断面 (南から)



26・29・30・36・37号土坑、52号溝全景 (西から)



27・31・32・42・45・46号土坑全景 (東から)



31・32・45号土坑全景 (北から)



48・49号土坑全景 (北から)



1号墓人骨・古銭出土状況（西から）



1号墓人骨・古銭出土状況（東から）



1号墓人骨・古銭出土状況（西から）



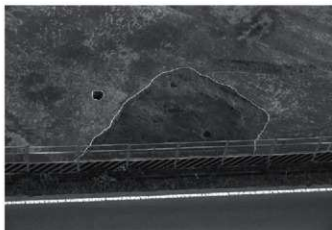
1号墓全景（西から）



1号井戸上部断面（南から）



1号井戸全景（西から）



1号溝全景（南西から）



1号溝全景（東から）



2号溝全景(西から)



2号溝全景(西から)



3号溝全景(南から)



3号溝全景(北から)



3号溝断面A-A'(北から)



3(50)号溝全景(北から)



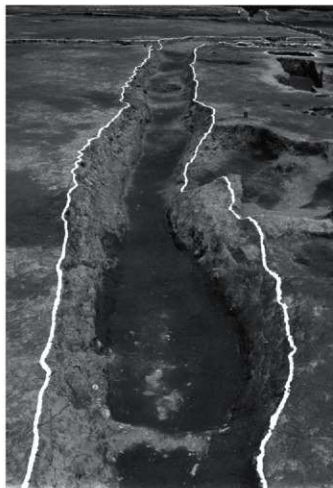
4号溝1-2区東端部(東から)



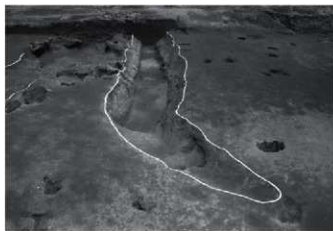
4号溝中央部（東から）



4号溝中央部（西から）



4号溝西部（南から）



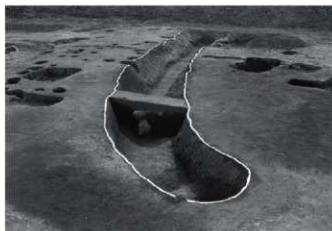
4号溝1-2区東端部（西から）



4号溝西部（北から）



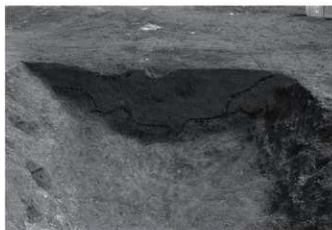
4号溝Ⅱ区部分(西から)



4号溝Ⅱ区部分(東から)



4号溝断面A-A'(南から)



4号溝断面B-B'(南から)



4号溝断面C-C'(西から)



4号溝断面D-D'(西から)



5号溝西・南部全景(東から)



5号溝西・北部(南から)



5号溝西・北部（北から）



5号溝西断面A-A'（南から）



6号溝全景（北から）



6号溝全景（南から）



6号溝断面A-A'（北から）



7号溝全景（東から）



8・9号溝全景（南西から）



8号溝全景 (南から)



8号溝断面A-A' (南から)



9号溝全景 (南東から)



9号溝断面A-A' (南から)



14号溝全景 (西から)



14号溝断面A-A' (東から)



16号溝全景 (西から)



16号溝断面A-A' (東から)



17号溝全景 (西から)



17号溝断面A-A' (東から)



18~20号溝全景 (北西から)



20号溝全景 (西から)



18~20号溝全景 (南西から)



21号溝全景 (西から)



22号溝全景 (南西から)





23号溝全景 (北西から)



23号溝断面A-A' (南西から)



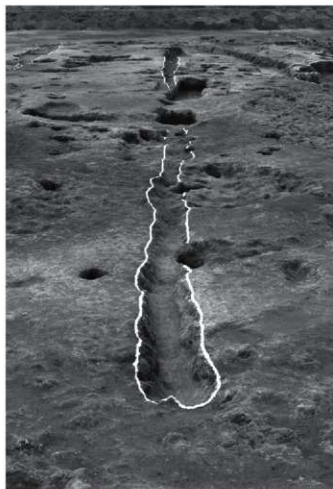
24号溝全景 (東から)



24号溝全景 (西から)



24号溝東端部 (北から)



27号溝全景（東から）



27号溝全景（西から）



27号溝断面A-A'（東から）



32号溝全景（東から）



18・32号溝断面B-B'（南東から）



33号溝全景（南から）



33号溝断面C-C'（南西から）



33・35号溝全景（北西から）



34号溝全景（北から）



34号溝全景（南から）



34号溝西側ゼット列（東から）



34号溝西側ゼット列（東から）



34号溝断面A-A'（北から）



34号溝断面B-B'（南から）



34号溝断面C-C'（北から）



34号溝断面D-D'（南から）



35号溝全景 (南東から)



35号溝断面E-E' (南東から)



36号溝全景 (西から)



36号溝全景 (東から)



36号溝断面F-F' (東から)



39号溝全景 (東から)



39号溝A-A' (東から)



40号溝全景 (東から)



40号溝全景 (西から)



34・40号溝全景 (南から)



41号溝全景 (北から)



41号溝全景 (南から)



42号溝全景 (北東から)



42号溝全景 (南西から)



42号溝断面A-A' (西から)



43号溝全景 (南から)



43号溝全景 (北西から)



44号溝全景 (北から)



44・45号溝断面A-A' (南東から)



45号溝全景 (東から)



46 (左)・47 (右) 号溝全景 (西から)



46 (左)・47 (右) 号溝断面A-A' (西から)



51号溝全景 (西から)



51号溝断面A-A' (西から)



1号窪地全景 (北から)





2号窪地全景（北から）



2号窪地断面A-A'（南から）



3号窪地全景（西から）



3号窪地断面N-N'（西から）



3号窪地東壁えぐれの状態（南から）



Ⅰ-Ⅱ区推定東山道駅路全景（西から）



Ⅱ・Ⅲ-Ⅰ区推定東山道駅路全景（西から）



Ⅲ-2・Ⅳ区、大道東道跡推定東山道駅全景（西から）



13号溝（北側溝）全景（西から）



13号溝（北側溝）全景（東から）



13号溝（北側溝）断面A-A'（西から）



5号溝東（南側溝）全景（西から）



5号溝東（南側溝）全景（東から）



15号溝（北側溝）全景（西から）



15号溝（北側溝）全景（東から）



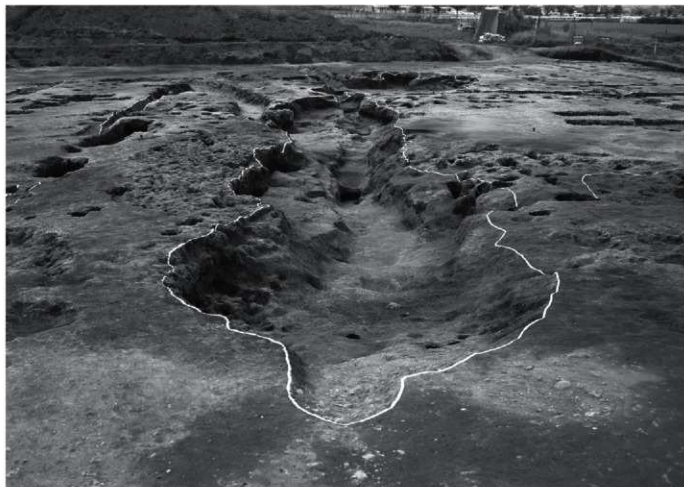
25・28号溝（南側溝）断面B-B'（東から）



25・28号溝（南側溝）遺物出土状況（西から）



25・28号溝（南側溝）全景（東から）



26号溝（北側溝）全景（東から）



26号溝（北側溝）全景（西から）



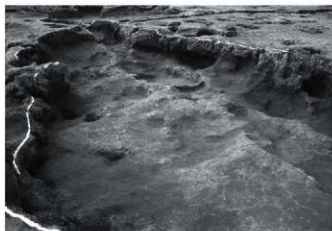
26号溝東端遺物出土状況（北から）



26号溝近接（東から）



26号溝近接（東から）



26号溝近接（東から）



29号溝（南側溝）全景（東から）



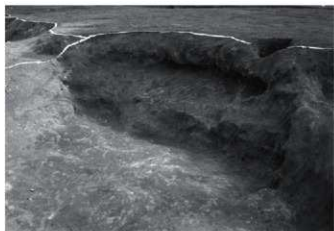
29号溝（南側溝）全景（西から）



29号溝断面C-C'（東から）



29号溝壁の状態（東から）



29号溝壁の状態（北西から）



Ⅲ-1区推定東山道駅路（右・37号溝、左・38号溝）全景（西から）



Ⅲ-1区推定東山道駅路（下・37号溝、上・38号溝）全景（上が北）





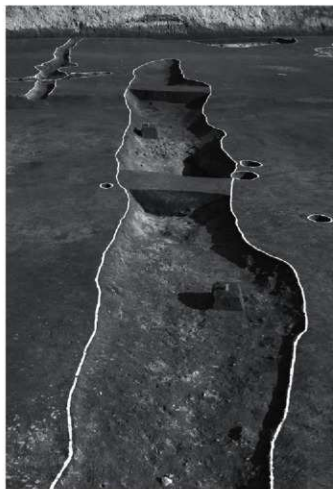
Ⅲ-2・Ⅳ区推定東山道驛路(右・37号溝、左・38号溝)全景(西から)



Ⅲ-1区37号溝(南側溝)全景(東から)



Ⅲ-1区37号溝(南側溝)全景(西から)



Ⅳ区37号溝（南側溝）全景（西から）



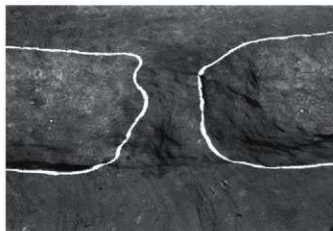
Ⅳ区37号溝（南側溝）全景（東から）



Ⅲ区37号溝断面E-E'（西から）



Ⅲ区37号溝断面G-G'（東から）



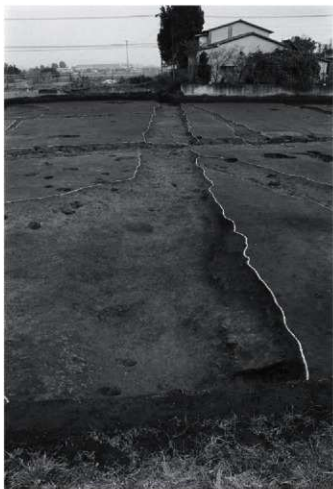
Ⅲ区37号溝掘り残し部分（南から）



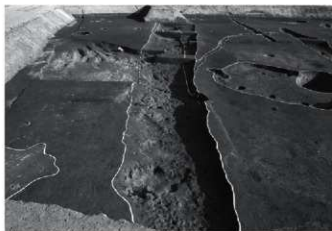
Ⅲ区37号溝掘り残し部分（南東から）



Ⅲ-1区38号溝（北側溝）全景（東から）



Ⅲ-1区38号溝（北側溝）全景（西から）



Ⅳ区38号溝（北側溝）全景（西から）



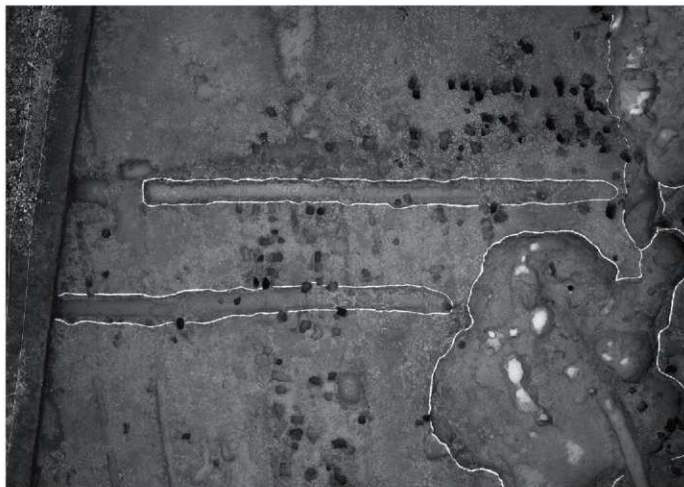
Ⅳ区38号溝（北側溝）全景（東から）



Ⅲ-1区38号溝硬化部分（東から）



Ⅲ-1区38号溝硬化部分断面1-1'（西から）



Ⅱ区1号道路（上・30号溝、下・31号溝）全景（左が北）



Ⅱ区1号道路（右・30号溝、左・31号溝）全景（南から）



30号溝(東側溝)全景(北から)



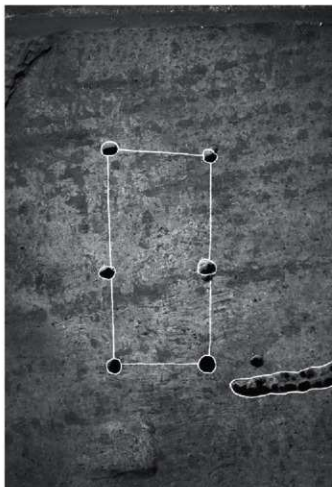
30号溝断面B-B'(南から)



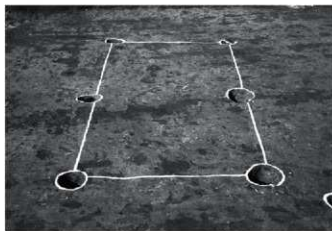
31号溝(西側溝)全景(北から)



31号溝断面A-A'(南から)



1号掘立柱建物全景(土が北)



1号掘立柱建物全景(南から)



ピット群(掘立柱建物A群)東側(北から)



ビット群（掘立柱建物A群）全景（左が北）



ビット群（掘立柱建物A群）全景（北から）



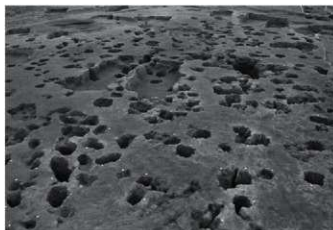
ビット群（掘立柱建物B群）全景（上が北）



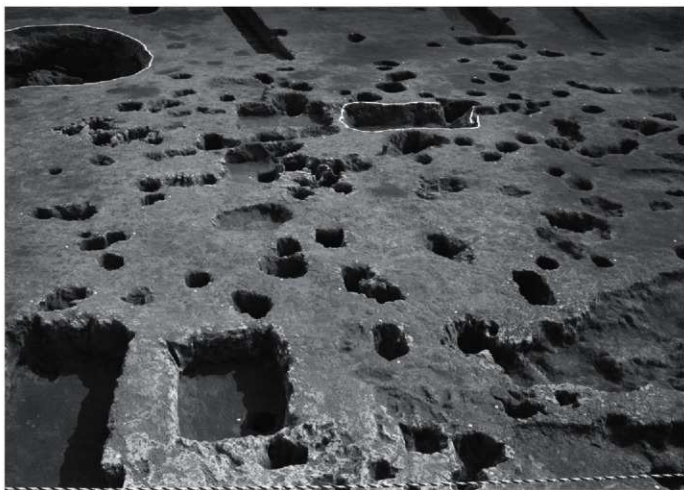
ビット群（掘立柱建物B群）全景（北から）



ビット群（掘立柱建物B群）全景（西から）



ビット群（掘立柱建物B群）全景（東から）



ビット群（掘立柱建物C群）全景（北から）



ビット群（掘立柱建物C群）西部（北から）



ビット群（掘立柱建物D群）全景（西から）





ビット群（掘立柱建物D群）全景（北から）



ビット群（掘立柱建物D群）北半部（西から）



ビット群（掘立柱建物D群）東半部（北西から）



ビット群（掘立柱建物E群）北半部（西から）



ビット群（掘立柱建物E群）全景（東から）



ビット群（掘立柱建物E群）全景（西から）



ビット群（掘立柱建物G群）全景（北から）



ビット群（掘立柱建物H群）全景（西から）



ビット群（掘立柱建物E群）東端（北から）



ビット群（掘立柱建物H群）全景（北西から）



71号掘立柱建物付近（東から）

# PL.56

## 1号住居



## 2号住居



## 4号住居





PL.58

5号住居



1



2



4



5



6



19



18

11号住居



4



5



8



7

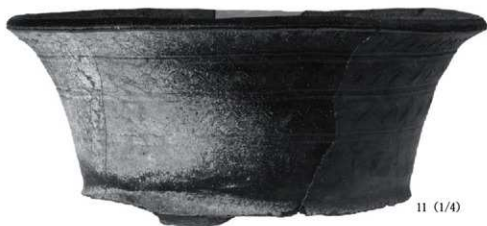




9



10



11 (1/4)

PL.60

12号住居



3

13号住居



1



3



15号住居



2

16号住居



6



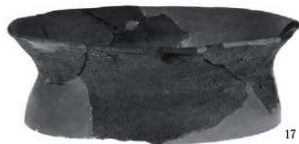
11



14



13



17

14号住居



3



15



17号住居



1



2



6

18号住居



5

9号土坑



1 (1/4)

15号土坑



1

1号井戸



2



3



12 (1/4)



22 (1/6)



23 (1/6)



24 (1/6)



1号溝



1

2号溝



2

4号溝



6号溝



16号溝



22号溝



33号溝



44号溝



13号溝



25号溝



2



3

26号溝



8



11 (1/4)





10 (1/6)



13 (1/2)



12 (1/4)

28号溝



1



3

PL.66

29号溝



1



2



3



4



5

37号溝



4



5



11 (1/4)

38号溝



2



4



6



8



9



11



12



15 (1/4)



14



16 (1/6)

3号窪地



1

1449号ピット



1

71号掘立柱建物  
(2717号ピット)

1

3385号ピット



1



1 (1/5)



2 (1/5)



3 (1/5)





4 (1/5)



6 (1/5)



5 (1/5)





18



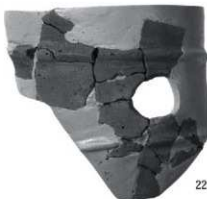
19



20



21



22



23



25 (1/5)



24



26



27



28



29





37



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71



72



73





103



104



105



106



107



108



109



110



111

朝顔形門筒埴輪



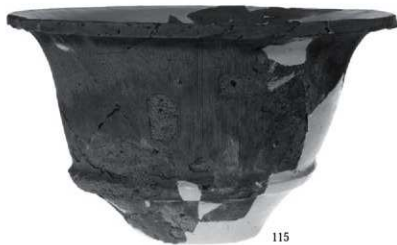
112



113



114



115



117





116



119



120



118



122



121



123



124



125



家形埴輪





141



142

盾形埴輪



143



144



145



146

靴形埴輪



147



148



149



150

人物埴輪



151



152



153



157



158



154



155



156



159



160









169



170



171



172



173



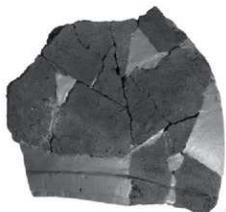
168



175



174 (1/5)



176



177



178



179



180



182 (1/5)



181

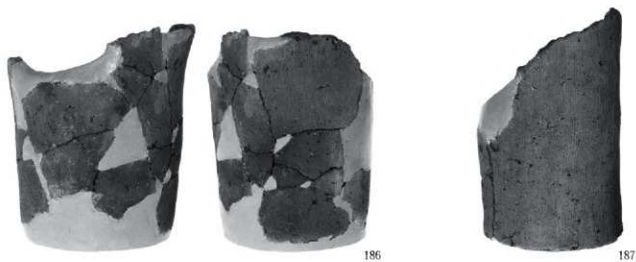




183 (1/5)



184 (1/5)





193 (1/5)



198



194

器種不明の形象埴輪



195

形象埴輪の器台部



200



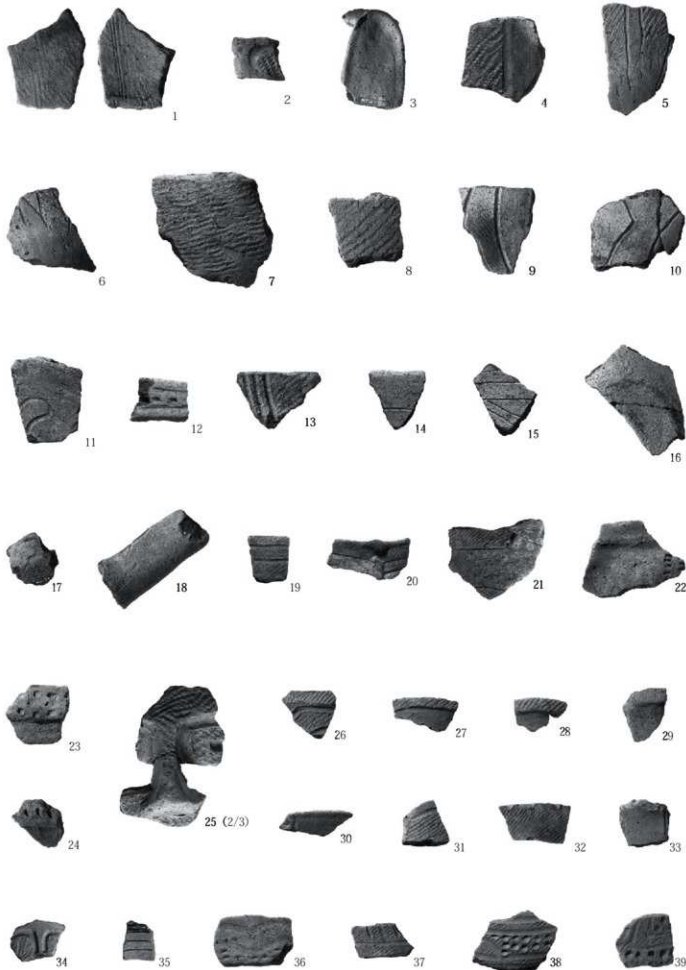
196

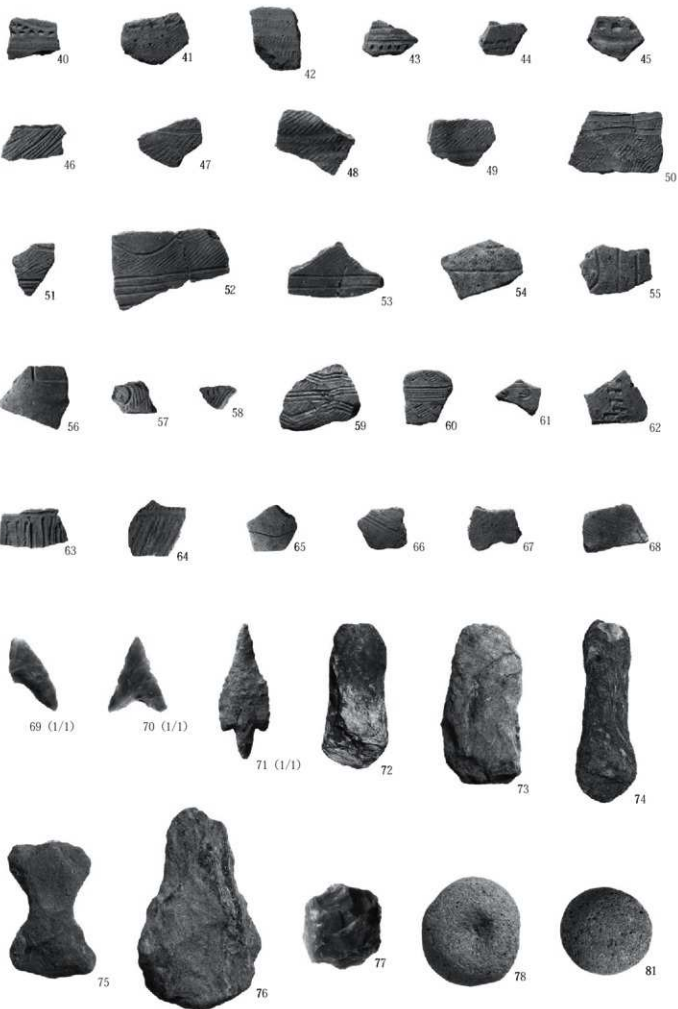


197



201







79



80



82

遺構外



6



7



34



35 (1/2)



60 (1/2)



61



62

## 報告書抄録

書名ふりがな	だいどうにしいせき
書名	大道西遺跡
副書名	北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	508
編著者名	高井佳弘/齊田智彦
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20101029
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北桶町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	だいどうにしいせき
遺跡名	大道西遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしひがしいまいずみまち
遺跡所在地	群馬県太田市東今泉町
市町村コード	10205
遺跡番号	T0295
北緯（日本測地系）	361937
東経（日本測地系）	1392310
北緯（世界測地系）	361948
東経（世界測地系）	1392258
調査期間	20020401-20021130/20041001-20050131
調査面積	11662
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	古墳/奈良/平安/中世
遺跡概要	縄文-土坑1-土器+石器/弥生-土器/古墳+奈良+平安-竪穴住居17+道路跡2-土器+埴輪+鉄製品/中世-掘立柱建物77+墓1+井戸1-土器+陶磁器
特記事項	推定東山道駅路の発見。馬形埴輪などの埴輪が多数出土。中世の屋敷群を複数確認。
要約	縄文・弥生時代の遺構は土坑1基だけで、他は遺物のみ散布。古墳後期～平安初期の集落は、東に隣接する大道東遺跡の大集落の一部と考えられる。東山道駅路と推定される道路跡が東西に横断しており、金山以東のルートが初めて判明した。住居との重複関係から8世紀第1四半期には廃絶している。その側溝や周囲の溝からは埴輪片が多数出土し、馬形埴輪1点はほぼ完形に復元できた。中世のピットは全域から3,726基見つかり、掘立柱建物が77棟把握できた。10以上の屋敷があったものと推定される。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第508集

## 大道西遺跡

北関東自動車道（伊勢崎～沼田）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

---

平成22年（2010）10月22日 印刷

平成22年（2010）10月29日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話（0279）52-2511（代表）

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毛新聞社事業局出版部

---



# 大道西遺跡

## 付 図

- 1 大道西遺跡Ⅰ-2～5区全体図（1/200）
- 2 大道西遺跡Ⅱ区1面全体図（1/200）
- 3 大道西遺跡Ⅰ-5・Ⅱ区2面全体図（1/200）
- 4 大道西遺跡Ⅲ・Ⅳ区全体図（1/200）

# 大道西遺跡 I-2~5 区全体図 (1/200)



# 大道西遺跡 II区 1面全体図 (1/200)



# 大道西遺跡 I-5・II区 2面全体図 (1/200)



# 大道西遺跡 III・IV区全体図 (1/200)



